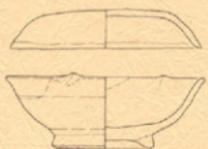


近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

———— 第 6 分 冊 ————

蚊山遺跡左郡地区



1993・3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター

近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

————第 6 分 冊————



遺跡全景（西方上空から）



中世土器

序

近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる遺跡の現地発掘調査は昭和63年度後半期に開始され、平成3年度内に終了いたしました。

第9次区間の道路建設は、平成5年に予定されている伊勢神宮の式年遷宮、翌年の世界祝祭博覧会などを契機とした伊勢・志摩地方の経済と観光の基幹として実施されたもので、発掘調査の対象となったのは、伊勢市・多気郡多気町・度会郡玉城町の1市2町に所在する30遺跡であります。

調査後やむなく破壊された多くの遺跡について、わたくしどもに課せられた重要な責務の一つは、その膨大な記録を整理し、報告書という目に見える形で一日も早く世に公開することであると考えます。

近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる遺跡の発掘調査報告書は、第1分冊から第8分冊までの計8冊に分けて刊行する計画をたて、平成3年度に現地調査と並行して本格的な整理・報告書作成業務を開始いたしました。そして、既に第1分冊から第5分冊・第7分冊の計6冊の報告書を刊行しております。

今回は第6分冊ということで、平成元年度に発掘調査を実施しました蚊山遺跡左郡地区の報告をいたします。この報告書が地域の歴史と文化に対する理解の深まりの一助になることを期待しております。

なお、調査に際しましては、日本道路公団、県土木部近畿道対策室、伊勢市・多気町・玉城町の各関係機関はもとより、三重県土地開発公社及び地元の多くの方々に多大なるご理解とご協力を得ることができました。文末となりましたが、ここに心からのお札を申し上げる次第でございます。

平成5年（1993）3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 久保富子

例　　言

1. 本書は、平成4年度に三重県教育委員会が日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した、近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地内に所在する埋蔵文化財発掘調査（整理・報告書作成業務）にかかる報告書（第6～8分冊）のうち、蚊山（かやま）遺跡左郡（さこり）地区の報告書（第6分冊）である。
2. 当遺跡は度会郡玉城町岩出字左郡・塚名（つかな）に所在し、平成元年1月から2月に第1次調査（試掘調査）を、同年5月から翌年3月に第2次調査（本調査）を実施した。調査にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。
3. 調査は次の体制で行った。

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第2課第1係

〔平成元年度〕

主幹兼調査第2課長 山澤 義貴 主査 新田 洋

第1係

主事 田村 陽一 主事 河北 秀実

主事 小坂 宜広 主事 山崎 恒哉

主事 江尻 健 主事 伊藤 裕偉

主事 角谷 泰弘（伊勢市教育委員会より派遣）

主事 稲本 賢治（多気町教育委員会より派遣）

主事 前川 嘉宏（玉城町教育委員会より派遣）

（室内整理員）

反町 葦子 谷久保 美知代 采野 妙子 吉村 道子

白石 みよこ 山分 孝子 竹内 由美 田中 智子

反町 有子 山中 学

〔平成4年度〕

調査第2課長 新田 洋

第1係

主事 斎藤 直樹

主事 小谷 定男（伊勢市教育委員会より派遣）

主事 前川 嘉宏（玉城町教育委員会より派遣）

4. 現地調査については、試掘調査を小坂宜広・野田修久が、本調査を小坂宜広・稲本賢治・角谷泰弘・前川嘉宏が担当した。

5. 本書作成にあたっては、三辻利一（奈良教育大学）、水野正好（奈良大学）、亀井明徳（専修大学）、菅原正明（財和歌山県文化財センター）、中野晴久（常滑市民俗資料館）、藤澤良祐（財瀬戸市埋蔵文化財センター）、橋本久和（高槻市埋蔵文化財センター）、岩中淳之（伊勢市教育委員会）、磯部 克（三重県立津西高等学校）、

奥 義次（三重県立松阪高等学校）の各氏をはじめ、多くの方々の助言を頂いた。記して感謝の意を表したい。
〈順不同・敬称略〉

6. 本書の執筆者は目次に示した。三辻利一氏からは中世陶器の胎土分析についての報文をいただいた。本書に掲載した遺構写真は小坂・榎本・角谷・前川が、遺物写真は田村・前川がそれぞれ撮影した。挿図の作成および全体の編集は前川が担当した。
7. 当発掘調査については、既に刊行の「近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報」VI（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1990.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告とする。なお、概報では単に「蚊山遺跡」と呼称していたが、発掘調査を実施した範囲が広大な面積をもつ蚊山遺跡の一部にすぎないことから、本書では調査区が所在する主な小字名をとり、「蚊山遺跡左郡地区」とした。
8. 蚊山遺跡左郡地区の調査の記録類および出土遺物は三重県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
9. 当調査区の位置は国土座標第VI系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。真北は座標北のN 0° 21' W、磁北は座標北のN 6° 41' Wである。
10. 当遺跡で使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。
- | | | | |
|-----------|-------|--------|---------------|
| S B 挖立柱建物 | S A 横 | S E 井戸 | S X 墓（古墳・中世墓） |
| S K 土 坑 | S D 溝 | S R 道路 | S Z 性格不明 |
11. 本書では、用語の漢字表記を次のように統一した。
- どこう…………「土塙」「土塁」「土坑」があるが、墓と認識できるものについては「土壤」や
「墓塙」を用い、それ以外のものないしは墓と確定・推定できないものについては
「土坑」とした。
- つ き…………「坏」「杯」があるが、「杯」を用いている。
- わ ん…………「壇」「碗」「椀」があるが、「椀」を用いている。
- な べ…………「鍋」「鍋」があるが、「鍋」を用いている。
12. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、原則として土器が1/4、その他の遺物は1/2あるいは1/3とした。また、遺物写真は概ね1/3である。
13. スキャニングによるデーター取り込みのため、若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目 次

I. 前 言	1
1. 近畿自動車道第9次区間の調査経過	新田 … 1
2. 蚊山遺跡の範囲と地区名	前川 … 5
3. 蚊山遺跡左郡地区の調査経過と調査方法	前川 … 5
II. 位置と歴史的環境	前川 … 15
1. 位置・地形・地質	15
2. 歴史的環境	15
III. 調査の成果	前川 … 20
1. 層 序	20
2. 弥生時代以前の遺物	20
1. 縄文時代の遺物	20
2. 弥生時代の遺物	20
3. 古墳時代の遺構と遺物	27
1. 古墳と古墳出土の遺物	27
2. その他の遺構と出土遺物	36
3. 中世遺構出土の遺物	41
4. 包含層出土の遺物	41
4. 中世の遺構と遺物	41
1. 据立柱建物	42
2. 橋	72
3. 井 戸	72
4. 中世墓	78
5. 土 坑	92
6. 溝・道路	105
7. その他の遺構	110
8. 包含層・ピット出土の遺物	110
IV. 出土遺物の観察	前川 … 111
V. 中世陶器の产地推定	191
1. 蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の蛍光X線分析	三辻利一 … 191
2. 肉眼観察と胎土分析	前川 … 201
VI. 調査のまとめ	前川 … 209

図版目次

図版1 調査区遠景	国版21 挖立柱建物出土遺物
調査区全景	国版22 挖立柱建物出土遺物
図版2 S X53（9号墳）周辺	国版23 挖立柱建物出土遺物
S X61（11号墳），S X72（12号墳）周辺	国版24 挖立柱建物出土遺物
図版3 S B76・85・93・98周辺	国版25 挖立柱建物・井戸出土遺物
S X215（21号墳），S B158周辺	国版26 挖立柱建物・井戸出土遺物
図版4 S X196（20号墳），S B128周辺	国版27 井戸出土遺物
調査区西部	国版28 井戸出土遺物
図版5 S D43付近	国版29 井戸出土遺物
S B 2	国版30 井戸出土遺物
図版6 S X53（9号墳）	国版31 井戸出土遺物
S X61（11号墳）付近	国版32 井戸出土遺物
図版7 S B68	国版33 井戸出土遺物
S X37（7号墳），S B51・54	国版34 井戸出土遺物
図版8 S B74，S X82（14号墳）	国版35 井戸出土遺物
S X82（14号墳）	国版36 井戸出土遺物
図版9 S B76・85・93・98	国版37 井戸出土遺物
S X215（21号墳）	国版38 井戸出土遺物
図版10 S B24	国版39 井戸・中世墓出土遺物
S K153付近	国版40 中世墓出土遺物
図版11 S R87，S D118付近	国版41 中世墓出土遺物
S D 8付近	国版42 中世墓出土遺物
図版12 S B131・133・136・137	国版43 中世墓出土遺物
S B100・125・126・127・128	国版44 中世墓出土遺物
図版13 S X196（20号墳）	国版45 中世墓出土遺物
S E 3，S E56，S E134，S E172	国版46 中世墓・土坑出土遺物
図版14 S X 5，S X38，S X46，S X70	国版47 中世墓・土坑出土遺物
図版15 S X94，S X96，S X140，S X152	国版48 土坑出土遺物
S X167，S X189	国版49 土坑出土遺物
図版16 S X88，S X223，S X224，S X225	国版50 土坑出土遺物
S K26，S K81，S K89，S K129	国版51 土坑出土遺物
図版17 弥生時代以前・古墳時代の遺物	国版52 土坑出土遺物
図版18 古墳時代の遺物	国版53 土坑出土遺物
図版19 古墳時代の遺物	国版54 土坑出土遺物
図版20 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物	国版55 土坑出土遺物

図版56 土坑出土遺物	図版64 溝出土遺物
図版57 土坑・溝出土遺物	図版65 溝出土遺物
図版58 土坑・溝出土遺物	図版66 溝出土遺物
図版59 溝出土遺物	図版67 溝出土遺物
図版60 溝出土遺物	図版68 溝・集石遺構出土遺物
図版61 溝出土遺物	図版69 溝・包含層・ピット出土遺物
図版62 溝出土遺物	図版70 包含層・ピット出土遺物
図版63 溝出土遺物	

挿 図 目 次

第1図 近畿自動車道第9次区間(勢和~伊勢)内 遺跡位置図	2
第2図 遺跡地形図および遺跡周辺字切り図	9
第3図 小地区設定図	10
第4図 位置図	15
第5図 蚊山遺跡と周囲の遺跡位置図	16
第6図 遺構配置図	21~22
第7図 調査区平面図(1)	23~24
第8図 調査区平面図(2)	25~26
第9図 調査区北壁土層断面図(1)	28
第10図 調査区北壁土層断面図(2)	29
第11図 S X49・53・60・75・95実測図	31
第12図 S X75実測図	32
第13図 S X37・61・72・82実測図	33
第14図 S X82実測図	34
第15図 S X32・33実測図	35
第16図 S X14・15実測図	37
第17図 S X215実測図	37
第18図 S X113・180・196実測図	38
第19図 S X4・7・182・186実測図	39
第20図 S B2実測図	43
第21図 S B9・16・19実測図	44
第22図 S B20・21・23実測図	45
第23図 S B24・25実測図	46
第24図 S B27・34実測図	48
第25図 S B51・54実測図	49
第26図 S B68・74実測図	50
第27図 S B76・85実測図	52
第28図 S B93・97実測図	53
第29図 S B98実測図	54
第30図 S B100・112・125実測図	55
第31図 S B126・127・128実測図	56
第32図 S K129実測図	57
第33図 S B131実測図	59
第34図 S B133実測図	60
第35図 S B136・137実測図	61
第36図 S B141・142・143実測図	62
第37図 S B145, S A213実測図	63
第38図 S B155実測図	65
第39図 S B159実測図	66
第40図 S B160・164・179実測図	67
第41図 S B184・191・199実測図	68
第42図 S B201・205・206実測図	69
第43図 S E3・56・57・79・90実測図	74
第44図 S E134・172・192実測図	75
第45図 S E157・193・194・707実測図	76
第46図 S X5・28・38・40・41・44実測図	80
第47図 S X46・58・59・63・64・67・70実測図	81
第48図 S X77・78・88・92・94・224実測図	84
第49図 S X96・106・120・138・139・170実測図	

.....	85	第75図 中世墓出土遺物実測図	173
第50図 S X140・149・151・152・162・165・168 実測図	86	第76図 中世墓出土遺物実測図	174
第51図 S X166・167・171・175・188・189・223・ 225実測図	87	第77図 中世墓出土遺物実測図	175
第52図 S X168周囲中世墓配置図	88	第78図 中世墓・土坑出土遺物実測図	176
第53図 S K45・81・83・84・86・89実測図	96	第79図 土坑出土遺物実測図	177
第54図 S K104・123・130・148・173・174・181 実測図	97	第80図 土坑出土遺物実測図	178
第55図 S K144・153・155A・155B・156・161・ 208実測図	98	第81図 土坑出土遺物実測図	179
第56図 S K204・209・214・221・222, S Z132実 測図	99	第82図 土坑出土遺物実測図	180
第57図 S K153周囲土坑配置図	100	第83図 土坑出土遺物実測図	181
第58図 S K108・111実測図	100	第84図 土坑出土遺物実測図	182
第59図 S D 8・17・35A・39土層断面実測図	107	第85図 土坑・溝出土遺物実測図	183
第60図 土師器小皿・皿分類図	112	第86図 溝出土遺物実測図	184
第61図 土器細部の名称と計測位置図	112	第87図 溝出土遺物実測図	185
第62図 弥生時代以前・古墳時代の遺物実測図	160	第88図 溝出土遺物実測図	186
第63図 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物実測 図	161	第89図 溝出土遺物実測図	187
第64図 掘立柱建物出土遺物実測図	162	第90図 溝出土遺物実測図	188
第65図 掘立柱建物出土遺物実測図	163	第91図 溝出土遺物実測図	189
第66図 掘立柱建物・井戸出土遺物実測図	164	第92図 溝・包含層等出土遺物実測図	190
第67図 井戸出土遺物実測図	165	第93図 潬戸群と猿投群の相互識別	192
第68図 井戸出土遺物実測図	166	第94図 猿投群と知多群の相互識別	193
第69図 井戸出土遺物実測図	167	第95図 湿美群と知多群の相互識別	193
第70図 井戸出土遺物実測図	168	第96図 潬戸産と推定された中世陶器のRb-Sr分 布図	194
第71図 井戸出土遺物実測図	169	第97図 猿投・知多産と推定された中世陶器のRb- Sr分布図	194
第72図 井戸出土遺物実測図	170	第98図 湿美・湖西産と推定された中世陶器のRb- Sr分布図	194
第73図 井戸・中世墓出土遺物実測図	171	第99図 猿投・知多、湿美・湖西産と推定された中 世陶器のRb-Sr分布図	194
第74図 中世墓出土遺物実測図	172	第100図 产地不明となった中世陶器のRb-Sr分布 図	195
		第101図 主な遺構出土の土師器小皿・皿・鍋	212
		第102図 I期・II期の遺構配置図	216
		第103図 III期・IV期の遺構配置図	217

表 目 次

第1表 近畿自動車道第9次区間（勢和～伊勢）内 発掘調査遺跡一覧	3～4	第10表 試料の分析データ	196～200
第2表 遺構番号一覧	11～14	第11表 肉眼観察と胎土分析の整合率	202
第3表 古墳一覧	40	第12表 中世陶器の推定产地一覧	203～208
第4表 掘立柱建物一覧	70～71	第13表 時期別古墳一覧	209
第5表 井戸一覧	77	第14表 主な遺構出土の土師器皿・小皿平均計測値 一覧	211
第6表 中世墓一覧	90～71	第15表 時期別掘立柱建物規模一覧	214
第7表 土坑一覧	102～103	第16表 B型中世墓の底部規模一覧	214
第8表 溝一覧	109	第17表 時期別中世遺構一覧	215
第9表 出土遺物観察表	113～159		

I. 前　　言

1. 近畿自動車道第9次区間の調査経過

近畿自動車道関・伊勢線（伊勢自動車道）は三重県鈴鹿郡閼町を起点とし伊勢市に至る全長68.7kmの高速自動車道である。この路線は、三重県中南勢地域と近畿・中京両経済圏を結ぶ重要幹線道路として、一般国道23号線・42号線の交通混雑の緩和を図るとともに伊勢湾沿岸および内部の産業開発、伊勢志摩、紀州方面への膨大な観光交通に対するサービス等重要な使命をもつといわれている。

全ルートのうち、閼ジャンクションから久居インターチェンジ間は昭和50年10月に、久居インターチェンジから勢和多気インターチェンジ間（第8次区間）は平成2年12月に供用が開始されている。

第9次区間（勢和～伊勢）は、第8次区間（久居～勢和）の延長路線で、勢和多気インターチェンジから勢和村、多気町、玉城町、伊勢市をほぼ東西に横断して伊勢インターチェンジに至る延長21.5kmの区間である。この建設区間については、昭和47年に基本計画、同57年に整備計画が、そして同60年2月に建設大臣から日本道路公團に施行命令が出されている。また、翌3月には実施計画認可と路線発表がなされている。

さて、第9次区間建設にかかる埋蔵文化財の保護、調整協議については、昭和50年段階に建設省名阪国道工事事務所、県土木部道路建設課と県教育委員会文化課との協議と現地立会い調査というかたちで開始された。また、事業地内にかかる埋蔵文化財の分布調査については、県教育委員会文化課が県文化財調査員等の協力のもと昭和53・55・56年度に3次にわたって実施し、昭和56年3月14日付の教文第429号文書で「近畿自動車道伊勢線関係遺跡分布調査結果報告について」として公文書通知を行っている。

その後については、第8次区間の埋蔵文化財発掘調査の体制作りと諸準備に追われたかたちとなり、昭和59年度末には第8次区間の現地発掘調査を実施するに至った。この第8次区間の現地発掘調査は昭和59年度を皮切りに開始され、昭和63年度前半までの足かけ5年余りの期間が費やされた。

第9次区間の遺跡取り扱いについては、昭和61年度になって具体的に浮上し、試掘計画等について日本道路公團と調整・協議するに至った。また、昭和62年度初めには、再度第9次区間建設予定地についての遺跡確認と分布調査を実施した。この段階で公團あてに提示した遺跡は合計26件、面積にして114,200m²である。

なお、この第9次区間については、その後の新発見遺跡等についての協議を経て、多気町で1件（佐奈水銀鉱山跡）、玉城町で1件（泉賀窯跡）、伊勢市で2件（大谷古墳、古市・中之地藏町遺跡）の合計4件の遺跡が追加された。

以上のような経過を経て、第9次区間の現地における埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年度の後半に開始され、3年余りの期間を費やして平成3年度末に終了した（第1図、第1表）。

なお、調査の円滑推進にあたっては、日本道路公團松阪工事事務所、県土木部近畿道対策室、伊勢市建設部近畿自動車道対策室他、伊勢市・多気町・玉城町の各教育委員会に、現地にあたっては各地元自治会をはじめ、多くの方々のご援助・ご協力を得ました。加えて、発掘調査業務については三重県土地開発公社のご協力をいただきました。文末となりましたが、ここに記して厚くお礼申し上げます。

（新田　洋）

第1圖 遠畿自動車道第9次区間(鷹取～伊勢)周辺位置図(1:100,000)



番号	遺跡名	所在地	調査面積(ha)	調査期間	担当者	概要	分類
1	王子谷遺跡	多気町前村	48	1989. 2. 6~ 2. 7	小坂宣広・山崎恒哉	(試掘) 道構なし、遺物細片	1
			計192 144	1990. 1.12~ 1.18	伊藤裕作	(試掘) 道構なし、遺物細片	
2	桃谷(古墳)	多気町前村・五桂	27	27 1990. 1.18~ 1.22	伊藤裕作	(試掘) 道構・遺物なし	
3	ツヅ(古墳)	多気町五桂	20	20 1990. 1.22~ 1.23	伊藤裕作	(試掘) 道構・遺物なし	
4	牛バサマA遺跡	多気町野中	304	1989. 1. 9~ 2. 7	山崎恒哉	(試掘)	1
			3,304 3,000	1989.11.17~1990. 1.11	山崎恒哉	縄文時代以降の土器出土	
			336 5,836 5,500	1988.12.12~1989. 1.19	山崎恒哉	(試掘)	
5	牛バサマB遺跡	多気町野中	288	288 1988.11.28~12. 1	小坂宣広・野田修久	(試掘) 道構なし、遺物少量	
6	ヒジヤ口遺跡	玉城町原	96	96 1988.12. 2~12. 7	小坂宣広・野田修久	(試掘) 道構なし、遺物少量	
7	のせんじ遺跡	玉城町積良	192	1989. 2.22~ 3. 3	小坂宣広・野田修久	(試掘)	
8	浦ノ内遺跡	玉城町積良	2,692 2,500	1990. 2. 8~ 3.22	江尻 健	縄文時代以降の土器出土	2
			286	1988.12.20~12.26	小坂宣広・野田修久	(試掘) 道構なし、遺物少量	
1 0	山神城跡西老谷地区 (富ヶ城跡)	玉城町山神	2,466 2,180	1990. 5.15~ 6. 1	樋本賢治	(試掘)	2
			441	1990. 7.20~12.27	樋本賢治・大川勝宏	中世の堀切などを検出	
1 1	山神城跡ベト谷地区 (山神東城跡)	玉城町山神	4,363 3,922	1990. 5.15~ 6. 1 1990. 7.20~12.27	樋本賢治	(試掘)	2
			30	1990. 2.13~ 2.14	江尻 健	中世の堀切・墓などを検出	
1 2	里山(古墳)	玉城町山神	2,032	1990. 5.16~ 6. 5	田村陽一	(試掘)	
1 3	椿ノ木遺跡	玉城町岩出	8,922 6,890	1990. 6.29~11.17	伊藤裕作	平安時代末~室町時代後半の 屋敷地や墓地などを検出	3
			587	1989. 1.6~ 2. 7	小坂宣広・野田修久	(試掘)	
1 5	蚊山遺跡左郡地区 (蚊山遺跡)	玉城町岩出	12,087 11,500	1989. 5.16~1990. 3.20	小坂宣広・樋本賢治 角谷泰弘・前川嘉宏	古墳、中世の堀立柱建物跡・ 墓などを多数検出	6
			144 3,344 3,200	1989. 1.26~ 2. 2 1989. 5.22~ 9.21	小坂宣広・野田修久 山崎恒哉・樋本賢治	(試掘)	
1 6	蚊山遺跡所リ垣地区 (宮地遺跡)	玉城町岩出	400 2,500 2,100	1989. 9.18~10. 3 1989.11.13~12.23	田村陽一 前川嘉宏	平安時代末の墓、鎌倉時代の 堀立柱建物などを検出	4
1 7	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町				平安時代末葉の堀立柱建物な どを検出	5

第1表 近畿自動車道第9次区間(勢和~伊勢)内発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積 (m ²)	調査期間	担当者	概要	分母
1 8	寺原B道跡	伊勢市佐八町	224 724 500	1989. 9.18~10. 3 1989. 11.14~1990. 1.14	田村陽一 角谷泰弘	(試掘) 鎌倉時代前半の掘立柱建物などを検出	
1 9	ハノカ遺跡	伊勢市津村町	208	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	5
			147 2,100 3,739	1990. 5.31~ 6.11 1990. 5.31~ 8. 1	角谷泰弘 角谷泰弘	(試掘) 縄文時代・鎌倉時代の遺物出土	
			584	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	
2 0	口山田遺跡	伊勢市津村町 佐八町	700	1990. 5.31~ 8. 1	角谷泰弘	集石造構を検出	
2 1	井戸谷遺跡	伊勢市前山町	151	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	7
			3,165	1990. 5.11~ 9.21	伊藤裕偉	4世紀末頃~6世紀前葉の群集墳	
2 2	河原谷遺跡	伊勢市前山町	336	336 1990. 3.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘) 明確な遺構なし	
2 3	亀谷C道跡 (三義寺跡)	伊勢市前山町	100	100 1990.10.11~10.17	角谷泰弘・川崎正幸	遺物少量出土	
2 4	中起遺跡	伊勢市勢田町	312	1990. 2.14~ 3.27	角谷泰弘・前川嘉宏	(試掘)	8
			2,195 2,507	1990. 5. 7~ 7. 9	齋藤直樹・前川嘉宏	経文が記された陶經筒片出土	
2 5	蠍尾遺跡	伊勢市久世戸町	257	257 1990.10.16~10.23	伊藤裕偉	(試掘) 遺構なし	
2 6	奥遺跡	伊勢市楠部町	32	32 1991. 8.19	河瀬信幸	(試掘) 遺構・遺物なし	
2 7	泉賀窯跡	玉城町積良	494	494 1990.10.23~11. 1	齋藤直樹	(試掘) 遺構なし、遺物少量	2
			2,556	1991. 1. 4~ 1.16			
			330 2,886	1989. 5.22~ 5.29 1990. 8.28~11.20	伊藤裕偉 前川嘉宏・川崎正幸	(試掘) 10世紀前半頃の須恵器窯1基検出	
2 8	佐奈水銀鉱山跡	多気町前村	400	400 1990. 1.16~ 3.30	田村陽一	2基の採掘坑口周辺を調査	1
2 9	大谷(古墳)	伊勢市佐八町	120	120 1990. 7. 2~ 7. 7	前川嘉宏	(試掘) 遺物・遺物なし	
3 0	古市・中之地藏町遺跡	伊勢市中之町 桜木町	127 850 420 220 670	1990.10.22~11. 5 1991. 6.22~ 8.31 1991. 8.20~ 9.16 1991.11.18~12. 8 1992. 1.10~ 3.31	角谷泰弘 角谷泰弘・河北秀実 前川嘉宏・角谷泰弘 角谷泰弘 河北秀実	(試掘) 近世以降の町並の遺構を検出	8

2. 蚊山遺跡の範囲と地区名

昭和55年（1980）8月、近畿自動車道建設予定地内の遺跡分布調査が度会郡玉城町岩出で実施された。その時、字蚊山（かやま）から字宮地（みやじ）にわたる約10,000m²の範囲で中世の土器片が表面採取されたことから、県道伊勢・大宮線を境として西側を「蚊山遺跡」、東側を「宮地遺跡」と呼称するようになった。（小字の位置は第2図を参照）

昭和62年（1987）、近畿自動車道第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地についての遺跡確認と分布調査が再度実施された。この時点では、中世の遺物が岩出字塚名（つかな）・左郡（さこり）・所里垣（しょりがき）でも採取されたことから、「蚊山遺跡」と「宮地遺跡」の範囲はそれ北方へ大きく広げて考えられるようになった。

平成元年（1989）度に近畿自動車道建設予定地内の発掘調査を実施した際には、従来の遺跡名を踏襲して、県道の西側の調査区（字左郡・塚名）を「蚊山遺跡」、東側の調査区（字所里垣・塚名）を「宮地遺跡」と呼称していた。しかし、その後の検討により、この2つの調査区を一連の遺跡としてとらえ、

それぞれの調査区名を「蚊山遺跡左郡地区」、「蚊山遺跡所里垣地区」と改称した。この時点で「宮地遺跡」という遺跡名は使用しなくなり、県道を挟んだ遺跡範囲約50,000m²全てを「蚊山遺跡」と呼ぶことになった。

平成2年（1990）9月から12月にかけて、左郡地区の北側に隣接する地域で県道改良事業に伴う発掘調査（約3,500m²）が三重県埋蔵文化財センターによって実施された。この調査でも左郡地区や所里垣地区と一連のものと考えられる多数の遺構が検出されことから、この調査区を「蚊山遺跡ケカノ辻・角垣内（すみがいと）地区」と呼称することにした。現在のところ、岩出集落の南側に広がる段丘面のはば全域にわたる約150,000m²を蚊山遺跡と呼ぶようになっている。

なお、平成4年（1992）10月から11月に、蚊山遺跡蚊山地区でも県道改良事業に伴う発掘調査（約1,050m²）が実施され、鎌倉時代の掘立柱建物2棟、18世紀から19世紀頃のものと思われる瓦窯などの遺構が検出されている。

3. 蚊山遺跡左郡地区の調査経過と調査方法

1. 調査経過

近畿自動車道第9次区間の埋蔵文化財発掘調査が開始された昭和63年（1988）度の冬、主事小坂宜広と野田修久を担当として蚊山遺跡左郡地区の第1次調査（試掘調査）が実施された。調査期間は平成元年（1989）1月6日から同年2月7日まで、調査面積は587m²であった。その結果、第1次調査の対象となった範囲のはば全域を本調査（第2次調査）することとなった。

第2次調査（本調査）は、平成元年（1989）5月16日に開始した。発掘作業は、自動車道建設工事の都合で全面を一気に行うことができず、まず、調査区の北縁に建設される側道部分幅8m（以下、北縁部と呼ぶ）の調査、次に調査区の南縁に建設される側道部分幅10m（以下、南縁部と呼ぶ）の調査、最

後に本線部分の調査という作業能率のきわめて悪い工程をとらざるを得なくなってしまった。現地での調査は平成2年（1990）3月20日に終了し、最終調査面積は11,500m²となった。

なお、第2次調査の現地調査担当者は小坂が全期間を通じて、角谷と前川が5月から10月まで、稻本が9月から翌年3月までである。

2. 現地調査の方法

蚊山遺跡左郡地区の発掘調査における調査及び整理の方法は、原則として近畿自動車道間・伊勢線第8次区間（久居～勢和）の調査方法に則って行った。

地区割（第3図）

調査に際しては、調査区全域に4×4mの小地区を設定した。小地区割りの基本輪は、道路センター

測点STA603+20を原点とし、STA601+80を標準としたラインである。各小地区には基本軸に直交してアルファベット、基本軸に沿って数字を与え、各小地区の南北隅の杭を小地区的名称とした。

遺構カード

遺構カードは小地区毎に作成し、遺構の位置、形態、重複関係等の略図を遺構検出後、掘り下げまでに記入することにした。遺構番号は全遺構を通じて通し番号を与えた。ただし、多数あるピットについては小地区別に通し番号を与えた。

写真撮影

遺構等の写真撮影は原則として6×7cm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）及び35mm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）による。また、35mmデータカメラ（カラーNEGA）でも同一カットの撮影をするほか、作業進捗状況を記録する撮影も行った。使用したカメラはアサヒペンタックス67（6×7cm版）、ニコンF-501AF（35mm版）である。

遺構実測

遺構実測は国土座標（第VI座標系）に基づいて行った。なお、測量方法は空中写真測量を導入したが、北縁部と南縁部では遣り方実測を実施した。

3. 資料整理の方法

遺構実測図・遺物実測図

本遺跡の遺構実測図の整理番号は「遺跡番号-図面通し番号」とし、15-0001から15-0214まで存在する。遺物実測図の整理番号は「遺構番号-遺構別遺物実測図通し番号」とした。たとえば、SE172から出土した遺物の整理番号は172-001から172-179まである。また、包含層やピットから出土したのものは000-001からとした（第2表）。これらの図面はファイルに収納し、整理番号、図面の内容、縮尺等を記入した一覧表を2部作成し、1部を各図面ファイルに貼付、他の1部を図面台帳とし。なお、各図面ともマイクロ撮影した。

遺構写真・遺物写真

モノクロ写真はベタ焼きとともにネガアルバムに貼付整理し、各コマ毎に地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した。35mm版のカラースライドは各コマの枠毎に15-0001～15-0989の整理番号を付

し、地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入して一覧表を2部作成した。一覧表は、1部をスライドファイルへ貼付し、1部を台帳として保管した。

拓本

拓本は、報告書挿図等に使用する時はコピーを使い、原本は台紙に貼り付けてファイルに保管した。

4. 調査日誌抄

第1次調査（小坂・野田）

- 1月 -

6日(金)・7日(土) 試掘グリッド設定。
10日(火)～13日(金) S25とR29から掘削開始。試掘坑合計9箇所掘削。S25から中世の土器片多数出土。R44・S174でピット検出。
17日(火)～19日(木) 試掘坑7箇所掘削。P40・T47でピット検出。

26日(水)・27日(木) 試掘坑20箇所掘削。多数の試掘坑で溝・ピット等の遺構検出。

- 2月 -

1日(水) Q78掘削。
7日(火) Q21・N24・N28・M44掘削。遺物少量出土。第1次調査終了。

第2次調査

- 5月 - (小坂・前川・角谷)

16日(火) 現地にて三重県土地開発公社と土木業者（㈱宮本組）との打合せ。北縁部から発掘調査を開始することを説明。

17日(水) 北縁部の調査範囲確定の杭打ち。
18日(木) 北縁部東端よりバックフォーによる表土除去作業開始。

19日(金) 表土除去作業と並行して小地区杭設定。
20日(土) 発掘用具搬入。
22日(月) 人力による包含層掘削と遺構検出開始。
23日(火) ベルトコンベアー10台搬入。
24日(水) ベルトコンベアーの設置。
26日(金) 北縁部の包含層掘削。
29日(月) SD6・SX7を検出。SE3の掘削中にSX5を検出。
30日(火) 北縁部にかかるSD8の掘削開始。完形に近い土器皿・鍋等の土器が多量に出土。
31日(水) SD8がかなり深いことが判明。

— 6月 — (小坂・前川・角谷)

1(木) S D 8付近の遺構掘削。S X15から須恵器
杯身・杯蓋出土。S X15は古墳の周溝である可能
性が大きいことから、S X 4・S X 7も古墳であ
ろうと判断。

2(金) S D 8の続きを確認するため、作業計画に
大きな影響を及ぼさない程度で本線部分に向かっ
て調査範囲を広げる。

5(月) S D 8の掘削。79~76ラインの遺構輪郭が
不明瞭なため、検出作業を繰り返す。S E 3の掘
削完了。調査区北壁土層断面図の一部作成。

6(火)~8(木) 北縁部91~81ラインの写真撮影。
S D 8の掘削。

12(月) S D 8・10・17、S K12、S X14・15等の
遺構検出と掘削。これらの遺構が複雑に絡み合っ
ているため作業遅れる。

14(水) 北縁部68~59ラインの遺構検出。

19(月)~21(水) 北縁部58~40ラインの遺構検出。
S X32の掘削完了。S D 8の掘削完了。

26(月) 北縁部29~58ラインの写真撮影と91~81ラ
インの遺構実測実施。

27(火) S X49・S D39付近の遺構検出。包含層が
薄く、遺構も複雑なもののが少ないため、作業はハ
イベースで進み始める。

29(木)・30(金) 29~19ラインの遺構検出。S D39・
S D43・S K45の掘削。

— 7月 — (小坂・前川・角谷)

1(日) 北縁部80~59ラインの遺構実測準備。

3(火)~6(木) 北縁部39~19ラインの遺構検出。
S D43の掘削は、湧水のためにペースダウン。
S X37・S X38の掘削ほぼ完了。S X38からほぼ
完形の鍋が出土したことから中世墓と判断。

7(金) 北縁部80~59ラインの遺構実測(1/20)
開始(15日に完了)。S D43の掘削ほぼ完了。

10(月) 北縁部の遺構掘削ほぼ完了。これまで北
縁部の東端から西端へ作業を進めてきたが、これ
からは、本線部分の西端から東方向へと進める。

12(月)~14(金) 28~39ラインの遺構検出。西側は

ビ遺構が薄く、調査はハイベースで進む。

17(月)~20(木) 35~40ラインの遺構検出。S X53

の掘削。S E56・57検出。北縁部56~23ラインの

写真撮影。

21(金)・21(土) 北縁部58~40ラインの遺構実測

24(月)~27(木) 雨天続きで、現場での作業は全く
進まず。北縁部の道路公団への引き渡し期限は7
月中であったが、引き渡し要求面積がやや増えた
かわりに期限が8月末に延びる。

28(金) 北縁部39~19ラインの遺構実測開始(8月
4日に完了)。

31(月) 40~53ラインの遺構検出。

— 8月 — (小坂・前川・角谷)

1(日) 40~59ラインの遺構検出。玉城町立下外城
田小学校5・6年生約60名の体験発掘。

4(日) 51~52ラインの遺構検出。S D36・S X72
付近の遺構掘削。

5(日) 32~41ラインの遺構実測(1/20)開始
(25日に完了)。

7(月)・8(火) 調査区北壁土層断面図作成完了。
S B68付近の遺構検出と掘削。

9(日)~17(木) 9日~11日は悪天候のため、12日
~17日は盆休みのため作業なし。

18(金) 46~55ラインの遺構検出と掘削。玉城町立
外城田小学校5・6年生約20名の体験発掘。

19(土) 作業が遅れていたため土曜日も現場実施。

21(月)~24(木) S D35B付近の遺構掘削。S X82は
横穴式石室であると判明。

28(日) 北縁部の調査を全て完了し、日本道路公団
へ引き渡す。北縁部埋め戻し開始。

29(火) S D35A付近の遺構検出。南縁区の南縁に
沿った幅10mを11月中旬に日本道路公団に引き渡す
ことになったため、本線部分の調査と並行して、
南縁部の包含層掘削を急遽開始する。

30(水)~31(木) 54~57ラインの遺構掘削。S E56・
57の掘削。

— 9月 — (小坂・前川・角谷・稻本)

1(日) S D35A付近の遺構掘削。

4(日)~7(木) 悪天候のため作業遅れる。

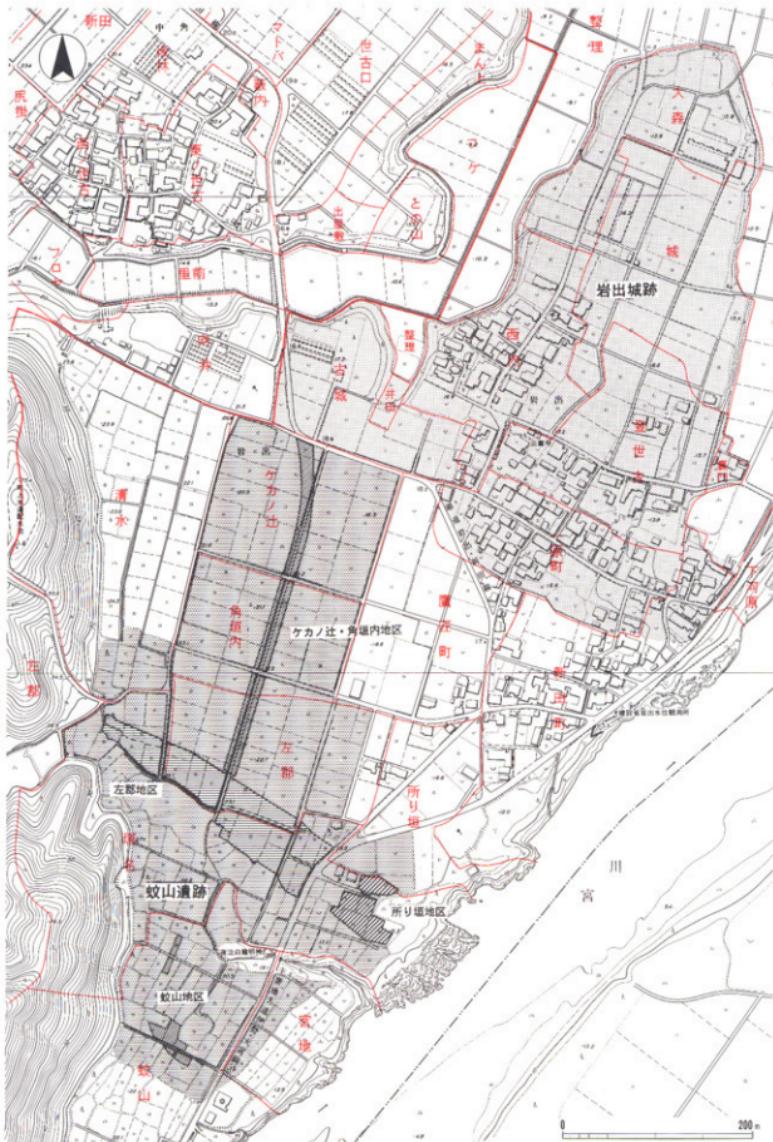
11(月)~14(木) 南縁部66~68ラインの遺構検出と
掘削。S D35A付近の遺構掘削。

18(月) 南縁部70ライン付近の遺構検出。S D35A
付近の遺構掘削。

20(水)~22(金) 南縁部71~73ラインの遺構検出と

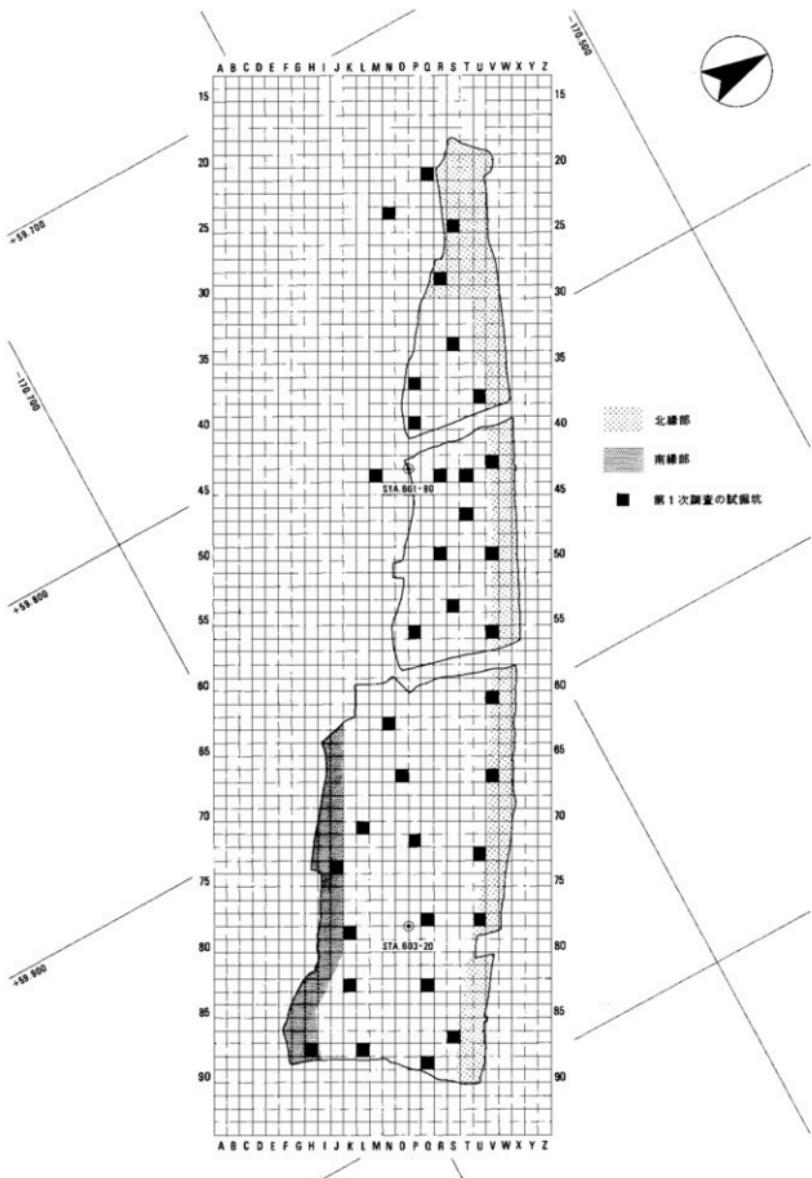
- 掘削。S D35Aの掘り下げがようやく完了したため、点在する掘り残しの遺構掘削と図面作成を急ピッチで進める。
- 25日(月)～29日(金) 南縁部の遺構掘削をほぼ完了。本線部分南半(L～Nライン)の包含層掘削と遺構検出を東端から開始。
- －10月－ (小坂・前川・角谷・稻本)
- 2日(月)～5日(木) 本線部分南半78～66ラインの遺構検出と掘削。好天が続いたことと作業員の出が良いことから、作業は順調に進む。
- 6日(金) リフト車による写真撮影(40～58ライン全域と南縁部)。
- 9日(月)・12日(木) 本線部分南半74～62ラインの遺構検出と掘削。SK153から土器類多量に出土。
- 13日(金) 南縁部の遺構実測(1/20)開始(19日に完了)。ヘリコプターによる調査区斜め写真撮影。
- 16日(月) 本線部分南半の遺構掘削をほぼ完了。
- 20日(金)・21日(土) 本線部分北半(O～S) 80～70ライン遺構検出と掘削。このところ雨天が多い。
- 23日(月)～26日(木) 90～88ライン全体の遺構検出と掘削。疊が多いため作業はかどらず。
- 30日(月) 南縁部と本線部分南半の個別遺構写真撮影。
- －11月－ (小坂・稻本)
- 1日(火) 本線部分87～85ラインの遺構検出と掘削。南縁部を日本道路公団に引き渡す。
- 6日(月)・9日(木) 本線部分85～83ラインの遺構検出と掘削。SE193の掘削開始。
- 14日(火)～17日(金) 本線部分82～73ラインの遺構検出と掘削。SE193から土器類多量に出土。包含層掘削が終わりに近づいたため、以後、作業員の入数を20人程度に削減。
- 20日(月)～22日(水) 本線部分72～68ラインの遺構検出。SD8の残りの部分の検出と掘削。
- 24日(金) 調査区全体の包含層掘削をほぼ完了。
- 27日(月)～30日(木) 調査区全体の遺構検出がほぼ完了したため、以後は掘り残してある遺構の掘削と図面作成が主な作業となる。
- －12月－ (小坂・稻本)
- 1日(金) SE172から土器類多数出土。
- 4日(月)～7日(木) 主に井戸の掘削。
- 11日(月)～14日(木) 主に井戸の掘削。
- 15日(金) 現地説明会の準備。
- 16日(土) 午前中現地説明会の準備。午後2時から現地説明会実施。約120人が参加。
- 18日(月) 現地説明会の後片付け。
- 19日(火)～22日(金) 主にSE172・SE193・SE207の掘り下げ。22日にベルトコンベアを全て撤去。
- 25日(月) SE172の掘削。年末年始休みに入るため、調査区全面にシートをかける。
- －1月－ (小坂・稻本)
- 8日(月)～12日(金) 空中写真測量(18日に予定)に向けての遺構の掘削と清掃を進める。
- 18日(木) 例年にない大雪が降り、作業が遅れ、遺構面も荒れたため空中写真測量を20日に延期。調査区の清掃を再度実施。
- 20日(土) 天候が悪く空中写真測量を再び延期。26日を実施予定とする。
- 22日(月)～25日(木) 空中写真測量に向けての清掃をするが、雪や霜柱のために遺構面がかなり荒れる。SE172の掘削を続ける
- 26日(金) ようやく空中写真測量を実施。
- 30日(火)・31日(水) 挖立柱建物の柱穴断ち割り。遺構の個別写真撮影。
- －2月－ (小坂・稻本)
- 2日(金) このところ天候悪く、作業あまり進まず。
- 5日(月)～8日(木) 遺構の個別写真撮影。作業員の仕事は8日で終わり。
- 26日(月)～28日(水) バックフォーを使い、人力で完掘できなかった井戸の断ち割りとSX82の南端部の検出を実施。
- －3月－ (小坂・稻本)
- 1日(木)～7日(火) 51ライン以西の個別遺構実測図の作成。掘立柱建物の柱穴断ち割りと実測。
- 8日(木) 51ライン以西を日本道路公団へ引き渡す。
- 9日(金)～19日(月) 51ライン以東の個別遺構実測図の作成。掘立柱建物の柱穴断ち割りと実測。
- 20日(火) 調査区全てを日本道路公団へ引き渡し、現地での調査を終了する。

(前川)



第2図 遺跡地形図および遺跡周辺界図 (1 : 5,000)

※字界線は、昭和20年頃のものであり、現行と異なる部分もある。



第3図 小地区設定図（1：1,500）

遺構番号	遺物整理番号	実測回掲載数	遺物総量(㌘)	遺構番号	遺物整理番号	実測回掲載数	遺物総量(㌘)	
包含層他	000-001~049	4 3	54.0	土坑	SK 2 9	029-001~002	2	0.5
溝 SD 1	001-001	1	0.2	土坑	SK 3 0	030-001	1	0.1
建物 SB 2	002-001~002	2	0.1	土坑	SK 3 1	031-001~002	2	0.2
井戸 SE 3	003-001~007	7	0.5	5号墳 SX 3 2	032-001~007	7	1.0	
1号墳 SX 4	004-001	1	0.5	6号墳 SX 3 3	—	—	0.1	
中世墓 SX 5	005-001~005	5	1.0	建物 SB 3 4	—	—	0.1	
溝 SD 6	006-001	1	0.2	溝 SD 3 5	035-001~038	3 6	10.0	
2号墳 SX 7	—	—	—	溝 SD 3 6	036-001~003	3	0.5	
溝 SD 8	008-001~191	8 5	41.0	7号墳 SX 3 7	037-001~005	5	1.5	
建物 SB 9	009-001~002	2	0.1	中世墓 SX 3 8	038-001~005	4	1.0	
溝 SD 10	011-001~018	1 8	5.0	溝 SD 3 9	039-001~030	3 0	6.0	
溝 SD 11	011-001~006	5	2.5	中世墓 SX 4 0	040-001~007	7	0.5	
土坑 SK 1 2	012-001~018	1 6	3.0	中世墓 SX 4 1	041-001~009	8	1.0	
溝 SD 13	013-001~002	2	0.2	溝 SD 4 2	042-001~003	3	0.2	
3号墳 SX 1 4	—	—	—	溝 SD 4 3	043-001~054	2 9	9.0	
4号墳 SX 1 5	015-001~005	6	1.0	中世墓 SX 4 4	044-001~002	2	0.5	
建物 SB 1 6	—	—	—	土坑 SK 4 5	045-001~013	1 0	4.0	
溝 SD 1 7	017-001~005	5	0.5	中世墓 SX 4 6	046-001~013	1 3	2.5	
溝 SD 1 8	018-001~005	5	1.0	溝 SD 4 7	047-001	1	0.1	
建物 SB 1 9	—	—	0.1	土坑 SK 4 8	048-001~008	8	2.0	
建物 SB 2 0	—	—	—	8号墳 SX 4 9	—	—	0.1	
建物 SB 2 1	—	—	0.1	溝 SD 5 0	050-001~002	2	0.1	
土坑 SK 2 2	022-001~009	5	0.5	建物 SB 5 1	051-001~002	2	0.1	
建物 SB 2 3	023-001	1	0.1	9号墳 SX 5 3	053-001~004	4	1.5	
建物 SB 2 4	024-001~004	4	0.2	建物 SB 5 4	054-001	1	0.1	
建物 SB 2 5	—	—	—	溝 SD 5 5	—	—	—	
土坑 SK 2 6	026-001~006	4	0.5	井戸 SE 5 6	056-001~031	2 5	5.0	
建物 SB 2 7	027-001~005	5	0.1	井戸 SE 5 7	057-001~016	1 4	1.0	
中世墓 SX 2 8	028-001	1	1.0	中世墓 SX 5 8	—	—	—	

第2表 遺構番号一覧

遺構番号	遺物整理番号	実測回掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測回掲載数	遺物総量(箱)
中世墓SX6.9	059-001~002	2	0.2	中世墓SX8.8	—	—	—
10号墳SX6.0	—	—	—	土坑 SK8.9	089-001	1	0.2
11号墳SX6.1	061-001	1	0.2	井戸 SE9.0	090-001~031	24	5.0
溝 SD6.2	062-001~002	2	0.1	道路 SR9.1	—	—	—
中世墓SX6.3	063-001~002	2	0.2	中世墓SX9.2	092-001	1	0.2
中世墓SX6.4	064-001~002	2	1.5	建物 SB9.3	093-001~005	3	0.2
土坑 SK6.5	065-001~003	3	0.1	中世墓SX9.4	—	—	—
土坑 SK6.6	066-001~002	2	0.1	15号墳SX9.5	—	—	0.1
中世墓SX6.7	067-001~003	3	1.5	中世墓SX9.6	096-001	1	1.5
建物 SB6.8	—	—	—	建物 SB9.7	097-001~003	3	0.1
土坑 SK6.9	069-001	1	0.1	建物 SB9.8	098-001~007	7	0.2
中世墓SX7.0	070-001~004	4	0.5	土坑 SK9.9	—	—	—
溝 SD7.1	—	—	—	建物 SB100	—	—	0.1
12号墳SX7.2	072-001~002	2	0.2	土坑 SK101	101-002	2	0.1
溝 SD7.3	073-001	1	0.1	土坑 SK102	—	—	0.1
建物 SB7.4	—	—	—	土坑 SK103	103-001~045	36	12.0
13号墳SX7.5	—	—	0.2	土坑 SK104	104-001~027	16	4.0
建物 SB7.6	076-001~009	9	0.5	土坑 SK105	105-001~003	3	0.2
中世墓SX7.7	077-001	1	0.2	中世墓SX106	106-001~005	5	1.0
中世墓SX7.8	078-001~002	2	0.5	土坑 SK107	—	—	0.1
井戸 SE7.9	079-001~002	2	0.5	土坑 SK108	—	—	0.1
土坑 SK8.0	—	—	0.1	土坑 SK111	111-001~002	2	0.2
土坑 SK8.1	081-001~009	7	0.5	建物 SB112	112-001~001	1	0.1
14号墳SX8.2	082-001	1	0.2	16号墳SX113	—	—	0.1
土坑 SK8.3	083-001~003	3	0.2	土坑 SK114	114-001~005	4	0.5
土坑 SK8.4	084-001	1	0.1	土坑 SK115	115-001~003	3	0.5
建物 SB8.5	085-001~002	2	0.1	溝 SD116	116-001	1	0.5
土坑 SK8.6	086-001~003	2	0.2	溝 SD117	117-001~002	2	0.2
道路 SR8.7	—	—	—	溝 SD118	118-001~015	14	5.0

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物重量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物重量(箱)
溝 SD119	—	—	—	土坑 SK148	—	—	—
中世墓 SX120	120-001~008	7	1.0	中世墓 SX149	149-001~012	12	2.0
溝 SD121	—	—	0.1	土坑 SK150	150-001~004	4	0.5
土坑 SK122	122-001~011	8	2.5	中世墓 SX151	151-001~008	7	1.0
土坑 SK123	123-001~004	4	0.2	中世墓 SX152	152-001	1	0.1
土坑 SK124	—	—	0.1	土坑 SK153	153-001~084	57	13.0
建物 SB125	125-001	1	0.1	土坑 SK154	154-001~005	4	0.5
建物 SB126	126-001~003	3	0.1	土坑 SK155	155-001~027	15	3.0
建物 SB127	127-001	1	0.1	土坑 SK156	156-001~003	3	0.2
建物 SB128	128-001	1	0.1	井戸 SE157	157-001~034	24	5.0
土坑 SK129	129-001~026	26	3.0	建物 SB158	158-001~005	5	0.2
土坑 SK130	130-001~011	8	2.0	建物 SB159	159-001~007	7	0.2
建物 SB131	131-001~003	3	0.1	建物 SB160	—	—	—
不明 SZ132	132-001	1	0.1	土坑 SK161	161-001~043	10	4.0
建物 SB133	133-001~003	3	0.1	中世墓 SX162	162-001~007	7	0.1
井戸 SE134	134-001~029	20	5.0	土坑 SK163	—	—	0.1
土坑 SK135	135-001	1	0.1	建物 SB164	164-001	1	0.1
建物 SB136	136-001	1	0.1	中世墓 SX165	165-001~008	8	1.0
建物 SB137	—	—	0.1	中世墓 SX166	166-001~013	14	1.0
中世墓 SX138	138-001~002	2	0.2	中世墓 SX167	167-001~004	4	0.5
中世墓 SX139	—	—	—	中世墓 SX168	168-001~020	19	2.0
中世墓 SX140	140-001~006	4	2.0	土坑 SK169	—	—	0.1
建物 SB141	141-001	1	0.1	中世墓 SX170	170-001~004	4	1.0
建物 SB142	142-001~004	4	0.1	中世墓 SX171	—	—	0.1
建物 SB143	143-001	1	0.1	井戸 SE172	172-001~179	54	15.0
土坑 SK144	144-001~024	22	3.0	土坑 SK173	173-001~004	4	1.5
建物 SB145	145-001	1	0.1	土坑 SK174	174-001	1	0.5
土坑 SK146	146-001~004	4	0.5	中世墓 SX175	175-001~004	4	1.0
土坑 SK147	147-001~002	2	0.1	土坑 SK176	—	—	0.2

遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)	遺構番号	遺物整理番号	実測図掲載数	遺物総量(箱)
土坑 SK177	177-001~002	2	0.1	土坑 SK203	203-001	1	0.2
土坑 SK178	178-001~012	10	2.0	土坑 SK204	204-001~016	15	5.0
建物 SB179	—	—	—	建物 SB205	205-001	1	0.1
17号墳SX180	180-001~002	2	0.1	建物 SB206	—	—	—
土坑 SK181	181-001~004	4	0.5	井戸 SE207	207-001~014	11	1.5
18号墳SX182	—	—	0.2	土坑 SK208	208-001	1	0.1
土坑 SK183	183-001~004	4	0.2	土坑 SK209	209-001~003	3	0.5
建物 SB184	184-001	1	0.1	溝 SD210	210-001	1	0.1
土坑 SK185	—	—	0.1	溝 SD211	—	—	—
19号墳SX186	—	—	0.1	土坑 SK212	212-001~007	5	1.0
土坑 SK187	187-001	1	0.2	橋 SA213	—	—	0.1
中世墓SX188	188-001~004	4	0.5	土坑 SK214	214-001~009	8	1.5
中世墓SX189	189-001~003	3	0.1	21号墳SX215	—	—	0.1
土坑 SK190	190-001~009	5	0.2	溝 SD217	—	—	—
建物 SB191	—	—	—	溝 SD218	218-001~005	5	1.0
井戸 SE192	192-001	1	0.1	土坑 SK219	219-001~005	5	0.5
井戸 SE193	193-001~108	85	31.0	土坑 SK220	220-001~004	4	0.1
井戸 SE194	194-001~011	10	3.0	土坑 SK221	221-001~007	7	1.5
土坑 SK195	195-001~003	2	0.2	土坑 SK222	222-001~004	4	2.5
20号墳SX196	196-001	1	0.2	中世墓SX223	223-001~003	3	0.1
土坑 SK197	197-001~005	4	1.0	中世墓SX224	224-001~008	7	0.5
土坑 SK198	198-001~004	4	1.0	中世墓SX225	225-001~007	6	0.5
建物 SB199	199-001	1	0.1	土坑 SK228	—	—	0.2
溝 SD200	200-001~005	5	0.4	土坑 SK229	—	—	0.1
建物 SB201	—	—	—	溝 SD230	230-001~003	3	0.2
溝 SD202	202-001	1	0.2	合 計	1773	1265	3355

* 遺構番号・遺物整理番号には、欠番もある。

* 遺物総量は、三重県埋蔵文化財センターが使用している標準タイプの整理用コンテナ（内法で33.5cm×14.0cm×53.5cm）に収納したと想定した場合の箱数であり、あくまで概数である。

II. 位置と歴史的環境

1. 位置・地形・地質

三重県には、旧国伊勢国、志摩國、伊賀國、そして紀伊國の東部が含まれている。第4図の上野市・名張市は伊賀國、鳥羽市は志摩國、尾鷲市は紀伊国に入り、伊勢湾西岸一帯の広い地域は伊勢国である。伊勢国内は、現在、一般的に鈴鹿市以北を北勢、津市周辺を中勢、松阪市以南を南勢というように呼び分けることが多い。

南勢地方には紀伊半島南部を東西に横断する紀伊山地が延びてきており、その前面には谷底平野が発達した丘陵が接続している。主要河川の櫛田川と宮川は紀伊山地の間を縫うようにはば並行して流れ、河岸段丘や氾濫平野を形成しながら伊勢湾へと注いでいる。

三重県と奈良県との県境にある大台ヶ原山(1,696m)に源を発する宮川は、多気・度会両郡の山間部を南西から北東方向へとゆるく蛇行しながら流れ、度会郡玉城町岩出(いわで)付近で伊勢平野の南端部に出る。岩出は宮川左岸の河岸段丘上に形成された戸数80戸程の農村集落である。集落の南側には、宮川と丘陵とに挟まれた標高15~24mの南北に細長い段丘面が続いており、そのほぼ全域が蚊山遺跡となっている。

蚊山遺跡付近は西南日本を東西に走る大断層である中央構造線の南側に接続している。基盤は外帶に属する三波川結晶片岩類の緑色片岩や黒色片岩で、開析された谷や河岸段丘には基盤の上に礫を含む粘

性土・黒色の砂質シルト(黒ボク)等が堆積している。近畿自動車道第9次区間(勢和~伊勢)の路線は中央構造線に沿って東西に走り、蚊山遺跡のほぼ中央部を横切っている。



第4図 位置図

2. 歴史的環境

蚊山遺跡(1)の南方は平坦地が狭く、確認されている遺跡の数は多くないが、蚊山遺跡付近を境として北方へ一步足を踏み出すと、県内でも有数の遺跡密集地域が広がっている。ここでは、第5図の範囲に入る遺跡を中心とりあげ、この地域の歴史

的環境を時代別に概観してみる。

旧石器時代

県内の旧石器時代の遺跡は約100か所知られており、その半数近くが櫛田川と宮川とに挟まれた地域に集中している。蚊山遺跡でも字角垣内で16点のナ



第5図 蚊山遺跡と周囲の遺跡位置図 (1:50,000)

イフ形石器が、左郡地区の西端付近で細石刃核1点が採集されている。ナイフ形石器を出土している遺跡に限っても蚊山遺跡周囲には、東海地方屈指の大規模な遺跡とされる玉城町カリコ遺跡（2）、国府型ナイフをはじめ70点以上のナイフ形石器が採集されている小俣町ママ園遺跡（3）の他、度会町上ノ垣外遺跡（4）、伊勢市元新田遺跡（5）、玉城町アレキリ遺跡（6）、上地山遺跡（7）、鉄砲塚遺跡（8）、東のび遺跡（9）、仲野遺跡（10）、西世古遺跡（11）、ミドロ遺跡（12）、波瀬B遺跡（13）、小俣町六軒屋遺跡（14）、との藪遺跡（15）、石川遺跡（16）、一ノ岡遺跡（17）、新池西遺跡（18）、明和町新池東遺跡（19）、シンゲ池遺跡（20）、鞍追間池遺跡（21）、須磨ヶ広遺跡（22）、明星牛場A遺跡（23）、明星牛場B遺跡（24）、明星牛場C遺跡（25）、明星1号墳周溝（26）、水池B遺跡（27）、北野遺跡（28）、堀田遺跡（29）など多くの遺跡が分布している。これらの遺跡については、低地に面する段丘上や台地縁辺に偏在しており山間地域よりも平地に対する進出傾向が目立つ、という立地上の特徴が指摘されている。

縄文時代

県下では600か所を超える遺跡で縄文土器の出土が確認されている。蚊山遺跡北方の平野部には大規模な遺跡はみられないが、南方の宮川沿いには県内を代表する遺跡が分布している。

草創期の遺跡には、有舌尖頭器を出土した度会町森添遺跡（30）、上ノ垣外遺跡（4）、玉城町茶臼山遺跡（31）、小俣町石川遺跡（16）、明和町斎宮跡（32）があるが、この時期の土器は確認されていない。早期の遺跡には調理施設の集石炉が検出された度会町上ノ垣外遺跡の他、玉城町明豆遺跡（33）、楠ノ木遺跡（34）、小俣町石川遺跡・百町遺跡（35）、明和町打越遺跡（36）、発シB遺跡（37）がある。

前期あるいは中期の遺跡数は少なく、度会町上ノ垣外遺跡・森添遺跡、伊勢市佐八藤遺跡（38）、ハノカ遺跡（39）、明和町金剛坂遺跡（40）などがあげられるのみで、まとまった量の遺物が出土している遺跡はみられない。蚊山遺跡からも中長期末葉と思われる土器の小片が出土している。

後期・晩期になると遺跡数が増加する。多量の土

器や石器をはじめ石棒・岩偶などが採集されている伊勢市佐八藤遺跡は後期の代表的な遺跡であり、発掘調査により水銀朱の全国的な供給センターであったことが明らかになった度会町森添遺跡は後期後葉から晩期にかけて隆盛した大規模な遺跡である。その他、後期あるいは晩期の土器を出土した遺跡には度会町上ノ垣外遺跡、伊勢市中ノ垣外遺跡（41）、元新田遺跡（5）、玉城町明豆遺跡・蚊山遺跡・東村遺跡（42）、上の山遺跡（43）、山神城跡（44）、酒部屋遺跡（45）、明和町斎宮池遺跡（46）、戸峰1号墳（47）、斎宮跡・金剛坂遺跡がある。

弥生時代

伊勢湾西岸における弥生文化の受容は前期中段階にみられるが、南勢地域では新段階以降の遺跡しか確認されていない。蚊山遺跡周囲の前期の遺跡には玉城町猿谷遺跡（48）、上の山遺跡（43）、仲垣内遺跡（49）、山殿西遺跡（50）、西世古遺跡（11）、明和町大道A遺跡（51）、金剛坂遺跡（40）がある。まとまった資料が少ないと、上の山遺跡では前期のものとしては県下で6例目の竪穴住居が検出されている。

中期の遺跡も少ないが、発掘調査例はやや増加し、伊勢市中ノ垣外遺跡（41）、玉城町上地山遺跡（7）で竪穴住居が、玉城町上の山遺跡・波瀬B遺跡（13）、明和町金剛坂遺跡・寺垣内遺跡（52）で方形周溝墓が検出されている。蚊山遺跡では中期の壺の小片が1点出土している。

後期になると遺跡数は急激に増加し、竪穴住居あるいは方形周溝墓が検出された遺跡のみに限っても、伊勢市野垣内遺跡（53）、中楽山遺跡（54）、玉城町小社遺跡（55）、仲垣内遺跡（49）、月よべ遺跡（56）、赤垣外遺跡（57）、小俣町掛橋遺跡（58）、六軒屋遺跡（14）、明和町金剛坂遺跡・寺垣内遺跡といった遺跡をあげることができる。特に、宮川左岸の段丘中位面には、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての集落遺跡が帶状に並んでおり、当時、かなりの規模の集落が形成されていたと考えられている。

古墳時代

弥生時代後期の集落の中には古墳時代初頭まで引き継ぎ営まれていたものもあるが、その後の足どりはわからなくなり、蚊山遺跡の周囲では前期の古墳

も確認されていない。しかし、玉城町小社遺跡（55）からは4世紀代のS字状口縁台付甕や4世紀後半のものと思われる石銅片が採集されていることから、この地域に集落が存在し、前期古墳も築かれていたということが十分想定できる。

5世紀前半になると櫛田川以南でも明確な墳丘をもった古墳が確認されるようになり、5世紀後半には全長約75mの帆立貝式古墳である高塚1号墳（59）が築かれる。この古墳は櫛田川以南一帯を治めていた首長の墓と考えられている。6世紀前半にはユブミ2号墳（60）、斎宮池12号墳（61）、野田古墳（62）、大仏山10号墳（63）といった全長30~45mの前方後円墳がみられる。これらの古墳の分布をみると、あたかも、5世紀後半に1つにまとめていた地域が6世紀前半に櫛田川右岸と宮川左岸の2つの地域に分かれたかのように思える。

小規模な古墳は、丘陵部を中心に数百基確認されている。現在古墳分布の薄い段丘中位面でも、蚊山古墳群（蚊山遺跡）のように発掘調査により発見されるものが増加していくと思われる。小規模古墳の多くは10数基があつまって1つの古墳群を形成している。宮川右岸にある落合古墳群（64）は4世紀末ないし5世紀初頭という早い時期に群の形成が始まっている。朝久田古墳群（65）も5世紀代に盛行した古墳群と考えられる。蚊山古墳群の形成も5世紀末葉に始まっている。その他、5世紀末葉あるいは6世紀前半から始まると思われる古墳群もいくつかあるが、ほとんどの古墳群は6世紀後半から7世紀前半にかけて形成されたものと考えられている。

歴史時代

飛鳥時代から鎌倉時代にかけて、伊勢国内の櫛田川以南のほとんどの地域は神宮領となっており、神宮の強い影響下におかれていた。蚊山遺跡周囲のこの時期の遺跡にも神宮に関係すると思われるものが多くみられる。その中でも特筆すべきものに明和町の国史跡斎宮跡（32）がある。

斎宮は伊勢神宮の祭祀を司るために天皇の即位ごとに遣わされた斎王の御所とその事務運営にあたる斎宮寮とよばれていた官衙および官人の住居などで構成されていた。皇室の祖先神を祭るという特別の

地位を確保した伊勢神宮の起源や斎宮の成立については今なお不明な点が多いが、昭和40年代から続けられている発掘調査によって飛鳥時代以降の斎宮の姿が徐々にあきらかになってきている。

伊勢神宮の神事に使用する土器は、多気郡有爾郷で製作されていたことが知られている。斎宮跡の南に位置する明和町有爾中は有爾郷の遺跡地である。有爾中の近辺には明和町水池土器製作遺跡（66）、黒土遺跡（67）、北野遺跡（28）、堀田遺跡（29）、発シA遺跡（68）、発シB遺跡（37）、垣場遺跡（69）、戸峰A遺跡（70）、大道A遺跡（51）、川原口遺跡（71）、金剛坂遺跡（40）、斎宮跡、玉城町古遺跡（72）など、飛鳥・奈良時代の土器窯である土器焼成坑が検出された遺跡が集中して分布しており、その検出総数は300基近くにのぼる。有爾郷の範囲や起源については不明な点が多いが、これらの遺跡の分布範囲が有爾郷の中心部分であり、斎宮が設置された飛鳥時代末には神宮の土器を作りはじめていたと考えられる。有爾郷には須恵器を製作する集団もいたことが知られている。多気町の東部から玉城町南西部にかけての丘陵部には奈良時代を中心とする須恵器窯が30基ほど確認されている。外城田窯跡群と総称されるこれらの須恵器窯についても神宮との強い関係を想定することが可能である。

伊勢神宮とは皇大神宮（内宮）、豐受大神宮（外宮）および別宮と摂社・末社などの総称である。内宮の権宜・権籠宣を世襲していた荒木田氏は、平安時代には城田郷・田辺郷・湯田郷を本拠地としていた。これらの3郷は有爾郷と宮川とに挟まれた一帯にあったと考えられており、玉城町内には荒木田氏の氏神である荒木田二門氏神社跡（73）や氏寺である田宮寺（74）がみられる。

玉城町岩出には平安時代後半から中世にかけて神宮祭主の大中臣氏の祭主館があったとされている。また、宮川の対岸にある伊勢市佐八にも大中臣氏（後に藤波氏）の居館があったとされ、国指定重要文化財「伊勢新名所絵歌合」（鎌倉後期作）にも共に“岩波の郷” “藤波の郷”として登場している。

伊勢市佐八町とその南に隣接する津村町には、中世の建物跡が検出された佐八藤波遺跡（38）、中ノ垣外遺跡（41）、寺原B遺跡（75）、中新田遺跡（76）、

鎌倉時代以降の土器が多数採集されている土煙遺跡(77)・西垣内遺跡遺跡(78)・北垣内遺跡遺跡(79)など中世の集落跡と考えられる遺跡が多数分布している。蚊山遺跡がこれらの遺跡と密接な関係にあつたであろうことは容易に想像できる。

室町時代になると、伊勢国司として入ってきた北畠氏により神宮領は次第に浸食され、伊勢神宮の方は急速に衰えていった。一方、南勢地方に本拠地を置いた北畠氏は領國支配を進めて戦国大名として成長し、織田信長に滅ぼされるまで南勢地方の支配者としての地位を保ち続けた。

蚊山遺跡の周囲には、玉城町岩出城跡(80)・山岡城跡(81)・山神城跡(44)・田丸城跡(82)、伊勢市寺山城跡(83)、明和町有爾中城跡(84)・池村城跡(85)などの中世城館がみられる。これらの城館については不詳な点が多いが、北畠氏に対抗する

山神周辺諸郷の軍事的拠点であったとされる山神城跡を除き、ほとんどが北畠氏関係のものと考えられる。田丸城は延元元年(1336)に北畠氏が築城して以来、北畠氏の拠点の一つとなっていた。天正3年(1575)に織田信長の次男である信雄が城主となり田丸城を拡張、整備し、その城下は紀州和歌山藩領になってからも南勢地方の要所として栄えた。岩出城も規模の大きなもので城下町も形成されていたらしいが、慶長5年(1600)に廃城となっている。昭和20年代まで、本丸やそれを囲む内堀・外堀の跡が残っていた。

室町時代以降の遺跡の発掘調査では、玉城町椿ノ木遺跡(34)・波瀬B遺跡(31)で集落跡が、同町城廻場遺跡(岡村遺跡)(86)で中近世墓群が検出されており、この時代に関しての考古学からのアプローチが始まったところである。

【参考文献】

- 『三重の中世城館』三重県良書出版会 1972
- 奥義次『三重県の遺跡』「日本の旧石器文化3」藤山閣出版 1976
- 奥義次『旧石器・縄文時代』『図説伊勢・志摩の歴史〈上巻〉』鷹出版社 1992
- 『三重県伊勢市遺跡分布図』伊勢市教育委員会 1981
- 岩中淳之『佐八藤遺跡発掘調査報告』伊勢市教育委員会 1990
- 奥義次・御村精治・大西泰行『上地山遺跡発掘調査報告書』玉城町教育委員会 1985
- 奥義次・御村精治『森添遺跡発掘調査報告書Ⅱ』度会町遺跡調査会 1988
- 御村精治『上ノ垣外遺跡発掘調査概報』度会町遺跡調査会 1991
- 『三重県多気郡明和町遺跡地図』明和町 1988
- 山澤義貴・谷本锐次『金剛坂遺跡発掘調査報告』明和町郷土文化を守る会 1971
- 奥義次『旧石器時代』『縄文時代』『多気町史 通史』多気町 1992
- 『玉城町南部の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1982
- 『小俣町の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1985
- 『明和町の遺跡』皇學館大學考古学研究会 1987
- 痛吉久他「岩出の遺跡」「歩跡 第3号」皇學館大學考古学研究会 1976
- 上村安生「土器焼成址について その① 瓷痕のある粘土について子野」三重歴史文化研究会 発表会資料 1993
- 『三重県遺跡台帳』三重県教育委員会
- 下村豊男「中楽山遺跡」「昭和47年度県営圃場整備事業地
- 城廻場文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1973
- 小玉道明『仲垣内遺跡』「赤垣内遺跡」、小玉道明・長谷川博『月よへ遺跡』、下村豊男「野垣内遺跡」「昭和48年度県営圃場整備事業地城廻場文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1979
- 新田洋『中新田遺跡』『昭和56年度県営圃場整備事業地城廻場文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1982
- 高見立雄・岩中淳之『中ノ垣外遺跡』『昭和58年度農業基盤整備事業地城廻場文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1984
- 小林秀「中世後期における土器師工人集団の一形態—伊勢国有爾郡の素材として—」、森田季伸「大仏山丘陵とその周辺のナウイフ形石器について」『研究紀要 第1号』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 『三重の縄文時代』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 大川原富・稻本賢治『「山神城跡」、「前川富宏「泉賀塚跡」』「近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第2分冊」三重県埋蔵文化財センター 1992
- 伊藤裕作『椿ノ木遺跡』「近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第3分冊」三重県埋蔵文化財センター 1991
- 角谷泰弘『寺原B遺跡』「ハノカ遺跡」、前川富宏「中ノ垣外遺跡」『近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第5分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992
- 伊藤裕作「落合古墳群」「近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告第7分冊」三重県埋蔵文化財センター 1992
- 上村安生「一級県道会主城壁道路改良事業に伴う上の山遺跡発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター 1992
- 上村安生「一般県道田丸停車場新明徳道路改良事業に伴う波瀬B遺跡発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター 1992

III. 調査の成果

1. 層序

調査区北壁の土層断面（第9・10図）を詳しく観察すると層序は単純で、上から順に、耕作土である粗砂が若干混じる褐灰色土層、次に粗砂がほとんど混じらない黒色あるいは黒褐色の黒ボク層、その下が細纖混じりの明黄褐色からにぶい黄橙色をした粘性土層となる。

耕作土の厚さは平均20cm程度で、細片となった土器片が混入している。耕作土下の黒ボク層の厚さも平均20cm程度であるが、田畠一枚の中でみると、東側（宮川側）は比較的厚く、西側（山側）はかなり薄いか全くみられなくなる。これは、大正から昭和初期にかけて行われたという耕地整理による削平が深くまで及んだためと思われる。黒ボク層には中世の土器を中心とした遺物がかなり含まれている。その下の粘性土層には遺物が認められなかつたためこの層の上面を遺構検出面とした。ただし、調査区

の西端近くでは粘性土層中にチャートのフレイクらしき石片が若干みられたことから、旧石器時代の遺構遺物の存在を想定して精査を試みたが、はつきりとした成果は得られなかった。黒ボク層と地山との間に、部分によっては黒ボクと地山崩壊土とが混じり合った灰黃褐色の土層が薄くみられる。遺構の埋土は時代を問わずほとんどが同一にみえる黒ボクで、地山の色調と明瞭に異なるため遺構検出は比較的容易であったが、その反面、遺構間の切り合い関係の判断は非常に困難であった。

標高は、調査区西端付近では耕作土上面が約26.8m、遺構検出面が約26.6m、調査区東端では耕作土上面が約20.0m、遺構検出面が19.5mである。地形は、数か所で比高50cm前後の段をつくりながら西から東へと緩やかに傾斜しており、調査区西端から東端までの距離約290mに対して比高は約7mとなる。

2. 弥生時代以前の遺物

調査区内からは整理用コンテナで300箱以上の遺物が出土した（第2表）が、弥生時代以前のものは縄文土器片3点、弥生土器片1点、磨製石斧1点が確認できたのみである。弥生時代以前の遺構は検出できなかつた。

なお、本書に実測図を掲載した遺物の出土位置や観察結果については第9表出土遺物観察表にまとめである。

1. 縄文時代の遺物（第62図）

縄文土器（1～3） いずれも深鉢片で、器壁はかなり荒れており調整等は不明瞭である。1は調査区東端の包含層から出土した口縁部片で、口縁端部に沿って一条の沈線がはしる。中期か後期のものと思われる。2は中世の遺構であるS E 157の埋土か

ら出土した口縁部片で、縱方向に太い沈線が2条認められる。中期末葉から後期初頭のものであろう。3は調査区西よりの包含層から出土した体部片で、2条の沈線の間にかろうじて縄文が認められる。後期前半のものである。

2. 弥生時代の遺物（第62図）

磨製石斧（4） 調査区中央付近の包含層から出土した縫泥片岩製のもので、基部近くがくびれている。弥生時代のものであろう。

弥生土器（5） 調査区の東端付近で出土した中期の壺の口頭部片である。頭部に櫛描横線文が1段認められる。

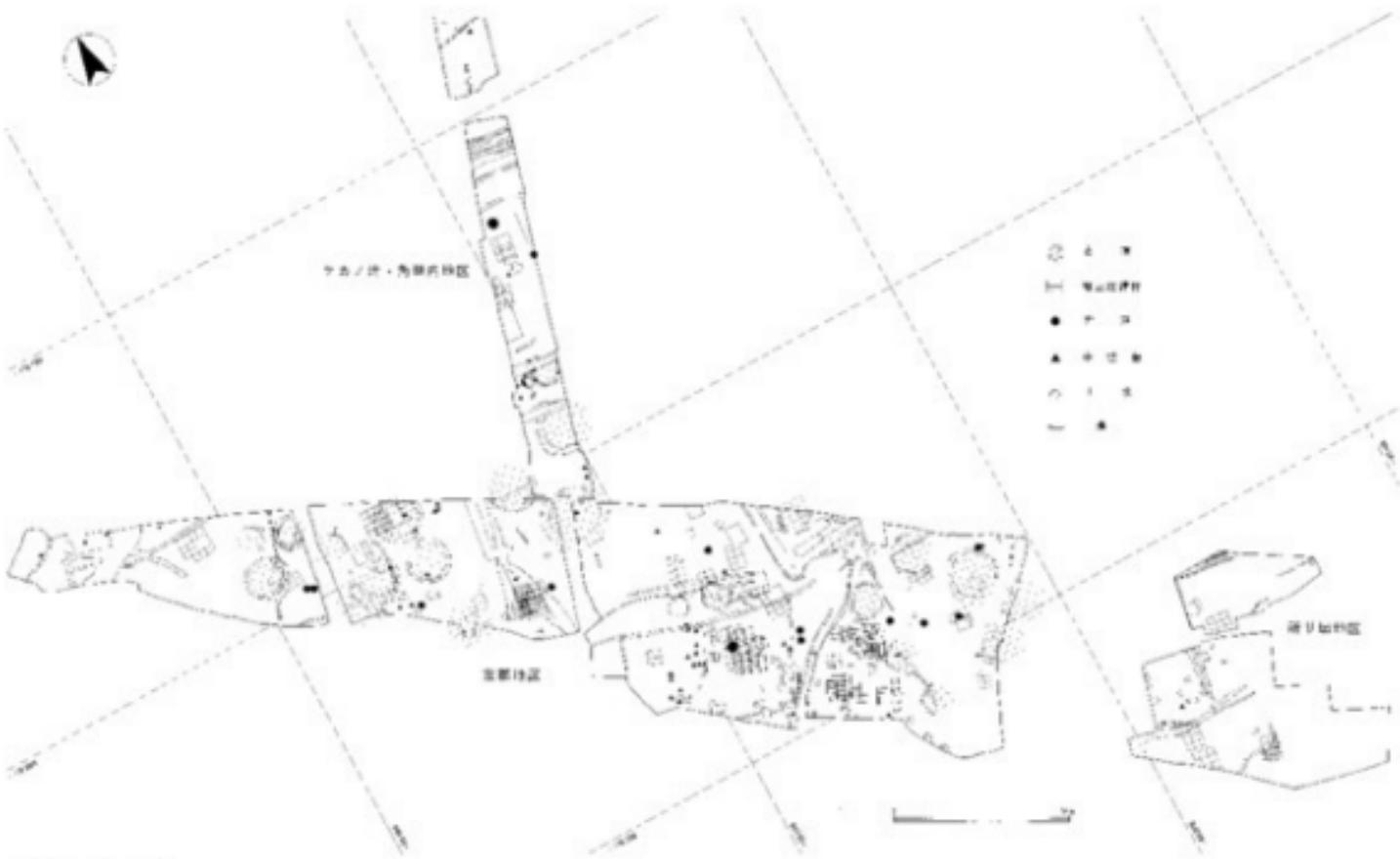


图 1-1-1 住区概况 (1:1000)





3. 古墳時代の遺構と遺物

1. 古墳と古墳出土の遺物

古墳時代の遺構としたものには古墳の残骸と思われるもの21基、土坑2基、ピット1か所がある。古墳時代の遺物は須恵器を中心に整理用コンテナに10箱程度である。古墳の周溝埋土から出土したものもあるが、ほとんどが包含層出土で、中世の遺構埋土にも混入していた。

古墳は発掘調査によって始めてその存在が確認されたものである。各古墳には遺構表示略記号をSXとして遺構通し番号を付したが、それとは別に「蚊山古墳群」というとらえかたで、1号墳から21号墳までの名称も与えた。なお、蚊山遺跡ケカノ辻・角垣内地区の調査でも新たに2基の古墳(22号墳・23号墳)が検出されている。

古墳の周溝からは古墳時代の遺物の他に中世の遺物も出土している。これは開墾等の擾乱によるものと思われるが、周溝内に検出できなかった中世の遺構が重複していた場合も考えられる。

各古墳の築造時期は主に、出土した須恵器から推定した。須恵器の編年は中村造氏の陶邑編年^⑨を用いている。

S X 4 (1号墳) (第19・62図) 調査区の西端近くにある円墳で、検出されたのは周溝のみである。周溝は北側が幅約1.5m、深さ約0.6m、南西側が幅約1.8m、深さ約0.5mである。周溝内側の下端を基底線とすると、埴丘規模は約13mとなる。周溝内から整理用コンテナに約半分の土器が出土しているが、そのほとんどは中世のものである。古墳時代の土器は同一個体のものと思われる土器器輪片が数点と、土器器の台付甕底部(6)がみられる。台付甕は周溝が比較的深く残っている北側部分の底近くから出土しており、この古墳に伴うものと断定できる。台部は大きく、古い様相をとどめているが、底部外面のハケ目は細かく、6世紀代の甕にみられるものに類似している。ここでは、この台付甕の時期を6世紀初頭とし、1号墳の築造時期もほぼそのころとしておく。

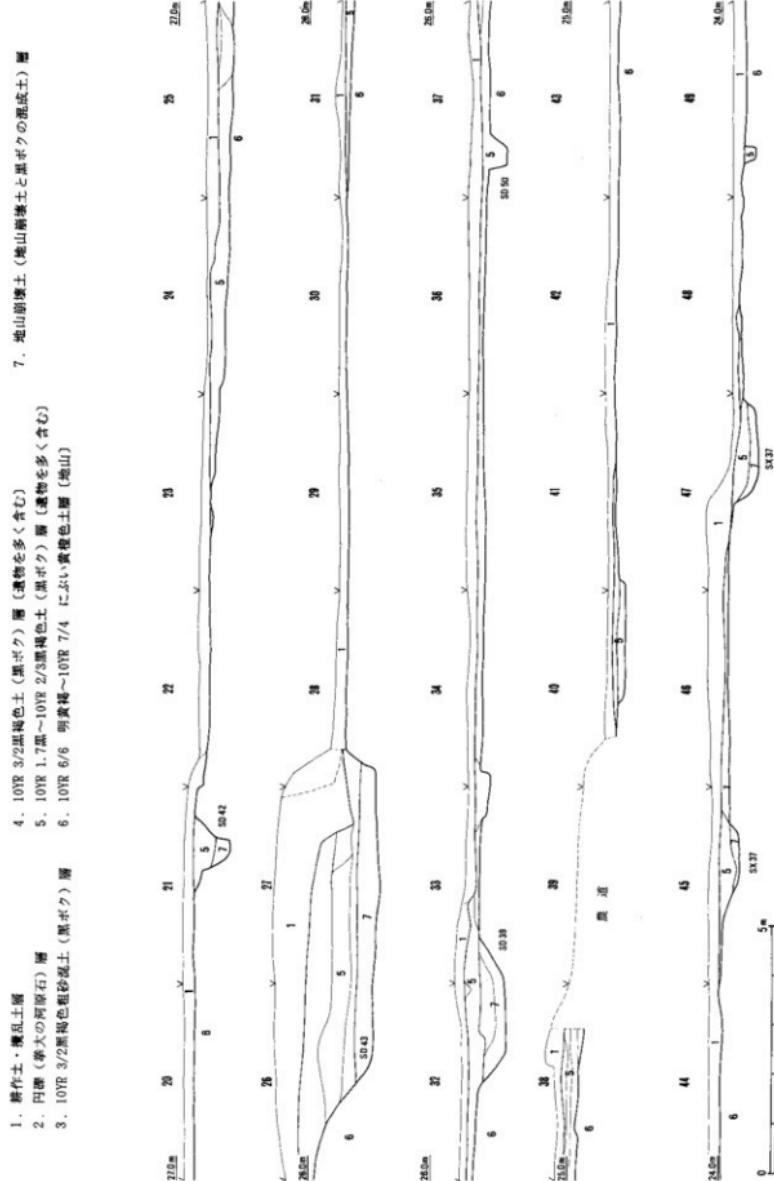
S X 7 (2号墳) (第19図) 1号墳の北西約5

mに位置する円墳で、周溝の西側半分がかろうじて検出された。周溝は最も残りの良い部分でも幅約0.8m、深さ約0.1mである。埴丘規模は10.5m程度と推測できる。出土遺物は全くない。

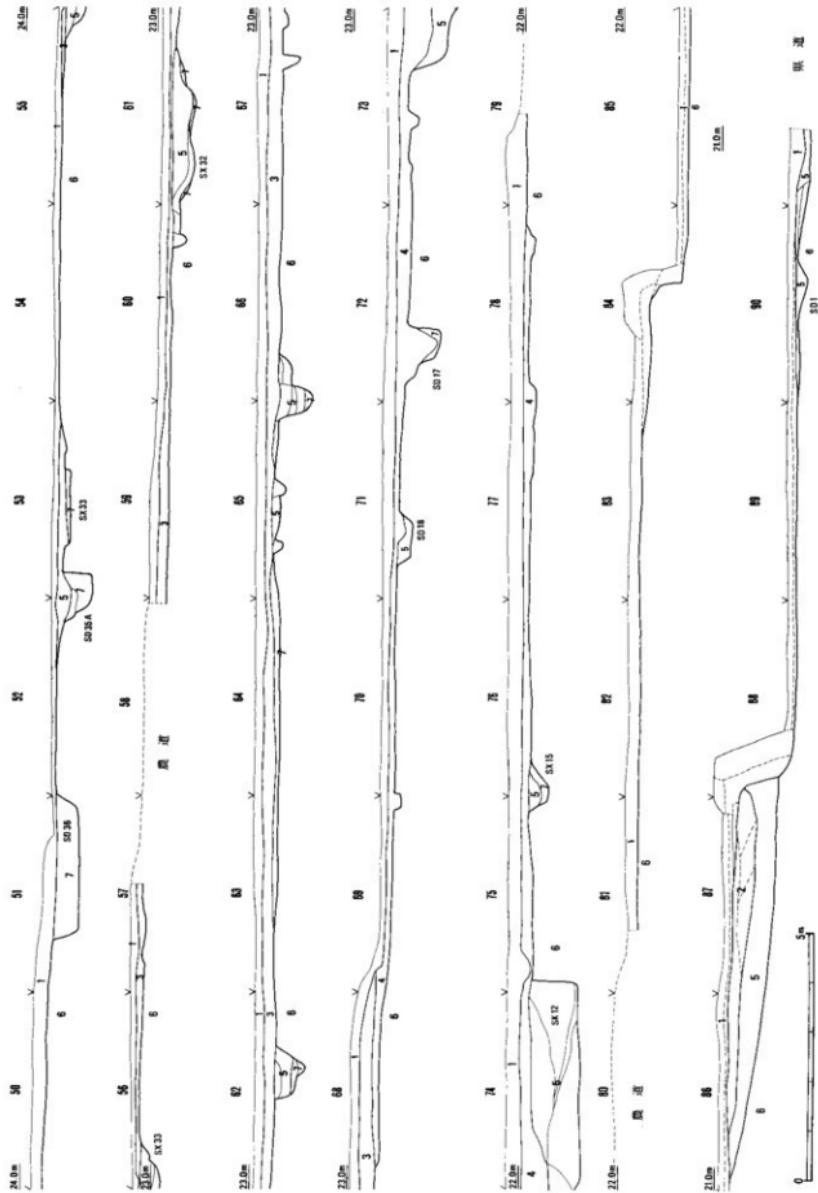
S X 14 (3号墳) (第16図) 2号墳の北西約12mに位置している。一辺が7.5m程度の方墳と考えられるが、SD 8やSD 10によってかなり破壊されているため断定はできない。周溝は北東側で幅約0.8m、深さ約0.2mある。出土遺物は全くなく築造時期は特定できないが、墳形・規模などから4号墳とほぼ同じ7世紀前半のものと考えられる。

S X 15 (4号墳) (第16・62図) 3号墳の北西約4mに位置している。周溝は南東側で幅約1m、深さ約0.4m、北西側で幅約0.7m、深さ約0.3mで、調査区外にものびている。3号墳と同じく一辺が7.5m程度の方墳であろう。遺物は、周溝内から古墳時代の須恵器(7・8・10・11)と中世の土器器皿・小皿・鍋、山茶碗の破片が出土した。また、包含層出土の須恵器杯蓋(9)と土器器ミニチュア鉢(12)も出土位置から15号墳に伴うものと判断した。7と8は口径が小さいこと、ヘラケズリ調整が施されていないことなどからII型式6段階(7世紀前半)のものと思われる。10の高杯も脚部の透かしが2段みられるものの完全に形骸化しており、同じくII型式6段階のものである。他の古墳時代の遺物も同時期と考えて全く問題がない。これらのことから4号墳の築造時期を7世紀前半とすることができる。

S X 32 (5号墳) (第15・62図) 調査区の中央附近で検出された円墳で、一部ケカノ辻・角垣内地区にかかる。周溝は西側が幅約2.5m、深さ約0.4m、南東側が幅約3m、深さ約0.3mである。東から南にかけての周溝が乱れているのは後世の擾乱によるものと思われるが、周溝内埋葬が行われていた可能性も残る。埴丘規模は東西約15.5m、南北約14mで、蚊山古墳群中では最大の規模をもつ。周溝内からは、須恵器提瓶(15)・甕(16)、土器器ミニチュア高杯(17)の他、古墳時代の土器器輪・甕の小片や中世の土器片が出土した。また、墳域のほ



第9図 調査区北壁土層断面図(1) (1 : 100)



第10図 調査区北壁土層断面図(2) (1 : 100)

ば中央にある中世墓 S X38からは、本来5号墳に伴っていたと考えられる須恵器杯蓋（13）、杯身（14）、土師器ミニチュア高杯（19）が出土している。13と接合できる破片は包含層からも出土している。17のミニチュア高杯は試掘調査時に黒ボク層から出土したもので、試掘坑の位置から考えると5号墳の周溝埋土出土として間違いないと思われる。須恵器をみると、蓋杯（13・14）の口径が大きいこと、13にはロクロヘラケズリが施されているが口縁部と天井部との境の稜がみられないこと、提瓶（15）が大型でしっかりとしていることなどからⅡ型式4段階（6世紀後半）のものと考えられる。他の古墳時代の土器についても概ねその時期のものと考えて問題ない。これらのことから5号墳の築造時期を6世紀後半とすることができる。

S X33（6号墳）（第15図） 5号墳の北西約3mに位置する円墳である。今回の調査区内では周溝の南西側が検出され、ケカノ辻・角垣内地区の調査では東側の一部が確認されている。周溝は南西側が幅約1.5m、深さ約0.4mである。墳丘規模は11m程度であろう。遺物は周溝内から中世の土師器皿の小片が数点出土したのみである。

S X37（7号墳）（第13・62図） 5号墳の北西約34mに位置する径約11.5mの円墳で、北東側が調査区外にのびる。周溝は西側が幅約2m、深さ約0.7m、東側が幅約1.2m、深さ約0.3mである。遺物は周溝内から古墳時代の須恵器杯蓋（20・21）、甕（22）、壺（23）、土師器碗（24）、中世の土師器皿・小皿、山茶碗が出土した。須恵器杯蓋（20・21）は共にヘラケズリが比較的丁寧に施されており、天井部と口縁部との境の稜も残っている。しかし、20は小振りで、21は口径が大きいことから、20をⅠ型式5段階、21をⅡ型式1段階とすることができます。須恵器甕（22）もⅠ型式5段階あるいはⅡ型式1段階のもの、須恵器壺（23）はⅠ型式5段階のものと思われることから、7号墳の築造時期を6世紀前半とすることができる。

S X49（8号墳）（第11図） 7号墳の北西約20mに位置する径約8mの円墳である。周溝は南側が幅約0.8m、深さ約0.3m、北側が幅約1m、深さ約0.1mである。東側は農道のため確認できなかった。

遺物は周溝から中世の土師器皿・鍋の破片が少量出土したのみである。

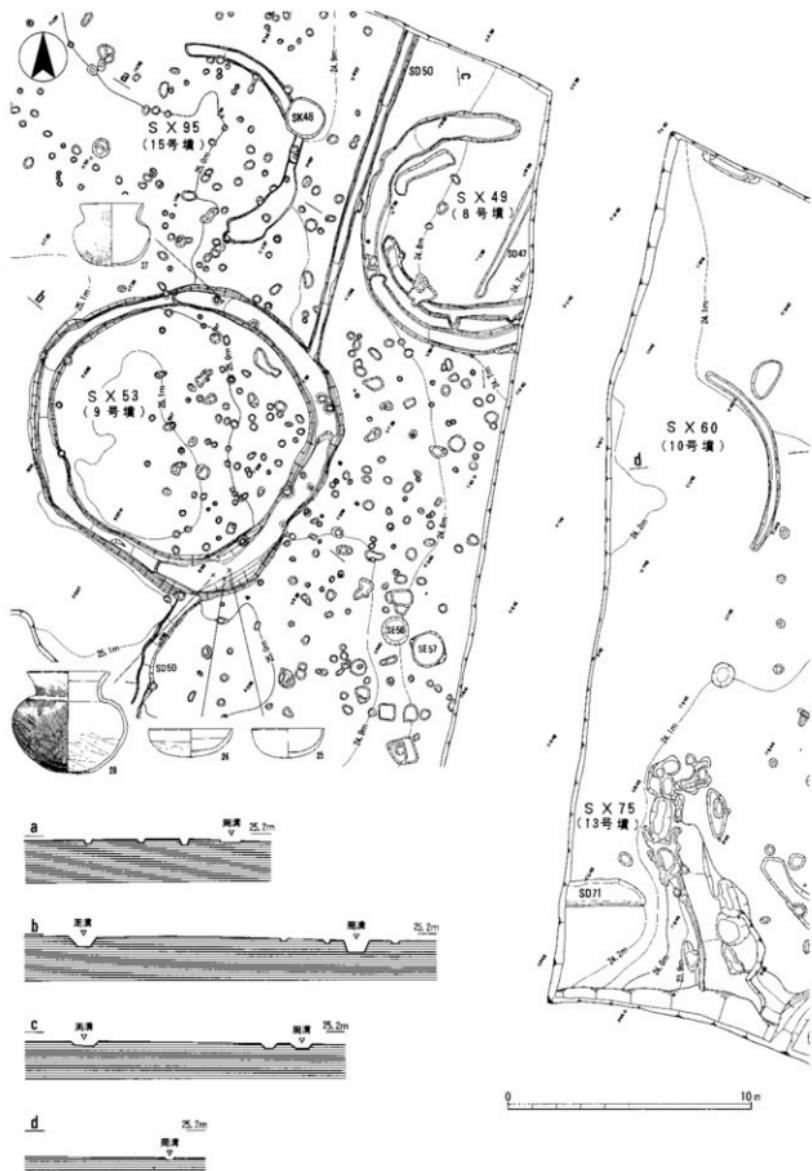
S X53（9号墳）（第11・63図） 8号墳の南西約3mに位置する円墳である。周溝は南側が幅約1.8m、深さ約0.5m、北側が幅約0.5m、深さ約0.3mで、墳丘規模は東西約10m、南北約11mである。遺物は周溝内から古墳時代の土師器碗（25・26）、壺（27・28）、中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が出土している。土師器碗・壺から、9号墳の築造時期を6世紀代とすることができます。

S X60（10号墳）（第11図） 7号墳と9号墳とのほぼ中間に位置する円墳である。削平によって大部分が消滅しており、北東部分の周溝の痕跡がかろうじて検出できた。周溝は幅約0.5m、深さ約0.1mである。墳丘規模は9m程度と推定できる。出土遺物は全くない。

S X61（11号墳）（第13・63図） 7号墳の南西5mに位置する径約9.5mの円墳である。周溝は削平によって西側が消滅しているが、東側では幅約1m、深さ約0.4mある。周溝内から古墳時代の土師器碗（29）1点と、中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が少量出土した。29は口縁部の形態から、5世紀末葉あるいは6世紀前半のものと思われる。11号墳の築造時期もそのころであろう。

S X72（12号墳）（第13・63図） 7号墳のすぐ南に築かれた径約11mの円墳である。周溝は東側が幅約1.5m、深さ0.5m、西側が幅約1m、深さ約0.2mあり、北西側は削平によるためか途切れている。周溝内から古墳時代の須恵器無蓋高杯（31）、土師器碗（30）・台付壺、中世の皿・小皿・鍋の小片が出土している。31は脚部が失われているが、3方透かしの痕跡が認められる。Ⅱ型式の2段階か3段階（6世紀中頃）のものであろう。12号墳の築造時期もそのころにおくことができる。

S X75（13号墳）（第11・12図） 11号墳の西側で検出された土坑群を石材が全て抜き取られた横穴式石室の痕跡と判断したが、古墳時代の遺物が全く出土していないこと、想定される墳丘の範囲が11号墳と大きく重複してしまうことなど問題も多い。ここに横穴式石室があったとすれば、主軸をN11°Wにとり、ほぼ南に開口するものを想定することができる。



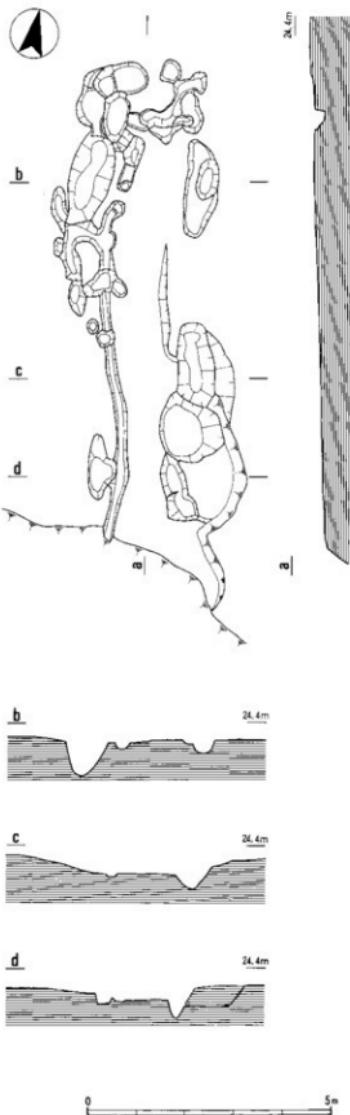
第11図 S X 49・53・60・75・95実測図 (1 : 200)

きる。石室規模は南端部分が擾乱されているため不明瞭であるが、全長8m程度、玄室幅1.5m程度と推定される。

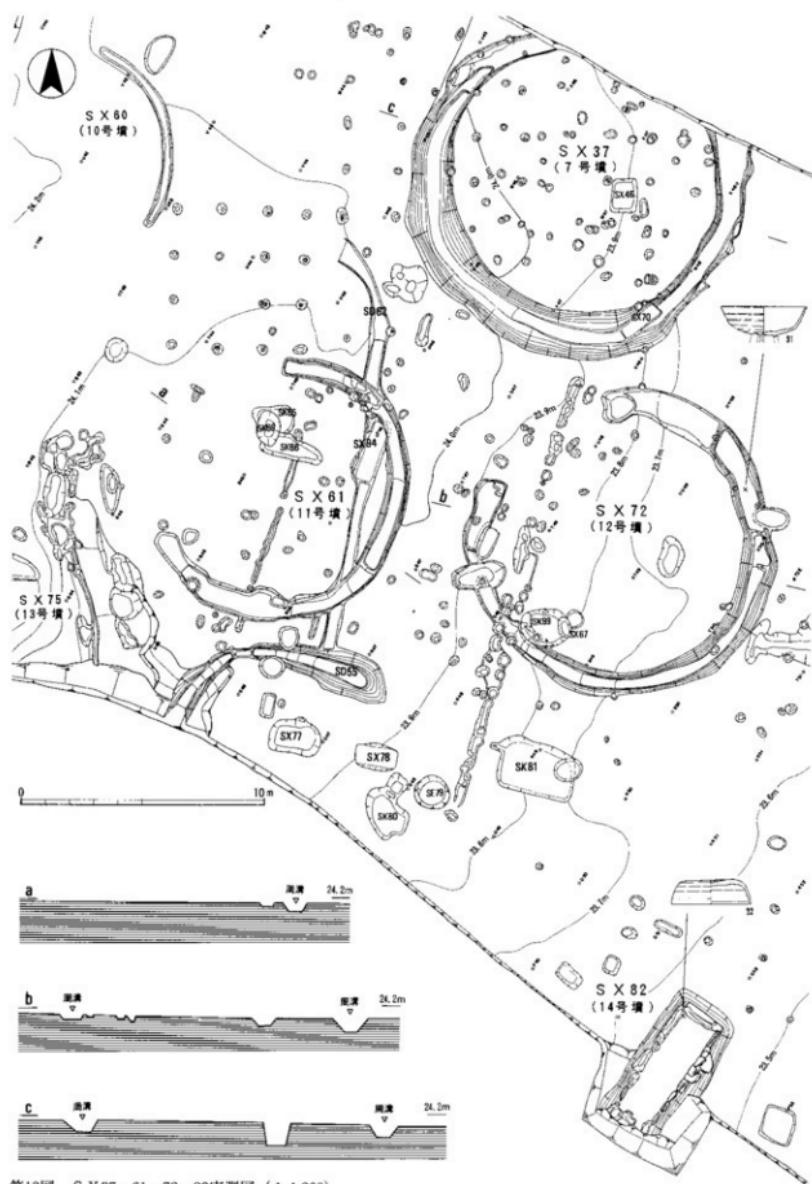
S X82 (14号墳) (第13・14・63図) 12号墳の南約12mで検出された横穴式石室で、墳丘や周溝は確認できなかった。石室は段丘斜面に向かって築かれており、渓道部分は自然崩壊あるいは削平によつて完全に破壊されていた。残存する玄室から、主軸をN35°Eにとり南南西に開口していたことがわかる。石室掘形は玄室部分の平面形が長方形で、検出長約6.3m、幅3.0m前後である。石室の石材は近くで容易に入手できる結晶片岩を使用している。基底石は左側壁が比較的良く残っているが、右側壁は南端の1つを除いて全て石室床面上に倒れていた。奥壁の基底石も石室内に向かって倒れかかっている。2段目以上の石材は両側の側壁にわずかに残っていたが、右側壁のものは基底石の倒壊とともに内側にせり出していたため、石室内の埋土除去とともに全て取り外さざるを得なかった。玄室の平面形は長方形で、規模は南端にあるピット列が玄門部の石材抜き取り痕であるとすれば、長さ約5.0m、幅約1.5mとなる。奥壁と右側壁とが接する部分に、径1m程の範囲で地山崩壊土と黒ボクとが混じり合った擾乱土がみられた。この擾乱土は石室の検出面から床面まで続いており、その中から中世の土師器皿片やII型式5段階の須恵器杯蓋(32)が出土した。おそらくこの部分は中世以降に掘られた盗掘坑で、玄室右側壁の倒壊は、この盗掘によって石材間のバランスが崩されたために引き起こされたものと思われる。石室床面には遺物が全くみられないことから、盗掘によって全て持ち去られ、32のみが盗掘坑内へ置き捨てられたと考えられる。14号墳の築造時期は32の時期、つまり6世紀末葉から7世紀初頭にかけてと思われる。石室の形態もその時期のものとして問題ない。

S X95 (15号墳) (第11図) 9号墳のすぐ北に築かれた円墳である。周溝は東側部分しか残っておらず、幅約0.8m、深さ約0.2mである。墳丘規模は7m程度と推定できる。周溝内から中世の土師器皿・小皿・鍋の破片が少量出土した。

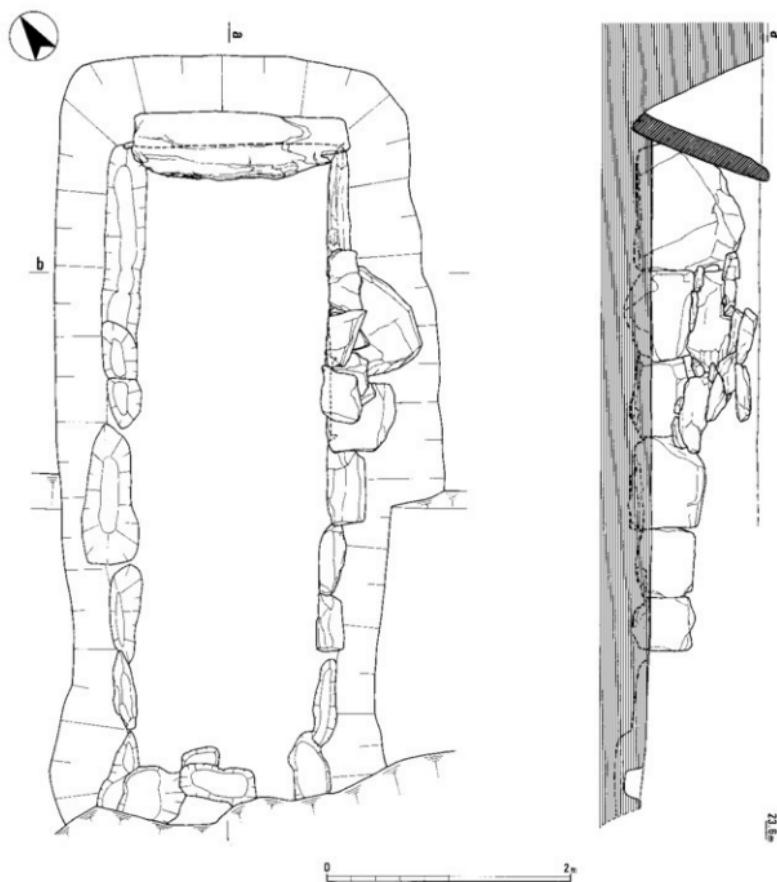
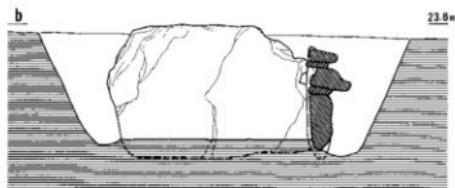
S X113 (16号墳) (第18図) 調査区の東端近く



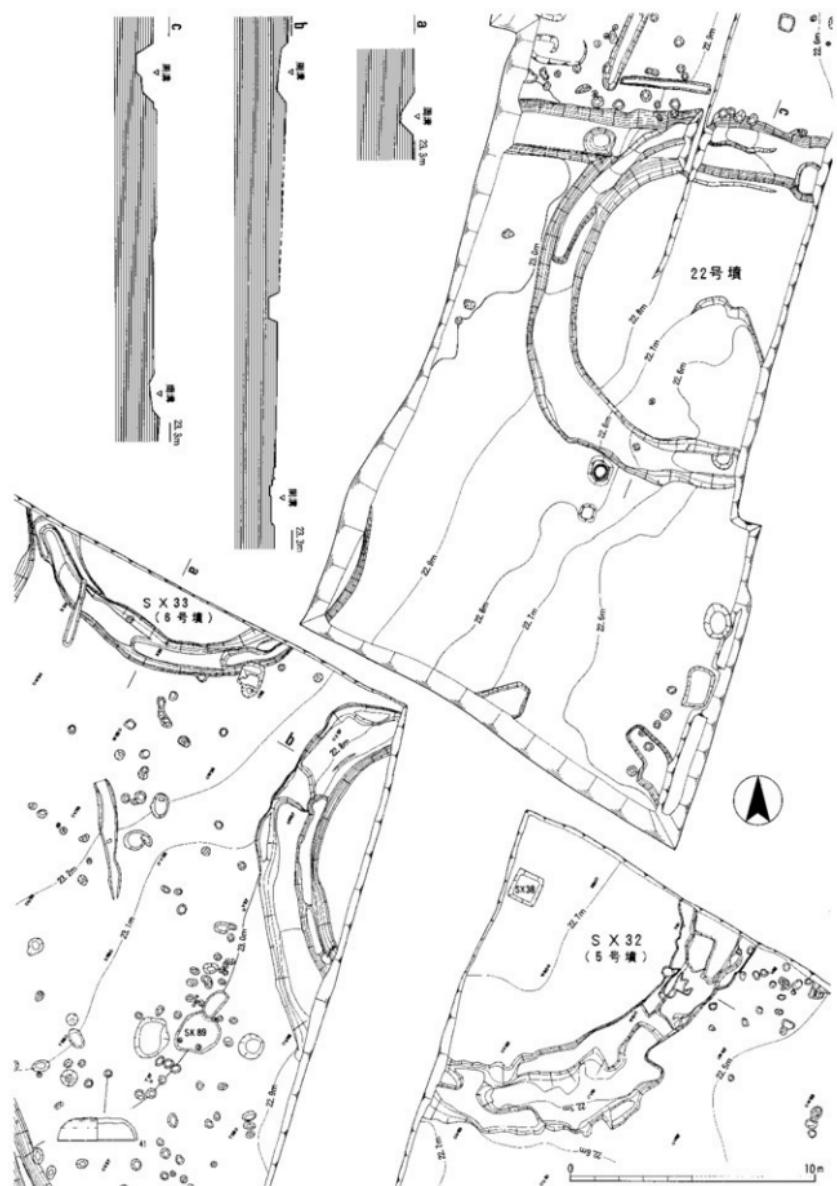
第12図 S X75実測図 (1:100)



第13図 SX 37・61・72・82実測図 (1 : 200)



第14图 SX82实测图 (1:40)



第15図 S X32・33実測図 (1:200)

で検出された周溝である。東側が失われているため墳形はよくわからないが、一辺の長さが6m程度の方墳であろう。周溝は南西側で幅約0.9m、深さ約0.1mである。周溝内から同一個体のものと思われる土師器壺の体部片が8点出土している。この壺の時期は確定しがたく、体部片内外面に施されているハケ目調整から7世紀代あるいは8世紀代のものと推定できるのみである。16号墳の築造時期は、墳形や規模が類似している4号墳・17号墳とはほぼ同じ7世紀前半頃と考えられる。

S X180 (17号墳) (第18・63図) 16号墳の北約8mで検出された方墳である。東側が失われているため規模は確定出来ないが、一辺の長さが6m程度であろうと思われる。周溝は南西側が幅約0.6m、深さ約0.1m、北西側が幅約0.8m、深さ約0.2mである。周溝内から中世の土師器皿の小片1点と古墳時代の須恵器高杯(33・34)が出土している。33・34は同一個体と思われ、II型式6段階(7世紀前半)の特徴をもっている。17号墳の築造時期もそのころであろう。

S X182 (18号墳) (第19図) 調査区の東端で検出された周溝で、一辺が約0.5mの方墳と思われる。周溝は西側が幅約0.8m、深さ約0.3m、南側が幅約1.2m、深さ約0.2mである。遺物は周溝内から中世の土師器皿・小皿・鍋、青磁碗の破片が少量出土したのみで、古墳時代のものは全くみられなかった。

S X186 (19号墳) (第19図) 調査区の東端で検出された周溝で、大部分が調査区外になり、しかもSK187によって大きく疊されている。周溝は幅約1m、深さ約0.3mで、一辺の長さが6.5m以上の方墳と思われる。遺物は周溝内から中世の土師器皿・小皿、山茶碗の破片が少量したが、古墳時代のものはみられなかった。ただし、SK187出土の須恵器杯身(36)は本来19号墳のものであった可能性も考えられる。そうだとすれば、19号墳の築造時期を7世紀前半とすることができます。

S X196 (20号墳) (第18・63図) 3号墳と17号墳の間に位置する径約9mの円墳である。周溝は北西側が幅約1.4m、深さ約0.2m、南側が幅約1m、深さ約0.1mで、東側が途切れている。周溝内から須恵器杯身(35)、中世の土師器小皿・鍋の破片が

少量出土した。35は小型で、立ち上がりが短く、底部にはロクロヘラケズリがみられないことなど、II型式6段階(7世紀前半)の特徴をもつ。20号墳の築造時期もそのころであろう。

S X215 (21号墳) (第17図) 15号墳の西約22mに位置する。長辺の長さ約7.5m、短辺の長さ約6.5mの方墳の周溝と思われるが、出土遺物は中世の土師器皿・小皿・鍋の破片のみである。周溝は北西側が幅約0.8m、深さ約0.3mで、南東側が幅約0.5m、深さ約0.2mである。墳域のはば中央に、あたかも古墳の主体部のような形状のSK229があるが、この土坑からは中世の土師器片が少量出土したのみで、21号墳との関係は不明である。

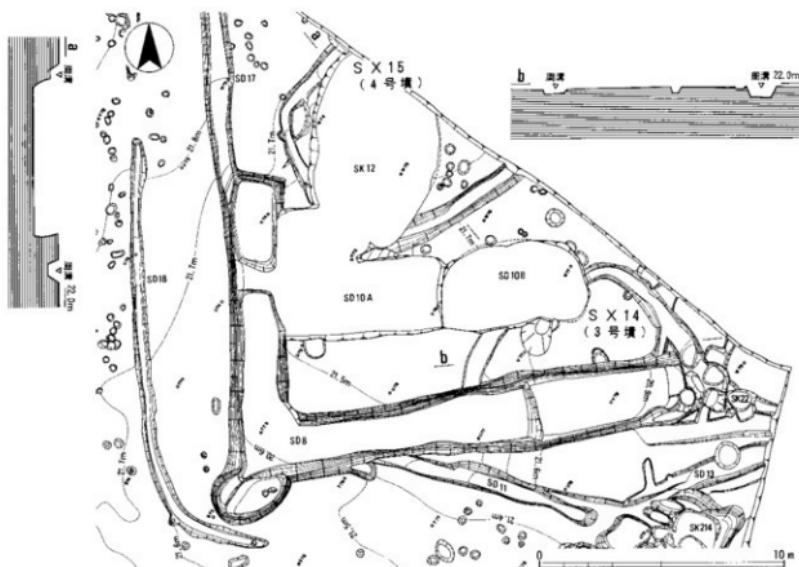
22号墳 (第15図) ケカノ辻・角垣内地区で検出された径約12mの円墳で、5号墳の北北東約10mに位置する。周溝は北側が幅約2.3m、深さ約0.6m、南側が幅約1.8m、深さ約0.2mである。周溝から6世紀初頭と思われる須恵器杯蓋が出土している。

23号墳 ケカノ辻・角垣内地区で検出された円墳で、22号墳の北約5mに位置する。墳丘規模は径7.5m程度と推定される。周溝の幅は約1mで、深さは西側で約0.6m、南側で約0.2mである。周溝から遺物は出土していないが、墳域の北東側を断ち切っている中世の大溝から出土している6世紀前半頃の土師器碗は23号墳のものである可能性が高い。

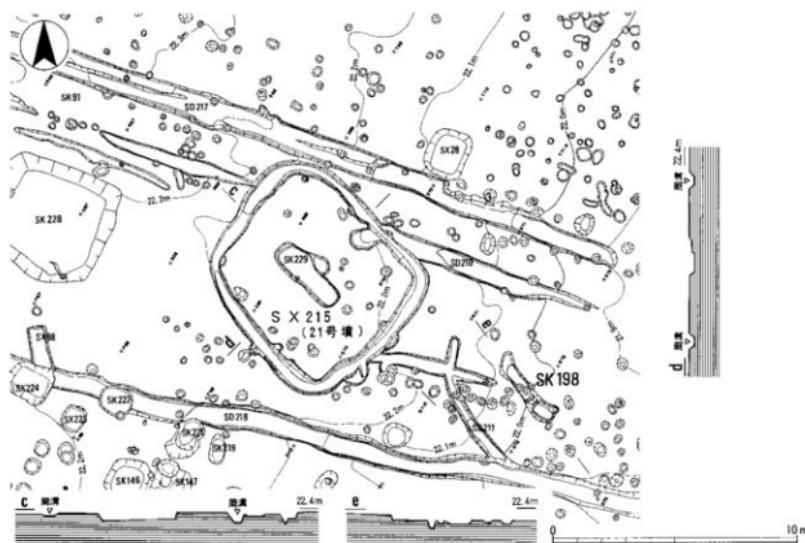
2. その他の遺構と出土遺物

S K187 (第18・63図) 調査区の西端、19号墳と重複する位置にある土坑で、調査区外にものびており全体の形状は不明である。深さは最も深い所で約1mある。II段階6型式(7世紀前半)の須恵器杯身(36)が出土したため古墳時代の遺構としたが、中世の土師器皿・小皿・山茶碗、知多産と渥美産の壺、青磁碗などの破片も出土している。36は19号墳からの混入とも考えられ、SK187は中世の遺構とすべきかもしれない。

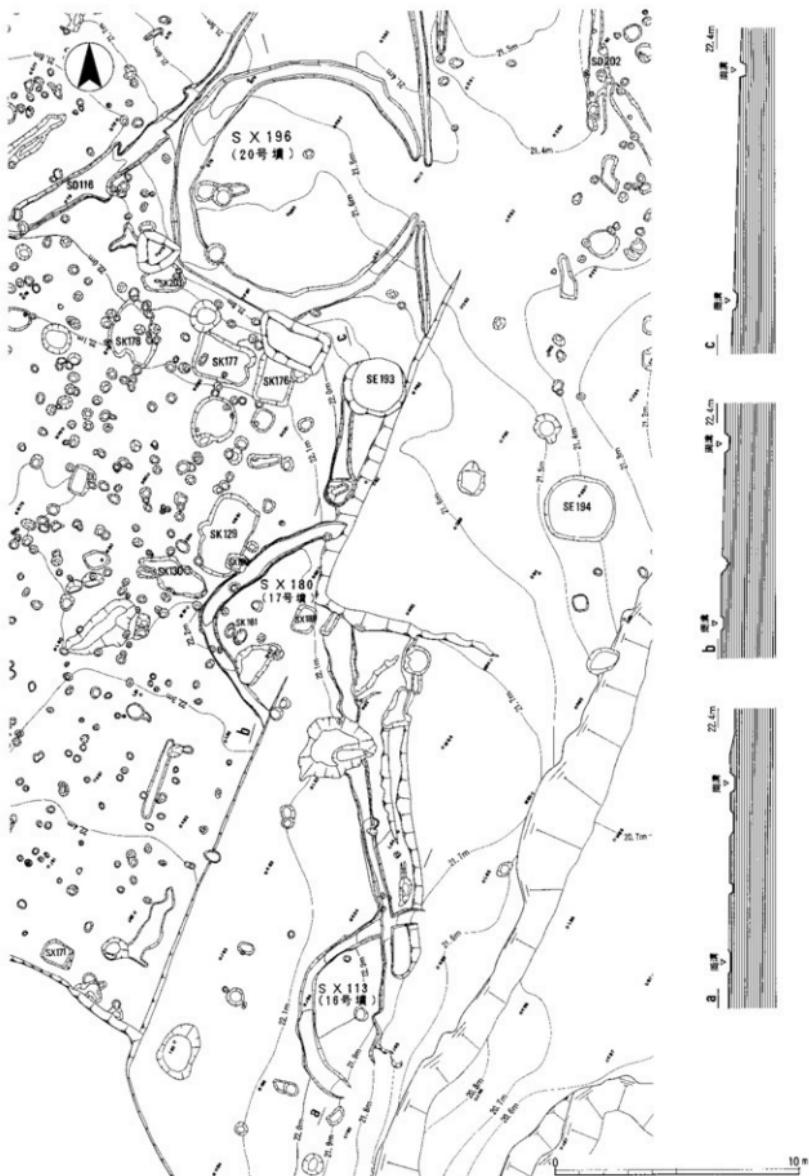
S K198 (第16・63図) 21号墳の南東約4mにある土坑で、長さ約3.3m、幅約0.7mの短い溝状のものである。深さは約0.1mで、かなり浅い。土坑内からはIII型式3段階(7世紀後半)の須恵器杯蓋(37・38)・杯身(39・40)や中世の土師器皿・小皿・



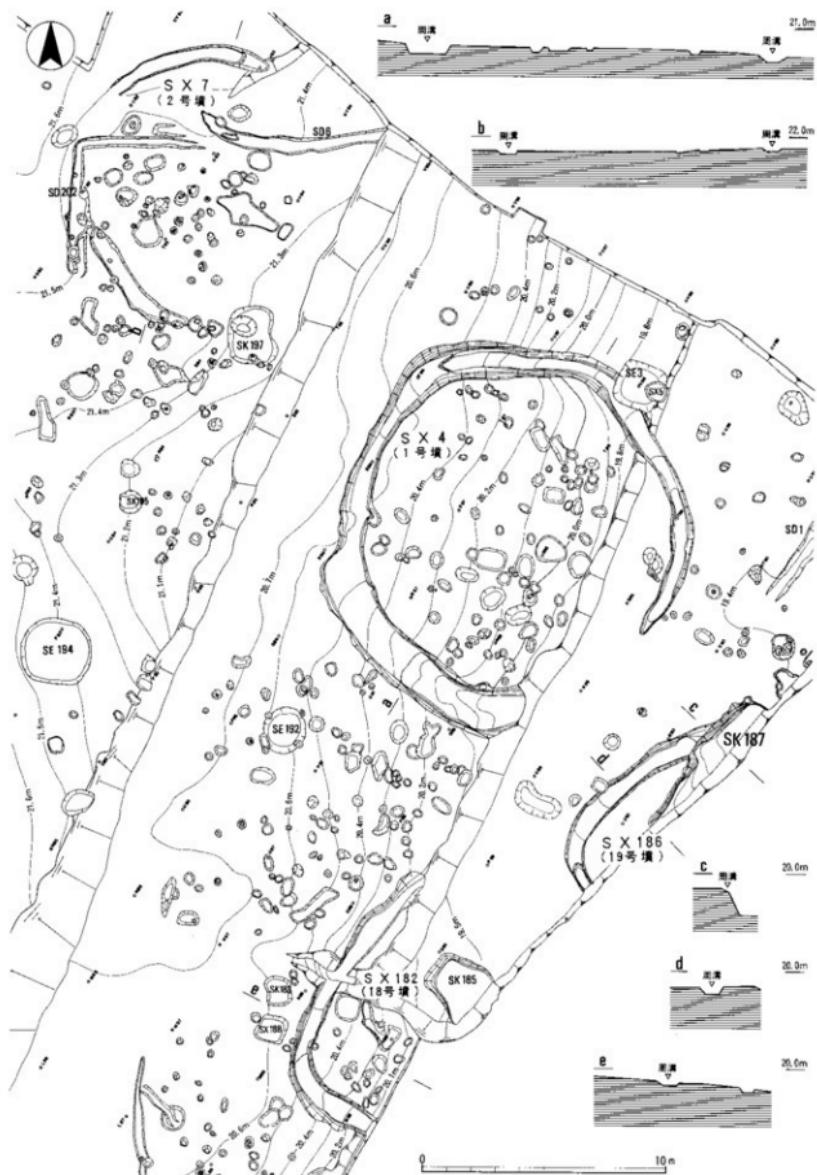
第16図 SX14・15実測図 (1:200)



第17図 SX215実測図 (1:200)



第18図 S X 113・180・196実測図 (1 : 200)



第19図 S X 4・7・182・186実測図 (1 : 200)

遺構名	位 調	外形	規 模	出土遺物(古墳時代の遺物)	時 期	備 考
S X 4 (1号墳)	Q~U 85~89	円 墳	墳丘=径約13m 周溝=幅0~1.8m、深さ0~0.6m	土師器台付壺1・鏡1	6世紀初頭	
S X 7 (2号墳)	S~V 81~83	円 墳	墳丘=径約10.5m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.1m	—	—	
S X 14 (3号墳)	U~W 76~79	方 墳	墳丘=一辺約7.5m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	—	7世紀前半?	
S X 15 (4号墳)	V~W 73~76	方 墳	墳丘=一辺約5.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.4m	須恵器杯身1・杯蓋2・高杯1・壺1 土師器ミニチュア鉢1	7世紀前半	調査区外にのびる
S X 32 (5号墳)	U~Y 56~61	円 墳	墳丘=東西約15.5m、南北約14m 周溝=幅0~3.0m、深さ0~0.4m	須恵器杯身1・杯蓋1・鏡1・壺1 土師器ミニチュア高杯3	6世紀後半	調査区外とケカノ辻・角姫内地區にのびる
S X 33 (6号墳)	W~Z 53~56	円 墳	墳丘=径約11m 周溝=幅0~1.5m、深さ0~0.4m	—	—	調査区外とケカノ辻・角姫内地區にのびる
S X 37 (7号墳)	U~X 44~48	円 墳	墳丘=径約11.5m 周溝=幅1.0~2.0m、深さ0.3~0.7m	須恵器杯蓋2・壺1・壺1 土師器壺1	6世紀前半	調査区外にのびる
S X 49 (8号墳)	U~W 37~39	円 墳	墳丘=径約8m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.3m	—	—	
S X 53 (9号墳)	Q~T 35~38	円 墳	墳丘=東西約10m、南北約11m 周溝=幅0.5~1.8m、深さ0.3~0.5m	土師器鏡2・壺2	6世紀	
S X 60 (10号墳)	T~V 41~42	円 墳	墳丘=径約9m 周溝=幅0~0.5m、深さ0~0.1m	—	—	
S X 61 (11号墳)	Q~T 44~46	円 墳	墳丘=径約9.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.4m	土師器鏡1	5世紀末葉 ~6世紀前半	
S X 72 (12号墳)	R~U 47~50	円 墳	墳丘=径約11m 周溝=幅0~1.5m、深さ0~0.5m	須恵器高杯1 土師器鏡1・台付壺1	6世紀中頃	
S X 75 (13号墳)	P~R 43~44	不 明	—	—	—	横穴式石室の石材抜き取り痕と推定
S X 82 (14号墳)	O~P 51~52	不 明	石室=玄室長約5.0m、玄室幅約1.5m	須恵器杯蓋1	6世紀末葉 ~7世紀初頭	
S X 95 (15号墳)	T~V 35~37	円 墳	墳丘=径約7m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	—	—	
S X 113 (16号墳)	I~K 83~84	方 墳?	墳丘=一辺約6m 周溝=幅0~0.9m、深さ0~0.1m	土師器壺1	7世紀前半?	
S X 180 (17号墳)	L~N 81~82	方 墳	墳丘=一辺約6m 周溝=幅0~0.8m、深さ0~0.2m	須恵器高杯1	7世紀前半	
S X 182 (18号墳)	L~O 88~89	方 墳	墳丘=一辺約9.5m 周溝=幅0~1.2m、深さ0~0.3m	—	—	調査区外にのびる
S X 186 (19号墳)	P~R 89~90	方 墳?	墳丘=一辺約5m以上 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.3m	須恵器杯身?	7世紀前半?	調査区外にのびる
S X 196 (20号墳)	0~R 78~81	円 墳	墳丘=径約9m 周溝=幅0~1.4m、深さ0~0.2m	須恵器杯身1	7世紀前半	
S X 215 (21号墳)	P~R 68~70	方 墳	墳丘=長辺7.5m、短辺6.5m 周溝=幅0.5~0.8m、深さ0.1~0.3m	—	—	
22号墳	ケカノ辻・ 角姫内地區	円 墳	墳丘=径約12m 周溝=幅1.7~2.3m、深さ0.2~0.6m	須恵器杯蓋	6世紀初頭	調査区外にのびる
23号墳	ケカノ辻・ 角姫内地區	円 墳	墳丘=径約7.5m 周溝=幅0~1.0m、深さ0~0.6m	土師器壺?	6世紀前半?	調査区外にのびる

第3表 古 墳 一 覧

鍋の小片などが出土している。

S 56 ピット 1 (第14・63図) 円形のピットで、径約0.3m、深さ約0.1mである。出土遺物は II 型式 5段階（6世紀末葉～7世紀初頭）の須恵器杯蓋(41)のみである。近くに関連すると思われる遺構ではなく、このピットの性格は不明である。

3. 中世遺構出土の遺物（第63図）

中世の遺構から、整理用コンテナに約1箱の古墳時代の土器が出土している。S X38出土のものは5号墳の記述中に触れたので、ここでは除く。

S D 8 須恵器杯蓋天井部？片1点・壺頸部？片1点・壺体部片11点（数個体）。

S D 10A 須恵器瓶？体部片5点・壺体部片3点。

S D 10B 須恵器壺？体部片1点・壺頸部片1点・壺体部片4点（2個体）。

S K 12 須恵器壺口頸部片1点。

S X 28 須恵器提瓶？口縁部片1点。

S D 36 II型式2段階（6世紀中頃）の須恵器杯身2点（42・43）。

S X 40 須恵器壺底部片1点。

S K 45 乘馬石製錘車1点（44）。5世紀末葉以前のものであろう。

S X 67 須恵器甕？片1点。

S X 78 6世紀中頃の須恵器杯蓋片1点。

S K 122 須恵器壺片2点（2個体）。

S X 149 須恵器壺体部片25点（同一個体）。

S X 151 須恵器壺体部片16点（同一個体）。

S E 193 6世紀代の須恵器杯蓋天井部片1点・杯身口縁部片1点・高杯脚部片1点・壺体部片2点（同一個体）。

4. 包含層出土の遺物（第63図）

土師器と須恵器が出土している。量は少ない。

Q 21 土師器壺1点（50）。

V 53 須恵器杯身片2点。

V 54 須恵器杯身片1点。

O 76 III型式3段階（7世紀後半）の須恵器長頸壺頸部1点（48）。

U 77 II型式6段階（7世紀前半）の須恵器杯身口縁部片1点。

Q 78 II型式5段階～II型式6段階（6世紀末葉～7世紀前半）の須恵器高杯脚部1点（46）。

T 78 II型式4段階（6世紀後半）の須恵器高杯柱状部1点（47）。

T 79 須恵器蓋1点（45）。6世紀代の有蓋高杯の蓋であろう。

Q 84 土師器ミニチュア高杯1点（49）。中世のものとも考えられる。

T 89 同一個体の須恵器壺体部片2点。

S 89 須恵器壺体部片1点。

4. 中世の遺構と遺物

今回の調査区からは2,000を越えるピットや300近い土坑・溝等の遺構が検出されている。その中で異なる程度性格あるいは時期が推測できる227の遺構に遺構番号を付した。そのうち古墳時代のものを除く204が中世のものと考えられる。中世の遺構には掘立柱建物45棟、櫛1条、井戸12基、中世墓40基、土坑70基、溝33条、道路2条、乗馬石遺構1基がある。

遺構の時期は蚊山遺跡左郡地区I期（12世紀中葉～13世紀初頭）、II期（13世紀前葉～中葉）、III期（13世紀後葉～14世紀前葉）、IV期（14世紀中葉～15世紀中葉）に分けた。その基準についてはVI章で述べる。

中世の遺物は、整理用コンテナに約320箱出土している。ほとんどが在地産の土師器類と渥美・知多・猿投・瀬戸産の陶器類で、13世紀代のものが最も多くみられる。中世陶器については、瀬戸産と思われるものは藤澤良祐氏の瀬戸編年⁹、知多産と思われるものは中野晴久氏の知多編年⁹、渥美産と思われるものは斎藤孝正氏の渥美編年⁹を参考にし、在地産の土師器鍋については伊藤裕作氏の型式分類に従った。また、貿易陶磁については龜井明徳氏の指導⁹をうけた。なお、土師器皿・小皿の分類については、IV章を参照していただきたい。

1. 捩立柱建物

今回の調査では45棟の撪立柱建物が確認された。そのほとんどは東柱をもつ建物で、柱穴が基盤目状に並んでいる。このような建物跡は、庇の有無や配置をどう想定するかによって身舎の規模や棟方向が数通り考えられる場合が往々にしてある。^⑦ここでは庇の有無について敢えてこだわらなかった。

なお、柱間の長さは、鎌倉時代に普及していたと考えられる曲尺（1尺=約30.3cm）で測り、建物面積は便宜的に坪（1坪=6尺平方）で表した。

S B 2（第20・63図） 調査区の西端近くに位置する。西から1列目柱列の柱掘形が小さく浅いことからここを庇と考える。桁行4間（南から6.5尺+5.75尺×2+8尺=26尺）×梁行3間（東から8尺+6.5尺×2=21尺）の身舎の西面に3間（南から5.75尺×2+8尺=19.5尺）×1間（8尺）の庇が付く南北棟（棟方向N 2° W、身舎面積約15.2坪、総面積19.5坪）である。確認された23か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。遺物は庇の柱掘形から出土した土師器小皿C（51）と皿C（52）の2点のみである。52は口径が12cm前後でB₂に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B 9（第21・63図） S B 2の南東約20mに位置する。南西隅の柱位置が確認できなかったのは古墳の周溝上にあたるため見逃したか、既に削平されていたためと思われる。桁行3間（東から7尺+6.5尺×2=20尺）×梁行2間（6尺×2=12尺）の東西棟（棟方向N 84° E、面積約6.7坪）であろう。確認された11か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。東面中央の柱掘形から土師器小皿B₁・皿B₂（53）、東から2列目柱列中央の柱掘形から土師器小皿C・皿B₃（54）が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

S B 16（第21図） S B 9と一部重複している。東面と西面の中央の柱位置が確認されなかつたが、桁行2間（6尺×2=12尺）×梁行2間（5.25尺×2=10.5尺）の東西棟（棟方向N 87° E、面積3.5坪）と思われる。確認された7か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は決め難いがⅢ期かⅣ期の建物と思われる。

S B 19（第21図） S B 16のすぐ北側に位置して

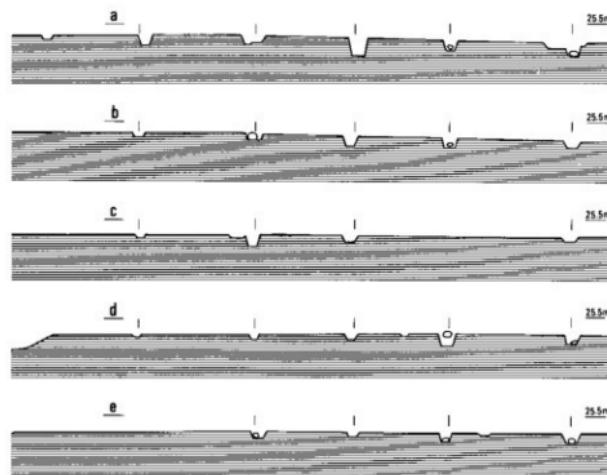
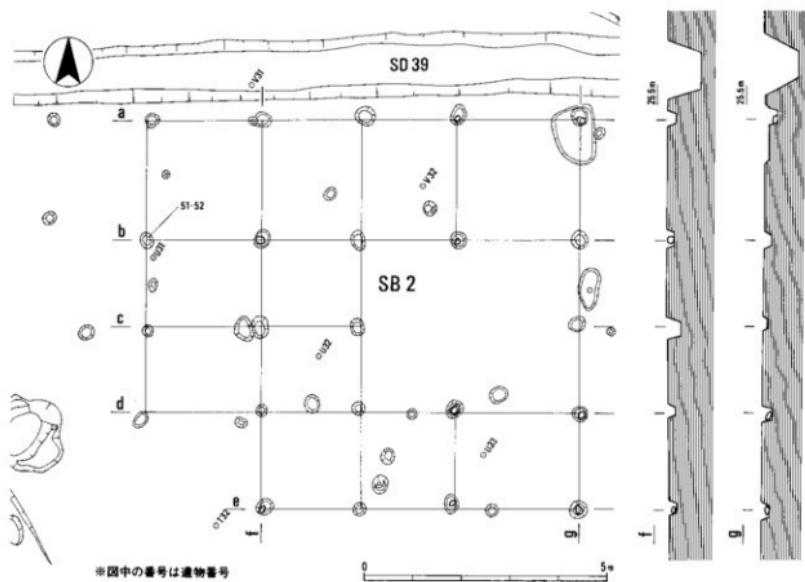
いる。柱位置が3か所確認されなかつたため建物の設定にはやや無理があるが、このあたりには根石らしき石をもつピットがいくつかみられることから、何らかの建物が存在していたことは確かである。ここでは桁行2間（6.5尺×2=13尺）×梁行2間（5.25尺×2=10.5尺）の東西棟（棟方向N 85° E、面積約3.8坪）としておく。確認された5か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。建物中央の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋の小片が出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B 20（第22図） 調査区の中央からやや東に寄った所に位置する。南面がS D217により攪乱されており、東面の柱列も不確かである。ここでは桁行4間（6.5尺×4=26尺）×梁行2間（6.25尺×2=12.5尺）の南北棟（棟方向N 19° E、面積約9坪）としておく。確認された10か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。出土遺物はないが、北から2列目柱列中央の柱掘形が切り勝っているピットから土師器小皿B₁・皿B₂が出土していることから、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

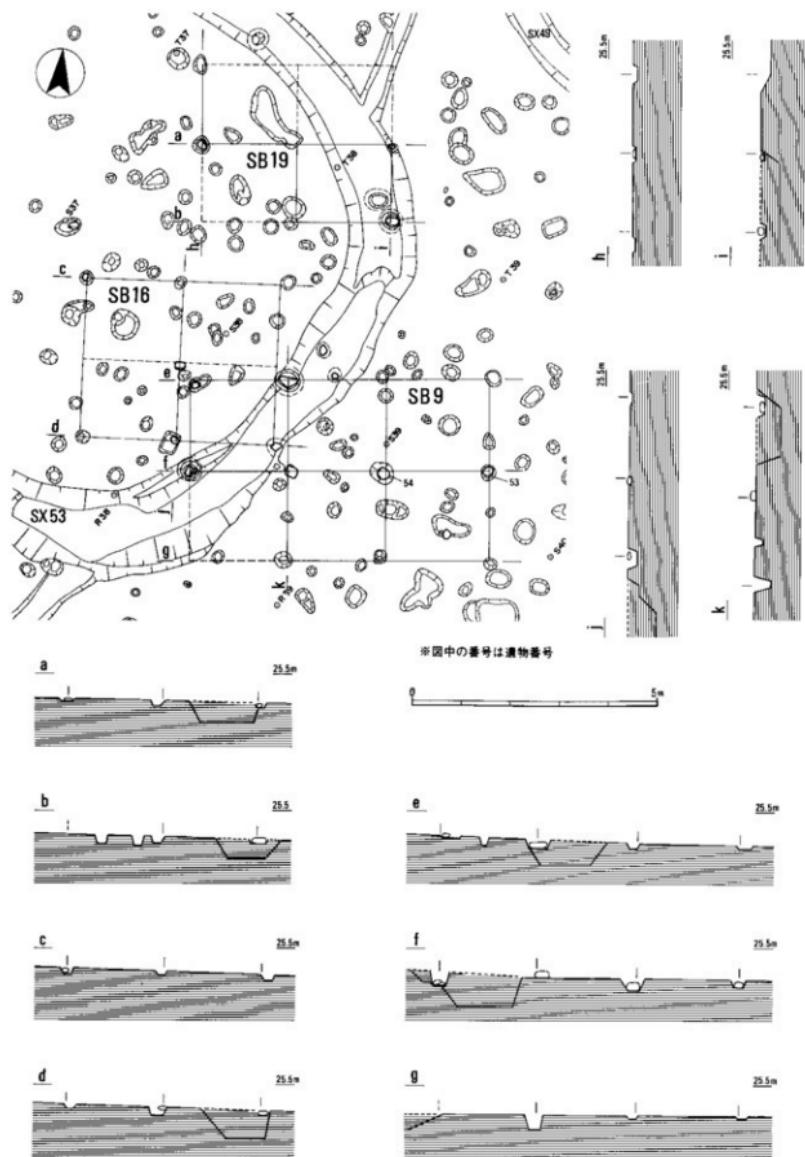
S B 21（第22図） S B 20の南東約3mに位置する。西面中央の柱穴はS D217によって削り取られている。桁行2間（7尺×2=14尺）×梁行2間（南から6.5尺+6尺=12.5尺）の東西棟（棟方向N 81° W、面積約4.9坪）である。確認された8か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。北面東端の柱掘形から土師器小皿C・皿C、北面中央の柱掘形から土師器皿B₁・鍋が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

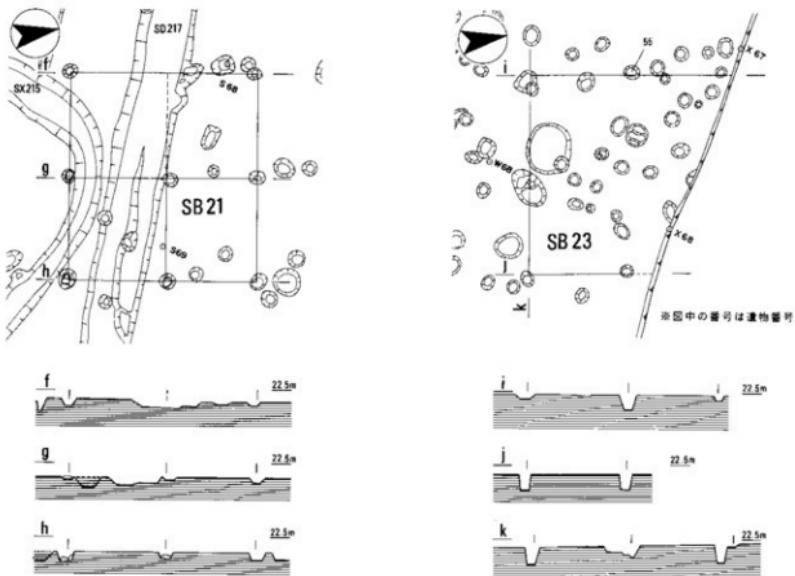
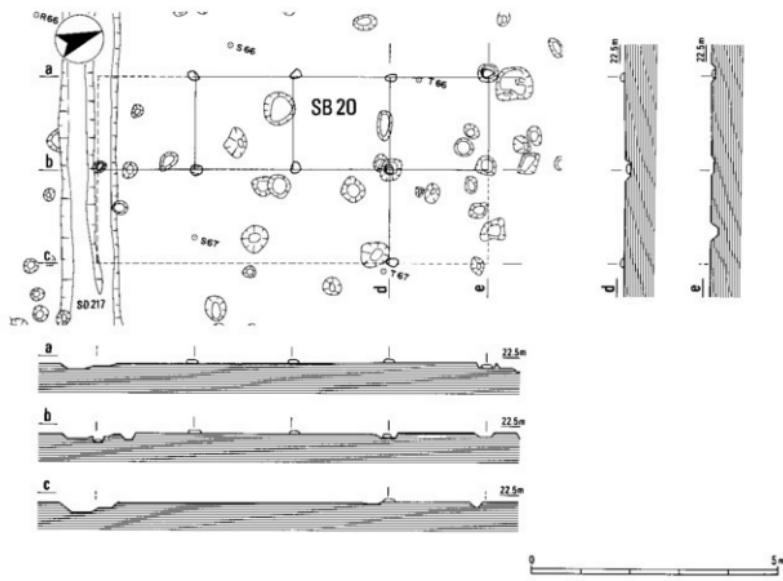
S B 23（第22・63図） S B 20の北東約10mに位置する。調査区外へのびるため、西面2間（6.5尺×2）、東面1間（6.5尺）、南面2間（東から6尺+7尺=13尺）しかわからない。2間以上×2間の南北棟（棟方向N 8° E）と思われる。東柱はなく根石もみられない。西面南から2番目の柱掘形から土師器皿B₁（55）・鍋、渥美産の山茶碗が出土している。I期の建物であろう。

S B 24（第23・63図） S B 21の東約5mに位置する。東柱をもつ建物であるが根石はみられない。桁行3間（6尺×3=18尺）×梁行2間（7.5尺×2=15尺）の身舎の北面に1間（5尺）×1間（7.5

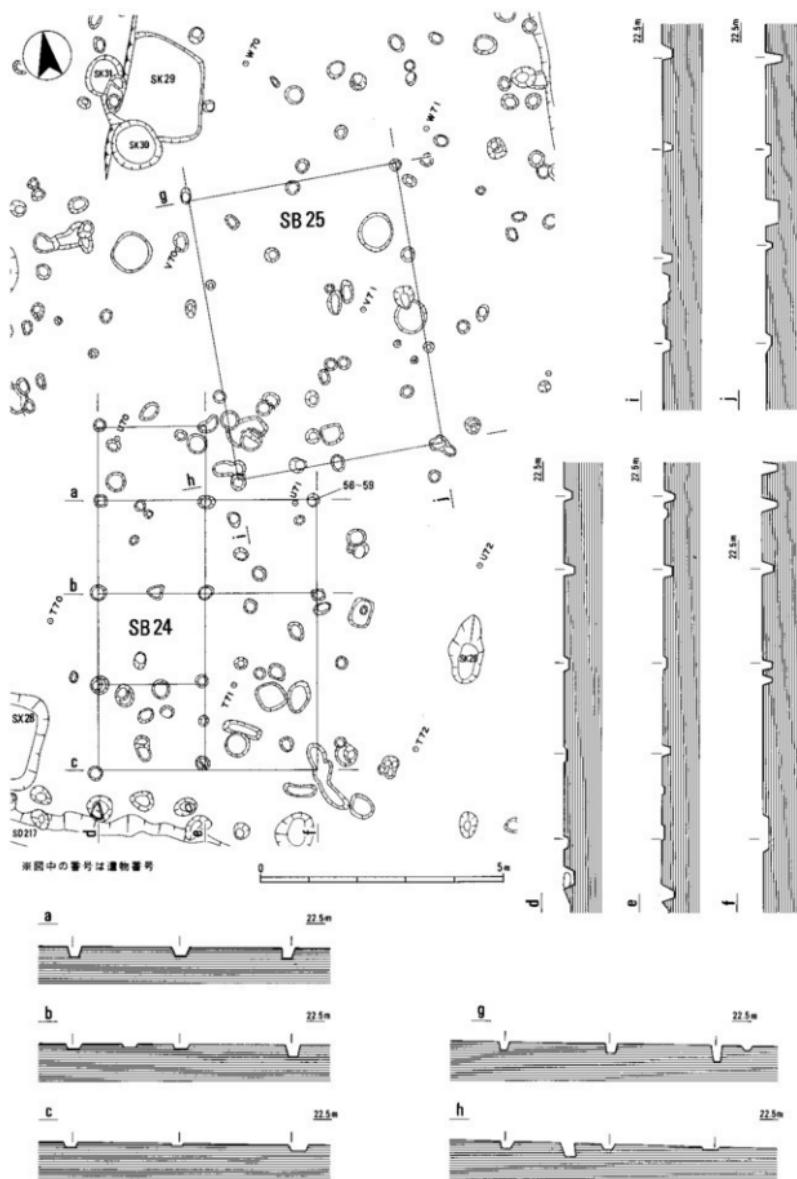


第20図 SB 2 実測図 (1:100)





第22図 SB 20・21・23実測図 (1 : 100)



第23図 S B24・25実測図 (1 : 100)

尺) の庇をもつ南北棟(棟方向N 9° E、身舎面積7.5坪、総面積約8.5坪)である。東面北端の柱掘形から土師器小皿B₁(57~59)・皿B₂(56)・鍋、南面中央の柱掘形から土師器皿B₁、南から2列目柱列中央の柱掘形から土師器小皿B₂が出土している。

I期の建物と思われる。

S B25(第23図) S B24と接するような位置にある。桁行3間(東面は南から6.5尺×2+6尺=19尺、西面は南から5.5尺+7.5尺+6尺=19尺)×梁行2間(7尺×2=14尺)の南北棟(棟方向N 0° E、面積約7.4坪)である。出土遺物がないため時期は不確定であるが、東柱がなく根石もみられないことから、I期の可能性が考えられる。

S B27(第24・63図) S B24の南約2mに位置する。東柱をもつが根石はみられない。桁行4間(5.75尺×4=23尺)×梁行3間(6.5尺×3=19.5尺)の東西棟(棟方向N 77° W、面積約12.5坪)である。南面東から2番目の柱掘形から渥美編年で12世紀後葉から末葉とされる山茶椀(63)、南から2列目柱列東端の柱掘形から土師器小皿B₁(60)・皿B₂(61)・器台(64)、南から2列目柱列の中央柱掘形から土師器皿B₁・鍋頸部、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶椀(62)が出土している。I期の建物と思われる。

S B34(第24図) S B27と一部重複する。北から3列目の柱列はS D218により全て削り取られて消滅している。桁行3間(東から8尺+7尺×2=22尺)×梁行3間(6.5尺×3=19.5尺)の身舎の南面に2間(7尺×2=14尺)×1間(6.5尺)の庇が付く東西棟(棟方向N 89° W、身舎面積約11.9坪、総面積約14.5坪)であろう。確認された15か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。北面西から2番目の柱掘形から土師器皿B₂が出土している。II期の建物と思われる。

S B51(第25・63図) S B2の南東約50mに位置する。北東隅が調査区外にのびると思われる。南北方向の柱列の内、中央のものが全く検出されなかつたが、桁行4間(東から5.5尺+6尺×2+6.5尺=24尺)×梁行3間(6尺×3=18尺)の東西棟(棟方向N 89° W、面積約12坪)とする。確認された15か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。南面

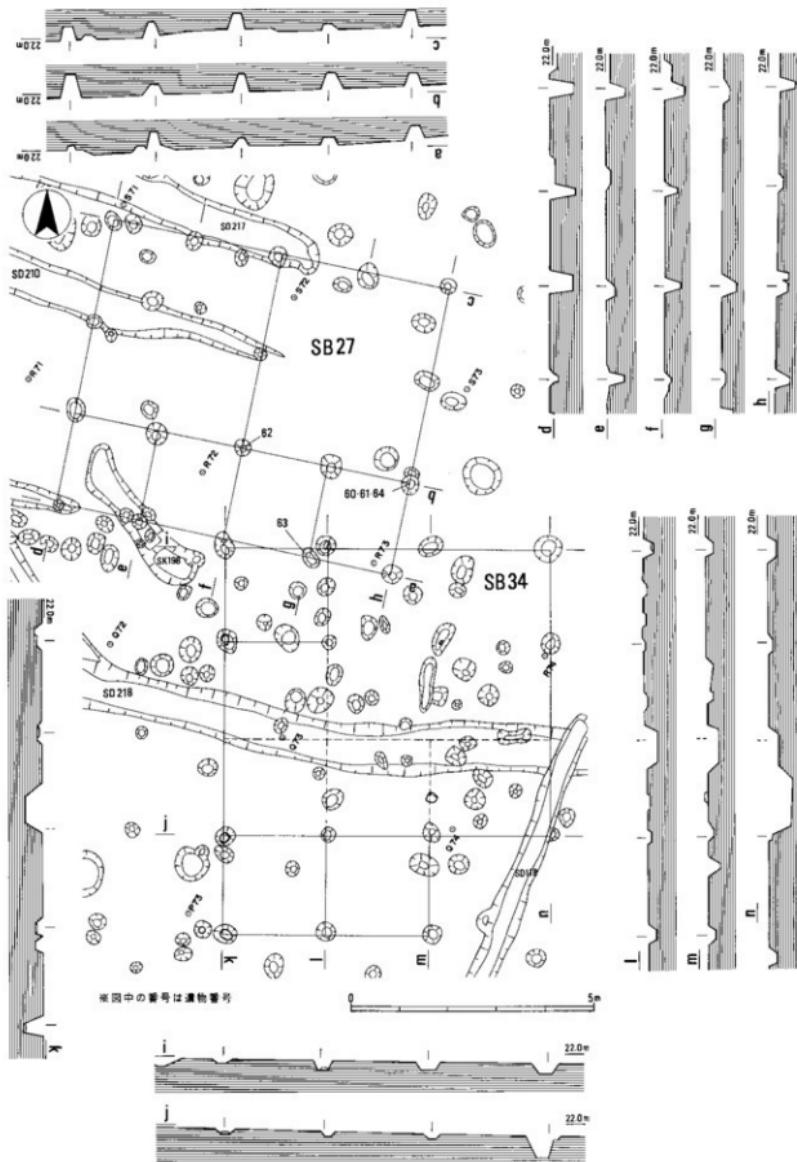
東から2番目の柱掘形としたピットからは土師器小皿B₂・皿B₂(66)が、このピットの東に隣接するピットからも土師器小皿B₂・皿B₂が出土している。どちらのピットがS B51のものか決め難いが、いずれにしろほぼ同時期のピットである。また、西から2列目柱列北から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂(65)・鍋体部片、他の2か所の柱掘形から土師器小皿B₂・皿B₂が出土している。II期の建物と思われる。

S B54(第25・63図) 南東側でS B51と重複する。柱が3か所欠けているのは、古墳の周溝上にあたるため見逃してしまったと思われる。桁行4間(6尺×4=24尺)×梁行3間(7尺×3=21尺)の南北棟(棟方向N 3° E、面積14坪)である。確認された17か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。西面中央の柱掘形から土師器小皿C(67)、北面東から2番目と3番目の柱掘形からB₂またはCと思われる土師器小皿が出土している。III期の建物と思われる。

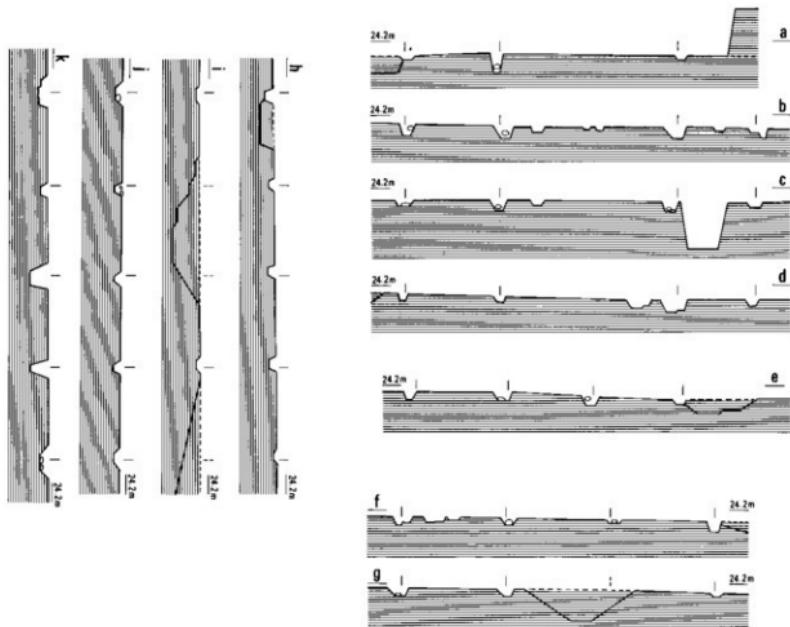
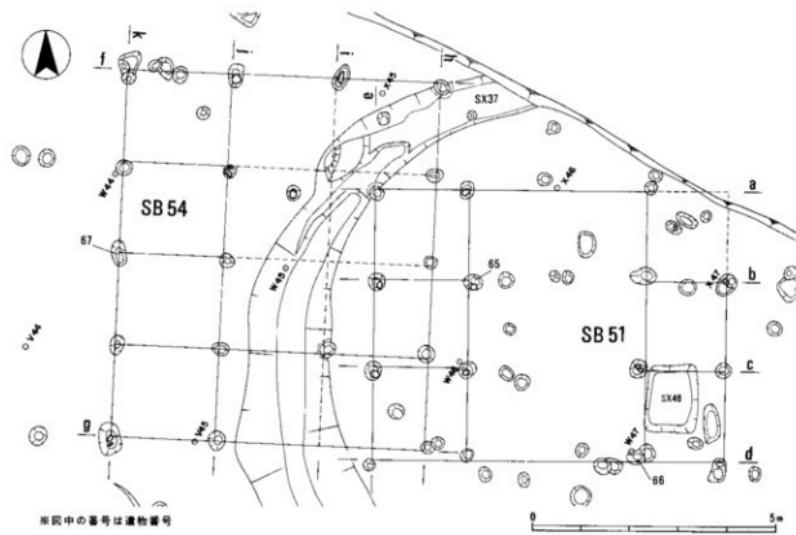
S B68(第26図) S B54の南西に位置する。桁行3間(6尺×3=18尺)×梁行3間(東から5尺+6尺+6尺=17尺)の南北棟(棟方向N 3° E、面積8.5坪)である。東柱はない。確認された15か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。出土遺物は全くない。S B68の北面柱列とS B54の南面柱列とは5尺の間をおいて一直線上に並ぶことから、両者は強い結びつきをもって同時期に存在していた可能性が高い。III期の建物であろう。

S B74(第26図) S B68の南東約30mに位置する。桁行2間(東面は南から7尺+6.5尺=13.5尺、西面は7尺×2=14尺)×梁行2間(北面は5尺×2=10尺、南面は東から4.5尺+5.5尺=10尺)の南北棟(棟方向N 15° E、面積約3.8坪)である。確認された8か所の柱位置のうち7か所に根石が残っていた。出土遺物は全くない。S B74の南面柱列とS B76の北面柱列とがほぼ一直線上に並ぶことから、S B76と同時に存在していた建物と思われる。

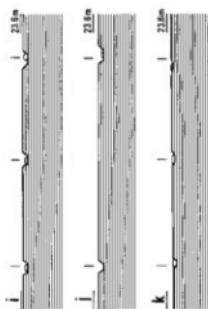
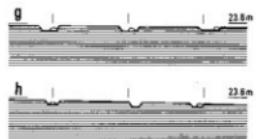
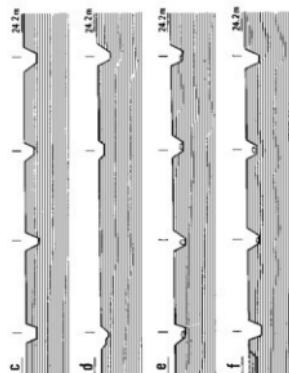
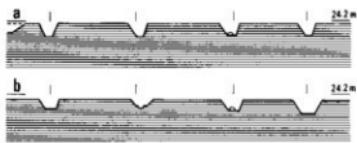
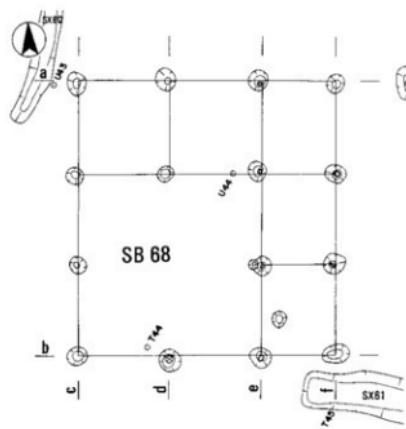
S B76(第27・63図) S B74の南東約5mに位置する。西から2列目の柱列はS D35Bに削り取られて消滅している。桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行3間(5尺×3=15尺)の東西棟(棟方向N



第24図 SB27・34実測図 (1:100)



第25図 SB51・54実測図 (1:100)



第26図 SB 68・74実際図 (1:100)

75°W、面積約8.1坪)である。確認された12か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。西面北から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂・皿B₂・伊藤分類第1段階b型式の鍋(74)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀、西面北から3番目の柱掘形から青磁椀、東面北端の柱掘形から土師器小皿B₁(70)・皿B₂・鍋、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶椀(76)、東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿B₁(71)・皿C・伊藤分類第2段階a型式かb型式の鍋(73)、東から2列目柱列北から2番目の柱掘形から土師器小皿B₁(68・69)・小皿C・皿B₁(72)・皿C・知多編年第4型式か第5型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の山茶椀(75)、東から2列目柱列北から3番目の柱掘形から土師器小皿C・皿Cが出土している。柱掘形の切り合い関係からS B93より古いことがわかる。Ⅱ期の建物と思われる。

S B85(第27・64図) S B76と一部重複する。桁行3間(5尺×3=15尺)×梁行2間(6.5尺×2=13尺)の南北棟(棟方向N14°E、面積約5.4坪)であるが、西側へさらに1間のびていた可能性も考えられる。もしそうだとすれば桁行3間(6.5尺×3=19.5尺)×梁行3間(5尺×3=15尺)の東西棟(棟方向N76°W、面積約8.1坪)となり、S B76と全く同じ規模、ほとんど同じ棟方向となる。確認された11か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C(77)・皿C・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式の鍋、西面北から3番目の柱掘形から土師器皿C(78)、他の2か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。78は口径が12cm前後でB₂に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B93(第28・64図) S B76・S B85と一部重複する。桁行3間(5.5尺×3=16.5尺)×梁行3間(南から4尺+5尺×2=14尺)の東西棟(棟方向N76°W、面積約6.4坪)である。根石は1か所で確認された。東面北端の柱掘形から土師器小皿C・皿C(79)、西面北から2番目の柱掘形から土師器皿C(80)・鍋(81)、他の3か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。柱掘形の切り合い関係からS B76・S B98より新しいことがわかる。

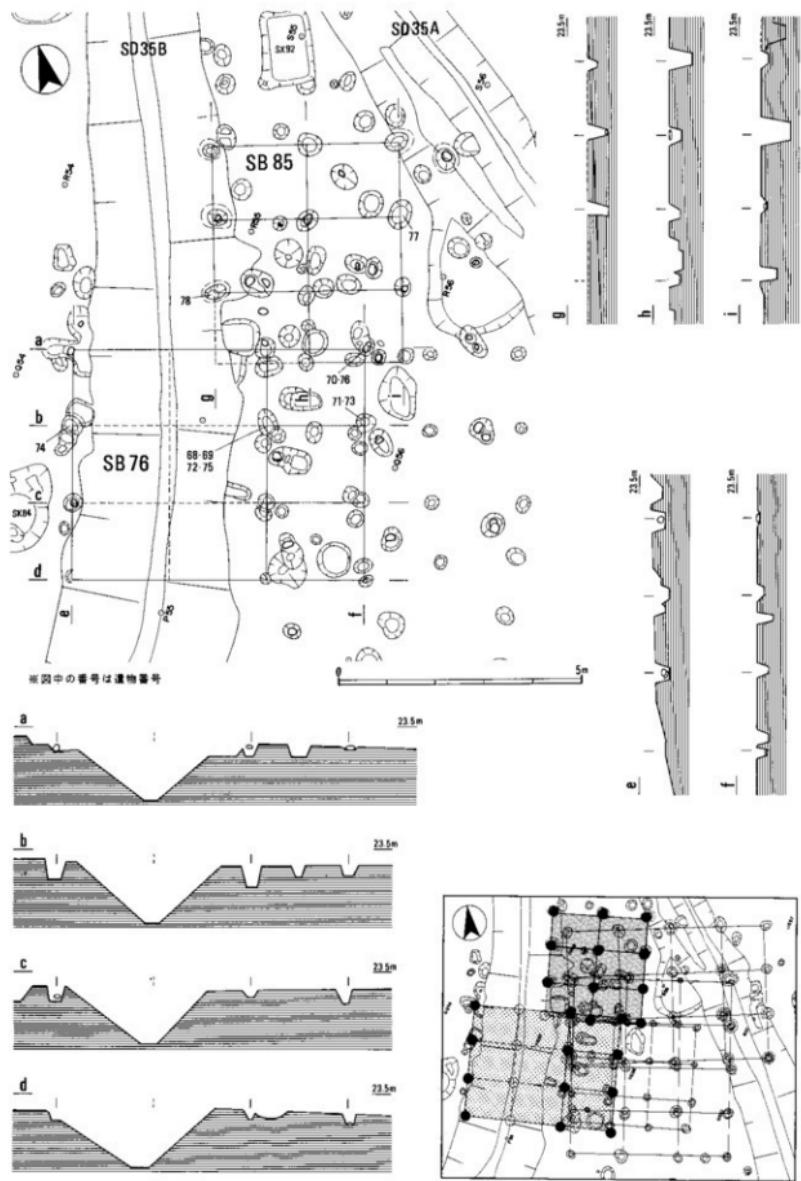
る。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

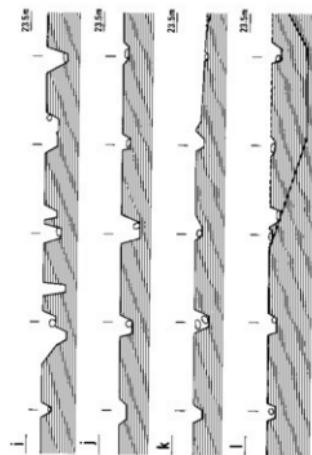
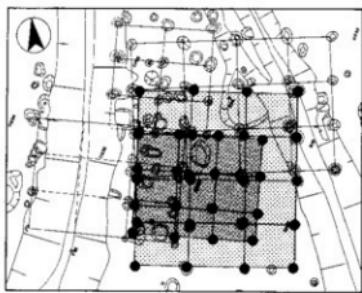
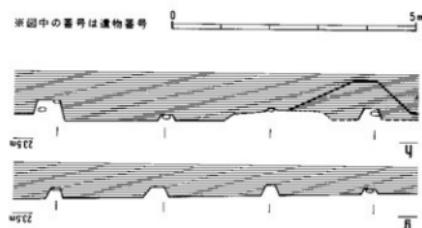
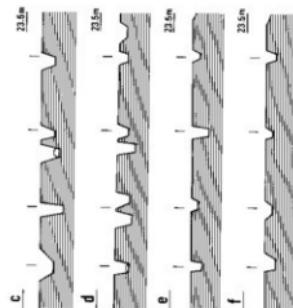
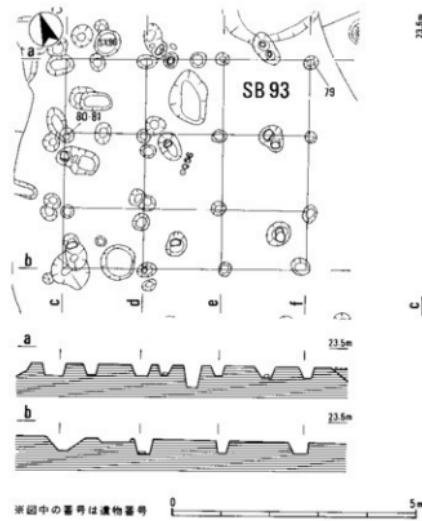
S B97(第28・64図) S B76・S B85・S B93と重複する。桁行4間(6尺×4=24尺)×梁行3間(7尺×3=21尺)の南北棟(棟方向N10°E、面積14坪)である。確認された20か所の柱位置のうち17か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器皿C(82)、知多編年第5型式か第6型式(13世紀中葉～後葉)の山茶椀(84)、東から2列目柱列南から2番目の柱掘形から土師器皿C・伊藤分類第2段階b型式の鍋(83)、他の3か所の柱掘形から土師器小皿C・皿C・鍋が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

S B98(第29・64図) S B76・S B85・S B93 S B97と重複する。桁行4間(東から6尺+7尺×3尺=27尺)×梁行3間(6尺×3=18尺)の東西棟(棟方向N83°W、面積13.5坪)である。確認された20か所の柱位置のうち13か所に根石が残っていた。北面東から2番目の柱掘形から土師器小皿B₁(85～87)・皿B₁(88～91)・鍋、渥美産と思われる山茶椀部片が出土しているが、S D35Aの遺物が混入している可能性が高い。柱掘形の切り合い関係からS B93・S B97より古く、S D35Aより新しいことがわかる。Ⅱ期の建物と思われる。

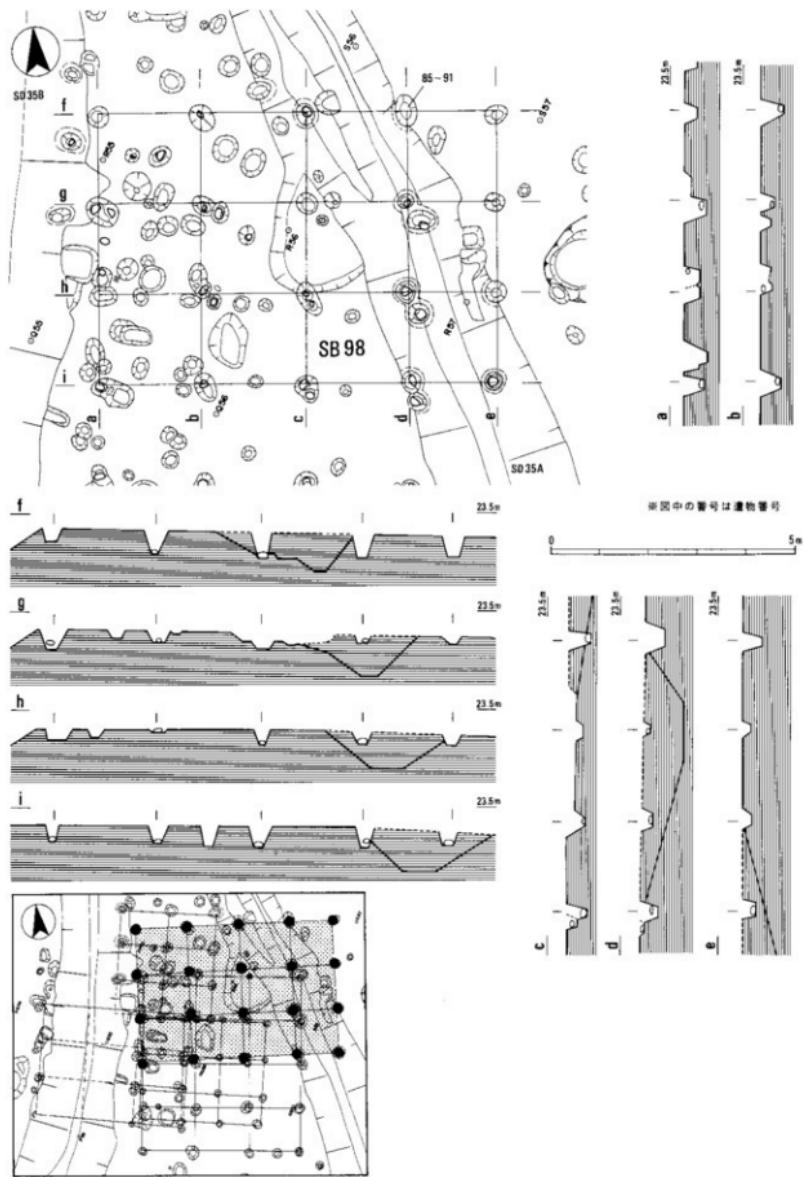
S B100(第30図) 調査区の東より部分に位置する。東柱をもたず根石もみられない。桁行3間(東から7尺+5.5尺+4.5尺=17尺)×梁行2間(5.75尺×2=11.5尺)の東西棟(棟方向N59°W、面積約5.4坪)である。出土遺物は全くない。柱掘形の切り合い関係からS B125より古いことがわかる。Ⅰ期の建物と思われる。

S B112(第30・64図) S B100と重複する。南東側の柱位置が2か所確認されていないが、桁行3間(東から7尺×2+6尺=20尺)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N69°W、面積約5.6坪)とする。根石は1か所で確認された。西面中央の柱掘形から土師器皿B₁(92)、西から2列目柱列中央の柱掘形から知多編年第4型式か第5型式(12世紀末葉～13世紀前葉)の片口鉢、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂・皿B₂・知多編年第5型式(13世紀前葉)の片口鉢が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

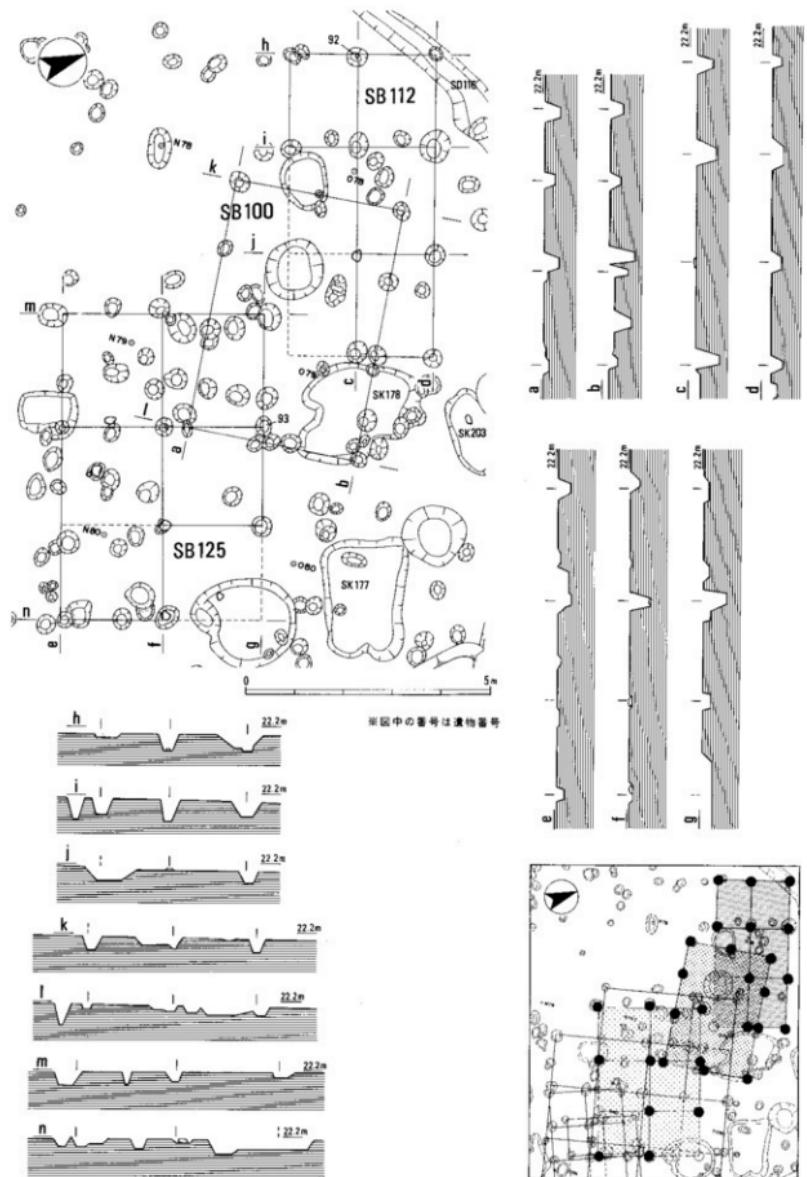




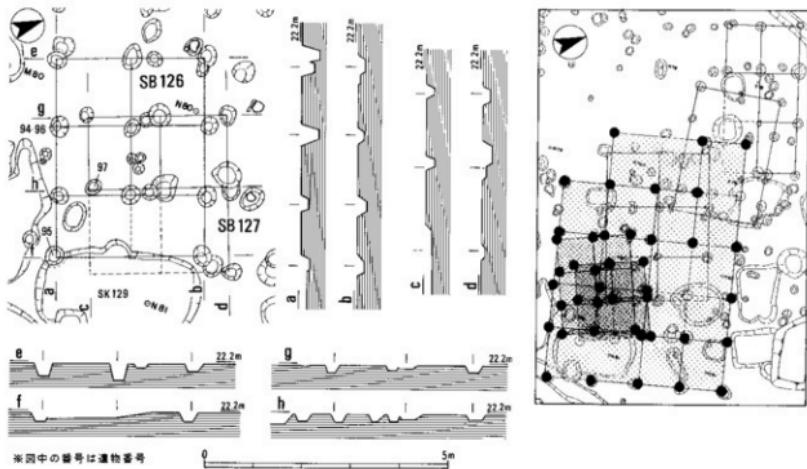
第28図 SB 93・97実測図 (1 : 100)



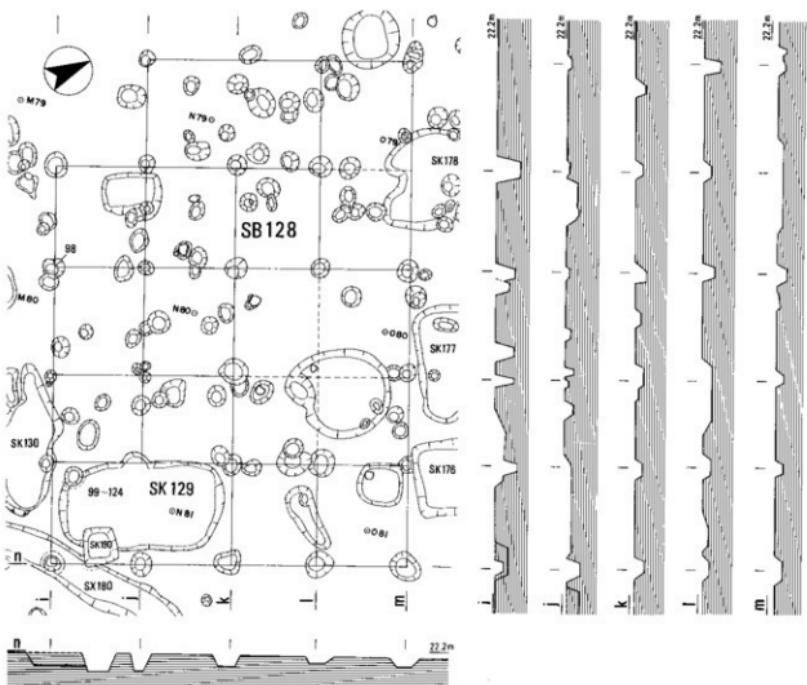
第29図 SB 98実測図 (1 : 100)



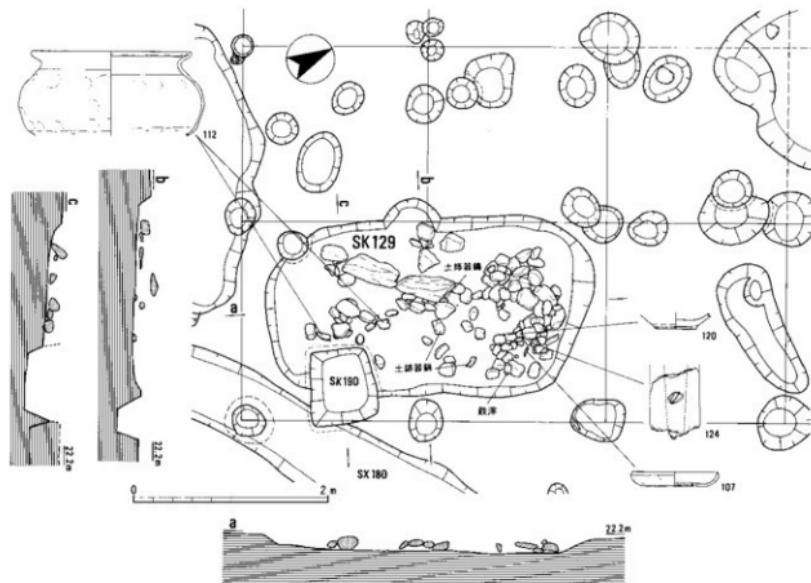
第30図 S B100・112・125実測図 (1:100)



*図中の番号は遺物番号



第31図 S B 126・127・128実測図 (1:100)



第32図 SK129 (SB128) 実測図 (1 : 50)

S B125 (第30・64図) S B100と重複する。東隅の柱位置が確認されていないのが、桁行3間(東から $6.5\text{尺} \times 2 + 7.5\text{尺} = 20.5\text{尺}$)×梁行2間(7尺× $2 = 14\text{尺}$)の東西棟(棟方向N 69°W 、面積約8坪)とする。確認された10か所の柱位置のうち3か所に根石が残っていた。北面西端の柱掘形から土師器小皿B₂・伊藤分類第1段階b型式の鍋、北面西から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂・渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀(93)、北面西から3番目の柱掘形から土師器・小皿B₂・皿B₂が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

S B126 (第31・64図) S B125と重複する。東面中央の柱は見逃したためか検出されなかった。東柱をもつ建物であるが根石はみられない。桁行3間($4.5\text{尺} \times 3 = 13.5\text{尺}$)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N 72°W 、面積約3.8坪)である。南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C(94)・鍋、土鍤(96)、南面東端の柱掘形から土師器小皿C・皿C、白磁椀(95)、その他3か所の柱

掘形からそれぞれ土師器小皿C・皿Cが出土している。94は口径が12cm近くでB₂に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B127 (第31・64図) S B125・S B126と重複する。東面の2か所の柱位置が確認されなかつたが、桁行2間(東から $5.5\text{尺} + 5\text{尺} = 10.5\text{尺}$)×梁行2間(5尺×2=10尺)の東西棟(棟方向N 73°W 、面積約2.9坪)とする。根石はみられない。南面中央の柱掘形から土師器小皿C(97)・皿Cが出土した。Ⅲ期あるいはⅣ期の建物と思われる。

S B128 (第31・64図) S B100・S B112・S B125・S B126・S B127と重複している。桁行4間(東から $7\text{尺} + 6\text{尺} + 7\text{尺} \times 2 = 27\text{尺}$)×梁行4間(6尺×4=24尺)の身舎の西面に1間(7尺)×3間(6尺×3=18尺)の庇が付く東西棟(棟方向N 66°W 、身舎面積18坪、総面積18.5坪)である。根石はみられなかった。南面西から2番目の柱掘形から土師器ミニチュア鍋(98)が出土した。S B128の南東隅には、S B128に伴うと考えられる土坑S

K129（第32・64図）がある。この土坑は1間×2間の範囲に収まる隅丸方形のもので、上部では長辺約3.4m、短辺約1.8m、底部では長辺約3.0m、短辺約1.6m、検出面からの深さ0.1~0.2mである。土坑内には径10cm程度から長さ60cmほどの結晶片岩が多くみられたが、意図的に積んだり並べたりした形跡は認められなかった。遺物は土師器小皿A（103）、小皿B₁（99~102）、皿B₂（104~108）、台付小皿（109）、伊藤分類第1段階a型式の鍋（110~113）、羽釜（114）、渥美編年で12世紀末葉あるいは13世紀前葉とされる山茶椀（115~123）、フイゴ口（124）などが石とともに廃棄されたような状態で出土した。Ⅰ期の建物である。

S B131（第33・65図） S B128の南西約5mに位置する。桁行4間（南から6.5尺×2+6尺×2=25尺）×梁行3間（東から8尺+7尺×2=22尺）の身舎の東面に1間（6.5尺）×1間（7尺）の庇が付く南北棟（棟方向N27°E、身舎面積約15.3坪、総面積約16.5坪）である。確認された21か所の柱位置のうち6か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器小皿B₂（125）、皿B₂、鍋、東面北から2番目の柱掘形から土師器皿B₂、皿C（127）、鍋、渥美産の甕、東面南から2番目の柱掘形から土師器小皿B₂（126）、皿B₂、他の2か所の柱掘形からB₂あるいはCの土師器小皿、皿が出土している。127は口径が13cmを越えていることからB₂とも考えられる。Ⅱ期の建物と思われる。

S B133（第34・65図） S B131と重複する。桁行4間（南から6.5尺+5.5尺×3=23尺）×梁行3間（南から7尺+6.5尺×2=20尺）の身舎の東面に1間（6.5尺）×1間（8尺）の庇が付く南北棟（棟方向N25°E、身舎面積約12.3坪、総面積約14.2坪）で、S B131をひとまわり小さくしたような平面形をしている。確認された21か所の柱位置のうち9か所に根石が残っていた。南面北端の柱掘形から土師器小皿C、南面西から2番目の柱掘形から土師器小皿C、皿C（128・129）、鍋、知多産の山茶椀、北面東端の柱掘形から土師器小皿C、鍋、北から2列目柱列東から2番目の柱掘形から土師器小皿C、鍋（130）が出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

S B136（第35・65図） S B131・S B133と重

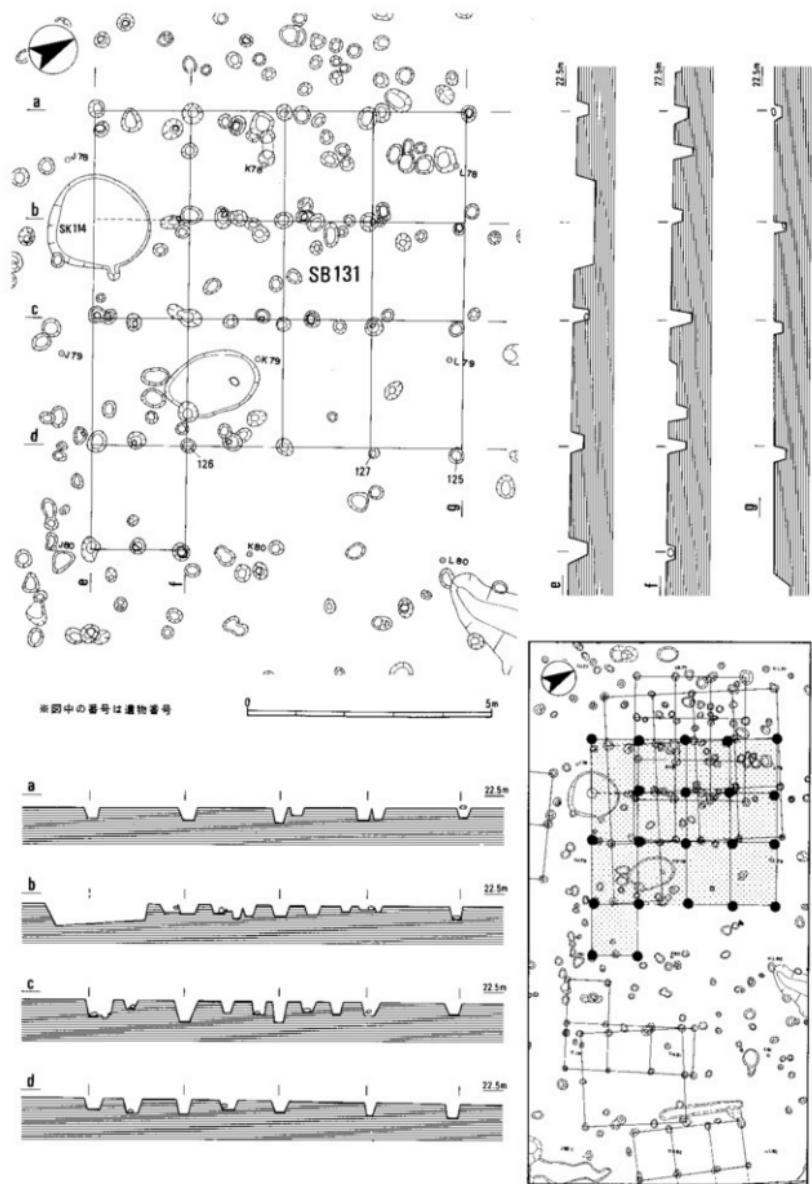
複する。桁行3間（東から5.5尺×3=16.5尺）×梁行3間（南から5尺×3=15尺）の身舎の東面に1間（5.5尺）×1間（5尺）の庇が付く東西棟（棟方向N62°W、身舎面積約6.9坪、総面積約7.6坪）である。根石は1か所で確認された。東面南から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿C（131）、東面北から2番目の柱掘形から土師器小皿C・皿Cが出土している。131はB₂に近い。Ⅰ期の建物と思われる。

S B137（第35図） S B136の南約3mに位置する。調査区外へのびるため、北面2間（7尺×2=14尺）、東西面それぞれ1間（6尺）しかわからない。2間×2間の東西棟の建物とすると、棟方向はN58°Wとなる。根石はみられない。北面中央の柱掘形からB₂と思われる土師器皿底部と渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀の口縁部が出土している。Ⅱ期の建物であろう。

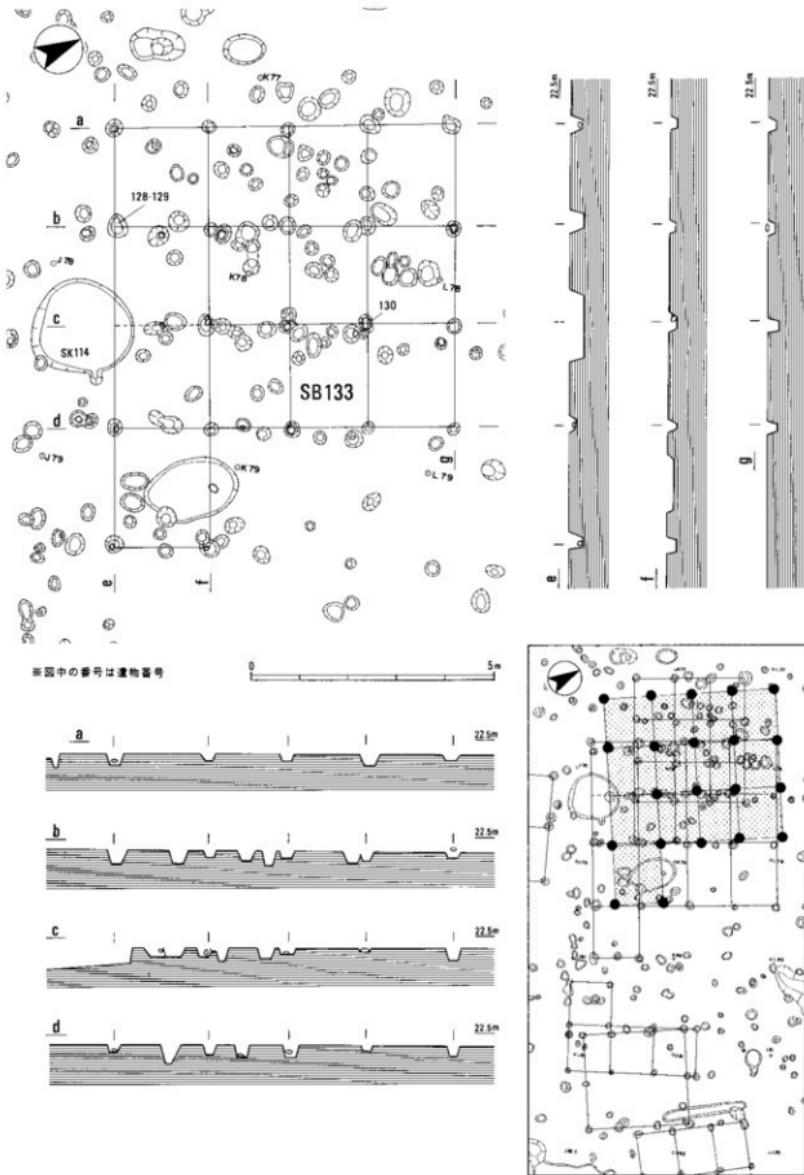
S B141（第36・65図） S B131のすぐ東に位置する。3間×2間の南北棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行3間（6尺×3=18尺）×梁行1間（6尺）の身舎の西面に1間（6尺）×1間（5尺）の庇が付く南北棟（棟方向N30°E、身舎面積3坪、総面積4坪）とする。根石はみられない。庇の南西端の柱掘形から土師器鍋、庇の北西端の柱掘形から土師器小皿B₂（132）、他の3か所の柱掘形からそれぞれ土師器小皿Cが出土している。Ⅲ期の建物と思われる。

S B142（第36・65図） S B141と重複する。桁行3間（南から4尺+5尺×2=14尺）×梁行2間（6.5尺×2=13尺）の南北棟（棟方向N24°E、面積約5.1坪）である。東柱はみられない。根石は1か所で確認された。東面南端の柱掘形から土師器小皿C（133）、東面北端の柱掘形から土師器小皿C・皿C（134）、伊藤分類第1段階b型式（135）と第3段階b型式（136）の鍋が出土した。Ⅳ期の建物と思われる。

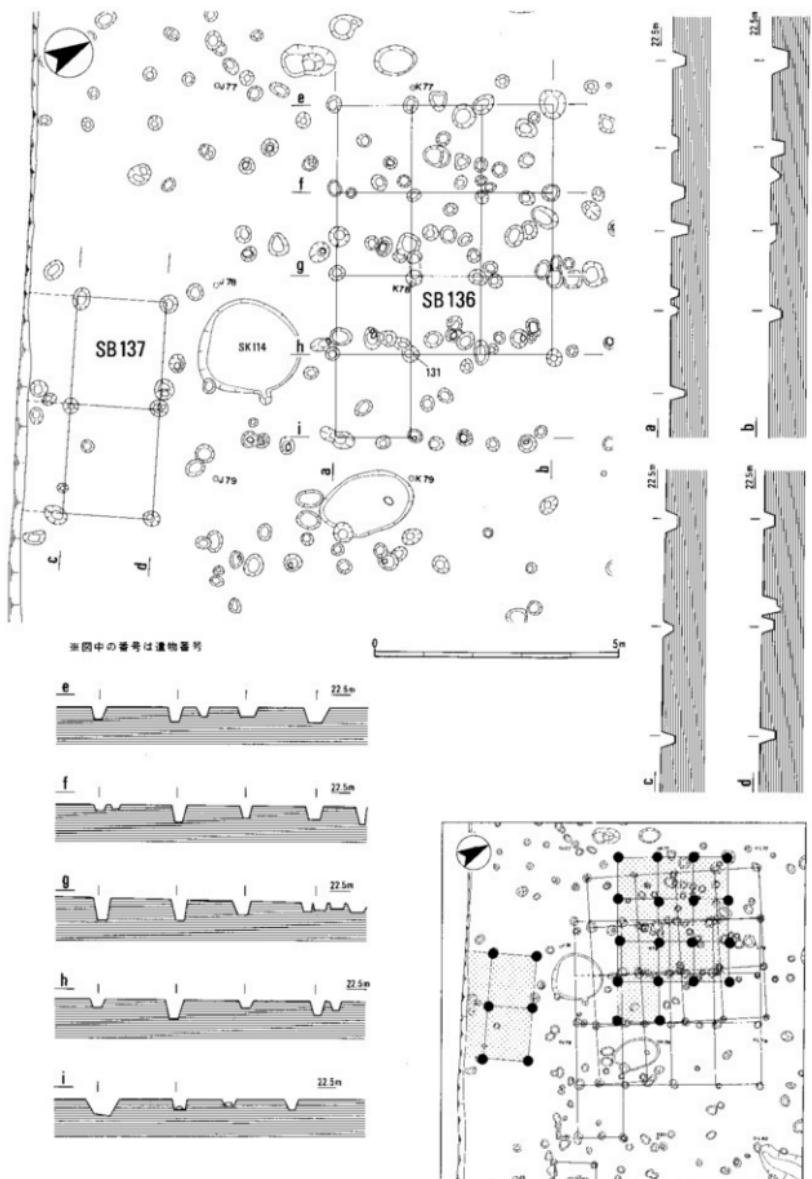
S B143（第36・65図） S B142のすぐ東に位置する。西面3間（南から5尺+5.5尺+4.5尺=15尺）、南北面それぞれ1間（6.5尺）しかわからない。桁行3間の南北棟の建物とすると、棟方向はN20°Eとなる。根石はみられない。西北端の柱掘形から



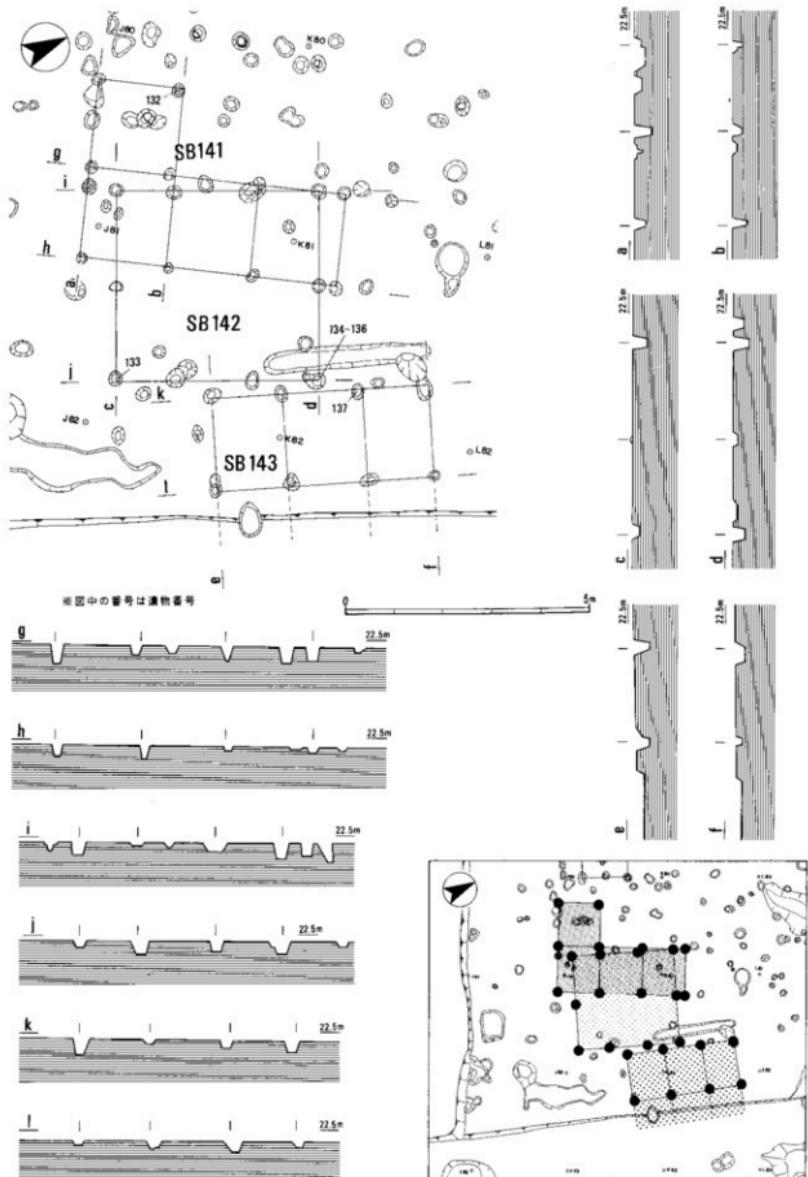
第33図 SB131実測図 (1 : 100)



第34図 SB133実測図 (1 : 100)



第35図 SB136・137実測図 (1:100)



第36図 SB141・142・143実測図 (1 : 100)



第37図 SB145・SA213実測図 (1:100)

器壁がかなり薄い土師器鍋の体部片、西面北から2番目の柱掘形から土師器皿C（137）、他の2か所の柱掘形から土師器皿Cが出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B145（第37・65図） S B133の北約2mに位置する。北西隅の柱が確認されていないが、桁行2間（東から7尺+6.5尺=13.5尺）×梁行2間（南から6尺+7尺=13尺）の東西棟（棟方向N69°W、面積4.9坪）と思われる。根石は1か所で確認された。建物中央の柱掘形から渥美産と思われる山茶椀、北面中央の柱掘形から土師器皿B₁（138）が出土している。Ⅰ期の建物と思われる。

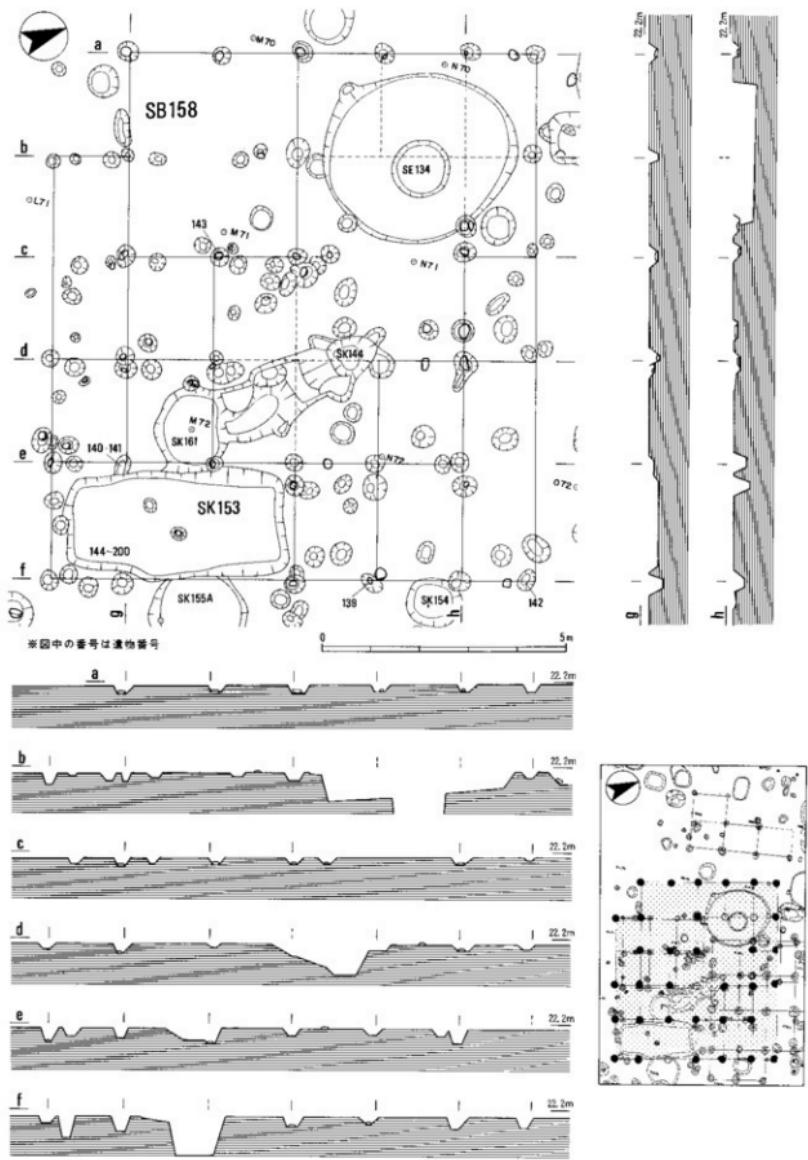
S B158（第38・65図） S B131の北西約20mに位置する。桁行5間（東から8尺+7尺×4=36尺）×梁行4間（5.75尺×4=23尺）の身舎の南面に4間（東から8尺+7尺×3=29尺）×1間（5尺）、北面に5間（東から8尺+7尺×4=36尺）×1間（5尺）の庇が付く東西棟（棟方向N70°W、身舎面積23坪、総面積約32坪）である。確認された33か所の柱位置のうち15か所に根石が残っていた。東面北端の柱掘形から土師器皿C（142）、東面北から3番目の柱掘形から土師器皿B₂（139）、南面東から2番目の柱掘形から土師器皿B₃（140）、小皿C（141）、西から2列目柱列南から2番目の柱掘形から知多編年第4型式（12世紀末葉～13世紀初頭）と思われる山茶椀（143）が出土している。S B158の南東隅には、S B158に伴うと考えられる土坑SK153（第55・65図）がある。この土坑は1間×3間の範囲に収まる方形のもので、上部では長辺約4.5m、短辺約2.2m、底部では長辺約4.25m、短辺約1.6m、検出面からの深さ0.1～0.3mである。土坑の床面は全面にわたって叩き締められたように硬くなっている。土坑内には土師器皿B₄（159～163）、小皿C（144～158）、皿B₂（179～184）、皿C（164～178）、鍋（185～189）、山皿（190）、山茶椀（191～195）、同安窯系青磁皿（196）、竜泉窯系青磁碗（197）、土鍤（198～200）などの遺物が一括廃棄された状態でびっしりと詰まっていた。土師器皿小皿、皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿A=1点、小皿B₁=1点、小皿B₂=37点（平均口径7.9cm、器高1.2cm）、小皿C=166点（平均口径7.6cm、器高1.1cm）の計205点、皿では、皿B₂=18点（平均口径12.7cm、器高2.6cm）、皿C=66点（平均口径11.4cm、器高2.6cm）の計84点である。小皿・皿ともB₂よりCの数が圧倒的に多い。鍋は完形のものはみられない。185は伊藤分類の第1段階a型式、186・188・189は第1段階b型式である。山皿・山茶椀（190～195）は知多編年第5型式か第6型式（13世紀前葉～13世紀後葉）のものと思われる。S B158はⅢ期の建物である。

S B159（第39・66図） S B158と重複している。桁行4間（5.75尺×4=23尺）×梁行3間（東から8尺+7尺×2=22尺）の身舎の東面に2間（5.75尺×2=11.5尺）×1間（6尺）の庇が付く南北棟（棟方向N21°E、身舎面積約14.1坪、総面積約16坪）である。身舎部分の規模はS B158の身舎の東から3間分と全く同じ規模である。いいかえれば、S B159の身舎の西側をもう1間延長し、南面と北面に幅5尺の庇を付ければS B158と同じ規模になる。確認された22か所の柱位置のうち4か所に根石が残っていた。西面中央の柱掘形から土師器皿B₂（201・202）、皿B₂（203・204）、北から2列目柱列東から2番目の柱掘形から土師器皿小皿B₂・皿C（205）、庇の中央柱掘形から土師器皿B₂・伊藤分類第1段階a型式の鍋（206）、庇北端の柱掘形から渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀（207）が出土している。Ⅱ期の建物と思われる。

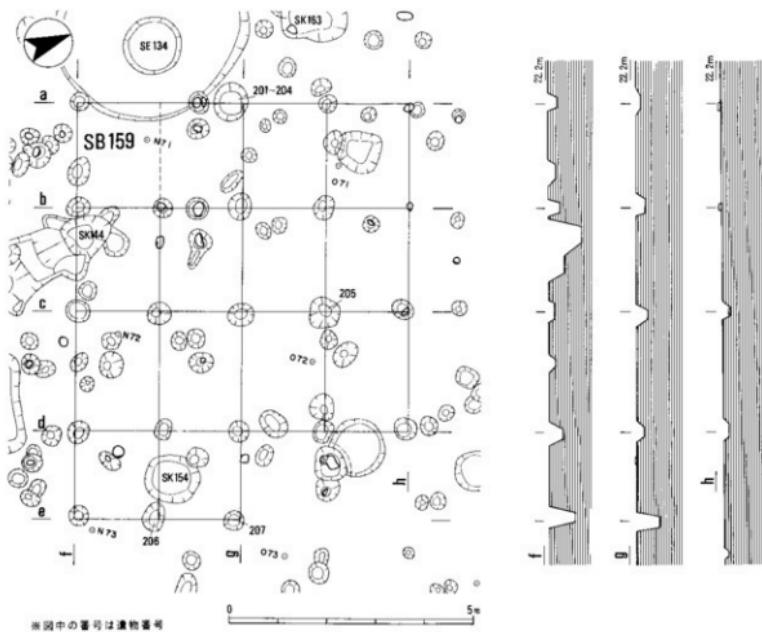
S B160（第40図） S B159と重複している。桁行2間（7.5尺×2=15尺）×梁行2間（6尺×2=12尺）の東西棟（棟方向N70°W、面積5坪）である。確認された8か所の柱位置のうち2か所に根石が残っていた。遺物がないため時期は確定できないが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B164（第40・66図） S B158と重複している。桁行3間（5.5尺×3=16.5尺）×梁行2間（7尺×2=14尺）の南北棟（棟方向N21°E、面積約6.4坪）である。根石はみられない。西面北端の柱掘形から渥美編年で12世紀末葉か13世紀前葉とされる山茶椀（208）が出土している。Ⅰ期の建物と思われる。

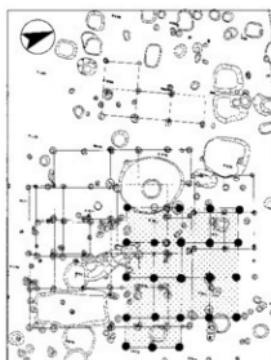
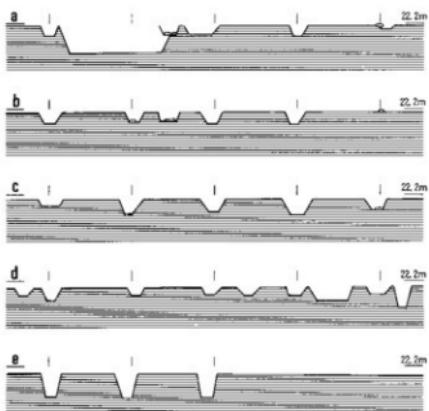
S B179（第40図） S B158の北西約2mに位置する。確認できなかった柱位置が多いため建物規模



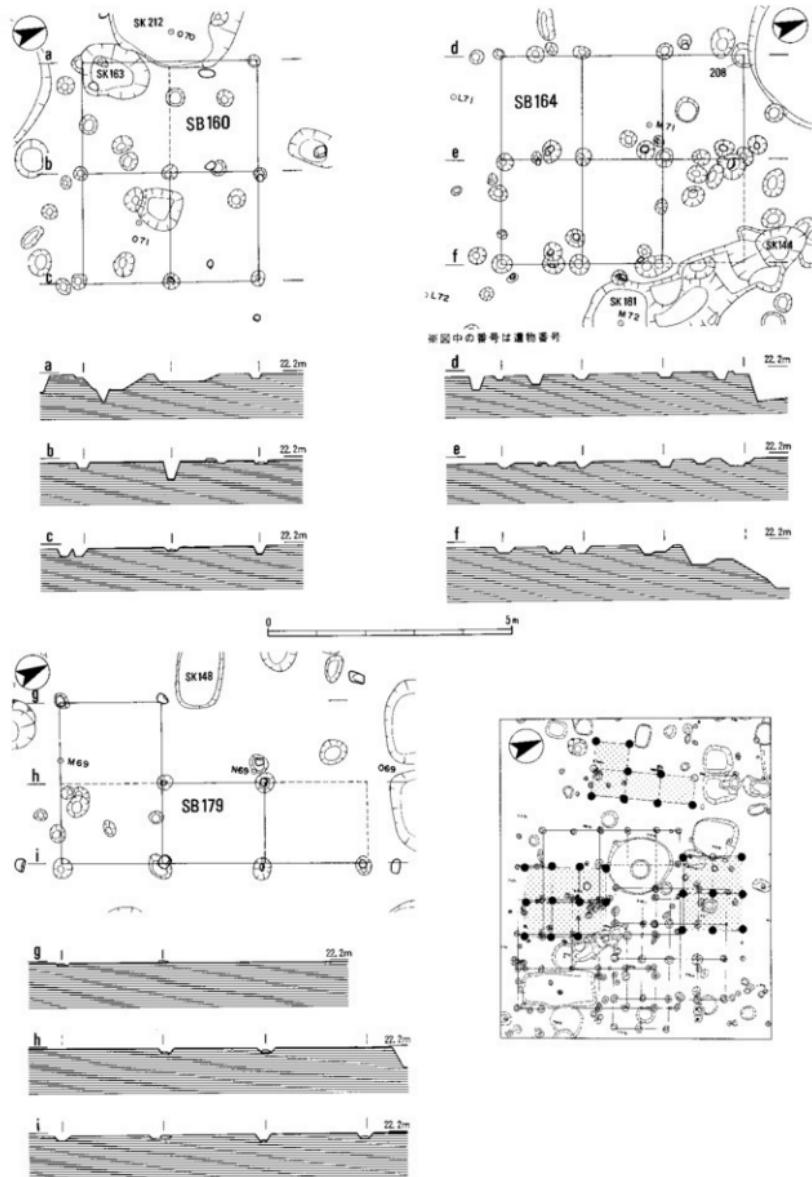
第38図 SB158実測図 (1 : 100)



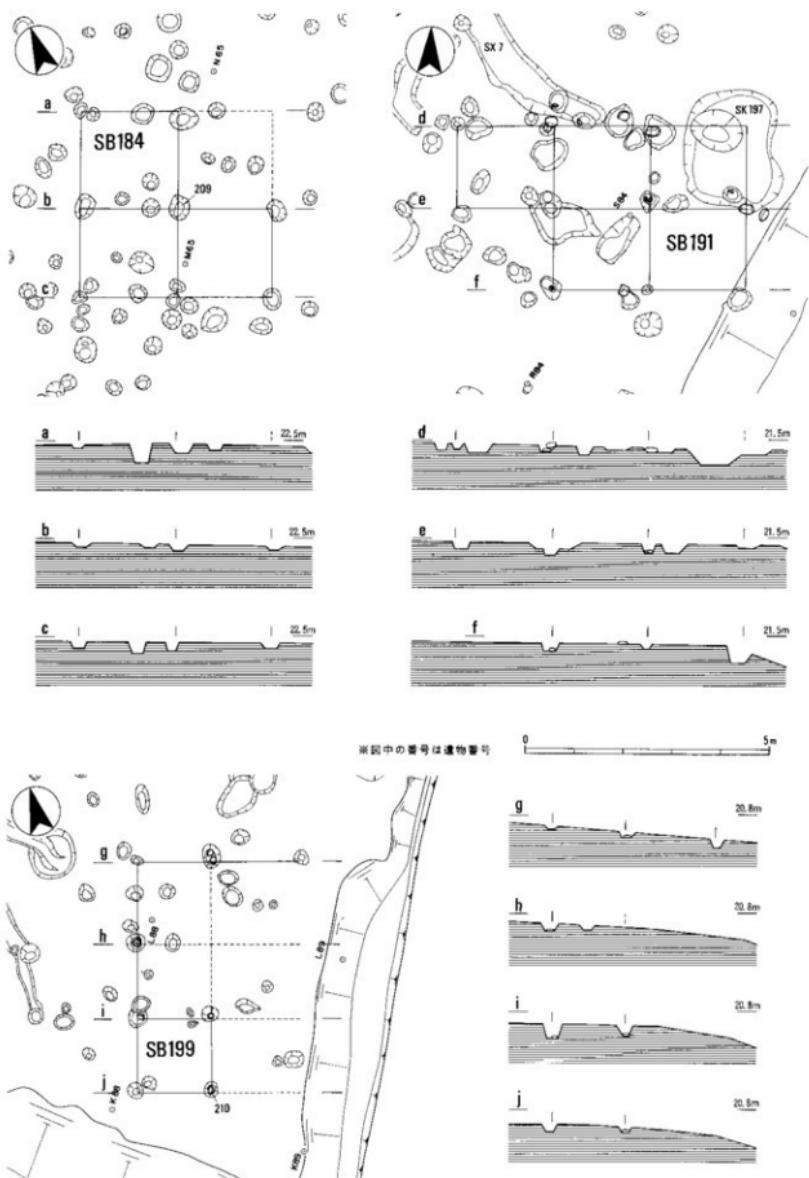
※図中の番号は遺物番号



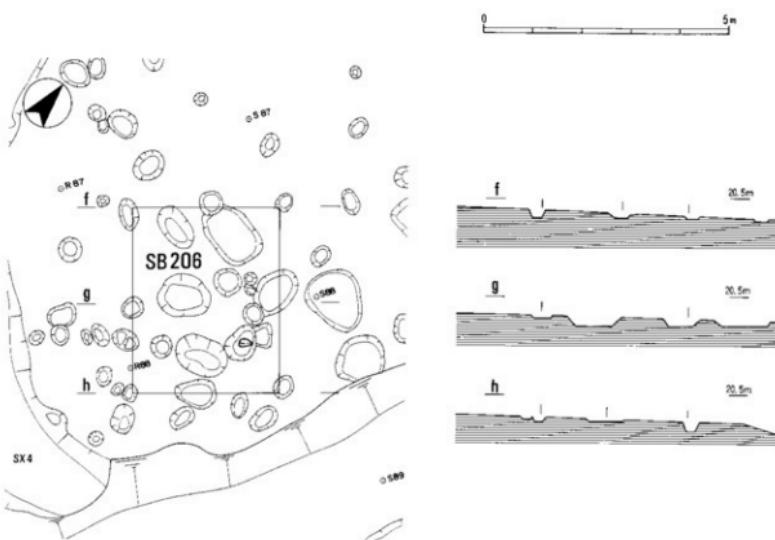
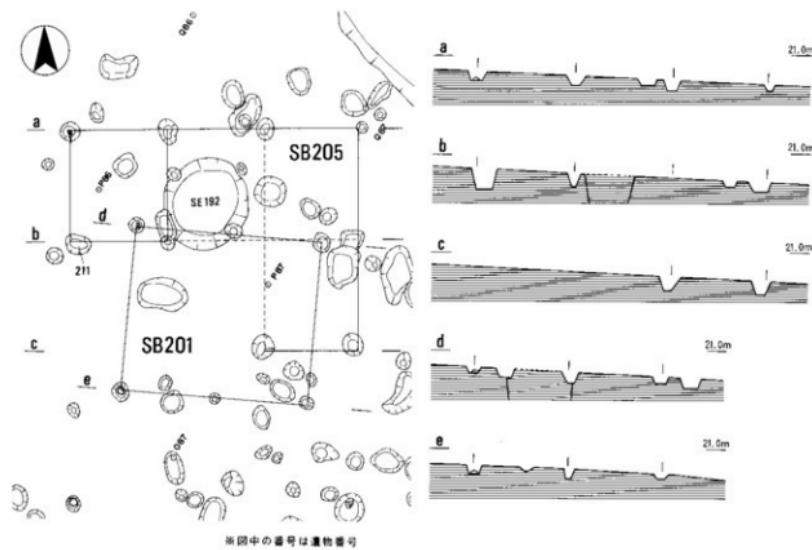
第39図 SB 159実測図 (1 : 100)



第40図 S B160・164・179実測図 (1 : 100)



第41図 S B184・191・199実測図（1：100）



第42図 S B201・205・206実測図 (1:100)

遺構名	位置	棟方向	規 模		面 積		根石	東柱	時 期	備 考
			桁行	×梁行	身舍面積	軒面積				
SB 2	T~V 30~33	南北棟 N 2° W	身舍 西面庇	4間(26尺) × 3間(21尺) 3間(19.5尺) × 1間(8尺)	約15.2坪	約19.5坪	有	有	Ⅲ期	
SB 9	Q~S 38~39	東西棟 N 84° E	身舍	3間(20尺) × 2間(12尺)	約6.7坪		有	有	Ⅲ期	
SB 16	R~S 37~38	東西棟 N 87° E	身舍	2間(12尺) × 2間(10.5尺)	3.5坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期?	
SB 19	S~T 37~38	東西棟 N 85° E	身舍	2間(13尺) × 2間(10.5尺)	約9.8坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB 20	R~T 65~67	南北棟 N 19° E	身舍	4間(26尺) × 2間(12.5尺)	約9坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB 21	R~S 68~69	東西棟 N 81° W	身舍	2間(14尺) × 2間(12.5尺)	約4.9坪		有	有	Ⅲ期	
SB 23	W~X 67~68	南北棟? N 8° E	身舍	2間(13尺)以上 × 2間(13尺)	約4.7坪以上		無	無	I期	調査区外にのびる
SB 24	S~U 69~71	南北棟 N 9° E	身舍 北面庇	3間(18尺) × 2間(15尺) 1間(5尺) × 1間(7.5尺)	7.5坪	約8.5坪	無	有	I期	
SB 25	U~V 69~71	南北棟 N 0° E	身舍	3間(19尺) × 2間(14尺)	約7.4坪		無	無	I期?	
SB 27	Q~S 71~73	東西棟 N 77° W	身舍	4間(23尺) × 3間(19.5尺)	約12.5坪		無	有	I期	
SB 34	P~R 72~74	東西棟 N 89° W	身舍 南面庇	3間(22尺) × 3間(19.5尺) 2間(14尺) × 1間(6.5尺)	約11.9坪	約14.5坪	有	有	Ⅲ期	
SB 51	V~X 45~47	東西棟 N 89° W	身舍	4間(24尺) × 3間(18尺)	12坪		有	有	Ⅲ期	一部調査区外にのびる
SB 54	U~X 43~46	南北棟 N 3° E	身舍	4間(24尺) × 3間(21尺)	14坪		有	有	Ⅲ期	
SB 68	S~U 43~44	南北棟 N 3° E	身舍	3間(18尺) × 3間(17尺)	8.5坪		有	無	Ⅲ期?	
SB 74	P~Q 51~52	南北棟 N 15° E	身舍	2間(13.5か14尺) × 2間(10尺)	約3.8坪		有	無	Ⅲ期?	
SB 76	P~Q 54~55	東西棟 N 75° W	身舍	3間(19.5尺) × 3間(15尺)	約8.1坪		有	有	Ⅲ期	
SB 85	Q~R 54~55	南北棟 N 14° E	身舍	3間(15尺) × 2間(13尺)	約5.4坪		有	有	Ⅲ期	3間 × 3間の建物か
SB 93	P~Q 55~56	東西棟 N 76° W	身舍	3間(16.5尺) × 3間(14尺)	約6.4坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB 97	P~R 55~57	南北棟 N 10° E	身舍	4間(24尺) × 3間(21尺)	14坪		有	有	Ⅲ期	
SB 98	P~R 54~57	東西棟 N 83° W	身舍	4間(27尺) × 3間(18尺)	約13.5坪		有	有	Ⅲ期	
SB 100	N~O 78~79	東西棟 N 59° W	身舍	3間(17尺) × 2間(11.5尺)	約5.4坪		無	無	I期?	
SB 112	N~O 77~78	東西棟 N 69° W	身舍	3間(20尺) × 2間(10尺)	約5.6坪		有	有	Ⅲ期	
SB 125	M~N 78~80	東西棟 N 69° W	身舍	3間(20.5尺) × 2間(14尺)	約8坪		有	有	Ⅲ期	

第4表 摂立柱建物一覧

造構名	位置	棟方向	規 模		面 積		現石	束柱	時 期	備 考
			桁 行	梁 行	身合面積	総面積				
SB126	M・N 79・80	東西棟 N 72° W	身合	3間(13.5尺)×2間(10尺)	約3.8坪		無	有	Ⅲ期	
SB127	M・N 79・80	東西棟 N 73° W	身合	2間(10.5尺)×2間(10尺)	約2.9坪		無	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB128	M～O 78～81	東西棟 N 66° W	身合	4間(27尺)×4間(24尺) 西面此 1間(7尺)×3間(18尺)	18坪	18.5坪	無	有	Ⅰ期	南東隅に土坑SK 129を伴う
SB131	J～L 77～80	南北棟 N 27° E	身合	4間(25尺)×3間(22尺) 東面庇 1間(6.5尺)×1間(7尺)	約15.3坪	約16.5坪	有	有	Ⅱ期	
SB133	J～L 77～79	南北棟 N 25° E	身合	4間(23尺)×3間(20尺) 東面庇 1間(6.5尺)×1間(8尺)	約12.3坪	約14.2坪	有	有	Ⅲ期	
SB136	J・K 77・78	東西棟 N 62° W	身合	3間(16.5尺)×3間(15尺) 東面庇 1間(5.5尺)×1間(5尺)	約6.9坪	約7.6坪	有	有	Ⅲ期	
SB137	I 78・79	東西棟 N 58° E	身合	2間(17尺)×2間?	2.7坪以上		無	有	Ⅲ期	調査区外へのびる
SB141	I～K 80・81	南北棟 N 30° E	身合	3間(18尺)×1間(6尺) 西面此 1間(6尺)×1間(5尺)	3坪	4坪	無	有?	Ⅲ期	3間×2間の建物 か
SB142	J・K 80・81	南北棟 N 24° E	身合	3間(14尺)×2間(13尺)	約5.1坪		有	無	Ⅳ期	
SB143	J・K 81・82	南北棟 N 20° E	身合	3間(15尺)×1間(6.5尺)以上	2.7坪以上		無	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB145	L・M 77・78	東西棟 N 69° E	身合	2間(13.5尺)×2間(13尺)	約4.9坪		有	有	Ⅰ期	
SB158	L～N 69～72	東西棟 N 70° W	身合	5間(36尺)×4間(23尺) 南面庇 4間(29尺)×1間(5尺) 北面庇 5間(36尺)×1間(5尺)	23坪	約32坪	有	有	Ⅲ期	南東隅に土坑SK 153を伴う
SB159	M～O 70～72	南北棟 N 21° E	身合	4間(23尺)×3間(22尺) 東面庇 2間(11.5尺)×1間(6尺)	約14.1坪	約16坪	有	有	Ⅲ期	
SB160	N～O 70・71	東西棟 N 70° E	身合	2間(15尺)×2間(12尺)	5坪		有	有	Ⅲ期かⅣ期?	
SB164	L・M 70・71	南北棟 N 21° E	身合	3間(16.5尺)×2間(14尺)	約6.4坪		無	有	Ⅰ期	
SB179	L～N 68・69	南北棟 N 25° E	身合	3間(21尺)×1間(5.5尺)	約3.2坪	約4.3坪	有	有?	Ⅲ期かⅣ期?	3間×2間の建物 か
SB184	L・M 64・65	東西棟 N 69° W	身合	2間(13尺)×2間(12.5尺)	約4.5坪		無	有	Ⅲ期	
SB191	R・S 82～84	東西棟 N 87° E	身合	2間(13尺)×2間(11尺) 西面此 1間(6.5尺)×1間(5.5尺)	約4坪	約5坪	有	有	Ⅲ期かⅣ期?	3間×2間の建物 か
SB199	K・L 87・88	南北棟 N 16° E	身合	3間(15.5尺)×2間(11尺)以上	4.7坪以上		有	有	Ⅲ期かⅣ期	
SB201	O・P 86・87	東西棟 N 86° W	身合	2間(12.5尺)×1間(11尺)	約3.8坪		有	無	不明	
SB205	O・P 85・87	東西棟 N 89° E	身合	3間(19.5尺)×1間(7.5尺) 南面庇 1間(6.5尺)×1間(7.5尺)	約4.1坪	約5.4坪	有	有?	Ⅲ期	3間×2間の建物 か
SB206	Q～S 87・88	南北棟 N 41° E	身合	2間(12.5尺)×2間(10尺)	約3.5坪		無	無	Ⅰ期?	

は不確定である。3間×2間の南北棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行3間（7尺×3=21尺）×梁行1間（5.5尺）の身舎の西面に1間（7尺）×1間（5.5尺）の庇が付く南北棟（棟方向N25°E、身舎面積約3.2坪、総面積約4.3坪）とする。確認された8か所の柱位置のうち7か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は不確定であるが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B184（第41・66図） S B158の北西約18mに位置する。東隅の柱位置が確認できなかったが、桁行2間（6.5尺×2=13尺）×梁行2間（南から6尺+6.5尺=12.5尺）の東西棟（棟方向N69°W、面積約4.5坪）と思われる。根石はみられない。建物中央の柱掘形から土師器小皿C・皿C（209）・鍋が出土している。209は器壁がやや厚く、B₁に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B191（第41図） S B128の北東約15mに位置する。3間×2間の東西棟となる可能性も考えられるが、ここでは桁行2間（6.5尺×2=13尺）×梁行2間（5.5尺×2=11尺）の身舎の西面に1間（6.5尺）×1間（5.5尺）の庇が付く東西棟（棟方向N87°E、身舎面積約4坪、総面積約5坪）とする。確認された10か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。出土遺物がないため時期は確定できないが、Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B199（第41・66図） S B128の南東約25mに位置する。西面3間（南から5尺×2+5.5尺=15.5尺）、南面1間（5尺）、北面2間（東から6尺+5尺=11尺）しかわからない。桁行3間の南北棟の建物とすると、棟方向はN16°Eとなる。確認された8か所の柱位置のうち5か所に根石が残っていた。南面西から2番目の柱掘形から土師器皿Cが出土している。Ⅲ期かⅣ期の建物と思われる。

S B201（第42図） S B128の南東約27mに位置する。桁行2間（6.25尺×2=12.5尺）×1間（11尺）の東西棟（棟方向N86°W、面積約3.8坪）である。東柱は検出されなかった。根石は2か所で確認された。遺物が全く出土していないため建物の時期は不明である。

S B205（第42・66図） S B201と重複する。桁行3間（6.5尺×3=19.5尺）×梁行1間（7.5尺）

の身舎の南面に1間（6.5尺）×1間（7.5尺）の庇が付く東西棟（棟方向N89°W、身舎面積約4.1坪、総面積約5.4坪）である。根石は1か所で確認された。南面西端の柱掘形から土師器皿C・皿C（211）、南面西から2番目の柱掘形から土師器皿C・皿C、北面西から2番目の柱掘形から土師器皿C・皿B₁・皿C・鍋、渥美産と思われる山茶碗が出土している。211は口径が12cmを越えておりB₁に近い。Ⅲ期の建物と思われる。

S B206（第42図） S B205の北東約5mに位置する。桁行2間（南から6尺+6.5尺=12.5尺）×梁行2間（南面は東から5.5尺+4.5尺=10尺、北面は東から4.5尺+5.5尺=10尺）の南北棟（棟方向N41°W、面積約3.5坪）である。出土遺物がないため時期は不確定であるが、東柱がなく根石もみられないことから、Ⅰ期の可能性が考えられる。

2. 檻

3ないし4か所のビットが一列に並ぶかのように思える場所はいくつかあるが、櫓と断定したのは1条のみである。

S A213（第37図） S B125・S B128などが重複してみられる範囲とS B131・S B133などが重複してみられる範囲とのほぼ中間に、西北西から東南東方向へ約15mにわたってビットが密集して並んでいる。特定のビットを結んで櫓を示すのは困難であるが、2つの範囲（屋敷地）の境を明示するための櫓が数度作り替えをされながら存在していたと思われる。遺物はいくつかのビットから土師器皿B₁の破片が少量出土しているのみで、櫓の存続期間は不明である。Ⅰ期以降の櫓と思われる。

3. 井戸

井戸としたものは12基ある。石組みや井戸枠が確認されたものではなく、いずれも素掘りのものである。また、底までの深さが浅いものについては、中世墓である可能性も考えられる。

S E 3（第43・66図） 調査区の東端近くに位置する。長辺約1.9m×短辺約1.8mの方形の平面形をもつ素掘りの井戸で、検出面から約2.3mの深さで湧水し、完掘はできなかった。埋土は黒ボクと地山

崩壊土が混じり合った土で、その比率の違いで層を細かく分けることができる。また、底近くでは礫層も確認できた。出土遺物には土師器小皿B₁・皿B₁ (212・213)・皿B₂ (214)・皿C (215)・伊藤分類第1段階の鍋、渥美編年で12世紀中葉とされる小椀 (216)と12世紀末葉とされる山茶椀 (217・218)がある。215はあまりにも細片であるため混入と思われる。切り合い関係から中世墓S X 5 (Ⅲ期)より古いことがわかる。Ⅰ期の井戸であろう。

S E 56 (第43・66図) S B 9 の南東約2mに位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.5mと浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、上部では径約1.1m、底部では径約0.9mである。出土遺物には土師器小皿B₁ (219~224)・皿B₁ (225~232)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (236~243)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿と山茶椀 (235)、知多編年第4型式あるいは第5型式 (12世紀末葉~13世紀前葉) の山茶椀 (233・234)がある。Ⅰ期の遺構と思われる。

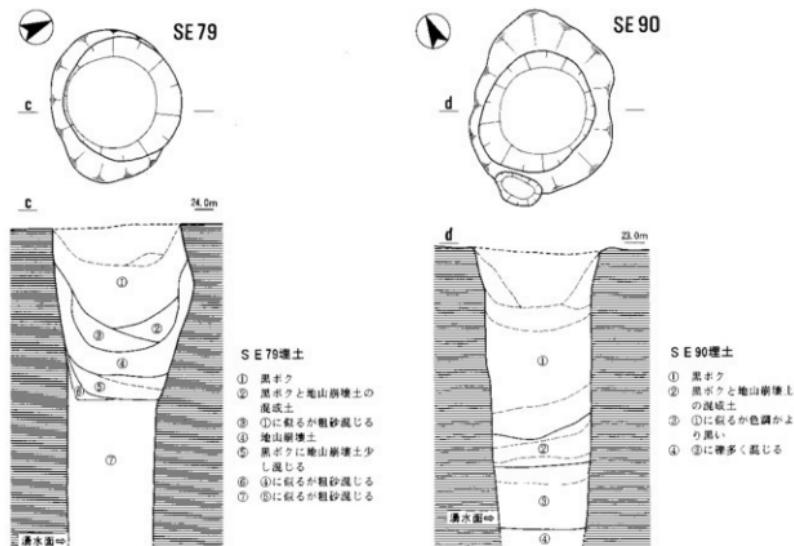
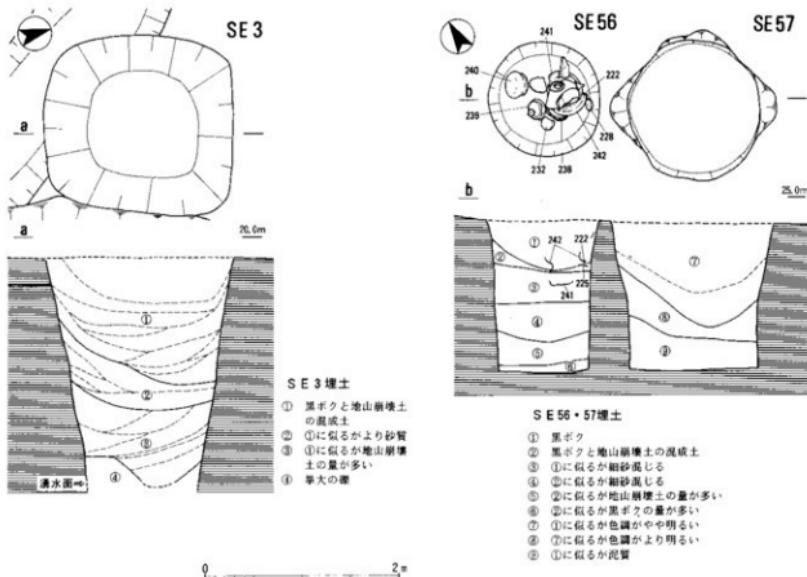
S E 57 (第43・67図) S E 56のすぐ南東に位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.5mと浅く、湧水もみられなかったことからS E 56と同じく中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、上部では径約1.4m、底部では径約1.3mである。出土遺物には土師器小皿B₂ (244・245)・皿B₂ (246~248)・皿C (249~251)・伊藤分類第1段階 (252~254)と第2段階a型式かb型式 (255)の鍋、渥美編年で12世紀前葉とされる山皿・山茶椀 (256・257)がある。Ⅱ期の遺構と思われる。

S E 79 (第43・67図) S B 68の南南東約20mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約1.2mであるが、深さ1.8m付近から径約0.9mに狭まる。検出面からの深さ約3.1mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿C・皿C・伊藤分類第4段階a型式かb型式の鍋 (259)・知多編年第4型式 (12世紀末葉~13世紀初頭)と思われる山茶椀 (258)、渥美産と思われる片口鉢、知多産と思われる甕、青磁皿がある。259を除き小片が多い。Ⅳ期の井戸と思われる。

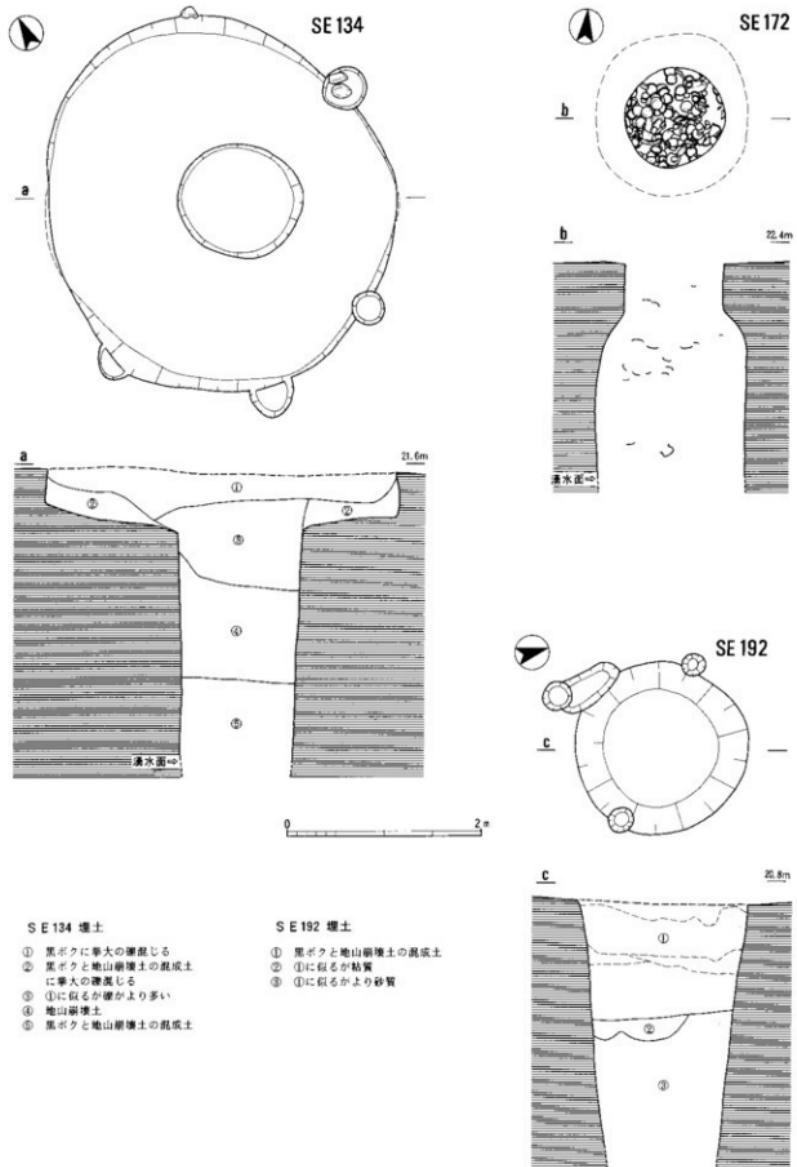
S E 90 (第43・67図) S B 98のすぐ東に位置する。平面形が円形の素掘りの井戸で、上部の径は約1.1mである。検出面からの深さ約2.7mで湧水し、深さ約2.8mで礫層が確認できた。出土遺物には土師器小皿C (260~263)・皿C (264~269)・鍋 (270~276)・羽釜、知多編年第6型式 (13世紀後葉)の山皿・山茶椀 (277)・片口鉢 (279)・甕 (282)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀 (278)、瀬戸編年の古瀬戸前II期かIII期 (13世紀中葉)の折縁深皿 (281)・瓦質火鉢 (280)、青磁椀 (283)、鉄釘がある。土師器鍋270は伊藤分類第1段階a型式、271・272・274はb型式、273は第2段階c型式のものである。III期の井戸と思われる。

S E 134 (第44・67・68図) S B 158と重複する位置にある平面形が円形の素掘りの井戸である。検出面付近は径が約3.8mの大きな土坑状となっているが、深さ0.6m付近から下は径約1.2mである。深さ約3mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿C (284~287)・台付小皿 (288)・皿B₂ (292)・皿C (289~291)・盤 (293)・鍋 (294~298)・火鉢 (299)、知多産と渥美産の13世紀代の山茶椀、知多編年第8段階 (14世紀後半)の片口鉢 (300)、知多産と渥美産の甕、信楽産と思われる甕 (301)、瀬戸産の折縁深皿・青磁椀・石鍋 (302)、砥石 (303)がある。土師器鍋294・295は伊藤分類の第1段階b型式、296は第3段階b型式のものである。IV期の井戸と思われる。

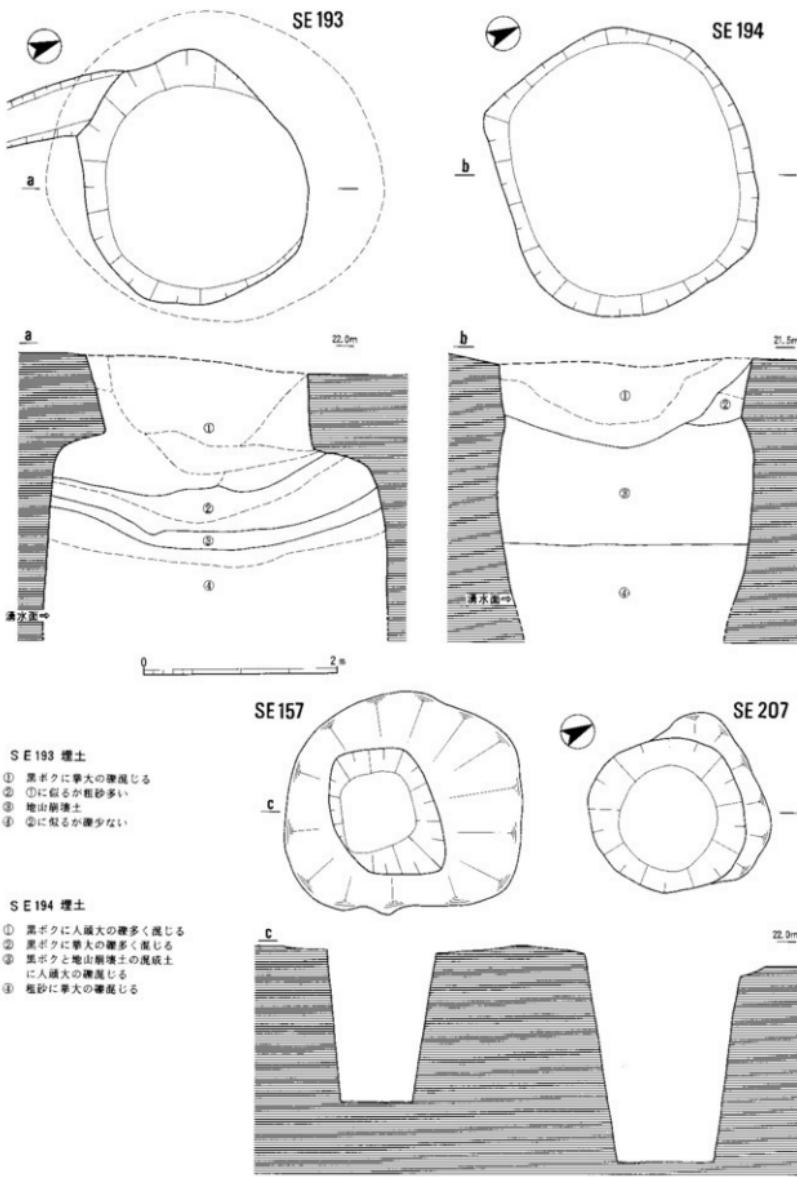
S E 157 (第45・68図) S E 158の東南東約10mに位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約1.6mと浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は方形で、上部では長辺約1.3m、短辺約1.1m、底部では長辺約0.8m、短辺約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C (304~309)・皿B₂ (310)・皿C (311~315)・三足付盤 (320)・伊藤分類第3段階b型式の鍋 (316~319)・瓦質火鉢 (321・322)、知多産の山茶椀・片口鉢、知多編年第6型式 (13世紀後葉)の甕 (324)、瀬戸編年の古瀬戸前II期かIII期 (13世紀中葉)の四耳甕 (323)・竈泉窯系青磁椀 (325)・石鍋 (326)、砥石、鉄釘 (327)、繩文土器 (2)がある。325は13世紀後葉から14世紀初頭にかけ



第43図 SE 3・56・57・79・90実測図 (1 : 50)



第44図 SE 134・172・192実測図 (1 : 50)



第45図 SE 157・193・194・207実測図 (1 : 50)

けのものである。陶磁器類はⅢ期のものが多いが、完形のものを多く出土した土師器鍋はⅣ期のものと考えられる。Ⅳ期の井戸であろう。

S E 172 (第44・69・70図) S B 24の北西約5mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約1mであるが、深さ0.5m付近からは径約1.5mとなる。検出面付近から深さ1.3m付近まで土器がびっしりと埋まっていた。深さ約2.2mで涌水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿B₁・小皿B₂ (328~341)・皿B₁・皿B₂ (342)~356)、伊藤分類第1段階a型式 (357~360)、第1段階b型式 (361~365)、第2段階a型式 (366) の土師器鍋、知多編年第5型式か第6型式 (13世紀前葉~後葉) の山皿 (367・368)・山茶碗 (369~372・374~376)・片口鉢 (379)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗 (373)、猿投産の四耳壺 (377)

と三筋壺 (378)、竜泉窯系青磁碗 (380)、口縁端部が露胎の景德镇産白磁碗、土製支脚 (381)などがある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿B₁=5点 (平均口径8.3cm、器高1.3cm)、小皿B₂=142点 (平均口径7.7cm、器高1.2cm) の計147点、皿では、皿B₁=6点 (平均口径13.6cm、器高2.9cm)、皿B₂=139点 (平均口径12.9cm、器高2.6cm) の計145点である。Ⅱ期の井戸である。

S E 192 (第44・70図) S E 201・205と重複する。平面形が円形の素掘りの井戸で、上部の径は約1.8mである。検出面からの深さ約2.6mまで掘り下げた時点で危険になつたため完掘はしなかつた。出土遺物は景德镇産の白磁碗 (382) 1点のみであるため、13世紀代の井戸と思われるが断定できない。

S E 193 (第45・70~72図) S B 128の北東約2

造構名	位置	平面形	規 模	出 土 遺 物	時期	備 考
S E 3	T・U 87・88	方形	上部=長辺1.9m×短辺1.8m	土師器小皿B ₂ ・皿B ₁ ・皿C・鍋、陶器 小輪・山茶碗	I期	素掘り。未完掘。
S E 5 6	R 39・40	円形	上部=径1.1m、深さ=1.5m 底部=径0.9m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・鍋、陶器山皿・山茶碗	I期	素掘り。涌水せず。 中世墓か。
S E 5 7	R 40	円形	上部=径1.4m、深さ=1.5m 底部=径1.3m	土師器小皿B ₂ ・皿B ₁ ・皿C・鍋、陶器山皿・ 山茶碗	II期	素掘り。涌水せず。 中世墓か。
S E 7 9	Q 48	円形	上部=径1.2m 下部=径0.9m	土師器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢・ 甕、青磁瓶	IV期	素掘り。未完掘。
S E 9 0	R 57	円形	上部=径1.1m	土師器小皿C・皿C・鍋、羽釜、陶器山皿・山茶碗・ 片口鉢・甕、折縁深皿・瓦質火鉢・青磁碗、 鐵釘	II期	素掘り。未完掘。
S E 1 3 4	M・N 70	円形	上部=径1.2m	土師器小皿C・台付小皿・皿B ₁ ・皿C・鍋・盤・ 火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・甕、折縁深皿・青 磁碗、石甕、瓦甕	IV期	素掘り。未完掘。
S E 1 5 7	N 75	方形	上部=長辺1.3m×短辺1m 底部=長辺0.8m×0.7m 深さ=1.6m	土師器小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋、三足付盤、瓦 質火鉢、陶器山茶碗・片口鉢・四耳壺・甕、青 磁碗、石甕、瓦甕、鐵釘	IV期	素掘り。涌水せず。 中世墓か。
S E 1 7 2	T 68	円形	上部=径1m 下部=径1.5m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・鍋、陶器山皿・山茶碗・ 片口鉢・四耳壺・三筋壺・青磁碗・白磁碗、土 製支脚	II期	素掘り。未完掘。
S E 1 9 2	P 86	円形	上部=径1.8m	白磁碗	不明	素掘り。未完掘。
S E 1 9 3	O・P 81	円形	上部=径2.5m 下部=径3.3m	土師器小皿A・小皿B ₁ ・小皿C・台付小皿・皿B ₁ ・ 皿C・羽釜、甕、陶器山皿・片口小皿・山茶碗・ 片口鉢・三筋文系甕・甕、青磁碗・皿、白磁碗・ 刀子、鐵釘、須恵器舟身・杆叢・高杯・甕	II期	素掘り。未完掘。
S E 1 9 4	O・P 83・84	椭円形	上部=長軸3m×短軸2.5m	土師器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・皿C・鍋、陶器山皿・ 山茶碗・片口鉢・甕、青磁碗、鐵釘	II期	素掘り。未完掘。
S E 2 0 7	O 75	円形	上部=径1.6m、深さ=2m 底部=径1m	土師器小皿C・皿C・鍋、山茶碗・青磁碗、鐵 釘	III期か IV期	素掘り。涌水せず。 中世墓か。

第5表 井戸一覧

mに位置する平面形が円形の素掘りの井戸である。上部の径は約2.5mであるが、深さ0.8m付近からは径約3.3mと大きく広がる。検出面からの深さ約2.5mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿A (383)・小皿B₁・小皿B₂ (384~395)・小皿C (396~404)・台付小皿 (405)・皿B₁ (407~417)・皿C (418~427)・羽釜 (428)・鍋 (429~448)、渥美編年で12世紀末葉とされる三筋文系壺 (459)・12世紀後葉とされる甕 (460)・12世紀末葉とされる片口小皿 (449)・13世紀前葉とされる山皿 (450・451)・山茶椀 (453・456)、知多編年第4型式あるいは第5型式 (12世紀末葉~13世紀前葉) の山茶椀 (452・457・458)、猿投産の山茶椀 (454・455)、渥美產と知多產の片口鉢、竜泉窯系の青磁皿 (461・462)・椀 (465~467)、同安窯系青磁皿 (463)、白磁椀 (464)、刀子、鉄釘、古墳時代の須恵器杯蓋・杯身・高杯・壺などがある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では、小皿A=2点、小皿B₁=1点、小皿B₂=53点(平均口径7.5cm、器高1.2cm) 小皿C=23点(平均口径7.5cm、器高1.1cm) の計79点、皿では皿B₁=34点(平均口径12.6cm、器高2.6cm)、皿C=19点(平均口径12.0cm、器高2.5cm) の計53点である。S E 172より若干新しい要素がみられるが、II期の井戸と思われる。

S E 194 (第45・73図) S B 128の東約10mに位置する素掘りの井戸で、平面形は長軸約3m、短軸約2.5mの橢円形である。埋土には人頭大から拳大の礫が多数混じっていた。検出面付近からの深さ約2.5mで湧水し、底は確認できなかった。出土遺物には土師器小皿B₁ (468)・皿B₂ (469)・皿C・伊藤分類第1段階b型式 (470~472) と第2段階a型式の鍋、渥美編年で12世紀末葉あるいは13世紀前葉とされる山皿・山茶椀 (473~475)・片口鉢 (476)、知多編年第4型式 (12世紀末葉~13世紀初頭) の片口鉢、渥美產と知多產の壺、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。II期の井戸と思われる。

S E 207 (第45・73図) S E 157の隣に位置する。素掘りの井戸としたが、検出面からの深さが約2mと比較的浅く、湧水もみられなかったことから中世墓と考えた方がよいかもしれない。平面形は円形で、

上部では径約1.6m、底部では径約1mである。出土遺物には土師器小皿C (478)・皿C (479~481)、伊藤分類第1段階b型式 (482)・第2段階b型式 (483)・第2段階c型式 (484)・第3段階a型式 (485)の土師器鍋、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山茶椀 (486・487)、竜泉窯系青磁椀 (488)、鉄釘などがある。III期かIV期の遺構と思われる。

4. 中世墓

中世墓としたものは40基であるが、中世墓の可能性が考えられるものが井戸としたものの中に4基、土坑としたものの中に5基ある。いずれにしても石組み、盛土等の外部施設は全くみられず、明確な蔵骨器や人骨も確認されていない。また、土壤分析等の化学分析を実施する余裕がなかったため、人が葬られていたという確証もない。それでもなおかつ墓と考えた理由はいくつかあるが、最も端的な理由は、単なる土坑にしては遺構の形態が方形あるいは円形に整っているということである。中世墓と考えられる遺構については、その形態から次の5つの型に分けた。A型=細長い長方形の平面形をもつ墓壙で、遺体を横に寝かせて葬ったと考えられる。B型=方形の平面形をもち、本来の深さか1m近く、あるいはそれ以上あったと想定できる墓壙である。遺体を座らせて葬ったと考えられる。C型=円形の平面形をもつ深い墓壙で、B型と同じく遺体を座らせて葬ったと考えられる。A型~C型は確証はないが、棺桶を使用した土葬墓の可能性が考えられる。D型=方形あるいは円形に近い平面形をもつ浅い墓壙である。さらにいくつかの型に分けられるが、煩雑になること、他の土坑との区別が困難なものがあることなどから一つにまとめた。屈葬、あるいは火葬が想定できる。E型=ピット状の小規模な墓壙の中に完形の土師器鍋が納まっているもので、火葬墓と考えられる。

S X 5 (第46・73図) 調査区の東端近くに位置し、S E 3と重複する。墓壙は平面形が橢円形のもので、上部では長軸約0.95m、短軸約0.8m、底部では長軸約0.85m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.3mである。D型に近いがE型とする。墓壙の中には完形の土師器鍋 (492) が納まっており、墓

埴埋土や鍋の中には炭が認められた。出土遺物には伊藤分類第1段階b型式の土師器鍋（492）の他、土師器小皿C（489）・皿C（490・491）、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀（493）がある。490・491は口径が12cm前後あり皿B₂に近い。切り合い関係からS E 3（Ⅰ期）より新しいことがわかる。Ⅲ期の墓と思われる。

S X28（第46・73図） S B24のすぐ西に位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約2m、短辺約1.6m、底部では長辺約1.65m、短辺約1.2m、検出面からの深さ約0.3mである。墓壙内の北よりには拳大から人頭大の石が積み重ねられており、石の間から知多編年第6型式（13世紀後葉）の甕（494）の破片が出土した。甕以外の出土遺物には土師器小皿C・皿C・伊藤分類第2段階c型式の鍋、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の須恵器片などがある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X38（第46・73図） S X32（5号墳）の墳域のはば中央に位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約1.2m、底部では長辺約0.95m、短辺約0.85m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壙内には拳大の石がびっしりと詰められており、石の間から知多編年第4型式（12世紀末葉～13世紀初頭）と思われる甕（495）、渥美産と思われる須恵器壺（496）、渥美編年で12世紀後葉か末葉とされる山茶椀（497）・片口鉢・瓦質火鉢、竜泉窯系青磁碗、白磁四耳壺（498）、土製支脚、平瓦、古墳時代の須恵器杯蓋（13）・杯身（14）、土師器ミニチュア高杯（19）が出土した。Ⅰ期の墓と思われる。

S X40（第46・74図） S B2の北西約5mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.1m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.7mである。墓壙内から土師器小皿B₂（500）・小皿C（499・皿B₁（503）・皿C（501・502）・伊藤分類第1段階a型式の鍋（504）、知多編年第4型式か第5型式（12世紀末葉～13世紀前葉）の山皿（505）、古墳時代の須恵器壺が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X41（第46・74図） 調査区の西端近くに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では

長辺約1.2m、短辺約0.75m、底部では長辺約1m、短辺約0.55m、検出面からの深さ約0.1mである。墓としたが根柢は薄い。出土遺物には土師器小皿C（506～508）・皿C（509～511）・伊藤分類第2段階c型式の鍋（513）と第5段階の焰塔（512）がある。Ⅳ期末以降の遺構と思われる。

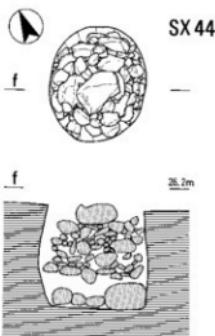
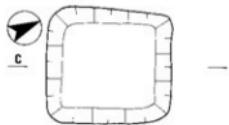
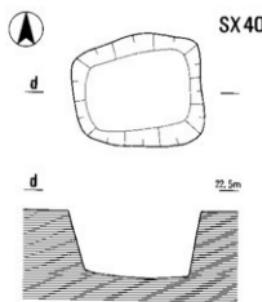
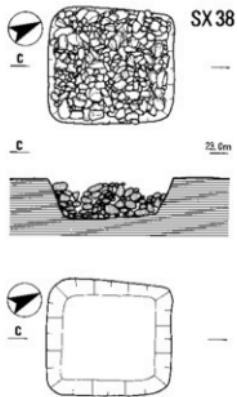
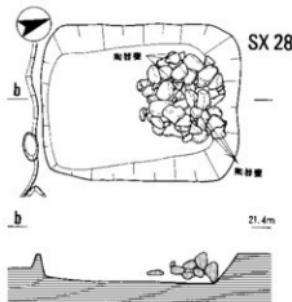
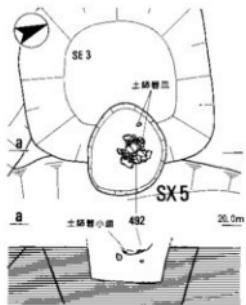
S X44（第46・74図） S X40の西北西約15mに位置するC型のもので、長軸約1.15m、短軸約1mの梢円形の平面形をもつ。検出面からの深さ約1mである。墓壙内には拳大から人頭大の石が詰められていた。出土遺物には土師器小皿C・小皿B₂（514）・皿C・知多編年第5型式か第6型式（13世紀前葉～後葉）の山茶椀（515）、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀、知多産と渥美産の甕、瀬戸産の折縁深皿、竜泉窯系青磁碗がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X46（第47・74図） S B51と重複する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.4m、短辺約1m、底部では長辺約1.1m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.9mである。墓壙内から土師器小皿A（516）・小皿B₂・小皿C（517～521）・皿B₂・皿C（522～525）・伊藤分類第1段階b型式の鍋（526・527）、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿（528）・山茶椀が出土している。522～523は皿B₂に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

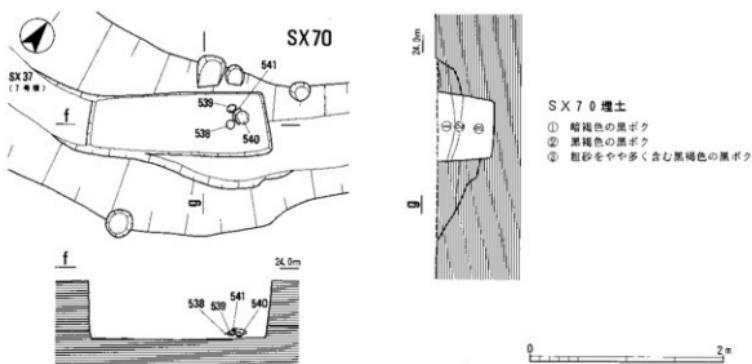
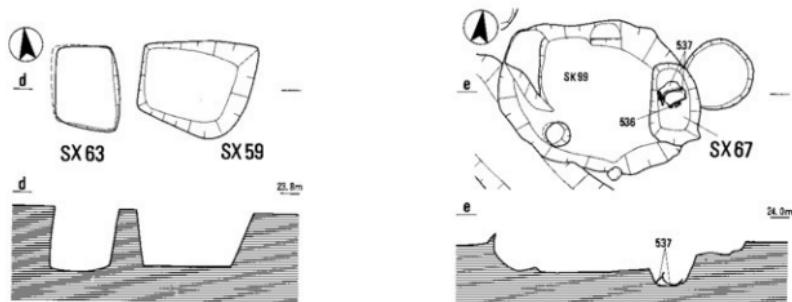
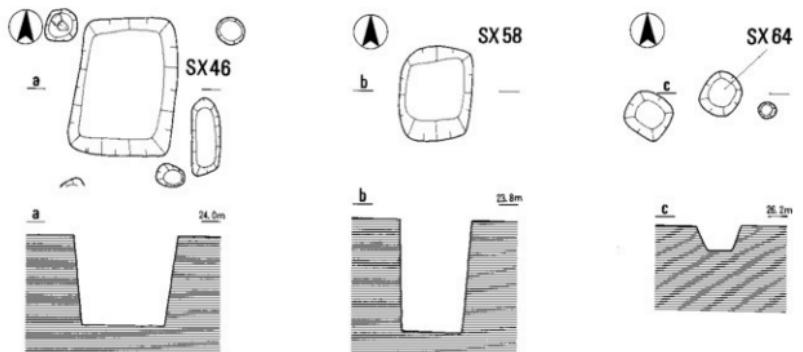
S X58（第47図） S X46の東約9mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約0.95m、短辺約0.75m、底部では一辺約0.6m、検出面からの深さ約1.2mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X59（第47・74図） S X58のすぐ南に位置する。平面形は方形で、深さは比較的浅いがB型としておく。上部では長辺約1.15m、短辺約0.9m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.6mである。墓壙内から土師器小皿C・皿B₂・皿C（529）・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式の鍋（530）が出土している。529は口径が12cm前後で皿B₂に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

S X63（第47・74図） S X59のすぐ西に位置する。平面形は方形で、比較的小規模で深さも浅いがB型としておく、上部では長辺約0.85m、短辺約0.7m、底部では長辺約0.8m、短辺約0.65m、検出面



第46図 SX 5・28・38・40・41・44実測図 (1 : 50)



第47図 SX46・58・59・63・64・67・70実測図 (1 : 50)

からの深さ約0.65mである。墓壙内から土師器小皿B₂・小皿C・皿B₂ (532)・皿C (531)・伊藤分類第1段階b型式の鍋が出土している。II期の墓と思われる。

S X64 (第47・74図) S X44の西約6mに位置する。E型のもので、径約0.45m、検出面からの深さ約0.25mのピット状の墓壙の中に完形の土師器鍋 (534) が納まっていた。この鍋は伊藤分類の第1段階b型式に相当する。他に、土師器小皿C (533)・皿C・知多編年第5型式か第6型式 (13世紀前葉～後葉) の片口鉢、竜泉窯系青磁碗が出土している。III期の墓と思われる。

S X67 (第47・74図) S X46の南約17mに位置する。S K99によって上部がかなり削り取られている。平面形は方形で、現存の上部では長辺約0.8m、短辺約0.5m、底部では長辺約0.6m、短辺約0.3m、検出面からの深さ約0.45mである。B型に近いが小規模であることからE型としておく。墓壙の中には完形の土師器皿B (535・536) とほは完形の土師器鍋 (537) が納まっていた。鍋は伊藤分類の第1段階a型式に相当するものである。他に古墳時代の須恵器片も出土している。II期の墓と思われる。

S X70 (第47・75図) S X46の南約4m、S X37 (7号墳) の周溝の内に位置する。長方形の平面形をもつA型のもので、上部では長辺約1.8m、短辺約0.65m、底部では長辺約1.75m、短辺約0.55m、検出面からの深さ約0.6mである。墓壙内の東端には土師器皿B (540) を蓋とした渥美編年で12世紀中葉とされる山茶碗 (541) が据えられており、その前には土師器小皿B₂が2枚 (538・539) が並べられていた。これらの土器は明らかに供え物を入れた容器として遺体と共に埋納されたものである。I期の墓である。

S X77 (第48・75図) S X67の西南西約11mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約2.1m、短辺約1.3m、底部では長辺約1.65m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.85mである。墓壙内から土師器小皿B₂・皿B₂ (542)・鍋が出土している。II期の墓と思われる。

S X78 (第48・75図) S X77のすぐ東に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長

辺約1.65m、短辺約0.9m、底部では長辺約1.2m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.8mである。墓壙内から土師器小皿B₂ (543)・皿B₂ (544)・鍋、知多産と渥美産の山茶碗、古墳時代の須恵器杯蓋が出土している。I期の墓と思われる。

S X88 (第48図) S X28の南西約17mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。南端付近がS X224によって壊されているため墓壙の全長は不明である。上部では長辺1.8m以上、短辺約0.75m、底部では長辺1.6m以上、短辺約0.6m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はないが、切り合い関係からS D218 (I期) より新しく、S X224 (III期) より古いことがわかる。II期の墓としておく。

S X92 (第48・75図) S B85のすぐ北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.5m、短辺約1m、底部では長辺約1.3m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.75mである。墓壙北西隅の底近くから完形の竜泉窯系青磁碗 (545) が1点出土した。II期かIII期の墓と思われる。

S X94 (第48図) S X70の南西約10mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。上部では長辺約2.6m、短辺約0.9m、底部では長辺約2.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X96 (第49・75図) S X92の南約5mに位置する。円形の平面形をもつE型のもので、径約0.5m、検出面からの深さ約0.2mのピット状の墓壙の中に体部が完形の土師器鍋 (546) が納まっていた。この鍋は口頭部が欠けているが、伊藤分類の第1段階か第2段階のものと思われる。他に遺物は出土していない。II期かIII期の墓と思われる。

S X106 (第49・75図) S X88の南西約18mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.3m、短辺約0.9m、底部は上部よりやや広がり長辺約1.3m、短辺約1.0m、検出面からの深さ約1.1mである。墓壙内の中央付近の埋土がかなりやわらかく、棺桶の使用が想定できるような状況であった。出土遺物には土師器小皿B₂ (548)・小皿C (547)・皿C (549・550)・伊藤分類第1段階b型式の鍋と第2段階c型式の鍋 (551)、知多産

の山茶椀と片口鉢、竜泉窯系青磁椀がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X120 (第49・75図) S X106の南東約30mに位置する。長方形の平面形をもつA型のものである。上部では長辺約2.8m、短辺約1.2m、底部では長辺約2.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壙内から土師器小皿C (552)・皿C (553～555)・杯 (556)・ミニチュア羽釜 (557)・器台柱状部・鍋体部、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶椀、竜泉窯系青磁椀が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X138 (第49・75図) S X106の北約2mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.1m、底部では一辺約1m、検出面からの深さ約0.8mである。墓壙内は後世に掘られた土坑によりかなり下まで攪乱されている。出土遺物には土師器小皿C・皿C (559・560)・鍋がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X139 (第49図) S X138の南南西約4mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.3m、底部では一辺約1.15m、検出面からの深さ約0.75mである。出土遺物はなく時期は不明である。

S X140 (第50・75図) S X139の南東約1mに位置する。長方形の平面形をもつがA型ほど細長くないことからB型としておく。上部では長辺約1.95m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.75m、短辺約0.9mである。SK103と重複しているため、壁の高さは0.25mしか検出されなかつたが、SK103の検出面から測ると深さは約1mとなる。出土遺物には土師器小皿C・皿C (561・562)・伊藤分類第1段階b型式の鍋がある。Ⅲ期の墓と思われる。

S X149 (第50・75・76図) S X106の東北東約8mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約0.95m、底部では長辺約0.85m、短辺約0.65m、検出面からの深さ約0.85mである。墓壙内から土師器小皿B: (566)・小皿C (565)・皿B: (577)・皿C (568～572)・鍋・盤・三足付盤、知多編年第4段階（12世紀末葉～13世紀初頭）の山茶椀、古墳時代の須恵器壺体部片が出土している。568～572はB:に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

れる。

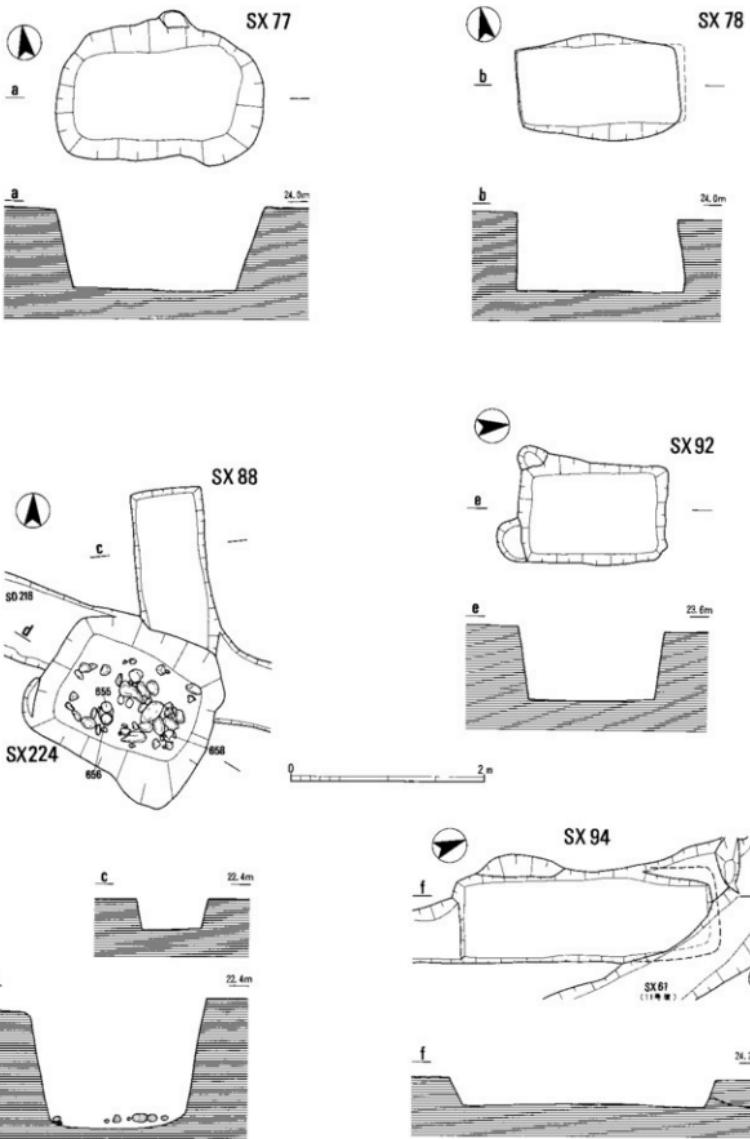
S X151 (第50・76図) S X149のすぐ北に位置し、西側に深さ0.15cm程の浅い土坑が重複している。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約1m、底部では長辺約1m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.35mである。墓壙内から土師器小皿 (577)・小皿B:・小皿C・皿B:・皿C (578)・盤・三足付盤、伊藤分類第1段階a型式 (579)、第1段階b型式 (580)、第2段階a型式の土師器鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀 (583)、竜泉窯系青磁椀、古墳時代の須恵器壺体部片が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X152 (第50・76図) S X151の北約3mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.85m、底部では長辺約0.85m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.75mである。墓壙内から土師器小皿C (584)・皿C・伊藤分類第1段階に相当すると思われる鍋が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

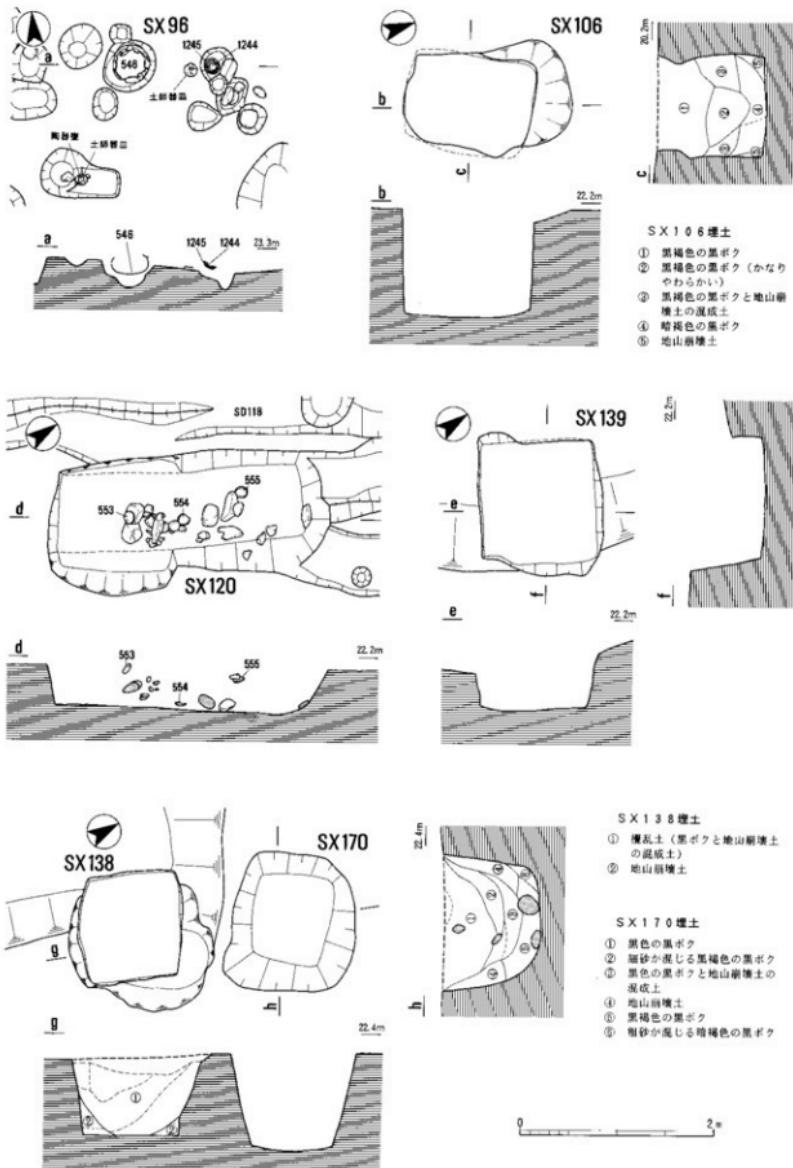
S X162 (第50・76図) S E157の西約3mに位置する。上部の平面形は崩壊のためか不定型であるが、方形の平面形をもつB型と思われる。底部では長辺約0.8m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約1.2mである。墓壙内から土師器小皿C (585～588)・皿B:・皿C (589・590)・伊藤分類（仮）A段階 (591)と第1段階a型式の鍋、知多産の山茶椀と渥美産の片口鉢、竜泉窯系青磁椀が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X165 (第50・76図) S X151のすぐ西北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1.05m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.85m、検出面からの深さ約1mである。墓壙内から土師器小皿B: (592)・小皿C (593・皿B:・皿C (594・595)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (596)、瓦器ミニチュア椀 (598)、知多産の山茶椀、知多編年第6型式（13世紀後葉）の片口鉢 (597)、景德镇産の白磁皿、鉄釘が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

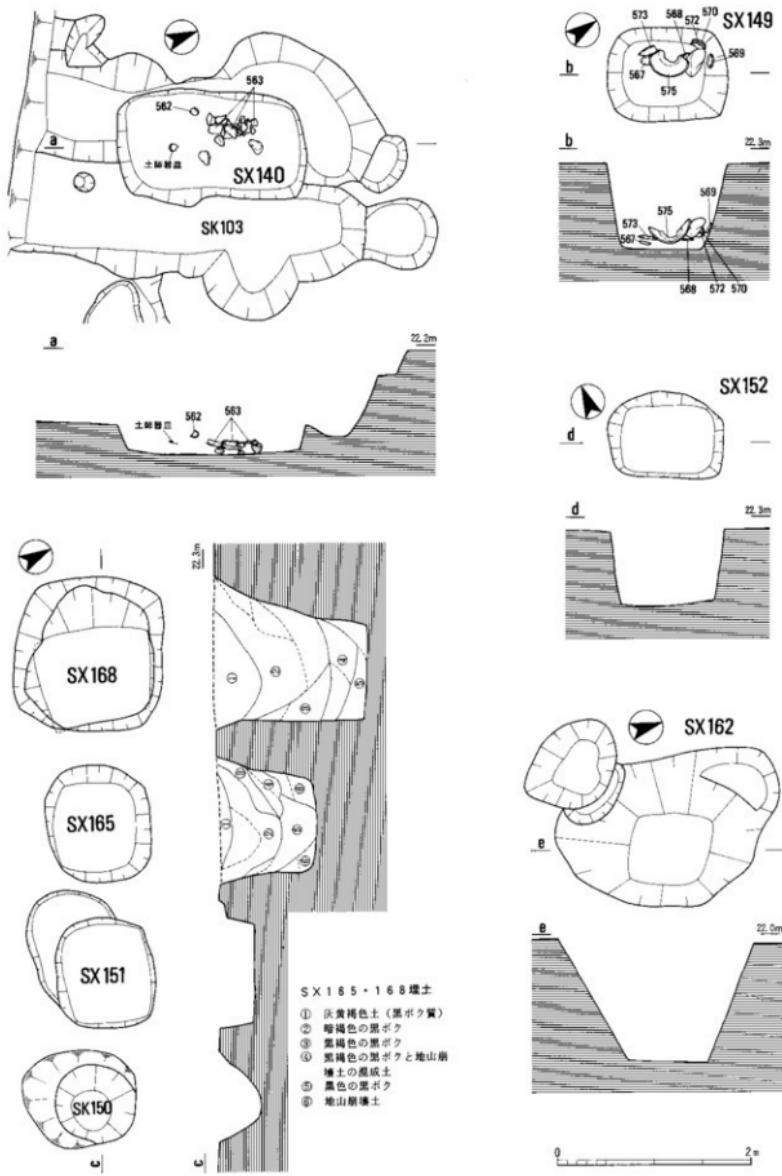
S X166 (第51図・76図) S X152の東北約1mに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1m、底部では長辺約1.1



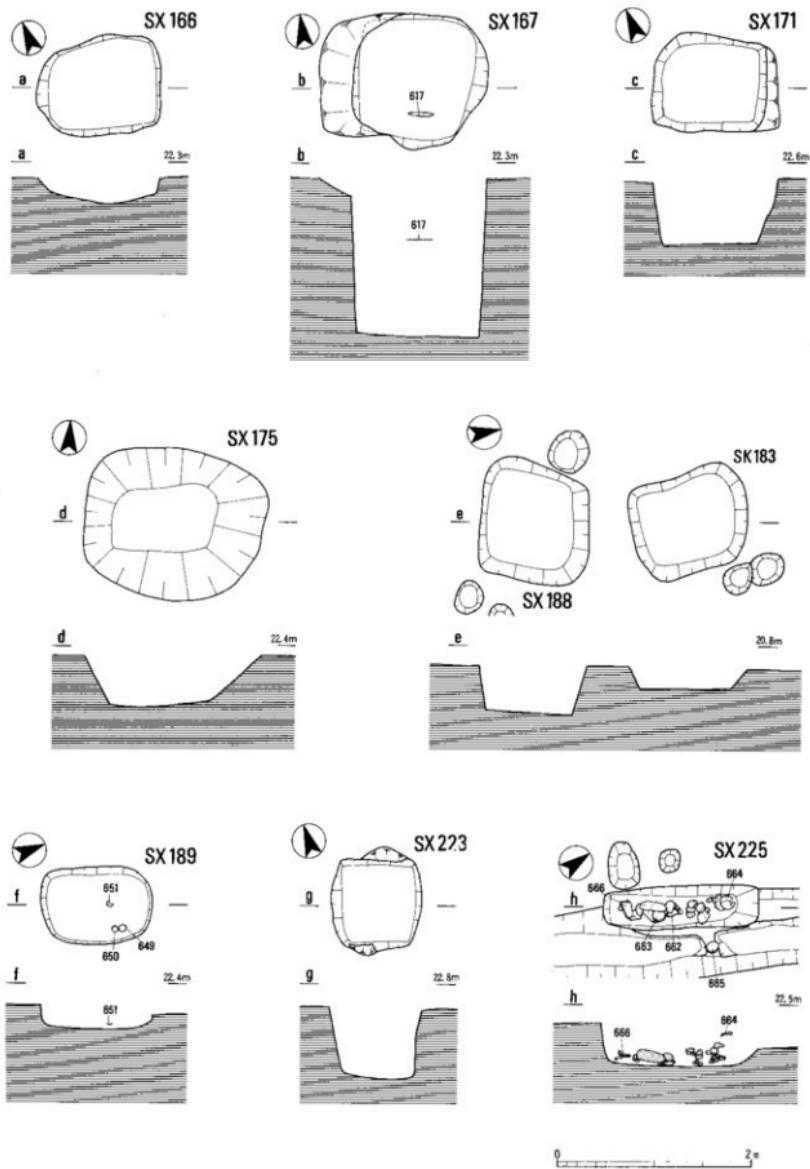
第48図 S X 77・78・88・92・94・224実測図 (1 : 50)



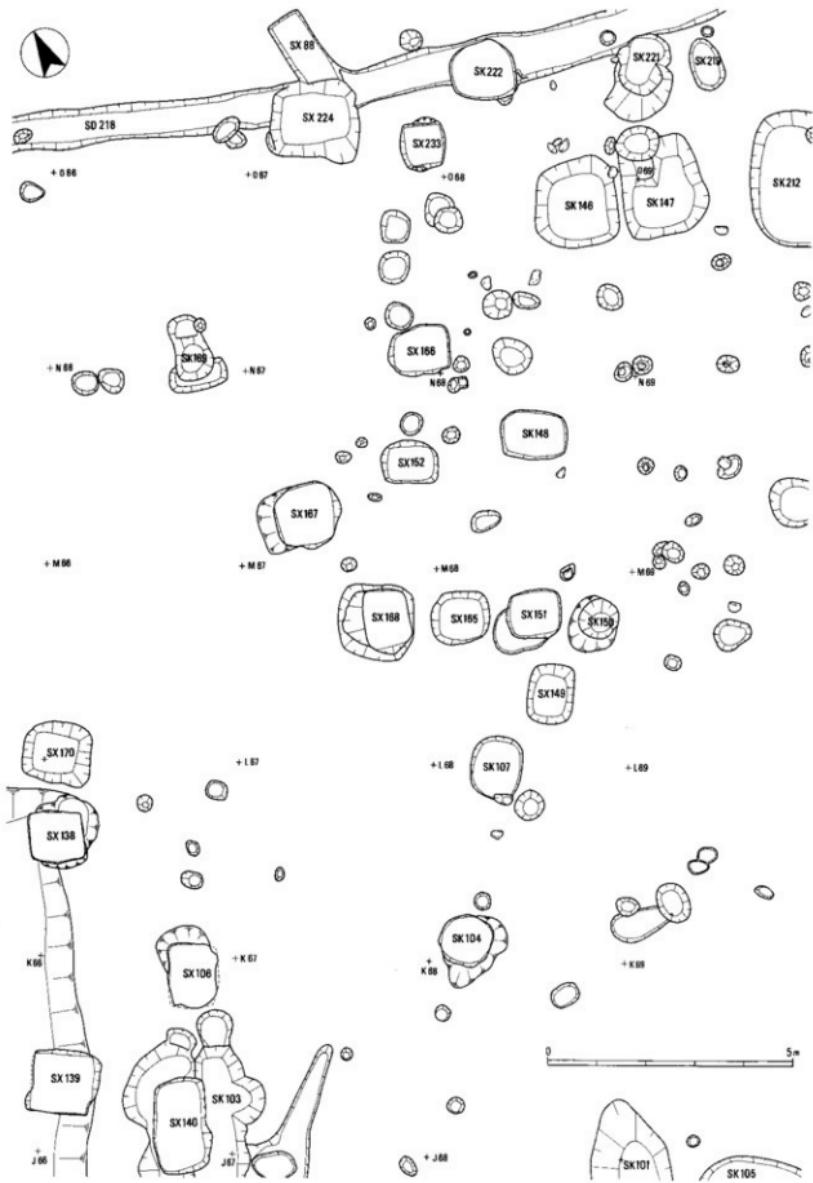
第49図 SX96・106・120・138・139・170実測図 (1 : 50)



第50図 SX140・149・151・152・162・165・168実測図 (1 : 50)



第51図 SX 166・167・171・175・188・189・223・225実測図 (1 : 50)



第52图 S X 168周围中世墓配置图 (1 : 100)

m、短辺約0.95、検出面からの深さ約0.25mである。墓壙埋土には炭が多く混じっていた。墓壙内から土師器小皿C・皿C(600)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の甕、鉄釘、銅鏡が出土した。銅鏡は開元通寶2枚(600・601)、真書体の天聖元寶1枚(603)・篆書体の天聖元寶1枚(604)・篆書体の景祐元寶1枚(605)・篆書体の治平元寶2枚(606・607)・真書体の熙寧元寶1枚(608)・真書体の元豐通寶1枚(609)・篆書体の元豐通寶2枚(610)・真書体の元符通寶2枚(611)・篆書体の聖宋元寶と思われるもの1枚(612)、篆書体の政和通寶1枚(613)、文字が解読不明のもの1枚あるいは2枚の合計16枚か17枚ある。Ⅳ期の墓と思われる。

S X167 (第51・76図) S X152の西約1mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約1.35m、底部では一辺約1.15m、検出面からの深さ約1.6mである。墓壙内から土師器小皿C(614)・皿C(615・616)、伊藤分類第1段階b型式の鍋(598)、知多産と思われる山茶碗と甕、竜泉窯系青磁碗、鉄製の小刀(617)、鉄釘が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X168 (第50・77図) S X165のすぐ北西に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部は崩壊によるものか不定型であるが、底部では長辺約1.15m、短辺約0.95m、検出面からの深さ約1.6mである。墓壙内から土師器小皿B(618～620)・小皿C・皿B(621～626)・皿C(627～630)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(631)と第2段階a型式の鍋、瓦器ミニチュア羽釜(632)、渥美産と思われる入子(633)、知多編年第4型式(12世紀末葉～13世紀初頭)の山茶碗(634)、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶碗(635)、知多産の甕、竜泉窯系青磁碗、鉄製の小刀(636)がある。Ⅱ期の墓と思われる。

S X170 (第49・77図) S X138のすぐ北に位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.4m、短辺約1.25m、底部では長辺約0.9m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.95mである。墓壙内から土師器小皿C・皿C(637)・羽釜(638・639)・甕、知多編年第6型式(13世紀後葉)の片口鉢(640)、青磁皿が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X171 (第51図) S X120の東南東約25mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.95m、底部では長辺約0.95m、短辺約0.8m、検出面からの深さ約0.65mである。墓壙内から土師器小皿B・皿B・知多産の山茶碗が出土している。Ⅱ期の墓と思われる。

S X175 (第51・77図) S X28の北西約20mに位置する。上部の平面形は崩壊のためか不定型であるが、方形の平面形をもつと思われる。B型とも考えられるがD型としておく。底部では長辺約1m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.5mである。墓壙内から土師器皿C(641・642)・伊藤分類第1段階a型式(643)と第1段階b型式(644)の鍋、知多産の片口鉢が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X188 (第51・77図) 調査区の東端近くに位置する。方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.2m、短辺約1.1m、底部では一辺約0.9m、検出面からの深さ約0.45mである。墓壙内から土師器小皿C(645・646)・皿C(647)・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式と思われる鍋、知多産の山茶碗、鉄釘、砥石(648)が出土している。Ⅳ期の墓と思われる。

S X189 (第51・77図) S X171の北北東約16mに位置する。橢円形に近い隅丸方形の平面形をもつD型のもので、上部では長辺約1.15m、短辺約0.75m、底部では長辺約1.05m、短辺約0.65m、検出面からの深さ約0.2mである。墓壙内から土師器小皿C(649～651)が出土した。Ⅲ期かⅣ期の墓と思われる。

S X223 (第51・77図) S X88の南南東約1.5mに位置する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では一辺約0.9m、底部では一辺約0.75m、検出面からの深さ約0.7mである。墓壙内から土師器小皿C・皿B(653)・皿C(652)・鍋、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶碗、13世紀後半とされる竜泉窯系青磁碗が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

S X224 (第48・78図) S X88の南西に重複する。方形の平面形をもつB型のもので、上部では長辺約1.8m、短辺約1.5m、底部では長辺約1.4m、短辺約1m、検出面からの深さ約1.3mである。底面

遺構名	位置	平面形	型	現 備	出 土 遺 物	時 期	備 考
SX 5	T + U 88	椭円形		上部=長軸0.95m×短軸0.8m 底部=長軸0.85m×短軸0.7m 深さ=0.3m	土器器小皿C・皿C・鍋、陶器山茶碗	田期	
SX 2 8	S 69・70	方 形	D	上部=長辺2.0m×短辺1.6m 底部=長辺1.65m×短辺1.2m 深さ=0.3m	土器器小皿C・皿C・鍋、陶器盤、青磁碗、須恵器残片?	田期	墓溝内に集石
SX 3 8	W 59	方 形	D	上部=長辺1.3m×短辺1.2m 底部=長辺0.95m×短辺0.85m 深さ=0.4m	陶器口茶碗・片口鉢・甕、須恵質蓋・瓦質火鉢、青磁碗、白磁四足壺、土製火鉢・平瓦、須恵器杯蓋、杯等、土器器小皿チアホウ	I期	墓溝内に集石
SX 4 0	V 29	方 形	D	上部=長辺1.3m×短辺1.1m 底部=長辺1.1m×短辺0.8m 深さ=0.7m	土器器小皿C・皿B・皿B・皿C・鍋、陶器山茶碗	II期	
SX 4 1	T 20・21	方 形	D	上部=長辺1.2m×短辺0.75m 底部=長辺1.1m×短辺0.55m 深さ=0.1m	土器器小皿C・皿C・鍋、漆器	IV期以降	
SX 4 4	U + V 25	椭円形	C	上部=長軸1.15m×短軸1m 底部=長軸1.15m×短軸1m 深さ=0.7m	土器器小皿C・皿B・皿C・陶器山茶碗・甕・折縁深皿・青磁碗	田期	墓溝内に集石
SX 4 6	W 46・47	方 形	D	上部=長辺1.4m×短辺1m 底部=長辺1.3m×短辺0.8m 深さ=0.9m	土器器小皿A・皿B・皿C・皿B・皿C・鍋、陶器山茶碗・山茶碗	田期	
SE 5 6	R 39・40	円 形	C	上部=直径1.1m 底部=直径0.9m 深さ=1.5m	土器器小皿B・皿B・鍋、陶器山茶碗・山茶碗	I期	井戸としたが中世墓か
SE 5 7	R 40	円 形	C	上部=直径1.4m 底部=直径1.3m 深さ=1.3m	土器器小皿B・皿B・皿C・鍋、陶器山茶碗・山茶碗	田期	井戸としたが中世墓か
SX 5 8	X 49	方 形	B	上部=長辺0.95m×短辺0.75m 底部=長辺0.6m 深さ=1.2m	—	不明	
SX 5 9	W 49	方 形	B	上部=長辺1.15m×短辺0.9m 底部=長辺0.9m×短辺0.7m 深さ=0.6m	土器器小皿C・皿B・皿C・鍋	田期	
SX 6 3	W 49	方 形	B	上部=長辺0.85m×短辺0.7m 底部=長辺0.8m×短辺0.65m 深さ=0.65m	土器器小皿B・皿C・皿B・皿C・鍋	田期	
SX 6 4	U 24	円 形	E	上部=直径0.45m 底部=0.25m	土器器小皿C・皿C・鍋、陶器片口鉢・青磁碗	田期	
SX 6 7	S 48	方 形	E	上部=長辺0.8m×短辺0.5m 底部=長辺0.6m×短辺0.3m 深さ=0.45m	土器器温湯B・鍋、須恵器残?	田期	
SX 7 0	V 47	長方形	A	上部=長辺1.8m×短辺0.65m 底部=長辺1.75m×短辺0.55m 深さ=0.6m	土器器小皿B・皿B・陶器山茶碗	I期	
SX 7 7	P + Q 46	方 形	B	上部=長辺2.1m×短辺1.3m 底部=長辺1.65m×短辺0.9m 深さ=0.85m	土器器小皿B・皿B・鍋	田期	
SX 7 8	Q 47	方 形	B	上部=長辺1.65m×短辺0.9m 底部=長辺1.2m×短辺0.8m 深さ=0.8m	土器器小皿B・皿B・陶器山茶碗・須恵器杯蓋	I期	
SX 8 3	R 52	方 形	D	上部=長辺1.5m×短辺1.1m 底部=長辺1.5m×短辺0.75m 深さ=0.35m	土器器小皿B・皿B	田期	土坑としたが中世墓か
SX 8 8	O 67	長方形	A	上部=長辺1.8m以上×短辺0.75m、 底部=長辺1.6m以上×短辺0.6m 深さ=0.3m	—	田期?	
SX 9 2	R + S 54・55	方 形	B	上部=長辺1.5m×短辺1m 底部=長辺1.3m×短辺0.8m 深さ=0.75m	青磁碗	II期か田期	
SX 9 4	S + T 45・46	長方形	A	上部=長辺2.6m×短辺0.9m 底部=長辺2.5m×短辺0.3m 深さ=0.3m	—	不明	
SX 9 6	Q 55	円 形	E	上部=直径0.5m 底部=0.2m	土器器鍋	II期かIII期	
SK 1 0 4	K 68	円 形	C	上部=直径1.1m 底部=直径1m 深さ=1.5m	土器器小皿A・皿B・皿C・台付小皿・皿C・三足付盆・盆釜・鍋、陶器山茶碗・片口鉢・青磁碗、白磁合子・絆粒砂岩製四葉瓶	田期	土坑としたが中世墓か
SX 1 0 6	J + K 66	方 形	B	上部=長辺3m×短辺0.9m 底部=長辺3m×短辺1.0m 深さ=1.1m	土器器小皿B・皿C・鍋、陶器山茶碗・片口鉢・青磁碗	田期	
SX 1 2 0	I 74	長方形	A	上部=長辺2.3m×短辺1.2m 底部=長辺2.5m×短辺0.75m 深さ=0.4m	土器器小皿C・皿C・杯・ミニチュア羽釜・器台・鍋、陶器山茶碗・青磁碗	田期	

第6表 中世墓一覧

遺構名	位置	平面形	型	測 定 規	出 土 遺 物	時 期	備 考
SX138	K 65・66	方 形	B	上部=長21.1m 底部=長21.1m 深さ=0.8m	土器器小皿C・皿C・鍋	Ⅳ期	
SX139	J 66	方 形	B	上部=長21.3m 底部=長21.15m 深さ=0.75m	—	不明	
SX140	I・J 66	方 形	B	上部=長21.95m×幅21.1m 底部=長21.75m×幅20.9m 深さ=1m	土器器小皿C・皿C・鍋	Ⅳ期	
SK148	M 68	方 形	D	上部=長21.35m×幅21.1m 底部=長21.25m×幅20.9m 深さ=0.1m	—	不明	土壤とした が中世墓か
SX149	I. 68	方 形	B	上部=長21.2m×幅20.95m 底部=長20.85m×幅20.65m 深さ=0.85m	土器器小皿B ₁ ・小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・盤・ 三足付盤・陶器山茶碗・片口鉢・青磁碗・ 須恵器盤	Ⅳ期	
SX151	L 68	方 形	D	上部=長21.15m×幅21.1m 底部=長21.1m×幅20.9m 深さ=0.35m	土器器小皿・小皿B ₁ ・小皿C・皿B ₁ ・皿C・盤・ 三足付盤・鍋・陶器山茶碗・片口鉢・青磁碗・ 須恵器盤	Ⅳ期	
SX152	M 67	方 形	B	上部=長21.15m×幅20.85m 底部=長20.85m×幅20.7m 深さ=0.75m	土器器小皿C・皿C・鍋	Ⅳ期	
SE157	N 75	方 形	B	上部=長21.3m×幅21.1m 底部=長20.8m×幅20.7m 深さ=1.6m	土器器小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・三足付盤・瓦 賀大林・陶器山茶碗・片口鉢・四耳壺・甕・青磁 碗・石鍋・砾石・鉄釘	Ⅳ期	井戸とした が中世墓か
SX162	N 73・74	方 形	B	底部=長20.8m×幅20.7m 深さ=1.2m	土器器小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・陶器山茶碗・ 片口鉢・青磁碗	Ⅳ期	
SX165	L 68	方 形	B	上部=長21.2m×幅21.06m 底部=長20.9m×幅20.85m 深さ=1m	土器器小皿B ₁ ・小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・瓦器 ミニチャーブ・陶器山茶碗・片口鉢・山田皿・鉄 釘	Ⅳ期	
SX166	N 67	方 形	D	上部=長21.2m×幅21.1m 底部=長21.1m×幅20.95m 深さ=0.25m	土器器小皿C・皿C・鍋・陶器山茶碗・ 片口鉢・青磁碗	Ⅳ期	
SX167	M 67	方 形	B	上部=長21.35m 底部=長21.15m 深さ=1.6m	土器器小皿C・皿C・鍋・陶器山茶碗・甕・青磁 碗・小刀・鉄釘	Ⅳ期	
SX168	L 67・68	方 形	B	底部=長21.15m×幅20.95m 深さ=1.6m	土器器小皿B ₁ ・小皿C・鍋・瓦器ミニチャーブ ・陶器山茶碗・片口鉢・山田皿・甕・青磁碗・小刀	Ⅳ期	
SX170	K・L 65・66	方 形	B	上部=長21.4m×幅21.25m 底部=長20.9m×幅20.8m 深さ=0.95m	土器器小皿C・皿C・羽釜・盤・陶器片口鉢・青 磁皿	Ⅳ期	
SX171	I. 83	方 形	B	上部=長21.15m×幅20.95m 底部=長20.95m×幅20.8m 深さ=0.65m	土器器小皿B ₁ ・皿B ₁ ・陶器山茶碗	Ⅳ期	
SX175	V 64・65	方 形	D	底部=長21.1m×幅20.7m 深さ=0.5m	土器器皿C・鍋・陶器片口鉢	Ⅳ期	
SK183	M 87	方 形	B	上部=長21.2m×幅21.1m 底部=長21.1m×幅20.75m 深さ=0.2m	土器器小皿C・皿C・鍋・陶器山茶碗・片口鉢・ 砾石	Ⅳ期	
SX188	M 87・88	方 形	B	上部=長21.2m×幅21.1m 底部=長20.9m×幅20.9m 深さ=0.45m	土器器小皿C・皿C・鍋・陶器山茶碗・鉄釘・砾 石	Ⅳ期	
SX189	M 82	方 形	B	上部=長21.15m×幅20.75m 底部=長20.65m×幅20.65m 深さ=0.2m	土器器小皿C	Ⅳ期かⅤ期	
SE207	O 75	円 形	C	上部=直径1.6m 底部=直径1m 深さ=2m	土器器小皿C・皿C・鍋・陶器山茶碗・青磁碗・ 鉄釘	Ⅳ期かⅤ期	井戸とした が中世墓か
SK221	O 68・69	橢円形	D	上部=長軸1.25m×短軸0.9m 底部=長軸1m×短軸0.6m 深さ=0.3m	土器器小皿C・皿C・鍋・甕?	Ⅳ期	土壤とした が中世墓か
SX223	O 67・68	方 形	B	上部=長20.9m 底部=長20.75m 深さ=0.7m	土器器小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・陶器山茶碗・ 青磁碗	Ⅳ期	
SX224	O 67	方 形	B	上部=長21.8m×幅21.5m 底部=長21.4m×幅21.1m 深さ=1.3m	土器器小皿C・皿C・鍋・陶器山茶碗	Ⅳ期	
SX225	M・N 74	長方形	A	上部=長21.6m×幅20.45m 底部=長21.3m×幅20.35m 深さ=0.4m	土器器小皿C・皿B ₁ ・皿C・鍋・陶器片口鉢・ 鉄釘	Ⅳ期	

には小石と灰混じりの砂屑が約0.1mの厚さでみられ、その直上から拳大から人頭大の石が多く検出された。出土遺物には土師器小皿C・皿C (655~658)・伊藤分類第1段階a型式の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀 (660)、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山茶椀が出土している。土師器小皿・皿はいずれもB₂に近い。Ⅲ期の墓と思われる。

S X225 (第51・78図) S X162のすぐ南東に位置する。長方形の平面形をもつA型と思われるが小規模である。上部では長辺約1.6m、短辺約0.45m、底部では長辺約1.3m、短辺約0.35m、検出面からの深さ約0.4mである。墓壙内から土師器小皿C・皿B₂ (665)・皿C (662~664)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、12世紀末葉頃の渥美産片口鉢 (666)、鉄釘 (667) が出土している。Ⅲ期の墓と思われる。

5. 土 坑

調査区内には土坑として遺構番号を付したもののが72基ある。そのうちの70基は出土遺物から中世のものとされたが、少量の土器片が出土しただけの土坑については時期は確定しがたい。

S K12 (第16・78図) S X15 (4号墳) と重複する。平面形は楕円形で、長軸約8m、短軸約5m、検出面からの深さ約1mである。北側が調査区外へのびる。四周の壁の上部が内側へオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物には土師器小皿B₁ (670)・小皿B₂ (668・669)・皿B₂ (671・674)・伊藤分類第1段階b型式 (676)と第2段階b型式 (677)の鍋、鍋蓋のつまみか椀の高台 (675)、知多編年第4型式 (12世紀末葉~13世紀初頭) と思われる山皿 (678)・山茶椀 (682)・片口鉢 (683)、渥美編年で12世紀後葉から末葉とされる山茶椀 (680・681)、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿 (679)、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の須恵器甕がある。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K22 (第16・78図) S D 8 東端の土坑群の中の1つである。平面形は楕円形で、長軸約1.2m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約0.6mである。土師器小皿C (684・685)と皿C (686~688)が出土した。いずれも完形あるいはほぼ完形で、形態の特徴はB₂に近い。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K26 (第23・78図) S B24の東約3mに位置する。長軸約1.4m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.3mの楕円形に近い平面形をもつ土坑で、底部は船底状になっている。土坑内からは完形あるいは完形に近い土師器小皿B₂ (689)・皿B₂ (690・691)・皿C (692)の他、土師器小皿C・鍋、山茶椀、片口鉢の小片が出土した。Ⅱ期の土坑である。

S K29 (第23・78図) S K26の北北西約12mに位置する。平面形はやや形の崩れた一辺約2mの方形で、検出面からの深さは約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C (693)・羽釜・鍋 (694)がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K30 (第23・78図) S K29の南端に重複する。平面形は円形で、径約1m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は全て小片で、土師器皿・鍋、渥美産の山皿・山茶椀 (695)、知多産と思われる山茶椀がある。Ⅰ期かⅡ期の土坑であろう。

S K31 (第23・78図) S K29の西端に重複する。平面形は円形で、径約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿C (696)・皿B₂ (697)・皿C・陶器壺がある。Ⅱ期かⅢ期の土坑と思われる。

S K45 (第53・63・78図) 調査区の西端近くに位置する。平面形は方形で、長辺約3.6m、短辺約2.5m、検出面からの深さ約1.8mである。出土遺物には土師器小皿B₁ (698~700)・皿A (702)・皿B₁ (701)・鍋 (703~705)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀初頭とされる山皿 (706・707)・山茶椀 (707)、渥美産と知多産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗、古墳時代の業臘石製紡錘車 (44) がある。土師器鍋は伊藤分類第1段階a型式のものがほとんどである。Ⅰ期の土坑と思われる。

S K48 (第11・79図) S X95 (15号墳) の周溝と重複する円形の平面形をもつ土坑で、径約1.6m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿B₁ (708)・皿B₁ (709~711)・伊藤分類第1段階a型式の鍋 (712)・渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿 (713)・山茶椀 (714)、渥美産の壺、土製支脚 (715) がある。Ⅰ期の土坑と思われる。

S K65 (第13・79図) S X61 (11号墳) の墳域

内に位置する土坑である。平面形は長軸約1.7m、短軸約1.2mの不定形で、検出面からの深さは約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B1(716・717)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀前葉)の山茶皿(718)がある。I期の土坑と思われる。

S K 66(第13・79図) S K 65の南に隣接する土坑である。平面形は東西に長い楕円形で、長軸約2.6m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物には土師器小皿B1(719)・皿B1(720)がある。I期の土坑と思われる。

S K 69(第13・79図) S K 65・S K 66と重複する平面形が楕円形の土坑で、長軸約1.4m、短軸約1m、検出面からの深さ約0.6mである。出土遺物には土師器小皿B1・皿B1(721)がある。I期の土坑と思われる。

S K 80(第13図) S X 78のすぐ南に位置する土坑である。平面形は長軸約2m、短軸約1.3mの不定形で、検出面からの深さは約0.2mである。出土遺物は土師器小皿C・皿C・鍋の細片のみである。III期かIV期の土坑と思われる。

S K 81(第53・79図) S X 78の東約7.5mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約3.3m、短辺約2m、底部では長辺約3m、短辺約1.7m、検出面からの深さ約0.2mである。底面には人頭大の結晶片岩が散乱した状態でみられた。出土遺物には土師器小皿C(722~724)・皿B2・皿C(725・726)、伊藤分類第1段階a型式(727)、第2段階a型式(728)・第2段階c型式の土師器鍋、知多産の山茶椀・片口鉢がある。III期の土坑と思われる。

S K 83(第53・79図) S K 81の東南東約8mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.5m、短辺約1.1m、底部では長辺約1.5m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.35mである。D型の中世墓としたほうがよいかもしれない。出土遺物には土師器小皿B1(729~730)・皿B1(731)がある。II期の遺構と思われる。

S K 84(第53・79図) S K 83の南約10mに位置する楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約1.7m、短軸約1.3m、検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物には土師器小皿B1・皿B1(732)、渥美産の壺がある。I期の土坑と思われる。

S K 86(第53・79図) S K 84の北東約24mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1m、短軸約0.7m、検出面からの深さは約0.15mである。出土遺物には土師器小皿B1(733)・皿C(734)・鍋、知多産の片口鉢がある。III期の土坑と思われる。

S K 89(第53・79図) S K 86の南約8mに位置する楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約1.5mである。底面には集石がみられた。出土遺物には土師器小皿C・皿C(735)・鍋、渥美産の山茶椀、知多産の壺がある。III期の土坑と思われる。

S K 99(第47図) S X 67と重複する。平面形はほぼ楕円形で、長軸約2.1m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約0.3mである。四周の壁の上部が内側へオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物はない。切り合い関係からS X 67(二期)より新しいことがわかる。

S K 101(第57・79図) S X 40の南東約8mに位置する溝状の土坑で、南側が調査区内へのびる。長さは4m以上、幅は約1.7m、検出面からの深さは約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C(736)・皿C(737)がある。III期かIV期の土坑と思われる。

S K 102(第57図) S K 101のすぐ南東に位置する。南西側は調査区外へのびるが平面形は円形と思われる。径約1.8m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は細片ばかりで、土師器小皿C・皿C・鍋がある。III期かIV期の土坑と思われる。

S K 103(第50・79・80図) S X 40と重複する土坑で、南西側は調査区外へのびる。平面形は不定形で、長さ約3.5m以上、幅約2m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物は多く、土師器小皿C(738~742)・皿B1・皿C(743~758)・盤(768)・三足付盤・羽釜(767)・伊藤分類第1段階b型式(761~766)と第2段階a型式(759・760)に相当する鍋、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の山茶椀(769)、渥美編年で12世紀代とされる三筋文系壺(772)と13世紀前葉とされる山茶椀(770)・片口鉢(771)、13世紀後葉から14世紀初頭とされる竈泉窯系青磁碗(773)、鉄釘がある。土師器小皿・皿で口縁部が1/3以上残存しているものは、小皿では小皿C=13点(平均口径7.6cm、器高

1.1cm)、皿では皿B₂=1点、皿C=26点(平均口径11.6cm、器高2.6cm)の計27点である。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K104(第54・80図) S K103の東約5mに位置する。C型の中世墓とすべき円形の平面形をもつ深い土坑で、上部では径約1.1m、底部では径約1m、検出面からの深さ約1.5mである。出土遺物には土師器小皿A(774)・小皿B(775)・小皿C(776・777)・台付小皿(778)・皿C(779~782)・三足付盤(786)・羽釜(784・785)・伊藤分類第1段階b型式の鍋(783)、知多編年第4型式(12世紀末葉~13世紀初頭)の片口鉢、知多編年第6型式(13世紀後葉)の山茶椀(787)、竜泉窯系青磁碗(788)、景德鎮産の牡丹文平形白磁合子、細粒砂岩製四系甌(789)がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K105(第57・81図) S K101のすぐ東に位置する。平面形は円形で、径約2.5m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(790~792)、知多産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K107(第52図) S K104の北東約2.5mに位置する。楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸約1.3m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器皿B₂の小片と鉄釘1本のみである。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K108(第58図) 調査区の南東端近くに位置する溝状の土坑で、南西側が調査区外へのびる。長さ2.5m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は土師器小皿C・皿Cの細片のみである。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K111(第58・81図) S K108の北約4mに位置する溝状の土坑で、南側が調査区外へのびる。長さ3m以上、幅約1.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(793・794)・鍋がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K114(第35・81図) S B131と重複する。平面形は円形で、径約2m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物は小片ばかりで、土師器小皿C・皿C(795)・伊藤分類第1段階a型式(796)と第2段階c型式(797)の鍋、知多編年第5型式から第6型式(13世紀前葉~後葉)の山皿(798)・山茶

椀・片口鉢がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K115(第57・81図) S K114の西約7.5mに位置する。平面形はややいびつな楕円形で、長軸約1.6m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C(799)・伊藤分類第1段階a型式の鍋(800)、知多編年第5型式(13世紀前葉)の山茶椀(801)、渥美産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K122(第57・81図) S K115の西南西約11mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約2.8m、短軸約2.3m、検出面からの深さ約0.8mである。底部には約0.2mの厚さで埴山崩壊土が堆積しており、その上は単純な黒ボク層である。四周の壁の上部が内側に大きくオーバーハングしていることから、土取り穴と思われる。出土遺物には土師器小皿B₂(802)・小皿C(803・804)・皿C(805)・伊藤分類第1段階b型式(806)と第2段階b型式(807)の鍋、知多編年第5型式と第6型式(12世紀末葉~13世紀前葉)の山茶椀(808・809)、瀬戸产鉢皿、竜泉窯系青磁碗、福建省產白磁碗、鉄釘、古墳時代の甌がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K123(第57・81図) S K122の北約5mに位置する。平面形はいびつな円形で、径約1.7m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C(810)・皿B₂(811・812)・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の山茶椀・13世紀後葉から14世紀初頭とされる竜泉窯系青磁碗(813)、土製支脚、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K124(第57図) S K123のすぐ北に位置する。平面形は円形で、径約1.6m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿C・盤・鍋、知多産の甌、竜泉窯系青磁碗がある。Ⅲ期かⅣ期の土坑と思われる。

S K129(57頁) 挖立柱建物S B128に伴う土坑である。

S K130(第54・81図) S K129のすぐ南西に位置する。平面形はやや細長い不定形で、長軸約2.9m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.35mである。出土遺物には土師器小皿B₂(814・815)・皿B₂(816)・皿C・盤(818)・器台柱状部・伊藤分類第1段階a型式(817)と第1段階b型式の鍋、

渥美編年で13世紀前葉とされる山皿（819）・山茶椀、知多編年第5型式（13世紀前葉）と第6型式（13世紀後葉）の山茶椀（820・821）、竜泉窯系青磁椀があるⅡ期の土坑と思われる。

S K135（第57・81図） S E57の南約3mに位置する。平面形は細長い楕円形で、長軸約2m、短軸約0.8m、深さ約0.3mである。出土遺物は土師器皿の細片と伊藤分類第1段階a型式の鍋（822）のみである。Ⅰ期かⅡ期の土坑と思われる。

S K144（第55・81・82図） S E134の南東約2mに位置する長軸約1m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約0.5mの土坑から遺物が集中して出土した。出土遺物は土師器小皿C（823～828）・皿C（829～836）・伊藤分類第1段階b型式と思われる鍋（837）、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿（838）・山茶椀（839～841）・片口鉢（843）・知多編年第4型式（12世紀末葉～13世紀初頭）の片口鉢（842）・壺、軒丸瓦（844）、竜泉窯系青磁椀がある。これらの遺物の中にはS K144とS K161との間にある土坑状の窪みから出土したものも多数混入してしまった。

S K146（第52・82図） S E134の北東約6mに位置する。平面形は方形で、一辺約1.7m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B₁（845）・小皿C・皿B₂（846）・皿C（847）・伊藤分類第1段階b型式と第2段階c型式（848）の鍋がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K147（第52・82図） S E146のすぐ東に位置する。平面形はややいびつな方形で、長辺約2m、短辺約1.6mである。底部は2段になっており、検出面からの深さは約0.35mと約0.5mである。出土遺物には土師器小皿C（849）・皿C（850）・鍋、知多産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K148（第54図） S E146の南西約3.5mに位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.35m、短辺約1m、底部では長辺約1.25m、短辺約0.9m、検出面からの深さ約0.1mである。埋土には炭が多く認められた。D型の中世墓である可能性も考えられる。出土遺物はない。

S K150（第50・82図） S X151のすぐ南東に位置する。平面形は円形で、径約0.8m、検出面から

の深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C（851・852）・皿C（853）・盤・ミニチュア器台柱状部・伊藤分類1段階b型式の鍋（854）、渥美編年の大、知多産の壺、瀬戸産の灰釉平椀、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

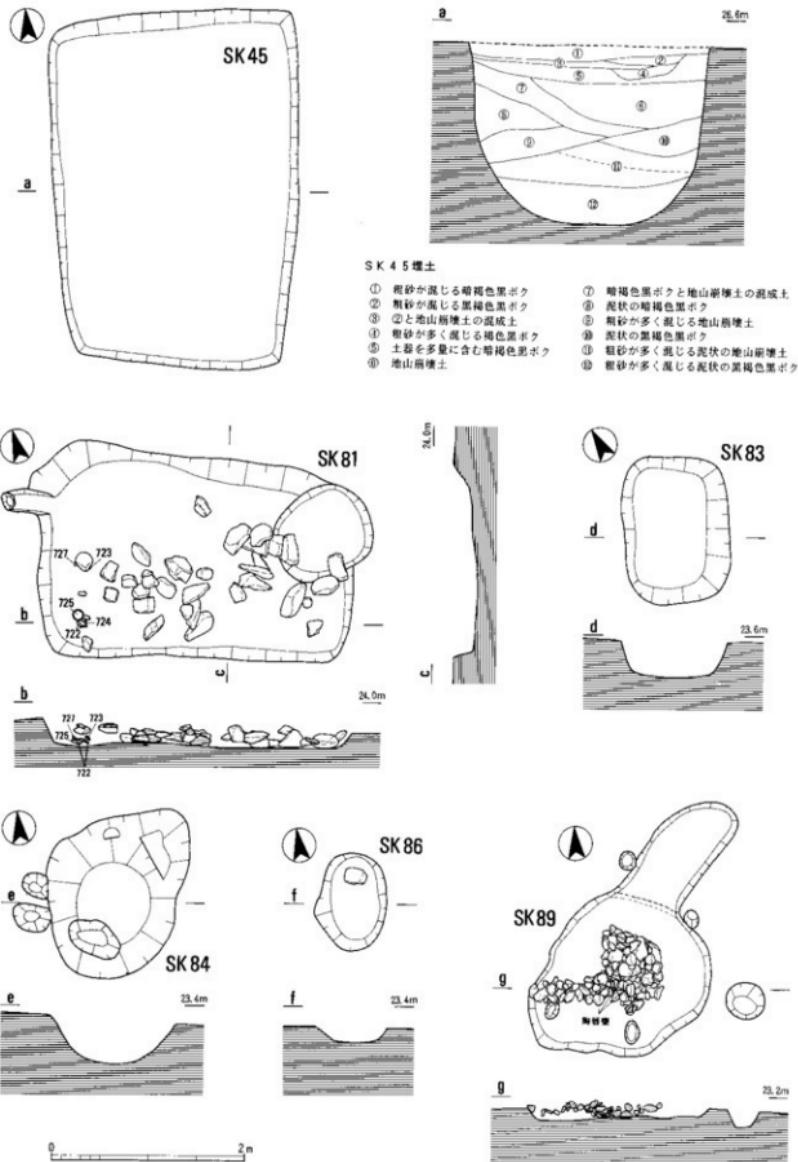
S K153（64頁） 捩立柱建物S B159に伴う土坑である。

S K154（第38・82図） S K153の北東約2.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.1m、短軸約0.95m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿B₁（855）・小皿C・皿B₂・伊藤分類第1段階b型式の鍋（856）、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶椀（857・858）が出土している。Ⅱ期の土坑と思われる。

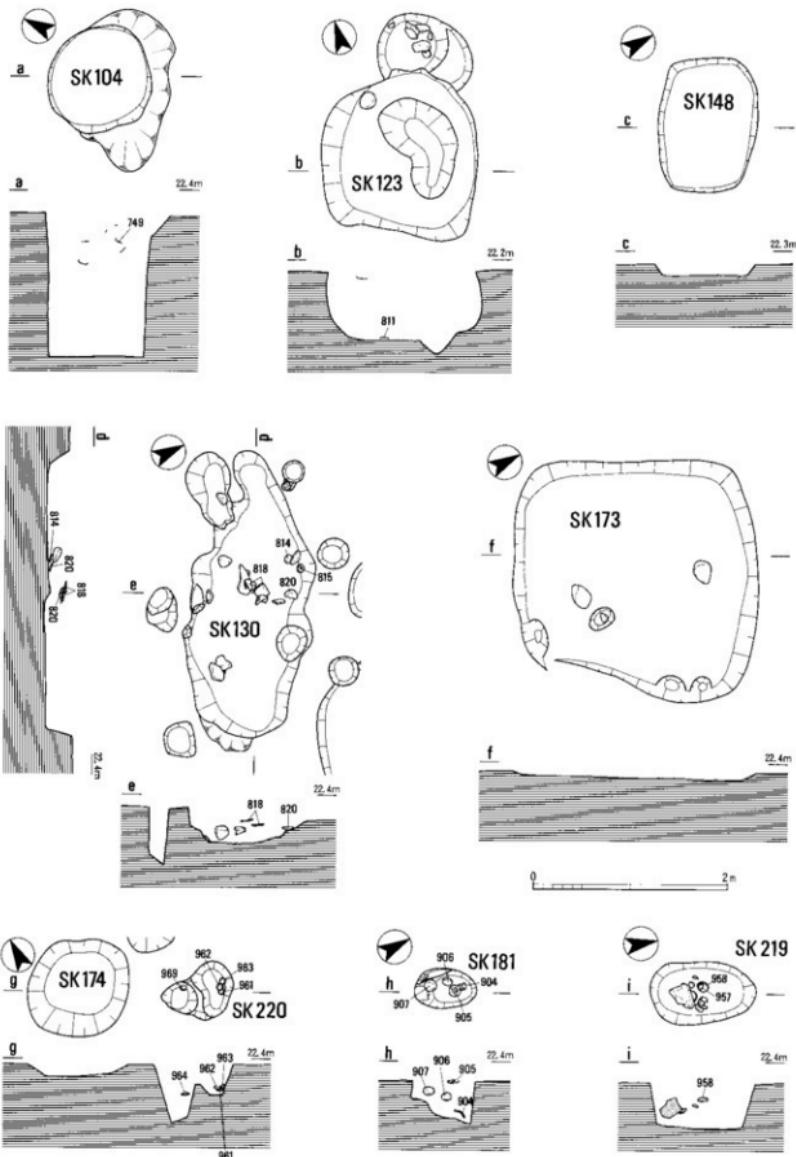
S K155A・S K155B（第55・82図） S K153の東側に位置する。検出当初は1つの遺構と思われたが、土層断面を観察した結果、2つの土坑が重複していたことが判明した。S K155Aは平面形がややいびつな円形で、径約2.1m、検出面からの深さ約0.75mである。S K155B平面形が楕円形で、長軸約2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約0.5mである。切り合い関係ではS K155BよりS K155Aの方が古いことがわかる。遺物はほとんどがS K155A出土のものであるが、厳密な分離は不可能である。出土遺物には土師器小皿C（859～862）・皿C（863～868）・盤（871）・ミニチュア鍋・伊藤分類第1段階a型式の鍋（869・870）、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶椀（873）、知多産の壺、竜泉窯系青磁椀、鉄釘がある。土師器小皿・皿はB₂に近い。ともにⅢ期の土坑と思われる。

S K156（第55・82図） S K155Bのすぐ南東に位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.6m、短軸約1.1m、底部は2段になっており検出面からの深さ0.5mと0.6mである。出土遺物には土師器小皿B₁・小皿C（874）・皿B₂・皿C（875）・伊藤分類第1段階b型式の鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山皿（876）、知多産の山茶椀・壺がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

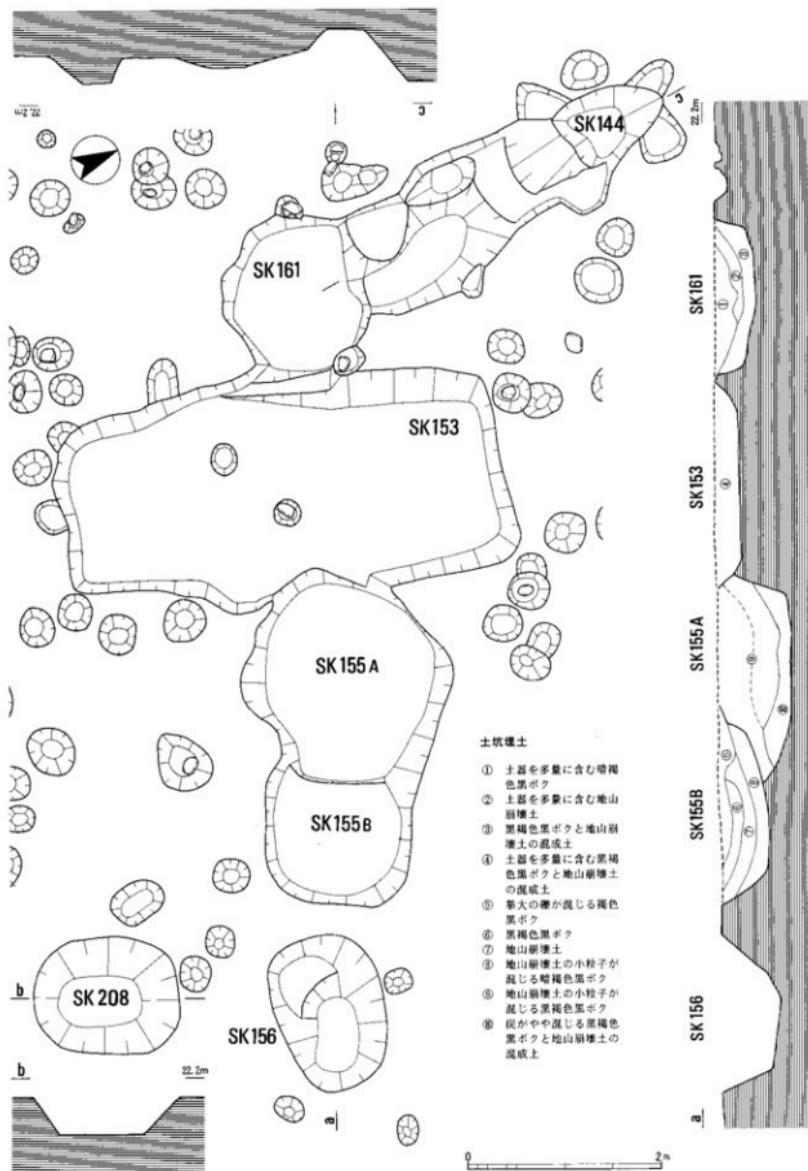
S K161（第55・82図） S K153の西側に接する。平面形はややいびつな円形で、径約1.6m、検出面からの深さ0.4mである。出土遺物には土師器小皿



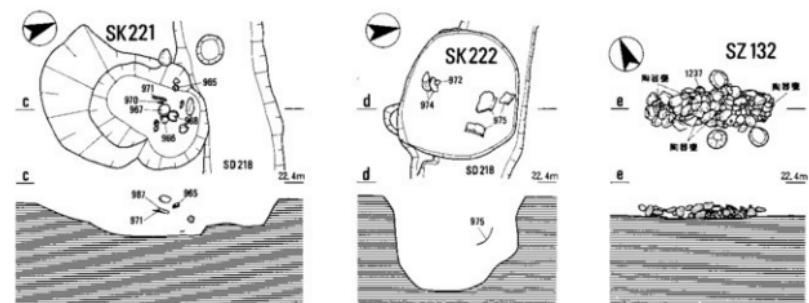
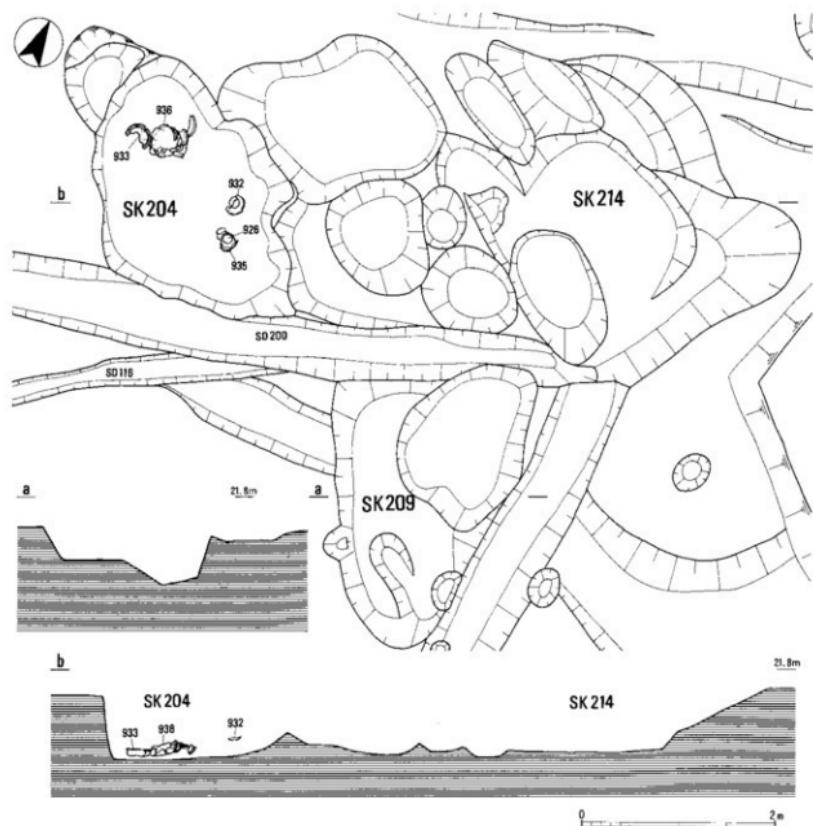
第53図 SK45・81・83・84・86・89実測図 (1:50)



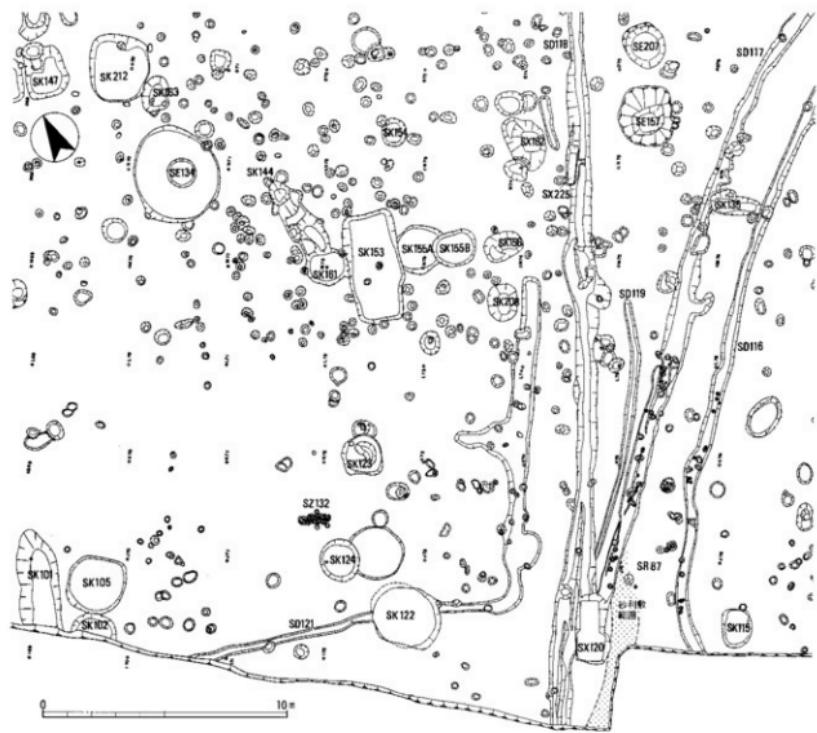
第54図 SK104・123・130・148・173・174・181・219・220実測図 (1:50)



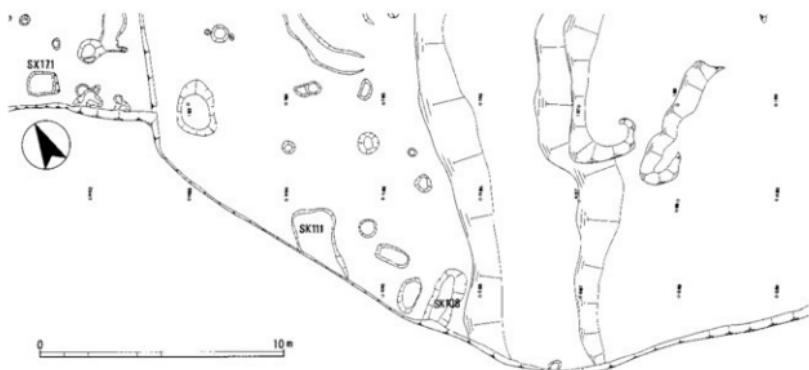
第55図 SK 144・153・155A・155B・156・161・208実測図 (1 : 50)



第56図 SK204・209・214・221・222, SZ132実測図 (1 : 50)



第57図 SK 153周囲 土坑配置図 (1 : 200)



第58図 SK 108・111実測図 (1 : 200)

B₁ (880)・小皿C (877~879)・皿C (881~884)・盤・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (886)、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の山茶椀 (885)、知多産の片口鉢・壺・壺などがある。881には内外面に墨書きが認められるが判読できない。土師器小皿・皿で口径が1/3以上残存しているものは小皿では小皿B₁=2点、小皿C=40点 (平均口径7.5cm、器高1.0cm) の計42点、皿では皿C=29点 (平均口径11.5cm、器高2.5cm) である。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K163 (第40図) S E134のすぐ北に位置する。楕円形に近い平面形をもつ土坑で、長軸1.4m、短軸約1m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物はすべて小片で、土師器小皿C・皿B₁・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋・知多編年第5型式 (13世紀前葉) と思われる山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K169 (第52図) S X167の北約2.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸1.3m、短軸約0.7m、底部は2段になっており、検出面からの深さ0.25mと約0.65mである。2つのピットが重複しているとも考えられる。遺物は土師器皿の細片が少量出土したのみで、遺構の時期は不明である。

S K173 (第54・83図) S E172の北約5mに位置する。平面形は方形で、一辺約2.5m、深さ0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C (887・888)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多編年第5型式 (13世紀前葉) か第6型式 (13世紀後葉) の片口鉢 (890)、知多産の山茶椀・壺・鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K174 (第54・83図) S K173の西約4.5mに位置する。平面形は円形に近い隅丸方形で、一辺約1m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B₁・小皿C・皿B₁・皿C・鍋、知多編年第6型式 (13世紀後葉) の片口鉢 (891) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K176 (第18図) S K129の北約4mに位置する。方形の平面形をもつ土坑と思われるが、北側が確認できなかった。長辺2m以上、短辺約1.5m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産と渥美産の山茶椀がある。Ⅲ期の

土坑と思われる。

S K177 (第30・83図) S K176のすぐ西に位置する。平面形は方形で、長辺約2.4m、短辺約1.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B₁・皿C (892・893)・伊藤分類第1段階b型式の鍋、知多産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K178 (第30・83図) S K177の西約1.5mに位置する。平面形は不定形で、長軸約2.8m、短軸約2m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿C (894・895)・皿C (897~899)・杯 (896)・伊藤分類第1段階b型式 (900)と第2段階a型式の鍋 (901)、知多編年第5型式 (第13世紀前葉) の片口鉢 (903)と第6型式の山茶椀 (902) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K181 (第54・83図) S K129の南約2mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約6.5m、短軸約0.4m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿C (904)・皿B₁ (907)・皿C (905~906) がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K183 (第51・83図) S X188のすぐ北に位置する。平面形は方形で、上部では長辺約1.2m、短辺約1m、底部では長辺約1m、短辺約0.75m、検出面からの深さ約0.2mである。D型の中世墓とも考えられる。出土遺物には土師器小皿C (908)・皿C (9097・910)・伊藤分類第3段階の鍋、渥美産の山茶椀、知多産片口鉢、砥石 (911) がある。Ⅳ期の土坑と思われる。

S K185 (第19図) 調査区の東端、S K183の東約5.5mに位置する。平面形は方形と思われるが南東側が調査区外へのびる。長辺2.5m以上、短辺約2m、深さ約0.3mである。遺物には土師器壺の細片と中世あるいは近世の陶器小皿の小片が出土したのみである。遺構の時期は中世とは断定できない。

S K187 (36頁) 古墳時代の土坑とした。

S K190 (第32・83図) S K129の南端と重複する。平面形は方形で、上部では長辺約0.75m、短辺約0.65m、底部では長辺約0.55m、短辺約0.45m、検出面からの深さ約0.35mである。土坑埋土には炭が含まれていた。出土遺物には土師器小皿B₁ (912・913)・皿B₁ (914)・伊藤分類第1段階b型式の鍋

造構名	位 置	平面形	規 模		時 期	実 測 図			備 考
			上 面	深 さ		1/50	1/100	1/200	
SK 1 2	V・W	73~75	楕円形	長軸8m×短軸5m	I m	II期		第16図	
SK 2 2	V	79	楕円形	長軸1.2m×短軸0.8m	0.6m	III期		第16図	
SK 2 6	T	72	楕円形	長軸1.4m×短軸0.7m	0.3m	II期		第23図	
SK 2 9	V	69	方 形	一辺2m	0.1m	IV期		第23図	
SK 3 0	V	69	円 形	径1m	0.4m	I期かII期		第23図	
SK 3 1	V	69	円 形	径0.8m	0.2m	II期かIII期		第23図	
SK 4 5	T・U	22・23	方 形	長辺3.6m×短辺2.5m	1.8m	I期	第53図		
SK 4 8	V	36	円 形	径1.6m	0.2m	I期		第11図	
SK 6 5	S	44・45	不定形	長軸1.7m×短軸1.2m	0.1m	I期		第13図	
SK 6 6	S	45	楕円形	長軸2.6m×短軸0.9m	0.2m	I期		第13図	
SK 6 9	S	44・45	楕円形	長軸1.4m×短軸1m	0.6m	I期		第13図	
SK 8 0	P	47・48	不定形	長軸2m×短軸1.3m	0.2m	III期かIV期		第13図	
SK 8 1	Q・R	48・49	方 形	長辺3.3m×短辺2m	0.2m	III期	第53図	第13図	
SK 8 3	R	52	方 形	長辺1.5m×短辺1.1m	0.35m	II期	第53図		中世墓か
SK 8 4	P	54	楕円形	長軸1.7m×短軸1.3m	0.5m	I期	第53図		
SK 8 6	V	55	楕円形	長軸1m×短軸0.7m	0.15m	III期	第53図		
SK 8 9	T	57	楕円形	長軸2m×短軸1.5m	1.5m	II期	第53図	第15図	
SK 9 9	R・S	48	楕円形	長軸2.1m×短軸1.5m	0.3m	II期以降	第47図	第13図	
SK 1 0 1	I・J	68・69	溝 状	長さ4m以上×幅1.7m	0.5m	III期かIV期		第57図	
SK 1 0 2	I	69	円 形	径1.8m	0.4m	III期かIV期		第57図	
SK 1 0 3	I・J	66・67	不定形	長さ3.5m以上×幅2m	0.7m	III期	第50図	第52図	
SK 1 0 4	K	68	円 形	径1.1m	1.5m	III期	第54図	第52図	中世墓か
SK 1 0 5	I	69	円 形	径2.5m	0.4m	II期		第52図	
SK 1 0 7	K・L	68	楕円形	長軸1.3m×短軸1.1m	0.1m	II期	第52図		
SK 1 0 8	F・G	85	溝 状	長さ2.5m以上×幅1m	0.4m	II期かIV期		第58図	
SK 1 1 1	G	84	溝 状	長さ3m以上×幅1.6m	0.1m	II期かIV期		第58図	
SK 1 1 4	I・J	78	円 形	径2m	0.3m	II期	第35図		
SK 1 1 5	I	76	楕円形	長軸1.6m×短軸1.2m	0.5m	II期		第57図	
SK 1 2 2	I	72・73	楕円形	長軸2.8m×短軸2.3m	0.8m	III期		第57図	
SK 1 2 3	J・K	72	円 形	径1.7m	0.7m	III期	第54図	第57図	
SK 1 2 4	I・J	71・72	円 形	径1.6m	0.4m	II期かIV期		第57図	
SK 1 2 9	M・N	80・81	方 形	長辺3.4×短辺1.8m	0.2m	I期	第32図	第31図	第18図 S B128に伴う
SK 1 3 0	M	80・81	不定形	長軸2.9m×短軸1.2m	0.35m	II期	第54図	第37図	第18図
SK 1 3 5	M	75・76	楕円形	長軸2m×短軸0.8m	0.3m	I期かII期		第57図	
SK 1 4 4	M	71	不定形	長軸1m×短軸0.7m	0.5m	III期?	第55図	第38図	第57図
SK 1 4 6	N・O	68	方 形	一辺1.7m	0.4m	III期		第52図	第17図

第7図 土坑一覧

遺構名	位置	平面形	規 模		時 期	実 測 図			備 考
			上 面	深さ		1 / 50	1 / 100	1 / 200	
SK147	N・O	68・69	方 形	長辺2m×短辺1.6m	0.5m	Ⅲ期		第52図 第57図	
SK148	M	68	方 形	長辺1.35m×短辺1m	0.1m	不明	第54図 第52図		中世墓か
SK150	L	68	円 形	径0.8m	0.4m	Ⅳ期	第50図 第52図		
SK153	L・M	72	方 形	長辺4.5m×短辺2.2m	0.3m	Ⅲ期	第55図 第38図	第57図 S B158に伴う	
SK154	N	72	楕円形	長軸1.1m×短軸0.95m	0.25m	Ⅱ期		第38図	
SK155A	L・M	72・73	円 形	径2.2m	0.75m	Ⅲ期	第55図		
SK155B	M	73	楕円形	長軸2m×短軸1.5m	0.5m	Ⅲ期	第55図		
SK156	M	73	楕円形	長軸1.6m×短軸1.1m	0.6m	Ⅲ期	第55図		第57図
SK161	L・M	71・72	円 形	径1.6m	0.4m	Ⅲ期	第55図 第38図	第57図 第57図	
SK163	N	70	楕円形	長軸1.4m×短軸1m	0.3m	Ⅲ期		第40図 第57図	
SK169	M・N	66	楕円形	長軸1.3m×短軸0.7m	0.65m	不明		第52図	
SK173	U・V	67	方 形	一辺2.5m	0.1m	Ⅲ期	第54図		
SK174	U	65・66	方 形	一辺1m	0.1m	Ⅲ期	第54図		
SK176	O	80	方 形	長辺2m以上×短辺1.5m	0.2m	Ⅲ期			第18図
SK177	O	79・80	方 形	長辺2.4m×短辺1.6m	0.1m	Ⅲ期		第30図 第18図	
SK178	N・O	78・79	不定形	長軸2.8m×短軸2m	0.25m	Ⅲ期		第30図 第18図	
SK181	L・M	81	楕円形	長軸6.5m×短軸0.4m	0.4m	Ⅲ期	第54図		第18図
SK183	M	87	方 形	長辺1.2m×短辺1m	0.2m	Ⅳ期	第51図		第19図 中世墓か
SK185	N・O	89	方 形	長辺2.5m以上×短辺2m	0.3m	不明			第19図
SK187	Q・R	90	不 明	長さ6.8m以上	1m	古墳時代?			第19図
SK190	M	81	方 形	長辺0.75m×短辺0.65m	0.35m	Ⅱ期	第32図 第31図	第18図 第18図	
SK195	Q	83・84	円 形	径0.9m	0.25m	Ⅲ期			第19図
SK197	S	84	方 形	長辺2.5m×短辺1.8m	0.1m	Ⅲ期		第41図 第19図	
SK198	Q	71・72	溝 状	長さ3.3m×幅0.7m	0.1m	古墳時代?		第24図 第17図	
SK203	O	79	楕円形	長軸1.8m×短軸1.2m	0.1m	Ⅲ期			第18図
SK204	T	78	不定形	長軸3m×短軸2m	0.7m	Ⅳ期	第56図		
SK208	L	73	楕円形	長軸1.5m×短軸1.2m	0.4m	Ⅲ期	第55図		第57図
SK209	T	79	不 明	長軸2.7m×短軸1.7m	3.5m	Ⅲ期	第56図		
SK212	N・O	69・70	方 形	長辺2.7m×短辺2.4m	1.5m	Ⅲ期かⅣ期			第57図
SK214	U	79	方 形	一辺2m	0.6m	Ⅲ期	第56図		第16図
SK219	O	69	楕円形	長軸1.1m×短軸0.6m	0.45m	Ⅳ期	第54図 第52図	第17図 第17図	
SK220	U	66	円 形 円 形	径0.4m 径0.3m	0.3m 0.6m	Ⅱ期 Ⅰ期	第54図 第52図	第17図	2つのピットが 隣接
SK221	O	68・69	楕円形	長軸1.25m×短軸0.9m	0.3m	Ⅳ期	第56図 第52図	第17図	中世墓か
SK222	O	68	楕円形	長軸1.4m×短軸1.2m	0.95m	Ⅱ期	第56図 第52図	第17図	
SK228	P・Q	66・67	方 形	長辺5.3m×短辺4.5m	0.4m	Ⅳ期			第17図
SK229	Q	68・69	長方形	長辺3.3m×短辺1m	0.2m	不明			第17図

(915)、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶椀
(916)、渥美産の山茶椀、土製支脚がある。Ⅱ期の土坑と思われる。

S K195（第19・83図） S E194の北東約5mに位置する。平面形はややいびつな円形で、径約0.9m、検出面からの深さ約0.25mである。出土遺物には土師器小皿C・皿C（917・918）・鍋、渥美産の山茶椀がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K197（第41・83図） S K195の北東約7mに位置する。平面形は方形で、長辺約2.5m、短辺約1.8m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B・皿C（919）、伊藤分類第1段階b型式（921）と第2段階b型式（922）の鍋、知多産の山茶椀と片口鉢、鉄釘が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K198（36頁） 古墳時代の土坑とした。

S K203（第18・83図） S K178のすぐ北東に位置する。平面形は楕円形に近いものと思われるが、北側が確認できなかった。長軸約1.8m、短軸約1.1m以上、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C・皿B・皿C（923）、伊藤分類第1段階b型式の鍋・知多産の山茶椀、竜泉窯系青磁碗、鉄釘がある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K204（第56・83・84図） S K196（20号墳）の北約7mに位置する。平面形は不定形で、長軸約3m、短軸約2m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には土師器小皿C（924・925）・皿B（928）・皿C（926・927）・羽釜（937）、伊藤分類第1段階a型式（930）・第1段階b型式（929）・第3段階b型式（931～936）の土師器鍋、渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀（938）、平瓦がある。S K204付近は遺構の重複が激しく出土遺物にも混入がみられるが、IV期の土坑と思われる。

S K208（第55・84図） S K153の南東約3.5mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.5m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B・小皿C・皿B・皿C（939）・皿Cがある。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K209（第56・84図） S K204の南東約1mに位置する。他の遺構がかなり重複しているために平面形はよくわからないが、長軸約2.7m、短軸約1.7

m、検出面からの深さ約3.5mとしておく。出土遺物には土師器小皿C（940）・皿C（941）・鍋（942）、渥美産の甕、知多産の山茶椀が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K212（第57・84図） S E134の北約1.5mに位置する。平面形は方形で、長2.7m、短辺約2.4m、検出面からの深さ約1.5mである。出土遺物には土師器小皿B（943・944）・小皿C・皿B（945）・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋（948）・羽釜、景德镇産の白磁甕である。Ⅱ期かⅢ期の土坑と思われる。

S K214（第56・84図） S K204の東約2mに位置する。他の遺構が重複しているために平面形はよくわからないが、一辺約2mの方形と思われる。検出面からの深さは約0.6mである。出土遺物には土師器小皿C（948）・皿B（952）・皿C（949～952）、伊藤分類第1段階b型式の鍋、渥美編年で12世紀後葉から12世紀末葉とされる山茶椀（953・954）、土甕（955）が出土している。Ⅲ期の土坑と思われる。

S K219（第54・84図） S K212の北約1mに位置する。平面形は楕円形で、長軸約1.1m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.45mである。出土遺物には土師器小皿C（956・957）・皿（958）・伊藤分類第3段階a型式の鍋、瀬戸編年の古瀬戸後I期あるいは後II期（14世紀末葉～15世紀初頭）の灰釉平椀がある。IV期の土坑と思われる。

S K220（第54・85図） S K174のすぐ南東に位置する。検出当初は平面形が楕円形の土坑と思われたが、平面形が円形の2つのピットが隣合っていると考えたほうがよさそうである。東側のピットは径約0.4m、検出面からの深さ約0.3m、出土遺物は土師器小皿B（961～963）、西側のピットは径約0.3m、検出面からの深さ約0.6m、出土遺物は土師器小皿B（964）である。時期は、東側ピットがⅡ期、西側のピットがⅠ期と思われる。

S K221（第56・81図） S K174のすぐ北に位置する。平面形はかなり乱れているが楕円形と思われる。上部では長軸約1.25m、短軸約0.9m、底部では長軸約1m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約0.3mで、埋土には炭が認められた。D型の中世墓とも考えられる。出土遺物には土師器小皿C（965・

966)・皿C (967・968)・伊藤分類第3段階a型式かb型式の鍋、槍と思われる両刃の鉄器 (971)、用途不明の鉄製品 (970)、鉄釘がある。IV期の土坑と思われる。

S K 222 (第56・85図) S K 221の西約2mに位置する。平面形は円形に近い橢円形で、長軸約1.4m、短軸約1.2m、検出面からの深さ約0.95mである。出土遺物には土師器小皿C (972)・皿B (973)・鍋 (974・975)・知多産の山茶碗がある。974は伊藤分類第1段階b型式の鍋である。II期の土坑と思われる。

S K 228 (第17図) S X 215 (21号墳) の西約4mに位置する。平面形が方形の大きな土坑で、長辺約5.3m、短辺約4.5m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物は小片ばかりで、土師器小皿C・皿C・鍋、知多産の山茶碗と片口鉢、瀬戸産の灰釉平椀がある。IV期の土坑と思われる。

S K 229 (第17図) S X 215 (21号墳) の墳域のはば中央に位置する。平面形はやや乱れているが隅丸の長方形で、上部では長辺約3.3m、短辺約1m、底部では長辺約2.95m、短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物は土師器小皿C・皿Cの細片のみである。

6. 溝・道路

調査区内には、古墳の周溝を除いて、溝と思われる遺構は40数条みられる。そのうちの33条に遺構番号を付した。また、溝には、2条一組で道路の側溝と考えられるものが計4条含まれている。

S D 1 (第85図) 調査区の北東端に位置する延長8m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mの溝である。出土遺物は全て小片で、土師器小皿C・皿B・皿C・鍋 (976)・山茶碗・青磁・白磁などがある。IV期の溝と思われる。

S D 6 (第19・85図) S D 1の北西約23mに位置する。東側は崖によって切れているが、調査区外へのびていたと思われる。延長8m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器皿C・伊藤分類第3段階b型式の鍋 (977)のみで、いずれも小片である。IV期の溝と思われる。

S D 8 (第16・59・85・88図) S D 6の北西約

16mに位置する。平面でみるとL字形になっており、東西方向に約19m、ほぼ直角に曲がって南北方向に12mある。東端と北端は完全に終わっており、それ以上は続かない。幅は2mから3m、検出面からの深さは0.9mから1.3mで、壁面は急傾斜となっている。底面はほぼ平坦であるが東西部分に1か所、南北部分に2か所、0.2m程の段がみられる。かなりの計画性をもった掘ともいいくべき大きな溝であるが、この溝で埋めた部分が他の遺構によって大きく攢乱されているため、その性格はよくわからない。溝埋土から土師器小皿A (991・992)・小皿B (990)・小皿B (978~989)・台付小皿 (993)・皿B (996~1011)・伊藤分類第1段階と第2段階の鍋 (1012・024)・羽釜 (1025・1026)・器台の柱状部 (1028)・器種不明の高台部 (1027)・瓦器碗 (1029)、知多産の山皿 (1030~1034)・山茶碗 (1035~1045・1047・1048)・片口鉢 (1049・1050)・甕・瀬美産の小杯 (1052)・山茶碗 (1046・1051)・片口 (1053)・竜泉窯系青磁皿 (1055)・椀 (1054)・景德镇白磁皿 (1056)・土製支脚 (1059)・土鍤 (1062)・刀子 (1060・1061)・鉄釘・古墳時代の須恵器蓋・甕など多量の遺物が出土した。II期の溝と思われる。

S D 10 A・S D 10 B (第16・88図) S D 8に接している。検出当初は一つの溝と思われたため溝として報告するが、2基の大きな土坑が並んでいると考えたほうがよいと思われる。S D 10 Aは延長約6.5m、幅約3m、検出面からの深さ約0.9mで、出土遺物には土師器小皿A (1063)・小皿B (1062)・小皿C・皿B (1065)・皿C (1066~1068)・羽釜 (1070・1071)・箫 (1072)・瀬美産の山茶碗 (1069)・片口鉢、知多産の山茶碗、古墳時代の須恵器片がある。S D 10 Bは延長約6m、幅約3.5m、検出面からの深さ約0.9mで、出土遺物には土師器小皿B (1073)・皿B (1074・1075)・鍋・瀬美産の山皿 (1076)・山茶碗、知多産の山茶碗、竜泉窯系青磁碗 (1077)、土鍤 (1078~1080)、鉄釘、古墳時代の須恵器片がある。S D 10 Aは皿期、S D 10 BはII期の遺構で、両遺構とも土取り穴と思われる。

S D 11 (第16・88図) S D 8の南側と重複する延長9.5m以上、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.4mの溝である。出土遺物には小皿C・皿C (1081・

S D 13 (第16・88図) S D 8 のすぐ南東に位置する延長6m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.3mの溝である。出土遺物には小皿B₁・皿B₂ (1086)・鍋 (1087)、渥美産の山茶椀、鉄釘がある。I期の溝と思われる。

S D 17 (第59・88図) S D 8 の北端と重複している延長10m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.7mである。出土遺物には小皿C (1088)・皿C (1089・1090)・伊藤分類第1段階b型式の鍋 (1091)、渥美産の山茶椀 (1092)、竜泉窯系青磁碗、丸瓦がある。切り合い関係からS D 8 より新しいことがわかる。IV期の溝と思われる。

S D 18 (第16・88図) S D 8 の西約3mにある。S D 8 の南北部分にはほぼ並行して走り、南端近くはS D 8 のコーナー部分に沿うように東へ曲がっている。途中で一部途切れているが、この部分は溝の深さの変化をみるかぎり削平によって消滅したではなく、陸橋を意識していると思われる。幅は約0.6m、検出面からの深さ約0.3m、延長は陸橋の北側部分が7.5m以上、南側部分が約19mである。出土遺物には土師器小皿B₁・小皿B₂ (1093・1094)・皿B₁・皿B₂ (1095・1096)・伊藤分類第1段階a型式の鍋 (1097)がある。II期の溝と思われ、S D 8との強い関係が想定される。

S D 35 A (第59・88・89図) 調査区の中央付近をほぼ南北に横切る大きな溝で、総延長46m以上、北側では幅約1.5m、検出面からの深さ約0.6m、南側では幅約3.5m、検出面からの深さ約1.6mである。北から南へと水が流れていったと思われる。出土遺物には土師器小皿C (1102・1103)・小皿B₁ (1098~1101)・皿B₁ (1105~1107)・皿B₂ (1104)・皿C (1109~1111)・盤・ミニチュア羽釜 (1116)・伊藤分類第1段階a型式の鍋、渥美産の小杯 (1117)・山茶椀 (1118・1119・1121・1122)・片口鉢 (1124)、知多産の山茶椀 (1120)・片口鉢 (1123)・壺、土製支脚 (1125)がある。切り合い関係からS B 97 (III期)・S B 98 (II期)より古いことがわかる。I期からII期にかけての溝と思われる。

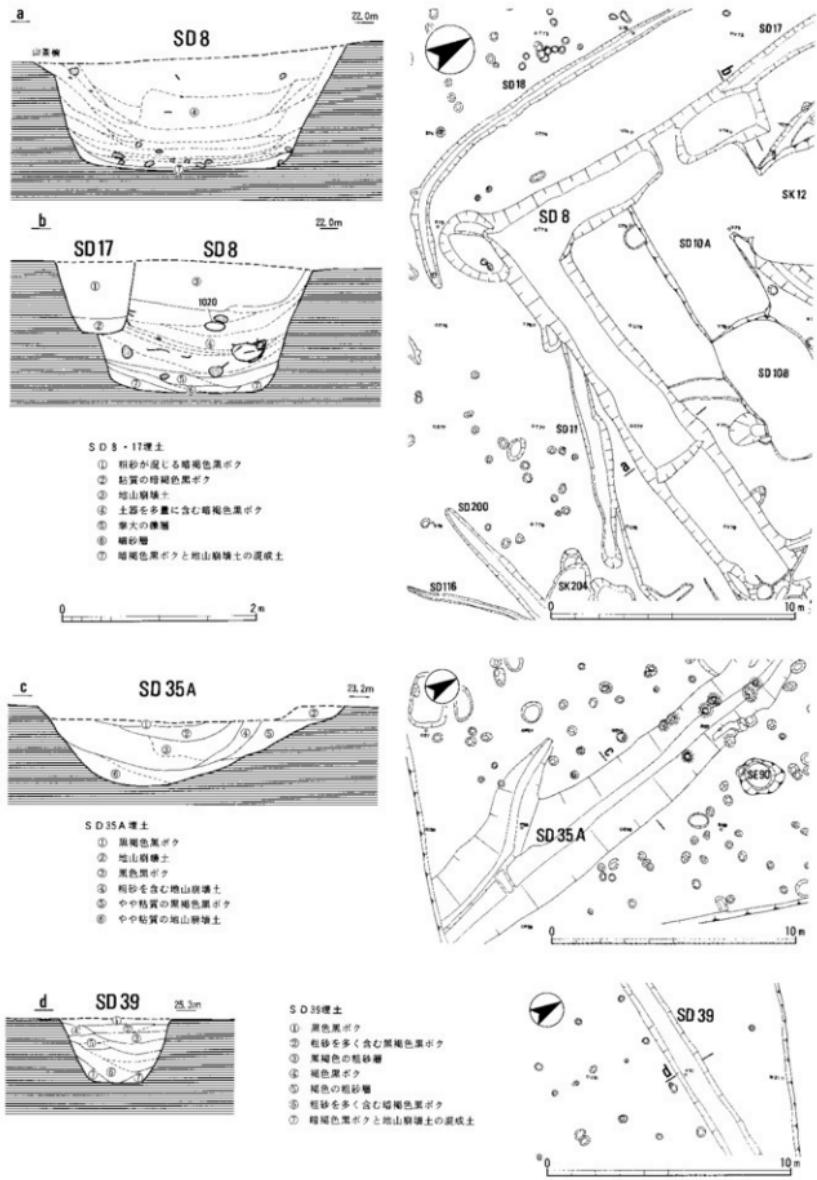
S D 35 B (第89図) S D 35 A が屈曲する部分から派生する溝で、S D 35 A の流れを直線的に変更するために新たに作られたと思われる。S D 35 A から派生する部分のみをみると、幅1.2~1.5m、検出面からの深さ0.5~1.3m、延長21m以上であるが、S D 35 A と共有する部分を含めると総延長37m以上となる。出土遺物には土師器小皿C (1126)・皿B₁・皿C (1127~1129)・鍋、渥美産の山茶椀 (1131)、竜泉窯系青磁碗 (1132)・鉄釘 (1133)がある。切り合い関係からS B 76 (II期)より新しく、S B 85 (III期)より古いことがわかる。II期からIII期にかけての溝と思われる。

S D 36 (第89図) S D 35 の中央部分と重複する延長25m以上、幅約3mの溝で、検出面からの深さは北側で約0.5m、南側で約0.1mである。出土遺物には土師器小皿C (1134)・皿C (1135)・鍋、知多産の壺、古墳時代の須恵器杯身 (42・43)がある。III期からIV期の溝と思われる。

S D 39 (第59・90図) 調査区の西端近くから東へ流れる溝で、延長43m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.3mである。西側部分は自然流路的な様相をしているが、東側はほぼ一直線に流れ、掘形もかなりしっかりしている。遺物は土師器小皿B₁ (1137~1144)・皿A (1156)・皿B₁ (1145~1155)・鍋、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿・山茶椀 (1162~1165)、土製支脚 (1166)があり、溝の東端近くから多く出土した。1157は伊藤分類第1段階b型式、1158~1160は第1段階a型式の鍋である。I期の溝と思われる。

S D 42 (第90図) 調査区の西端近くに位置する延長13m以上、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.3mの溝である。出土遺物には土師器小皿B₁ (1167)・小皿B₂・皿B₁ (1168)・皿B₂・鍋がある。I期からII期の溝と思われる。

S D 43 (第9・91図) 調査区の西端近くを南西から北東方向へ横切る大きな溝で、自然流路と思われる。延長23m以上、幅6~8m、検出面からの深さ0.4~1.2mである。遺物は土師器小皿B₁ (1170~1179)・皿B₁ (1180~1186)・盤・伊藤分類第1段階a型式の鍋 (1197・1198)、渥美編年で12世紀末葉から13世紀前葉とされる山皿 (1187・1190)・



第59図 SD 8・17・35A・39土層断面実測図 (1 : 50)

山茶椀（1191～1196）、竜泉窯系青磁碗などがあり、溝の東端近くから多く出土した。土師器小皿・皿で口縁部が1／3以上残存しているものは、小皿では、小皿B₁=70点（平均口径8.4cm、器高1.4cm）、皿B₁=51点（平均口径14.5cm、器高2.7cm）である。

I期の溝と思われる。

S D47（第11・91図） S X49（8号墳）の墳域内に位置する延長5.5m以上、幅約0.3m、深さ約0.1mの小規模な溝である。遺物は伊藤分類第4段階の土師器鍋の小片が出土したのみである。IV期末以降の溝と思われる。

S D50（第11・91図） S D47の西側に位置する溝である。S X53（9号墳）を横切る部分は溝が途切れているようにみえるが、S X53の周溝に沿って若干曲がっていたのを見逃したのかもしれない。延長30m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.3mである。出土遺物には土師器小皿B₁（1200）、小皿C・皿C・伊藤分類第1段階b型式の鍋がある。III期の溝と思われる。

S D55（第13図） S X61（11号墳）のすぐ南に位置する周溝状の溝である。細長い土坑が2基つながっているとも考えられる。延長10m以上、幅約1m、検出面からの深さ約0.5mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

S D62（第13・91図） S X61（11号墳）の東部分を横切っては南北に流れる細く浅い溝で、延長約17m、幅約0.5m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物には土師器小皿B₁・皿B₁・皿C・鍋（1202）、渥美産の山茶椀（1203）がある。II期かIII期の溝と思われる。

S D71 S D62の西方に位置する東西に流れる溝で、延長18m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

S D73（第91図） S D43を横切る溝で、自然流路と思われる。延長約36m、幅約1.2m、検出面からの深さ約0.3mで、遺物は土師器皿B₁（1204）が1点出土したのみである。I期の溝と思われる。

S D116・S D117・S R87（第57・91図） S X120付近から北東方向へ流れる2条の溝とその溝を側溝とする1条の道路である。S D116は東側の側

溝で、延長47m以上、幅0.6m、検出面からの深さ約0.1m、S D117は西側の側溝で、延長36m以上、幅0.7m、検出面からの深さ約0.2mである。この2条の溝を側溝とするS R87は幅約2mで、調査区を南西から北東方向へ横切っていたと考えられる。S X120付近では数cm程の大きさの砂利が敷かれているのが確認できた。遺物はS D116から土師器皿B₁・皿B₁・皿C・鍋（1205）、渥美産の山茶椀、S D117から土師器皿B₁・皿C（1206）・鍋（1207）、渥美産の山茶椀が出土している。II期からIII期にかけての道路と思われる。

S D118（第57・91図） S X120付近から北北東へ直線的に流れる延長38m以上、幅約0.7m、深さ約0.5mの溝である。出土遺物には土師器小皿B₁（1208）、小皿C・皿B₁（1209～1213）、皿C・盤・火鉢・伊藤分類第1段階a型式（1214・1216）と第1段階b型式（1215・1217）の鍋、知多編年第5型式（13世紀前葉）の山茶椀（1218・1219・1221）と渥美編年で13世紀前葉とされる山茶椀（1220）、知多産の片口鉢、竜泉窯系青磁碗などがある。II期の溝と思われる。

S D119（第57図） S D117とS D118との間にある小規模な溝で、延長約11m、幅約0.3m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物がないため時期は不明であるが中世の遺構とした。

S D121（第57図） S D118の西にある溝で、L字形に屈曲している。総延長は28m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1mである。遺物は土師器皿B₁と皿Cの小片が出土したのみである。III期の溝と思われる。

S D200（第92図） S D8の南に位置する小規模な溝で、延長約10m、幅約0.7m、検出面からの深さ約0.4mである。出土遺物には土師器小皿B₁（1223）、小皿B₁（1222）、皿A（1224）・鍋、知多編年第4型式（12世紀末葉～13世紀初頭）の山茶椀がある。I期の溝と思われる。

S D202（第19・92図） S D6のすぐ西に位置する。L字形に屈曲している小規模な溝で、総延長は約10m、幅約0.5m、検出面からの深さ約0.1mである。出土遺物は土師器小皿B₁・小皿C・皿C（1227）がある。III期の溝と思われる。

造構名	位置	規 模	時期	備 考	造構名	位置	規 模	時期	備 考
SD 1	S~U 90	延長=8m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	Ⅳ期		SD 50	P~W 37・38	延長=30m以上 幅=0.6m、深さ=0.3m	Ⅲ期	
SD 6	U・V 82~84	延長=8m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅳ期		SD 55	P・Q 45~47	延長=10m以上 幅=1m、深さ=0.5m	不明	2基の土堤か?
SD 8	S~Y 73~78	延長=19m+12m 幅=2~3m 深さ=0.9~1.3m	Ⅱ期	L字形に曲がる	SD 62	Q~U 44~46	延長=17m 幅=0.5m、深さ=0.1m	Ⅱ期か Ⅲ期	
SD10A	U・V 74~76	延長=6.5m 幅=3m、深さ=0.9m	Ⅲ期	土取り穴か?	SD 71	O~Q 39~43	延長=18m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	不明	
SD10B	U~W 75~77	延長=6m 幅=3.5m、深さ=0.9m	Ⅲ期	土取り穴か?	SD 73	S・T 22~31	延長=36m 幅=1.2m、深さ=0.3m	Ⅰ期	自然流路
SD 11	T 76~78	延長=9.5m以上 幅=0.7m、深さ=0.4m	Ⅳ期		SD116	I~T 75~79	延長=47m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅱ期か Ⅲ期	S R87の 側溝
SD 13	U・V 78~79	延長=6m以上 幅=1m、深さ=0.3m	Ⅰ期		SD117	H~P 74~77	延長=36m以上 幅=0.7m、深さ=0.2m	Ⅱ期か Ⅲ期	S R87の 側溝
SD 17	V・W 72~73	延長=10m以上 幅=1m、深さ=0.7m	Ⅳ期		SD118	H~Q 74	延長=38m以上 幅=0.7m、深さ=0.5m	Ⅳ期	
SD 18	R~W 71~75	延長=19m+7.5m以上 幅=0.6m、深さ=0.3m	Ⅲ期	中断部分 あり	SD119	J~L 74~75	延長=11m 幅=0.3m、深さ=0.1m	不明	
SD35A	O~X 52~59	延長=30m以上+16m以上 幅=1.5m~3.5m 深さ=0.6m~1.6m	Ⅰ期 ~Ⅱ期		SD121	H~L 70~74	延長=14m以上+14m 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅲ期	L字形に 曲がる
SD35B	O~T 53~55	延長=21m以上+16m以上 幅=1.2m~3.5m 深さ=0.5~1.3m	Ⅱ期 ~Ⅲ期	SD35Aの 流路改 修溝	SD200	S~T 77~79	延長=10m 幅=0.7m、深さ=0.4m	Ⅰ期	
SD 36	T~X 51~54	延長=7m+18m以上 幅=3m、深さ=0.1~0.5m	Ⅲ期か Ⅳ期	L字形に 曲がる	SD202	S・T 81~82	延長=10m 幅=0.5m、深さ=0.1m	Ⅲ期	L字形に 曲がる
SD 39	S~W 23~32	延長=43m以上 幅=1m、深さ=0.6m	Ⅰ期		SD210	O~Q 60~65	延長=46m以上 幅=0.6m、深さ=0.1m	Ⅳ期末 以降	S R91の 側溝
SD 42	R~U 19~21	延長=13m以上 幅=0.7m、深さ=0.3m	Ⅰ期か Ⅱ期		SD211	P・Q 70~71	延長=6m 幅=0.4m、深さ=0.1m	不明	
SD 43	R~V 24~28	延長=23m以上 幅=6~8m、 深さ=0.4~1.2m	Ⅰ期	自然流路	SD217	Q~S 63~71	延長=36m 幅=1m、深さ=0.2m	Ⅳ期末 以降	S R91の 側溝
SD 47	U・V 39	延長=5.5m以上 幅=0.3m、深さ=0.1m	Ⅳ期末 以降		SD218	N~R 60~76	延長=77m以上 幅=0.8m、深さ=0.2m	Ⅰ期	
					SD230	L~N 62	延長=10m以上 幅=0.4m、深さ=0.1m	Ⅲ期か Ⅳ期	

第8表 溝一覧

S D210・S D217・S R91（第92図） S X215（21号墳）の北端をかすめて走る1条の道路とその両側の側溝である。S D210は南側の側溝で、延長46m以上、幅約0.6m、検出面からの深さ約0.1m、S D217は北側の側溝で、延長約36m、幅約1m、検出面からの深さ約0.2m、S R91の幅は約1.5mである。遺物はS D210から土師器皿・盤の細片と土鉢（1228）、S D217から土師器皿C・皿B・皿C・鍋、知多産の山茶碗、瀬戸戸産の天目茶碗、青磁碗などの細片が出土している。Ⅳ期末以降の道路と思われる。

S D211（第17図） S X215T（21号墳）のすぐ南東に位置する周溝状の溝である。延長約6m、幅約0.4m、検出面から約0.1mの小規模なもので、出土遺物はない。

S D218（第92図） S R91の南約10mに位置しほぼ東西に流れる溝で、延長77m以上、幅約0.8m、検出面からの深さ約0.2mである。遺物は土師器皿B：（1229）・皿B：（1230）・伊藤分類（仮）A段階（1231）と第1段階a型式の鍋、渥美編年で12世紀中葉とされる山茶碗などが出土している。Ⅰ期の溝と思われる。

S D230（第92図） S D218の西端近くに位置し、

ほぼ南北に流れる小規模な溝である。幅約0.4m、検出面からの深さ約0.1mで、延長は10m以上であるが、S X32（5号墳）の南にある長さ約4mの溝状の遺構がS D230の続きたとすれば総延長約35m以上となる。遺物は土師器皿C（1234～1236）が出土している。Ⅲ期かⅣ期の溝と思われる。

7. その他の遺構

S Z132（第56・92図） S K124のすぐ北に位置する性格不明の集石遺構である。拳大から人頭大の石が1.4m×0.4mの範囲に集められており、その下には遺構らしいものは認められなかった。石と石の間から渥美産の山茶碗（1237）、知多産の片口鉢・甕の破片が出土している。Ⅱ期かⅢ期の遺構と思われる。

8. 包含層・ピット出土の遺物

包含層・ピット・遺構番号を付さなかった遺構から出土した中世の遺物は整理用コンテナで50箱程ある。第92図に掲載したのはその一部で、観察結果は第9表に記載した。また、陶器類は第11表にも記載されている。なお、1244・1245は第49図、1258は第37図に出土位置を示した。

【註】

- ① 中村浩「陶邑切」神大阪府埋蔵文化財センター1978
- ② a 鹿澤良祐「長野県出土の古窯跡について」『信濃』第31巻 第11号・信濃史学会 1979
- b 鹿澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- c 鹿澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館 1991
- d 鹿澤良祐「山茶碗と中世窯業」『紀伊』瀬戸市教育委員会 1990
- ③ 中野晴久「常滑窯」「東日本における古代・中世窯業の諸問題」大戸古窯跡群検討会・会津若松市教育委員会 1992
- ④ 「愛知県古窯跡分布調査報告（V）」愛知県教育委員会 1986

- ⑤ 伊藤裕伸「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol.1 三重歴史文化研究会 1990

伊藤裕伸氏は、中世南伊勢系の鍋の分類を行うにあたっては口縁部の形態とともに頭部の形態も重視しているが、蚊山遺跡左都地区出土のものを伊藤分類にあてはめるにあたっては、やむをえず口縁部の形態のみで判断したものもあった。

- ⑥ 亀井明恵氏に直接指導していただいたが、個々の遺物の产地や時期については指掌にもとづいて前川が解説したものである。

- ⑦ 小坂宜広「掘立柱建物に関する一考察」

『Mie history』vol.5 三重歴史文化研究会 1993.2

IV. 出土遺物の観察

蚊山遺跡左郡地区出土遺物のうち実測図を掲載した1265点の観察結果を「第9表 出土遺物観察表」に以下の要領でまとめた。

1. 遺物番号

上段には報告書内に実測図を掲載した遺物の通し番号（遺物番号）を、下段には遺物収蔵に関する遺物整理番号を示した。

2. 器種

上段に縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・石器・鉄製品等の区別を、下段に小皿・皿・杯・椀・鉢・鍋・壺・甕等の器形を示した。なお、土師器小皿・皿についてはさらに細分を行った。

土師器小皿

A 口縁部の内外面にヨコナデが幅広く施されている。口径は9cm前後である。

B 口縁端部の内外面にヨコナデが施されている。ヨコナデ幅は狭く、外面のみのものもある。胎土には砂粒を多く含み、器壁はやや厚い。口径は8cm前後である。

B₁ 口縁端部の外面のみにヨコナデが認められる。ヨコナデ幅は狭く、その有無の判断が困難なものもある。胎土にはあまり砂粒を含まない。器壁は薄い。口径は7.5~8cmのものが多い。

C ヨコナデは認められない。外面にはオサエ痕が目立つが内面は平滑である。胎土にはあまり砂粒を含まず、色調は白っぽい。器壁はかなり薄く、口縁端部が尖る。口径は7.5~8cmのものが多い。

土師器皿

A 口縁部の内外面にヨコナデが幅広く施されている。口径は15cm前後である。

B₁ 口縁端部の内外面にヨコナデが施されている。ヨコナデ幅は狭く、外面のみのものもある。胎土には砂粒を多く含み、器壁はやや厚い。口径は14cm前後である。

B₂ 口縁端部の外面のみにヨコナデが認められる。ヨコナデ幅は狭く、その有無の判断が困難なものもある。胎土にはあまり砂粒を含まないが、個体によってはかなり多いものもある。器壁は薄い。口径は12.5~13cmのものが多い。

C ヨコナデは認められない。外面にはオサエ痕が目立つが内面は平滑である。胎土にはあまり砂粒を含まず、色調は白っぽい。器壁はかなり薄く、口縁端部が尖る。口径は11~12cmのものが多い。

3. 出土位置

主に遺物が出土した小地区を示した。

4. 計測値と残存度

口径=口縁部径、台径=高台端部径、底径=平底の土器の底部径、体径=体部最大径のことである。数値はmm単位まで表したが、残存度が低く復元数値が不確かなものについては含みをもたせた。また、完存に近いものでも歪みが大きいものについては最小と最大の計測値を併記した。残存度は各部位の計測値の後に大まかな数値を分数で示した。口径のところに完存と示してあっても底部が欠損している場合があるので注意願いたい。

5. 形態・技法・調整等の特徴

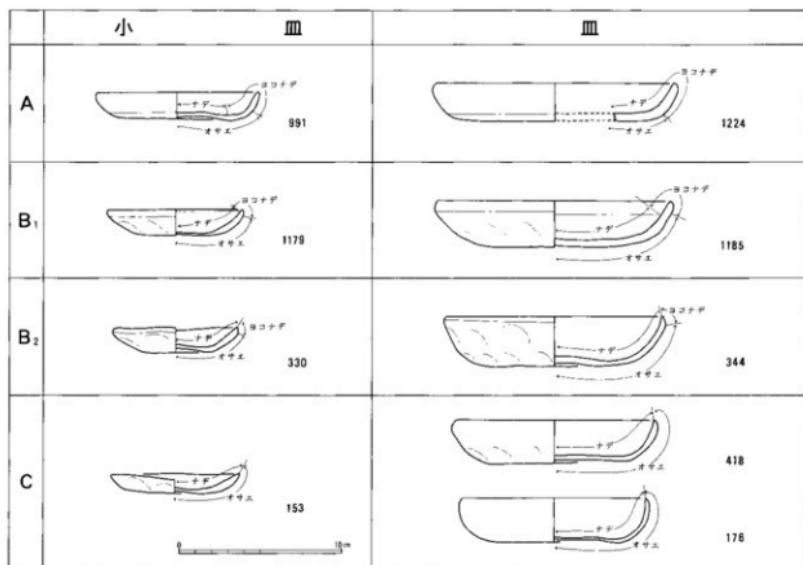
調整の特徴を主に示し、最小限の記述にとどめた。

6. 色調

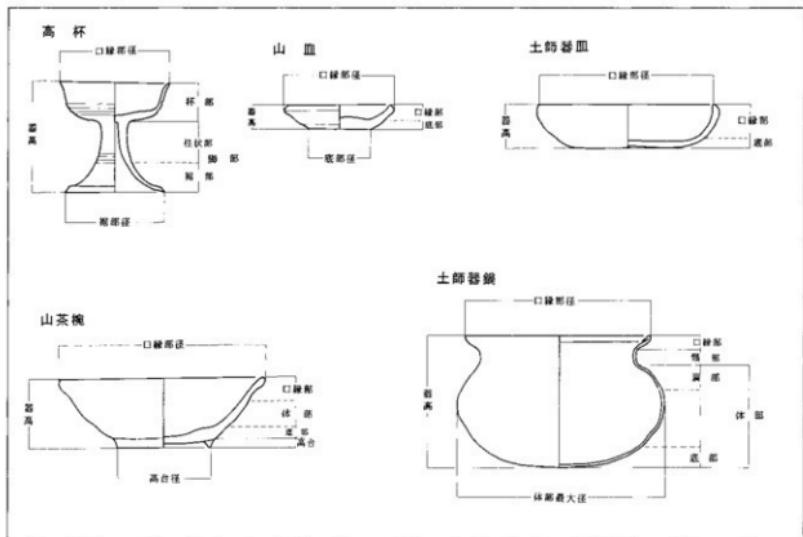
色調の名称は日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帳』(1987年版)による。

7. 胎土

胎土に含まれる砂粒の大きさは「砂粒・細砂粒・微砂粒」、砂粒の量は「多含・含・少含」のそれぞれ3区分とした。また、砂粒がほとんど認められないものについては「精良」とした。



第60図 土器器小皿・皿分類図 (1 : 3)



第61図 土器細部の名称と計測位置図

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

《弥生時代以前の遺物》

1 000-002	縄文土器 鉢	T-86 包含層	(口縁部分)	外面に口縁部に沿う沈線1条。器壁の断滅強く調整不良。	5YR 6/6 棕	砂粒多含
2 000-013	縄文土器 鉢	N75 S.E.157	(口縁部分)	外面に縦方向の沈線2条。器壁の断滅強く調整不良。	10YR 6/4 にぶい黄橙	砂粒多含
3 000-001	縄文土器 鉢	O38 包含層	(全体部分)	外沿は磨消織文。器壁の断滅強く調整不良。	10YR 6/4 にぶい黄橙	砂粒多含
4 000-004	石器 磨製石斧	W56 包含層	長11.9cm、幅5.0cm、厚3.0cm、重量243.7g (完存)			細粒石岩質
5 000-003	漆生土器 盃	G85 包含層	口径:14.4 (1/9)	内外面ヨコナギ。外側に櫛描織縞文。内面は断滅進行。	外:10YR 7/3 にぶい黄橙 内:10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含

《古墳時代の遺物》

S X 4 (駿山1号墳)

6 004-001	土器 甌	T-88 周溝	(底面1/2) (台面欠損)	体部下半外周ハケ目、内面ナギ。台付焼。	7.5YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
--------------	---------	------------	-------------------	---------------------	---------------	------

S X 1.5 (駿山4号墳)

7 015-003	須恵器 杯	W75 杯底	口径: 11.5 器高: 3.5	(3/4)	内外面ヨコナギ。底盤外周へラ切り未調整。表面不良のため器底の断滅強い。	10GY 7/1 明緑灰	微砂粒含
8 015-002	須恵器 杯	W75 周溝	口径: 11.5 器高: 4.7	(完存)	外外面ヨコナギ。天井部外周ヘラ切り後オサニ、内面ナギ。ヨコ右回転。	10BG 6/1 青灰	砂粒多含
9 015-005	須恵器 杯底	W75 包含層	口径: 11.0前後	(1/8)	外外面ヨコナギ。	5 BG 7/1 明青灰	微砂粒含
10 015-001	須恵器 杯	V74 周溝	口径: 11.0前後 器高: 9.7 (1/2)	(1/8)	外外面ヨコナギ。杯底部外周ヨコケズリ、柱状部を縦め施調和された2方2段窪み。ヨコ右回転。	10BG 6/1 青灰	砂粒含
11 015-004	須恵器 甌	W75 周溝	口径: 8.5 器高: 4.3	(3/4)	外外面ヨコナギ。底盤外周ヘラ切り未調整。一部焼成不良。	5 BG 6/1 青灰	微砂粒含
12 000-044	土器 甌	V74 包含層	口径: 7.3	(1/5)	外外面ナギ。口縁部内外面ヨコナギ。	10YR 8/3 浅黄褐	微砂粒含

S X 3.2 (駿山5号墳)

13 032-006	須恵器 杯	W59 S X38 包含層	口径: 14.5 器高: 4.0前後	(1/4)	外外面ヨコナギ。天井部外周ヨコケズリ、内面に同心円状凸出具根。ヨコ左回転。	7.5GY 8/6 明緑灰	微砂粒含
14 032-007	須恵器 杯	W59 S X38	口径: 14.0前後	(1/8)	外外面ヨコナギ。	5 BG 6/1 青灰	微砂粒含
15 032-002	須恵器 甌	V61・W61 周溝	(全体部分)		外周カキ目、内面ヨコナギ。	10BG 7/1 明青灰	微砂粒含
16 032-001	須恵器 甌	W61 周溝	口径: 13.2	(2/5)	口縁部外周ヨコナギ。肩部外周堅子格子状調和具根、内面同心円状凸出具根。	5 BG 6/1 青灰	砂粒多含
17 032-003	土器 甌	U60 周溝	(杯底部～肩部七手)		外周オサニ。杯底内面ナギ。底部内面調和具根。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
18 032-005	土器 甌	V61 包含層	(杯底部～柱状部)		外周ハケ目。杯部内面ナギ。器底の断滅進む。	10YR 6/6 明黄褐	微砂粒含
19 032-004	土器 甌	W59 S X38	口径: 8.6～8.8	(1/2)	外表面無ハテH。口縁部内外面と底部内外ヨコナギ。杯底内面ナギ。器底の断滅進む。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒含

S X 3.7 (駿山7号墳)

20 037-005	須恵器 杯	V47 周溝	(天井部1/8)	外外面ヨコナギ。天井部外周丁寧なロクロケズリ。ヨコ左回転。	外: 5 BG 5/1 青灰 内: N 7/1 灰白	微砂粒含	
21 037-002	須恵器 杯	W48 周溝	口径: 14.6 器高: 5.0	(1/2)	外外面ヨコナギ。天井部外周ヨコケズリ。ヨコ右回転。	5 BG 6/1 青灰	微砂粒含
22 037-004	須恵器 甌	W48 周溝	口径: 12.0前後 体径: 10.0前後	(1/4)	外外面ヨコナギ。底盤外周ヨコケズリ。ヨコ左回転。	5BG 6/1 青灰	微砂粒含
23 037-001	須恵器 甌	W48 周溝	口径: 23.0 (瓶底3/4)		口縁部外周ヨコナギ。底盤外周ヨコケズリ。ヨコ左回転。体部内面平行印記と底盤側面分離カッジ。内面同心円状凹印と具根ナガレ。	外: 5BG 6/1 青灰 内: N 3/1 緩灰 内: 7.5Y 6/1 灰	砂粒含
24 037-003	土器 甌	U47 周溝	口径: 10.6	(2/5)	外周オサニ。内面ナギ。外周は器壁の剥落や断滅強く調整不良。	10YR 6/6 明黄褐	微砂粒含

第9表 出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

S X 5 3 (紋山19号墳)

25 053-004	土器 碗	R38 周溝	口径: 11.6 器高: 4.9	(7/8)	器底の磨滅度しく調整不明。	10YR 7/6 明黄褐	細砂粒含
26 053-003	土器 碗	R38 周溝	口径: 13.5~12.5 器高: 4.7	(4/6)	外側オサニ幾ナダ。内面ナダ。口縁部内外面ヨコナダ。	10YR 8/4 淡黄緑	細砂粒含
27 053-002	土器 碗	T36-T37 周溝	口径: 10.0 (体部下平 1/6)	(1/3)	口縁部内外面ヨコナダ。体部外縁ハケ付。器底の磨滅度しく調整不明。	2.5YR 6/8 棕	細砂粒少含
28 053-001	土器 碗	Q38 周溝	口径: 12.8 器高: 17.0前後 (体部 19.0)	(3/4) (7/8)	口縁部内外面ヨコナダ。瓶底外縁ハケ付後ヨコナダ。内面ナダ。体部外縁ハケ付。体部内曲半ナダ、下平ケズリ。	2.5YR 6/8 優	細砂粒少含

S X 6 1 (紋山11号墳)

29 061-001	土器 碗	S 46 周溝	口径: 14.0前後	(1/8)	外側オサニ。内面ナダ。口縁部内外面ヨコナダ。落盤の磨滅度み調節不明顯。	7.5YR 6/8 棕	細砂粒含
---------------	---------	------------	------------	-------	-------------------------------------	-------------	------

S X 7 2 (紋山12号墳)

30 072-002	土器 碗	U48 周溝	口径: 11.0前後 器高: 4.5	(1/3)	外側オサニ。内面ナダ。器底の磨滅度しく調整不明顯。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒含
31 072-001	土器 碗	U49 周溝	口径: 13.5~13.8	(3/4)	内外面ヨコナダ。瓶底部外縁ハクロケズリ。ヨコラ左回転。透かしは3万。	外: 10BG 4/1 滅青灰 内: 5BG 6/1 青灰	砂粒多含

S X 8 2 (紋山14号墳)

32 082-001	土器 杯	P51 盃酒坑	口径: 12.8 器高: 3.8~4.1	(1/4)	内外面ヨコナダ。大骨部外縁中央ハラ切り上調整、両面ヘラ切り後ナダ。ロクロ右回転。	5 BG 6/1 茶灰	砂粒含
---------------	---------	------------	-------------------------	-------	--	-------------	-----

S X 1 8 0 (鞍山17号墳)

33 180-001	土器 碗	L81 周溝	口径: 11.0前後	(1/3)	内外面ヨコナダ。33と同一個体か。	10Y 6/1 灰	細砂粒含
34 180-002	土器 碗	L81 周溝	直径: 9.7	(1/8)	内外面ヨコナダ。33と同一個体か。	10Y 6/1 灰	細砂粒含

S X 1 9 6 (鞍山20号墳)

35 196-001	土器 杯	P79 周溝	口径: 10.0 器高: 3.2	(完存)	内外面ヨコナダ。底部外縁ヘラ切り未調整、内面ナダ。	外: 5 BG 4/1 滅青灰 内: 5 PB 6/1 青灰	砂粒含
---------------	---------	-----------	---------------------	------	---------------------------	-----------------------------------	-----

S K 1 8 7 (土坑)

36 187-001	土器 杯	R90 周溝?	口径: 10.5	(1/4)	内外面ヨコナダ。	10Y 5/1 灰	砂粒多含
---------------	---------	------------	----------	-------	----------	-----------	------

S K 1 9 8 (土坑)

37 198-001	土器 杯	Q71 周溝?	口径: 12.2 器高: 3.3	(7/8)	内外面ヨコナダ。天井部外縁ヨコケズリ、内面ナダ。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
38 198-003	土器 杯	Q71 周溝?	口径: 12.8 器高: 4.0	(4/5)	内外面ヨコナダ。天井部外縁ヨコケズリ、内面ナダ。ロクロ右回転。	10Y 6/1 灰	細砂粒少含
39 198-002	土器 杯	Q71 周溝?	口径: 12.1 器高: 3.9	(3/5)	内外面ヨコナダ。底部外縁ヘラ切り後オサリ、内面ナダ。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
40 198-004	土器 杯	Q71 周溝?	口径: 11.8 器高: 3.3	(4/5)	内外面ヨコナダ。底部外縁ヘラ切り後オサリ、内面ナダ。	7.5Y 5/1 灰	砂粒多含

ピット

41 000-009	土器 杯	S 56 ピット I	口径: 13.0前後 器高: 3.7前後	(1/10)	内外面ヨコナダ。天井部外縁中央ヘラ切り上調整、周面ヨコケズリ。内面中央に同心円状當て其根。	5 BG 6/1 茶灰	細砂粒含
---------------	---------	---------------	-------------------------	--------	---	-------------	------

中世構

42 000-010	土器 杯	T53 S D36	口径: 10.2 器高: 4.5前後	(1/6)	内外面ヨコナダ。底部外縁ヨコケズリ。内面中央に同心円状當て其根。	5 BG 6/1 茶灰	細砂粒含
43 000-011	土器 杯	S 54 S D36	口径: 12.0 器高: 4.8前後	(1/6)	内外面ヨコナダ。底部外縁ヨコケズリ。ロクロ右回転。	外: 5 BG 6/1 茶灰 内: 5 HG 5/1 茶灰	細砂粒少含
44 000-012	石製品 研磨車	U23 SK45	径 4.8~5.1 cm、高 1.5cm、孔径 7.5cm、重量 10.4g (完存)			10Y 6/1 灰	重鐵石製

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

包含層

45 000-007	須恵器 盃	T29 包含層		(大井部)	内外面クロナデ。大井部外側ロクロケズ 等。	10Y 7/1 灰白	砂粒含
46 000-008	須恵器 高杯	Q78 包含層	口径: 12.0前後	(1/8)	内外面クロナデ。轍かしは1万1段が残 るのみ。(3方2段轍かしか)。	5BG 6/1 青灰	微砂粒少含
47 000-006	須恵器 高杯	T78 包含層		(研底部~柱状部)	底溝部外側ロクロナデ。柱状部外側カキ 目。3方2段轍かしか。	2.5GY 6/1 オリーブ灰	微砂粒少含
48 000-005	須恵器 高杯	O76 包含層		(脚部)	底部内側ロクロナデ。瓶外部に難な沈 線2条、内面にシリ波。	N 7/ 灰白	砂粒多含
49 000-034	上端部 に切欠脚	Q84 包含層	口径: 6.5前後	(1/20)	外側オサエ後幅いナフ。内面津なナデ。手 舟ね。	10YR 6/1 灰灰	微砂粒含
50 000-019	上端部 に切欠脚	Q21 包含層	口径: 23.0	(1/6)	口頭部外側ロクロナデ。肩部内外側ナデ。 外側に雙耳看。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含

中世の遺物

SB 2 (獨立柱建物)

51 002-002	土器 小皿C	U30 ピット1	口径: 8.4 盤高: 1.0	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅進み調 整不規則。	10YR 8/3 淡黄褐	精良
52 002-001	土器 皿C	U30 ピット1	口径: 12.0前後 盤高: 2.4	(1/8)	外側オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅進み調 整不規則。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒含

SB 9 (獨立柱建物)

53 009-001	土器 皿B2	S39 ピット1	口径: 11.0前後	(1/6)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部外側ヨコ ナデ。	10YR 8/4 淡黄褐	精良
54 009-002	土器 皿B2	R39 ピット1	口径: 12.5前後 盤高: 2.2	(1/7)	外側オサエ。内面ナデ。(口縁部内外側ヨ コナデ)。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含

SB 23 (獨立柱建物)

55 033-001	土器 皿B1	W67 ピット10	口径: 14.5前後	(1/10)	外側オサエ、内面ナデ。(口縁部外側ヨコ ナデ)。外側螺付看。	10YR 7/3 にぶい黄褐	微砂粒少含
---------------	-----------	--------------	------------	--------	-----------------------------------	----------------	-------

SB 24 (獨立柱建物)

56 024-001	土器 皿B1	U71 ピット9	口径: 14.0	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。(口縁部内外側ヨ コナデ)。	外: 10YR 4/1 灰灰 内: 10YR 6/2 灰黃褐	砂粒多含
57 024-003	土器 小皿B	U71 ピット9	口径: 8.0 盤高: 1.1~1.5	(7/8)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部内外側ヨ コナデ。	10YR 7/4 にぶい黄褐	砂粒多含
58 024-002	土器 小皿B	U71 ピット9	口径: 7.9~8.4 盤高: 1.0~1.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。(口縁部内外側ヨ コナデ)。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
59 024-004	土器 小皿B	U71 ピット9	口径: 8.0 盤高: 1.1	(3/5)	外側オサエ、内面ナデ。(口縁部内外側ヨ コナデ)。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒多含

SB 27 (獨立柱建物)

60 027-004	土器 小皿B1	R72 ピット1	口径: 7.5前後 盤高: 1.4	(2/5)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざ かにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄褐	微砂粒含
61 027-005	土器 皿B5	R72 ピット1	口径: 10.5前後	(1/6)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部内外側ヨ コナデ。	10YR 8/3 淡黄褐	精良
62 027-002	陶器 山茶碗	R72 ピット2	口径: 15.5前後	(1/12)	内外面クロナデ。知多產か。	7.5Y 6/1 灰	油砂粒含
63 027-001	陶器 山茶碗	Q72 ピット3	口径: 7.8	(1/2)	内外面クロナデ。底盤内面復付看、外側 ナデ。高台窯跡群発現。謹天產か。	10Y 6/1 灰	砂粒少含
64 027-003	土器 器台	R72 ピット1		(柱状部)	外側ナデ。柱状部の中心に径5mmの円孔。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含

SB 51 (獨立柱建物)

65 031-001	土器 小皿B2	W65 ピット1	口径: 7.5前後 盤高: 1.1前後	(1/8)	外側オサエ、内面ナデ。(口縁部内外側ヨ コナデ)。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒含
66 031-002	土器 皿B2	W67 ピット4	口径: 12.0前後	(1/7)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部内外側ヨ コナデ。	10YR 8/1 明黄褐	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

S B 5.4 (獨立柱建物)

67 054-001	土鍋器 小皿C	R44 ピット1	(口縁部片)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒含
---------------	------------	-------------	--------	-------------	----------------	------

S B 5.6 (獨立柱建物)

68 076-006	土鍋器 小皿B	Q55 ピット3	口径: 7.5前後 基高: 1.0前後	(1/5)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わざかにヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒少含
69 076-005	土鍋器 小皿B	Q55 ピット3	口径: 7.2 基高: 1.0前後	(1/4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わざかにヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
70 076-008	土鍋器 小皿B	Q55 ピット16	口径: 8.5	(1/5)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わざかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
71 076-001	土鍋器 皿B	Q55 ピット1	口径: 12.2	(1/6)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わざかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
72 076-004	土鍋器 皿B	Q55 ピット3	口径: 11.5前後 基高: 2.4	(1/8)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わざかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
73 076-002	土鍋器 皿	Q55 ピット1	(口縁部片)		口縁部外面ヨコナデ。焼き不確定。外面 縦付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
74 076-003	土鍋器 皿	P54 ピット2	(口縁部片)		口縁部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒多含
75 076-007	陶器 山茶碗	Q55 ピット3	口径: 15.5前後	(1/7)	内外面ロクロナデ。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	砂粒多含
76 076-009	陶器 山茶碗	Q55 ピット16	口径: 15.0前後	(1/12)	内外面ロクロナデ。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	細砂粒多含

S B 5.8 (獨立柱建物)

77 085-002	土鍋器 小皿C	R55 ピット2	口径: 8.0前後 基高: 1.0前後	(1/7)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
78 085-001	土鍋器 皿C	R54 ピット3	口径: 12.0前後 基高: 2.0前後	(1/8)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒含

S B 9.3 (獨立柱建物)

79 093-003	土鍋器 皿C	Q56 ピット3	口径: 10.6 基高: 2.4	(1/4)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	精良
80 093-005	土鍋器 皿C	Q55 ピット2	口径: 11.0前後	(1/8)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒含
81 093-004	土鍋器 皿	Q55 ピット2	(口縁部片)		口縁部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂粒多含

S B 9.7 (獨立柱建物)

82 097-002	土鍋器 皿C	R56 ピット2	(口縁部片)	外腹オサエ、内面ナデ。	5YR 8/3 淡緑	精良	
83 097-001	土鍋器 皿	P56 ピット1	(口縁部片)	口縁部外面ヨコナデ。外面縦付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含	
84 097-003	陶器 山茶碗	R56 ピット2	台径: 6.4	(1/3)	内外面ロクロナデ。底盤外面ナデ。高台塊 焼成不良。知多産か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含

S B 9.8 (獨立柱建物)

85 098-001	土鍋器 小皿B	R56 ピット1	口径: 8.1 基高: 1.4	(1/2)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。内面油滑付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
86 098-007	土鍋器 小皿B	R56 ピット1	口径: 7.8 基高: 1.3	(1/3)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
87 098-006	土鍋器 皿B	R56 ピット1	口径: 8.2 基高: 2.2	(3/5)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
88 098-005	土鍋器 皿B	R56 ピット1	口径: 13.7	(1/5)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
89 098-003	土鍋器 皿B	R56 ピット1	口径: 14.5前後 基高: 2.5前後	(1/7)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
90 098-004	土鍋器 皿B	R56 ピット1	口径: 13.6 基高: 2.5前後	(1/5)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒多含
91 098-002	土鍋器 皿B	R56 ピット1	口径: 14.0前後 基高: 2.5前後	(1/8)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁端部一部油滑付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑 ~10YR 6/3 にぶい黄緑	微砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
S B 1 1 2 (樹立柱建物)							
92 112-001	土師器 皿B ₃	N77 ピット3	口径：12.5前後 高さ：1.6	(2／5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。器壁の堅度込み調整不明。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
S B 1 2 5 (樹立柱建物)							
93 125-001	陶器 山系模	N79 ピット1	口径：15.0前後 高さ：4.9 台径：7.7	(1／7) (1／2)	内面ヨロクロナダ。底盤内面曲線付着。外側水切り痕。両台端部移動痕。底面窪か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒含
S B 1 2 6 (樹立柱建物)							
94 126-001	土師器 直B ₃	M80 ピット2	口径：11.8 高さ：2.5	(2／5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含
95 126-003	陶器 白刷模	M80 ピット3	口径：4.8	(1／2)	高台端部～高台内面露筋。福建省産。	釉：10YR 8/1 灰白 胎土：10YR 8/1 灰白	精良
96 126-002	土製品 土漉	M80 ピット2	長 3.8cm、径 1.2cm、孔径 0.5cm、重量 4.8g	(完存)	2.5YR 6/8 程	微砂粒少含	
S B 1 2 7 (樹立柱建物)							
97 127-001	土師器 小皿C	M80 ピット4	口径：7.7～7.9 体径：1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒含
S B 1 2 8 (樹立柱建物)							
98 128-001	土師器 (-?)-盤	M79 ピット6	口径：8.0前後 体径：10.0	(1／6) (1／6)	口縁部内外ヨコナダ。体部外側ナデ、内側ナラ。外側横付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
S K 1 2 9 (樹立柱建物 S B 1 2 8に伴う土坑)							
99 129-001	土師器 小皿B ₃	M80 土坑	口径：7.5 高さ：1.4～1.5	(11／12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。	10YR 7/4 にい-黄緑	微砂粒含
100 129-002	土師器 小皿B ₃	M80 土坑	口径：7.3 高さ：1.4	(11／12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
101 129-003	土師器 小皿B ₃	M80 土坑	口径：7.2 高さ：1.2	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざかにヨコナラ。	10YR 7/3 にい-黄緑	微砂粒含
102 129-004	土師器 小皿B ₃	M80 土坑	口径：8.0 高さ：1.5前後	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
103 129-005	土師器 小皿A	M80 土坑	口径：10.1	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外ヨコナラ。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含
104 129-008	土師器 皿B ₃	M80 土坑	口径：12.0	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。	10YR 8/4 淡黄緑	細砂粒少含
105 129-006	土師器 皿B ₃	M80 土坑	口径：13.5前後 高さ：2.4	(1／5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。焼き度不定。	10YR 6/2 灰黄緑	微砂粒少含
106 129-009	土師器 皿B ₃	M80 土坑	口径：12.8	(1／5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
107 129-010	土師器 直B ₃	M81 土坑	口径：14.2 高さ：2.3	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナラ。外側水切り痕付着。	10YR 7/4 にい-黄緑	微砂粒少含
108 129-007	土師器 皿B ₃	M80 土坑	口径：14.4 高さ：3.0前後	(2／5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外ヨコナラ。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒多含
109 129-011	土師器 合付小皿	M81 土坑	口径：4.5	(完存)	内外面ナデ。底盤内面凹凸痕。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
110 129-024	土師器 直B ₃	M80 土坑	口径：25.0前後 体径：27.0前後	(1／3)	口縁部内外ヨコナラ。体部内外面ナデ。外側横付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
111 129-022	土師器 皿	M80 土坑	口径：37.0前後	(1／18)	口縁部内外ヨコナラ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
112 129-021	土師器 皿	M80+M81 土坑	口径：27.0前後 体径：30.5	(1／2)	口縁部内外ヨコナラ。体部外側ヨコナラ。内側ナラ。底盤内外面ケズリ。外側保有着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
113 129-023	土師器 皿	M80 土坑	口径：33.0前後	(1／12)	口縁部内外ヨコナラ。外側横付着。	10YR 7/2 にい-黄緑	砂粒多含
114 129-025	土師器 直B ₃	M80 土坑	口径：22.5～24 高さ：25.8～27.4	(5／6) (5／6)	口縁部内外ヨコナラ。体部内外面ケズリ。底盤外側ヨコナラ。内側ナラ。底盤の堅度込み調整不明。外側横付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
115 129-018	陶器 山系模	M81 土坑	口径：16.8 高さ：5.2 台径：6.8	(1／3) (1／6)	内外面ヨロクロナダ。底面窪か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
116 129-016	陶器 山系模	M80 土坑	口径：15.5前後	(1／7)	内外面ヨロクロナダ。底面窪か。	2.5Y 8/1 灰白	細砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
117 129-017	陶器 山茶樹	M80 土坑	口径：15.0前後	(1／6)	内外面クロナデ。縁美產か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
118 129-020	陶器 山茶樹	N81 土坑	台径：6.8	(完存)	内外面クロナデ。底部外側ナデ。高台湖 部砂粒混。底部外側に墨跡「メ」か。苏美 拉。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
119 129-013	陶器 山茶樹	M80 土坑	台径：7.3～7.6	(完存)	内外面クロナデ。底部外側糸切り痕。高 台湖部砂粒混。縁美產か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
120 129-019	陶器 山茶樹	N81 土坑	台径：7.0	(完存)	内外面クロナデ。底部外側ナデ。高台湖 部砂粒混。縁美產か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
121 129-014	陶器 山茶樹	M80 土坑	台径：7.1～7.8	(完存)	内外面クロナデ。底部外側ナデ。高台湖 部砂粒混。縁美產か。	7.5Y 7/1 灰白	砂粒少含
122 129-012	陶器 山茶樹	M80 土坑	台径：8.0	(1／4)	内外面クロナデ。底部外側ナデ。高台湖 部砂粒混。縁美產か。	7.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
123 129-015	陶器 山茶樹	M80 土坑	台径：6.6	(2／5)	内外面クロナデ。底部外側ナデ。高台湖 部砂粒混。縁美產か。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
124 129-086	土製品 ノイコリ口	N81 土坑		(破片)	一方の側は帯解。外面にヘタ記号あり。		砂粒多含

S B 1 3 1 (獨立柱建物)

125 131-002	上部器 小皿B2	L79 ピット1	口径：6.5前後 器高：0.9前後	(1／5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	砂粒多含
126 131-003	土質器 小皿B2	J79 ピット2	口径：6.5前後 器高：0.8前後	(1／6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	微砂粒含
127 131-005	土質器 皿C	K79 ピット1	口径：13.4	(1／6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	微砂粒含

S B 1 3 3 (獨立柱建物)

128 133-001	上部器 皿C	J77 ピット1	口径：10.5前後 器高：2.5前後	(1／7)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	微砂粒含
129 133-002	上部器 皿C	J77 ピット2	口径：11.0前後 器高：2.0前後	(1／8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒含
130 133-003	土質器 皿	K78 ピット6		(口縁薄片)	11層部内外ヨコナデ。外側保付着。	10YR 8/3 淡黄橙	砂粒多含

S B 1 3 6 (獨立柱建物)

131 136-001	上部器 皿C	K78 ピット4		(口縁薄片)	外面オサエ、内面ナデ。磨滅進み調整不確 認。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
----------------	-----------	-------------	--	--------	---------------------------	-------------	-------

S B 1 4 1 (獨立柱建物)

132 141-001	土質器 小皿B2	J80 ピット3	口径：7.4 器高：1.2	(1／3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
----------------	-------------	-------------	------------------	-------	--------------------------------	-------------	-------

S B 1 4 2 (獨立柱建物)

133 142-001	土質器 皿C	J81 ピット1	口径：7.4 器高：1.3	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の断滅進み調 整不明顯。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
134 142-002	土質器 皿C	K81 ピット3	口径：11.0前後	(1／6)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒含
135 142-004	上部器 皿	K81 ピット3		(口縁薄片)	11層部内外ヨコナデ。傾き不確定。	10YR 7/4 にぶい黄褐	細砂粒多含
136 142-003	土質器 皿	K81 ピット3	口径：30.0前後	(1／7)	口縁部内外ヨコナデ。外側保付着。傾き 不確定。	10YR 8/3 淡黄橙	細砂粒含

S B 1 4 3 (獨立柱建物)

137 143-001	土質器 皿C	K81 ピット1	口径：10.5前後	(1／4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
----------------	-----------	-------------	-----------	-------	-------------	-------------	------

S B 1 4 5 (獨立柱建物)

138 145-001	土質器 皿B1	M77 ピット2	口径：12.4 器高：2.5前後	(1／5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨ コナデ。傾き不確定。	10YR 7/5 にぶい黄褐	微砂粒含
----------------	------------	-------------	---------------------	-------	----------------------------------	----------------	------

S B 1 4 8 (獨立柱建物)

139 158-001	土質器 小皿B3	N72 ピット6	口径：7.5 器高：1.1	(1／3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わ ざかにヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	砂粒多含
----------------	-------------	-------------	------------------	-------	--------------------------------	--------------	------

監査番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(段存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	粒土
140 158-003	土師器 小皿B ₁	L72 ピット5	口径: 6.8 基高: 1.5前後	(1/5)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
141 158-004	土師器 小皿C	L72 ピット5	口径: 7.0 基高: 1.2	(1/7)	外側ナサニ、内面ナデ。口縁端部の磨滅進歩調整不正確。	7.5YR 8/1 灰白	砂粒多含
142 158-002	土師器 皿C	N72 ピット2	口径: 12.2 基高: 2.8	(1/3)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
143 158-005	陶器 山茶鉢	M71 ピット2	口径: 16.0前後 基高:	(1/14)	内外面クロナデ。細多産。	10YR 7/1 灰白	微砂粒含

SK153 (掘立柱建物SB1558に伴う土坑)

144 153-040	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.0 基高: 0.8~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
145 153-032	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.4 基高: 0.8~1.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
146 153-030	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.2~7.9 基高: 0.7~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
147 153-039	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.4~7.7 基高: 0.7~1.6	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 に赤い斑	砂粒多含
148 153-055	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 8.0 基高: 0.7~1.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
149 153-062	土加器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.8 基高: 0.4~1.0	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。内面油付着。	外: 7.5YR 8/4 透褐 内: 7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
150 153-066	土加器 小皿C	L72 土坑	口径: 7.4~8.0 基高: 0.8~1.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
151 153-034	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 8.0~8.7 基高: 0.8~1.1	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
152 153-067	土師器 小皿C	L72 土坑	口径: 7.6~7.9 基高: 0.9~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
153 153-068	土師器 小皿C	L72 土坑	口径: 7.8 基高: 0.7~1.2	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
154 153-052	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.2~7.6 基高: 1.0~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
155 153-026	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.4~7.8 基高: 0.8~1.2	(3/4)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
156 153-028	土師器 小皿C	M72 4坑	口径: 7.3~7.6 基高: 0.8~1.2	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒多含
157 153-031	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.4~7.9 基高: 0.9~1.6	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
158 153-042	土師器 小皿C	M72 土坑	口径: 7.2~7.8 基高: 0.7~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/2 灰白	砂粒多含
159 153-038	土加器 小皿B ₁	M72 土坑	口径: 7.6~7.9 基高: 0.8~1.7	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナデ。	10YR 7/2 に赤い斑	砂粒含
160 153-041	土師器 小皿B ₁	M72 土坑	口径: 7.3~7.8 基高: 1.3~1.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナデ。	外: 7.5YR 5/1 黄灰 内: 7.5YR 7/3 に赤い斑	砂粒含
161 153-049	土加器 小皿B ₁	M72 土坑	口径: 7.1~7.5 基高: 0.7~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
162 153-063	土加器 小皿B ₁	L72 土坑	口径: 7.7~8.1 基高: 1.0~1.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナデ。内面油付着。	7.5YR 4/1 透灰 ~7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
163 153-065	土加器 小皿B ₁	L72 土坑	口径: 7.6~8.1 基高: 1.1~1.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
164 153-001	土加器 皿C	M72 土坑	口径: 11.1 基高: 2.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
165 153-002	土加器 皿C	M72 土坑	口径: 10.6 基高: 2.7	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
166 153-004	土加器 皿C	M72 土坑	口径: 10.7 基高: 2.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。底盤内面一部に強い指痕ナリ、外側に収状剥離。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
167 153-005	土加器 皿C	M72 4坑	口径: 10.8 基高: 2.7	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
168 153-006	土加器 皿C	M72 4坑	口径: 11.0 基高: 2.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
169 153-009	土加器 皿C	M72 4坑	口径: 11.0 基高: 2.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
170 153-006	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.6 底高: 2.7	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
171 153-010	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.8 底高: 2.9	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
172 153-012	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 10.1~11.3 底高: 2.7	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指揮ナデ、外面上に板状压痕。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
173 153-013	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.0 底高: 2.7	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
174 153-017	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.0 底高: 2.4	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
175 153-015	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 12.0 底高: 2.6	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
176 153-003	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.4 底高: 2.7	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
177 153-018	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.0 底高: 2.6	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。器壁の磨拭痕強く調節不明瞭。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒含
178 153-020	土師器 皿C	M72 土坑	口径: 11.0 底高: 2.5	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒含
179 153-025	土師器 皿B	M72 土坑	口径: 12.4 底高: 3.0	(1/3)	外曲オサエ、内面ナデ。器壁の磨拭痕強く調節不明瞭。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒含
180 153-007	土師器 皿B	M72 土坑	口径: 12.3~13.5 底高: 2.8	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。底端外側わざかにコロタケ。	外: 2.5Y 8/2 灰白 内: 10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
181 153-014	土師器 皿B	M72 土坑	口径: 12.8 底高: 3.1	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざかにコロタケ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
182 153-023	土師器 皿B	M72 土坑	口径: 12.2 底高: 2.4	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。口縁部外側コロタケ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
183 153-022	土師器 皿B	M72 土坑	口径: 13.0 底高: 2.7	(1/3)	外曲オサエ、内面ナデ。口縁部外側コロタケ。底部内面一部に強い指揮ナデ、外面上に板状压痕。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒含
184 153-024	土師器 皿B	M72 土坑	口径: 14.0 底高: 2.5	(1/3)	外曲オサエ、内面ナデ。口縫部外側コロタケ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
185 153-076	土師器 鍋	M72 土坑	口径: 18.9 (底部1/6)	(1/5)	口縫部内外面コロタケ。底部外面ナデ、内面ナデ。	10YR 7/2 にぶい黄褐	砂粒多含
186 153-074	土師器 鍋	M72 土坑	口径: 27.0前後 (底部1/10)	(1/8)	口縫部内外面コロタケ。底部内外面ナデ。内面糊付着。	7.5YR 8/3 浅黄褐 ~7.5YR 7/2 明褐灰	砂粒多含
187 153-073	土師器 鍋	M72 土坑	口径: 26.5 (底部1/12)	(2/5)	口縫部内外面コロタケ。底部内外面ナデ。内面糊付着。	7.5YR 7/4 にぶい黄褐	砂粒多含
188 153-077	土師器 鍋	M72 土坑	口径: 29.7 (底部1/6)	(1/6)	口縫部内外面コロタケ。外沿糊付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄褐	砂粒多含
189 153-075	土師器 鍋	M72 土坑	口径: 34.0前後 (1/9)	(1/9)	口縫部内外面コロタケ。外沿糊付着。	7.5YR 7/3 にぶい黄褐 ~7.5YR 6/2 灰褐	砂粒多含
190 153-084	陶器 山茶	L.72 土坑	口径: 9.2 底高: 6.6 (1/4)	(1/4)	内曲ロクロナデ。底部外側に強い指揮ナデ。内面糊付着。	5 Y 8/1 灰白	粗砂粒多含
191 153-078	陶器 山茶	L.72 土坑	口径: 15.0 底高: 4.9 台作: 6.7 (2/3)	(完存)	内曲ロクロナデ。底部外側に強い指揮ナデ、外面上に板状压痕。底部糊付着多い。内面糊付着。	10YR 7/1 灰白	砂粒含
192 153-079	陶器 山茶	M72 土坑	口径: 14.9 底高: 6.2 底高: 5.1 (2/3)	(1/2)	内曲ロクロナデ。底部外側に強い指揮ナデ、外面上に板状压痕。内面糊付着。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒含
193 153-080	陶器 山茶	M72 土坑	口径: 15.0前後 底高: 5.2 台作: 5.9 (1/4)	(1/12)	内曲ロクロナデ。底部外側に強い指揮ナデ、外面上に板状压痕。内面糊付着。	10YR 7/1 灰白	砂粒含
194 153-082	陶器 山茶	L.72 土坑	口径: 15.0前後 (底部1/4)	(1/12)	内曲ロクロナデ。底部外側に強い指揮ナデ、外面上に板状压痕。内面糊付着。	2.5Y 7/1 灰白	粗砂粒含
195 153-081	陶器 山茶	M72 土坑	口径: 15.0 (1/4)	(1/4)	内外曲ロクロナデ。内面糊付着。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	粗砂粒含
196 153-070	磁器 青磁豆	M72 土坑	口径: 5.2 (3/5)	(1/2)	底部外側露胎。底部外側ロクロケツリ。内面にへら追加と雷文。同安窯名。内面糊付着。	難: 10Y 6/2 オリーブ灰 底土: 2.5Y 8/2 灰白	精良
197 153-066	磁器 青磁碗	M72 土坑	口径: 16.0前後 (1/8)	(1/8)	内外曲施釉。体部外側に蓮文介。底部露胎。知多産か。	難: 2.5Y 6/1 オリーブ灰 底土: 5Y 6/1 灰	精良
198 153-071	土製品 上槽	L.72 土坑	径 1.9cm、孔径 0.6cm、重量 18.0g (一部欠損)	(-)	底部外側露胎。底部外側ロクロケツリ。内面にへら追加と雷文。同安窯名。	2.5Y 7/2 灰褐 ~10YR 3/1 黑褐	砂粒含
199 153-083	土製品 上槽	M72 土坑	径 5.8cm、孔 2.1cm、孔径 0.7cm、重量 18.0g	(完存)	内面糊付着。	7.5YR 7/2 明褐灰	粗砂粒含
200 153-072	土製品 七鍵	M72 土坑	長 5.7cm、径 2.2cm、孔径 0.8cm、重量 25.3g	(完存)	内面糊付着。	7.5YR 8/4 浅黄褐 ~10YR 8/3 浅黄褐	砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

S B 1 5 9 (撰立柱建物)

201 159-002	土師器 小皿B ₁	N70 ピット1	口径: 8.5 器高: 1.1	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒含
202 159-005	土師器 小皿B ₁	N70 ピット1	口径: 8.5前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒含
203 159-003	土師器 皿C	N70 ピット1	口径: 13.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナヂ。	10YR 8/4 淡黄褐	細砂粒含
204 159-004	土師器 皿C	N70 ピット1	口径: 13.0前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナヂ。 縁高: 2.5前後	10YR 8/4 淡黄褐	微砂粒含
205 159-001	土師器 皿C	O71 ピット1	口径: 12.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
206 159-006	土師器 皿C	N72 ピット1	口径: 21.0前後	(1/8)	内外面ココナヂ。外側に焼付帯。	10YR 8/4 淡黄褐	砂粒多含
207 159-007	陶器 山形輪	N72 ピット3	口径: 7.8	(1/4)	内外面ロクロナヂ。底部外側ナデか。底美無 底か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

S B 1 6 4 (撰立柱建物)

208 164-001	陶器 山茶輪	M70 ピット1	口径: 14.5前後	(1/12)	内外面ロクロナヂ。底美無か。	N 7/ 灰白	微砂粒含
----------------	-----------	-------------	------------	--------	----------------	---------	------

S B 1 8 4 (撰立柱建物)

209 184-001	土師器 皿C	M64 ピット2	口径: 11.0前後	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。縁き不確定。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒含
----------------	-----------	-------------	------------	-------	-------------------	--------------	------

S B 1 9 9 (撰立柱建物)

210 199-001	土師器 皿C	K88 ピット2	口径: 12.0前後	(1/14)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄褐	微砂粒含
----------------	-----------	-------------	------------	--------	-------------	--------------	------

S B 2 0 5 (撰立柱建物)

211 205-001	土師器 皿C	O86 ピット2	口径: 12.2 器高: 2.6	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/1 灰白	粗砂粒含
----------------	-----------	-------------	---------------------	-------	-------------	-------------	------

S E 3 (骨灰)

212 3-004	土師器 皿B ₁	U88	口径: 14.0前後	(1/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナヂ。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
213 3-006	土師器 皿B ₁	U88	口径: 15.0前後	(1/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナヂ。	7.5YR 8/5 淡黄褐	砂粒含
214 3-007	土師器 皿C	U88	(口縁部分)		外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナヂか。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
215 3-005	土師器 皿C	U88	(口縁部分)		器體の跡滅度しく調整不明。	7.5Y 8/1 灰白	砂粒多含
216 3-003	陶器 小瓶	U88	口径: 9.4	(1/6)	内外面ロクロナヂ。底美無か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
217 3-002	陶器 山形輪	U88	口径: 15.5前後	(1/12)	内外面ロクロナヂ。底美無か。	7.5Y 7/1 灰白	粗砂粒少含
218 3-001	陶器 山形輪	U88	口径: 16.5前後	(1/12)	内外面ロクロナヂ。底美無か。	5Y 8/1 灰白	微砂粒少含

S E 5 6 (井戸・中世窯?)

219 56-001	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 7.9 器高: 1.0~1.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
220 56-002	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 7.2~7.5 器高: 1.3~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。口縁端部折損。	10YR 8/3 淡黄褐	微砂粒少含
221 56-003	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 7.8 器高: 1.2~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。	10YR 8/3 淡黄褐	微砂粒少含
222 56-004	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 7.7 器高: 1.3~1.5	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。	10YR 7/4 にぶい黄褐	砂粒多含
223 56-001	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 7.5~8.2 器高: 1.0~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナヂ。	10YR 7/4 にぶい黄褐	粗砂粒多含
224 56-022	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 8.0 器高: 1.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナヂ。	10YR 7/6 明黄褐	微砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	地土
225 56-007	土師器 皿B ₁	R40	口径: 13.2 器高: 3.0	(ほぼ完存) (1/4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
226 56-009	土師器 皿B ₁	R40	口径: 13.7	(1/4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにコロナダ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
227 56-026	土師器 皿B ₁	R40	口径: 12.6	(1/4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナダ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
228 56-006	土師器 皿B ₁	R40	口径: 13.2~13.5 器高: 3.1	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナダ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
229 56-025	土師器 皿B ₁	R40	口径: 12.0前後 器高: 2.5前後	(1/6)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	10YR 8/3 浅黄緑	粗砂粒多含
230 56-010	土師器 皿B ₁	R40	口径: 13.0前後 器高: 2.5前後	(1/6)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。器底の肩減進み調整不明瞭。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
231 56-008	土師器 皿B ₁	R40	口径: 14.0前後 器高: 2.5前後	(1/6)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
232 56-005	土師器 皿B ₁	R40	口径: 13.7 器高: 2.9	(3/4)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
233 56-011	陶器 山茶碗	R40	口径: 15.6 器高: 5.2 台径: 7.1 (3/4)	(1/2)	内外面ヨコナダ。底面内面に強い指擦ナダ、外表面切り削、高台端部削り取。知多産か。	10Y 7/1 灰白	砂粒含
234 56-013	陶器 山茶碗	R40	口径: 16.5前後	(1/8)	内外面ヨコナダ。知多産か。	10Y 7/1 灰白	粗砂粒含
235 56-012	陶器 山茶碗下盤	R40	台径: 7.5 (完存)		内外面ヨコナダ。底部内面に強い指擦ナダ、外表面ナダ。高台端部削り取。知多産か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
236 56-028	土師器 皿	R40	口径: 16.0前後 器高: 2.5	(1/6)	口縁部内外面ヨコナダ。	10YR 7/2 にぶい黄緑	砂粒多含
237 56-015	土師器 皿	R40	口径: 20.6 (2/5)		口縁部内外面ヨコナダ。底端外腹オサエ、内面ナダ。外腹付着部。	10YR 7/2 にぶい黄緑	砂粒多含
238 56-016	土師器 皿	R40	口径: 18.7 器高: 10.6 体径: 19.2 (完存)	(7/8)	口縁部内外面ヨコナダ。底端外腹オサエ、内面ナダ。底端外腹ケズリとナダ、内面ケズリ。外腹付着部。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
239 56-017	土師器 皿	R40	口径: 20.2~20.4 器高: 10.8 体径: 20.0 (完存)	(7/8)	口縁部内外面ヨコナダ。底端外腹オサエ、内面ナダ。底端外腹ケズリとナダ、内面ケズリ。外腹付着部。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
240 56-018	土師器 皿	R40	口径: 23.8 器高: 11.5 体径: 22.0 (完存)	(完存)	口縁部内外面ヨコナダ。底端外腹オサエ、内面ナダ。底端外腹ケズリとナダ、内面ケズリ。外腹付着部。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
241 56-019	土師器 皿	R40	口径: 27.8 器高: 19.4 体径: 30.0 (完存)	(1/2)	口縁部内外面ヨコナダ。底端外腹オサエ、内面ナダ。底端外腹ケズリとナダ、内面ケズリ。外腹付着部。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
242 56-020	土師器 皿	R40	口径: 8.0 体径: 37~38	(1/4) (1/5)	口縁部内外面ヨコナダ。底端外腹オサエ、内面ナダ。外腹付着部。	7.5YR 7/4 にぶい黄	砂粒多含
243 56-027	土師器 皿	R40	口径: 26.0前後	(1/10)	口縁部内外面ヨコナダ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	砂粒多含

S E 5 7 (井戸・中世墓?)

244 57-001	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 7.5~8.0 器高: 1.3	(3/4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒含
245 57-016	土師器 小皿B ₁	R40	口径: 8.0 器高: 1.2	(1/3)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒多含
246 57-004	土師器 皿B ₁	R40	口径: 12.5前後 器高: 2.3	(1/8)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	微砂粒多含
247 57-002	土師器 皿B ₁	R40	口径: 12.5前後 器高: 2.3	(1/10)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒含
248 57-015	土師器 皿B ₁	R40	口径: 11.6 器高: 2.3	(1/6)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わずかにヨコナダ。内面に油焼付着。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
249 57-005	土師器 皿C	R40	口径: 12.0前後 器高: 2.2	(1/6)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
250 57-003	土師器 皿C	R40	口径: 12.0 器高: 2.5	(1/3)	外腹オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	粗砂粒多含
251 57-014	土師器 皿C	R40	口径: 11.5前後 器高: 2.6	(1/5)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
252 57-012	土師器 皿	R40	口径: 15.0	(1/5)	口縁部内外面ヨコナダ。縫割内外面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
253 57-013	土師器 皿	R40	口径: 21.6	(1/5)	口縁部内外面ヨコナダ。縫割内外面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
254 57-006	土師器 皿	R40	(口縁部分)		内外面ヨコナダ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
256 57-007	土師器 山茶碗	R40		(口縁部分)	内外面ヨコナデ。	5YR 7/4 にぶい根 ~2.5YR 7/8 棚	砂粒多含
256 57-010	陶器 山茶碗	R40	口径：16.5前後	(1／8)	内外面ヨクロナデ。底更重か。	N7/ 灰白	砂粒少含
257 57-011	陶器 山茶碗	R40	台径：7.2	(1／2)	内外面ヨクロナデ。底部内面に強い指捺ナデ。外側ナデ。底更重か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
S E 7 9 (井戸)							
258 79-002	陶器 山茶碗	Q48	台径：8.0	(1／7)	内外面ヨクロナデ。底部外側ナデか。知多産か。	N 7/ 灰白	粗砂粒含
259 79-001	土師器 湯沸	Q48	口径：33.0前後	(1／8)	口縁部内外面ヨコナデ。脇部外側ハケ目、内面ハケ口ナデ洗消し。外側深付着。	外：2.5Y 7/3 浅黄褐 内：10YK 8/3 浅黄褐	砂粒含
S E 9 0 (井戸)							
260 90-001	土師器 小皿C	R57	口径：7.5~7.9 器高：1.0~1.2	(完存)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
261 90-003	土師器 小皿C	R57	口径：7.9 器高：1.3	(1／2)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒多含
262 90-004	土師器 小皿C	R57	口径：7.5前後 器高：1.0	(1／3)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
263 90-008	土師器 小皿C	R57	口径：7.8 器高：0.9~1.3	(3／5)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
264 90-007	土師器 皿C	R57	口径：10.6 器高：2.4	(1／5)	外側オサエ。内面ナデ。外側蝶付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	粗砂粒少含
265 90-009	土師器 皿C	R57	口径：11.7 器高：2.3	(1／4)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
266 90-010	土師器 皿C	R57	口径：12.0 器高：2.3	(1／4)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	微砂粒含
267 90-011	土師器 皿C	R57	口径：11.6 器高：2.4	(1／5)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
268 90-012	土師器 皿C	R57	口径：12.0 器高：2.4	(1／4)	外側オサエ。内面ナデ。外側の野滅無しく調査不明確。	10YR 7/2 にぶい黄褐	粗砂粒多含
269 90-014	土師器 皿C	R57	口径：12.3 器高：2.7	(1／5)	外側オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
270 90-015	土師器 皿C	R57	口径：16.8	(1／8)	口縁部内外面ヨコナデ。脇部外側高いハケ口、内面オサエ。外側深付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	粗砂粒多含
271 90-017	土師器 皿C	R57	口径：23.0前後	(1／8)	口縁部内外面ヨコナデ。外側深付着。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
272 90-016	土師器 皿C	R57	口径：27.0前後	(1／10)	口縁部内外面ヨコナデ。脇部内面ハケ柱ナデ頭。外側深付着。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
273 90-018	土師器 皿C	R57	口径：30.0前後	(1／12)	口縁部内外面ヨコナデ。外側深付着。	10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒多含
274 90-020	土師器 皿C	R57	口径：32.0前後	(1／6)	口縁部内外面ヨコナデ。外側深付着。	10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒多含
275 90-022	土師器 皿C	R57	口径：22.0前後	(1／10)	口縁部内外面ヨコナデ。脇部外側ハケ口、内面ナデ。	外：10YR 6/2 浅黄褐 内：10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒多含
276 90-021	土師器 皿C	R57	口径：21.0前後	(1／16)	口縁部内外面ヨコナデ。脇部外側ハケ目、内面ナデ。	外：10YR 5/2 浅黄褐 内：10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒含
277 90-026	陶器 山茶碗	R57	台径：6.5	(1／2)	内面ヨクロナデ。底部外側面切り痕。高台底部堅膜薄多い。知多産か。	5Y 6/1 灰	砂粒多含
278 90-024	陶器 山茶碗	R57	台径：7.8	(3／4)	内面ヨクロナデ。底部外側面切り痕。高台底部堅膜薄多い。底更重か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒多含
279 90-025	陶器 片口鉢	R57	台径：11.0前後	(1／4)	外側ケズリ、内面ヨクロナデ。底部外側ナデ。高台端部堅膜厚、知多産か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
280 90-031	丸貫土器 火鉢	R57		(底部分)	内外面ナデ。脚部1箇所残存。三脚か。	断面：7.5Y 8/1 灰白	砂粒少含
281 90-030	陶器 片口深皿	R57	口径：30.0前後 器高：7.1 底径：22.0前後	(1／26) (1／6)	内外面ヨクロナデ。底部外側オサエ堅いナデ頭。全周施釉。脚部無。	輪：7.5Y 7/2 灰白 胎土：10YR 8/2 灰白	砂粒少含
282 90-028	陶器 火鉢	R57	口径：31.0前後	(1／8)	内外面ヨクロナデ。知多産。	輪：10Y 4/2 オリーブ 胎土：10Y 7/1 灰白	粗砂粒含
283 90-032	陶器 片口深皿	R57	台径：5.0	(完存)	高台端部～高台内面堅膜。体部外側に蓮弁文。電気素系。	輪：10Y 7/1 灰白 胎土：10Y 5/2 オリーブ灰	砂粒少含

遺物番号	断種	出土位置	計測値(cm)	(残存率)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

S E 1 3 4 (井戸)

284 134-001	土器蓋 小皿C	M70	口径:7.6 基高:1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
285 134-002	土器蓋 小皿C	M70	口径:7.6 基高:1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
286 134-004	土器蓋 小皿C	M70	口径:7.9 基高:1.3	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	粗砂粒含
287 134-003	土器蓋 小皿C	M70	口径:9.2 基高:1.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
288 134-017	土器蓋 台付小皿	M70	口径:9.7 基高:2.6 台高:1.4~7.7	(1/2) (1/3)	内面ナデ。器壁の磨滅度み調整不明顯。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
289 134-008	土器蓋 皿C	M70	口径:11.4 基高:2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅度み調 整不明顯。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
290 134-011	土器蓋 皿C	M70	口径:11.7 基高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	粗砂粒含
291 134-010	土器蓋 皿C	M70	口径:11.8 基高:2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
292 134-012	土器蓋 皿B	M70	口径:12.8 基高:2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコ チャ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
293 134-026	土器蓋 皿	M70+N70	口径:30.0前後	(1/7)	口縁部内面外側ヨコナデ。肩部外側ハケ目、 内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	粗砂粒含 内混ナ。
294 134-024	土器蓋 皿	M70	口径:33.0前後	(1/8)	口縁部内面～口縁部外側ヨコナデ。内面 ハケ目。肩部外側ナデ。外側蝶形孔。	10YR 8/3 淡黄橙	粗砂粒含
295 134-020	土器蓋 皿	M70	口径:22.0前後	(1/3)	口縁部内面ヨコナデ。肩部外側ハケ目、 内面ナデ。外側蝶形孔。	10YR 8/3 淡黄橙	砂粒含
296 134-021	土器蓋 皿	M70	口径:27.0	(1/3)	口縁部内面ヨコナデ。肩部外側ハケ目、 内面ナデ。外側蝶形孔。	外:10YR 6/2 淡黄 内:10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
297 134-023	土器蓋 皿	M70	口径:29.2	(1/4)	口縁部内面ヨコナデ。体部外側ハケ目、 内面ナデ。外側蝶形孔。	外:10YR 7/3 にむい黄 内:10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
298 134-022	土器蓋 皿	M70	口径:22.8 体高:26.9	(1/4) (1/4)	口縁部内面ヨコナデ。体部外側ナデ、内 面ナデ。体部内面下半は無いケズリナ。外 側蝶形孔付着。	外:10YR 6/2 淡黄 内:10YR 8/2 灰白	砂粒多含
299 134-016	土器蓋 大鉢	M70	(口縁部片)		外表面豎向～斜基後仰花、内面ナデ。 口縁部豎向～斜基後仰。	2.5YR 7/6 橙	砂粒含
300 134-019	陶器 片口耳	M70	口径:29.0前後	(1/6)	外側ハケ目接続なナデ。口縁部内外面ヨコ ナデ。始多所。	外:2.5YR 5/4 にむい赤 内:2.5YR 4/3 にむい赤	砂粒多含
301 134-018	陶器 裏	M70	口径:42.0前後	(1/8)	内外面凹凸ナデ。肩側底。	2.5Y 6/4 にむい橘	砂粒含
302 134-029	石製品 網	M70	(体部片)		内面平滑、外側にケズリ痕残。径4mmの 孔有り。外側に蝶形孔。		重鐵石板
303 134-028	石製品 砾石	M70	残存長:7.3cm、幅3.5cm、厚1.0cm				圓錐砂岩板

S E 1 5 7 (井戸・中世墓?)

304 157-001	土器蓋 小皿C	N75	口径:7.0~7.9 基高:1.4~1.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ	10YR 8/3 淡黄橙	砂粒含
305 157-002	土器蓋 小皿C	N75	口径:7.5 基高:1.4	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
306 157-003	土器蓋 小皿C	N75	口径:7.5 基高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部曲輪付着。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
307 157-004	土器蓋 小皿C	N75	口径:7.5 基高:1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部曲輪付着。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
308 157-005	土器蓋 小皿C	N75	口径:7.6~7.9 基高:1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
309 157-007	土器蓋 小皿C	N75	口径:7.1 基高:1.1	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
310 157-014	土器蓋 皿B	N75	口径:11.9~12.1 基高:1.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコ チャ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
311 157-009	土器蓋 皿C	N75	口径:11.2 基高:2.4~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に指 擦ナ。	10YR 8/1 灰白	粗砂粒含
312 157-016	土器蓋 皿C	N75	口径:11.3 基高:2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	粗砂粒含

遺物番号	器 権	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 上
313 157-011	土師器 蓋C	N75	口径：11.0～12.0 器高：2.4～2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。底部内面一部に強い指擦ナゲ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
314 157-012	土師器 蓋C	N75	口径：11.0～11.4 器高：2.3～2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。底部内面一部に強い指擦ナゲ。外面に板状圧痕。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒含
315 157-015	土師器 蓋C	N75	口径：11.2～11.5 器高：2.6	(9/10)	外面オサエ、内面ナゲ。	7.5YR 8/1 灰白	細砂粒少含
316 157-026	土師器 鍋	N75	口径：20.3 体径：21.3	(1/3) (2/5)	口縁部内面ヨコナザ。体部外側ナゲとハケ(1)、内面ナゲ。底部内面ケヌリ、外面部ナゲ。	10YR 8/1 灰白	砂粒多含
317 157-025	土師器 鍋	N75	口径：22.2 体径：21.7	(1/2) (完存)	口縁部内面ヨコナザ。体部外側ハケ(1)、内面ケヌリ。外側ヨコナザアリ(1)ツラ、内面ケヌリ。外曲面薄く付着。	10YR 8/1 灰白	細砂粒多含
318 157-028	土師器 鍋	N75	口径：21.5前後 体径：18.7	(1/12) (1/4)	口縁部内面ヨコナザ。底部外側ハケ(1)、内面ナゲナ。底部内面ケヌリ。外曲面付着。	7.5YR 7/2 灰白	細砂粒多含
319 157-027	土師器 鍋	N75	口径：23.7 体径：24.0	(2/5) (2/5)	口縁部内面ヨコナザ。体部外側ハケ(1)、内面ナゲ。外面部付着。	7.5YR 7/2 灰白	細砂粒多含
320 157-029	土師器 一足付盤	N75	口径：37.2 直径：25.5	(1/3) (1/3)	口縁部内面ヨコナザ。体部外側ヨコナザ(1)、内面ナゲ(1)付着。底部外側に底部の輪郭が付着する。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
321 157-033	瓦質土器 火鉢	N75	(口縁部)		内外面横方向カギ。外面に印文。	7.5Y 6/1 灰	微砂粒含
322 157-034	瓦質土器 火鉢	N75	(口縁部)		内外面横方向カギ。外面に印文。	2.5Y 7/2 灰黄	微砂粒含
323 157-016	陶器 円筒壺	N75	口径：12.4	(1/4)	口縁部外側ロクロナゲ後灰斑を施す。底 内面。	輪：10YR 7/6 明黄褐 内：10YR 6/3 にぶい黄	微砂粒少含
324 157-030	陶器 壺	N75	(口縁部)		外曲面横長ナゲ。肩部に極厚く付着。知多 産。	外：10YR 5/2 暗黄褐 内：10YR 6/3 にぶい黄	砂粒含
325 157-017	陶器 古瓶	N75	口径：6.2	(1/4)	古瓶底部露頭。外面に蓮弁文、内面に双魚 貼文。底部墨。	輪：7.5GY 明黄褐 底：10Y 7/1 灰白	精良
326 157-018	石製品 鏡	N75	口径：22.0前後 直径：23.0前後	(1/12) (1/12)	内面は半滑、外面にタシリ風呂彫に残る。 外面に模付着。底部内面に化粧付着。		美濃石製
327 157-023	石製品 鏡	N75	全長6.3cm。断面方向。(完存)				鉄 鋳

S E 1 7 2 (井戸)

328 172-078	土師器 小皿B ₁	T68	口径：8.0 器高：1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面ヨ コナザ。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒多含
329 172-076	土師器 小皿B ₁	T68	口径：8.0 器高：1.3～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面ヨコ ナザ。	7.5YR 7/6 棕	砂粒多含
330 172-079	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.5～8.0 器高：1.3～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面ヨコ ナザ。	7.5YR 7/6 棕	砂粒少含
331 172-082	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.5～8.0 器高：1.3～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面ヨコ ナザ。	7.5YR 7/6 棕	砂粒含
332 172-080	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.0 器高：1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	10YR 7/6 明黄褐	砂粒含
333 172-029	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.2～8.0 器高：0.9～1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	7.5YR 8/4 戊黃褐	砂粒含
334 172-024	土師器 小皿B ₁	T68	口径：6.9～7.4 器高：0.6～1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	5YR 7/6 棕	細砂粒含
335 172-048	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.7～8.0 器高：0.7～1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	5YR 8/4 淡棕	砂粒含
336 172-028	土師器 小皿B ₁	T68	口径：8.4～8.7 器高：0.5～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	7.5YR 8/3 淡黃褐	砂粒含
337 172-071	土師器 小皿B ₁	T68	口径：6.9 器高：0.4～1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	5YR 8/4 淡棕	砂粒含
338 172-020	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.2～7.8 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	7.5YR 8/3 淡黃褐	砂粒多含
339 172-025	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.5 器高：1.2～1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	10YR 8/4 淡黄褐	微砂粒含
340 172-063	土師器 小皿B ₁	T68	口径：7.2～7.5 器高：0.7～1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	5YR 7/6 棕 ～2.5YR 6/6 にぶい棕	砂粒多含
341 172-102	土師器 小皿B ₁	T68	口径：8.0 器高：1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外面わざ かにヨコナザ。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒含
342 172-114	土師器 小皿B ₁	T68	口径：12.9 器高：2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部内外面ヨ コナザ。底部内面一部に強い指擦ナゲ。外 面に板状圧痕。内面極付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm) (残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色	調	胎	土
343 172-119	土師器 小鉢B ₃	T68	口径: 12.2~12.7 基高: 2.9	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。	10YR 8/2	灰白	砂粒多含	
344 172-117	土師器 小皿B ₄	T68	口径: 13.1~13.8 基高: 3.6	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含	
345 172-124	土師器 小皿B ₄	T68	口径: 13.2 基高: 2.3~2.8	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。内面曲面壁付着。	10YR 7/2	にぶい黄緑	細砂粒含	
346 172-125	土師器 皿B ₄	T68	口径: 12.4 基高: 2.0~2.7	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。底盤内面一部に強い指擦ナナ、外面に板状痕。	7.5YR 8/4	浅黄緑	微砂粒含	
347 172-129	土師器 皿B ₄	T68	口径: 13.5~13.0 基高: 2.5	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面わざかにヨコナナ。	5YR 7/6	緑	微砂粒少含	
348 172-139	土師器 皿B ₄	T68	口径: 12.8~13.5 基高: 2.4	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。内面油墨付着。	2.5Y 8/4	淡黄	細砂粒少含	
349 172-133	土師器 皿B ₄	T68	口径: 12.4 基高: 2.8	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。	7.5Y 7/6	緑	微砂粒少含	
350 172-142	土師器 皿B ₄	T68	口径: 12.4 基高: 2.4	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。	10YR 6/4	にぶい黄緑	砂粒含	
351 172-145	土師器 皿B ₄	T68	口径: 13.0 基高: 2.4	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。底盤内面一部に強い指擦ナナ、外面に板状痕。	10YR 8/4	浅黄緑	砂粒少含	
352 172-150	土師器 皿B ₄	T68	口径: 11.7~12.1 基高: 2.1	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。底盤内面一部に強い指擦ナナ、外面に板状痕。	7.5YR 7/6	緑	砂粒少含	
353 172-151	土師器 皿B ₄	T68	口径: 13.0~13.8 基高: 2.5	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面わざかにヨコナナ。	5YR 6/8	緑	砂粒含	
354 172-158	土師器 皿B ₄	T68	口径: 12.8~13.1 基高: 2.5~2.6	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面わざかにヨコナナ。	7.5YR 8/3	浅黄緑	細砂粒含	
355 172-164	土師器 皿B ₄	T68	口径: 12.5~13.2 基高: 2.3~2.7	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面ヨコナナ。内面油墨付着。	5YR 7/6	緑	細砂粒含	
356 172-155	土師器 皿B ₄	T68	口径: 13.8 基高: 3.0~3.6	外面オサエ、内面ナガ。口縁端部外面わざかにヨコナナ。	10YR 8/2	灰白	細砂粒少含	
357 172-167	土師器 皿	T68	口径: 18.1 基高: 9.1 休径: 17.6 (定存)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側ヨコナナとナガ、内面ナガ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含	
358 172-175	土師器 皿	T68	口径: 16.9~18.0 基高: 9.6 休径: 17.5 (3/4)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側ヨコナナとナガ、内面ナガ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含	
359 172-168	土師器 皿	T68	口径: 18.7 基高: 10.5(休後 休径: 19.3 (1/4)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側ヨコナナとナガ、内面ナガ。	7.5YR 7/3	にぶい黄緑	砂粒多含	
360 172-165	土師器 皿	T68	口径: 23.0 基高: 25.7 休径: 25.7 (2/5)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側全面ヨコナナ。	5YR 6/2	灰褐	砂粒多含	
361 172-170	土師器 皿	T68	口径: 23.4 基高: 14.7 休径: 25.5 (定存)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側全面ヨコナナ。	7.5YR 6/2	灰褐	砂粒多含	
362 172-173	土師器 皿	T68	口径: 23.0 基高: 25.5 (1/4)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側全面ヨコナナ。	10YR 7/3	にぶい黄緑	砂粒多含	
363 172-176	土師器 皿	T68	口径: 24.8 基高: 26.7 休径: 27.1 (定存)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側全面ヨコナナ。	7.5YR 7/6	明褐色	砂粒多含	
364 172-174	土師器 皿	T68	口径: 27.4 基高: 30.5 (5/6)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側全面ヨコナナとナガ、内面ナガ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含	
365 172-172	土師器 皿	T68	口径: 27.2 (1/4)	口部外側全面ヨコナナ。底盤外側全面ナガ。内面ナガ。	10YR 6/2	灰褐	砂粒多含	
366 172-171	土師器 皿	T68	口径: 24.8 基高: 17.3 休径: 26.6 (3/4)	口部外側全面ヨコナナ。体部外側全面ナガ。底盤外側全面ヨコナナとナガ、内面ナガ。	10YR 8/3	浅黄緑	砂粒多含	
367 172-009	陶器 山形	T68	口径: 15.0 基高: 1.7 休径: 4.4 (定存)	内面ヨコナラナ。底盤内面に強い指擦ナナとナガ、外系糸切り痕。知多産。	10Y 7/1	灰白	細砂粒含	
368 172-010	陶器 山形	T68	口径: 27.9 基高: 1.9 休径: 5.0~5.5 (2/3)	内面ヨコナラナ。底盤内面に強い指擦ナナとナガ、外系糸切り痕。高多産。	N7/	灰白	砂粒含	
369 172-001	陶器 山茶梅	T68	口径: 15.1 基高: 1.8 休径: 4.8 (3/4)	内面ヨコナラナ。底盤内面に強い指擦ナナとナガ、外系糸切り痕。高多産。	7.5Y 7/1	明褐色	砂粒多含	
370 172-002	陶器 山茶梅	T68	口径: 15.4 基高: 5.2 休径: 6.5 (定存)	内面ヨコナラナ。底盤外側糸切り痕。高多産。	7.5Y 7/1	明褐色	砂粒多含	
371 172-003	陶器 山茶梅	T68	口径: 14.8 基高: 4.8 休径: 6.4~6.7 (定存)	内面ヨコナラナ。底盤外側糸切り痕。高台湖製造痕。知多産。	10YR 7/1	灰白	砂粒多含	
372 172-004	陶器 山茶梅	T68	口径: 14.3 基高: 5.9 休径: 7.0 (1/2)	内面ヨコナラナ。底盤外側糸切り痕。高台湖製造痕。知多産。	10Y 6/1	灰	砂粒多含	
373 172-005	陶器 山茶梅	T68	口径: 15.2 基高: 5.2 休径: 7.4 (定存)	内面ヨコナラナ。底盤外側糸切り痕。高台湖製造痕。知多産。	10YR 7/1	灰白	砂粒少含	

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
374 172-006	陶器 10系輪	T68	口径: 15.0 脚高: 4.8	(3 / 7) (3 / 5)	内面クロコナデ。底盤内面に強い指頭小窪か。外側テグス。高台端縁部微張り。知多方。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
375 172-007	陶器 山茶碗	T68	口径: 15.8 脚高: 4.8	(2 / 5) (2 / 5)	内面クロコナデ。底盤内面に強い指頭小窪か。外側余分切り痕。高台端縁部微張り。知多方。	N7/ 灰白	砂粒多含
376 172-008	陶器 山茶碗	T68	口径: 15.0後 脚高: 5.0後 台高: 7.3	(1 / 4) (1 / 5)	内面クロコナデ。底盤外面部切欠。知多方。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
377 172-013	陶器 湯器	T68	口径: 10.0後	(1 / 12)	内面クロコナデ。底盤産四円窪か。	N7/ 灰白	細砂粒含
378 172-012	陶器 壺	T68	口径: 7.2~7.9 (底部のみ穴化)		内面クロコナデ。底盤外面部オサエ。底盤産三筋窪か。	N7/ 灰白	砂粒少含
379 172-011	陶器 片口貝	T68	口径: 30.0	(1 / 3)	内面クロコナデ。外底部凹凸クロケズリ。内面の器壁震れる。知多方。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
380 172-014	陶器 石瓶瓶	T68	口径: 15.8	(1 / 4)	内面施釉。内側にヘク彫文。蘿蔓葉系。	輪: 7.5GY 6/1 褐灰 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精良
381 172-177	土製品 支撑	T68	口径: 10.9	(1 / 2)	台面内外部オサエ。台端部ナデ。	7.5YR 7/6 棕	砂粒含

SE 19 2 (片)

382 192-001	磁器 白磁碗	P86	口径: 15.0	(1 / 16)	内面施釉。内面に鷹彫文。並燃燒痕。	輪: 10Y 7/1 灰白 胎土: 10Y 7/1 灰白	精良
----------------	-----------	-----	----------	----------	-------------------	---------------------------------	----

SE 19 3 (片)

383 193-068	土器部 小皿A	O81	口径: 8.8 基高: 1.3	(2 / 5)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒含
384 193-065	土器部 小皿B	O81	口径: 6.5~7.0 基高: 0.8~1.3	(変存)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 棕	微砂粒少含
385 193-066	土器部 小皿B	O81	口径: 7.8 基高: 1.4~1.6	(定存)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 棕	砂粒少含
386 193-067	土器部 小皿B	O81	口径: 6.5~6.8 基高: 0.8	(変存)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい棕	砂粒含
387 193-061	土器部 小皿B	O81	口径: 6.5~7.0 基高: 1.3~1.5	(5 / 6)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。外側に黒斑多い。	7.5YR 6/6 棕	粗砂粒含
388 193-062	土器部 小皿B	O81	口径: 8.0~8.3 基高: 1.3~1.5	(変存)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
389 193-064	土器部 小皿B	O81	口径: 7.4~7.6 基高: 1.0~1.2	(変存)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 6/4 にぶい棕	粗砂粒少含
390 193-065	土器部 小皿B	O81	口径: 7.3~8.0 基高: 1.3	(変存)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 棕	粗砂粒含
391 193-067	土器部 小皿B	O81	口径: 7.2 基高: 0.9	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂粒含
392 193-069	土器部 小皿B	O81	口径: 7.1 基高: 1.2~1.4	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 6/8 棕	微砂粒含
393 193-070	土器部 小皿B	O81	口径: 7.0~7.4 基高: 1.2	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	2.5YR 7/8 棕	微砂粒含
394 193-071	土器部 小皿B	O81	口径: 7.2~7.9 基高: 1.0~1.2	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	2.5YR 7/8 棕	微砂粒含
395 193-074	土器部 小皿C	O81	口径: 7.0~7.4 基高: 0.9~1.1	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい棕	微砂粒少含
396 193-079	土器部 小皿C	O81	口径: 7.2~7.7 基高: 0.9~1.1	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
397 193-090	土器部 小皿C	O81	口径: 7.2~7.4 基高: 1.1~1.3	(1 / 2)	内面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
398 193-052	土器部 小皿C	O81	口径: 7.7~8.0 基高: 1.4	(9 / 10)	内面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
399 193-053	土器部 小皿C	O81	口径: 7.0~7.4 基高: 1.5	(3 / 4)	内面オサエ。内面ナデ。外側燃焼跡。	10YR 7/4 にぶい黃緑	粗砂粒含
400 193-058	土器部 小皿C	O81	口径: 7.7~7.8 基高: 1.2~1.4	(定存)	内面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	粗砂粒多含
401 193-059	土器部 小皿C	O81	口径: 7.8~8.5 基高: 1.5	(定存)	内面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
402 193-061	土器部 小皿C	O81	口径: 7.5~7.7 基高: 0.8~1.0	(3 / 5)	内面オサエ。内面ナデ。	7.5YR 7/6 棕	粗砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
403 193-066	土師器 小皿C	O81	口径: 8.1 器高: 1.1~1.3	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
404 193-078	土師器 小皿C	O81	口径: 7.4~7.5 器高: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油煙行査。	10YR 7/4 にぶい優	砂粒少含
405 193-084	土師器 台付小皿	O81	口径: 8.8 器高: 4.4 台径: 7.5~7.8	(2/3) (3/4)	内面ナデ。皿底端部ヨコナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
406 193-083	土師器 ?	O81	口径: 4.5	(完存)	高台のみ残存。蓋のツマミか。	7.5YR 7/4 にぶい相	精良
407 193-024	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.2~12.6 器高: 2.4~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒少含
408 193-025	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.4~12.6 器高: 2.4~3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデか。蓋の断滅追記。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
409 193-027	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.2~13.0 器高: 2.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデか。蓋の断滅追記。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
410 193-047	土師器 皿B ₂	O81	口径: 13.5 器高: 2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデ。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒含
411 193-033	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.7~13.2 器高: 3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。蓋の断滅追記。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
412 193-039	土師器 皿B ₂	O81	口径: 13.5~13.7 器高: 2.6~3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。内面に油煙付着。	10YR 8/3 後黄緑	砂粒多含
413 193-046	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.7~12.9 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含
414 193-038	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.3 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部ヨコナデか。蓋の断滅追記。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
415 193-040	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.7 器高: 3.2	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	砂粒多含
416 193-041	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.4 器高: 3.1	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデか。蓋の断滅追記。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
417 193-042	土師器 皿B ₂	O81	口径: 12.8 器高: 2.3	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒含
418 193-043	土師器 皿C	O81	口径: 12.2~12.4 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。蓋の断滅追記調査用標。	10YR 8/1 灰白	砂粒少含
419 193-044	土師器 皿C	O81	口径: 11.6~12.4 器高: 2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/4 淡黄緑	砂粒含
420 193-028	土師器 皿C	O81	口径: 11.6~12.4 器高: 2.3~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内部一帯に強い指痕ナゲ、外側に波状纹。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒少含
421 193-030	土師器 皿C	O81	口径: 11.9~12.5 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。蓋の断滅追記調査用標。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
422 193-026	土師器 皿C	O81	口径: 12.7 器高: 2.1~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。蓋の断滅追記調査用標。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少含
423 193-031	土師器 皿C	O81	口径: 11.8~12.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。蓋の断滅追記調査用標。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
424 193-032	土師器 皿C	O81	口径: 12.0 器高: 2.6	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
425 193-036	土師器 皿C	O81	口径: 12.1~12.5 器高: 2.9	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
426 193-037	土師器 皿C	O81	口径: 11.7 器高: 2.0~2.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
427 193-034	土師器 皿C	O81	口径: 12.1 器高: 2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一帯に強い指痕ナゲ、外側に波状纹。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
428 193-096	土師器 羽釜	O81	口径: 24.6 器高: 29.4	(1/4) (1/4)	口縁端部ヨコナデ。体部内面ケズリ。 内面に煤付着。	10YR 8/3 後黄緑	砂粒多含
429 193-097	土師器 羽釜	O81	口径: 28.7 器高: 26.3	(3/4) (1/3)	口縁端部外側ヨコナデ。体部内面ナデ。 底部外側ケズリ。外側煤付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
430 193-100	土師器 羽釜	O81	口径: 16.0 体径: 14.9	(1/4) (1/4)	口縁端部外側ヨコナデ。体部内面ナデ。 底部内面ナデ。外側煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
431 193-103	土師器 羽釜	O81	口径: 18.0 体径: 17.6	(1/6) (1/5)	口縁端部外側ヨコナデ。体部内面ハケ目、 内面ナデ。外側煤付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
432 193-102	土師器 羽釜	O81	口径: 17.2 体径: 17.4	(1/5) (1/5)	口縁端部外側ヨコナデ。体部内面ナデ。 外側煤付着。	10YR 8/3 後黄緑	細砂粒多含
433 193-101	土師器 羽釜	O81	口径: 20.0	(1/4)	口縁端部外側ヨコナデ。体部内面ナデ、内 面直角ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(既存施)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
434 193-104	土師器 鍋	O81	口径：19.0 体径：19.2	(1/5) (1/6)	I) 脇部内外面ヨコナギ。体部内外面ナギ。 II) 脇部内外面ヨコナギ。体部内外面ナギ。 III) 口径：20.8 体径：20.4	10YR 7/2 にぶい黄橙	細砂多含
435 193-105	土師器 鍋	O81	口径：19.0 体径：19.2	(1/3) (1/4)	II) 脇部内外面ヨコナギ。体部内外面ナギ。 III) 脇部内外面ケズリ。外側底付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
436 193-106	土師器 鍋	O81	口径：23.0 体径：26.4	(1/4) (1/4)	I) 脇部内外面ヨコナギ。体部内外面ナギ。 II) 脇部内外面ヨコナギ。体部内外面ナギ。	2.5Y 8/3 淡黄 ~10YR 5/2 灰黄褐	砂粒多含
437 193-090	土師器 鍋	O81	口径：25.2 体径：27.6	(1/3) (2/5)	口部内外面ヨコナギ。体部外面ハケ日、 内曲ナギ。 I) 口径：24.8 体径：24.8	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
438 193-091	土師器 鍋	O81	口径：24.8 体径：24.8	(1/6) (1/4)	口部削内外面ヨコナギ。体部外面ハケ日、 内曲ナギ。底部内外面ケズリ。器底底付着。	10YR 7/2 にぶい黄橙	砂粒多含
439 193-096	土師器 鍋	O81	口径：24.7	(1/3)	口部削内外面ヨコナギ。肩部内外面ナギ。 外底付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
440 193-087	土師器 鍋	O81	口径：23.7 底径：14.0前後 体径：23.7	(1/3) (7/8)	口部削内外面ヨコナギ。体部外面ハケ日、 内曲ナギ。底部内外面ケズリ。器底底付着。	7.5YR 6/2 灰褐	砂粒多含
441 193-099	土師器 鍋	O81	口径：27.8 体径：27.2	(1/6) (1/5)	口部削内外面ヨコナギ。肩部内外面ナギ。 外底付着。	10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
442 193-088	土師器 鍋	O81	口径：29.4	(1/3)	I) 脇部内外面ヨコナギ。肩部外面ナギ。 II) 脇部底付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
443 193-106	土師器 鍋	O81	口径：26.2 体径：30.6	(1/5) (1/5)	口部削内外面ヨコナギ。体部外面ナギ、内 面削ナギ。底部外面ケズリ。外側底付着。	10YR 8/3 淡黄褐 ~10YR 6/3 にぶい黄橙	砂粒多含
444 193-107	土師器 鍋	O81	口径：27.8 体径：30.5	(2/3) (1/4)	口部削内外面ヨコナギ。体部外面ハケ日、 内曲削ナギ。底部内外面ケズリ。外側底付着。	10YR 6/4 にぶい黄橙 ~10YR 4/4 にぶい黄色	砂粒多含
445 193-088	土師器 鍋	O81	口径：36.8 体径：37.6	(1/5) (1/4)	口部削内外面ヨコナギ。底部内外面ナギ。 底部外面ケズリ。外底付着。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
446 193-092	土師器 鍋	O81	口径：39.0 体径：35.0前後	(2/5) (1/8)	口部削内外面ヨコナギ。底部外面薄く鋸々 ハケ日、内曲ナギ。外側底付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
447 193-083	土師器 鍋	O81	口径：38.7 体径：41.0	(7/8) (3/5)	口部削内外面ヨコナギ。体部削外オニエ工 上半身ハケ日、内曲ナギ。底部内外面ケ ズリ。外側底付着。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
448 193-086	土師器 鍋	O81	口径：40.8 底径：29.0前後 体径：41.6	(2/3) (3/4)	口部削内外面ヨコナギ。体部削外外面ナギ。 底部外面ケズリとナギ、内曲ナギ。外側底 付着。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
449 193-011	陶器 片付小皿	O81	口径：7.0 底径：6.2 底厚：3.5	(1/4) (1/3) (1/3)	内外面ロクロナギ。底部外面底切り痕。深 度無。	N7/ 灰白	粗砂粒含
450 193-012	陶器 片付	O81	口径：8.2 器高：1.2~1.4 底厚：5.1	(1/3) (1/3) (1/3)	内外面ロクロナギ。底部外面底切り痕。深 度無。	10Y 7/1 灰白	粗砂粒含
451 193-013	陶器 片付	O81	口径：8.8 器高：1.4 底厚：4.9	(1/6) (1/3) (1/3)	内外面ロクロナギ。底部外面底切り痕。深 度無。	10Y 7/1 灰白	粗砂粒含
452 193-001	陶器 片付	O81	口径：15.9 器高：5.0 底厚：6.8	(1/5) (1/2) (1/2)	内外面ロクロナギ。底部外面底切り痕。深 度無。底部外面底底切痕。高台萬葉底板置痕。 知多 底。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
453 193-002	陶器 片付	O81	口径：15.3 器高：4.6 底厚：7.4	(完存) (完存) (完存)	内外面ロクロナギ。底部外面底底切痕。高 台萬葉底板置痕。II様部に自然軸厚く杼着。 深度無。	2.5Y 8/1 灰白	粗砂粒含
454 193-003	陶器 片付	O81	口径：16.4 器高：3.3 底厚：6.8	(1/10) (1/3) (7/8)	内外面ロクロナギ。底部外面底底切痕。高 台萬葉底板置痕。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
455 193-005	陶器 片付	O81	口径：14.4 器高：5.0 底厚：5.6	(1/5) (1/8) (1/8)	内外面ロクロナギ。底部外面底底切痕。高 台萬葉底板置痕。II様部に自然軸厚く杼着。 深度無。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
456 193-006	陶器 片付	O81	口径：15.8 器高：4.9 底厚：8.0	(1/4) (3/4) (3/4)	内外面ロクロナギ。底部外面ナギ。高台萬 葉底板置痕。高轴未着。	10Y 6/1 灰	粗砂粒少含
457 193-009	陶器 片付	O81	口径：14.7 器高：5.6~5.1 底厚：7.0	(1/6) (1/6) (1/6)	内外面ロクロナギ。底部外面底底切痕。知 多底。	10Y 7/1 灰白	砂粒多含
458 193-004	陶器 片付	O81	口径：15.2 器高：4.9 (高台は完全に剥落)	(3/4) (1/8)	内外面ロクロナギ。底部外面底底切痕。外 面に梅花?の墨書き。知多底。	7.5Y 6/1 灰	砂粒多含
459 193-015	陶器 片付	O81	口径：14.6	(1/8)	I) 内外面削底ナギ。II) 脇部内外面に鉢輪を施 す。深度無。	N7/ 灰白	粗砂粒含
460 193-023	陶器 片付	O81	口径：56.7	(1/4)	内外面削底ナギ。口縁部内外面と肩部内外面 に次輪輪を施す。体部にも出土。深度無。	5Y 5/1 灰	粗砂粒多含
461 193-018	陶器 青磁皿	O81	口径：9.2 器高：2.0 底厚：5.2	(1/3) (1/6) (1/6)	外底下半面ロクロケズリ。外底下半露胎。電 筋跡：7.5Y 7/3 淡黄 筋跡：7.5Y 7/1 灰白	粗砂粒含	粗砂粒含
462 193-016	陶器 青磁皿	O81	口径：9.2 器高：2.0 底厚：4.8	(1/8) (1/6) (1/3)	外底下半ロクロケズリ。外底下半露胎。電 筋跡：10Y 7/1 墨绿灰 筋跡：10Y 7/1 灰白	粗砂粒含	粗砂粒含
463 193-021	陶器 青磁皿	O81	口径：11.0 器高：2.4 底厚：5.0	(1/6) (1/6) (1/6)	外底下半面ロクロケズリ。内底にヘラ揉文。 底部外面底底切痕。深度無。	物：5G 6/1 オリーブ灰 筋跡：N7/ 灰白	粗砂粒少含
464 193-020	陶器 白磁碗	O81	口径：9.9 器高：5.0 底厚：4.6	(2/5) (1/4) (1/4)	外底下半面ロクロケズリ。口縁部内外面に 各1条の沈線。高台萬葉底。	物：2.5Y 8/1 灰白 筋跡：10Y 8/1 灰白	精良

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
465 193-017	鉢器 青磁碗	O81	台溝: 15.6	(1/4)	口縁部内側に1条の沈線。内外面施釉。電気窯系。	輪: 5GY 7/1 オリーブ灰 胎土: 7.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
466 193-022	鉢器 青磁碗	O81	口径: 15.6	(1/5)	口縁部内側に1条の沈線。内外面施釉。電気窯系。	輪: 7.5Y 5/3 淡オーブル 胎土: N6° 1K	微砂粒少含
467 193-019	鉢器 青磁碗	O81	口径: 16.3	(1/4)	内外面施釉。体部外側に蓮弁文。電気窯系。	輪: 10Y 5/2 オリーブ灰 胎土: 10Y 7/1 灰白	微砂粒少含

S E 1 9 4 (井戸)

468 193-001	上簡器 小皿B	O84	口径: 8.2 基高: 1.9	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側わずかにコロナデ。	10YR 7/3 に赤い赤模 ~10YR 6/1 淡黄	砂粒少含
469 194-002	上簡器 皿B	O84	口径: 11.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側わずかにコロナデ。	10YR 7/4 に赤い赤模	砂粒少含
470 194-009	土師器 瓶	O84	口径: 22.8	(2/5)	口縁部内外面コロナデ。外側模付着。	7.5YR 8/3 浅黄模	砂粒多含
471 194-011	土師器 瓶	O84	口径: 28.0前後	(1/7)	口縁部内外面コロナデ。外側模付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
472 194-010	土師器 瓶	O84	口径: 29.0前後	(1/16)	口縁部内外面コロナデ。肩部外側オサエ、内面ナデ。外側模付着。	10YR 8/3 浅黄模	砂粒多含
473 194-004	陶器 山形碗	O84	口径: 16.8前後	(1/8)	内外面クロナダ。深美底。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
474 194-006	陶器 山形碗	O84	口径: 7.8	(完存)	内外面クロナダ。底部外側赤切り目。底台端部脱型痕。深美底。	2.5Y 8/1 灰白 ~2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
475 194-005	陶器 山形碗	O84	口径: 8.0	(完存)	外側面クロナダ。底台端部脱型痕。底部外側墨書き○。深美底。	5Y 7/1 灰白 ~5Y 6/1 灰白	微砂粒少含
476 194-007	陶器 片口鉢	O84	口径: 31.4	(1/5)	内外面クロナダ。底底外側クロヘケアリ。深美底。	5Y 6/1 灰白	細砂粒少含
477 194-008	陶器 片口鉢	O84	口径: 30.0 基高: 15.5 台径: 13.5	(1/6)	内外面クロナダ。外側ドロクロヘケアリ。加多處か。	5Y 7/1 灰白	砂粒多含

S E 2 0 7 (井戸・中世墓)

478 207-005	上簡器 小皿C	O75	口径: 7.0~7.5 基高: 1.1	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅込み調整不規則。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒少含
479 207-002	上簡器 皿C	O75	口径: 12.0 基高: 2.2	(2/5)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
480 207-001	土師器 皿C	O75	口径: 11.6 基高: 2.4	(7/8)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
481 207-004	土師器 皿C	O75	口径: 11.7 基高: 2.7	(1/3)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒少含
482 207-007	土師器 皿C	O75	口径: 22.5前後	(1/10)	口縁部内外面コロナダ。外側模付着。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
483 207-010	上簡器 皿	O75	口径: 22.5前後	(1/12)	口縁部内外面コロナダ。外側模付着。	10YR 8/3 浅黄模	砂粒多含
484 207-013	上簡器 皿	O75	口径: 22.0前後	(1/16)	口縁部内外面コロナダ。外側模付着。	7.5Y 8/1 灰白	粗砂粒多含
485 207-012	土師器 皿	O75	口径: 26.0前後	(1/14)	口縁部内外面コロナダ。外側模付着。	7.5YR 8/2 灰白	粗砂粒少含
486 207-014	陶器 山形碗	O75	口径: 14.0前後	(1/14)	内外面クロナダ。知多處か。	N8° 灰白	粗砂粒多含
487 207-008	陶器 山形碗	O75	口径: 5.5前後	(2/5)	内外面クロナダ。底部外側ナデ。高台はかなり難観。知多處か。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
488 207-009	鉢器 青磁碗	O75	口径: 11.2前後	(1/6)	内外面施釉。外面に蓮弁文。電気窯系。	輪: N7° 灰 胎土: 10Y 5/1 灰	微砂粒少含

S X 5 (中世墓)

489 005-003	上簡器 小皿C	U88	口径: 7.8 基高: 1.0	(1/2)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
490 005-001	上簡器 小皿C	U88	口径: 11.7 基高: 2.2	(7/10)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒少含
491 005-002	土師器 小皿C	U88	口径: 12.4 基高: 2.6	(2/5)	外側オサエ、内面ナデ。底面内側一面に強い指捺ナデ。外側に鉄状斑。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒少含
492 005-005	土師器 皿	U88	口径: 29.2 基高: 16.7 体径: 34.0	(1/4)	口縁部内外面クロナダ。底盤外側ナデ。内側模付着スカリ。底盤内側一面に強い指捺ナデ。(底盤底)。底盤付着有り。	10YR 7/3 に赤い赤模 胎土: 10Y 5/1 灰	粗砂粒多含

遺物番号	器 様	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 調	胎 土
493 005-006	陶器 山茶碗	U88	口径: 7.0前後	(1/6)	内外面ロクロナダ。底面外面ナダ。高台端部斜傾。渦美作か。	5Y 7/1 灰白	砂 粒 含

S X 2.8 (中世墓)

494 028-001	陶器 甕	S70-T69	(1) 頭部 1 / 5	内外面回転ナダ。体部と底部分も出土。知多産。	5YR 4/4 にぶい赤褐色 ~5Y 5/3 灰オリーブ	砂 粒 含
----------------	---------	---------	--------------	------------------------	---------------------------------	-------

S X 3.8 (中世墓)

495 038-002	陶器 甕	W59	(1) 頭部片	内外面回転ナダ。知多産か。	2-SYR 5/4 にぶい赤褐色 ~5Y 4/4 灰オリーブ	砂 粒 含	
496 038-001	陶器 甕	W59	口径: 14.6	(1/6)	内外面ロクロナダ。	5Y 5/1 灰	砂 粒 含
497 038-005	陶器 山茶碗	W59	口径: 8.3	(1/2)	内外面ロクロナダ。底面外面糸切り筋。高台端部斜傾多い。吉良大產か。	10YR 7/1 灰白	細砂粒含
498 038-003	陶器 山茶碗	W59	口径: 7.3	(完存)	高台端部斜傾。	触: 5GY 8/1 灰白 触: NR 灰白	精 良

S X 4.0 (中世墓)

499 040-004	土師器 小皿C	V29	口径: 8.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナダ。	2-SY 8/3 淡黄	砂 粒 含
500 040-005	土師器 小皿B ₁	V29	口径: 8.2 盤島: 1.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナダ。口縁端部外面ヨコナダ。	2-SY 8/2 灰白	砂 粒 含
501 040-001	土師器 皿C	V29	口径: 10.0	(1/4)	外面オサエ、内面ナダ。	2-SY 8/2 灰白	砂 粒 少含
502 040-002	土師器 皿C	V29	口径: 11.0 盤島: 2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナダ。	2-SY 8/3 淡黄	砂 粒 含
503 040-003	土師器 皿B ₂	V29	口径: 13.0前後	(1/8)	外面オサエ、内面ナダ。口縁端部内外糸切 コナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂 粒 多含
504 040-006	土師器 鍋	V29	口径: 23.0前後 底径: 24.0前後	(1/8) (1/16)	口縁部内外糸コナダ。体部外面オサエ後 ナダ、内面ナダ。外縁全体煤付有。	10YR 7/1 灰白	砂 粒 含
505 040-007	陶器 山田	V29	口径: 8.0 盤島: 1.2 底径: 4.8	(1/5)	内外面ロクロナダ。底面外面糸切り筋。知 多産か。	2-SY 8/1 灰白	砂 粒 少含

S X 4.1 (中世墓)

506 041-004	土師器 小皿C	T21	口径: 6.6~7.0 盤島: 1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナダ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 少含
507 041-006	土師器 小皿C	T21	口径: 7.8 盤島: 0.9~1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナダ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
508 041-005	土師器 小皿C	T21	口径: 7.9 盤島: 0.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナダ。	2-SY 8/3 淡黄	砂 粒 少含
509 041-002	土師器 皿C	T21	口径: 12.0 盤島: 2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナダ。	2-SY 8/3 淡黄	砂 粒 含
510 041-001	土師器 皿C	T21	口径: 10.7~11.5 盤島: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナダ。	2-SY 8/4 淡黄	砂 粒 含
511 041-003	土師器 皿C	T21	口径: 10.0 盤島: 2.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナダ。底部内面一部に強 い指痕ナダ、外縁に板状突起。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 少含
512 041-009	土師器 鍋	T21	(1) 頭部片		(1) 頭部内外面ロコナダ。体部内外面ナダ。	7-SYR 7/3 にぶい褐	细砂粒含
513 041-008	土師器 鍋	T21	口径: 23.3	(1/4)	ロコナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	细砂粒多含

S X 4.4 (中世墓)

514 044-001	土師器 小皿B ₂	V25	口径: 8.3~9.0 盤島: 1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナダ。口縁端部外面ヨコ ナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂 粒 多含
515 044-002	陶器 山茶碗	V25	口径: 6.1	(1/2)	内外面ロクロナダ。底面外面ナダ。高台端 部斜傾。知多産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含

S X 4.6 (中世墓)

516 046-008	土師器 小皿A	W47	口径: 8.6 盤島: 1.0~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナダ。ロコナダ。	10YR 8/1 灰白	细砂粒多含
517 046-005	土師器 小皿C	W47	口径: 8.0~8.5 盤島: 1.4	(4/5)	外面オサエ、内面ナダ。	10YR 8/1 灰白	砂 粒 含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
518 046-006	土師器 小皿C	W47	口径: 8.4~8.7 器高: 0.9~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 淡黄褐色	細砂粒含
519 046-007	土師器 小皿C	W47	口径: 8.1~8.6 器高: 0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
520 046-009	土師器 小皿C	W47	口径: 8.2~8.7 器高: 0.9~1.9	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	砂粒含
521 046-010	土師器 小皿C	W47	口径: 7.8 器高: 1.3	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒少含
522 046-001	土師器 皿C	W47	口径: 12.6 器高: 2.6~2.9	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄褐色	砂粒含
523 046-002	土師器 皿C	W47	口径: 12.2 器高: 2.5	(完存)	外面ナサエ、内面ナデ。器底の磨擦痕み調 整不明顯。	10YR 8/3 淡黄褐色	細砂粒少含
524 046-004	土師器 皿C	W47	口径: 12.3~12.9 器高: 2.8~3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。外面曲邊付着。	外: 10YR 3/1 黑褐色 内: 10YR 8/2 灰白色	細砂粒含
525 046-005	土師器 皿C	W47	口径: 12.0~12.4 器高: 2.3~2.7	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内部一部に強 い擦痕ナデ、外側に軟性圧痕。	10YR 8/3 淡黄褐色	砂粒含
526 046-012	土師器 鍋	W47	口径: 22.8 器高: 14.4 体径: 25.5	(3/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外側ハケ目、 内面ナデ。底部外側ヨリナズリとナデ、内面ケ メリ。外面保付着。	10YR 8/1 灰白	砂粒多含
527 046-013	土師器 鍋	W47	口径: 24.1 器高: 13.0 体径: 25.4	(2/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外側ハケ目、 内面ケメリ。外面保付着。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	砂粒多含
528 059-046	陶器 山皿	W47	口径: 8.2 器高: 2.1 底径: 4.4	(1/12) (1/4)	外面ヨコナデ。底部外面赤切り痕か。 底部ガラ。	10YK 7/1 灰白	砂粒少含

S X 5 9 (中世墓)

529 059-001	土師器 皿C	W49	口径: 12.0割後 器高: 2.2	(1/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	微砂粒含
S30 059-002	土師器 鍋	W49	口径: 25.0割後	(1/12)	口縁部外面ヨコナデ。外面保付着。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	砂粒多含

S X 6 3 (中世墓)

531 063-001	土師器 皿C	W49	口径: 12.2 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部油焼付着。	10YR 7/3 にぶい黄褐色 ~10YR 6/2 黑黃褐色	微砂粒含
532 063-002	土師器 鍋	W49	口径: 13.0割後 器高: 2.4	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わす かにヨコナデ。内面保付着。	7.5YR 3/2 黑褐色 ~7.5YR 4/2 黑褐色	微砂粒多含

S X 6 4 (中世墓)

533 064-001	土師器 小皿C	U24	口径: 8.2 器高: 1.1	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
534 064-002	土師器 鍋	U24	口径: 37.0割後 器高: 31.0割後 体径: 35.5割後	(1/3) (1/2)	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ナデ。 底部内面ヨリナズリとナデ。	5 YR 8/4 淡黄褐色	砂粒含

S X 6 7 (中世墓)

535 067-001	土師器 皿B ₁	S48	口径: 13.2 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。	10YR 7/4 にぶい黄褐色	砂粒少含
536 067-002	土師器 皿B ₁	S48	口径: 13.2 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。	5 YR 7/6 橙	微砂粒少含
537 067-003	土師器 鍋	S48	口径: 24.2 体径: 25.4	(9/10) (3/4)	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ナデ、内 面板ナデ。底部内面ケズリ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒含

S X 7 0 (中世墓)

538 070-001	土師器 小皿B ₁	V74	口径: 8.0~8.4 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	微砂粒多含
539 070-002	土師器 小皿B ₁	V74	口径: 8.9 器高: 1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。	10YR 7/6 淡黄褐色	微砂粒含
540 070-003	土師器 小皿B ₁	V74	口径: 16.0 器高: 3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。山茶樹の蓋をして転用。	10YR 8/3 淡黄褐色	微砂粒多含
541 070-004	陶器 山茶樹	V74	口径: 16.5~17.0 体径: 6.0 合径: 8.5	(11/12) (完存)	外側ヨコナデ。口縁部に灰褐色の擦れ跡 付近所。田代カズラによる輪化と小孔現 象。内側表面切削痕。黒褐色の糊付着。底部 ガラ。	10YR 7/1 灰白	微砂粒少含

S X 7 7 (中世墓)

542 077-001	土師器 皿B ₂	P-46	口径: 13.0割後 器高: 2.2	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨ コナデ。	10YR 7/3 にぶい黄褐色	砂粒少含
----------------	------------------------	------	-----------------------	-------	----------------------------	-----------------	------

測定番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技術・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

S X 7 8 (中世墓)

543 078-001	土器部 小皿C	Q47	口径: 7.4 高さ: 1.1	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁部曲腰付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑	微砂粒多含
544 078-002	土器部 皿C	Q47	口径: 14.8 高さ: 2.4	(1/7)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい緑	細砂粒多含

S X 9 2 (4世墓)

545 092-001	副器 青銅鏡	S54	口径: 16.1 高さ: 6.6 合径: 5.8	(11/12) (完存)	体部外面に薔薇文。高台端部~高台内面露 出。横行内面にハマツ。東京風。	緑: 5GY 6/1 オリーブ灰 墨: N7/ 淡	精良
----------------	-----------	-----	--------------------------------	-----------------	--	------------------------------	----

S X 9 6 (中世墓)

546 096-001	土器部 鍋	Q55	体径: 38.6	(口縁端欠損) (5/6)	体部外面ナデ。底部内面ケズリとナデ。 外縁端付着。	10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒多含
----------------	----------	-----	----------	------------------	------------------------------	----------------	-------

S X 1 0 6 (中世墓)

547 106-004	土器部 小皿C	K66	口径: 7.2~8.0 高さ: 1.0	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
548 106-003	土器部 小皿C	K66	口径: 8.9 高さ: 1.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナ デ。口縁端油煙付着。	7.5YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
549 106-001	土器部 皿C	J66	口径: 11.0~11.4 高さ: 2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強 い指痕ナデ、外縁に板状压痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
550 106-002	土器部 皿C	J66	口径: 12.0 高さ: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強 い指痕ナデ、外縁に板状压痕。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
551 106-005	土器部 鍋	K66	口径: 34.0前後 体径: 35.2	(1/12) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ハケ目。 体部外面ハケ目、内面ナデ。外縁端付着。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒含

S X 1 2 0 (中世墓)

552 120-004	土器部 小皿C	I74	口径: 7.2~7.8 高さ: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
553 120-001	土器部 皿C	I74	口径: 11.8~12.4 高さ: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒少含
554 120-002	土器部 皿C	I74	口径: 11.6~11.8 高さ: 2.7	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
555 120-003	土器部 皿C	I74	口径: 11.4~12.4 高さ: 2.6	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
556 120-005	土器部 杯	I74	口径: 10.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外面ヨコナ デ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
557 120-008	土器部 皿C	I74	口径: 6.5前後 鉢径: 8.0前後	(1/10) (1/8)	口縁部外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	微砂粒多含
558 120-006	陶器 茶末碗	I74	口径: 15.0 高さ: 5.8 合径: 6.4	(3/5) (1/2)	外表面クロコナデ。底部外表面切り崩。底 部端部に櫻型痕多い。如多産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含

S X 1 3 8 (中世墓)

559 138-002	土器部 皿C	K66	口径: 11.2 高さ: 2.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
560 138-001	土器部 皿C	K66	口径: 12.0 高さ: 2.0	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強 い指痕ナデ、外縁に板状压痕。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含

S X 1 4 0 (中世墓)

561 140-001	土器部 皿C	J66	口径: 11.1 高さ: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
562 140-002	土器部 皿C	J66	口径: 10.4 高さ: 2.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
563 140-005	土器部 皿C	J66	口径: 31.5	(7/10)	口縁部外面ヨコナデ。底部内面ハケ目。 体部外表面ハケ目、内面ナデ。外縁端部 に強い指痕ナデ。	外: 10YR 7/4 にぶい黄緑 内: 2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
564 140-006	土器部 皿C	J66	口径: 21.3 高さ: 13.1 体径: 23.1	(2/5)	口縁部外面ヨコナデ。体部外表面ハケ目。 内面ナデ。底部内外面ヨコナデ。外縁端部 に強い指痕ナデ。	10YR 7/2 にぶい黄緑 ~7.5YR 6/4 にぶい緑	砂粒含

S X 1 4 9 (中世墓)

565 149-007	土器部 小皿C	L68	口径: 7.3~8.0 高さ: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	細砂粒少含
----------------	------------	-----	------------------------	------	-------------	---------------	-------

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
566 149-008	土器 小皿B ₂	L68	口径:7.6 器高:1.3	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外腹ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
567 149-001	土器 皿B ₃	L68	口径:12.6 器高:2.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外腹ヨコナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒含
568 149-002	土器 皿C	L68	口径:12.4 器高:2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指壓ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒含
569 149-003	土器 皿C	L68	口径:12.0~12.8 器高:2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
570 149-004	土器 皿C	L68	口径:12.4~12.6 器高:2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
571 149-005	土器 皿C	L68	口径:12.4~12.7 器高:2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒多含
572 149-006	土器 皿C	L68	口径:12.7 器高:2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒多含
573 149-011	土器 皿	L68	口径:40.2	(1/4)	内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑 7.5YR 6/3 にぶい緑	砂粒多含
574 149-010	土器 盤	L68	口径:30.0前後 器高:3.7 底径:25.5前後	(1/8)	内外面横方向ナデ。	2.5YR 8/3 浅黄	砂粒含
575 149-009	土器 盤	L68	口径:41.8 器高:6.0 底径:29.5	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。脚部1か所、脚部附近2か所残る。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
576 149-012	脚部 山茶輪	L68	口径:15.5 器高:5.3 台径:7.5	(1/3) (完存)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指壓ナデ、外側赤切り目。高台端部横裂多い。知多系。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含

S X 1 5 1 (中世墓)

577 151-007	土器 小皿	L68	口径:5.9 器高:0.7 底径:5.2	(3/4) (完存)	口縁部内外面ヨコナデ。底部外腹オサエ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒少含
578 151-001	土器 皿C	L68	口径:12.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
579 151-002	土器 皿	L68	口径:26.0前後	(1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒多含
580 151-003	土器 皿	L68	口径:29.2	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。	10YR 7/2 にぶい緑	細砂粒多含
581 151-004	土器 盤	L68	口径:25.6前後 器高:3.4 底径:20.0前後	(1/16) (1/8)	内外面ヨコナデ。底部外腹ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
582 151-005 151-006	土器 三足付盤	L68	口径:33.0 器高:4.6 底径:23.0前後	(1/4) (1/8)	内外面横方向ナデ。脚部1か所残る。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒多含
583 151-008	脚部 山茶輪	L68	口径:8.2	(1/4)	内外面ヨコナデ。底部外腹赤切り目。高台端部横裂多い。蓋表面無。	10YR 7/1 灰白	細砂粒少含

S X 1 5 2 (中世墓)

584 152-001	土器 小皿C	M67	口径:7.9~8.3 器高:1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少含
----------------	-----------	-----	----------------------	------	-------------	--------------	-------

S X 1 6 2 (中世墓)

585 162-003	土器 小皿C	N74	口径:8.0~7.7 器高:1.3	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
586 162-004	土器 小皿C	N74	口径:7.3~7.5 器高:1.0	(3/4)	外腹オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	砂粒多含
587 162-005	土器 小皿C	N74	口径:7.5 器高:0.9~1.2	(3/5)	外腹オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい緑	細砂粒多含
588 162-006	土器 小皿C	N74	口径:7.3~8.1 器高:0.8~1.0	(5/8)	外腹オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
589 162-001	土器 皿C	N74	口径:12.0 器高:2.4	(2/5)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒少含
590 162-002	土器 皿C	N74	口径:12.5 器高:2.5	(1/3)	外腹オサエ、内面ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい緑	細砂粒多含
591 162-007	土器 皿	N74	口径:16.2	(1/5)	器縁の脛激減じく調整不明。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含

S X 1 6 5 (中世墓)

592 165-003	土器 小皿B ₂	L68	口径:9.0前後 器高:1.1	(3/7)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	5YR 8/4 淡桂	砂粒含
----------------	------------------------	-----	--------------------	-------	------------------------	------------	-----

遺物番号	種類	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
593 165-004	土師器 小皿C	L68	口径:7.8 高さ:0.7~0.9	(2/3)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/2 黒白	細砂粒含
594 165-001	土師器 皿C	L68	口径:12.0 高さ:2.8	(7/8)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
595 165-002	土師器 皿C	L68	口径:11.5~11.8 高さ:2.3	(15/16)	外面オサエ、内面ナゲ。	7.5YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含
596 165-005	土師器 皿	L68	口径:27.0前後 高さ:1.0		口周部内外面コロナデ。底部付近外側クロカタ 入り。相当量か。	7.5YR 7/2 明褐色	細砂粒多含
597 165-007	陶器 片口鉢	L68	口径:13.8	(1/4)	内外面コロナデ。底部付近外側クロカタ 入り。相当量か。	2.5Y 7/1 黑白	砂粒多含
598 165-006	瓦器 片口鉢	L68	口径:6.0前後 高さ:2.1 底径:3.4 (1/4)		内外面コロナデ。底部外側ナゲ。	5Y 6/1 黑	細砂粒少含
599 165-008	瓦器 白磁皿	L68	口径:7.7 高さ:1.3 底径:3.0	(1/3)	内面に花文。底部外側露胎。露胎調査。	10GY 8/1 明綠灰	稍 光

S X 1 6 6 (小皿類)

600 166-001	土師器 皿C	N67	口径:10.0前後 高さ:1.8	(1/6)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒含
601 166-013-1	鉢	N67	開元通貫、初唐年代 武德4年(621) 外径:2.40cm、穿φ0.65cm、量12.25g				銅 制
602 166-013-2	鉢	N67	開元通貫、初唐年代 武德4年(621) 外径:2.40cm、穿φ0.65cm、量12.25g				銅 制
603 166-007	鉢	N67	天聖光貞(業)、初唐年代 天聖光年(1023) 外径:2.45cm、穿φ0.65cm、量12.25g				銅 制
604 166-008	鉢	N67	天聖光貞(業)、初唐年代 天聖光年(1023) 外径:2.40cm、穿φ0.65cm、量11.48g (1/4欠損)				銅 制
605 166-009	鉢	N67	景祐元貞(業)、初唐年代 景祐元年(1034) 外径:2.55cm、穿φ0.70cm、量12.38g (一部欠損)				銅 制
606 166-005	鉢	N67	治平元貞(業)、初唐年代 治平元年(1064) 外径:2.35cm、穿φ0.55cm、量12.07g (一部欠損)				銅 制
607 166-006	鉢	N67	治平元貞(業)、初唐年代 治平元年(1064) 外径:2.30cm、穿φ0.55cm、量12.52g				銅 制
608 166-013-4	鉢	N67	熙寧元貞(業)、初唐年代 熙寧元年(1068) 外径:2.50cm、穿φ0.70cm、量11.96g (一部欠損)				銅 制
609 166-013-3	鉢	N67	元豐通貫(業)、初唐年代 元豐光年(1078) 外径:2.45cm、穿φ0.65cm、量13.83g				銅 制
610 166-002	鉢	N67	元豐通貫(業)、初唐年代 元豐光年(1078) 外径:2.45cm、穿φ0.65cm、量11.61g (4.02g)				銅 制
611 166-003	鉢	N67	元祐通貫(業)、初唐年代 元祐光年(1098) 外径:2.50cm、穿φ0.70cm、量11.47g (4.02g)				銅 制
612 166-010	鉢	N67	聖宋元貞(業) ?、初唐年代 道中靖河光年(1101) 外径:2.30cm、穿φ0.65cm、量12.03g				銅 制
613 166-004	鉢	N67	政和通貫(業) ?、初唐年代 政和元年(1111) 外径:2.45cm、穿φ0.65cm、量12.46g				銅 制

S X 1 6 7 (中世盤)

614 167-003	土師器 皿C	M67	口径:6.9~7.4 高さ:0.8~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/2 黑白	砂 粒 含
615 167-001	土師器 皿C	M67	口径:11.2~11.4 高さ:2.3	(完存)	外面オサエ、内面ナゲ。	10YR 8/3 淡黄褐	砂 粒 含
616 167-002	土師器 皿C	M67	口径:11.9 高さ:2.0	(2/3)	背面オサエ、内面ナゲ。底部内側一部に強 い指擦れナゲ。外側に板状斑紋。	10YR 8/4 淡黄褐	砂 粒 含
617 167-004	鉢	M67	残存長20.7cm、刀身部残存長17.5cm、刀身幅2.6cm、株幅0.5cm、 基部厚0.6cm				銅 制

S X 1 6 8 (中世盤)

618 168-012	土師器 小皿B ₁	L67	口径:8.2 高さ:1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外側わざ かにヨコナゲ。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒含
619 168-013	土師器 小皿B ₁	L67	口径:8.5 高さ:1.2	(1/2)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外側わざ かにヨコナゲ。	10YR 8/2 黑白	細砂粒多含
620 168-014	土師器 小皿B ₁	L67	口径:8.9 高さ:1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナゲ。口縁端部外側わざ かにヨコナゲ。口縁端部運行者。	2.5Y 8/3 淡褐	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・接法・調整等の特徴	色調	胎土
621 168-003	土師器 皿B ₁	L67	口径：12.4～12.8 器高：2.7～2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外彎わずかにヨコナダがある。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
622 168-002	土師器 皿B ₁	L67	口径：12.0～12.2 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外彎わずかにヨコナダ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
623 168-005	土師器 皿B ₁	L67	口径：11.9～12.2 器高：2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外彎ヨコナダ。	2.5Y 8/3 淡緑	砂粒含
624 168-006	土師器 皿B ₁	L67	口径：12.0～12.5 器高：2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外彎ヨコナダ。	2.5Y 8/3 淡緑	砂粒含
625 168-007	土師器 皿B ₁	L67	口径：12.1～12.5 器高：2.7～3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外彎ヨコナダ。	2.5Y 8/3 淡緑	細砂粒含
626 168-009	土師器 皿B ₁	L67	口径：11.6～13.0 器高：2.3～2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外彎ヨコナダ。底盤内面一面に強い指擦ナデ、外面に較正痕。	2.5Y 8/3 淡緑	砂粒少含
627 168-010	土師器 皿C	L67	口径：12.8 器高：2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
628 168-001	土師器 皿C	L67	口径：11.6～12.2 器高：2.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。壁部の磨滅込み調整痕。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
629 168-004	土師器 皿C	L67	口径：12.3～12.8 器高：2.3～2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡緑	砂粒含
630 168-008	土師器 皿C	L67	口径：12.0～12.2 器高：2.6	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一面に強い指擦ナデ、外面に板状痕。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
631 168-019	土師器 皿C	L67	口径：26.8 器高：30.5	(1/3)	口縁内外面ヨコナダ。体部内面ナデ。底盤の外側アクリなど。底盤僅存着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
632 168-016	瓦器 [コマツ型]	L67	口径：5.8 器高：9.8	(1/3)	口縁内外面ヨコナダ。	7.5YR 4/1 楊灰	細砂粒少含
633 168-015	陶器 人子	L67	口径：5.6 器高：1.5 底径：3.4	(3/8) (1/2)	内外面ヨコナダ。底盤外表面切り底。底盤底。	10YR 7/1 灰白	砂粒少含
634 168-017	陶器 山茶碗	L67	口径：16.0前後	(1/8)	内外面ヨコナダ。知多窯か。	5Y 7/1 灰白	砂粒含
635 168-018	陶器 山茶碗	L67	口径：6.6	(完存)	内外面ヨコナダ。底盤外表面。高台端丸脚。底盤底。	5Y 6/1 灰	細砂粒含
636 168-020	陶器 小刀	L67	残存長13.9cm、刃部部幅3.9cm、厚0.3cm、茎部幅1.9cm、茎厚0.8cm				鉄質

S X 1 7 0 (中性基)

637 170-001	土師器 皿C	K66	口径：11.2 器高：2.6	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。器底の磨滅溝開き不規則。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
638 170-003	土師器 平釜	K66	口径：22.0前後 鍋径：25.0前後	(1/8) (1/8)	口縁内外面ヨコナダ。体部内外面ケズリ。外表面付着。	10YR 7/1 灰白	細砂粒多含
639 170-006	土師器 平釜	K66	口径：21.0前後 鍋径：25.0前後	(1/10) (1/10)	口縁内外面ヨコナダ。体部内外面ケズリ。外表面付着。	10YR 8/3 浅黄緑	細砂粒含
640 170-004	陶器 片口鋤	K66	口径：14.2	(3/5)	内外面ヨコナダ。底盤付近外表面ケズリ。知多窯か。	10YR 7/1 灰白	砂粒含

S X 1 7 5 (中性基)

641 175-001	土師器 皿C	V65	口径：11.8～11.4 器高：2.6～2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
642 175-002	土師器 皿C	V65	口径：10.9～11.9 器高：2.7～2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
643 175-003	土師器 皿	V66	口径：20.3～21.0 器高：2.6～2.8 底径：22.1	(3/4)	口縁内外面ヨコナダ。体部内外面ケズリ。底盤内面化粧付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
644 175-004	土師器 皿	V65	口径：28.0 器高：28.2	(1/3)	口縁内外面ヨコナダ。体部内外面ハラ目、内底ナデ。底盤内外面ケズリ。底盤付着。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含

S X 1 8 8 (中性基)

645 188-002	土師器 小皿C	M88	口径：7.0 器高：0.9	(2/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
646 188-001	土師器 小皿C	M88	口径：7.4～7.8 器高：1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	細砂粒少含
647 188-003	土師器 皿	M88	口径：11.8 器高：2.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含
648 188-004	石製品 砥石	M88	残存長5.6cm、幅3.6cm、厚1.6cm	(欠損部分多い)			砂岩質

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

S X 1 8 9 (中世墓)

649 189-001	土師器 小豆C	M82	口径: 7.6~8.6 器高: 1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒少含
650 189-002	土師器 小豆C	M82	口径: 7.6~8.0 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
651 189-003	土師器 小豆C	M82	口径: 7.8 器高: 0.8	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒少含

S X 2 2 3 (中世墓)

652 223-001	土師器 皿C	O67	口径: 12.2 器高: 2.4	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
653 223-002	土師器 皿B ₁	O67	口径: 11.8 器高: 2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内外面斜行筋。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
654 223-003	器蓋 舟形輪	O67	口径: 14.0前後	(1/8)	内外面施釉。体部外面に蓮弁文。帯巻窓系。輪: SG6/1 緑灰	青	良

S X 2 2 4 (中世墓)

655 224-001	土師器 皿C	O67	口径: 11.8 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
656 224-002	土師器 皿C	O67	口径: 12.5 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。内面油懸行筋。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
657 224-004	土師器 皿C	O67	口径: 11.1 器高: 2.2	(4/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 5/1 黄灰	砂粒多含
658 224-003	土師器 皿C	O67	口径: 12.5 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。内面油懸行筋。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
659 224-005	土師器 鍋	O67	口径: 24.0前後	(1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ハケ日、内面ナデ。器底の磨滅込み調整不明瞭。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
660 224-006	陶器 山形輪	O67	口径: 7.5~8.1	(完存)	内外面粗面。底面外側面ナデ。高台端部粗面。底面窓系。	10YR 7/1 灰白	細砂粒含
661 224-007	陶器 山形輪	O67	口径: 6.5	(完存)	内外面粗面。底面内面に強い指觸ナデ。外表面切り削。高台端部粗面多い。知多產か。	10YR 7/1 灰白	砂粒含

S X 2 2 5 (中世墓)

662 120-004	土師器 皿C	N74	口径: 11.6 器高: 2.3	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面油懸行筋。	10YR 8/3 浅黄橙 ~7.5YR 7/5 にぶい橙	砂粒含
663 120-002	土師器 皿C	N74	口径: 11.5~12.5 器高: 3.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙 ~7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
664 125-001	土師器 皿C	N74	口径: 13.1 器高: 2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	砂粒多含
665 120-003	土師器 皿B ₁	N74	口径: 14.0 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面ヨコナデ。	7.5YR 8/8 黄褐 ~7.5YR 7/6 橙	細砂粒含
666 120-008	陶器 片口鉢	N74	口径: 15.7	(2/5)	内外面粗面。口縁部外側面ヨコナデ。高台端部砂粒底。底面窓系。	10Y 6/1 橙	砂粒含
667 120-006	鐵製品 釘	N74	残存長: 8.9cm、	釘身部斜面刃部。(釘身先端部欠損)			鉄 鋼

S K 1 2 (土壌)

668 012-003	土師器 小皿B ₁	W74	口径: 7.9 器高: 1.1	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面わざわざにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
669 012-004	土師器 小皿B ₁	W74	口径: 8.0 器高: 0.9	(1/2)	外面オサエ。内面ナデ。口縁部外側面わざわざにヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
670 012-002	土師器 小皿B ₁	V74	口径: 9.3 器高: 1.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
671 012-007	土師器 皿B ₁	W75	口径: 12.7 器高: 2.8	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面ヨコナデ。	5 YR 6/6 橙	砂粒多含
672 012-005	土師器 皿B ₁	V75	口径: 13.0 器高: 3.2	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面ヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
673 012-006	土師器 皿B ₁	V75	口径: 13.0 器高: 2.6	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面わざわざにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
674 012-008	土師器 皿B ₁	W75	口径: 13.7 器高: 2.7	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側面わざわざにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技術・調整等の特徴	色調	胎土
675 012-011	土師器 ?	W74	口径: 5.0	(3 / 5)	底部内面ナデ。台脚内外面横方向ナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
676 012-009	土師器 網	V75	口径: 24.0前後	(1 / 8)	口縁部内外面ヨコナデ。外面縁付着。器壁の削減量及び調整不観察。	10YR 7/4 にぶい黄褐	細砂粒多含
677 012-010	土師器 網	V74	口径: 22.0前後	(1 / 10)	口縁部内外面ヨコナデ。外面縁付着。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
678 012-012	陶器 山茶碗	V74	口径: 8.5 高さ: 4.9 底径: 4.3	(完全)	内外面ヨクロナデ。底部外周系切りぬ。知多産か。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含
679 012-013	陶器 山茶碗	W74	口径: 8.6 高さ: 1.6 底径: 5.0	(4 / 5) (完全)	内外面ヨクロナデ。底部外周系切りぬ。瀬戸産か。	5 Y 7/1 灰白	微砂粒含
680 012-015	陶器 山茶碗	V75	口径: 16.0前後 高さ: 5.4 台径: 6.7	(1 / 4) (3 / 5)	内外面ヨクロナデ。底部外周ナデ。高台端部削痕。高美産か。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含
681 012-016	陶器 山茶碗	W74	口径: 16.5前後 高さ: 8.0 台径: 8.0	(1 / 16) (2 / 3)	内外面ヨクロナデ。底部外周系切りぬ。高台端部削痕。高美産か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含
682 012-014	陶器 山茶碗	W74	(口縁部分)		内外面ヨクロナデ。外間に墨書き「者」か。知多産か。	5 Y 5/1 灰	砂粒含
683 012-017	陶器 片口縁	W74	口径: 29.0前後	(1 / 12)	内外面ヨクロナデ。知多産か。	5 Y 5/1 灰白	砂粒含

SK 2.2 (土坑)

684 022-006	土師器 小皿C	V79	口径: 8.0 高さ: 1.2	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周わざかにヨコナデ。	10Y 8/2 灰白	砂粒多含
685 022-008	土師器 小皿C	V79	口径: 8.2 高さ: 1.4	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周わざかにヨコナデ。	10Y 8/3 浅黄褐	砂粒含
686 022-001	土師器 皿C	V79	口径: 13.2 高さ: 2.5~2.7	(7 / 8)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周ヨコナデ。	7.5YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
687 022-002	土師器 皿C	V79	口径: 13.0 高さ: 2.8	(7 / 8)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
688 022-004	土師器 皿C	V79	口径: 12.4 高さ: 2.7	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含

SK 2.6 (土坑)

689 026-006	土師器 小皿B ₂	T72	口径: 7.9 高さ: 2.3	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
690 026-001	土師器 皿B ₂	T72	口径: 13.0 高さ: 2.6	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周わざかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
691 026-002	土師器 皿B ₂	T72	口径: 13.0 高さ: 2.6	(3 / 4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周わざかにヨコナデ。	5 YR 8/3 灰褐	微砂粒含
692 026-003	土師器 皿C	T72	口径: 12.5 高さ: 3.0	(2 / 3)	外面オサエ。内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含

SK 2.9 (土坑)

693 029-001	土師器 皿C	V69	口径: 10.9 高さ: 2.4	(3 / 4)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	微砂粒含
694 029-002	土師器 網	V69	口径: 20.0前後	(1 / 9)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外周ハケ目、内面ナデ。外面縁付着。	10YR 7/3 にぶい黄褐	微砂粒多含

SK 3.0 (土坑)

695 030-001	陶器 山茶碗	V69	口径: 8.2	(3 / 5)	内外面ヨクロナデ。底部外周ナデ。高台端部削痕跡。高美産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
----------------	-----------	-----	---------	---------	-------------------------------	-------------	-------

SK 3.1 (土坑)

696 031-001	土師器 小皿C	V69	口径: 6.7~7.1 高さ: 0.9	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。	7.5YR 8/3 淡黄褐	細砂粒少含
697 031-002	土師器 皿B ₂	V69	口径: 12.3	(4 / 5)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周わざかにヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	砂粒含

SK 4.5 (土坑)

698 045-002	土師器 小皿C	U23	口径: 7.3~7.7 高さ: 1.3	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周ヨコナデ。	10YR 7/3 にぶい黄褐	砂粒多含
699 045-004	土師器 皿B ₂	U23	口径: 7.8~8.1 高さ: 1.2~1.4	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外周ヨコナデ。	5 YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
701 045-005	土師器 皿B	T23	口径:14.2 器高: 2.5	(3 / 7)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
702 045-007	土師器 皿A	T22+T23	口径:15.0 器高: 2.9	(5 / 8)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
703 045-009	土師器 皿	T23	口径:16.9 体径: 16.0(断続)	(1 / 5) (1 / 8)	口部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外腹保付柾。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
704 045-011	土師器 皿	U22	口径:26.3	(1 / 8)	口部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。口縁端部柾。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
705 045-010	土師器 皿	U22	口径:35.5(断続)	(1 / 12)	口部内外面ヨコナデ。外腹保付柾。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
706 045-012	陶器 山皿	U22	口径:9.0 器高: 1.9 底径: 4.4 (完存)	(2 / 3)	外腹ロクロナデ。底部外腹系切り底。底無脚。	10YR 8/1 灰白	微砂粒含
707 045-013	陶器 山茶碗	U22	口径:16.0(断続) 高さ: 5.2 台径: 7.1 (1 / 4)	(1 / 6)	外腹ロクロナデ。底部外腹系切り底。高台端部柾。底無脚。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒含

SK 4 8 (土疣)

708 045-004	土師器 小皿A	V36	口径:8.2 器高: 1.3	(3 / 7)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
709 045-001	土師器 皿B	V36	口径:14.3 器高: 2.8	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
710 045-002	土師器 皿B	V36	口径:14.5 器高: 2.9	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒多含
711 045-003	土師器 皿B	V36	口径:15.0 器高: 2.9	(3 / 5)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒多含
712 045-007	土師器 皿	V36	口径:17.8	(4 / 5)	口部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。	7.5YR 6/6 棕	微砂粒多含
713 045-005	陶器 山皿	V36	口径:8.6 器高: 2.1 底径: 5.0 (完存)	(5 / 8)	外腹ロクロナデ。底部外腹系切り底。底无脚。	10YR 7/1 灰白	微砂粒含
714 045-006	陶器 山茶碗	V36	台径:7.7	(1 / 4)	外腹ロクロナデ。底部外腹系切り底。体部:山茶の脂身が異なる。底無脚。	体部:10YR 5/1 黄灰 底台:10YR 4/1 黄灰	微砂粒多含
715 045-008	土師器 豆甌	V36	(大部分欠損)	外腹オサエ。		7.5YR 7/3 浅黄	砂粒多含

SK 6 5 (土疣)

716 065-001	土師器 小皿B	S45	口径:7.4 器高: 0.8~1.1	(1L / 12)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
717 065-002	土師器 小皿B	S45	口径:7.0~7.2 器高: 1.3	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。口縁部内外面柾。	7.5YR 7/4 にぶい橙	砂粒含
718 065-003	陶器 山皿	S45	口径:8.3 器高: 2.1 底径: 4.8 (完存)	(1 / 8)	内腹ロクロナデ。底部外腹系切り底。外側の3か所に茎窓「十」字。却多井。	2.5Y 7/2 黄	砂粒多含

SK 6 6 (土疣)

719 066-002	土師器 小皿B	S45	口径:7.8~8.1 器高: 1.4~1.6	(3 / 4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	5 YR 7/6 棕	粗砂粒含
720 066-001	土師器 皿B	S45	口径:12.7~13.4 器高: 2.7~3.0	(7 / 8)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面わざわざにヨコナデ。内面柾。	10YR 7/3 にぶい黄橙	粗砂粒含

SK 6 9 (土疣)

721 069-001	土師器 皿B	S45	口径:13.5~13.9 器高: 2.6~2.8	(5 / 6)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	5 YR 7/6 棕	粗砂粒多含
----------------	-----------	-----	-----------------------------	---------	------------------------	------------	-------

SK 8 1 (土疣)

722 081-004	土師器 小皿C	Q49	口径:7.0 器高: 0.7	(1 / 2)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
723 081-002	土師器 小皿C	Q49	口径:7.1 器高: 1.1	(1 / 2)	外腹オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒少含
724 081-001	土師器 小皿C	Q49	口径:7.4~7.8 器高: 1.5	(8 / 9)	外腹オサエ、内面ナデ。	2.5Y 7/3 浅黄	微砂粒含
725 081-005	土師器 皿C	Q49	口径:11.6~12.4 器高: 2.5	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	砂粒含
726 081-006	土師器 皿C	Q48	口径:12.2 器高: 2.6	(1 / 4)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
727 081-008	土師器 小皿B ₂	Q49		(口縁部分)	口縁部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 淡黄緑	砂粒 他含
728 081-009	土師器 小皿	Q49		(口縁部分)	口縁部内外面ヨコナデ。外縁襯付着。	10YR 7/3 に赤い模	砂粒 粉合

SK 8.3 (土坑・中世墓?)

729 083-001	土師器 小皿B ₂	R52	口径: 7.2~7.6 器高: 1.2~1.5	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざ かにヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細紗少含
730 083-002	土師器 小皿B ₂	R52	口径: 7.7 器高: 1.3~1.5	(1/2)	外面オサエ。内面ナデ。口縁部外側わざ かにヨコナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細紗 粉合
731 083-003	土師器 皿B ₂	R52	口径: 12.7~13.0 器高: 3.0	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざ かにヨコナデ。	7.5YR 8/6 浅黄緑	細紗 粉合

SK 8.4 (土坑)

732 084-001	土師器 皿B ₂	P54	口径: 13.6 器高: 3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨ コナデ。	7.5YR 7/6 棕	砂粒 多含
----------------	------------------------	-----	---------------------	------	----------------------------	-------------	-------

SK 8.6 (土坑)

733 086-001	土師器 小皿B ₂	V55	口径: 8.2 器高: 1.2	(3/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざ かにヨコナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細紗 粉合
734 086-002	土師器 皿C	V55	口径: 12.6 器高: 2.7	(3/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	細紗粒多含

SK 8.9 (土坑)

735 089-001	土師器 皿C	T57	口径: 13.0前後	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	外: 10YR 3/2 黒褐色 内: 10YR 8/3 淡黄緑	砂粒 多含
----------------	-----------	-----	------------	-------	-------------	------------------------------------	-------

SK 10.1 (土坑)

736 101-001	土師器 小皿C	I 69	口径: 8.0 器高: 0.9	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	精 良
737 101-002	土師器 皿C	I 69	口径: 11.0 器高: 2.0	(1/5)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	精 良

SK 10.3 (土坑)

738 103-001	土師器 小皿C	J 66	口径: 7.4 器高: 0.5~1.0	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂 粒 合
739 103-002	土師器 小皿C	J 66	口径: 7.6~7.9 器高: 0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/3 淡黄緑	砂 粒 合
740 103-004	土師器 小皿C	J 66	口径: 7.9 器高: 0.8~1.4	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細紗粒合
741 103-005	土師器 小皿C	J 66	口径: 7.8 器高: 0.9~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒 多含
742 103-028	土師器 小皿C	I 66	口径: 7.5~7.9 器高: 1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細紗粒多含
743 103-009	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.8	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。底盤内面一部に強 い指痕ナデ。外壁に板状圧痕。	10YR 8/4 淡黄緑	砂 粒 合
744 103-010	土師器 皿C	J 66	口径: 11.0 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂 粒 合
745 103-012	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底盤内面一部に強 い指痕ナデ。外壁に板状圧痕。	2.5Y 8/3 淡黄	砂 粒 合
746 103-011	土師器 皿C	J 66	口径: 10.6~11.2 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂 粒 合
747 103-013	土師器 皿C	J 66	口径: 11.1~11.6 器高: 2.4~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底盤内面一部に強 い指痕ナデ。外壁に板状圧痕。	7.5Y 8/3 淡黄緑	砂 粒 合
748 103-014	土師器 皿C	J 66	口径: 11.0 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底盤内面一部に強 い指痕ナデ。外壁に板状圧痕。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 合
749 103-015	土師器 皿C	J 66	口径: 11.4 器高: 3.0	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。外面にヘタ状工具 による剥落痕。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 合
750 103-016	土師器 皿C	J 66	口径: 11.3~12.0 器高: 2.5~3.0	(2/3)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	砂 粒 合
751 103-017	土師器 皿C	J 66	口径: 11.6 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂 粒 合

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
752 103-018	土師器 直C	J 66	口径: 11.9 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。外面にヘラ状工具による削痕既判。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
753 103-019	土師器 直C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い粗面ナデ。外面上に板状圧痕。外面にヘラ状工具による削痕既判。	10YR 8/1 灰白	砂粒多含
754 103-020	土師器 直C	J 66	口径: 11.5 器高: 2.4~2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
755 103-021	土師器 直C	J 66	口径: 10.8 器高: 2.3	(11/12)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5Y 8/1 灰白	砂粒多含
756 103-022	土師器 直C	J 66	口径: 12.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
757 103-023	土師器 直C	J 66	口径: 11.3 器高: 2.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
758 103-024	土師器 直C	J 66	口径: 11.6 器高: 2.3~2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
759 103-41-2	土師器 扇	J 66	口径: 22.1 (1/2)	口沿部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外面上付着。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含	
760 103-41-1	土師器 扇	J 66	口径: 23.3 (1/6)	口沿部内外面ヨコナデ。肩部内外ハケ目、内面ナデ。外面上付着。	7.5YR 7/6 棕	細砂粒多含	
761 103-042	土師器 扇	J 66	口径: 22.5 (3/4) 器高: 11.8~12.5 体径: 23.3 (5/6)	口沿部内外面ヨコナデ。体部外表面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器底付着せず。	10YR 8/4 浅黄褐	細砂粒多含	
762 103-043	土師器 扇	J 66	口径: 27.5 器高: 15.2 体径: 30.0 (1/2)	(完存) 口沿部内外面ヨコナデ。体部外表面ハケ目、内面ナデ。底面部内外面ケズリとナデ。器底付着せず。	10YR 7/3 浅黄褐	細砂粒多含	
763 103-039	土師器 扇	J 66	口径: 24.4 器高: 18.0 体径: 29.8 (1/2)	口沿部内外面ヨコナデ。体部外表面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。外面上付着せず。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含	
764 103-044	土師器 扇	J 66	口径: 28.0 (完存) 器高: 19.0 体径: 30.0 (11/12)	口沿部内外面ヨコナデ。体部外表面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器底付着せず。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含	
765 103-036	土師器 扇	J 66	口径: 26.0~28.9 (完存) 器高: 17.0~18.8 体径: 29.8 (7/8)	口沿部内外面ヨコナデ。器底内面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器底付着せず。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含	
766 103-038	土師器 扇	J 66	口径: 27.2~28.4 (完存) 器高: 17.0 体径: 29.8 (完存)	口沿部内外面ヨコナデ。体部外表面ハケ目、内面ナデ。底部内外面ケズリとナデ。器底付着せず。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含	
767 103-029	土師器 扇	I 66	(口縁部)	口縁部内外面ヨコナデ。内面ナデ。外面オサエ。外面上付着。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含	
768 103-025	土師器 扇	I 66	(口縁部)	内面ナデ。	7.5YR 8/4 浅黄褐	細砂粒多含	
769 103-032	陶器 山茶碗	J 66	口径: 14.3 器高: 5.3 台径: 6.6~7.2 (完存)	内外面ヨコナデ。器底外面切り底。為山茶碗底板設が多い。底面部外面に露唐(ナ)カ。山知多産。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒多含	
770 103-033	陶器 山茶碗	J 66	口径: 16.2 器高: 4.9 台径: 5.6 (2/5)	内外面ヨコナデ。器底外面切り底。高台端部斜底。露唐灰か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含	
771 103-034	陶器 片口鉢	J 66	底径: 11.5~12.0 (完存)	内外面ヨコナデ。底面部外表面ヨコナデ。底面部曲面砂粒物。露唐灰か。	2.5Y 4/1 黄灰	粗砂粒含	
772 103-031	陶器 勺	J 66	口径: 15.5 (1/6)	口縁部内外面ヨコナデ後灰物を施釉。深突三筋文ぶく輪。	10YR 4/2 黄褐	粗砂粒含	
773 103-030	陶器 青磁碗	I 66	口径: 9.0 器高: 4.1 台径: 3.0 (1/4)	高台端部露胎。胎部外面に蓮弁文。青磁碗。	胎: 5G 7/L 明暦灰 胎: 7.5Y 7/1 灰白	精良	

SK 104 (上枕・中世墓?)

774 104-004	土師器 小皿A	K 68	口径: 7.5 器高: 1.5 (5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内外面付着。	10YR 8/3 浅黄褐	微砂粒含
775 104-005	土師器 小皿B	K 68	口径: 7.5~7.7 器高: 0.9 (3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面わざかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
776 104-003	土師器 小皿C	K 68	口径: 8.0~8.3 (完存) 器高: 1.0	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 浅黄褐	砂粒多含
777 104-007	土師器 小皿C	K 68	口径: 7.1~7.9 器高: 1.0 (5/6)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	微砂粒含
778 104-016	土師器 台付小皿	K 68	口径: 8.5前後 器高: 3.6 (1/4)	内外面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	細砂粒多含
779 104-011	土師器 直C	K 68	口径: 11.0~11.2 器高: 2.5 (7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
780 104-009	土師器 直C	K 68	口径: 11.2 器高: 2.6 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
781 104-010	土師器 直C	K 68	口径: 10.8~11.0 器高: 2.1 (完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技術・調整等の特徴	色調	胎土
782 104-014	土器蓋 皿C	K68	口径: 11.5 基高: 2.5~2.7	(3/4)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
783 104-026	土器蓋 皿C	K68	口径: 28.5前後 基高: 30.0前後	(1/8) (1/5)	口縁部内外面ヨコナギ。底部外周ハケ目。 内面ナギ。底部内外面ケズリ。外曲壁付着。	外: 10YR 8/2 灰白 内: 10YR 7/4 にぶい黄透	微砂粒多含
784 104-018	土器蓋 皿C	K68	(口縁部~鈎部片)		口縁部内外面ヨコナギ。底部内面ケズリ。 鈎部ナギ。外曲壁付着。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒多含
785 104-019	「鉢」 羽茎	K68	(口縁部~鈎部片)		口縁部内外面ヨコナギ。底部内面ケズリ。 鈎部ナギ。外曲壁付着。	7.5YR 7/2 明褐色	微砂粒多含
786 104-025	土器蓋 足付盤	K68	口径: 37.0前後 基高: 11.9~12.3 底径: 14.5	(1/6) (3/4)	内外面ナギ。口縁部底部内外面ヨコナギ。底部 付近外周ケズリ。足部が所残る。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
787 104-020	陶器 山茶樹	K68	口径: 14.8	(3/5)	内外面クロナギ。知多産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含
788 104-022	青磁碗	K68	口径: 15.2前後	(1/8)	内外面施釉。底部外周に蓮弁文。京窓型。	輪: 5CY 6/1 オリーブ灰 盤: SY 6/1 灰	稍長
789 104-024	白磁品 四葉模	K68	共10.2cm、幅7.5cm、縁部厚1.5cm、底部厚0.9cm (縁部は外ほぼ完存)		N/ 始灰		細粒均岩質

SK 1 0 5 (土塙)

790 105-001	土器蓋 皿C	169	口径: 12.2~12.6 基高: 2.7~3.5	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒含
791 105-002	土器蓋 皿C	169	口径: 12.2 基高: 2.7	(2/3)	外曲オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒含
792 105-003	土器蓋 皿C	169	口径: 12.5~12.7 基高: 3.2	(4/5)	外曲オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	砂粒多含

SK 1 1 1 (土塙)

793 111-006	土器蓋 皿C	G84	口径: 11.9 基高: 2.3	(3/5)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
794 111-001	土器蓋 皿C	G84	口径: 12.0 基高: 2.7	(3/5)	外曲オサエ、内面ナデ。内外面油煙付着。	10YR 8/1 灰白	微砂粒含

SK 1 1 4 (土塙)

795 114-001	土器蓋 皿C	J78	口径: 13.0 基高: 2.4	(3/4)	外曲オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒含
796 114-003	土器蓋 皿C	J78	(口縁部片)		口縁部内外面ヨコナギ。外曲壁付着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
797 114-002	土器蓋 皿C	J78	(口縁部片)		口縁部内外面ヨコナギ。外曲壁付着。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
798 114-005	陶器 山茶樹	J78	口径: 8.3 基高: 1.9 底径: 4.6	(1/4)	外曲面クロナギ。底部外周切り崩。知 多産か。	N7/ 灰白	砂粒多含

SK 1 1 5 (土塙)

799 115-001	土器蓋 皿C	176	口径: 12.9 基高: 2.5	(1/4)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
800 115-002	土器蓋 皿C	176	(口縁部片)		口縁部内外面ヨコナギ。底部壁付着。	7.5YR 8/3 にぶい透	砂粒多含
801 115-003	陶器 山茶樹	176	口径: 15.0 基高: 5.6 底径: 7.2	(2/3) (1/4)	内外面クロナギ。底部外周切り崩。高 台窓部裂隙。知多産か。	10YR 7/1 灰白	微砂粒多含

SK 1 2 2 (土塙)

802 122-002	土器蓋 小皿B	172	口径: 7.5 基高: 1.1	(3/4)	外曲オサエ、内面ナデ。口縁部外周わざ かにヨコナギ。	7.5YR 8/3 にぶい透	砂粒多含
803 122-001	土器蓋 小皿C	172	口径: 8.0~8.4 基高: 1.2~1.6	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
804 122-003	土器蓋 小皿C	172	口径: 7.6 基高: 1.0~1.3	(3/5)	外曲オサエ、内面ナデ。口縁部外周わざ かにヨコナギ。	5YR 7/4 にぶい透	砂粒多含
805 122-004	土器蓋 皿C	172	口径: 12.4~12.8 基高: 2.9	(3/5)	外曲オサエ、内面ナデ。底盤の巻き底と調 整不透明。	7.5YR 8/3 浅黄透	砂粒多含
806 122-007	土器蓋 皿C	172	口径: 28.0前後	(1/12)	口縁部内外面ヨコナギ。両部外周ハケ目。 内面ナギ。器壁の焼成度と調整不明。外 部壁付着。	10YR 8/3 浅黄透	砂粒多含
807 122-005	土器蓋 皿C	172	口径: 35.5前後	(完存)	口縁部内外面ヨコナギ。外側保有者せず。 底盤の巻き底と調査不透明。	7.5YR 7/4 にぶい透	砂粒多含

測定番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(保存状)	形態・枝度・調整等の特徴	色調	胎土
808 122-009	陶器 山茶碗	I72	口径: 15.5前後	(1 / 8)	内外面ロクロナダ。知多型か。	7.5YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
809 122-010	陶器 山茶碗	I72	口径: 5.0前後	(1 / 4)	内外面ロクロナダ。底部外面糸切り痕。高台端部相殺が多い。知多型か。	7.5YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含

SK 123 (土坑)

810 123-003	土師器 小皿C	K72	口径: 8.0 基高: 1.0	(1 / 4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5YR 8/3 淡黄	微砂粒含
811 123-001	土師器 皿D ₃	K72	口径: 12.0 基高: 2.1	(1 / 3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナダ。	2.5YR 8/3 淡黄	細砂粒含
812 123-002	土師器 皿D ₃	K72	口径: 12.0 基高: 2.3	(3 / 8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面わずかにヨコナダ。	2.5YR 8/3 淡黄	細砂粒多含
813 123-004	粗器 青磁組	K72	口径: 13.9 基高: 3.9 台径: 6.5	(1 / 8) (2 / 5)	高台周部露胎。電竈束系。	輪: 5G 7/1 明暦灰 胎土: 2.5Y 7/1 灰白	精良

SK 130 (土坑)

814 130-003	土師器 小皿B ₃	M80	口径: 7.4~7.7 基高: 1.0~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外血わずかにヨコナダ。	7.5YR 7/6 植	微砂粒含
815 130-004	土師器 小皿B ₃	M80	口径: 7.1~7.8 基高: 1.4~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外血わずかにヨコナダ。	7.5YR 7/6 植	微砂粒含
816 130-003	土師器 皿D ₃	M80	口径: 12.8 基高: 2.3	(3 / 8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外血ヨコナダ。	10YR 7/4 にせい黄橙	微砂粒含
817 130-010	土師器 皿D ₃	M80	口径: 22.2 基高: 24.0	(3 / 4) (1 / 3)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナデ。外血復付。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒多含
818 130-011	土師器 二足足盤	M80	口径: 41.0 基高: 8.7 底径: 27.5	(2 / 5)	内外面ナデ。口縁端部外血ヨコナダ。底部外面オサエ。足部残存せず。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
819 130-006	陶器 山皿	M80	口径: 9.4 基高: 2.0 台径: 5.8	(1 / 4) (1 / 2)	内外面ロクロナダ。底部外面糸切り痕。高台型か。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含
820 130-008	陶器 山茶碗	M80	口径: 14.0 基高: 5.0 台径: 6.5前後	(1 / 2) (1 / 5)	内外面ロクロナダ。底部内面に指捺ナデ。外血糸切り痕。高台周部相殺很多。知多型か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒多含
821 130-009	陶器 山茶碗	M80	口径: 15.0 基高: 5.3 台径: 6.5	(3 / 8) (2 / 5)	内外面ロクロナダ。底部外面糸切り痕。高台周部相殺很多。知多型か。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒多含

SK 135 (土坑)

822 135-001	土師器 鍋	M76	口径: 18.3	(1 / 8)	口縁部内外面ヨコナダ。底部内外面ナデ。底部の磨滅込み調査不明瞭。	10YR 7/3 にせい黄橙	砂粒多含
----------------	----------	-----	----------	---------	----------------------------------	----------------	------

SK 144 (土坑)

823 144-010	土師器 小皿C	M71	口径: 7.0~7.5 基高: 1.0~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑 ~10Y 6/2 灰黃綠	微砂粒多含
824 144-001	土師器 小皿C	M71	口径: 7.8 基高: 1.1~1.3	(3 / 5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒多含
825 144-012	土師器 小皿C	M71	口径: 7.0~7.5 基高: 1.0~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含
826 144-013	土師器 小皿C	M71	口径: 7.0~7.5 基高: 1.2~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白 ~2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含
827 144-014	土師器 小皿C	M71	口径: 7.3~7.8 基高: 1.0~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にせい黄橙	微砂粒少含
828 144-015	土師器 小皿C	M71	口径: 7.5~8.1 基高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
829 144-001	土師器 皿C	M71	口径: 10.5~11.0 基高: 2.2~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
830 144-002	土師器 皿C	M71	口径: 11.2~11.5 基高: 2.5~2.8	(7 / 8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 淡黄緑	微砂粒少含
831 144-003	土師器 皿C	M71	口径: 10.7~11.5 基高: 2.5~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含
832 144-004	土師器 皿C	M71	口径: 11.0~11.3 基高: 2.3~2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	細砂粒多含
833 144-005	土師器 皿C	M71	口径: 10.5~11.5 基高: 2.3~2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指捺ナデ、外血復付。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒少含
834 144-006	土師器 皿C	M71	口径: 10.5~11.5 基高: 2.4~2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	粒上
835 144-007	土師器 皿C	M71	口径：11.3 器高：2.6	(5／6)	外曲オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指痕ナデ。	7.5YR 8/1 浅黄緑	砂粒多含
836 144-008	土師器 皿C	M71	口径：11.0 器高：2.4	(2／3)	外曲オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指痕ナデ、外面部板状圧模。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
837 144-016	土師器 皿	M71	口径：16.5前後	(1／8)	II縫隙内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	粗砂粒多含
838 144-017	陶器 山根	M71	口径：9.0前後 器高：2.1 底径：4.5	(1／4)	内外面クロコナデ。底部外面赤切り痕。底部底産。	10YR 6/1 褐灰	微砂粒含
839 144-018	陶器 山茶柄	M71	口径：17.0 器高：5.2 台径：7.0~7.3	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部陶粒多い。底部底産。	5Y 7/1 灰白	粗砂粒多含
840 144-020	陶器 山茶柄	M71	口径：16.8 器高：5.0 台径：8.0	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面ナデ。高台端部陶粒多い。底部底産。	2.5Y 7/1 褐灰	微砂粒多含
841 144-018	陶器 山茶柄	M71	口径：6.9~7.4	(完存)	内外面クロコナデ。底部外面赤切り痕と単層「〇」。高台端部底砂粒痕。底部底産。	2.5Y 8/3 浅黄	粗砂粒少含
842 144-022	陶器 片口鉢	M71	口径：34.0前後	(1／8)	内外面クロコナデ。外面下半クロケズリ。知多産か。	5Y 6/2 灰オーラブ	砂粒多含
843 144-023	陶器 片口鉢	M71	口径：16.0前後	(1／5)	内外面クロコナデ。底部底産。	5Y 5/1 灰白	粗砂粒少含
844 144-021	瓦 軒丸瓦	M71	瓦当径：11.0前後	(1／2)	右巻き三巴文。大瓦凸溝ケズリ、凹溝帯口氣。	5Y 5/1 灰白	粗砂粒多含

SK 1 4 6 (土机)

845 146-003	土師器 小皿B ₂	N68	口径：7.8 器高：0.7	(2／5)	外曲オサエ、内面ナデ。II縫隙部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/2 浅黄緑	砂粒多含
846 146-001	土師器 小皿B ₂	N68	口径：13.1 器高：2.5	(1／2)	外曲オサエ、内面ナデ。II縫隙部外面わずかにヨコナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	砂粒多含
847 146-002	土師器 皿C	N68	口径：12.8 器高：2.8	(1／3)	外曲オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 浅黄	砂粒多含
848 146-004	土師器 皿	N68		(II縫隙片)	II縫隙内外面ヨコナデ。外面保付着。	7.5YR 5/3 にぶい黒	粗砂粒多含

SK 1 4 7 (土机)

849 147-001	土師器 小皿C	N69	口径：7.7 器高：1.2	(3／5)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
850 147-002	J脚器 皿C	N69	口径：13.8 器高：2.5	(1／4)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含

SK 1 5 0 (土机)

851 150-003	土師器 小皿C	N68	口径：7.2 器高：0.8	(1／4)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒含
852 150-000	土師器 小皿C	N68	口径：8.0 器高：0.9	(2／5)	外曲オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄緑	微砂粒含
853 150-001	土師器 皿C	N68	口径：10.5 器高：2.2	(1／5)	外曲オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅進み調板不規則。	2.5Y 8/3 浅黄	微砂粒含
854 150-004	土師器 皿	N68	口径：19.0前後	(1／10)	II縫隙内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	粗砂粒多含

SK 1 5 4 (土机)

855 154-003	土師器 小皿B ₂	N72	口径：7.2~8.3 器高：1.3	(完存)	外曲オサエ、内面ナデ。II縫隙部外面わずかにヨコナデ。	外：10YR 7/6 明黄緑 内：10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒含
856 154-005	土師器 皿	N72		(II縫隙片)	II縫隙内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
857 154-001	陶器 山茶柄	N72	口径：15.6 器高：5.0 台径：6.8	(1／2) (3／4)	外曲オサエクロコナデ。底部外面赤切り痕。高台端部底砂粒痕。知多産。	10Y 6/1 灰	砂粒多含
858 154-002	陶器 山茶柄	N72	口径：15.2 器高：5.3 台径：6.8	(1／2) (2／5)	II縫隙クロコナデ。底部外面赤切り痕。高台端部底砂粒痕。内面全体保付着。知多産。	10Y 6/1 灰	砂粒多含

SK 1 5 5 (土机)

859 155-014	土師器 皿C	M72	口径：7.0~7.5 器高：1.0~1.5	(11／12)	外曲オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
860 155-015	土師器 皿C	M72	口径：7.9~8.4 器高：0.5~1.2	(ほぼ完存)	外曲オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	粗砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
861 155-012	土器盤 小皿C	M73	口径: 7.0~7.3 盤高: 1.0~1.5	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含
862 155-013	土器盤 小皿C	M72	口径: 8.1 盤高: 0.8~1.1	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
863 155-003	土器盤 皿C	L73	口径: 11.0 盤高: 2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
864 155-006	土器盤 皿C	M72	口径: 12.3 盤高: 2.4~2.9	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。外面様付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
865 155-007	土器盤 皿C	M73	口径: 11.0~11.6(ほぼ完存) 盤高: 2.7	(ほぼ完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
866 155-008	土器盤 皿C	M72	口径: 11.2 盤高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
867 155-002	土器盤 皿C	L73	口径: 12.4 盤高: 2.7	(完存)	外側ナラフ、内面ナデ。器壁の磨滅進み調整不明確。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
868 155-001	土器盤 皿C	L73	口径: 11.7~12.2 盤高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒少含
869 155-018	土器盤 鍋	M73	口径: 27.0前後 (盤底1/8)	(1/6)	口部内外面ココナデ。外側付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	微砂粒多含
870 155-017	土器盤 鍋	M73	口径: 25.0前後 (わざか) (盤底1/4)	(わざか)	L1断面内外面ココナデ。肩部外面ハケ目、内面ナラフ。外側付着。	7.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒含
871 155-021	土器盤 盤	M72	口径: 36.0前後 盤高: 1.3	(1/12)	外側ケズリ、外側ナデ。	5YR 8/3 淡褐	微砂粒含
872 155-020	土器盤 鍋	M72	口径: 9.0前後 盤高: 3.9 体径: 8.5 (1/3)	(1/5)	L1断面内外面ココナデ。体部内外面ナデ。器壁の磨滅進み調整不明解。	2.5Y 8/3 浅黄植	微砂粒少含
873 155-023	陶器 山茶樹	M72	口径: 6.7 盤高: 1.2	(1/2)	内外面ロクロナデ。裏面外側切り崩。高台露頭部設置。知多窯か。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含

SK 15 6 (上坑)

874 156-002	土器盤 小皿C	M73	口径: 6.8 盤高: 0.7	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡褐	微砂粒含
875 156-001	土器盤 皿C	M73	口径: 11.6 盤高: 1.9	(5/6)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面油滑付着。	10YR 8/1 灰白	细砂粒含
876 156-003	陶器 山茶樹	M73	口径: 8.6 盤高: 1.6 盤底: 5.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部外側系切り崩。高台露頭部設置。知多窯か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含

SK 16 1 (中坑)

877 161-019	土器盤 小皿C	L71	口径: 6.6~7.7 盤高: 0.7~1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
878 161-021	土器盤 小皿C	L71	口径: 7.4~7.6 盤高: 0.6~1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒多含
879 161-027	土器盤 小皿C	L71	口径: 7.2~7.9 盤高: 0.8~1.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。底部外側付着。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
880 161-022	土器盤 小皿C	L71	口径: 8.9~9.5 盤高: 0.8~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄植	砂粒含
881 161-041	土器盤 皿C	L71	口径: 10.9 盤高: 2.3	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。内側に墨痕。	10YR 8/3 浅黄植	砂粒含
882 161-010	土器盤 皿C	L71	口径: 11.4 盤高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
883 161-011	土器盤 皿C	M71	口径: 11.2 盤高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄植	砂粒含
884 161-012	土器盤 皿C	M71	口径: 11.6 盤高: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。器壁の磨滅進む。	10YR 8/4 浅黄植	砂粒含
885 161-043	陶器 山茶樹	L71	口径: 14.0前後 (1/10)	内外面ロクロナデ。知多窯か。	10YK 7/1 灰白	砂粒多含	
886 161-042	土器盤 鍋	M71	口径: 27.0前後 (1/12)	口縁部内外面ココナデ。外側付着。	7.5YR 8/3 浅黄植	砂粒多含	

SK 17 3 (下坑)

887 173-001	土器盤 皿C	U67	口径: 10.4 盤高: 2.0~2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/1 灰白	微砂粒少含
888 173-002	土器盤 皿C	V67	口径: 11.7 盤高: 2.4~2.6	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡褐	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
889 173-004	土師器 鍋	V67	口径: 29.4 高さ: 10.5	(1/3) (1/3)	口部内外面ココナデ。体部外側ハケ目、内面ナデ。外縁襯付。	2.5Y 8/2 灰白	繊維粒多含
890 173-003	陶器 片口鉢	U67-V67	口径: 29.0 厚	(1/6)	内外面ロクロナデ。体部外側下段ケメリ。知多産か。	外: 2.5Y 4/1 黄灰 内: 2.5Y 5/1 黄灰	砂粒含

S K 1 7 4 (土坑)

891 174-001	陶器 片口鉢	U66	口径: 31.6 高さ: 10.5 台厚: 15.2	(2/5) (1/3)	内外面ロクロナデ。底部付近外側ケメリ。	10YR 6/1 淡灰	砂粒含

S K 1 7 7 (土坑)

892 177-001	土師器 皿C	O80	口径: 12.0 高さ: 2.2	(1/6)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	砂粒含
893 177-002	土師器 皿C	O80	口径: 12.0 高さ: 2.2	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/1 灰白	微砂粒含

S K 1 7 8 (土坑)

894 178-002	土師器 皿C	O79	口径: 7.4~7.9 高さ: 1.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	繊維粒多含
895 178-003	土師器 皿C	O79	口径: 7.4~8.0 高さ: 1.8	(5/6)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	繊維粒多含
896 178-008	土師器 伴	O79	口径: 10.4 高さ: 3.1	(3/7)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ココナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	繊維粒多含
897 178-005	土師器 皿C	O79	口径: 12.0 高さ: 2.7	(1/2)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
898 178-006	土師器 皿C	O79	口径: 13.0 高さ: 2.6	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外縁に板状紋。	2.5Y 8/4 淡黄	繊維粒多含
899 178-007	土師器 皿C	O79	口径: 12.4 高さ: 2.6	(3/7)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	繊維粒多含
900 178-009	土師器 溝	O79	口径: 26.0	(1/6)	口縁部内外面ココナデ。体部内外面ナデ。外壁厚く杼。	7.5YR 8/3 浅黄緑	繊維粒多含
901 178-010	土師器 溝	O79	口径: 24.0	(1/8)	口縁部内外面ココナデ。底部内外面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	繊維粒多含
902 178-004	陶器 山吹丸	O79	口径: 5.5	(1/2)	内外面ロクロナデ。外縁部有り痕。高台底部輕微痕。知多产地。	2.5Y 7/1 灰白	繊維粒多含
903 178-012	陶器 片口鉢	O79	口径: 32.0 高さ: 12.8 底径: 14.4	(1/3) (3/5)	内外面ロクロナデ。底部付近外側面ケメリ。高台完全に剥落。知多産か。	5Y 6/1 灰	繊維粒多含

S K 1 8 1 (土坑)

904 181-004	土師器 小皿C	M81	口径: 7.8~8.0 高さ: 1.0	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/2 灰白	繊維粒多含
905 181-001	土師器 皿C	M81	口径: 12.4~12.7 高さ: 2.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	繊維粒多含
906 181-002	土師器 皿C	M81	口径: 11.5~12.1 高さ: 2.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指頭ナデ、外縁に板状紋。	10YR 8/4 淡黄緑	繊維粒多含
907 181-003	土師器 皿B2	M81	口径: 12.1~12.8 高さ: 2.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部内外面ココナデ。内面全体煤付。	7.5YR 8/1 灰白	繊維粒多含

S K 1 8 3 (土坑)

908 183-003	土師器 小皿C	M87	口径: 7.8 高さ: 0.8	(1/3)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
909 183-002	土師器 皿C	M87	口径: 10.6 高さ: 2.1~2.2	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	繊維粒多含
910 183-001	土師器 皿C	M87	口径: 12.1 高さ: 2.3	(1/6)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
911 183-004	石製品 瓶灰	M87	残存長3.8cm、幅3.5cm、厚さ0.6cm(欠損部分多い)			5YR 6/3 にぶい橙	砂岩質

S K 1 9 0 (土坑)

912 190-001	土師器 小皿B2	MS1	口径: 6.8~7.2 高さ: 0.9~1.2	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざにココナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	繊維粒多含
913 190-002	土師器 小皿B2	MS1	口径: 7.1~7.3 高さ: 0.8~1.0	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁部外側わざにココナデ。	7.5YR 7/6 橙	繊維粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(既存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
914 190-007	土師器 皿B ₂	M81	口径: 6.1 高さ: 2.4~2.5	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外周わざかにココナデ。	10YR 8/4 淡黄緑	細砂粒含
915 190-008	土師器 鍋	M81	口径: 19.0前後 高さ: 4.8	(1/12)	口縁部内外面ココナデ。外側保付着。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒含
916 190-009	土師器 山茶碗	M81	口径: 15.0前後 高さ: 6.5 (完存)	(1/5)	内外面ロクロナデ。底部内面に強い指擦ナタ、外側系切り痕。高台高脚器成形。知多産か。	2.5Y 7/2 淡黄	砂粒含

SK 19 5 (十坑)

917 195-001	土師器 皿C	Q84	口径: 12.0 高さ: 2.3	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
918 195-002	土師器 皿C	Q84	口径: 12.0 高さ: 2.3	(1/4)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 淡白	砂粒含

SK 19 7 (土坑)

919 197-001	土師器 皿C	S84	口径: 12.6 高さ: 2.3	(1/8)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 淡白	細砂粒含
920 197-002	土師器 皿C	S84	口径: 9.0前後	(1/16)	口縁部外周ココナデ。	10YR 8/3 淡黄緑	微砂粒少含
921 197-003	土師器 鍋	S84	口径: 23.0	(1/5)	口縁部内外面ココナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
922 197-004	土師器 鍋	S84	口径: 24.0前後	(1/8)	口縁部内外面ココナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒少含

SK 20 3 (十坑)

923 203-001	土師器 小皿	O79	口径: 11.0 高さ: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 淡白	細砂粒含
----------------	-----------	-----	---------------------	-------	-------------	-------------	------

SK 20 4 (土坑)

924 204-001	土師器 小皿C	T78	口径: 7.3~7.5 高さ: 0.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
925 204-002	土師器 小皿	T78	口径: 7.3~7.7 高さ: 1.2	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
926 204-003	土師器 皿C	T78	口径: 11.1~11.6 高さ: 2.5	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 淡白	細砂粒多含
927 204-004	土師器 皿C	T78	口径: 11.0 高さ: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。内面赤帯付着。	2.5Y 8/2 淡白	細砂粒含
928 204-005	土師器 皿C	T78	口径: 13.0 高さ: 2.7	(3/8)	外面オサエ。内面ナデ。口縁部外周わざかにココナデ。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒多含
929 204-006	土師器 皿C	T78	口径: 28.5前後 高さ: 1.5	(1/5)	口縁部内外面ナタ。外周保付着。器壁の厚さのみ調整手跡。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒多含
930 204-011	土師器 皿	T78	口径: 22.0前後 体径: 22.04後 (1/8)	(1/8)	口縁部内外面ココナデ。体部外周オサエ、内面ナタ。外周保付着。	7.5YR 4/4 緑	細砂粒多含
931 204-019	土師器 皿	T78	口径: 21.8~22.7 体径: 21.0	(7/8)	口縁部内外面ココナデ。体部外周ハケ目、内面ナタ。底部内外面ケズリとナタ。外周保付着。	10YR 8/2 淡白	細砂粒多含
932 204-010	土師器 鍋	T78	口径: 23.2 体径: 21.8	(9/10) (1/2)	口縁部内外面ナタ。体部外周ハケ目、内面ナタ。底部内外面ケズリとナタ。外周保付着。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒多含
933 204-007	土師器 鍋	T78	口径: 22.4 体径: 21.6	(2/3) (2/3)	口縁部内外面ナタ。体部外周ハケ目、内面ナタ。底部内外面ケズリとナタ。外周保付着。	2.5Y 8/2 淡白	細砂粒含
934 204-013	土師器 鍋	T78	口径: 22.0 体径: 21.4	(1/5) (1/3)	口縁部内外面ナタ。体部外周ハケ目、内面ナタ。底部内外面ケズリとナタ。外周保付着。	10YR 7/2 にぶい黄緑	砂粒多含
935 204-012	土師器 鍋	T78	口径: 24.4 体径: 23.2	(完存) (2/5)	口縁部内外面ナタ。体部外周ハケ目、内面ナタ。底部内外面ケズリとナタ。外周保付着。	10YR 8/3 淡黄緑 ~10YR 7/3 にぶい黄緑	細砂粒多含
936 204-008	土師器 鍋	T78	口径: 31.7 体径: 16.2 高さ: 30.0	(1/3) (3/4)	口縁部内外面ナタ。体部外周ハケ目、内面ナタ。底部内外面ケズリとナタ。外周保付着。	2.5Y 8/2 淡白	細砂粒含
937 204-014	土師器 羽茎	T78	口径: 24.3 (鉢底剥落)	(1/3)	器壁の磨滅度、くぼ溝不明。	10YR 8/3 淡黄緑	砂粒多含
938 204-015	陶器 山茶碗	T78	口径: 7.1 (完存)		内外面ロクロナタ。底部外周面切り削と墨青上 ₁ か。高台高脚器成形。深美底か。	5Y 6/1 淡	微砂粒含

SK 20 8 (十坑)

939 208-001	土師器 皿B ₂	73	口径: 12.3 高さ: 2.7	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部外周ココナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒大
----------------	------------------------	----	---------------------	-------	-----------------------	-------------	------

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
SK 209 (土坑)							
209-002	土器蓋 小皿C	T79	口径: 7.2~7.9 高さ: 1.2~1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄褐	微砂粒多含
209-001	土器蓋 皿C	T79	口径: 11.0 高さ: 2.5	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
209-003	土器蓋 皿	T79		(口部部分)	口部内外面ココナグ。器底の磨滅進み調査不明瞭。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含

SK 212 (土坑)

212-001	土器蓋 小皿B ₁	O70	口径: 7.3~7.7 高さ: 1.3	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナグ。	7.5YR 8/3 灰黄褐	微砂粒多含
212-002	土器蓋 小皿B ₁	N70	口径: 7.6~7.9 高さ: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナグ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
212-003	土器蓋 皿B ₁	N70	口径: 12.2 高さ: 2.5	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
212-004	土器蓋 皿	N70	口径: 19.3	(1/4)	口縁部内外面ココナグ。肩部外側ハケ日、内面ナデ。外側保付着。	2.5Y 8/4 淡黄	砂粒多含
212-007	蓋 白皿皿	N69	口径: 8.8 高さ: 1.7 底径: 5.3	(1/8)	口縁部端部露胎。器底鉛系。	輪: 10YR 7/1 灰白 軸: N 8/ 0.白	微砂粒含

SK 214 (土坑)

214-005	土器蓋 小皿C	T78	口径: 7.0~7.6 高さ: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒多含
214-003	土器蓋 皿C	T79	口径: 11.6 高さ: 2.6	(3/4)	外面オサエ、内面ナデ。器底の磨滅進み調査不明瞭。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒多含
214-001	土器蓋 皿C	T79	口径: 11.4~12.0 高さ: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
214-002	土器蓋 皿C	T79	口径: 11.4~11.8 高さ: 3.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄褐	微砂粒多含
214-004	土器蓋 皿B ₁	T79	口径: 14.5 高さ: 2.7	(1/3)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ココナグ。	10YR 8/3 淡黄褐	微砂粒多含
214-007	陶器 山茶碗	T78	口径: 16.4	(1/4)	内外面クロナダ。深葉痕か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒多含
214-008	陶器 山茶碗	T78	口径: 7.0~7.5	(完存)	内外面クロナダ。底部外側切り痕。高台端部挖削製。深葉痕か。	2.5Y 7/1 灰白	微砂粒少含
214-006	土製品 土壺	T79	残存高5.2cm、径0.8cm、孔径0.3cm (両端部欠損)			輪: 10YR 8/2 灰白 軸: 10YR 7/3 にぶい黄褐	微砂粒少含

SK 219 (土坑)

219-002	土器蓋 小皿C	O69	口径: 7.5 高さ: 1.0	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
219-003	土器蓋 小皿C	O69	口径: 7.4~7.5 高さ: 1.2	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/4 淡黄	微砂粒含
219-001	土器蓋 皿C	O69	口径: 10.3~11.4 高さ: 2.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/2 灰白	微砂粒含
219-004	土器蓋 皿	O69	口径: 34.9	(1/8)	口縁部内外面ココナグ。外側保付着。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
219-005	陶器 山茶碗	O69	口径: 16.0 高さ: 3.0	(1/5)	内面から外面上半施釉。瓶戸底。	輪: 7.5Y 7/2 灰白 軸: 10YR 7/3 にぶい黄褐	微砂粒含

SK 220 (土坑)

220-001	土器蓋 小皿B ₁	U66	口径: 6.9~7.4 高さ: 1.1	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナグ。	5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
220-002	土器蓋 小皿B ₁	U66	口径: 7.8 高さ: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナグ。	7.5YR 8/4 淡黄褐	微砂粒多含
220-003	土器蓋 小皿B ₁	U66	口径: 6.9~7.5 高さ: 1.1~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わずかにココナグ。	5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒多含
220-004	土器蓋 小皿B ₁	U66	口径: 7.7 高さ: 1.2	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ココナグ。器底の磨滅進み調査不明瞭。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	長横幅(cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
------	----	------	---------	-------	--------------	----	----

SK 22.1 (上焼・中堅量?)

965 221-003	土師器 小皿C	O69	口径: 6.6~7.2 器高: 1.0	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒多含
966 221-007	土師器 小皿C	O69	口径: 7.4~7.7 器高: 1.1	(2/3)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	砂粒多含
967 221-004	土師器 皿C	O69	口径: 10.7~11.2 器高: 2.6	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い削痕ナデ。外側に板状底足。	10YR 7/4 にぶい黄橙	微砂粒多含
968 221-002	土師器 皿C	O69	口径: 11.1~11.4 器高: 2.7	(3/4)	外側オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒多含
969 221-001	土師器 皿C	O69	口径: 24.0φ前後 器高: ?	(1/12)	口縁部外側コナデ。底部内面ハケ目。	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂粒多含
970 221-006	鉄製品 ?	O69	残存長6.0cm	(ほぼ完存)			鉄 制
971 221-005	鉄器 第7	O69	残存長15.3cm、身部残存長11.5cm、身部最大幅2.1cm、身部厚0.4cm、 足部幅1.4cm、身部厚0.35cm(鋒と底部の一筋欠缺)				鉄 制

SK 22.2 (土焼)

972 222-002	土師器 小皿C	O68	口径: 7.9 器高: 1.1	(7/8)	外側オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	微砂粒多含
973 222-001	土師器 皿C	O68	口径: 13.0	(1/3)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側コナデ。器壁・脚底部調査不明。	10YR 8/3 淡黄橙	細砂粒含
974 222-004	土師器 皿C	O68	口径: 30.4 器高: 19.5 器幅: 32.4	(1/4)	口縁部外側コナデ。体部内面ナデ。 口縁部外側コナデとナデ。外底焼付着。	10YR 7/3 にぶい黄橙	砂粒多含
975 222-003	土師器 皿C	O68	口径: 27.7~28.4 器高: 14.4 体径: 27.1	(完存) (7/8)	口縁部外側コナデ。体部外側ハケ目。 内面ナデ。底部内面ナデとナデ。外底 焼付着。	10YR 8/4 淡黄橙 ~7.5YR 5/3 にぶい褐色	砂 粒 含

SD 1 (陶)

976 001-001	土師器 鍋	T90	(口縁部~肩部分)	口縁部外側コナデ。肩部外側ハケ目、 内面ナデ。外底焼付着。	10YR 8/3 淡黄橙	細砂粒含
----------------	----------	-----	-----------	----------------------------------	--------------	------

SD 6 (陶)

977 006-001	土師器 鍋	U89	(口縁部)	口縁部外側コナデ。	10YR 8/4 淡黄橙	微砂粒多含
----------------	----------	-----	-------	-----------	--------------	-------

SD 8 (陶)

978 008-036	土師器 小皿B ₁	U76	口径: 7.5~7.9 器高: 1.1	(7/8)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
979 008-037	土師器 小皿B ₁	V78	口径: 8.1~8.7 器高: 1.0~1.2	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	砂 粒 含
980 008-038	土師器 小皿B ₁	V78	口径: 8.3~8.6 器高: 1.4~1.6	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	10YR 8/2 灰白	砂 粒 含
981 008-039	土師器 小皿B ₁	U73	口径: 7.5~8.2 器高: 1.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	7.5YR 8/3 淡黄橙	微砂粒少含
982 008-107	土師器 小皿B ₁	U73	口径: 7.9~8.7 器高: 1.1	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	7.5YR 8/1 灰白	微砂粒含
983 008-105	土師器 小皿B ₁	U73	口径: 7.8~8.0 器高: 1.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	10YR 8/4 淡黄橙	砂 粒 含
984 008-110	土師器 小皿B ₁	U73	口径: 8.2 器高: 1.4	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	7.5YR 8/3 淡黄橙	微砂粒含
985 008-117	土師器 小皿B ₁	V73	口径: 7.9~8.2 器高: 1.5	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	10YR 8/3 淡黄橙	微砂粒含
986 008-118	土師器 小皿B ₁	V73	口径: 8.2~8.6 器高: 1.1	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	7.5YR 8/4 淡黄橙	微砂粒含
987 008-035	土師器 小皿B ₁	T76	口径: 7.7 器高: 1.1	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。外底焼付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
988 008-076	土師器 小皿B ₁	T74	口径: 7.9~8.2 器高: 1.2~1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。(口縁端部外側わざ かにココナデ)。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒少含
989 008-124	土師器 小皿B ₁	V74	口径: 7.8~8.0 器高: 1.1	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側わざ かにココナデ。	7.5YR 8/3 淡黄橙	細砂粒含
990 008-041	土師器 小皿B ₁	V78	口径: 10.2 器高: 1.4	(1/4)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面3 コテ。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技術・調査等の特徴	色・調	拍子
991 008-031	土器 小豆A	T75	口径: 9.5~9.8 基高: 1.6	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部内外面コロナダ。	7.5YR 6/3 にぶい褐	砂粒含
992 008-151	土器 器	S75	口径: 9.6~9.8 基高: 1.4~1.7	(7/8)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部内外面コロナダ。	2.5Y 8/3 淡黄	細砂粒含
993 008-159	土器 白土小豆	S75	口径: 8.7~8.8 基高: 2.3~2.9 合径: 5.3	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部内外面コロナダ。底部内面にわずかに布目状。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含
994 008-012	土器 器C	V77	口径: 12.4 基高: 2.6~2.9	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。底壁の底済込み調整不規則。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
995 008-028	土器 器C	T75	口径: 11.2 基高: 2.9	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。底壁内面部に強い指痕。	10YR 8/2 淡黄褐	細砂粒少含
996 008-081	土器 器B ₂	U73	口径: 12.1~12.8 基高: 3.7	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒多含
997 008-086	土器 器	U73	口径: 12.6~13.0 基高: 3.6	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部外側わざかにコロナダが、底壁の底済込み調整不規則。	10YR 8/2 灰白	砂粒含
998 008-100	土器 器	U74	口径: 12.2~12.6 基高: 2.5	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側わざかにコロナダ。	7.5YR 8/3 浅黄褐	砂粒少含
999 008-145	土器 器B ₂	S75	口径: 13.0 基高: 2.7	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒含
1000 008-146	土器 器B ₂	S75	口径: 12.2 基高: 2.7	(7/8)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒多含
1001 008-002	土器 器	V78	口径: 13.1 基高: 3.2	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/3 灰白	砂粒多含
1002 008-004	土器 器B ₂	V78	口径: 12.6~13.2 基高: 2.8~3.2	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。わずかに口縁端部外側コロナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
1003 008-013	土器 器B ₂	U77	口径: 12.8 基高: 2.3	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側コロナダ。	7.5YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
1004 008-016	土器 器B ₂	U77	口径: 12.1~12.3 基高: 2.8	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒少含
1005 008-029	土器 器B ₂	T25	口径: 12.5~12.7 基高: 2.7	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側コロナダ。器壁の底済込み調整不規則。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
1006 008-083	土器 器	U73	口径: 12.6~13.0 基高: 2.6	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側コロナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含
1007 008-085	土器 器B ₂	U73	口径: 12.3~12.5 基高: 2.4	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側コロナダ。	10YR 8/3 淡黄褐	砂粒含
1008 008-096	土器 器B ₂	V73	口径: 12.5~12.7 基高: 3.4	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒少含
1009 008-097	土器 器B ₂	V73	口径: 13.2 基高: 2.5	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側コロナダ。	7.5YR 7/3 にぶい褐	砂粒多含
1010 008-098	土器 器B ₂	V73	口径: 12.2~12.5 基高: 2.9	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁端部外側わざかにコロナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含
1011 008-099	土器 器B ₂	V73	口径: 12.2~12.5 基高: 2.8	(完存)	外側オサエ、内面ナダ。口縁部内外面コロナダ。	10YR 8/4 淡黄褐	砂粒多含
1012 008-162	土器 器	S74	口径: 23.6 基高: 24.6	(1/3) (1/3)	口縁部内外面コロナダ。体部内外面ハケH、底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含
1013 008-138	土器 器	U73	口径: 25.6 基高: 15.6 合径: 28.2	(1/2) (1/2)	1) 頂部内外面コロナダ。体部内外面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。 2) 底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
1014 008-168	土器 器	S75	口径: 27.0 基高: 28.0	(9/10) (5/12)	1) 口縁部内外面コロナダ。体部内外面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。 2) 底壁内外面ハカリとナダ。底壁内外面ナダ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
1015 008-057	土器 器	V77	口径: 25.4 基高: 26.8	(1/3) (2/5)	1) 底壁内外面コロナダ。体部内外面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。底壁内外面擦付着。	10YR 7/4 にぶい黄	砂粒多含
1016 008-136	土器 器	U73	口径: 23.0 基高: 27.2	(9/10) (1/4)	1) 口縁部内外面コロナダ。体部内外面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。	7.5YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含
1017 008-060	土器 器	T75	口径: 21.6 基高: 22.2	(1/5) (1/3)	1) 頂部内外面コロナダ。体部内外面ハケH、内面ナダ。底壁内外面ハカリ。外面擦付着。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
1018 008-134	土器 器	U74	口径: 19.0~19.6 基高: 19.2	(5/6) (5/6)	口縁部内外面コロナダ。体部内外面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。器壁運行着。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含
1019 008-135	土器 器	V73	口径: 17.8 基高: 17.2	(2/3) (9/10)	1) 頂部内外面コロナダ。体部内外面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
1020 008-141	土器 器	V73	口径: 16.6 基高: 16.8	(1/2) (1/4)	口縁部内外面コロナダ。体部内外面ハケH、内面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。器壁運行着。	10YR 8/2 灰白	砂粒多含
1021 008-137	土器 器	U74-V74	口径: 26.9 基高: 28.8	(9/10) (1/3)	口縁部内外面コロナダ。体部内外面ハケH、内面ナダ。底壁内外面ハカリとナダ。外面擦付着。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色 満	胎 土
1022 008-163	土師器 鍋	S74	口径：27.8 体深：31.4	(1/3) (1/3)	口部内面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ハケア。底部内外面ケズリナデ。外蓋付着。	10YR 7/3 にぶい黄植	細砂粒多含
1023 008-047	土師器 鍋	V78	口径：31.3 腹高：21.5 体深：32.7	(4/5) (3/4)	口部内面ヨコナデ。体部外面ハケ日。内面ナデ。底部内外面ケズリナデ。外蓋付着。	2.5Y 7/3 淡黄	砂粒多含
1024 008-165	土師器 鍋	S75	口径：40.7 体深：42.2	(1/2) (1/2)	口部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。外蓋付着。	10YR 7/4 にぶい黄植	砂粒多含
1025 008-078	土師器 釜	T71	口径：16.0 調高：19.5	(1/4) (1/4)	口部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ケズリ。底部内外面ケズリ。外蓋保持着。	10YR 8/3 淡黄褐	細砂粒多含
1026 008-055	土師器 釜	U77	口径：23.2 調高：27.6	(1/4) (1/4)	口部内外面ヨコナデ。体部内外面ケズリ、外蓋付着。	7.5YR 8/3 淡黄褐	細砂粒多含
1027 008-077	土師器 ?	T74	口径：4.8	(1/2)	内外面ナデ。	5YR 8/4 淡褐	細砂粒含
1028 008-045	土師器 甕	V78	(柱状部のみ)		器底の唇減度をしく調査不明。柱状部中央に3mmの穴孔。	10YR 7/3 にぶい黄植	砂粒多含
1029 008-049	瓦器 杯	S75	口径：10.0 高さ：2.9 体深：6.5	(5/6) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。ちの内面から口縁部剥離。内面ハラキナ。底部内面に第4次の繪文。ヘラ押し文による輪巻きか所。	器底：N 3/ 單灰 断面：10YR 8/1 底白	精 良
1030 008-129	陶器 皿	U73	口径：8.2 高さ：4.1 底径：4.2	(完存) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。外表面糸切り痕。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒多含
1031 008-132	陶器 皿	V73	口径：8.2 高さ：2.1 底径：4.0	(完存) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。外表面糸切り目。知多産か。	2.5Y 8/1 底白	砂粒多含
1032 008-133	陶器 皿	V74	口径：8.6 高さ：2.1 底径：5.0-5.3	(完存) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外側に糸切り痕。加多産か。	2.5Y 7/1 底白	細砂粒多含
1033 008-160	陶器 皿	S75	口径：8.4 高さ：1.9 底径：4.9-5.2	(完存) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。外表面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 7/1 底白	細砂粒多含
1034 008-161	陶器 皿	S75	口径：7.7 高さ：1.4-1.9 底径：4.9	(完存) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。外表面糸切り痕。知多産か。	2.5Y 8/1 底白	細砂粒多含
1035 008-061	陶器 皿	U76	口径：15.6 高さ：5.3 底径：6.8	(5/12) (3/5) (3/5)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。外表面糸切り目。底部周縁部剥離多い。加多産か。	7.5Y 7/1 底	砂粒多含
1036 008-065	陶器 皿	V78	口径：15.5 高さ：4.1 底径：7.4	(4/5) (完存) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多く。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒多含
1037 008-079	陶器 皿	T74	口径：16.0 高さ：5.5 底径：6.4	(1/4) (3/4)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。内面に突出指彌ナデ。高台端部剥離多く。知多産か。	2.5Y 8/1 底白	細砂粒多含
1038 008-131	陶器 皿	U73	口径：15.0 高さ：5.0 底径：6.8-6.8	(完存) (完存) (2/2)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多い。知多産か。	2.5Y 7/1 底白	砂粒多含
1039 008-169	陶器 皿	S75	口径：16.0-16.5 高さ：4.9-5.4 底径：6.7-7.0	(2/3) (2/3) (2/3)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多い。知多産か。	2.5Y 7/1 底白	砂粒多含
1040 008-170	陶器 皿	S75	口径：15.0 高さ：4.6-5.3 底径：5.4-6.3	(1/4) (7/8)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。片側に糸裂化斑。高台端部剥離多い。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒多含
1041 008-171	陶器 皿	S75	口径：15.0 高さ：4.1-5.4 底径：6.5-7.0	(1/2) (7/8)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多い。知多産か。	2.5Y 7/1 底白	砂粒多含
1042 008-172	陶器 皿	S74	口径：15.5 高さ：5.0-5.5 底径：6.4	(完存) (2/3) (2/3)	内外面ヨコナデ。内面に僅かな指彌ナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多く。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰	砂粒多含
1043 008-185	陶器 皿	S74	口径：15.7 高さ：4.8-5.7 底径：5.5-5.7	(7/8)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多く。知多産か。	10YR 6/1 黄灰 ~10YR 7/1 底白	細砂粒多含
1044 008-186	陶器 皿	S75	口径：15.0 高さ：4.9-5.2 底径：6.3-6.5	(2/3) (2/3) (2/3)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕。高台端部剥離多く。知多産か。	10YR 6/1 褐灰 ~10YR 6/2 黄灰	細砂粒少含
1045 008-187	陶器 皿	S75	口径：15.0 高さ：4.8 底径：5.7-6.0	(3/4) (2/3) (8/9)	内外面ヨコナデ。底部内面に強い指彌ナデ。外側に糸裂化斑。底部周縁部剥離多く。知多産か。	10YR 7/1 底白 ~10YR 6/1 剥灰	砂粒多含
1046 008-062	陶器 皿	T76	口径：6.2	(完存)	内外面ヨコナデ。高台端部砂粒痕。底部内面ナデ。基盤「丁」字。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	細砂粒多含
1047 008-173	陶器 皿	T75	口径：15.0-15.4 高さ：5.2 底径：6.5	(4/5) (2/3)	内外面ヨコナデ。底部外側糸切り痕と裏表「十」字。高台端部砂粒痕多く。知多産か。	2.5Y 7/1 底白	細砂粒多含
1048 008-130	陶器 皿	U73	口径：15.4-15.9 高さ：5.2 底径：6.2-6.5	(4/5) (完存)	内外面ヨコナデ。底部付近外側ヨコナデ。外側に糸裂化斑。高台端部砂粒痕多く。知多産か。	7.5YR 7/1 明褐灰	砂粒多含
1049 008-188	陶器 片口鉢	S75-W74	口径：30.2 高さ：13.8 底径：13.1	(1/2) (1/4)	内外面ヨコナデ。底部付近外側ヨコナデ。外側に糸裂化斑。底部外側と高台端部砂粒痕。知多産か。	2.5Y 6/1 黄灰 ~2.5Y 5/1 黄灰	砂粒多含
1050 008-063	陶器 片口鉢	V78	(底部片・高台端部欠損)		底部外側ヨコナデ。底部外面ナデ。内面ヨコナデ。高台端部砂粒痕。底部内面と底部外側に剥離痕。高台端部砂粒痕多く。知多産か。	10YR 6/1 黄灰	砂粒多含
1051 008-064	陶器 山茶碗	U77	口径：8.8	(1/2)	内外面ヨコナデ。底部内面と高台端部砂粒痕。底部と高台の土台が異なる。剥離痕か。	10YR 7/1 底白 高台：10YR 6/1 剥灰	微砂粒含
1052 008-072	陶器 小杯	V77	口径：6.0 高さ：3.6 底径：3.6	(1/6) (1/3)	内外面ヨコナデ。温湿度。	2.5YR 5/2 單灰	微砂粒含

遺物番号	形 種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色 調	胎 土
1053 008-067	鉢器 片口	V77	口径: 14.7	(1/4)	内外面クロナデ。鋸美鑿か。	2.5Y 6/1 黒灰	微砂粒多含
1054 008-069	鉢器 青磁輪	V79	台径: 5.5	(1/3)	体部外曲に毫弁文。高台端部~高台内面輪 筋。電気窯。	輪: 7.5Y 5/2 淡オーラープ 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精 良
1055 008-070	鉢器 青磁盤	V79	口径: 10.0前後	(1/8)	内面に導挿文。底部外側窓跡。電気窯系。	輪: 7.5Y 5/2 淡オーラープ 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精 良
1056 008-071	鉢器 白磁盤	V78	口径: 10.1	(1/3)	口縁端部輪脚。底邊鋸痕。	輪: 10GY 8/1 明綠灰 胎土: 10GY 8/1 明綠灰	精 良
1057 008-044	土製品 支脚	T76		(大部分欠損)	外面ナデ。体部に径 9 cm の円孔。二次焼成 を受け器壁もろい。	10YR 7/4 にぶい黄褐 ~10YR 6/3 にぶい黄褐	粗砂粒多含
1058 008-175	土製品 支脚	S75			外面オサエ。(1059と同一個体か)	10YR 6/4 にぶい黄	粗砂粒多含
1059 008-174	土製品 支脚	S75			外面オサエ。(1058と同一個体か)	10YR 7/3 にぶい黄褐	粗砂粒多含
1060 008-068	鉢器 刀子	U77	残存長 4.4cm	(刀身部片)			灰 製
1061 008-066	鉢器 刀子	T75	残存長 9.4cm	(刀身部片)			灰 製
1062 008-184	土製品 土鍋	S75	長 5.5cm、幅 2.6cm、孔径 1.2cm、重量 29.6g (完存)			2.5Y 6/8 橙	砂粒多含

S D 1 0 A (陶)

1063 010-001	土質器 小皿A	U74	口径: 10.0 盤高: 1.4	(7/8)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	微砂粒含
1064 010-006	土質器 小皿B	U74	口径: 8.4 盤高: 1.6	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざ かにヨコナデ。	7.5YR 8/4 淡黄褐	砂 粒 含
1065 010-002	土質器 皿B	U74	口径: 12.1 盤高: 2.2	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。内面輪付着。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂 粒 含
1066 010-003	土質器 皿C	U74	口径: 12.1 盤高: 2.8	(完全)	外面オサエ。内面ナデ。器壁の焼成済み調 整不透明。	10YN 8/3 淡黄褐	粗砂粒含
1067 010-004	土質器 皿C	U74	口径: 12.3 盤高: 2.5	(7/8)	外面オサエ。内面ナデ。器壁の焼成済み調 整不透明。	10YR 8/3 淡黄褐	粗砂粒含
1068 010-005	土質器 皿C	U74	口径: 12.6 盤高: 2.5	(11/12)	外面オサエ。内面ナデ。底部内側一部に強 い復原ナデ。外縁に複数状斑。	10YR 8/4 淡黄褐	砂 粒 含
1069 010-008	陶器 茶葉碗	U75	口径: 16.9前後 台高: 5.4	(1/6)	内外面ヨコナデ。底部外側面切り浜。高 台脚: 8.0前後 (1/6)	5Y 6/1 灰	微砂粒含
1070 010-019	土質器 羽羽	U75	口径: 16.0 脚高: 20.7	(2/5)	口縁端向外側ヨコナデ。体部内外面ケズリ。 外側底付着。	10YR 8/4 淡黄褐	砂 粒 多含
1071 010-010	土質器 羽羽	U75	口径: 20.9 脚高: 25.1	(1/2)	口縁端向外側ヨコナデ。体部内外面ケズリ。 外側底付着。	外: 7.5YR 7/4 にぶい橙 内: 10YR 8/4 淡黄褐	砂 粒 多含
1072 010-009	土質器 鍋	U75	口径: 24.3 体高: 26.0	(1/4) (1/6)	口縁端内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。 底部内外面ケズリとナタ。外側底付着。	外: 5Y 7/4 にぶい橙 内: 7.5YR 8/4 淡黄褐	粗砂粒多含

S D 1 0 B (陶)

1073 010-013	土質器 小皿B ₁	V76	口径: 7.4~7.9 盤高: 1.2~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコ ナデ。	7.5YR 6/8 橙	微砂粒少含
1074 010-011	土質器 皿B ₂	V76	口径: 12.1~12.4 盤高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコ ナデ。	7.5YR 8/6 淡黄褐	粗砂粒含
1075 010-012	土質器 皿B ₂	V77	口径: 12.7 盤高: 4.1~4.3	(3/5)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコ ナデ。	7.5YR 8/6 淡黄褐	粗砂粒含
1076 010-014	陶器 皿山田	V76	口径: 8.4 盤高: 6.0 高台: 4.2 (完全)	(2/3)	内外面ヨコナデ。底部外側面切り浜。深 窓跡か。	2.5Y 7/1 黒白	微砂粒多含
1077 010-015	鉢器 青磁輪	V76-V77	口径: 15.2	(1/5)	内外面施釉。内面にヘラ擦文。電気窯系。	輪: 10Y 5/2 オーラープ 胎土: 7.5Y 6/1 灰	精 良
1078 010-017	土製品 上鍋	V76-V77	長 5.1cm、幅 2.2cm、孔径 0.5cm、重量 22.6g (完存)			7.5YR 7/3 にぶい橙	粗砂粒多含
1079 010-016	土製品 上鍋	V76-V77	長 4.8cm、幅 2.5cm、孔径 1.2cm、重量 28.0g (完存)			7.5YR 7/3 にぶい橙	粗砂粒多含
1080 010-018	土製品 上鍋	V76-V77	長 4.0cm、幅 1.3cm、孔径 0.5cm、重量 7.2g (一部欠損)			5Y 6/8 橙	粗砂粒含

造物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
------	----	------	----------	-------	--------------	----	----

SD 11 (溝)

1081 011-002	土器 皿C	T79	口径: 10.8~11.3 器高: 2.2	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指輪ナデ。外面上に板状江須。器壁の断滅点に痕跡。	10YR 8/2 灰白	細砂粒含
1082 011-003	土器 皿C	T78	口径: 11.0~11.5 器高: 2.5~2.8	(9/8)	外面オサエ、内面ナデ。底部内面一部に強い指輪ナデ。外面上に板状江須。器壁の断滅点に痕跡。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒少含
1083 011-004	陶器 山系陶	U79	口径: 16.2 器高: 5.8 台径: 8.2	(1/4) (7/16)	内面歪曲クロロナデ。底部外側ナデ。西台端に板状江須。底部窓か。	10YR 6/2 灰黄褐	細砂粒少含
1084 011-001	土器 皿	U79	口径: 27.4	(1/6)	口縁部内外面ヨコナデ。外側付着。	10YR 7/4 にぶい黄褐	砂粒多含
1085 011-005	土器 皿	T75	口径: 23.4	(1/2)	口縁部内外面ヨコナデ。外側付着。内面ナデ。	2.5Y 8/3 灰黄	細砂粒多含

SD 13 (溝)

1086 013-001	土器 皿B	U79	口径: 14.0 器高: 2.4	(1/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部内外面わざにヨコナデ。器壁の厚減進み調査不明顯。	7.5YR 7/4 にぶい植	細砂粒少含
1087 013-002	土器 皿	V79	口径: 28.0前後	(1/10)	口縁端部内外面ヨコナデ。外側付着。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含

SD 17 (溝)

1088 017-001	土器 皿C	W74	口径: 8.0 器高: 1.5	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。	7.5YR 7/6 植	細砂粒含
1089 017-003	土器 皿C	W72	口径: 11.0 器高: 2.2	(1/2)	外面オサエ。内面ナデ。底部内面一部に強い指輪ナデ。外面上に板状江須。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
1090 017-002	土器 皿C	U73	口径: 10.9~11.0 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。底部内面一部に強い指輪ナデ。外面上に板状江須。器壁の断滅点に痕跡。	2.5Y 8/2 灰白	細砂粒少含
1091 017-005	土器 皿	W72	(口縁部分)		口縁部内外面ヨコナデ。外側付着。	2.5Y 8/4 灰黄	細砂粒含
1092 017-004	陶器 山系陶	W72	口径: 6.5	(3/5)	内面歪曲クロロナデ。底部外側ナデ。西台端に砂粒粗粒。底部窓か。	2.5Y 7/1 灰白	細砂粒少含

SD 18 (溝)

1093 018-003	土器 皿B ₂	W71	口径: 7.5~7.9 器高: 1.0~1.2	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	細砂粒少含
1094 018-004	土器 皿B ₂	W71	口径: 7.8~8.0 器高: 1.4	(7/8)	外面オサエ。内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒含
1095 018-001	土器 皿B ₂	W71	口径: 15.0 器高: 3.3	(1/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
1096 018-002	土器 皿B ₂	W71	口径: 15.0 器高: 2.3	(5/8)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	7.5YR 6/6 植	細砂粒少含
1097 018-005	土器 皿	S73	口径: 20.0	(1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外側付着。	2.5Y 8/4 灰黄	細砂粒多含

SD 35 A (溝)

1098 035-010	土器 皿B ₂	W53	口径: 7.7 器高: 1.7	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい植	細砂粒含
1099 035-011	土器 皿B ₂	U53	口径: 8.3 器高: 1.3	(3/5)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄褐	細砂粒多含
1100 035-012	土器 皿B ₂	P53	口径: 7.8 器高: 1.6	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	細砂粒多含
1101 035-013	土器 皿B ₂	P58	口径: 7.7 器高: 1.7	(3/5)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/6 植	細砂粒多含
1102 035-014	土器 皿B ₂	K56	口径: 7.5 器高: 1.3	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒含
1103 035-015	土器 皿B ₂	O58	口径: 8.3 器高: 1.1	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざにヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	細砂粒少含
1104 035-005	土器 皿B ₂	R55	口径: 12.5 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
1105 035-007	土器 皿B ₂	O58	口径: 12.9 器高: 3.4	(3/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄植	細砂粒多含
1106 035-008	土器 皿B ₂	O58	口径: 13.6 器高: 2.7	(3/5)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色調	胎土
035-009	土師器 盆B ₁	P58	口径：13.2 器高：2.7	(3/4)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	10YR 5/2 黒黄褐	細砂粒多含
035-003	土師器 盆C	O58	口径：12.8 器高：2.7	(7/8)	外腹オサエ、内面ナデ。	5Y 7/4 にぶい透	粗砂粒多含
035-001	土師器 盆C	O58	口径：11.8 器高：2.5	(1/2)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒多含
035-004	土師器 盆C	Q56	口径：11.8 器高：2.4	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。底部内側一部に強い擦傷ナダ、外側に板状直角。	2.5Y 8/2 灰白	粗砂粒多含
035-006	土師器 盆C	R55	口径：11.7 器高：2.4	(3/4)	外腹オサエ、内面ナデ。底部内側一部に強い擦傷ナダ、外側に板状直角。	10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒多含
035-028	土師器 瓢	P57	口径：18.2 器高：10.6 体径：19.2	(5/12) (1/2)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナブリ。底部内外面ウスピリナダ。外腹行査。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
035-025	土師器 瓢	O58	口径：18.2 器高：8.8 体径：21.2	(1/4) (1/2)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナブリ。底部内外面ウスピリナダ。外腹行査。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
035-026	土師器 瓢	P57	口径：20.8 器高：14.8 体径：23.3	(1/3) (3/4)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナブリ。底部内外面ウスピリナダ。外腹行査。	10YR 7/4 にぶい黄褐	砂粒多含
035-027	土師器 瓢	O58	口径：31.9 器高：10.6	(完存)	口縁部内外面ヨコナダ。底部内外面ナブリ。外腹保付査。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
035-016	土師器 瓢	Q57	口径：4.0 器高：2.7	(1/4) (1/4)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナブリ。器底の摩滅感あり。調整不明確。	外：5YR 8/3 淡褐 内：10YR 8/2 黒口	粗砂粒少含
035-017	陶器 小杯	U53	底径：2.7	(3/5)	内外面ヨコナダ。底部外側面切り廻。底美產か。	2.5Y 7/1 灰白	粗砂粒少含
035-018	陶器 山茶碗	W53	口径：16.4 器高：5.4 台径：7.7	(1/4) (1/5)	内面邊ロクロナダ。底部外側面切り廻。底美產か。	10YR 7/1 灰白	砂粒多含
035-019	陶器 山茶碗	P58	口径：14.8 器高：5.0 台径：7.0	(完存)	内面邊ロクロナダ。底部外側面切り廻。底部底盤砂粒混。体部外側面に墨書き「一」である。二「」も。底美產か。	2.5Y 6/1 黑灰	粗砂粒多含
035-020	陶器 山茶碗	P58	口径：15.2 器高：4.6~4.7 台径：7.0	(1/4) (完存)	内外面ヨコナダ。底部外側面切り廻。純白底盤相交点。加多摩か。	2.5Y 7/2 黑灰	粗砂粒多含
035-021	陶器 山茶碗	O58	口径：15.4 器高：4.5 台径：8.0~8.0	(1/2) (1/4) (完存)	内面邊ロクロナダ。底部外側面切り廻。純白底盤相交点。底美產か。	2.5Y 7/2 黑灰	粗砂粒多含
035-022	陶器 山茶碗	O58	口径：14.8 器高：5.2 台径：7.5	(1/7) (7/8)	内面邊ロクロナダ。底部外側面ナダ。底美產か。	2.5Y 6/2 黑灰	粗砂粒多含
035-023	陶器 片口鉢	P58	口径：14.0前後 器高：9.5 台径：13.0	(1/12) (3/4)	内外面ヨコナダ。底部外側面ヨコナダ。底部底盤砂粒混。知多摩か。	5Y 7/1 黑白	砂粒多含
035-024	陶器 片口鉢	R56	口径：31.0前後 器高：11.8 台径：13.7	(1/6) (3/7)	内面邊ロクロナダ。底部外側面ヨコナダ。底部底盤砂粒混。底美產か。	10YR 7/1 黑口	粗砂粒少含
035-028	土製品 支脚	O58	(半寸鉢)	外腹ナダ。	10YR 8/4 浅黄褐 ~7.5Y 7/5 透	粗砂粒多含	

S D 3 5 B (薄)

035-032	土師器 小皿C	Q55	口径：6.9 器高：0.8	(1/2)	外腹オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒含
035-029	土師器 盆C	Q54	口径：11.6 器高：2.6	(完存)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	微砂粒含
035-030	土師器 盆C	Q55	口径：10.9 器高：2.5	(4/5)	外腹オサエ、内面ナデ。	5Y 8/2 黑白	粗砂粒多含
035-031	土師器 盆C	Q56	口径：11.0 器高：2.2	(5/6)	外腹オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/2 灰白	粗砂粒含
035-034	土師器 盆C	Q54	口径：26.2	(1/7)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナダ。	10YR 4/4 白	砂粒多含
035-035	陶器 山茶碗	O54	口径：15.2 器高：5.0~5.6 台径：7.2	(1/2) (完存)	内外面ヨコナダ。底部外側面ナダ。底白端部外側面。体部外側面に墨書き「市方」。底美產か。	2.5Y 6/2 黑黄	粗砂粒少含
035-033	陶器 山茶碗	P54	台径：5.0	(1/2)	底台端部~底台内面露和。体部外側面に墨書き「市方」。底美產か。	粗：5G 6/1 褐灰 细：5Y 6/1 褐	微砂粒含
035-036	鉢製品 刃	Q54	全长6.4cm、身部断面方形。	(完存)		铁 制	

S D 3 6 (薄)

036-001	土師器 小皿C	W51	口径：8.2 器高：1.5	(1/2)	外腹オサエ、内面ナデ。口縁端部修理付着。器底の摩滅感あり。調整不明確。	10YR 8/3 浅黄褐	粗砂粒含
036-002	土師器 盆C	T52	口径：10.0 器高：2.0	(1/4)	外腹オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(残存枚)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1136 036-003	土師器 皿	T53		(1)標示片	口縁端部内外面ヨコナデ。外側深付着。	10YR 8/3 浅黄褐	細砂粒多含

S D 3 9 (表)

1137 039-013	土師器 小皿B ₁	V32	口径: 8.0 基高: 1.4	(9/10)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
1138 039-014	土師器 小皿B ₁	V31	口径: 7.9~8.1 基高: 1.9	(7/8)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	7.5YR 8/3 淡黃褐	細砂粒多含
1139 039-015	土師器 小皿B ₁	U30	口径: 8.3~8.6 基高: 1.5	(4/5)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	5 YR 8/4 淡橙	細砂粒少含
1140 039-016	土師器 小皿B ₁	W32	口径: 7.8~8.1 基高: 1.9	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	7.5YR 8/3 淡黃褐	砂粒多含
1141 039-017	土師器 小皿B ₁	V32	口径: 8.2~8.4 基高: 1.3	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	砂粒多含
1142 039-018	土師器 小皿B ₁	W33	口径: 8.3~8.5 基高: 1.5~1.6	(11/12)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黃褐	砂粒多含
1143 039-019	土師器 小皿B ₁	W32	口径: 8.2~8.8 基高: 0.9~1.7	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	10YR 8/2 黄白	細砂粒多含
1144 039-020	土師器 小皿B ₁	V31	口径: 8.0~8.2 基高: 1.6	(11/12)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	7.5YR 7/4 にぶい橙	細砂粒多含
1145 039-001	土師器 皿B ₁	V32	口径: 14.2 基高: 2.7	(2/3)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	外: 10YR 6/2 淡褐色 内: 10YR 7/4 にぶい黄橙	砂粒多含
1146 039-002	土師器 皿B ₁	V32	口径: 14.6 基高: 3.2	(9/10)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄褐	微砂粒少含
1147 039-003	土師器 皿B ₁	V32	口径: 14.1 基高: 3.0	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黃褐	砂粒多含
1148 039-004	土師器 皿B ₁	V32	口径: 14.4 基高: 2.8	(完存)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄褐	砂粒多含
1149 039-006	土師器 皿B ₁	W32	口径: 15.2 基高: 2.4	(4/7)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黃褐	細砂粒多含
1150 039-006	土師器 皿B ₁	V32	口径: 13.6 基高: 2.9	(4/7)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にぶい橙	砂粒少含
1151 039-007	土師器 皿B ₁	V31	口径: 14.4 基高: 2.5	(1/2)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
1152 039-008	土師器 皿B ₁	V31	口径: 14.8 基高: 2.7	(3/4)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黃褐	細砂粒多含
1153 039-010	土師器 皿B ₁	V30	口径: 14.6 基高: 2.9	(9/10)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/2 黄白	細砂粒多含
1154 039-011	土師器 皿B ₁	V30	口径: 14.4 基高: 3.4	(1/2)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含
1155 039-009	土師器 皿A	V31	口径: 13.5 基高: 2.9	(9/10)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黃褐	砂粒多含
1156 039-012	土師器 皿A	V31	口径: 14.7 基高: 2.9	(1/3)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	微砂粒少含
1157 039-020	土師器 皿	W33	口径: 26.6	(1/4)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ナデ。外側深付着。	10YR 8/3 浅黃褐	砂粒多含
1158 039-027	土師器 皿	V32	口径: 34.2 基高: 37.2	(1/2) (1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1159 039-026	土師器 皿	V32	口径: 17.5 基高: 8.7 体高: 18.1	(3/7) (3/4)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリとナデ。外側深付着。	10YR 8/4 浅黃褐	砂粒多含
1160 039-020	土師器 皿	W32	口径: 20.1 基高: 21.3 (1/4)	(1/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズ。	10YR 8/4 浅黃褐	砂粒多含
1161 039-029	土師器 皿	W33	口径: 26.0	(1/8)	口縁部内外面ヨコナデ。肩部内外面ケズ。	10YR 7/3 にぶい黄橙	細砂粒多含
1162 039-032	陶器 山茶碗	V30	口径: 16.0 基高: 5.0 体高: 6.9~7.1 (完存)	(1/2)	内側面ヨコナデ。底部外面ナデ。高台端部稍厚。腹美角か。	2.5Y 7/1 黄白	砂粒少含
1163 039-024	陶器 山茶碗	V31	口径: 16.0~16.4 基高: 5.4 体高: 7.1~7.3 (完存)	(3/5)	内側面ヨコナデ。底部外面糸切り縫。高台端部稍厚。腹美角か。	2.5Y 7/1 黄白	細砂粒少含
1164 039-025	陶器 山茶碗	V32	口径: 16.0~16.4 基高: 5.5~5.7 体高: 7.5~7.7 (完存)	(7/8)	内側面ヨコナデ。底部外面糸切り縫。高台端部稍厚。腹美角か。	10YR 6/1 黄灰	細砂粒少含
1165 039-023	陶器 山茶碗	V31	口径: 16.0 基高: 5.4 体高: 6.5~6.9 (完存)	(3/5)	内側面ヨコナデ。底部外面糸切り縫。高台端部稍厚。腹美角か。	2.5Y 7/1 黄白	細砂粒少含

遺物番号	器種	出土位置	計測値(cm)	(既存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1166 030-021	土製品 支脚	V32		(上部のみ既存)	外面テテ。	10YR 7/3 にふい黄緑	砂粒含

SD 4.2 (溝)

1167 042-001	土器器 小皿B ₁	T21	口径: 8.3 (1/4)	外側オサエ、内面ナデ。口縁端部内外ヨココナツ。器壁の削減進み調整不明显。	10YR 7/4 にふい黄緑	粗砂粒多含
1168 042-003	土器器 皿B ₁	T21	口径: 12.0前後 器高: 2.3	外腹ケスリ、内面ナデ。口縁端部外側ヨコナデ。	外: 2.5Y 8/2 灰白 内: 2.5Y 6/1 灰白	粗砂粒含
1169 042-002	土器器 網	U21	口径: 22.0前後 (1/6)	II端部内外面ヨコナデ。外面付着。	10YR 7/3 にふい黄緑	粗砂粒多含

SD 4.3 (溝)

1170 043-019	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.1~8.5 器高: 1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	7.5YR 7/3 にふい橙	粗砂粒多含
1171 043-020	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.1 器高: 1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	粗砂粒多含
1172 043-021	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.2~8.5 器高: 1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 6/1 暗灰 ~2.5Y 8/3 淡黄	粗砂粒多含
1173 043-022	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.6 器高: 1.6	(6/7)	外面オサエ、内面ナデ。II端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	粗砂粒含
1174 043-023	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.2~8.4 器高: 1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。II端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	砂粒多含
1175 043-024	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.2 器高: 1.3~1.4	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。II端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	粗砂粒多含
1176 043-025	土器器 小皿B ₁	V26 中層	口径: 8.2~8.5 器高: 1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑 ~10YR 6/2 淡黄緑	砂粒多含
1177 043-035	土器器 小皿B ₁	V26 上層	口径: 8.2 器高: 1.6	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
1178 043-036	土器器 小皿B ₁	V26 上層	口径: 8.8 器高: 1.1~1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/2 にふい橙	砂粒多含
1179 043-045	土器器 小皿B ₁	V26 上層	口径: 8.2 器高: 1.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒含
1180 043-008	土器器 皿B ₁	V26 中層	口径: 14.2~14.5 器高: 2.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。II端部外面ヨコナデ。器壁の削減進み調整不明显。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒多含
1181 043-009	土器器 皿B ₁	V26 中層	口径: 14.7~15.2 器高: 2.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。II端部外面ヨコナデ。	2.5Y 8/3 淡黄	砂粒含
1182 043-017	土器器 皿B ₁	V26 中層	口径: 13.5~13.8 器高: 2.9	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。器壁の削減進み調整不明显。	2.5Y 8/3 淡黄	粗砂粒含
1183 043-010	土器器 皿B ₁	V26 中層	口径: 14.7~15.0 器高: 2.6	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。II端部外面ヨコナデ。器壁の削減進み調整不明显。	5Y 8/3 淡黄	粗砂粒含
1184 043-037	土器器 皿B ₁	V26 上層	口径: 14.0 器高: 3.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
1185 043-042	土器器 皿B ₁	V26 上層	口径: 14.0~14.6 器高: 2.8	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/2 灰白	粗砂粒多含
1186 043-041	土器器 皿B ₁	V26 上層	口径: 14.8 器高: 2.8	(9/10)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	粗砂粒含
1187 043-050	陶器 皿	V26 上層	口径: 9.0 器高: 2.8 底径: 4.6	(完存) (完存)	内面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。器壁厚。	5 YR 7/1 明褐色	粗砂粒含
1188 043-047	陶器 皿	V27 中層	口径: 8.9 器高: 2.4 底径: 4.6	(完存)	内外面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。器壁厚。	5 YR 7/1 明褐色	粗砂粒含
1189 043-049	陶器 皿	V26 上層	口径: 8.1 器高: 2.0 底径: 4.0~4.2	(完存)	内面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。器壁厚。	5 YR 5/2 灰褐	粗砂粒含
1190 043-048	陶器 皿	U27 中層	口径: 8.3 器高: 1.8 底径: 4.0	(7/8) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。器壁厚。	5 YR 5/1 明褐色	粗砂粒含
1191 043-001	陶器 山茶碗	V26 中層	口径: 16.2 器高: 5.3 合口: 7.8	(1/4) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。高台座厚。器壁厚。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
1192 043-002	陶器 山茶碗	V26 上層	口径: 16.2 器高: 4.4 合口: 7.4	(1/16) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。高台座厚。器壁厚。	10Y 7/1 灰白	砂粒少含
1193 043-003	陶器 山茶碗	V26 中層	口径: 16.0 器高: 5.0 合口: 6.5	(1/2) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。高台座厚。器壁厚。	10Y 7/1 灰白	粗砂粒含
1194 043-004	陶器 山茶碗	V26 上層	口径: 16.4 器高: 4.0 合口: 7.0	(1/2) (完存)	内外面ヨコナデ。底部外面糸切り瓶。高台座厚。器壁厚。	10Y 7/1 灰白	粗砂粒少含

遺物番号	種類	出土位置	計測値(cm)	(残存度)	形態・技術・調整等の特徴	色調	粘土
1195 943-005	陶器 山茶碗	V26	口径: 16.2 器高: 5.5 (定着)	(1/4)	内外面クロコナデ。底部外面赤切り版。高台端部砂輪削。底表面か。	10Y 7/1 灰白	細砂粒含
1196 943-006	陶器 山茶碗	U26 中層	口径: 16.3 器高: 5.0 (定着)	(1/2)	内外面クロコナデ。底部外面赤切り版と參差(花押か)。高台端部砂輪削良い。底表面か。	10Y 7/1 灰白	微砂粒含
1197 043-052	土器 鍋	V26	口径: 19.2 体深: 18.6 (1/3)	(1/3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ。内面ナダ。外側縁付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
1198 043-053	土器 鍋	U26	口径: 20.0 前後 器高: 10.5 体深: 19.3 (2/5)	(2/5)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面オサエ。内面ナダ。底部外面ケメリとナデ。外側縁付着せず。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒含

SD 4 7 (高)

1199 047-001	土器 鍋	V39	(口縁部片)	口縁部外面ヨコナデ。外側縁付着。	10YR 8/3 浅黄橙	微砂粒含
-----------------	---------	-----	--------	------------------	--------------	------

SD 5 0 (高)

1200 050-001	土器 小皿B ₁	T37	口径: 7.8 器高: 1.2 (1/2)	外面オサエ、内面ナダ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 7/4 にぶい黄橙	細砂粒多含
1201 050-002	土器 鍋	T37	(口縁部片)	口縁部外面ヨコナデ。外側縁付着。	10YR 5/2 灰黄褐	細砂粒多含

SD 6 2 (高)

1202 062-001	土器 鉢	Q42	(口縁部)	口縁部外面ヨコナデ。外側縁付着。	2.5Y 8/3 浅黄	細砂粒多含
1203 062-002	陶器 山茶碗	Q42	口径: 8.0 前後 (1/4)	外面ヨコナデ。底部外面赤切り版。底表面か。	2.5Y 6/2 灰黄	微砂粒多含

SD 7 3 (高)

1204 073-001	土器 皿B ₁	S30	口径: 15.0 前後 器高: 2.4 (1/8)	外面オサエ、内面ナダ。口縁端部外面ヨコナデ。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含
-----------------	-----------------------	-----	---------------------------------	------------------------	--------------	-------

SD 1 1 6 (高)

1205 116-001	土器 鍋	O77	口径: 33.0 (1/3)	口縁部外面ヨコナデ。前部外側オサエ、内面ナダ。外側縁付着。	10YR 8/4 浅黄橙	砂粒多含
-----------------	---------	-----	-------------------	-------------------------------	--------------	------

SD 1 1 7 (高)

1206 117-002	土器 皿C ₁	L74	(口縁部片)	外側オサエ、内面ナダ。器壁の腰減進み薄板不規則。	7.5YR 8/2 灰白	微砂粒多含
1207 117-001	土器 鍋	N76	(口縁部片)	口縁部外面ヨコナデ。外側縁付着。	10YR 8/4 浅黄橙	細砂粒多含

SD 1 1 8 (高)

1208 118-006	土器 小皿B ₁	P74	口径: 7.8 器高: 1.3 (3/4)	外面オサエ、内面ナダ。内縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 7/6 棕	細砂粒少含
1209 118-002	土器 皿B ₁	J74	口径: 13.4 器高: 2.6 (7/8)	外面オサエ、内面ナダ。口縁端部外面ヨコナデ。底部内面一部に強い指痕ナダ、外側に板状柱痕。	7.5YR 5/8 明褐	細砂粒含
1210 118-004	土器 皿B ₁	Q74	口径: 14.2 (定着)	外面オサエ、内面ナダ。内縁端部外面わずかにヨコナデ。内側縁付着。	7.5YR 4/4 褐	細砂粒少含
1211 118-001	土器 皿B ₁	O74	口径: 12.3~12.7 (7/8) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナダ。内縁端部外面わずかにヨコナデ。	7.5YR 8/4 浅黄橙	微砂粒少含
1212 118-003	土器 皿B ₁	O74	口径: 12.2~12.6 (定着) 器高: 2.5	外面オサエ、内面ナダ。内縁端部外面わずかにヨコナデ。内側内面一部に強い指痕ナダ、外側に板状柱痕。	7.5YR 8/4 浅黄橙	細砂粒少含
1213 118-005	土器 皿B ₁	P74	口径: 13.4 (定着) 器高: 2.9	外面オサエ、内面ナダ。内縁端部外面わずかにヨコナデ。底部内面一部に強い指痕ナダ、外側に板状柱痕。	7.5YR 7/4 にぶい棕	微砂粒多含
1214 118-012	土器 皿B ₁	Q74	口径: 18.5 器高: 3.5 (1/4) 体深: 18.0 (1/2)	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ナダ。底部内外ヨコナデ。外側縁付着。	外: 7.5YR 7/6 棕 内: 5YR 6/6 棕	砂粒多含
1215 118-011	土器 皿B ₁	Q74	口径: 19.0 (7/8) 体深: 18.6 (1/3)	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ナダ。外側縁付着。	7.5YR 7/6 棕	砂粒多含
1216 118-013	土器 皿B ₁	Q74	口径: 21.0 (3/7) 体深: 21.7 (3/7)	口縁部外面ヨコナデ。体部外側ハゲ目。内縁ナダ。底部外側ヨコナデ。外側縁付着。底部内面板状柱痕。	10YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1217 118-014	土器 皿B ₁	Q74	口径: 23.6 体深: 24.2 (5/6) (1/10)	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ナダ。底部外側ヨコナデ。外側縁付着。	2.5YR 8/3 浅黄橙	砂粒多含
1218 118-007	陶器 山茶碗	M74	口径: 15.8 器高: 4.4 合併: 7.0 (3/7)	内面ヨコナデ。底部外側ハゲ目。内縁ナダ。底表面板状柱痕。如多量か。	2.5Y 7/1 灰白 ~7.5Y 6/1 灰白	砂粒多含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調整等の特徴	色調	胎土
1219 118-008	圓筒 山茶碗	N74	口径: 15.0 器高: 5.1 台径: 6.0	(1/3) (完存)	内外面クロナガ。底部外面部切り廻。高台端部斜削成。知多系。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含
1220 118-009	圓筒 山茶碗	O74	口径: 15.8 器高: 4.9 台径: 6.9-8.9	(3/4) (完存)	内外面クロナガ。底部外面部切り廻。高台端部斜削成。高美系。	2.5Y 7/1 灰白 ~7.5YR 7/4 にぶい緑	砂粒含
1221 118-010	圓筒 山茶碗	P74	口径: 15.4 器高: 4.6 台径: 7.6	(1/2) (完存)	内外面クロナガ。底部外面部切り廻。高台端部斜削成と彫刻。体部外面部に墨斑。3D浮き。	2.5Y 7/1 灰白	砂粒含

SD 200 (溝)

1222 200-002	土師器 小皿B ₁	T79	口径: 7.9-8.4 器高: 1.0-1.1	(9/10)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面わざかにコヨナゲ。	7.5YR 8/4 浅黄緑	砂粒含
1223 200-003	土師器 小皿B ₁	T78	口径: 8.0-8.4 器高: 1.3-1.4	(4/5) (完存)	外面オサエ。内面ナデ。口縁端部外面コヨナゲ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
1224 200-004	土師器 皿A	S78	口径: 14.1 器高: 2.2-2.3	(1/4)	外面オサエ。内面ナデ。口縁部内外面コヨナゲ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	砂粒含
1225 200-004	土師器 皿	S78	(1)縁部分		口縁部内外面コヨナゲ。底部外面部付着。	7.5YR 7/2 明褐色	微砂粒含
1226 200-005	圓筒 山茶碗	S78	口径: 14.4 器高: 4.6-4.8 台径: 7.3	(9/10) (完存)	内外面クロナガ。底部外面部切り廻。高台端部斜削成。知多系。	7.5YR 8/1 灰白	砂粒含

SD 202 (溝)

1227 202-001	土師器 皿C	T81	口径: 12.7-13.1 器高: 2.6-2.7		外面オサエ。内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
-----------------	-----------	-----	------------------------------	--	-------------	---------------	-------

SD 210 (溝)

1228 210-001	土製品 土罐	R71	長: 4.1cm、径: 2.2cm、孔径: 0.8cm、重量: 14.4g (完存)		SYR 7/6 棕	微砂粒含
-----------------	-----------	-----	--	--	-----------	------

SD 218 (溝)

1229 218-001	土師器 小皿B ₁	P70	口径: 8.2 器高: 1.2-1.7	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。口縁端部外面コヨナゲ。	2.5Y 8/4 淡緑	砂粒含
1230 218-002	土師器 皿B ₁	P60	口径: 14.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。口縁部内外面コヨナゲ。	2.5Y 8/3 淡緑	砂粒含
1231 218-003	土師器 皿	P71	口径: 29.0	(1/6)	口縁部内外面コヨナゲ。底部外面部付着。	2.5Y 8/2 灰白	砂粒含
1232 218-004	圓筒 山茶碗	P71	台径: 6.7	(1/2)	内外面クロナガ。底部外面部ナデ。高美系。	10YR 8/1 灰白	微砂粒含
1233 218-005	鉢 月刀	O67	残存長: 4.0cm (縁部分のみ)				鉢 製

SD 230 (溝)

1234 230-001	土師器 小皿C	M62	口径: 7.2-7.8 器高: 0.8-1.3	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	7.5YR 8/3 浅黄緑	微砂粒少含
1235 230-002	土師器 小皿C	M62	口径: 7.6-8.0 器高: 1.0-1.5	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。	10YR 8/3 浅黄緑	微砂粒多含
1236 230-003	土師器 小皿C	M62	口径: 7.8 器高: 0.9-1.4	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。	2.5Y 8/3 淡緑	微砂粒少含

S Z 1 3 2 (集石遺構)

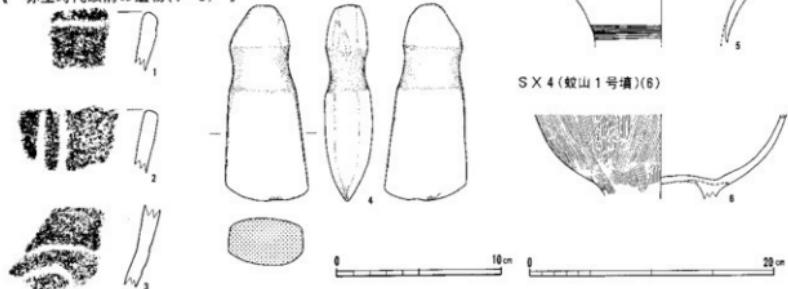
1237 132-001	圓筒 山茶碗	J71	台径: 7.0	(完存)	内外面クロナガ。底部外面部切り廻。高台端部斜削成。高美系。	10YR 7/1 灰白	微砂粒少含
-----------------	-----------	-----	---------	------	-------------------------------	-------------	-------

分合器・ビット

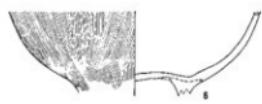
1238 000-029	ローラー 小皿	Q21 研磨土	口径: 7.2 器高: 1.7 台径: 4.0	(1/4)	内外面クロナガ。底部外面部切り廻。	7.5YR 7/3 にぶい黄緑	微砂粒含
1239 000-049	土師器 台付小皿	Q44 包合層	口径: 8.9 器高: 2.7 台径: 5.2	(完存)	外面オサエ、内面ナデ。尚台部分外外面ナデ。底部内側有目板。	10YR 8/4 淡黄緑	砂粒含
1240 000-033	土師器 台付小皿	O76 包含層	口径: 8.2 器高: 2.1-2.3 台径: 4.4-4.7	(1/2)	外面オサエ、内面ナデ。高台部分外外面ナデ。底部内側有目板。	10YR 7/4 にぶい黄緑	微砂粒多含
1241 000-030	土師器 小皿	I-67 包含層	台径: 9.2	(3/8)	内外面ナデ。体部外面部と底面部中央部に粗いハケ目残る。	10YR 8/2 灰白	微砂粒少含
1242 000-028	土師器 (セラフ)小皿	N72 包含層	口径: 8.7前後 器高: 10.3前後	(1/18) (1/18)	内外面ナデ。口縁部内外面コヨナゲ。	2.5Y 8/2 灰白	微砂粒含

遺物番号	器種	出土位置	計測値 (cm)	(残存度)	形態・技法・調査等の特徴	色	調	胎	上
1243 000-018	土質器 羽釜	O66 笠呑槽	口径: 23.9~24.4 高さ: 27.5~27.8 底径: 19.5~20.0	(完全) (1/4) (完全)	体部内外面ケズリ。口縁部内外面ヨコナギ。 外側縁付着。	10YR 8/3 淡黄褐		細砂粒多含	
1244 000-015	瓦質器 火鉢	Q55 ピット21	口径: 9.2 高さ: 3.9 底径: 12.7	(完全) (完全) (完全)	外面ケズリ、内面ナガ。底部外圍ナダ。足 部分は貼り付けの跡ナギ。	2.5Y 8/2 黒白		砂粒含	
1245 000-014	土質器 火鉢	Q55 ピット21	口径: 15.3 高さ: 5.2 底径: 17.3	(完全) (完全) (9/10)	内外面ナガ。口縁部内外面ヨコナギ。底部 外側縁ナギ。足部分は貼り付けの跡ナ ギ。	10YR 8/4 淡黄褐		砂粒多含	
1246 000-023	土質器 火鉢	L74 笠呑槽	口径: 34.2	(1/2)	外側ハケ目、内面ナギ。口縁部内外面ヨコ ナギ。外側に印花。		器壁: 10YR 7/2 にふい黄褐 断面: 2.5Y 4/1 黄灰	細砂粒含	
1247 000-021	瓦質器 火鉢	L68 笠呑槽	口径: 6.0	(1/5)	口縁部内外面ヨコナギ。	7.5YR 8/1 黒白 ~N4/ 黑		微砂粒含	
1248 000-020	瓦質器 碗	T26 笠呑槽	口径: 12.3前後	(1/10)	外面オサツ。内面へしガキ。口縁部内外 面ヨコナギ。	7.5YR 8/1 黒白 ~N4/ 黑		微砂粒含	
1249 000-038	陶器 山皿	U26 笠呑槽	口径: 8.8 高さ: 2.0 底径: 4.6	(4/5) (完全) (完全)	外面部ヨコナギ。底部内面に強い指彌ナ ギ、外側系切り痕。深美底。	2.5Y 7/1 黒白		微砂粒含	
1250 000-037	陶器 山皿	L72 笠呑槽	口径: 7.8 高さ: 1.7 底径: 5.4	(6/7) (完全) (完全)	外面部ヨコナギ。底部内面に強い指彌ナ ギ、外側系切り痕。深美底。	5Y 6/1 黒		微砂粒含	
1251 000-039	陶器 山皿	N74 笠呑槽	口径: 8.5 高さ: 1.8 底径: 5.0	(11/12) (完全) (完全)	内外面ヨコナギ。底部内面に強い指彌ナ ギ、外側系切り痕。深美底。	2.5Y 7/1 黒白		粗砂粒少含	
1252 000-040	陶器 山皿	P71 笠呑槽	口径: 8.5 高さ: 2.2 底径: 5.3	(5/6) (完全) (完全)	内外面ヨコナギ。底部内面に強い指彌ナ ギ、外側系切り痕。深美底。	2.5Y 7/1 黒白		粗砂粒少含	
1253 000-041	陶器 盆	I74 笠呑槽	口径: 15.3~16.3 高さ: 5.0~5.2 底径: 11.5	(完全) (完全) (完全)	内外面ヨコナギ。底部外周系切り痕。高 台端部斜面底。深美底。	2.5Y 7/1 黒白		粗砂粒含	
1254 000-031	陶器 天日茶碗	K83 研磨土台	口径: 11.5 高さ: 6.2 底径: 3.7	(1/4) (1/4) (1/4)	内面から体部上半無施釉。高台は削り出し。 削底。	輪: 10YR 1.7/1 黒 胎土: 10YR 7/1 黑白		粗砂粒含	
1255 000-032	陶器 天日茶碗	L74 笠呑槽	口径: 9.6 高さ: 4.5 底径: 2.8	(1/4) (完全) (1/2)	内面から体部上半無施釉。高台は削り出し。 ロクロた円脚。底黒底。	輪: 5Y 3/3 喬志褐 胎土: 7.5YR 5/1 黑灰		微砂粒含	
1256 000-042	陶器 水注	W37 笠呑槽	口径: 17.2 高さ: 12.4 底径: 8.5	(完全) (完全) (完全)	内外面ヨコナギ。深美底。	外: 2.5GY 6/1 オリーブ灰 内: 2.5Y 5/1 黑		微砂粒含	
1257 000-043	陶器 二重碗	M71 笠呑槽	口径: 10.0 体径: 17.0	(3/5) (1/4)	内外面ヨコナギ。底部外周に1条の線跡。 知多産。	外: 2.5YR 4/3 にふい赤褐 内: 2.5YR 4/2 黑赤		細砂粒多含	
1258 000-016	陶器 箱	L79 ピット3	口径: 13.5 体径: 18.8	(1/8) (1/4)	内外面ヨコナギ。底部外周ヨコケズリ。 知多産。	外: 2.5YR 6/2 喬志褐 内: 2.5YR 7/1 にふい褐		粗砂粒含	
1259 000-036	陶器 広口壺	N69 笠呑槽	(体部片)		内外面凹凸ナギ。内面に刻字「喜屋」 ((1225~1227年))。知多産。	5YR 5/2 黒褐		微砂粒含	
1260 000-035	石製品 鍋	丁把 笠呑槽	口径: 21.0 高さ: 23.5前後	(1/6) (1/20)	内面は平滑、外面上にケメリ痕病膜に残る。 外側縁付着。			黒褐 石製	
1261 000-036	石製品 鍋	T82 笠呑槽	口径: 22.0前後	(1/12)	内面は平滑、外面上にケメリ痕病膜に残る。外側縁 付着。			黒褐 石製	
1262 000-045	土質品 加工工具	P76 笠呑槽	径: 2.4~2.6		縫合陶器の体部片を板用。				
1263 000-046	土質品 加工工具	O75	径: 5.0前後		毫毛黒名青施釉の高台部分を軸用。				
1264 000-048	銭貨	K79 耕作土	裏案元寶(真)、初鋤年代、嘉慶元年(1068) 外径: 2.40cm、穿孔0.65cm、重13.08g					銅 製	
1265 000-047	銭貨	F89	裏案元寶(真)、初鋤年代、嘉慶元年(1068) 外径: 2.40cm、穿孔0.65cm、重11.24g(約1/2枚)					銅 製	

《 弥生時代以前の遺物(1~5) 》

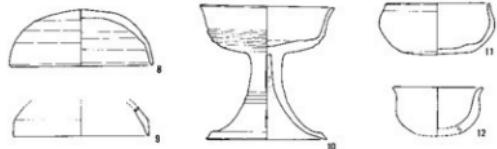


S X 4 (蚊山 1号墳)(6)



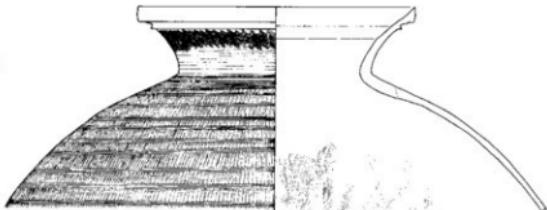
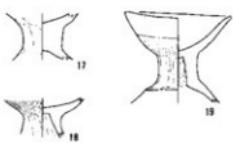
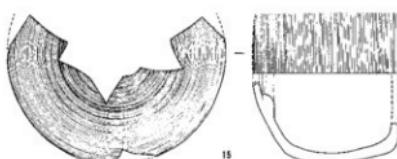
《 古墳時代の遺物(6~50) 》

S X 1 5 (蚊山 5号墳)(7~12)

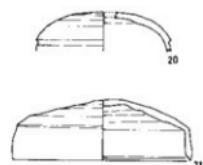


S X 3 2 (蚊山 1号墳)

(13~19)

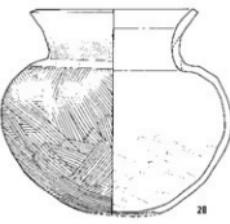
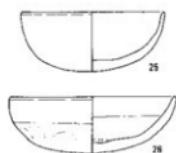


S X 3 7 (蚊山 7号墳)(20~24)



第62図 弥生時代以前・古墳時代の遺物実測図 (1~4 = 1 : 3, 5~24 = 1 : 4)

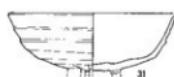
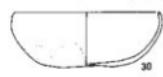
S X 5 3 (蚊山9号墳)(25~28)



S X 6 1 (蚊山11号墳)(29)



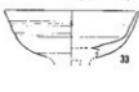
S X 7 2 (蚊山12号墳)(30~31)



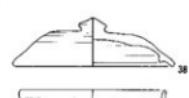
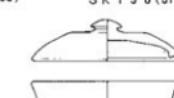
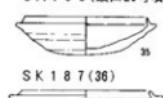
S X 8 2 (蚊山14号墳)(32)



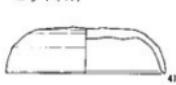
S X 1 8 0 (蚊山17号墳)(33~34)



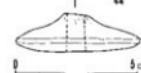
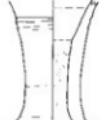
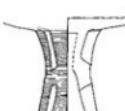
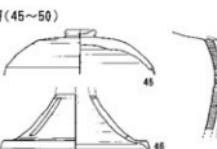
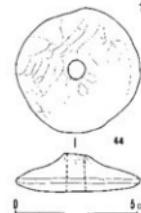
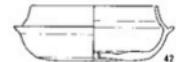
S X 1 9 6 (蚊山20号墳)(35)



ピット(41)

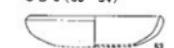
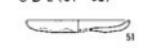


中世遺構(42~44)



《 中世の遺物(51~1265) 》

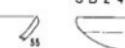
S B 2 (51・52)



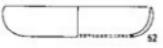
S B 9 (53・54)



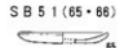
S B 2 3 (55)



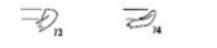
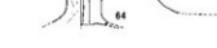
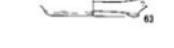
S B 2 4 (56~59)



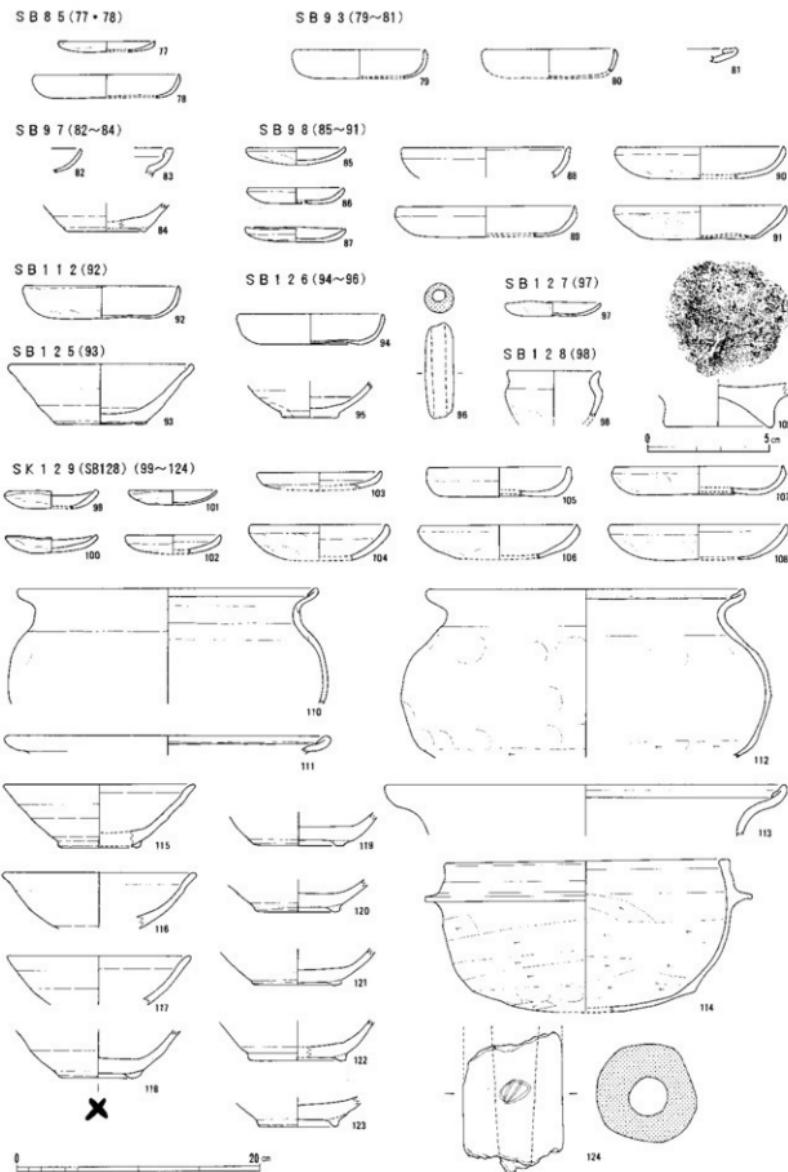
S B 2 7 (60~64)



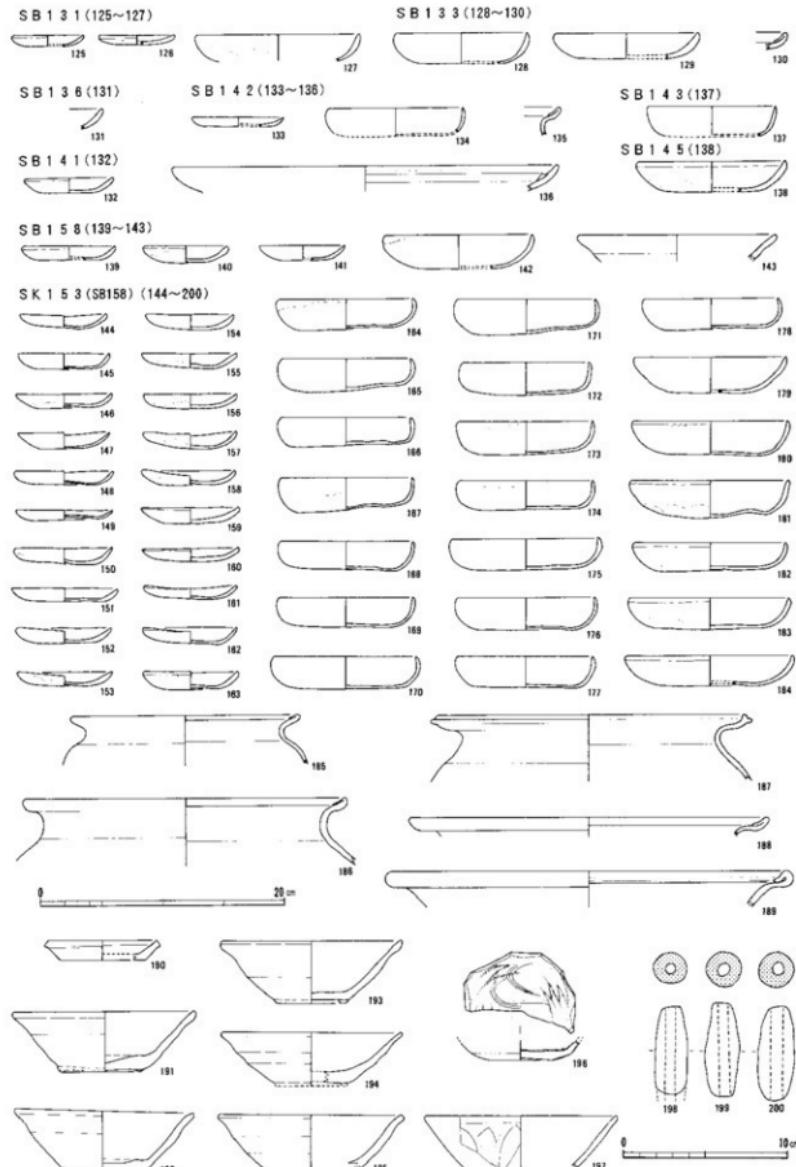
S B 7 6 (68~76)



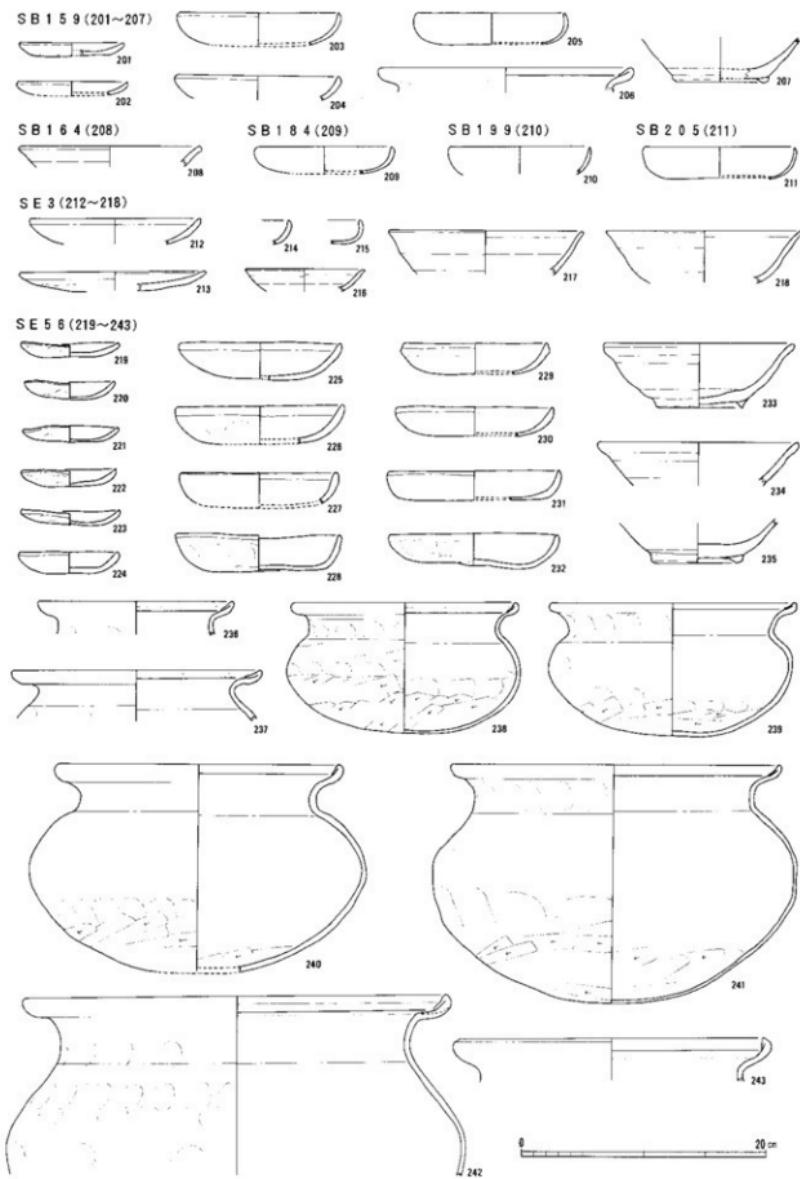
第63図 古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物実測図（1：4, 44=1：2）



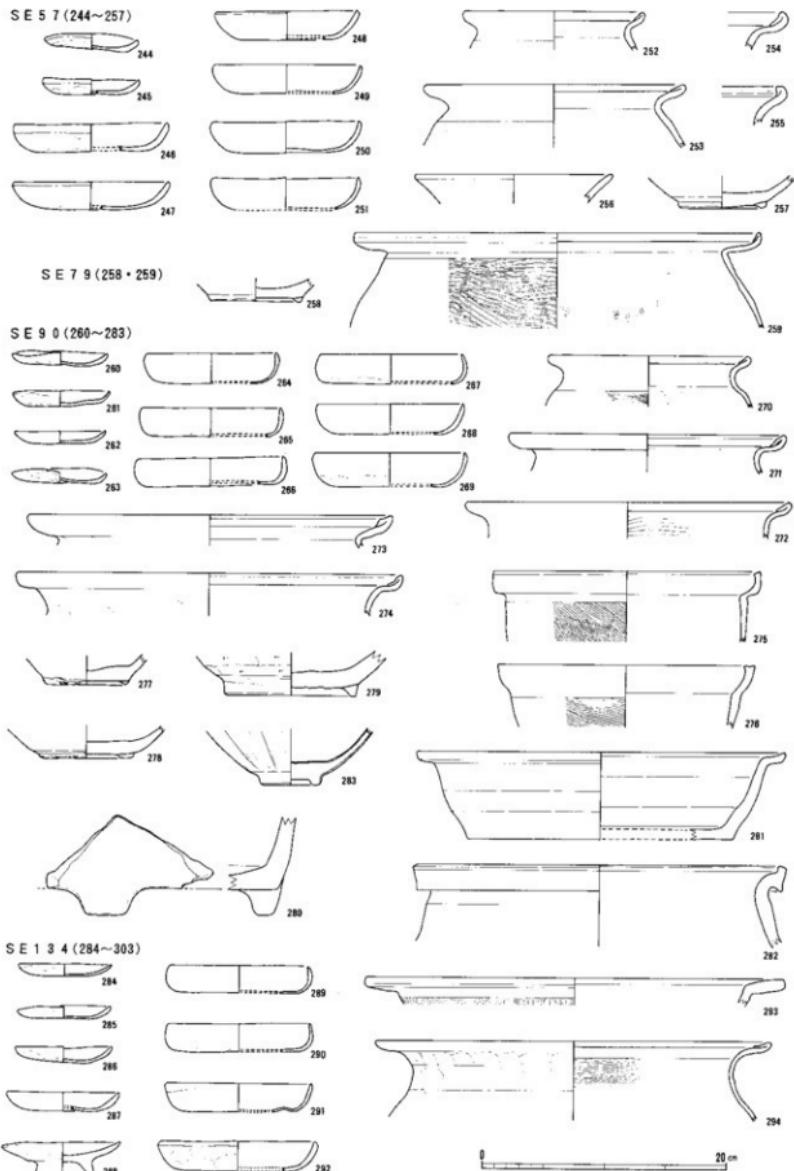
第64図 挖立柱建物出土遺物実測図 (1 : 4, 96・109 = 1 : 2)



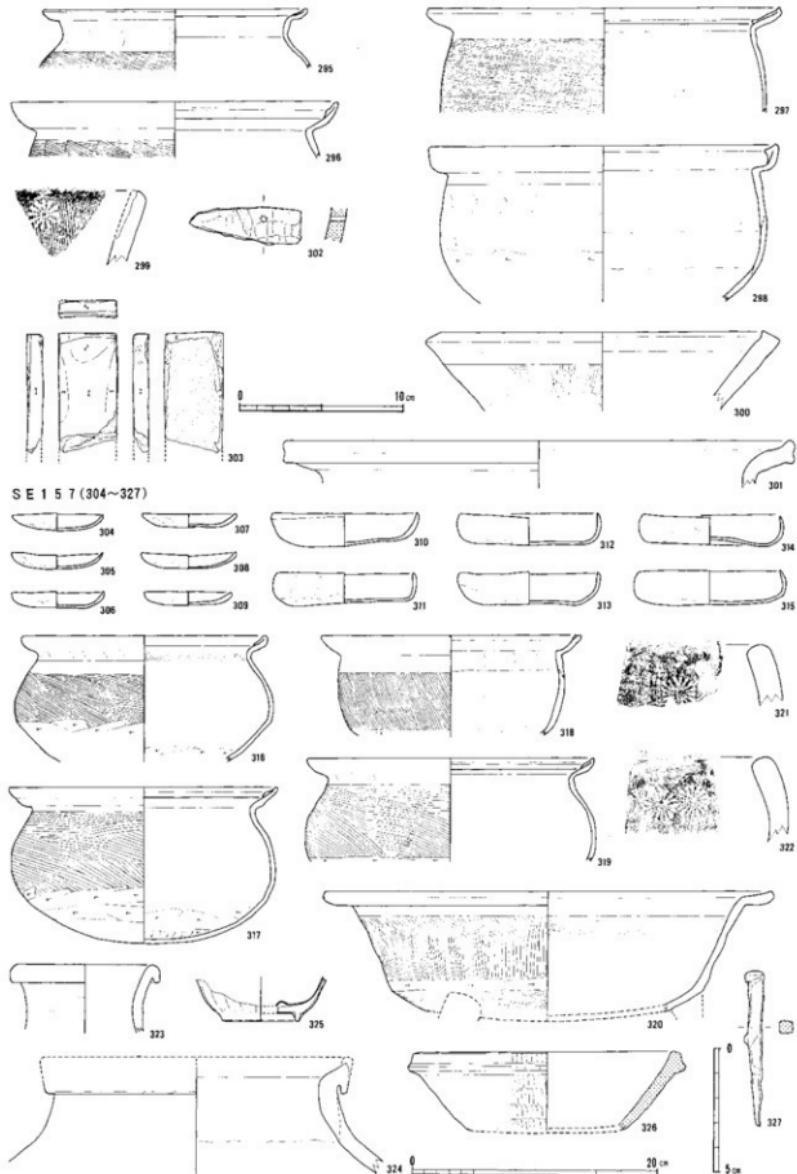
第65図 掘立柱建物出土遺物実測図 (1 : 4, 198~200 = 1 : 3)



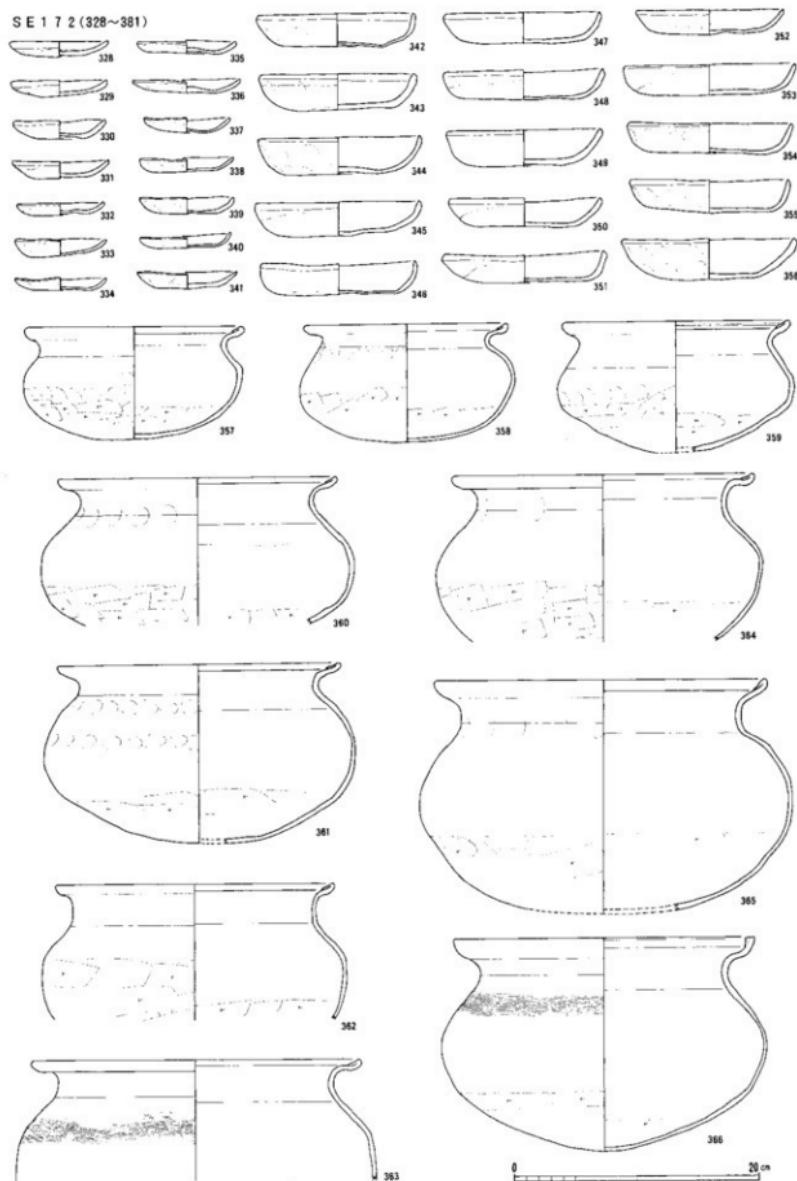
第66図 挖立柱建物・井戸出土遺物実測図（1：4）



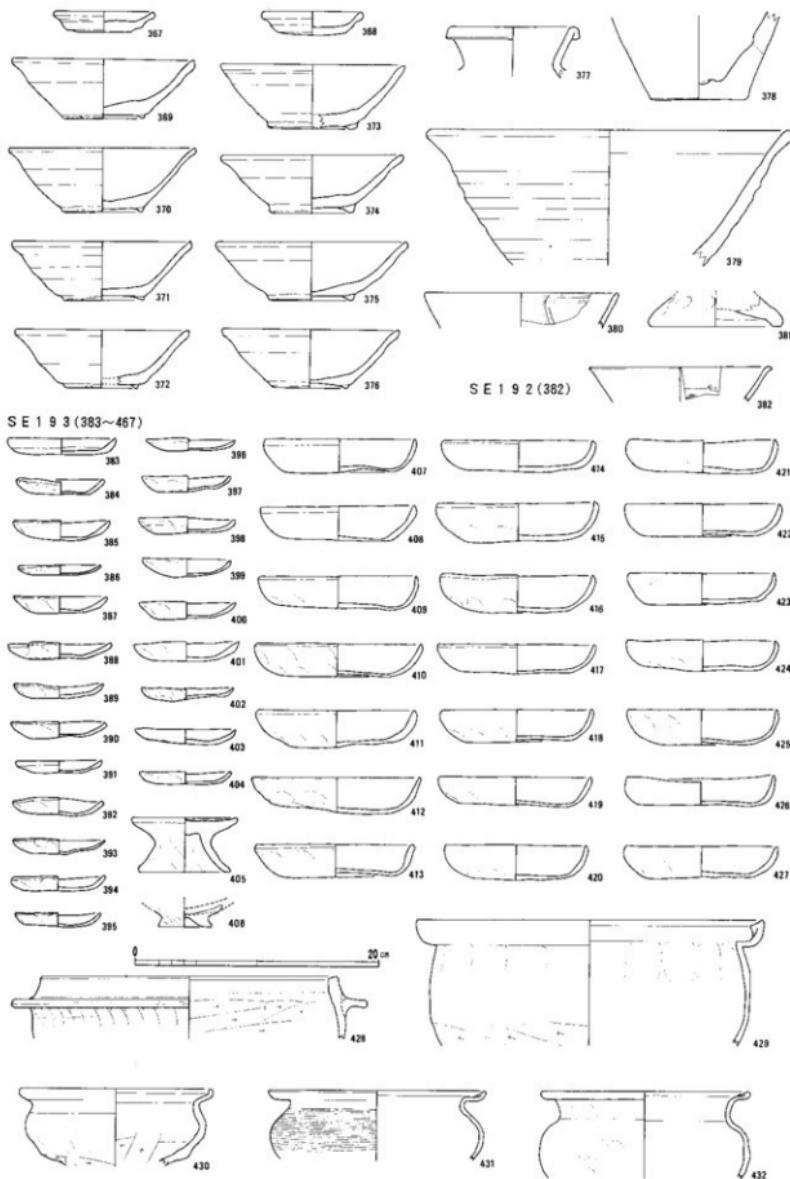
第67図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)



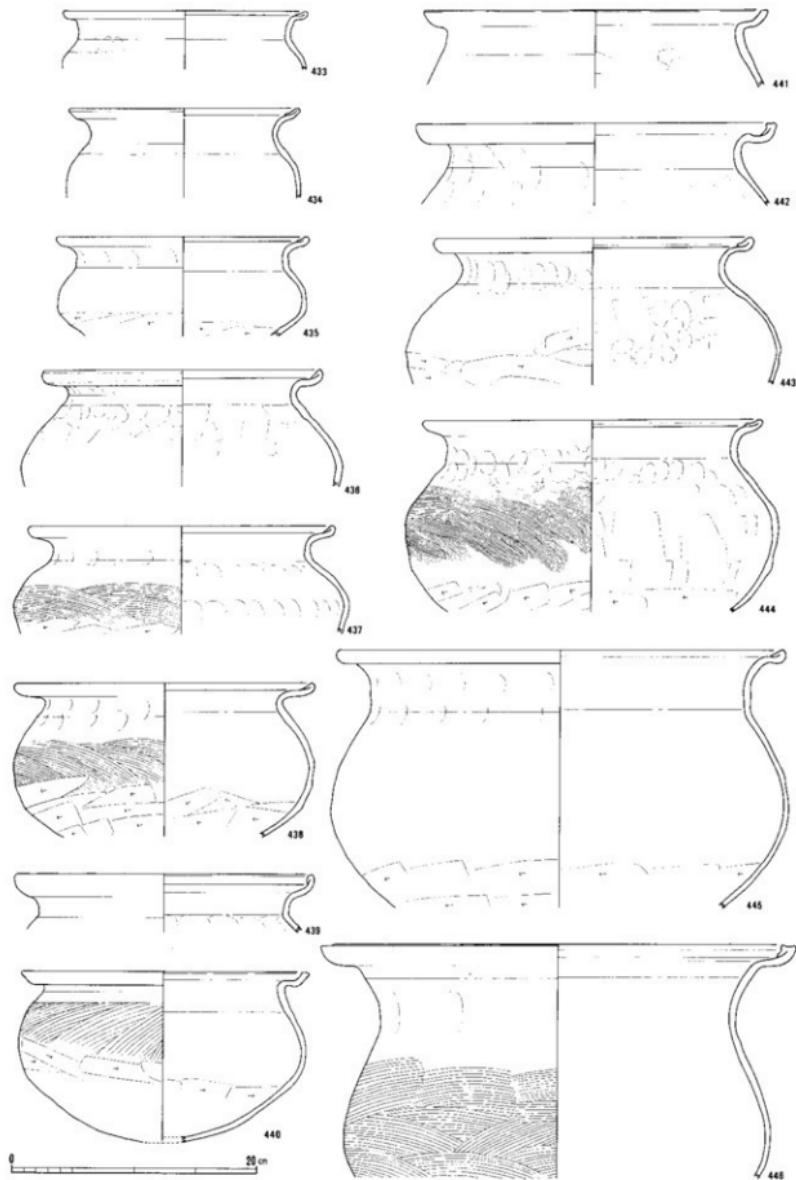
第68図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4, 303=1 : 3, 327=1 : 2)



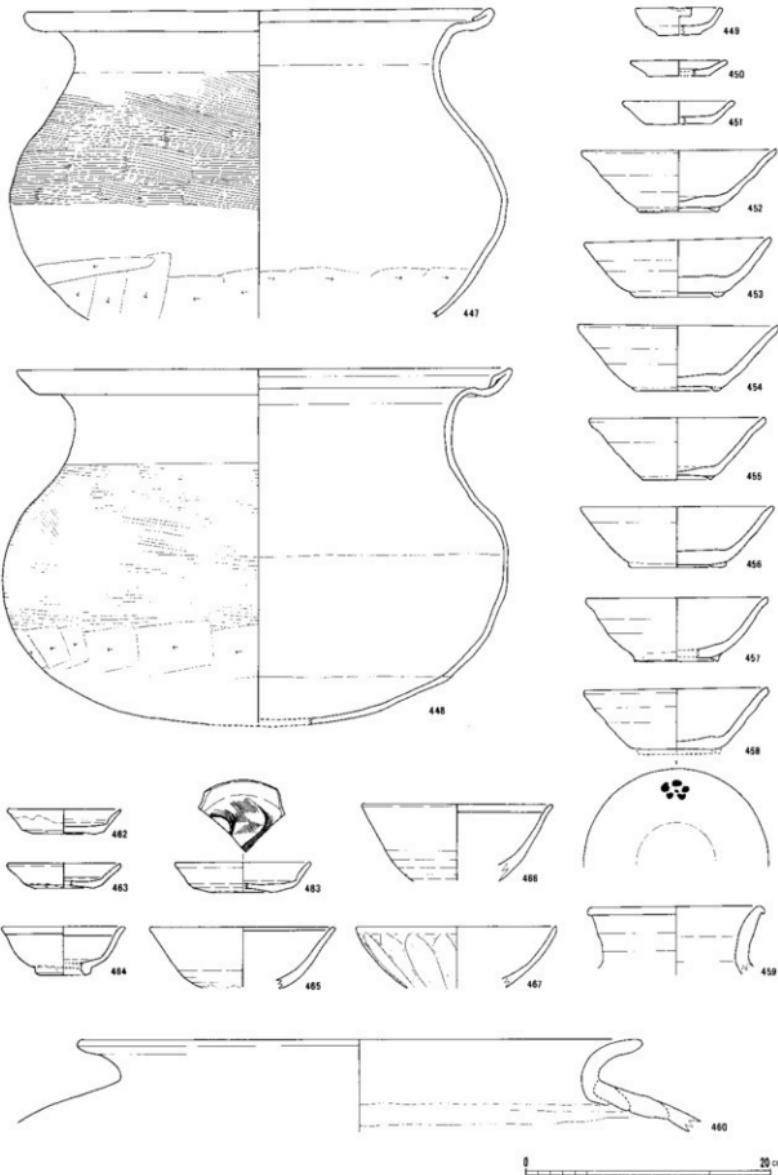
第69図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)



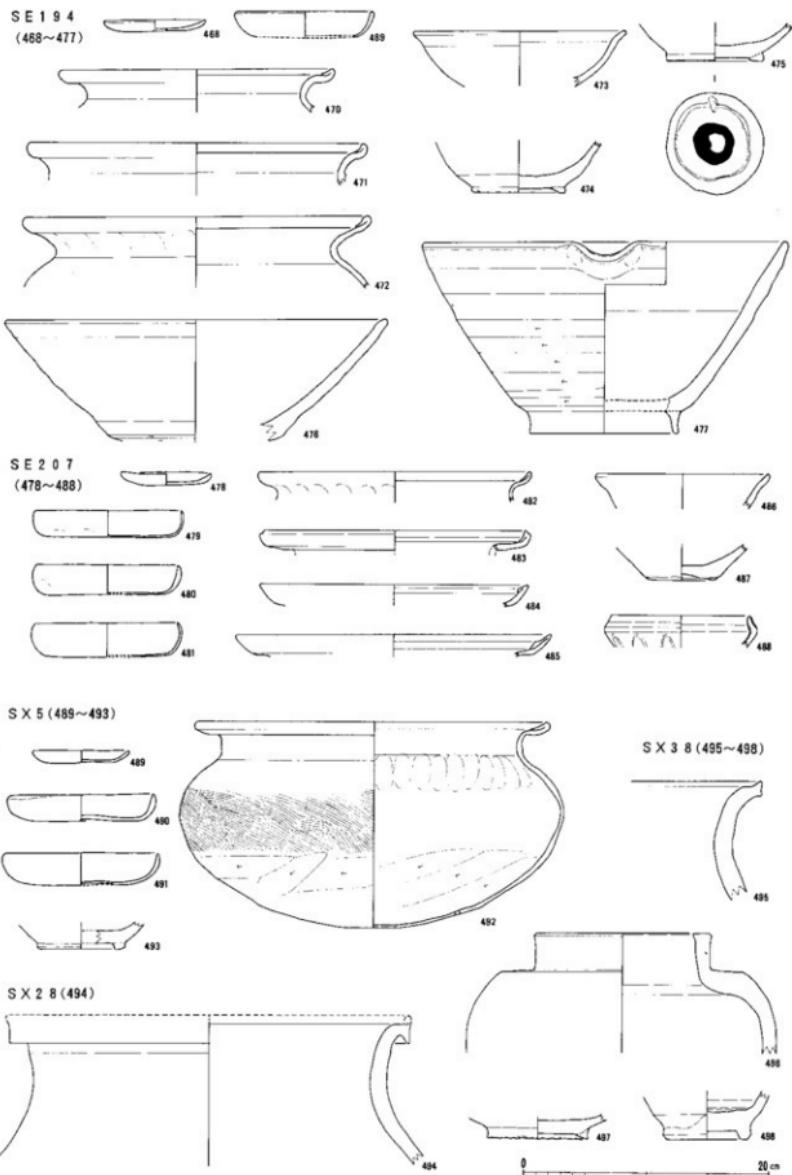
第70図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)



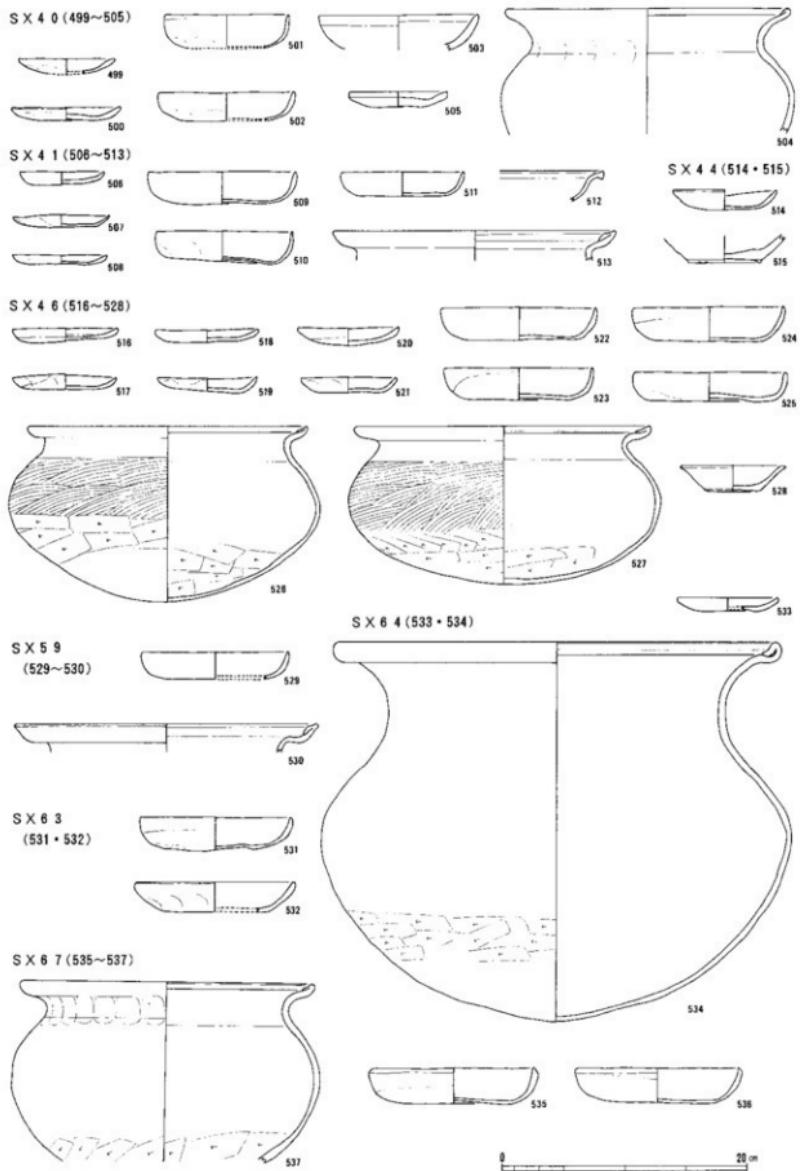
第71図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)



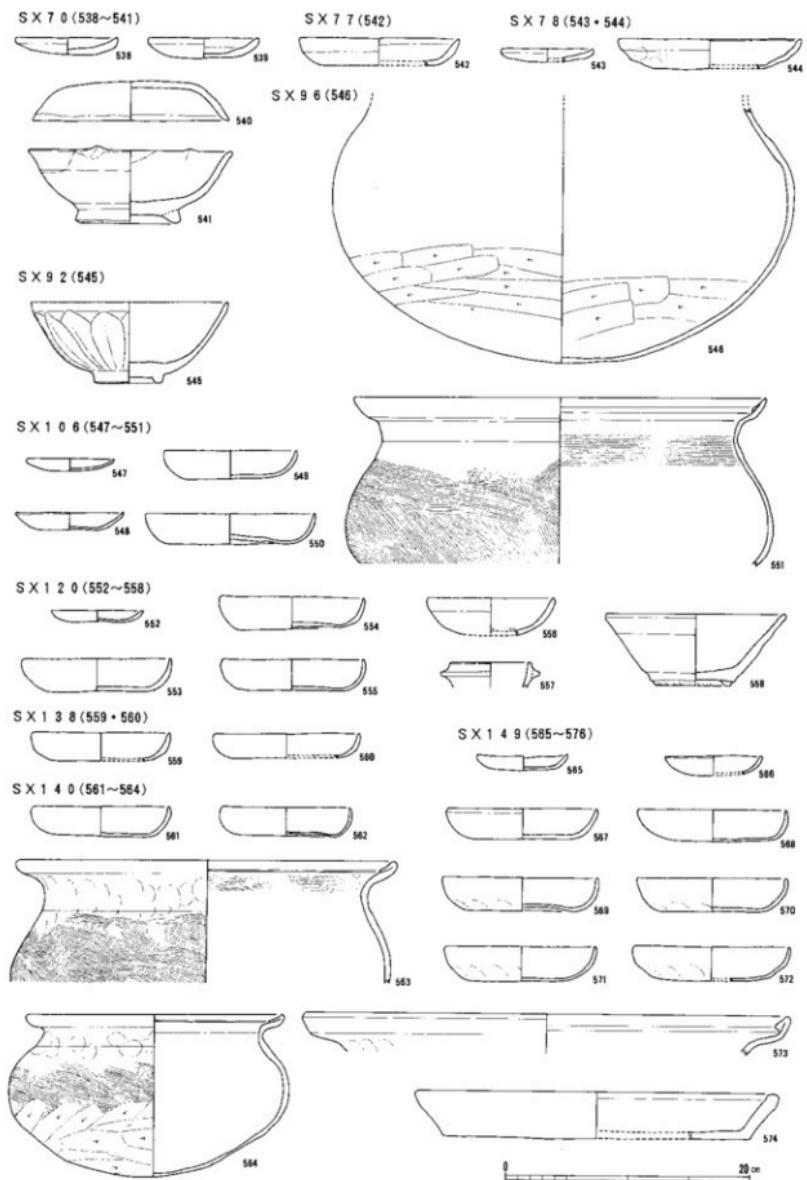
第72図 井戸出土遺物実測図 (1 : 4)



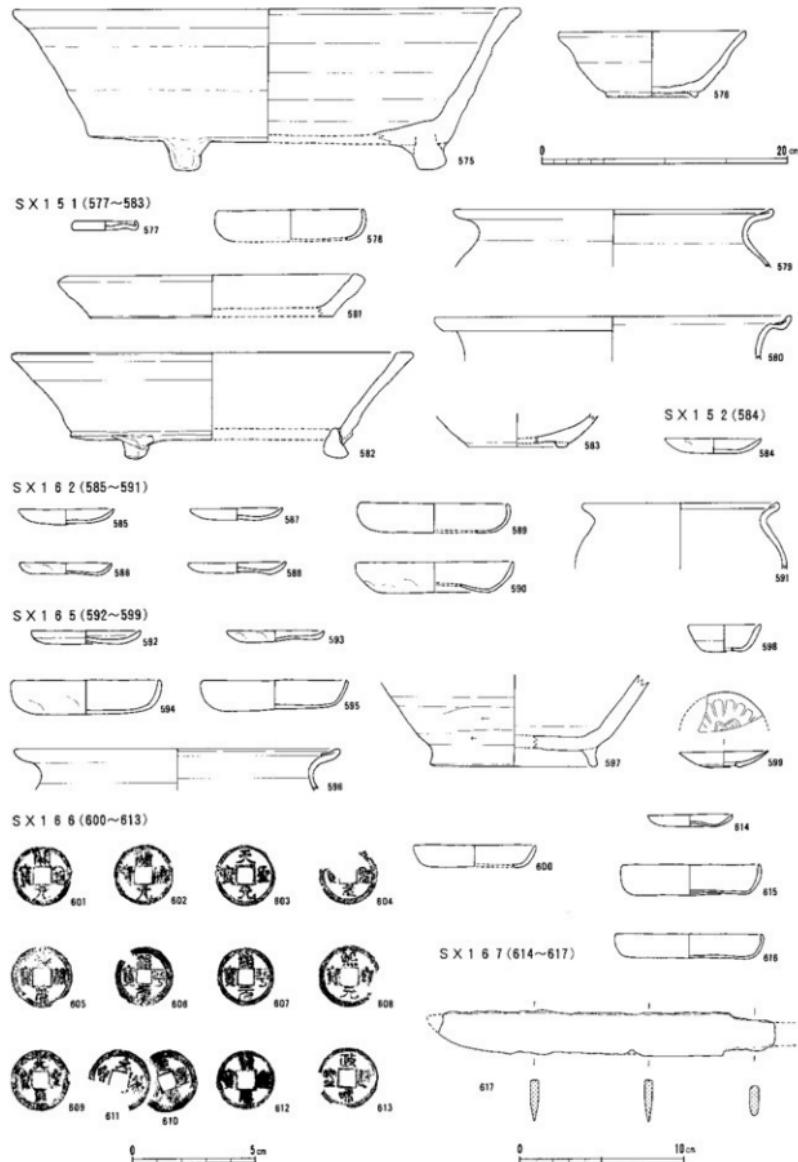
第73図 井戸・中世墓出土遺物実測図 (1 : 4)



第74図 中世墓出土遺物実測図（1：4）

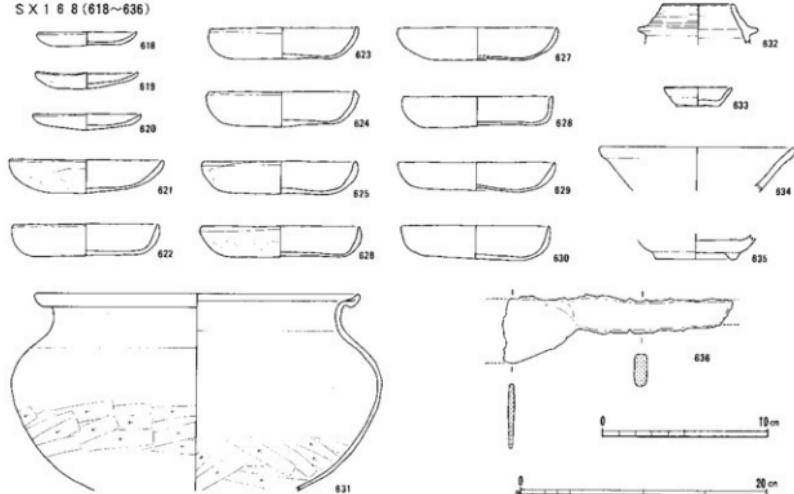


第75図 中世墓出土遺物実測図（1：4）

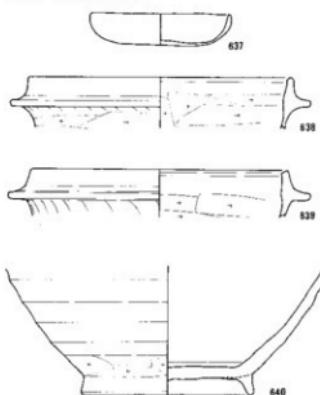


第76図 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4, 601~613=1 : 2, 617=1 : 3)

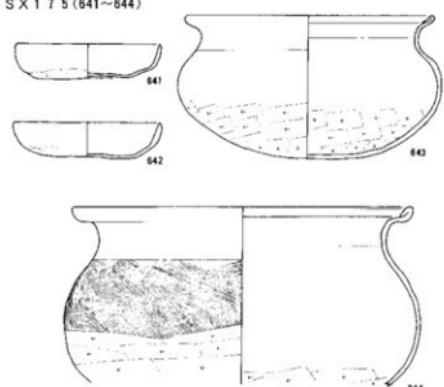
SX 1 6 8 (618~636)



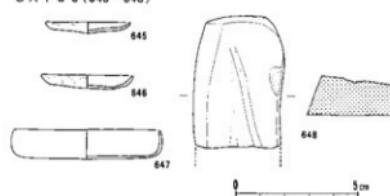
SX 1 7 0 (637~640)



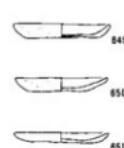
SX 1 7 5 (641~644)



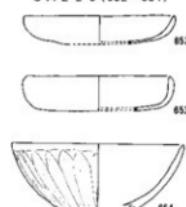
SX 1 8 8 (645~648)



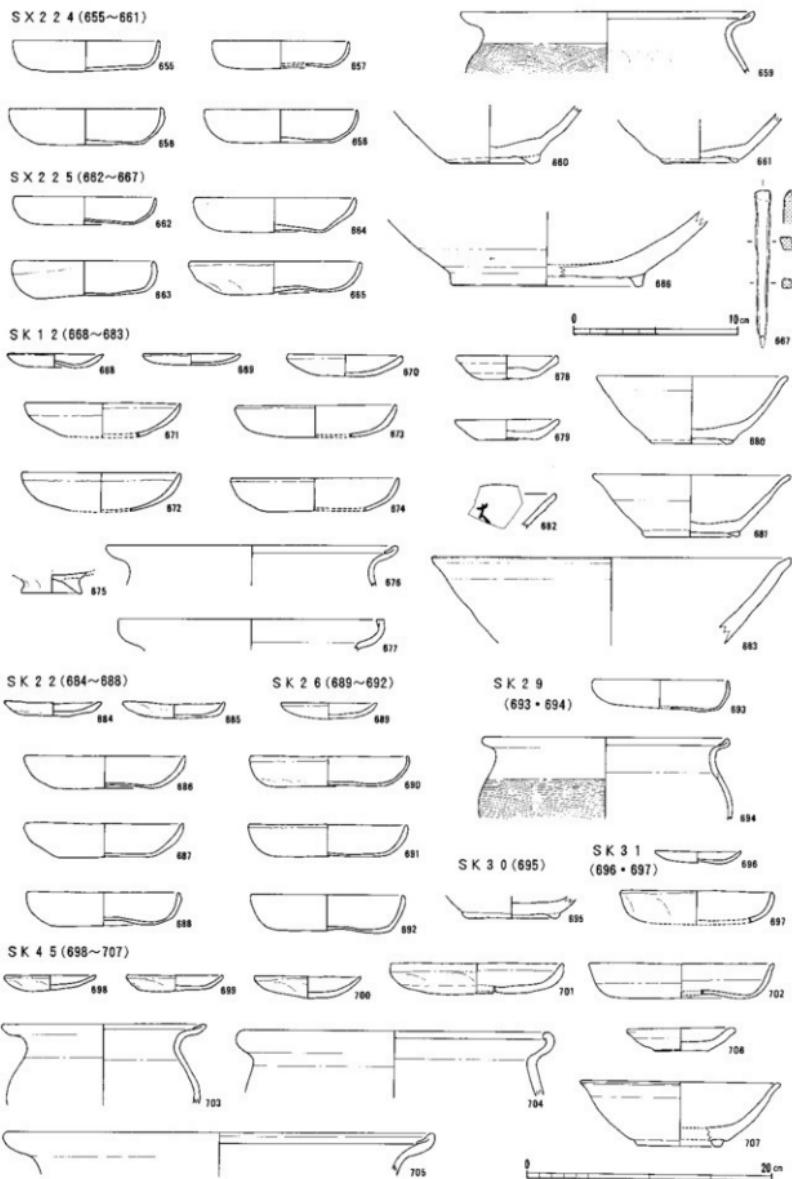
SX 1 8 9 (649~651)



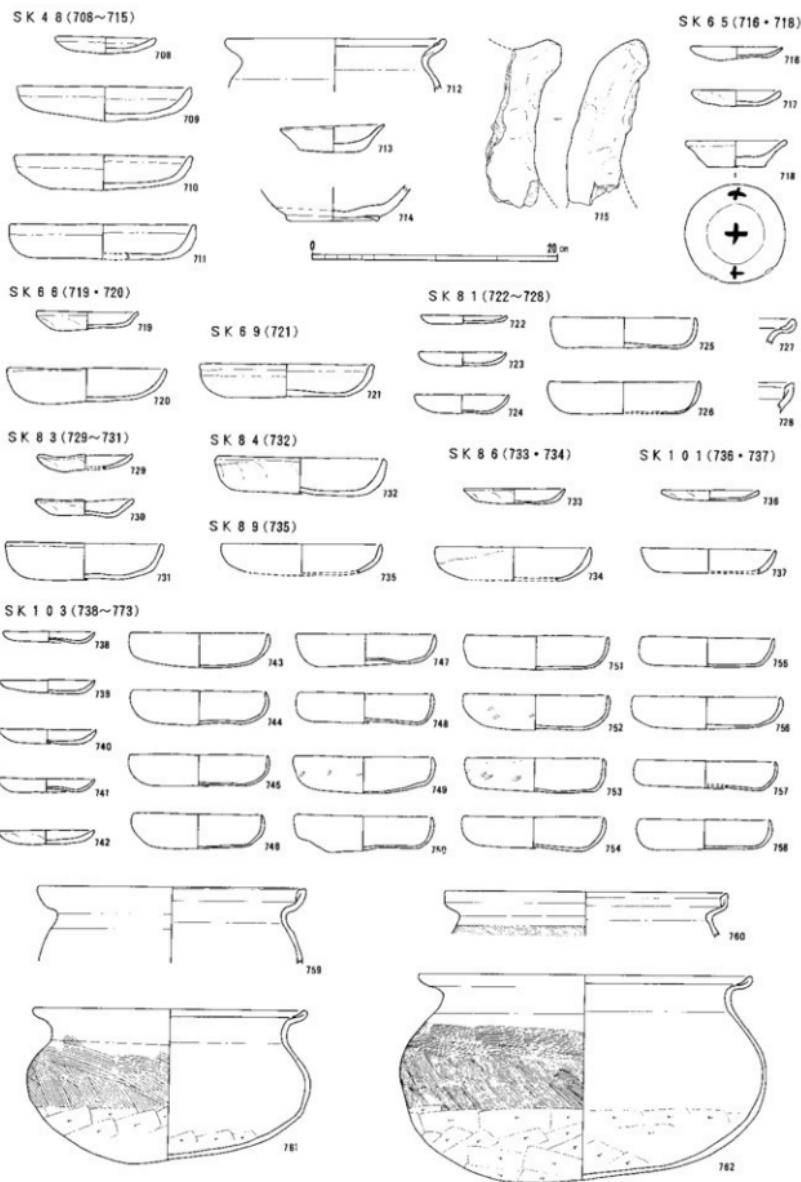
SX 2 2 3 (652~654)



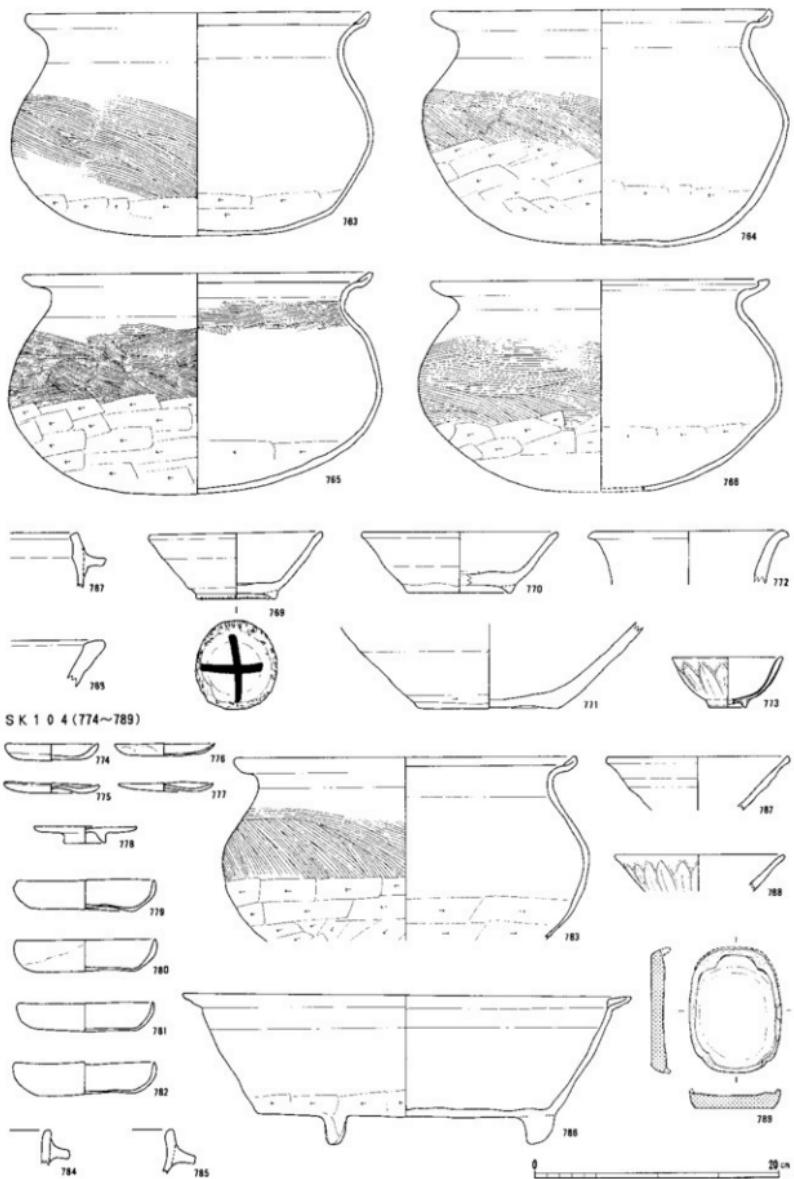
第77図 中世墓出土遺物実測図 (1 : 4, 636=1 : 3, 648=1 : 2)



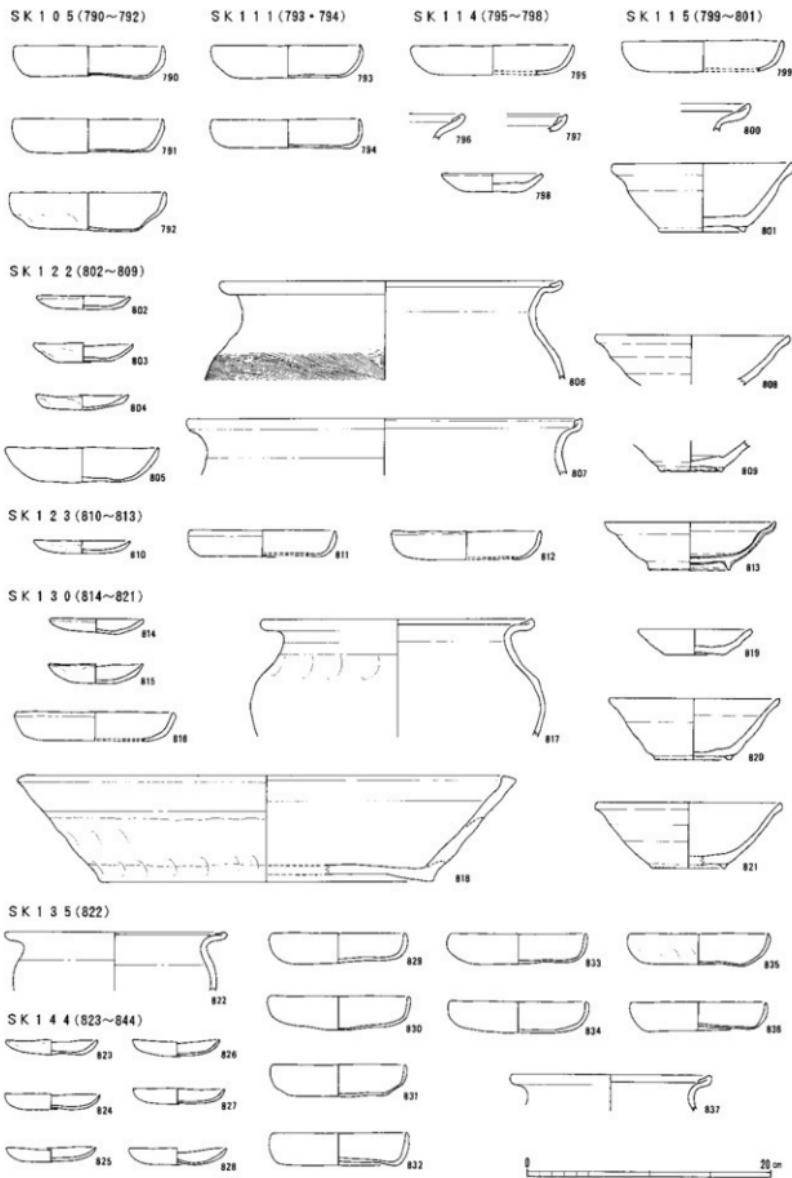
第78図 中世墓・土坑出土遺物実測図 (1 : 4, 667 = 1 : 3)



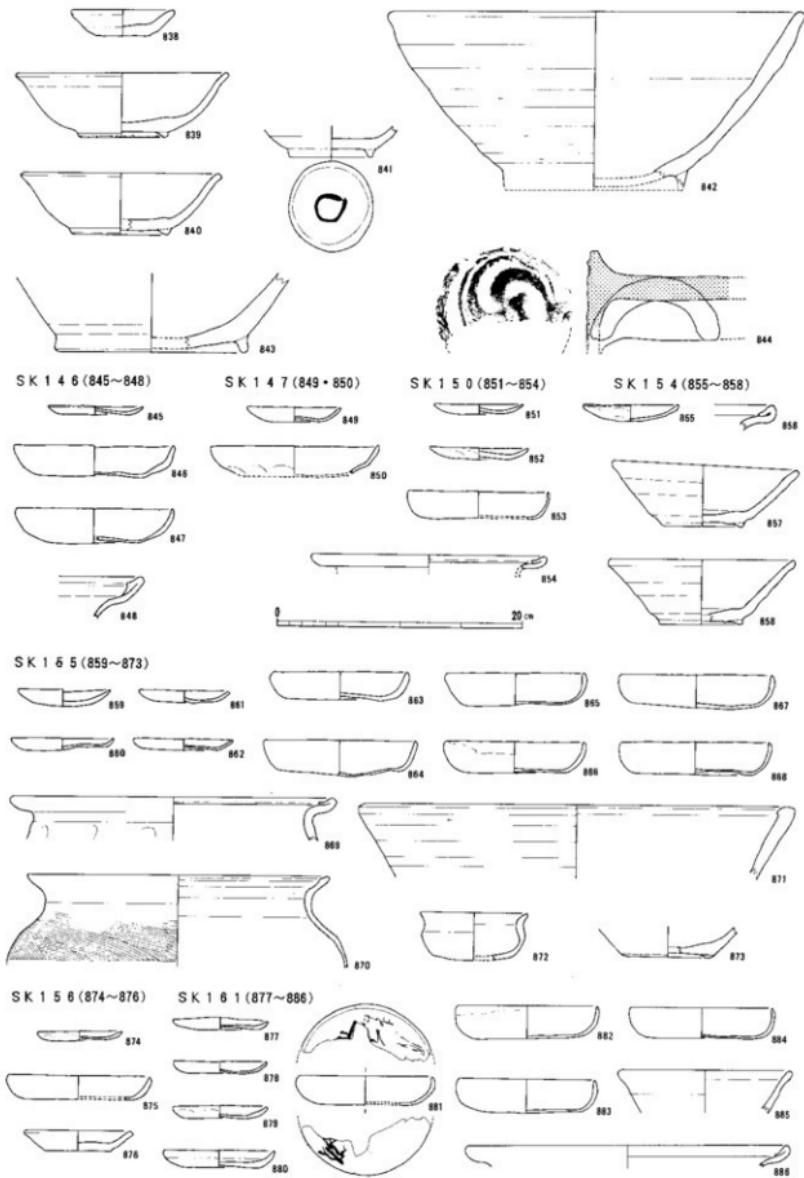
第79図 土坑出土遺物実測図（1：4）



第80図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4)

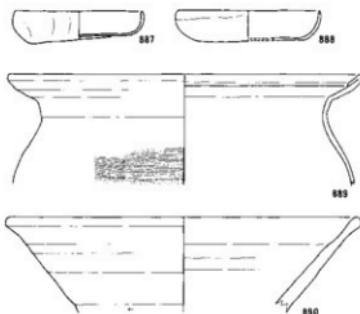


第81図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4)

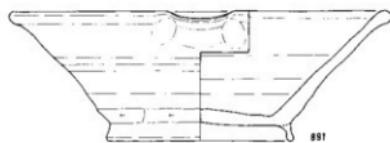


第82図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4)

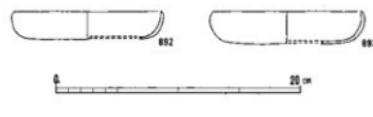
SK 173 (887~890)



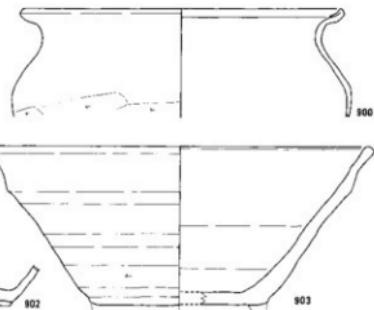
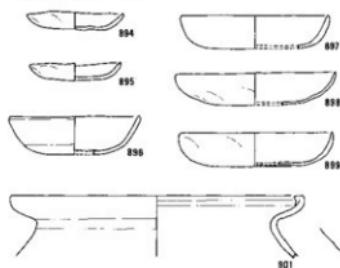
SK 174 (891)



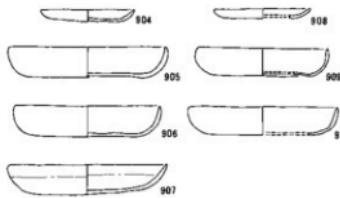
SK 177 (892~893)



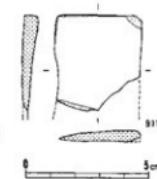
SK 178 (894~903)



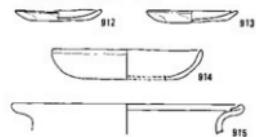
SK 181 (904~907)



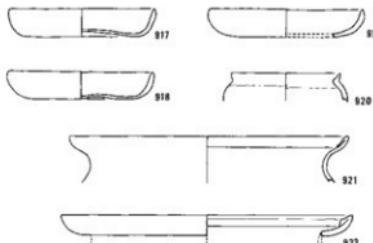
SK 183 (908~911)



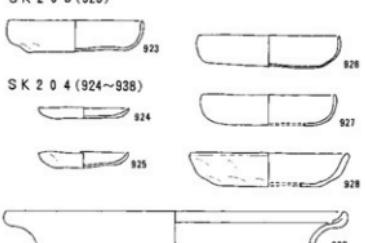
SK 190 (912~918)



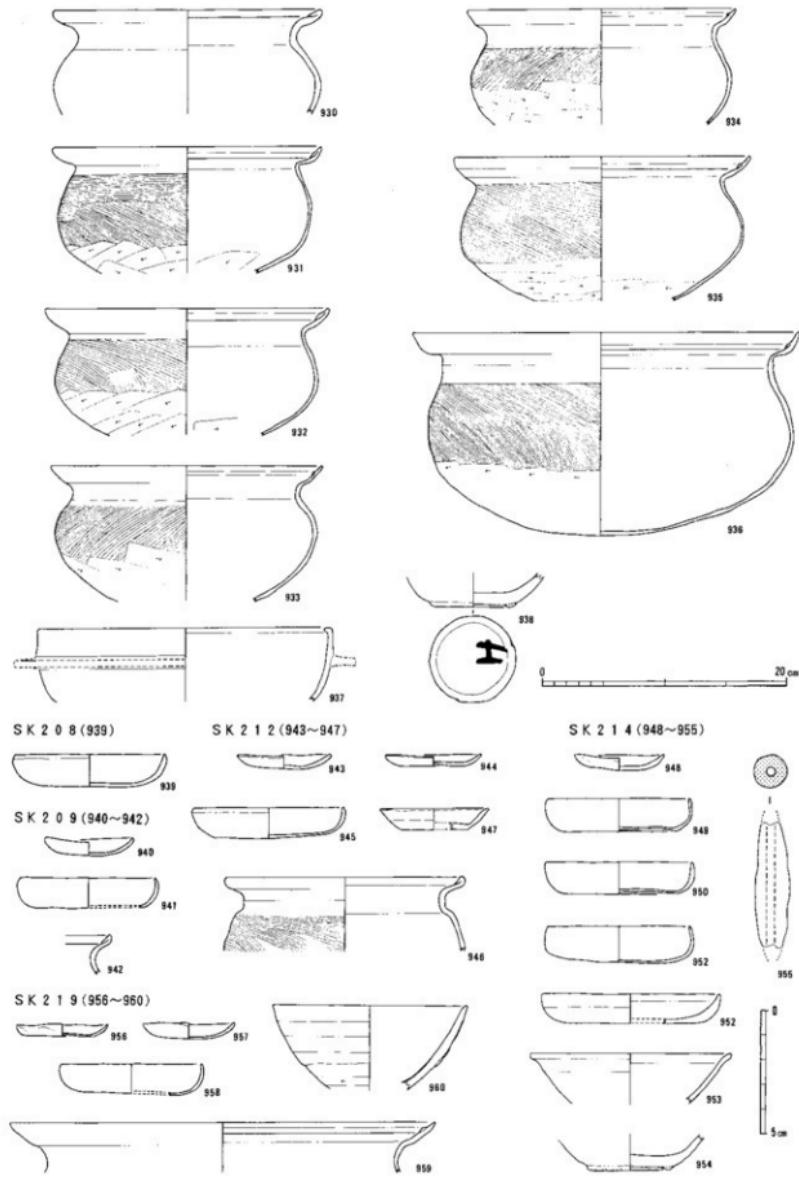
SK 195 (917~918)



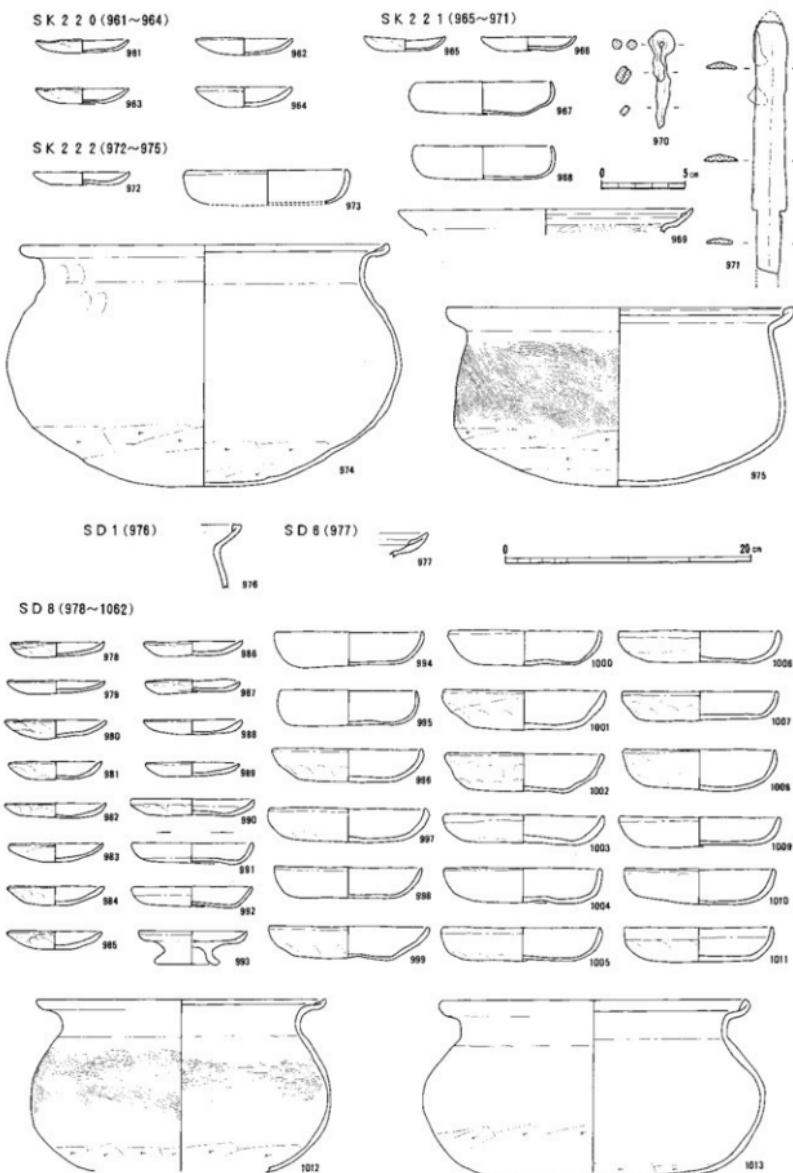
SK 197 (919~922)



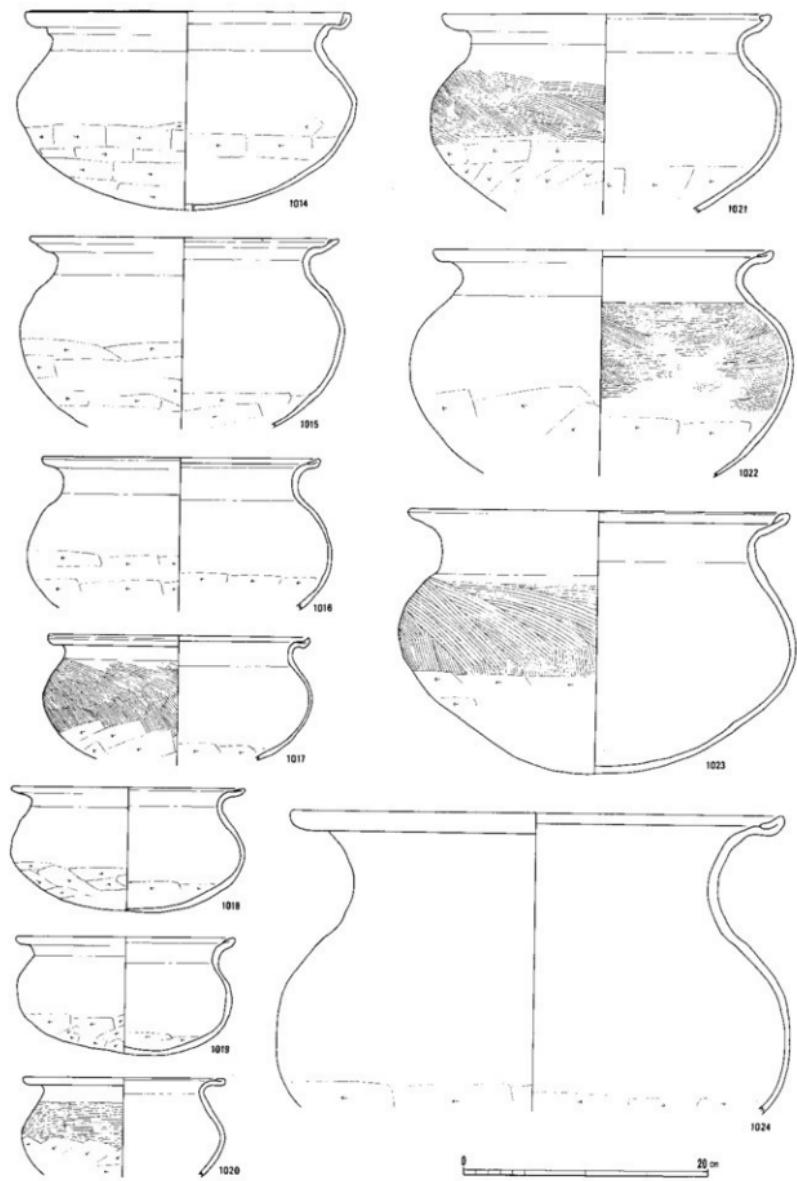
第83图 土坑出土遗物实测图 (1 : 4, 911=1 : 2)



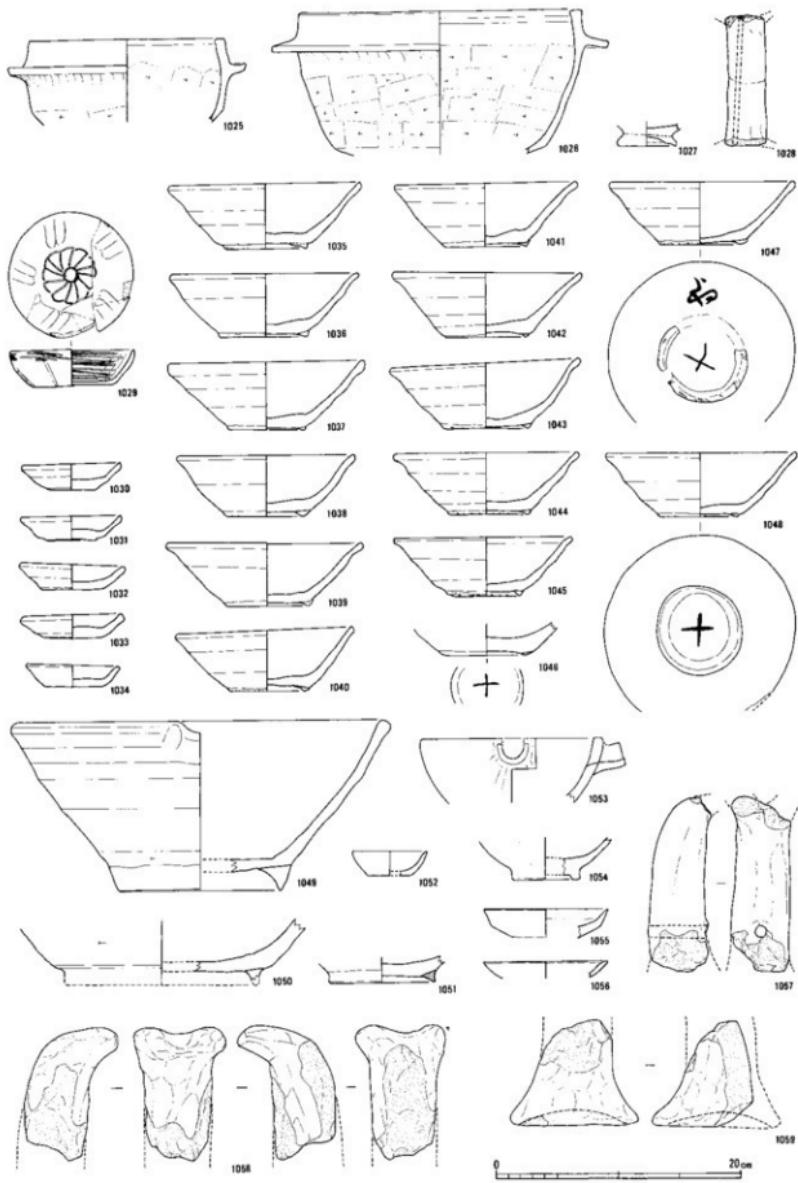
第84図 土坑出土遺物実測図 (1 : 4, 955 = 1 : 2)



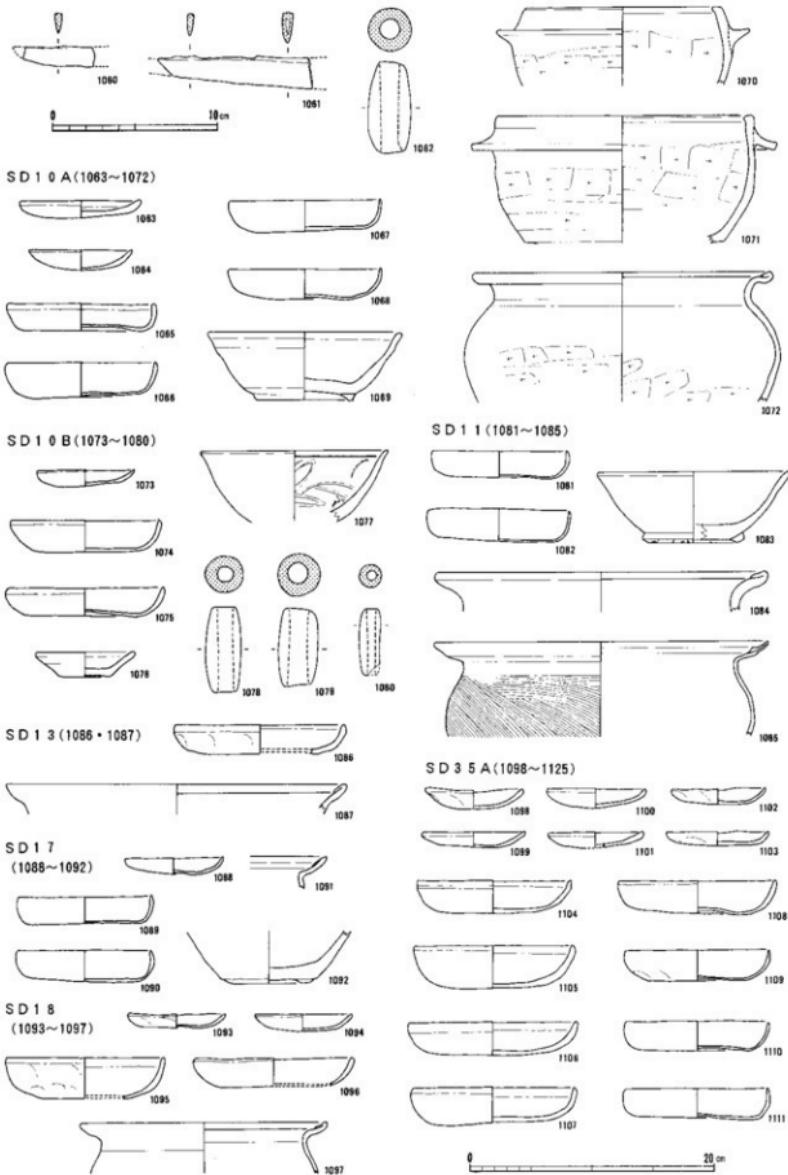
第85図 土坑・溝出土遺物実測図 (1 : 4, 970~971 = 1 : 3)



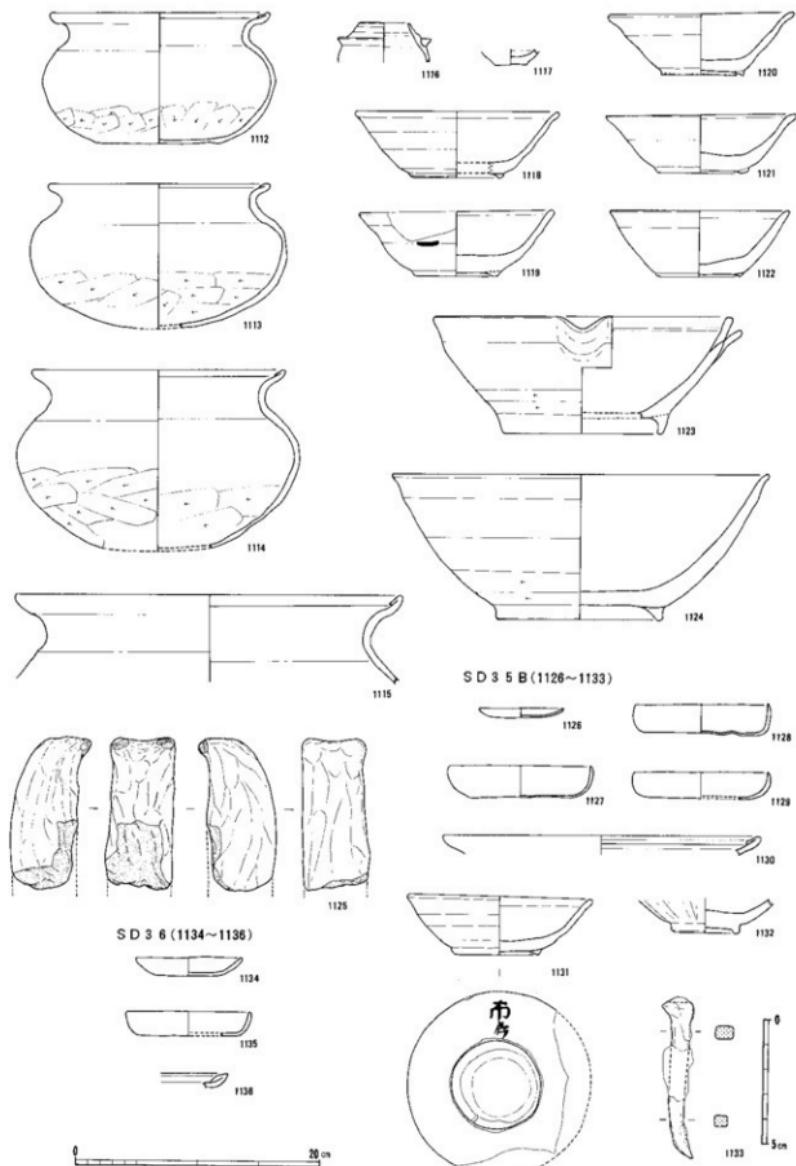
第86図 溝出土遺物実測図 (1 : 4)



第87图 溝出土遺物実測図 (1: 4)

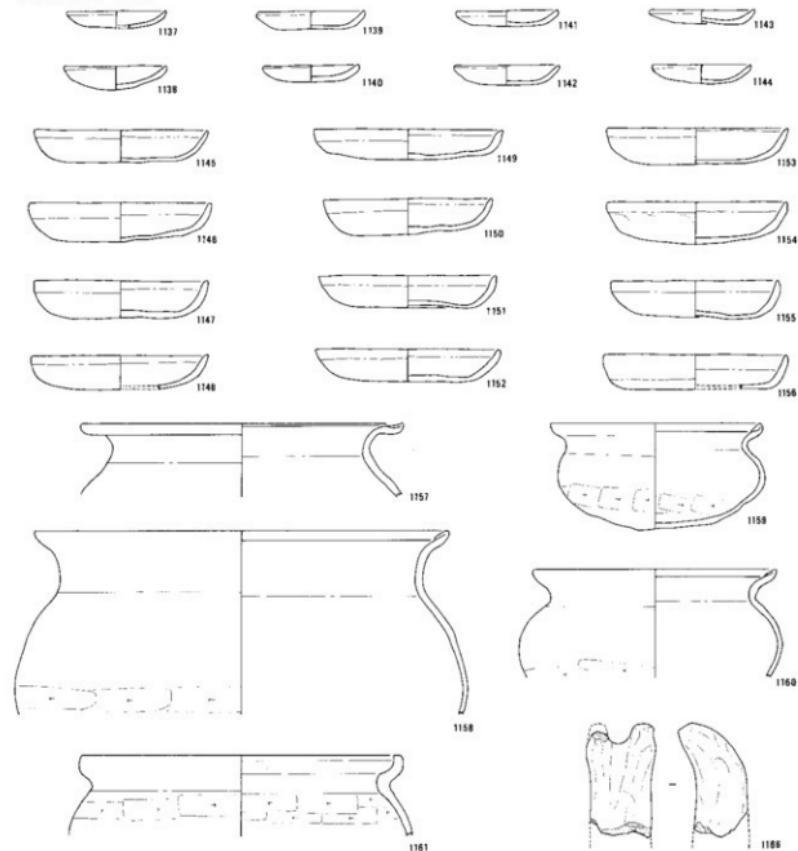


第88図 溝出土遺物実測図 (1 : 4, 1060~1062・1078~1080 = 1 : 3)

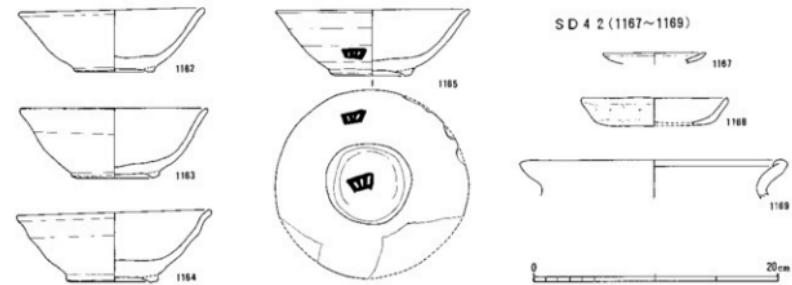


第89図 溝出土遺物実測図 (1 : 4, 1133=1 : 2)

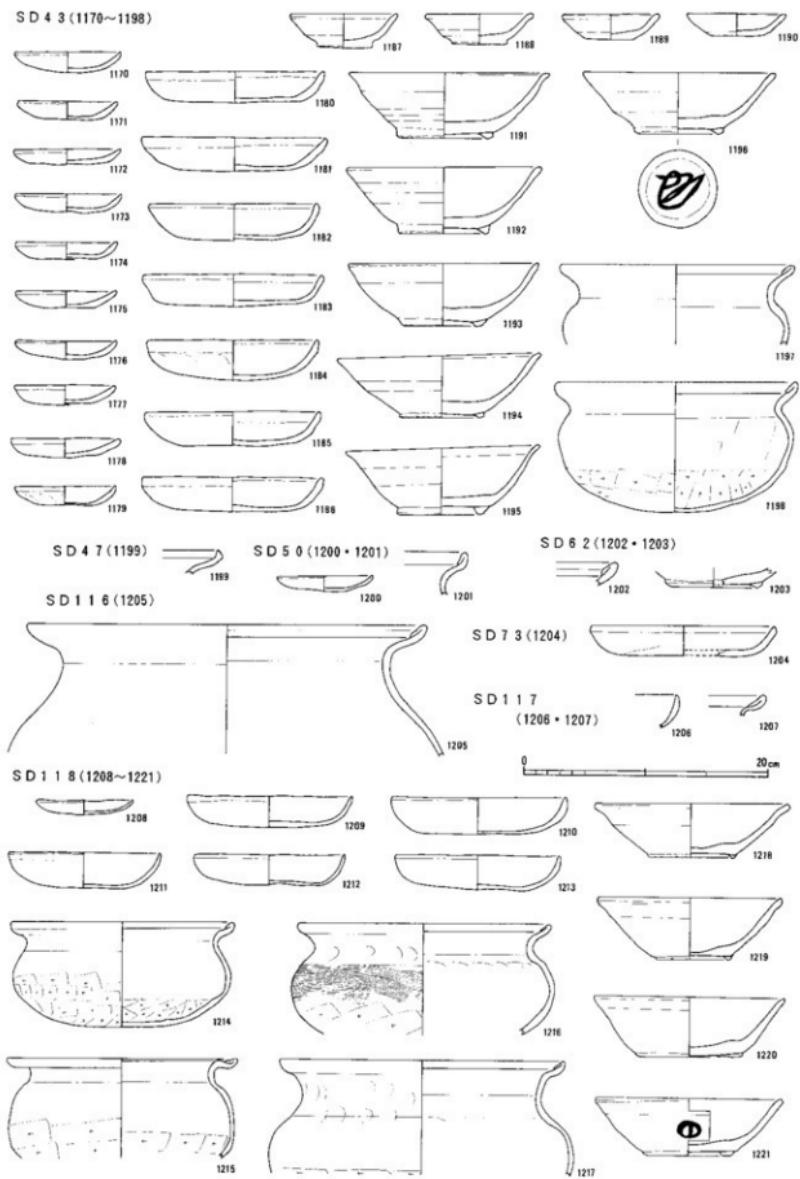
SD 3 9 (1137~1166)



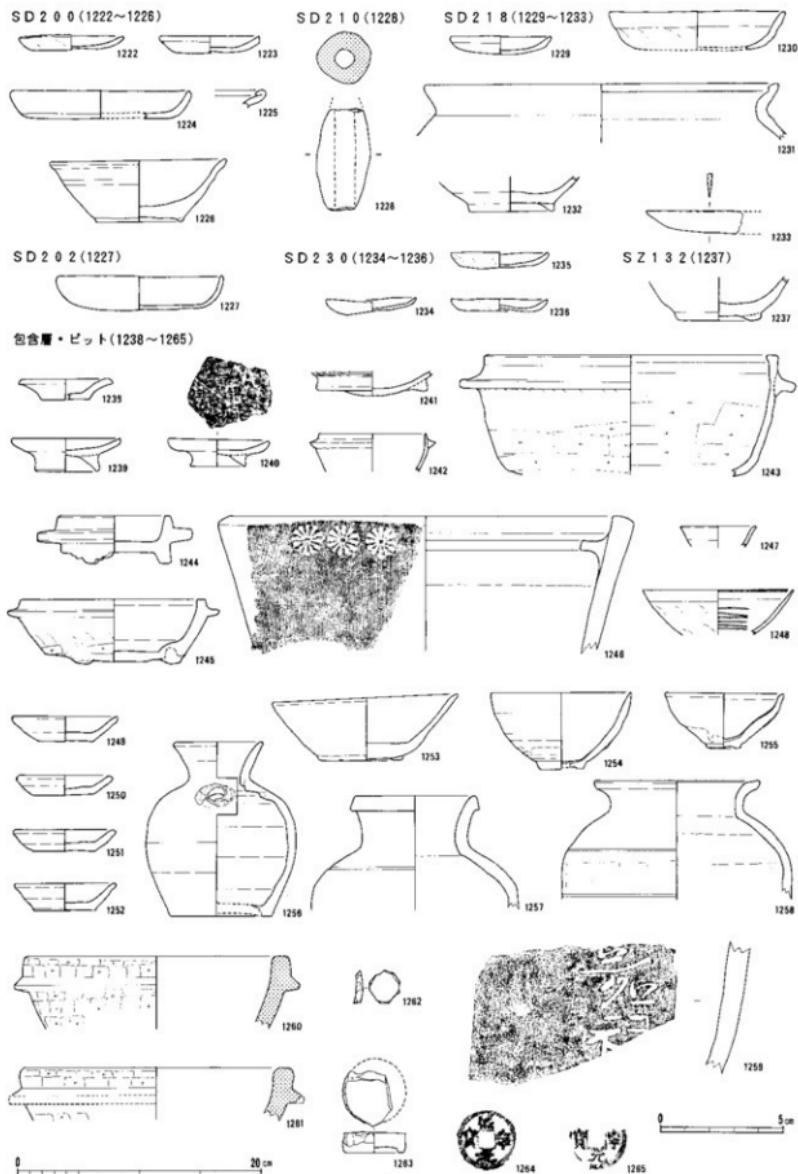
SD 4 2 (1167~1169)



第90図 溝出土遺物実測図 (1 : 4)



第91图 溝出土遺物実測図（1：4）



第92図 溝・包含層等出土遺物実測図 (1 : 4, 1228・1233・1259・1264・1265 = 1 : 2)

V. 中世陶器の产地推定

1. 蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻利一

1.はじめに

東海地域は古代から須恵器、灰釉陶器を大量に生産してきた。また、中世においても山茶碗等の陶器を大量に生産した。つまり、古代から中世にいたるまで、日本における陶器の主要生産地の一つであった。それほど、陶器の素材となる良質の粘土の豊富な地域である。

この地域内の多数の窯跡から出土した須恵器、灰釉陶器、山茶碗の破片を蛍光X線分析法で分析した結果、Ca、Fe、Naの含有量が他の地域の陶器に比べて少ないとという特徴があることがわかった。その他、K、Rb、Srでも類似した特徴をもっており、同じ化学特性をもった粘土が名古屋市を中心にかなり広い地域に広がっていることを示している。このことは逆にいえば、東海地域内の窯群出土陶器を相互識別することは容易ではないことを示す。

本報告では、東海地域内のいくつかのブロックの窯跡出土の山茶碗の相互識別の結果を示すとともに蚊山遺跡左郡地区から出土した山茶碗を主とする中世陶器の产地を推定した結果について報告する。

2. 分析結果

はじめに、山茶碗の生産を行っていた窯群間の相互識別の結果について説明しておく。

東海地方では古代から広く陶器生産が行われてきたといつても、この地域内で一様に窯跡が見つかっている訳ではない。窯跡の所在地は瀬戸地域、猿投地域、知多半島、渥美半島、浜名湖周辺というように、いくつかの地域に分けることができる。東海地域内（浜名湖周辺は除く）の窯跡出土陶器はすべて、他の地域のものに比べて、Ca、Fe、Sr、Naの量が少ないという特徴をもつとはい、これらの小地域

内でどの程度の地域差があるのかは、これら的小地域の窯跡出土陶器を分析してみなければわからないことである。ここでは、瀬戸群、猿投群、知多群、渥美群、湖西群に分けて化学特性を比較した。

第1図には瀬戸群と猿投群の相互識別の結果を示してある。この図は2群間判別分析図といい、両軸には瀬戸群、および、猿投群からのマハラノビスの汎距離の二乗値をとっている。この値の計算には、K、Ca、Rb、Srの4因子を使用した。マハラノビスの汎距離とは母集団のもつ標準偏差を尺度として表示した、母集団の重心からの統計学上の距離のことである。正、負両方の値をとり得るので、計算処理上の不便を避けるため、二乗して負符号を消去して使用する。ここでも二乗値を使っているのはそのためである。もし、A、B両群の化学特性が明確に異なり相互識別が完全であると、A群の試料はD²(A) ≤ 10、D²(B) > 10の領域に分布し、B群の試料はD²(B) ≤ 10、D²(A) > 10の領域に分布する。しかし、両群の化学特性が類似してくると、両群の試料は次第に接近して分布し、遂に、D²(A) ≤ 10、D²(B) ≤ 10の領域に混在して分布するようになる。それで、この領域を重複領域といふ。第1図では両群の試料の一部が重複領域に分布するが、猿投群の試料はほとんどが猿投領域に分布しており、瀬戸群の試料で猿投領域にまで分布しているものは1点もない。第93図より、両群の相互識別は完全でなくとも、十分に可能であることを示している。瀬戸群の化学特性は近接地域である猿投群にもっとも近く、渥美群や湖西群とはより明確に異なる。したがって、東海地方の諸試料の中から瀬戸群の試料を検出することは比較的容易である。

第94図には猿投群と知多群の2群間判別分析図を

示す。両群の過半数の試料が重複領域に分布しており、相互識別は困難であることを示している。それでも、猿投群の試料のうち約半数は猿投領域に分布しており、部分的には相互識別されることを示している。本報告では両群を一括して、猿投・知多群として使用した。

第95図には渥美群と知多群の相互識別の結果を示す。渥美群の試料の過半数は渥美領域に分布する。他方、知多群の試料の過半数は重複領域に分布し、相互識別の可能性はあることを示している。ただし、渥美群の試料の中に一部、重複領域に分布するものがあり、誤判別の確率が若干あることに注意を要する。

なお、渥美群と湖西群の化学特性は類似していたので、ここでは渥美・湖西群として産地推定に使用した。

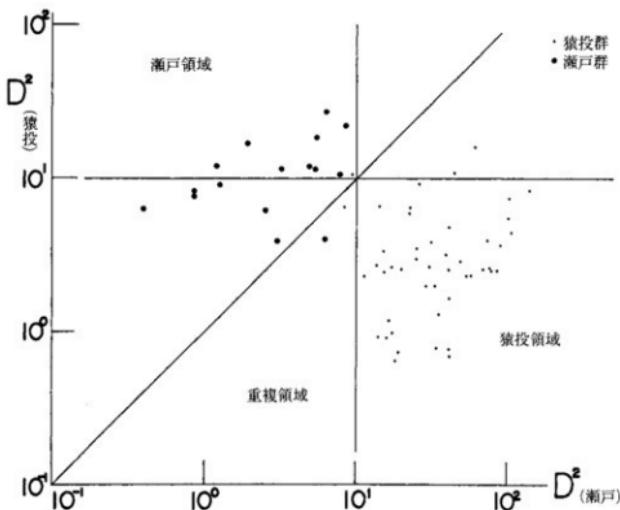
このようにして、東海地域の山茶椀の窯群はK、Ca、Rb、Srの4因子を使って、少なくとも、1) 濑戸群、2) 猿投・知多群、3) 渥美・湖西群の3群に区別できることがわかった。勿論、猿投群内で

も一部の小窯群の試料は猿投領域の内で偏在しており、決して化学特性は一様ではないが、これらの小地域差を無視して、猿投群として一括してある。このようなことは、分析データより、各地の窯群内で見出されている。

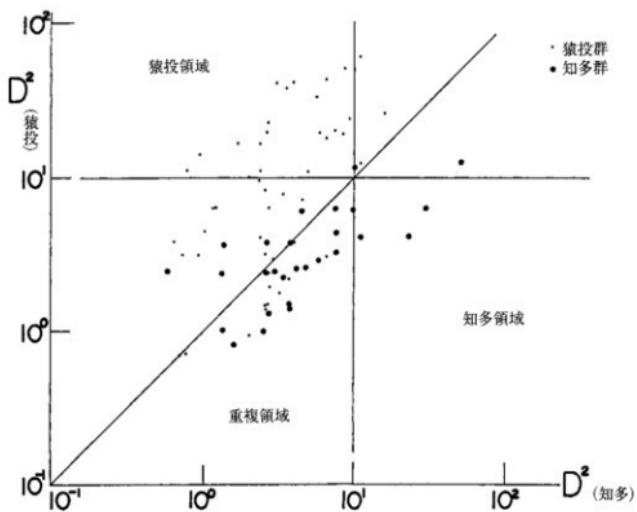
以上のことを前置きとして、蚊山遺跡左郡地区出土中世陶器の産地を推定した結果について説明する。

全試料の分析値を第10表にまとめてある。分析値はすべて、岩石標準試料JG-1による標準化値で表示されている。分析値を点検すると、全試料ともCa、Na、Fe量が少ない東海地域陶器の特徴をもっており、いずれも、東海産の土器であることを示している。

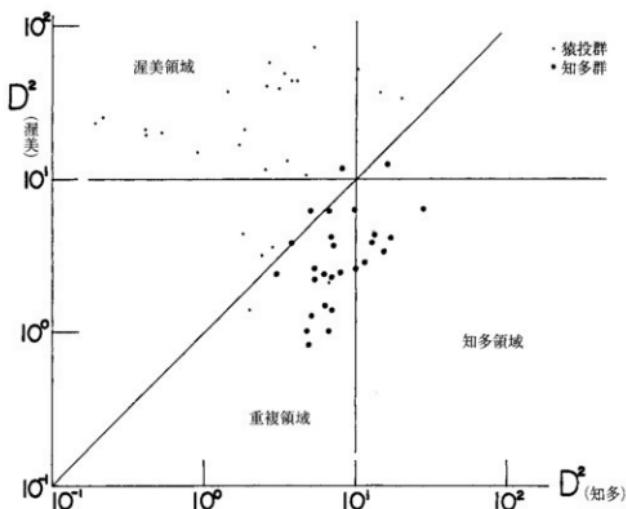
瀬戸群、猿投群、知多群、渥美群、湖西群からのマハラノビスの汎距離の二乗値をK、Ca、Rb、Srの4因子を使って計算した結果も第10表にまとめられている。5%の危険率をかけた判別分析の結果、母集団への帰属条件として、 $D^2(X) \leq 10$ を採用した。(X)は母集団名である。そうすると、瀬戸群というように単独で産地が推定された場合もある



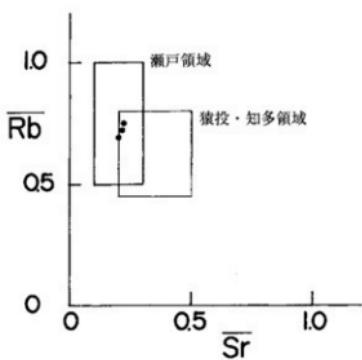
第93図 濑戸群と猿投群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr因子使用)



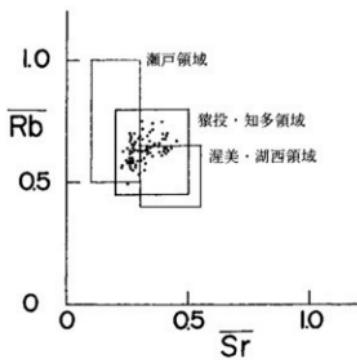
第94図 猿投群と知多群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



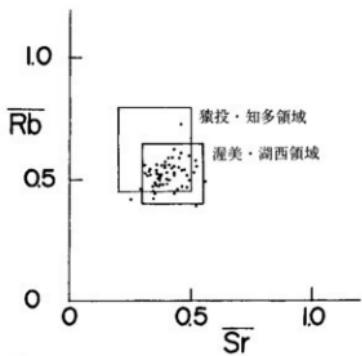
第95図 瀬美群と知多群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr 因子使用)



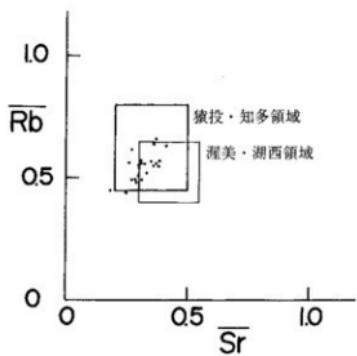
第96図 瀬戸産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



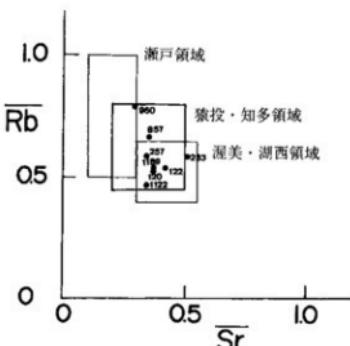
第97図 猿投・知多産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第98図 渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第99図 猿投・知多、渥美・湖西産と推定された中世陶器のRb-Sr分布図



第100図 産地不明となった中世陶器のRb-Sr分布図

が、何しろ化学特性が比較的類似している母集団同志の間の判別分析であるので、2つあるいはそれ以上の母集団が帰属条件を満足した場合がある。その場合には、瀬戸群、猿投・知多群、渥美・湖西群の3群区分法をとり、一番距離が近い群を産地として推定した。D²に余り差がない場合には、2つの母集団群を上げておいた。

第10表の産地推定の結果は今一度、Rb-Sr分布図上での分布位置で確認してみた。第96図には瀬戸産と推定された3点(281,323,1254)のRb-Sr分布図を示す。瀬戸窯群の試料の分析データのはほとんどを包含するようにして描いた瀬戸領域の中心近くに分布することが確認される。この領域の領界は定量的な意味をもっていないが、他の窯群の分布領域と比較する上には有用である。こうして、判別分析の結果はRb-Sr分布図上でも確かめられた訳である。

次に猿投・知多産と推定されたもののRb-Sr分布図を第97図に示す。ここでも、猿投・知多窯群の分析試料のはほとんどを包含するようにして、猿投・知多領域を示してある。猿投・知多産と推定された

ほとんどの試料は猿投・知多領域の真中近くに分布しており、その分布位置は瀬戸領域や渥美領域には境界近くに相当する。なお、277, 279, 457, 455, 487, 678, 798, 858, 890, 903, 1040, 1252のように単独で猿投産と推定されたものがあり、逆に、771, 1035のように知多産と推定されたものもあるが、他は猿投・知多産と推定されたものである。どちらが産地であるかの決め手はない。

次に、渥美・湖西産と推定されたもののRb-Sr分布図を第98図に示す。この図でも、渥美・湖西の窯群試料の分析データのほとんどを包含するようにして渥美・湖西産を描いてある。そうすると、渥美・湖西産と推定されたものはうまく渥美・湖西領域に分布するが、その大半はまた、猿投・知多領域にも重複して分布していることがわかる。

第99図には猿投・知多産であると同時に、渥美・湖西産の可能性もあると判別分析で推定されたもののRb-Sr分布図を示す。第97図や第98図と比較すると、より猿投・知多領域に深く分布し、渥美・湖西領域には微妙なところに分布していることがわかる。これらの多くは第99図からみて、猿投・知多産である可能性が高いと思われる。

最後に、胎土分析で産地不明となったもののRb-Sr分布図を第100図に示す。多くは渥美・湖西領域を中心に分布することがわかるが、857は猿投・知多産の可能性があり、960は瀬戸領域と猿投・知多領域の領界の微妙な位置に分布していることがわかる。960は渥美・湖西産ではないが、瀬戸産か猿投・知多産かの判別は難しい。

全体として眺めたとき、蚊山遺跡左郡地区では、瀬戸産の中世陶器はほとんどみられず、猿投・知多産と、渥美・湖西産がほとんどであった。そして、渥美・湖西産に比べて猿投・知多産が多いということとも今回の胎土分析の成果に上げられよう。

遺物番号	器種	分析値					各号集落からのマハリノビスの乳頭齧の二枚鑑					推定产地	
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	龜戸群	豊投群	知多群	瀬美群	瀬西群	
6 3	山茶碗	0.467	0.066	0.862	0.522	0.327	0.120	100	8.3	10	6.8	2.7	瀬美・瀬西
7 5	山茶碗	0.531	0.040	0.696	0.625	0.233	0.081	7.8	6.8	12	17	16	猿投・知多
7 6	山茶碗	0.577	0.106	0.769	0.622	0.341	0.201	65	5.4	11	18	9.3	猿投・知多
8 4	山茶碗	0.590	0.118	0.737	0.679	0.396	0.186	99	4.2	11	12	8.7	猿投・知多
9 3	山茶碗	0.537	0.090	0.653	0.569	0.353	0.179	100	7.2	10	14	3.8	瀬西・猿投
11 5	山茶碗	0.532	0.122	0.858	0.564	0.372	0.157	117	6.8	8.1	11	5.7	瀬美・瀬西・猿投・知多
11 6	山茶碗	0.389	0.047	0.799	0.441	0.250	0.127	61	7.3	11	8.9	8.1	猿投・知多・瀬美・瀬西
11 7	山茶碗	0.488	0.082	0.728	0.556	0.387	0.173	161	15	19	4.4	1.7	瀬美・瀬西
11 8	山茶碗	0.461	0.117	0.774	0.472	0.461	0.201	330	39	60	8.1	10	瀬美・瀬西
11 9	山茶碗	0.477	0.127	0.743	0.477	0.384	0.168	175	13	20	10	7.1	瀬美・瀬西
12 0	山茶碗	0.611	0.093	0.701	0.533	0.369	0.120	138	21	33	55	29	不明
12 1	山茶碗	0.522	0.117	0.740	0.527	0.431	0.194	328	20	30	12	6.9	瀬美・瀬西
12 2	山茶碗	0.566	0.110	0.678	0.543	0.422	0.214	205	20	30	24	13	不明
12 3	山茶碗	0.553	0.150	0.713	0.611	0.458	0.238	212	14	18	6.2	6.4	瀬美・瀬西
12 0	山皿	0.523	0.182	0.727	0.640	0.400	0.163	124	8.6	1.6	5.4	35	猿投・知多
12 1	山茶碗	0.490	0.086	0.717	0.594	0.291	0.123	37	2.2	1.1	5.8	10	猿投・知多
12 2	山茶碗	0.470	0.055	0.700	0.569	0.256	0.099	26	2.9	1.3	7.1	9.9	猿投・知多
12 3	山茶碗	0.468	0.058	0.858	0.593	0.273	0.090	32	1.4	0.6	4.7	11	猿投・知多
12 4	山茶碗	0.466	0.035	0.630	0.573	0.259	0.090	35	3.1	1.6	6.6	11	猿投・知多・瀬美
12 5	山茶碗	0.466	0.113	0.850	0.594	0.338	0.129	76	2.7	0.8	2.1	12	猿投・知多・瀬美
20 7	山茶碗	0.531	0.086	0.865	0.664	0.372	0.168	91	5.1	5.7	5.4	7.5	猿投・知多・瀬美・瀬西
21 7	山茶碗	0.405	0.046	0.857	0.491	0.266	0.110	62	5.3	7.6	4.6	7.2	瀬美・瀬西・猿投・知多
21 8	山茶碗	0.475	0.095	0.773	0.502	0.409	0.227	220	23	33	7.5	4.6	瀬美・瀬西
22 3	山茶碗	0.606	0.235	0.919	0.589	0.513	0.341	315	23	24	18	49	不明
22 4	山茶碗	0.490	0.044	0.825	0.594	0.244	0.103	17	3.5	3.4	9.8	13	猿投・知多
22 5	山茶碗	0.448	0.126	0.633	0.464	0.440	0.194	288	29	48	5.9	6.4	瀬美・瀬西
22 7	山茶碗	0.629	0.109	0.961	0.589	0.340	0.146	77	13	21	37	17	不明
22 8	山茶碗	0.554	0.098	0.691	0.660	0.359	0.192	72	2.2	6.0	8.3	7.5	猿投・知多
22 7	山茶碗	0.588	0.050	0.884	0.677	0.283	0.097	11	7.3	22	24	17	猿投
22 8	山茶碗	0.517	0.203	0.902	0.533	0.509	0.260	350	27	35	5.3	22	瀬美
22 9	片口鉢	0.607	0.059	1.320	0.701	0.275	0.170	11	7.3	27	26	19	猿投
22 1	折縁深皿	0.556	0.038	0.524	0.689	0.198	0.027	1.1	14	33	22	34	龜戸
22 2	甕	0.557	0.127	1.430	0.714	0.340	0.145	41	2.8	9.2	11	33	猿投・知多
22 0	片口鉢	0.507	0.125	2.430	0.545	0.319	0.215	70	8.1	3.5	11	13	猿投・知多
22 1	甕	0.529	0.086	1.350	0.634	0.321	0.181	48	1.4	3.4	7.6	8.4	猿投・知多
22 2	西耳皿	0.548	0.049	0.528	0.724	0.218	0.017	0.3	10	30	19	43	龜戸
22 4	甕	0.364	0.092	1.920	0.417	0.254	0.158	64	10	14	7.7	11	瀬美・瀬西・猿投・知多
22 7	山皿	0.481	0.050	0.819	0.563	0.261	0.129	31	3.6	2.0	9.3	8.1	猿投・知多

第10表 試料の分析データ

遺物番号	器種	分析値						各母集団からのマハノビスの測定値の二乗駕					推定産地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	福戸群	福沢群	知多群	福美群	湖西群	
3 6 8	山茶碗	0.590	0.140	0.718	0.634	0.415	0.259	136	7.4	13	14	10	福投・知多
3 6 9	山茶碗	0.551	0.118	0.735	0.663	0.371	0.195	79	2.1	1.0	7.1	11	福投・知多
3 7 0	山茶碗	0.581	0.120	0.843	0.685	0.363	0.206	63	2.2	2.3	12	15	福投・知多
3 7 1	山茶碗	0.476	0.060	0.613	0.531	0.283	0.155	53	4.9	3.2	10	4.9	福投・知多、福美・湖西
3 7 2	山茶碗	0.575	0.108	0.800	0.658	0.355	0.207	66	2.8	2.6	12	9.5	福投・知多
3 7 3	山茶碗	0.445	0.062	0.909	0.494	0.322	0.158	111	10	7.9	6.9	3.7	福美・湖西
3 7 4	山茶碗	0.557	0.146	0.719	0.654	0.376	0.193	86	4.1	1.3	8.1	19	福投・知多
3 7 5	山茶碗	0.521	0.064	0.855	0.552	0.274	0.169	38	5.3	3.8	14	6.6	福投・知多
3 7 6	山茶碗	0.628	0.174	0.707	0.687	0.410	0.188	116	9.4	18	20	31	福投
3 7 8	三熊透	0.443	0.085	0.686	0.523	0.332	0.135	102	6.2	8.6	2.2	1.5	福美・湖西、福投・知多
3 7 9	片口鉢	0.520	0.062	0.920	0.665	0.283	0.113	21	0.8	5.2	8.6	18	福投・知多
4 5 0	山皿	0.455	0.105	0.639	0.485	0.347	0.140	1288	8.8	13	6.7	2.8	福美・湖西
4 5 1	山皿	0.534	0.144	0.785	0.629	0.431	0.199	154	9.0	9.0	3.6	7.2	福美・湖西
4 5 2	山茶碗	0.507	0.050	0.814	0.601	0.248	0.099	15	4.4	2.7	12	12	福投・知多
4 5 3	山茶碗	0.487	0.081	0.723	0.531	0.334	0.130	98	6.9	5.1	8.6	2.1	福美・湖西、福投・知多
4 5 4	山茶碗	0.683	0.107	0.732	0.629	0.359	0.125	88	20	45	64	30	不明
4 5 5	山茶碗	0.659	0.082	0.761	0.778	0.337	0.204	26	4.6	10	28	24	福投
4 5 6	山茶碗	0.498	0.176	0.969	0.501	0.438	0.247	239	17	12	7.4	17	福美
4 5 7	山茶碗	0.592	0.177	0.851	0.670	0.451	0.287	166	8.4	11	9.7	21	福投
4 5 8	山茶碗	0.591	0.107	0.753	0.634	0.367	0.233	86	3.7	2.7	10	5.7	福美・湖西
4 5 9	壺	0.392	0.111	1.740	0.423	0.345	0.095	156	13	27	5.2	5.3	福美・湖西
4 6 0	壺	0.518	0.090	0.144	0.688	0.295	0.156	21	1.3	6.5	9.4	28	福投・知多・福美
4 7 3	山茶碗	0.464	0.087	0.882	0.536	0.356	0.112	125	8.7	12	2.9	0.5	福美・湖西
4 7 4	山茶碗	0.519	0.237	0.731	0.503	0.490	0.176	333	27	25	9.3	48	福美
4 7 5	山茶碗	0.474	0.102	0.925	0.522	0.367	0.113	138	9.2	13	4.8	0.9	福美・湖西
4 7 6	片口鉢	0.458	0.080	1.680	0.526	0.307	0.098	73	4.3	4.2	5.1	2.9	福美・湖西
4 7 7	片口鉢	0.518	0.092	0.905	0.643	0.338	0.160	60	1.2	201	5.2	9.3	福投・知多
4 8 7	山茶碗	0.622	0.065	0.507	0.738	0.349	0.154	49	4.6	22	20	15	福投
4 9 3	山茶碗	0.509	0.116	0.988	0.563	0.378	0.192	127	6.9	8.3	5.7	2.4	福美・湖西
4 9 4	壺	0.491	0.126	1.430	0.649	0.376	0.136	94	3.7	1.4	4.4	17	福投・知多・福美
4 9 5	壺	0.514	0.140	1.380	0.626	0.383	0.186	105	4.0	1.9	3.4	13	福投・知多・福美
4 9 6	壺	0.526	0.195	1.860	0.544	0.462	0.394	252	17	18	6.4	23	福美
4 9 7	山茶碗	0.567	0.149	0.771	0.731	0.467	0.238	167	13	11	10	20	福美
5 1 5	山茶碗	0.470	0.049	0.634	0.597	0.260	0.193	25	1.6	1.1	2.0	2.7	福投・知多
5 2 8	山皿	0.491	0.126	0.792	0.568	0.394	0.192	147	8.1	9.2	2.0	2.7	福美・湖西
5 4 1	山茶碗	0.434	0.136	0.685	0.471	0.479	0.205	368	44	70	3.6	6.6	福美・湖西
5 5 8	山茶碗	0.512	0.080	0.716	0.604	0.316	0.158	54	2.1	2.5	6.9	5.6	福投・知多
5 7 6	山茶碗	0.463	0.054	0.634	0.577	0.259	0.097	27	2.1	0.9	5.6	11	福投・知多

遺物番号	器種	分析値					各母集団からのマハラノビスの乳頭癌の二乗値					推定产地	
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	轟戸群	猿投群	知多群	渥美群	湖西群	
5 8 3	山茶 梅	0.570	0.155	0.675	0.591	0.449	0.235	205	13	19	12	11	渥美・湖西 (?)
5 9 7	片口 鉢	0.488	0.078	0.876	0.629	0.279	0.106	24	1.3	2.0	6.0	18	猿投・知多
6 3 5	山茶 梅	0.425	0.103	0.858	0.498	0.374	0.147	166	13	22	1.1	0.5	渥美・湖西
6 4 0	片口 鉢	0.504	0.059	1.080	0.631	0.257	0.109	14	2.5	5.0	8.9	17	猿投・知多
6 6 0	山茶 梅	0.452	0.082	0.561	0.526	0.363	0.130	144	12	17	2.4	0.9	渥美・湖西
6 6 1	山茶 梅	0.537	0.066	0.697	0.617	0.335	0.160	63	2.6	4.5	9.1	6.1	猿投・知多
6 6 6	片口 鉢	0.458	0.127	1.200	0.561	0.308	0.134	61	6.3	1.0	3.5	19	渥美
6 7 8	山 皿	0.601	0.114	0.796	0.702	0.395	0.361	90	3.7	13	13	11	猿投
6 7 9	山 皿	0.509	0.151	0.731	0.533	0.401	0.136	167	10	11	7.3	9.9	渥美・湖西
6 8 0	山茶 梅	0.514	0.129	0.984	0.514	0.398	0.200	175	13	18	13	7.5	湖西
6 8 1	山茶 梅	0.496	0.217	0.825	0.600	0.494	0.200	280	21	16	3.6	32	渥美
6 8 3	片口 鉢	0.493	0.080	0.995	0.833	0.332	0.145	63	1.9	1.5	3.7	9.7	猿投・知多
6 9 5	山茶 梅	0.472	0.104	0.804	0.480	0.398	0.184	208	19	30	9.7	5.5	渥美・湖西
7 0 6	山 皿	0.519	0.086	0.944	0.557	0.311	0.117	62	5.4	5.2	14	5.3	猿投・知多・湖西
7 0 7	山茶 梅	0.476	0.077	0.830	0.538	0.329	0.146	93	6.0	6.9	5.9	1.7	渥美・湖西
7 1 3	山 皿	0.506	0.119	0.774	0.547	0.450	0.185	253	25	33	5.7	3.3	渥美・湖西
7 1 4	山茶 梅	0.491	0.085	0.923	0.522	0.375	0.134	157	14	19	9.1	3.1	渥美・湖西
7 1 8	山 皿	0.478	0.101	0.833	0.678	0.308	0.117	34	1.8	2.8	9.8	36	猿投・知多
7 6 9	山茶 梅	0.568	0.137	0.931	0.702	0.411	0.260	104	3.7	9.3	10	15	猿投・知多
7 7 0	山茶 梅	0.529	0.106	0.562	0.555	0.431	0.269	218	21	38	10	4.9	渥美・湖西
7 7 1	片口 鉢	0.495	0.122	2.090	0.488	0.253	0.076	46	25	10	26	28	知多
7 7 2	壺	0.432	0.097	1.710	0.484	0.285	0.124	84	6.6	4.7	6.6	7.2	猿投・知多・渥美・湖西
7 8 7	山茶 梅	0.508	0.143	0.783	0.667	0.383	0.183	93	3.8	1.0	6.0	25	猿投・知多・渥美
7 9 8	山 皿	0.626	0.121	0.676	0.721	0.353	0.211	46	4.6	23	21	22	猿投
8 0 1	山茶 梅	0.537	0.045	0.793	0.679	0.249	0.071	6.5	3.5	13	13	23	猿投・轟戸
8 0 8	山茶 梅	0.503	0.057	0.869	0.618	0.261	0.087	18	2.5	3.9	8.9	14	猿投・知多
8 1 9	山 皿	0.512	0.086	0.683	0.550	0.421	0.184	219	25	31	9.1	6.0	渥美・湖西
8 2 0	山茶 梅	0.521	0.043	0.857	0.698	0.258	0.098	9.5	1.5	10	11	29	猿投・知多
8 2 1	山茶 梅	0.560	0.060	0.824	0.690	0.304	0.168	28	1.5	10	12	15	猿投・知多
8 3 8	山 皿	0.503	0.095	0.727	0.519	0.429	0.195	246	28	38	11	8.0	渥美・湖西
8 3 9	山茶 梅	0.515	0.300	0.823	0.576	0.522	0.182	375	39	15	8.2	101	渥美
8 4 0	山茶 梅	0.474	0.041	0.873	0.548	0.301	0.116	76	7.4	6.7	7.7	6.9	猿投・知多・渥美・湖西
8 4 1	山茶 梅	0.424	0.065	0.878	0.566	0.309	0.111	74	4.5	5.3	1.8	9.5	渥美・湖西・猿投・知多
8 4 2	片口 鉢	0.543	0.096	0.943	0.663	0.356	0.178	69	1.8	4.5	6.9	8.7	猿投・知多
8 4 3	片口 鉢	0.543	0.183	1.940	0.619	0.342	0.124	93	23	10	12	59	知多・渥美 (?)
8 5 7	山茶 梅	0.710	0.123	0.851	0.671	0.354	0.167	73	23	56	67	36	不明
8 5 8	山茶 梅	0.644	0.124	0.785	0.662	0.384	0.235	93	9.0	26	31	16	猿投
8 7 3	山茶 梅	0.557	0.062	0.766	0.693	0.261	0.100	6.2	4.4	17	15	24	猿投・轟戸

遺物番号	器種	分析値						各母集団からのマラノビスの乳歯齶の二重指					推定產地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	瀬美群	瀬西群	
876	山皿	0.499	0.057	0.619	0.540	0.329	0.130	100	9.8	11	12	5.4	瀬西
890	片口鉢	0.675	0.117	1.130	0.750	0.387	0.276	67	6.0	35	30	20	猿投
891	片口鉢	0.511	0.095	1.020	0.630	0.315	0.144	44	1.2	1.7	5.8	12	猿投・知多
902	山茶碗	0.549	0.093	0.578	0.639	0.326	0.130	49	2.2	5.9	11	8.8	猿投・知多
903	片口鉢	0.572	0.067	0.861	0.663	0.265	0.125	11	7.0	18	20	17	猿投
916	山茶碗	0.501	0.052	0.852	0.674	0.263	0.125	13	0.9	5.8	8.9	26	猿投・知多
938	山茶碗	0.504	0.055	1.269	0.552	0.300	0.113	64	6.2	6.0	13	5.4	瀬西・猿投・匂多
953	山茶碗	0.486	0.052	0.881	0.569	0.307	0.109	69	5.2	4.6	6.8	5.2	猿投・知多・瀬美・瀬西
954	山茶碗	0.487	0.052	0.848	0.564	0.316	0.108	80	6.7	6.4	7.1	4.9	瀬美・瀬西・猿投・知多
960	灰釉平碗	0.583	0.198	0.535	0.789	0.289	0.042	79	53	66	35	149	不明
1030	山皿	0.494	0.044	0.506	0.625	0.273	0.088	29	1.6	2.3	6.8	14	猿投・知多
1031	山皿	0.521	0.051	0.504	0.641	0.273	0.083	22	1.9	5.3	9.9	14	猿投・知多
1032	山皿	0.526	0.199	0.642	0.639	0.431	0.213	163	11	2.7	5.2	38	猿投・知多
1033	山皿	0.547	0.087	0.835	0.630	0.288	0.107	26	4.9	8.6	14	13	猿投・知多
1034	山皿	0.417	0.097	0.547	0.533	0.295	0.112	61	3.7	3.5	2.0	11	猿投・知多
1035	山茶碗	0.463	0.172	0.740	0.834	0.401	0.158	133	9.9	3.2	7.9	37	匂多
1036	山茶碗	0.475	0.056	0.715	0.593	0.263	0.123	26	1.8	1.2	6.0	12	猿投・知多
1037	山茶碗	0.495	0.109	0.819	0.612	0.346	0.174	76	2.1	1.0	3.0	8.8	猿投・知多・瀬美
1038	山茶碗	0.413	0.094	0.621	0.473	0.340	0.182	133	9.8	18	2.8	1.5	瀬美・瀬西
1039	山茶碗	0.494	0.065	0.600	0.571	0.284	0.128	41	3.2	2.3	8.9	6.0	猿投・知多
1040	山茶碗	0.645	0.067	0.660	0.751	0.311	0.121	20	5.9	36	29	21	猿投
1041	山茶碗	0.584	0.176	0.739	0.539	0.413	0.234	134	8.6	8.8	12	26	猿投・知多
1042	山茶碗	0.493	0.045	0.673	0.637	0.246	0.087	12	2.1	4.8	8.4	20	猿投・知多
1043	山茶碗	0.551	0.140	0.699	0.630	0.414	0.234	139	6.4	7.7	6.1	7.8	猿投・知多・瀬美
1044	山茶碗	0.470	0.209	0.966	0.555	0.523	0.234	368	34	39	2.7	21	瀬美
1045	山茶碗	0.490	0.088	0.945	0.601	0.264	0.130	21	5.2	3.8	7.8	18	猿投・知多
1046	山茶碗	0.433	0.096	0.714	0.444	0.351	0.110	158	13	24	9.2	4.8	瀬美・瀬西
1047	山茶碗	0.393	0.040	0.736	0.556	0.225	0.074	24	2.9	4.0	5.3	24	猿投・知多
1048	山茶碗	0.496	0.183	0.773	0.612	0.393	0.178	129	9.8	1.4	4.1	35	猿投・知多
1049	片口鉢	0.501	0.092	1.240	0.589	0.297	0.142	41	3.0	1.7	7.2	9.2	猿投・知多
1050	片口鉢	0.478	0.059	0.680	0.568	0.272	0.104	31	1.8	1.0	6.0	9.7	猿投・知多
1051	山茶碗	0.487	0.180	0.729	0.537	0.469	0.240	273	20	25	1.7	12	瀬美
1053	片口	0.475	0.078	1.110	0.523	0.323	0.139	91	6.3	7.3	7.8	2.2	瀬美・瀬西
1069	山茶碗	0.447	0.097	0.806	0.477	0.373	0.166	174	15	25	6.0	2.4	瀬美・瀬西
1076	山皿	0.500	0.266	0.627	0.489	0.556	0.195	483	41	49	7.2	58	瀬美
1083	山茶碗	0.489	0.169	0.886	0.591	0.434	0.234	173	10	7.1	1.5	16	瀬美
1092	山茶碗	0.484	0.168	0.956	0.516	0.483	0.228	318	27	40	3.2	9.1	瀬美
1118	山茶碗	0.506	0.083	0.864	0.562	0.360	0.122	117	8.5	10	7.5	1.6	瀬美・瀬西

遺物番号	器種	分析値						各母集団からのマラノビスの乳頭離の二条値					推定产地
		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	瀬戸群	猿投群	知多群	瀬美群	瀬西群	
1 1 1 9	山茶碗	0.508	0.105	1.040	0.510	0.370	0.172	144	11	15	14	5.7	瀬西
1 1 2 0	山茶碗	0.487	0.106	0.755	0.552	0.360	0.170	114	6.0	7.0	4.0	1.6	瀬美・瀬西・猿投・知多
1 1 2 1	山茶碗	0.419	0.054	0.831	0.464	0.287	0.133	86	8.2	12	8.3	5.6	瀬美・瀬西
1 1 2 2	山茶碗	0.484	0.065	0.821	0.468	0.342	0.142	145	17	24	21	13	不明
1 1 2 3	片口鉢	0.441	0.077	0.928	0.570	0.230	0.058	14	7.2	4.3	6.6	23	猿投・知多・瀬美
1 1 2 4	片口鉢	0.463	0.115	0.846	0.640	0.357	0.180	83	3.8	1.6	5.5	21	猿投・知多・瀬美
1 1 3 1	山茶碗	0.460	0.073	0.898	0.477	0.350	0.130	150	15	22	11	5.9	瀬美・瀬西
1 1 6 2	山茶碗	0.522	0.125	0.774	0.590	0.406	0.213	150	8.2	9.6	4.4	3.4	瀬美・瀬西
1 1 6 3	山茶碗	0.448	0.058	0.850	0.510	0.295	0.114	75	5.5	6.7	6.7	4.0	瀬美・瀬西・猿投・知多
1 1 6 4	山茶碗	0.453	0.114	0.880	0.506	0.374	0.119	154	10	16	2.7	1.2	瀬美・瀬西
1 1 6 5	山茶碗	0.453	0.045	0.883	0.486	0.278	0.110	70	8.2	8.3	13	7.6	瀬西・猿投・知多
1 1 8 7	山皿	0.377	0.096	0.920	0.442	0.347	0.115	167	14	31	2.7	2.6	瀬美・瀬西
1 1 8 8	山皿	0.382	0.114	0.868	0.482	0.370	0.116	171	14	28	1.2	3.6	瀬美・瀬西
1 1 8 9	山皿	0.558	0.138	0.873	0.543	0.374	0.143	127	11	13	22	15	不明
1 1 9 0	山皿	0.514	0.152	0.897	0.558	0.412	0.195	170	9.6	10	5.0	8.5	瀬美・瀬西
1 1 9 1	山茶碗	0.520	0.133	0.792	0.587	0.309	0.221	140	7.0	3.8	4.4	4.8	瀬美・瀬西・猿投・知多
1 1 9 2	山茶碗	0.504	0.155	0.761	0.605	0.415	0.221	153	7.8	2.5	1.9	12	瀬美・猿投・知多
1 1 9 3	山茶碗	0.459	0.133	0.929	0.521	0.460	0.177	288	29	20	1.7	2.5	瀬美・瀬西
1 1 9 4	山茶碗	0.529	0.136	0.748	0.599	0.430	0.218	179	11	6.6	4.1	3.7	瀬美・瀬西
1 1 9 5	山茶碗	0.460	0.084	0.765	0.594	0.365	0.180	118	8.9	4.7	1.3	5.1	瀬美・瀬西・猿投・知多
1 1 9 6	山茶碗	0.473	0.130	0.774	0.538	0.473	0.209	304	33	22	2.3	3.0	瀬美・瀬西
1 2 0 3	山茶碗	0.448	0.101	1.100	0.493	0.309	0.101	82	6.2	5.6	6.5	4.9	瀬美・瀬西・猿投・知多
1 2 1 8	山茶碗	0.581	0.084	0.810	0.674	0.339	0.189	49	2.4	11	14	11	猿投・知多
1 2 1 9	山茶碗	0.552	0.140	0.964	0.679	0.401	0.226	104	3.5	4.3	6.5	16	猿投・知多
1 2 2 0	山茶碗	0.435	0.149	1.050	0.442	0.429	0.158	270	23	42	5.7	9.2	瀬美・瀬西
1 2 2 1	山茶碗	0.351	0.022	0.614	0.454	0.179	0.053	23	7.7	9.8	8.8	30	猿投・知多・瀬美
1 2 2 6	山茶碗	0.457	0.063	0.758	0.664	0.272	0.097	22	1.0	3.2	9.2	34	猿投・知多
1 2 3 2	山茶碗	0.441	0.035	0.767	0.622	0.273	0.118	41	2.8	1.9	5.2	23	猿投・知多・瀬美
1 2 3 7	山茶碗	0.521	0.073	0.933	0.595	0.323	0.132	65	3.7	4.8	9.2	4.0	猿投・知多・瀬美・瀬西
1 2 4 9	山皿	0.480	0.097	0.853	0.499	0.397	0.166	199	19	28	8.9	4.4	瀬美・瀬西
1 2 5 0	山皿	0.529	0.097	0.744	0.580	0.325	0.170	65	5.2	6.3	15	6.4	猿投・知多
1 2 5 1	山皿	0.503	0.080	0.924	0.556	0.279	0.147	38	5.6	3.5	13	7.6	猿投・知多
1 2 5 2	山皿	0.579	0.063	0.719	0.652	0.296	0.135	30	5.0	14	20	11	猿投
1 2 5 3	山茶碗	0.527	0.118	0.796	0.553	0.300	0.193	147	9.5	13	10	4.0	瀬美・瀬西
1 2 5 4	天目茶碗	0.595	0.057	0.506	0.751	0.222	0.031	2.1	15	48	26	45	瀬戸
1 2 5 6	水注	0.346	0.225	1.220	0.391	0.524	0.179	515	57	110	11	33	瀬美(?)
1 2 5 7	三筋壺	0.516	0.127	2.070	0.723	0.313	0.144	30	5.9	11	15	55	猿投・知多
1 2 5 8	三筋壺	0.516	0.066	1.190	0.689	0.329	0.148	49	1.9	3.4	7.2	18	猿投・知多

2. 肉眼観察と胎土分析

1. はじめに

本報告書に実測図を掲載した中世陶器208点について、肉眼観察による産地推定を試みた。産地推定にあたっては、常滑市民俗資料館の中野晴久氏、瀬戸市埋蔵文化財センターの藤澤良祐氏から直接多くの助言をいただいた。また、本遺跡出土の中世陶器の中には、三重県埋蔵文化財センターで3年前から活動している山茶椀プロジェクトチームの会議において検討したものもある。しかし、ここで報告する肉眼観察による産地推定結果についての責任は全て前川にある。

肉眼観察による結果と対比するために、蛍光X線による胎土分析を奈良教育大学の三辻利一氏に依頼した。その分析結果についてはV章-1に掲載してある。三辻氏に分析試料として提出できたのは208点のうち190点である。

2. 肉眼観察

本遺跡出土の中世陶器は、ごく一部を除きほとんどが東海地方で生産されたものであることは異論がない。中世における東海地方の主な窯業地には、岐阜県南部の東濃窯、愛知県西部の瀬戸窯・猿投窯、知多（常滑）窯、愛知県東部の渥美窯がある。蚊山遺跡出土の中世陶器の生産地は、これらの窯業地に静岡県西部の湖西窯を加えた合計6か所の窯業地が想定される。

東海地方の中世陶器の主体を占めるのは無釉の椀と皿、つまり日常雑器として生産された山茶椀・山皿である。山茶椀・山皿は北部系（均質手）と南部系（荒肌手）とに大別される。この両者は形態も胎土も明らかに異なり、肉眼観察でも容易に識別できる。東濃窯では北部系を、瀬戸窯では北部系と南部系を、猿投窯・知多窯・渥美窯・湖西窯は全て南部系を生産している。三重県内では北部系の山茶椀の出土は数点しか確認されておらず、蚊山遺跡左郡地区の調査では全くみられなかった。

南部系の山茶椀・山皿は形態や胎土の特徴から、瀬戸窯・猿投窯・知多窯の3つの窯業地のものと渥

美窯・湖西窯の2つの窯業地のものとに区別することが可能である。瀬戸・猿投・知多のものは類似した時期的な形態変化をたどるが、3つの窯業地の操業期間がずれるため型式の違いである程度生産地が推定できる。つまり、藤澤氏の山茶椀編年でいう3型式のものは瀬戸産か猿投産、5型式のものは猿投産か知多産、7型式のものは瀬戸産か知多産、8型式以降のものは瀬戸産の可能性が高い。胎土の点では瀬戸産のものと知多産のものとでは識別がある程度可能であるが、瀬戸産と猿投産、あるいは猿投産と知多産の識別はかなり困難である。渥美窯・湖西窯は操業期間が短く、その製品には瀬戸窯・猿投窯・知多窯のものとはやや異なる形態変化をたどること、胎土が細砂質であることなどの特徴があるが渥美窯と湖西窯との相互識別は困難である。

施釉陶器は、この時期には瀬戸窯でしか生産していないことがはっきりしている。大型の壺は知多産のものと渥美産のものとが考えられるが、形態・施文方法・胎土などの特徴から、破片であっても両者の識別は比較的容易である。

肉眼観察で山茶椀・山皿の産地推定を行うにあたっては、識別が特に困難な渥美窯と湖西窯については産地の表現を「渥美産」に一括した。また、猿投窯と知多産についても識別が困難であるため、あいまいなものは全て「知多産」とした。つまり「渥美産」としたものの中には湖西産のものが、「知多産」としたものの中には猿投産のものが含まれていると理解していただきたい。

実測図を掲載した208点の肉眼観察による推定产地の内訳は、次のようになった。

渥美産=101点（山茶椀70、山皿18、その他13）

知多産= 97点（山茶椀65、山皿12、その他20）

猿投産= 3点（山茶椀2・その他1）

瀬戸産= 5点（施釉陶器5）

その他・不明= 2点

推定された産地としては、蚊山遺跡のある南伊勢地方と伊勢湾を挟んで地理的に近い渥美産あるいは知多産のものが圧倒的に多い。一方東濃窯のものは

全くみられず、瀬戸窯のものは施釉陶器に限られている。

3. 肉眼観察と胎土分析

蛍光X線での胎土分析を実施した190点の中で、肉眼観察で渥美産、知多産としたものについてその結果を比較した（第11表）。

肉眼観察で渥美産（湖西窯）としたものは91点ある。その内渥美産あるいは湖西窯という結果が出たものが68%、渥美産あるいは湖西窯の可能性が高いとされたものが14%の合計82%あり、渥美産あるいは湖西窯の可能性も考えられるもの12%を含むと94%の高率となる。肉眼観察で知多産（猿投産）としたものも、ほぼ同じような結果となっている。このことから、肉眼観察による产地推定もかなり有効であることがわかる。なお、蛍光X線での胎土分析で产地不明となった山茶椀・山皿の中には、肉眼観察でも知多産か渥美産かの判断が特に困難であったものがいくつか含まれている。

4. 時期と产地

第12表には肉眼観察と蛍光X線での胎土分析の結果の他に、遺物の型式・時期と出土遺構の時期もあわせて示した。遺物の型式・時期は、藤澤氏と中野氏のご指導をもとに、110頁の註に記載した②、③、④の文献を参考にして前川が判断した。出土遺構の時期は本報告書で示した蚊山遺跡左郡地区のものである。

時期的には、蚊山遺跡左郡地区Ⅰ期の遺構出土のものはほとんど渥美産で、Ⅱ期・Ⅲ期には知多産が急激に増加するという傾向がみられる。このことは、渥美の山茶椀窯が13世紀中頃に消滅し、湖西でも13世紀後半の窯がほとんどみられないことよく対応している。14世紀になると知多窯でも山茶椀を生産しなくなり、南部系の山茶椀の生産地はほとんど瀬戸窯に限られる。この時点で蚊山遺跡の人々は山茶椀・山皿の使用をやめたようで、Ⅳ期の遺構出土の山茶椀・山皿は混入と思われる小片のみとなる。

（前川）

肉眼観察		胎 土 分 析 (三 近)					
渥美産 (湖西窯)	渥美	12 (13%)	61 (68%)	74 (82%)	85 (94%)		
	渥美・湖西	46 (53%)					
	湖西	3 (3%)					
	渥美・猿投・知多	1 (1%)					
	渥美・湖西・猿投・知多	9 (10%)	13 (14%)				
	湖西・猿投	1 (1%)					
	湖西・猿投・知多	2 (2%)	11 (12%)	11 (12%)			
	知多・渥美	1 (1%)					
	猿投・知多・渥美	3 (3%)					
	知多・湖西	1 (1%)					
	猿投・知多・渥美・湖西	6 (6%)					
	知多	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	6 (6%)		
	不明	5 (5%)	5 (5%)	5 (5%)			
		91点 (100%)					

肉眼観察		胎 土 分 析 (三 近)					
知多産 (猿投産)	知多	1 (1%)	70 (79%)	82 (92%)	85 (95%)		
	猿投・知多	58 (65%)					
	猿投	11 (13%)					
	猿投・瀬戸	2 (2%)					
	猿投・知多・渥美	9 (10%)	12 (13%)				
	猿投・知多・渥美・湖西	1 (1%)					
	渥美・湖西・猿投・知多	3 (3%)	3 (3%)	3 (3%)			
	渥美・湖西	3 (3%)	3 (3%)	3 (3%)			
		2 (2%)	2 (2%)	2 (2%)	5 (5%)		
		90点 (100%)					

第11表 肉眼観察と胎土分析の整合率

遺物番号	出土位置	器種	推定産地	遺物の型式・時期			造形時期
			内臓窓	胎土分析(三社)	瀬戸(瀬戸)編年	知多(中野)編年	
6 2	S B 2 7	山茶 梶	知多産	小片のため試料化せず		第4型式	
6 3	*	山茶 梶	渥美産	瀬戸・瀬西		12世紀後葉～末葉	I期
7 5	S B 7 6	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第4～5型式	
7 6	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第5型式	
8 4	S B 9 7	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第5～6型式	
9 3	S B 1 2 5	山茶 梶	渥美産	瀬西・瀬戸		13世紀前葉	
1 1 5	S K 1 2 9	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西・瀬戸・知多	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 1 6	*	山茶 梶	渥美産	瀬戸・知多・渥美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 1 7	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 1 8	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 1 9	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1 2 0	*	山茶 梶	渥美産	不明	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 2 1	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 2 2	*	山茶 梶	渥美産	不明	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 2 3	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
1 4 3	S B 1 5 8	山茶 梶	知多産	小片のため試料化せず		第4型式?	
1 9 0	S K 1 5 3	山 茶	知多産	瀬戸・知多		第5～6型式	
1 9 1	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第5～6型式	
1 9 2	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第5～6型式	
1 9 3	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第5～6型式	
1 9 4	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多・渥美		第5～6型式	
1 9 5	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多・渥美		第5～6型式	
2 0 7	S B 1 5 9	山茶 梶	渥美産	瀬戸・知多・瀬西		第4～5型式	13世紀前葉
2 0 8	S B 1 6 4	山茶 梶	渥美産	小片のため試料化せず		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
2 1 6	S E 3	小 梶	渥美産	小片のため試料化せず		12世紀中葉	
2 1 7	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西・瀬戸・知多		12世紀末葉	I期
2 1 8	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西		12世紀末葉	
2 3 3	S E 5 6	山茶 梶	知多産	不明	第6型式	第5型式	
2 3 4	*	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多	第5型式	第4型式	
2 3 5	*	山茶 梶	渥美産	瀬美・瀬西	第5型式	12世紀末葉～13世紀前葉	
2 5 6	S E 5 7	山茶 梶	渥美産	小片のため試料化せず		13世紀前葉	
2 5 7	*	山茶 梶	渥美産	不明		13世紀前葉	
2 5 8	S E 7 9	山茶 梶	知多産	瀬戸・知多		第4型式	IV期
2 7 7	S E 9 0	山茶 梶	知多産	瀬戸		第6型式	
2 7 8	*	山茶 梶	渥美産	瀬美		13世紀前葉	III期

第12表 中世陶器の推定産地一覧

遺物番号	出土位置	器種	推定産地		遺物の型式・時期			遺構時期
			内縫深皿	胎土分析(三辻)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(清藤)編年	
279	SE 90	片口鉢	知多産	旅投			第6型式	Ⅱ期
281	*	折縁深皿	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸前Ⅱ～Ⅳ期			
282	*	甕	知多産	旅投・知多			第6型式	
300	SE 134	片口鉢	知多産	旅投・知多			第8型式	Ⅱ期
301	*	甕	信楽産	旅投・知多				
323	SE 157	四耳壺	瀬戸産	瀬戸	古瀬戸前Ⅱ～Ⅳ期			Ⅱ期
324	*	甕	知多産	渥美・瀬西・旅投・知多			第6型式	
367	SE 172	山皿	知多産	旅投・知多			第5～6型式	
368	*	山皿	知多産	旅投・知多			第5～6型式	Ⅲ期
369	*	山茶楕	知多産	旅投・知多	第6型式	第5型式		
370	*	山茶楕	知多産	旅投・知多	第6型式	第5型式		
371	*	山茶楕	知多産	旅投・知多・渥美・瀬西	第6型式	第5型式		
372	*	山茶楕	知多産	旅投・知多	第6型式	第5～6型式		
373	*	山茶楕	渥美産	渥美・瀬西	第6型式		13世紀前葉	
374	*	山茶楕	知多産	旅投・知多	第6型式	第5型式		
375	*	山茶楕	知多産	旅投・知多		第5型式		
376	*	山茶楕	知多産	旅投		第5型式		
377	*	四耳壺	旅投産	小片のため試料化せず				
378	*	三筋壺	旅投産	渥美・瀬西・旅投・知多				Ⅲ期
379	*	片口鉢	知多産	旅投・知多		第5～6型式		
449	SE 193	片口小皿	渥美産	小片のため試料化せず			12世紀末葉	
450	*	山皿	渥美産	渥美・瀬西			13世紀前葉	
451	*	山皿	渥美産	渥美・瀬西			13世紀前葉	
452	*	山茶楕	知多産	旅投・知多	第6型式	第4型式		
453	*	山茶楕	渥美産	渥美・瀬西・旅投・知多	第6型式		13世紀前葉	
454	*	山茶楕	旅投産	不明	第6型式	第5型式		
455	*	山茶楕	旅投産	旅投	第7型式	第5～6型式		
456	*	山茶楕	渥美産	渥美	第6型式		13世紀前葉	
457	*	山茶楕	知多産	旅投		第4～5型式		
458	*	山茶楕	知多産	渥美・瀬西	第6型式	第5型式	13世紀前葉	
459	*	壺	渥美産	渥美・瀬西			12世紀中葉	Ⅲ期
460	*	甕	渥美産	旅投・知多・渥美			12世紀後葉	
473	SE 194	山茶楕	渥美産	渥美・瀬西			12世紀後葉～末葉	
474	*	山茶楕	渥美産	渥美			12世紀後葉～末葉	Ⅲ期
475	*	山茶楕	渥美産	渥美・瀬西			12世紀後葉～末葉	

遺物番号	出土位置	器種	推定産地	遺物の型式・時期			造構時期
			内調査 胎土分析(三辻)	窯戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(高森)編年	
476	SE194	片口鉢	渥美産 渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅲ期
477	*	片口鉢	知多産 猿投・知多		第4型式		
486	SE207	山茶碗	知多産 小片のため試料化せず		第6型式		Ⅲ期かⅣ期
487	*	山茶碗	知多産 猿投		第6型式		
493	SX5	山茶碗	渥美産 渥美・湖西			13世紀前葉	Ⅲ期
494	SX28	壺	知多産 猿投・知多・渥美		第6型式		Ⅲ期
495	SX38	壺	知多産 猿投・知多・渥美		第4型式		Ⅰ期
496	*	壺	不明 渥美				
497	*	山茶碗	渥美産 渥美			12世紀後葉～13世紀末葉	
505	SX40	山皿	知多産 小片のため試料化せず		第4～5型式		Ⅱ期
515	SX44	山茶碗	知多産 猿投・知多		第5～6型式		Ⅲ期
528	SX46	山皿	渥美産 渥美・湖西			13世紀前葉	Ⅲ期
541	SX70	山茶碗	渥美産 渥美・湖西	第4型式		12世紀中葉	Ⅰ期
558	SX120	山茶碗	知多産 猿投・知多		第5型式		Ⅲ期
576	SX149	山茶碗	知多産 猿投・知多		第4型式		Ⅲ期
583	SX151	山茶碗	渥美産 渥美・湖西(?)			13世紀前葉	Ⅲ期
597	SX165	片口鉢	知多産 猿投・知多		第6型式		Ⅲ期
633	SX168	入子	渥美産 小片のため試料化せず			13世紀前葉?	Ⅱ期
634	*	山茶碗	知多産 小片のため試料化せず		第4型式		
635	*	山茶碗	渥美産 渥美・湖西			13世紀前葉	
640	SX170	片口鉢	知多産 猿投・知多		第6型式		Ⅲ期
660	SX224	山茶碗	渥美産 渥美・湖西			13世紀前葉	Ⅲ期
661	*	山茶碗	知多産 猿投・知多		第6型式		Ⅲ期
666	SX225	片口鉢	渥美産 渥美			12世紀末葉?	Ⅲ期
678	SK12	山皿	知多産 猿投		第4型式?		Ⅱ期
679	*	山皿	渥美産 渥美・湖西			13世紀前葉	
680	*	山茶碗	渥美産 湖西			12世紀後葉～13世紀末葉	
681	*	山茶碗	渥美産 渥美			12世紀後葉～13世紀末葉	
682	*	山茶碗	知多産 小片のため試料化せず		第4型式?		
683	*	片口鉢	知多産 猿投・知多		第4型式?		
695	SK30	山茶碗	渥美産 渥美・湖西			12世紀後葉～13世紀前葉	Ⅰ期かⅡ期
706	SK45	山皿	渥美産 猿投・知多・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅰ期
707	*	山茶碗	渥美産 渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	
713	SK48	山皿	渥美産 渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	Ⅰ期
714	*	山茶碗	渥美産 渥美・湖西			12世紀末葉～13世紀前葉	

遺物番号	出土位置	器種	推定产地	遺物の型式・時期			造営時期
			内面跡	胎土分析(三社)	瀬戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	
718	SK 65	山皿	知多產	猿投・知多		第4型式	I期
769	SK 103	山茶碗	知多產	猿投・知多		第4型式	
770	*	山茶碗	渥美產	渥美・湖西		13世紀前葉	III期
771	*	片口鉢	渥美產	知多		13世紀前葉?	
772	*	壺	渥美產	猿投・知多、渥美・湖西		12世紀	
787	SK 104	山茶碗	知多產	猿投・知多、渥美	第6型式		II期
798	SK 114	山皿	知多產	猿投	第5~6型式		III期
801	SK 115	山茶碗	知多產	猿投、瀬戸	第5型式		III期
808	SK 122	山茶碗	知多產	猿投・知多	第5型式		III期
809	*	山茶碗	知多產	小片のため試料化せず	第6型式		
819	SK 130	山皿	渥美產	渥美・湖西		13世紀前葉	II期
820	*	山茶碗	知多產	猿投・知多	第5型式		
821	*	山茶碗	知多產	猿投・知多	第6型式		
838	SK 144	山皿	渥美產	渥美・湖西		13世紀前葉	III期?
839	*	山茶碗	渥美產	渥美		12世紀末葉~13世紀前葉	
840	*	山茶碗	渥美產	猿投・知多、渥美・湖西		12世紀末葉~13世紀前葉	
841	*	山茶碗	渥美產	渥美・湖西、猿投・知多		12世紀末葉~13世紀前葉	
842	*	片口鉢	知多產	猿投・知多	第4型式		
843	*	片口鉢	渥美產	知多、渥美(?)		12世紀末葉?	
857	SK 154	山茶碗	知多產	不明	第5型式		II期
858	*	山茶碗	知多產	猿投	第5型式		
873	SK 155	山茶碗	知多產	猿投、瀬戸	第5型式		II期
876	SK 156	山皿	渥美產	湖西		13世紀前葉	II期
885	SK 161	山茶碗	知多產	小片のため試料化せず	第6型式		II期
890	SK 173	片口鉢	知多產	猿投	第5~6型式		III期
891	SK 174	片口鉢	知多產	猿投・知多	第6型式		III期
902	SK 178	山茶碗	知多產	猿投・知多	第6型式		III期
903	*	片口鉢	知多產	猿投	第5型式		
916	SK 190	山茶碗	知多產	猿投・知多	第5型式		II期
938	SK 204	山茶碗	渥美產	湖西、猿投・知多		13世紀前葉	IV期
953	SK 214	山茶碗	渥美產	猿投・知多、渥美・湖西		12世紀後葉~末葉	III期
954	*	山茶碗	渥美產	渥美・湖西、猿投・知多		12世紀後葉~末葉	
960	SK 219	灰釉平碗	瀬戸產	不明	古瀬戸後I~II期		IV期
1030	SD 8	山皿	知多產	猿投・知多	第4型式		II期
1031	*	山皿	知多產	猿投・知多	第4~6型式		

遺物番号	出土位置	器種	推定産地	遺物の型式・時期			遺物時期
			内田照 地質分析(三辻)	船戸(藤澤)編年	知多(中野)編年	渥美(清藤)編年	
1032	SD 8	山皿	知多產	猿投・知多		第4~6型式	
1033	*	山皿	知多產	猿投・知多		第4~6型式	
1034	*	山皿	知多產	猿投・知多		第4~6型式	
1035	*	山茶碗	知多產	知多		第4~5型式	
1036	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第3~4型式	
1037	*	山茶碗	知多產	猿投・知多、渥美		第4~5型式	
1038	*	山茶碗	知多產	渥美・湖西		第4~5型式	
1039	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第4型式	
1040	*	山茶碗	知多產	猿投		第5型式	
1041	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第5型式	
1042	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第4~5型式	
1043	*	山茶碗	知多產	猿投・知多、渥美		第4~5型式	
1044	*	山茶碗	知多產	渥美		第4~5型式	
1045	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第5型式	
1046	*	山茶碗	渥美產	渥美・湖西			13世紀前葉
1047	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第5型式	
1048	*	山茶碗	知多產	猿投・知多		第4~5型式	
1049	*	片口鉢	知多產	猿投・知多		第5型式	
1050	*	片口鉢	知多產	猿投・知多		第5型式	
1051	*	山茶碗	渥美產	渥美			12世紀後葉~13世紀前葉
1052	*	小杯	渥美產	小片のため試料化せず			12世紀後葉~13世紀前葉
1053	*	片口	渥美產	渥美・湖西			
1069	SD10A	山茶碗	渥美產	渥美・湖西			13世紀前葉
1076	SD10B	山皿	渥美產	渥美			Ⅱ期
1083	SD 11	山茶碗	渥美產	渥美			Ⅲ期
1092	SD 17	山茶碗	渥美產	渥美			Ⅳ期
1117	SD35A	小杯	渥美產	小片のため試料化せず		12世紀後葉~13世紀前葉	
1118	*	山茶碗	渥美產	渥美・湖西			12世紀末葉~13世紀前葉
1119	*	山茶碗	渥美產	渥西		13世紀前葉	
1120	*	山茶碗	知多產	渥美・湖西、猿投・知多	第4型式		
1121	*	山茶碗	渥美產	渥美・湖西		13世紀前葉	
1122	*	山茶碗	渥美產	不明		13世紀前葉	
1123	*	片口鉢	知多產	猿投・知多、渥美	第3~4型式		
1124	*	片口鉢	渥美產	猿投・知多、渥美			12世紀後葉~末葉
1131	SD35B	山茶碗	渥美產	渥美・湖西			13世紀前葉

遺物番号	出土位置	器種	推定产地		遺物の型式・時期			遺構時期
			内側腹	胎土分筋(三辻)	窓戸(藤澤)縦年	知多(中野)縦年	瀬美(高崎)縦年	
1162	SD 39	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1163	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1164	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1165	*	山茶 梅	瀬美産	湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1187	SD 43	山皿	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1188	*	山皿	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1189	*	山皿	瀬美産	不明	第5～6型式		12世紀末葉～13世紀前葉	I期
1190	*	山皿	瀬美産	瀬美・湖西	第5～6型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1191	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1192	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1193	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1194	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1195	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西、猿投・知多	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	II期小初期
1196	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西	第5型式		12世紀末葉～13世紀前葉	
1203	SD 62	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西、猿投・知多			13世紀前葉	
1218	SD 118	山茶 梅	知多産	猿投・知多	第5型式			II期
1219	*	山茶 梅	知多産	猿投・知多	第5型式			
1220	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西			13世紀前葉	
1221	*	山茶 梅	知多産	猿投・知多・瀬美	第5型式			
1226	SD 200	山茶 梅	知多産	猿投・知多	第4型式			I期
1232	SD 218	山茶 梅	瀬美産	猿投・知多・瀬美	第4型式		12世紀中葉	I期
1237	SX 132	山茶 梅	瀬美産	猿投・知多・瀬美・湖西			13世紀前葉	II期小初期
1249	包含層	山皿	瀬美産	瀬美・湖西			13世紀前葉	
1250	*	山皿	知多産	猿投・知多	第4～5型式			
1251	*	山皿	知多産	猿投・知多	第4～5型式			
1252	*	山皿	知多産	猿投	第4型式			
1253	*	山茶 梅	瀬美産	瀬美・湖西			13世紀前葉	
1254	耕作土	天目茶梅	瀬戸産	窓戸	古窓戸後I期			
1255	包含層	天目茶梅	達磨産	分析せず				
1256	*	水注	瀬美産	瀬美(?)			12世紀	
1257	*	三筋壺	知多産	猿投・知多	第6型式?			
1258	L79ビット	三筋壺	知多産	猿投・知多	第6型式?			
1259	包含層	広口壺	知多産	試料化せず				

V. 調査のまとめ

1. 蚊山古墳群

1. 古墳群の範囲

蚊山遺跡左郡地区とケカノ辻・角垣内地区の調査で合計23基の古墳の痕跡が検出された。

今回の調査以前、度会郡玉城町内には約240基の古墳が存在あるいは存在していたことが知られていたが、蚊山遺跡の所在する岩出集落周辺は古墳分布の空白地域とされていた。戦後しばらくまで「塚」とよばれていた小丘が畑の中に残っていたことを知り、調査区内にある「塚名」という小字名に注目したのは、迂闊にも調査が始まつてからのことであった。地元で「塚」とよばれていたのは7号墳の墳丘だったらしい。

蚊山古墳群は開墾により全ての墳丘が削平されて

しまい、地表面の観察のみではその広がりを知ることができない。しかし、左郡地区の南側は小規模な谷川へ向かう急傾斜地であること、西側は地盤が不安定な湿地状の沼田であること、所リ垣地区、蚊山地区の調査で古墳が検出されなかつたことなどから南側、西側、東側へ広がつたことは考え難い。北側についてもケカノ辻・角垣内地区の調査結果を参考にする限りでは古墳が広い範囲に分布していたとは思えない。つまり、一連の発掘調査で蚊山古墳群の主要部分が検出されたと考えられる。

2. 群構成と変遷

古墳の分布状況をみると、西、北、東の3つの群

5 0 0	6 0 0	時期 不明
9号墳(S X 5 3)		15号墳(S X 9 5)
11号墳(S X 6 1) …… 7号墳(S X 3 7) …… 12号墳(S X 7 2)		8号墳(S X 4 9)
	14号墳(S X 8 2)	10号墳(S X 6 0)
		13号墳(S X 7 5)
22号墳 …… 23号墳 …… 5号墳(S X 3 2)		6号墳(S X 3 3)
1号墳(S X 4)	4号墳(S X 1 5)	21号墳(S X 2 1 5)
	3号墳(S X 1 4)	2号墳(S X 7)
	20号墳(S X 1 9 6)	18号墳(S X 1 8 2)
	17号墳(S X 1 8 0)	
	16号墳(S X 1 1 3)	
	19号墳(S X 1 8 6)	

第13表 時期別古墳一覧

に大別することができる。

西の群には7~15号墳の9基が入る。築造時期がある程度推定できる古墳を中心にして見ると、5世紀末葉あるいは6世紀前半頃に11号墳が築かれたのを契機として、次に7号墳、6世紀中頃には12号墳というように木棺直葬の円墳が次々と築かれている。6世紀末葉あるいは7世紀初頭になると横穴式石室を主体部にもつ14号墳が築かれるが、その後古墳の築造は行われなくなったようである。

北の群は5・6・22・23号墳の4基である。6世紀初頭に22号墳が築かれたのを契機として、23号墳、6号墳、5号墳が次々と築かれていったと思われる。6世紀後半に築かれた5号墳は蚊山古墳群中で最も大きい規模をもつ。北の群は、西の群とは同時に古墳を築き始めるが、終息は一足早い6世紀後半と思われる。しかし、見方をかえれば、西の群も北の

群もほぼ同時に木棺直葬の円墳を築くのを止め、両方の群の代表者が14号墳に葬られたとも考えられる。

東の群には1~4・16~21号墳の10基が入る。6世紀初頭に1号墳が築かれるが、その後に続く古墳はみあたらない。ところが7世紀前半には小規模な方墳が突如として多数築かれる。1号墳と他の古墳との直接のつながりはないかもしれない。このように、東の群の様相は、西・北の群と大きく異なっている。

蚊山古墳群は5世紀末葉あるいは6世紀初頭に古墳が築かれ始め7世紀前半まで続く古墳群である。検出された23基の古墳を3つの群に分けて見てきたが、さらに大きな流れの中でとらえると、初現期=11・22・1号墳、発展期=西・北の群、終末期=東の群ということができるかもしれない。

2. 中世集落

1. 各時期の土器

東海地方の中世土器の中では無釉の陶器碗と皿、つまり山茶碗・山皿の編年が最も進んでいる。南勢地方は山茶碗・山皿の代表的な生産地である知多半島、渥美半島とは伊勢湾を挟んで近距離にあり、蚊山遺跡でも比較的多くの出土をみた。しかし、出土遺物の圧倒的多数を占めるものは「南伊勢系土師器」とよばれる在地産の皿・小皿・鍋である。

南伊勢系土師器の中で鍋については詳細な型式変化の検討が行われており、年代観も示されている。皿・小皿についてはいくつかの試案が発表されているが、まとまった見解には達していない。

蚊山遺跡で検出された遺構の時期を決めるにあたっては、まず、山茶碗・山皿・瀬戸産の施釉陶器、知多産の陶器壺・片口鉢の編年および南伊勢系土師器鍋の型式分類を参考にして代表的な遺構の抽出とその前後関係の検討を行い、次に、最も普遍的に出土する南伊勢系の土師器皿・小皿の時期的变化をとらえてみた。A・B₁・B₂・Cという土師器皿・小皿の細分は、ある程度この時期的变化を念頭においている。ただし、土師器皿A・小皿Aについては異系統あるいは特殊なものと考えられるものを含んで

いる。

I 期

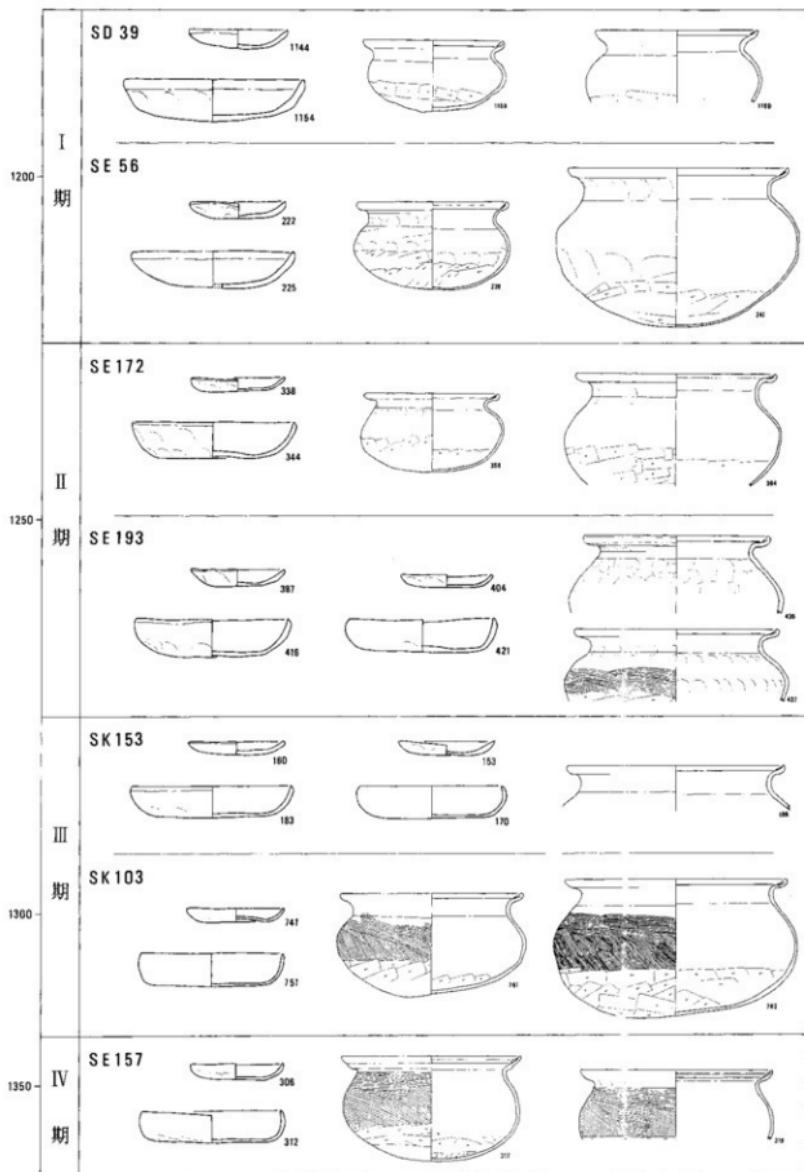
この時期の代表的な遺構としては中世墓S X70・S E56、土坑SK45・SK129、溝SD39・SD43がある。これらの遺構出土の土器は、山茶碗は瀬戸編年の第5型式に相当するもの、土師器鍋は伊藤分類の第1段階a型式、土師器皿・小皿はB₁が主流である。ただし、S X70は瀬戸編年の第4型式に相当する山茶碗を出土し、土師器皿も比較的古い様相を示している。また、S E56は土師器皿がやや小振りなこと、土師器鍋が伊藤分類第1段階b型式を主流とすることなど新しい要素をもっている。I期は12世紀中葉から13世紀初頭にかけてと考えられる。

II 期

井戸SE172・SE193、溝SD8を代表的な遺構とするが、SD8の出土遺物にはやや混入がみられる。山茶碗・山皿は瀬戸編年の第6型式に相当するものの、土師器鍋は伊藤分類の第1段階b型式、土師器皿・小皿はB₂を主流とする。ただし、SE193からは伊藤分類の第2段階a型式・b型式の土師器鍋、土師器皿C・小皿Cがある程度まとめて出土しており、瀬戸編年第7型式に相当する山茶碗もみられ

出土遺構	遺構時期		皿 (cm)				小皿 (cm)				備考
			A	B ₁	B ₂	C	A	B ₁	B ₂	C	
溝 SD 39	I期	口 径 器 高 計測数	14.7 2.9 (1)	14.4 2.8 (15)	—	—	—	8.1 1.4 (21)	7.6 1.1 (1)	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
溝 SD 43	I期	口 径 器 高 計測数	—	14.5 2.7 (51)	—	—	—	8.4 1.4 (70)	—	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 45	I期	口 径 器 高 計測数	15.0 2.0 (1)	14.0 2.8 (8)	—	—	—	8.1 1.4 (11)	8.0 1.2 (3)	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 172	II期	口 径 器 高 計測数	—	13.6 2.9 (6)	12.9 2.6 (139)	—	—	8.3 1.3 (5)	7.7 1.2 (142)	—	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
溝 SD 8	II期	口 径 器 高 計測数	—	—	12.7 2.7 (58)	12.1 2.8 (12)	9.7 1.6 (2)	10.2 1.4 (1)	8.0 1.2 (31)	7.7 1.2 (15)	完存およびほ ば完存のもの のみ計測
井戸SE 193	II期	口 径 器 高 計測数	—	—	12.6 2.6 (34)	12.0 2.5 (19)	8.8 1.3 (2)	8.0 1.4 (1)	7.5 1.2 (53)	7.5 1.1 (23)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 153	III期	口 径 器 高 計測数	—	—	12.7 2.6 (18)	11.4 2.6 (66)	8.0 1.8 (1)	8.0 1.4 (1)	7.9 1.2 (37)	7.6 1.1 (166)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 90	III期	口 径 器 高 計測数	—	—	—	11.7 2.4 (6)	—	—	—	7.7 1.1 (4)	口縁部残存度 1/5以上の もののみ計測
土坑SK 103	III期	口 径 器 高 計測数	—	—	13.0 2.4 (1)	11.6 2.6 (26)	—	—	—	7.6 1.1 (13)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 161	III期	口 径 器 高 計測数	—	—	—	11.5 2.5 (29)	—	—	8.3 1.0 (2)	7.5 1.0 (40)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
土坑SK 104 (中世墓)	III期	口 径 器 高 計測数	—	—	—	11.4 2.5 (14)	7.5 1.5 (1)	—	7.6 0.9 (1)	7.7 1.0 (8)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測
井戸SE 134	IV期	口 径 器 高 計測数	—	—	12.8 2.4 (1)	11.6 2.3 (3)	—	—	—	8.0 1.3 (4)	口縁部残存度 1/5以上の もののみ計測
井戸SE 157 (中世墓)	IV期	口 径 器 高 計測数	—	—	12.0 2.6 (1)	11.3 2.5 (15)	—	—	—	7.6 1.2 (15)	口縁部残存度 1/3以上の もののみ計測

第14表 主な遺構出土の土師器皿・小皿平均計測値一覧



第101図 主な遺構出土の土器小皿・皿・鍋（小皿・皿=1:4, 鍋=1:6）

る。Ⅱ期は13世紀前葉から中葉にかけてと考えられる。

Ⅲ 期

土坑S K153・S K103・井戸S E90を代表的な遺構とする。土師器鍋はⅡ期と同じく伊藤分類の第1段階b型式が主流であるが、器壁が薄くなり、体部外面に細かいハケ目が施されているものが目立つ。伊藤分類の第2段階c型式や第3段階a型式の鍋を出土する遺構もある。土師器皿・小皿にはB₁あるいはB₂に近いものもみられるが、口径が11.5cm前後のCが圧倒的に多い。Ⅲ期は13世紀後葉から14世紀前葉にかけてと考えられる。

Ⅳ 期

井戸S E134、中世墓S E157を代表的な遺構とする。山茶椀は混入と思われる小片以外は出土しない。土師器皿・小皿は混入と思われる小片以外は全てCで、口径はⅢ期のものと変わらないが、器壁がさらに薄くなり、口縁部の内側への反りが強くなる傾向がみられる。土師器鍋は伊藤分類の第3段階b型式が主流である。Ⅳ期は14世紀中葉から15世紀中葉にかけてと考えられる。

2. 中世集落の変遷

第102・103図に各時期の遺構の配置を示した。ただし、この図には数多くあるピットや時期不明の遺構は省略してある。およそその時期しかわからない遺構を複数の時期の図に書き込んだ場合もあるが、その間連続して存在していたという意味ではないので注意していただきたい。なお、井戸については存続期間が長いと考えて、廃絶時期には実線で、その一時期前の図には点線で示した。

I 期

左郡地区で確認できる最古の建物跡は12世紀末葉のものである。しかし、わずか1基といえども12世紀中葉の中世墓がみられることから、その頃の建物跡が付近に残っている可能性がある。ケカノ辻・角垣内地区の建物跡の状況は不明な点が多いが、所り垣地区でも左郡地区と同様のことといえる。これらのことから蚊山遺跡の集落は12世紀中葉に始まったと考えられる。世の中が古代的な社会から中世的な社会へと大きく変貌する激動期に蚊山集落が形成さ

れ始めたのである。

この時期の主要建物としてS B128、S B164、S B27の3棟を挙げることができる。S B128とS B164、S B128とS B27はそれぞれ約30m離れており、S B164とS B27の間には区画溝の機能をもつと考えられるS D118があることから、それぞれ独立した屋敷地を構えていたと想定できる。S D118・S D13・S D200を一体として捉えれば、ここにこれらの溝を側溝としていた道路が存在していた可能性もある。

この時期の建物の多くは中世の一般的な建物と同じく基盤目状に束柱が並ぶ構造をしているが、柱掘形内に根石がみられないのが特徴である。S B128はこの時期の建物の中では建物面積が最も大きいこと、柱掘形が他の建物よりひとまわり大きいこと、建物内の南東隅に方形土坑をもつことなどから、集落の中でも中核的な建物だったと考えられる。

調査区の東部に屋敷地がみられる一方、中央部には少数の中世墓が、西部には山間の谷水を集めた自然流路S D43がみられる。S D39は自然流路の水を田畠にひくための灌漑用水路として設けられたものと考えられる。集落の始まりと相前後して水田利用には不適だったと思われるこの付近の河岸段丘の開墾が本格化したようである。

Ⅱ 期

この時期には屋敷地として利用される土地が西側へ広がり、蚊山集落の原型がほぼ完成する。

東部の主要な建物としてS B131、S B159、S B34が挙げられる。S B131はⅠ期の中核的な建物であったS B128の南側に新たに屋敷地を確保して建てられたものであろう。S B128の跡地には規模の小さい建物が建てられている。S B159は明らかにⅠ期のS B164に続く建物である。S B34は位置がS B159に寄りすぎているが、S B27に続くものとしておく。隣接するこの4つの屋敷地を2分するかのように道路S R87が走っている。

東部の4つの屋敷地から大きく離れた中央部にもS B98とS B51を主要建物とする2つの屋敷地がみられる。S B98の屋敷地の場合、Ⅱ期に入ってから大溝S D35Aの西側に屋敷地を確保した家族がまずS B76を建てたが、途中で「く」の字に曲がって流

れる S D 35 A は不都合な点が多かったため流れを改修して S D 35 B を作り、新たに S B 9 を建てたと考えられる。S B 9 の柱列が S D 35 B にかかっているよう見えるが、S D 35 B の肩の部分が後に崩れたためそう見えるだけであろう。S B 51 の西約20mにある S B 9 は規模が小さいため一つの屋敷地内の主要建物であったのか、それとも住居から離れた位置に作られた作業小屋的なものであったのかは断定し

がたい。

この時期の建物はほとんどが東柱をもち、柱掘形の中に根石がみられる。建物規模は I 期より大きいものが増加している（第15表）。中世墓の数は多くないが A 型から E 型まで全ての型がそろっており、その中でも B 型が主流になる傾向が現れてきている（第17表）。

II 期の遺構で注目すべきものに S D 8 とその西側

身合規模	I 期	II 期	III 期	Ⅳ小Ⅳ期	Ⅴ期	時期不明
5間×4間	—	—	1	—	—	—
4間×4間	1	—	—	—	—	—
4間×3間	1	4	4	—	—	—
4間×2間	—	—	—	1	—	—
3間×3間	—	2	2	1	—	—
3間×2間	4	3	2	—	1	—
3間×1間	—	—	2	1	—	—
2間×2間	2	1	2	5	—	—
2間×1間	—	—	—	—	—	1
面積不明	1	1	—	2	—	—
合計	9	11	13	10	1	1

第15表 時期別掘立柱建物規模一覧

建物総面積	I 期	II 期	III 期	Ⅳ小Ⅳ期	Ⅴ期	時期不明
約32坪～	—	—	1	—	—	—
約28坪～	—	—	—	—	—	—
約24坪～	—	—	—	—	—	—
約20坪～	—	—	—	—	—	—
約16坪～	1	2	1	—	—	—
約12坪～	1	3	3	—	—	—
約8坪～	1	2	1	1	—	—
約4坪～	4	2	6	5	1	—
0坪～	1	1	1	3	—	1
面積不明	1	1	0	1	—	—
合計	9	11	13	10	1	1

第15表 時期別掘立柱建物規模一覧

B型中世墓		底 部 長 道											
		0.6m～	0.7m～	0.8m～	0.9m～	1.0m～	1.1m～	1.2m～	1.3m～	1.4m～	1.5m～	1.6m～	1.7m～
底	1.1m～						Ⅲ期=1 不明=1						
	1.0m～					Ⅲ期=1			Ⅲ期=1	Ⅲ期=1			
部	0.9m～							Ⅲ期=1				Ⅲ期=1	Ⅲ期=1
	0.8m～				Ⅲ期=1 Ⅳ期=2		Ⅲ期=2	Ⅰ期=1	Ⅱ期か Ⅲ期=1				
道	0.7m～		Ⅲ期=1	Ⅲ期=2 Ⅳ期=1	Ⅲ期=1								
	0.6m～	不明=1		Ⅲ期=2									

第16表 B型中世墓の底部規模一覧

時期	I 期	II 期	III 期	IV 期
獨立 建 物		SB 2 SB 9	SB 54 (SB 68 + SB 19)	
		SB 51	SB 68	
		SB 98	SB 74	SB 85 (SB 93)
		SB 76		SB 97
	SB 24		SB 184	
	SB 25		SB 21	(SB 20)
	SB 23			
	SB 164	SB 158	SB 158	(SB 160 + SB 179)
	SB 27	SB 34		
	SB 128	SB 112	SB 126	(SB 127)
井 戸	SB 100	SB 125		
	SB 145	SB 131	SB 133	
		SB 137	SB 136	
			SB 141	(SB 143) SB 142
			SB 205	(SB 191) (SB 199)
井 戸	SE 3	SE 172 SE 193 SE 194	SE 90	SE 79 SE 134
中 世 基 礎	A 型	SX 70	SX 88	SX 120 SX 225
		SX 78	SX 40 (SX 92)	SX 46 SX 59
			SX 63	SX 105
			SX 77	SX 138
			SX 168	SX 140
			SX 171	SX 149
	B			SX 152
				SX 162
				SX 165
				SX 167
D 型	C 型	SE 56	SE 57	SX 28 (SE 207) SK 104
		SX 38	SK 83	SX 151 (SX 189) SX 166
				SX 175 SX 183
				SX 222 (SX 41)
E 型		SX 67 (SX 96)	SX 5 SX 84	
土 坑		SK 129	SK 153 (SK 103)	SK 204

第17表 時期別中世遺構一覧



第103図 III期・IV期の遺構配置図 (1:1,200)

を巡る S D18がある。一般的な集落の有力者よりさらに権力を持った者の屋敷を囲う堀とそれに伴う溝と思われるが、全体像がつかめないため残念ながらそれ以上のことは言えない。

III 期

蚊山遺跡中世集落の最盛期ともいいくべき時期で、調査区の西端近くにも SB 2 を主要建物とする屋敷地が新たに設けられている。また、調査区の東端近くにも当然屋敷地が設けられていたと思われる。

II 期から続く屋敷地にも順調に新しい建物が築かれているが、I 期以来の屋敷地には消長がみられる。I 期 S B27 → II 期 S B34と続いた屋敷地の建物は III 期にはなくなり、I 期の中核的な存在であった SB 128の屋敷地に建てられた建物は住居とは言いがたい規模に縮小してしまっている。一方、I 期の主要建物の中で最も小さかった SB 164の屋敷地には III 期になると総面積が32坪という大規模な建物の SB 158が建てられ、蚊山集落の中核的な存在に成長している。

建物の増加に伴って中世墓の数も B型を主流として爆発的に増加した。中世墓は各屋敷地の隅、あるいは屋敷地と屋敷地の間にある空閑地と思われる位置に築かれている。特に、SB 158のすぐ西側は一定の広がりをもつ集団墓地といるべき中世墓の密集地となった。集落の規模が大きくなり人口が増えるとともに、特定の墓地が必要となってきたのであろう。この時期最大の建物である SB 158のすぐ西側に集落の墓地が形成されたことには興味が引かれる。B型の中世墓は平面形が方形で墓壙が深いもので、座棺を使用した土葬墓と考えている。平面の長辺と短辺の長さの関係から、正方形に近いもの、長方形に近いもの、その中间のものというようにさらに3つの型に分類できる（第16表）。時期的な傾向ははっきりしないが、新しくなるほど正方形に近いものが増えるように思える。

IV 期

第103図のIV期の遺構配置図には数棟の建物跡が

書き込んであるが、明確にIV期の建物としたのは SB 142の1棟のみである。たとえ時期が不明確な建物跡をすべてIV期のものとしてもその数や建物規模は衰退傾向を示していることには変わりがない。中世墓はD型が主流になるが、建物跡と同様に総数は激減している。

3. 中世集落のまとめ

このように、12世紀中葉に集落の萌芽がみられ13世紀後葉から14世紀前葉にかけて最盛期を迎えた蚊山遺跡の集落も、14世紀中葉以降には見る餘もないほど閉鎖とした状態になってしまう。明治28年に神宮司庁が発行した『神都名勝誌』には岩出の地に長保年間（999～1004年）から明徳・応永年間（1390～1428年）までの約400年間、神宮祭主の館があつたと記されている。それが事実であったとすれば館の近くにはその間、それ相当の規模の集落が存在し続けていたと考えるのが自然である。そういう意味では存続期間がより短い蚊山遺跡の家々は完全に独立した集落を形成していたのではなく、祭主館の定着とともに拡大していく岩出集落の一部あるいは支村だったといえる。南勢地方に大きな爪痕を残した南北朝の争乱により祭主の権威は急速に衰え、それにより岩出集落の規模も縮小を余儀なくされたのであろう。岩出集落の浮沈に強く影響された左郡地区にはやがて人が住まなくなり、そこで多くの人々が生まれ、暮らし、死にそして葬られたことも次第に忘れ去られていったのである。

【註】

① 伊藤裕伸「中世南伊勢系の土葬器に関する一試論」『Mie history』vol. 1 三重歴史文化研究会1990

② ①に同じ

③ 藤澤良祐「瀬戸古窯址群」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要1』 1991

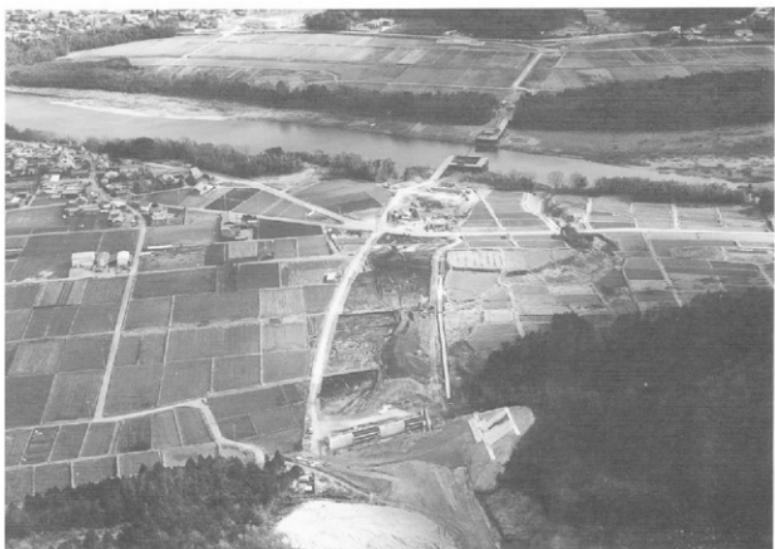
藤澤良祐「山茶塚と中世集落」「尾呂」瀬戸市教育委員会 1990

④ ①に同じ

P L A T E



調査区遠景（北上空から）



調査区全景（北西上空から）

図版2



S X53 (9号墳) 周辺（上空から・北は左上）



S X61 (11号墳), S X72 (12号墳) 周辺（上空から・北は左上）

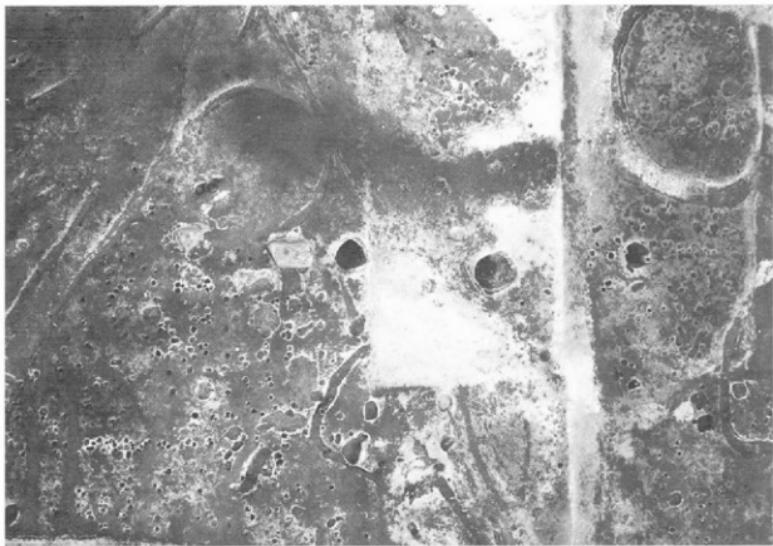


S B 76・85・93・98周辺（上空から・北は左上）



S X 215 (21号墳), S B 158周辺（上空から・北は左上）

図版4



S X196 (20号墳), S B128周辺 (上空から・北は左上)



調査区西部 (南東から・調査中)

図版5



S D43付近（南東から）



S B 2（南西から）

図版6



S X53 (9号墳) (東から)



S X61 (11号墳) 付近 (北西から)

図版7



S B68 (北から)



S X37 (7号墳)、S B51・54 (南西から)

図版 8



S B74, S X82 (14号墳) (北東から)



S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (南西から)



S X82 (14号墳) (西から)

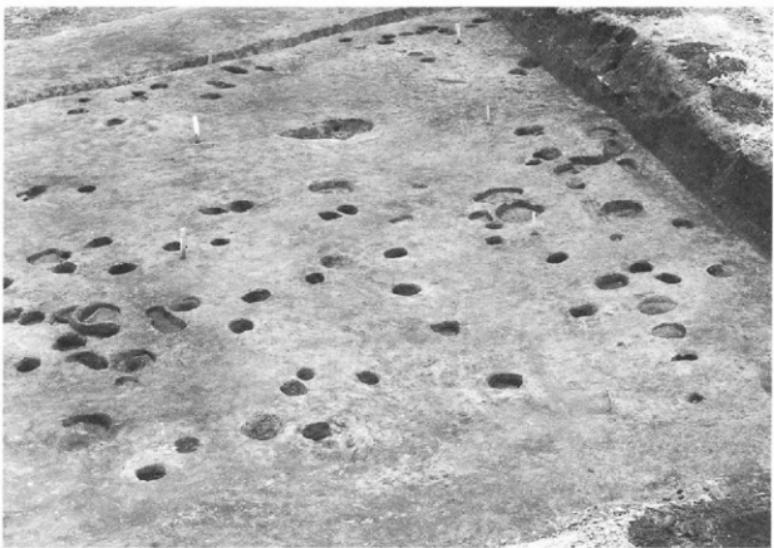


S B 76・85・93・98 (北から)



S X 215 (21号墳) (北東から)

図版10



S B 24 (北西から)



S K 153付近 (西から)



S R 87, S D 118付近（北東から）



S D 8付近（南東から）

図版12



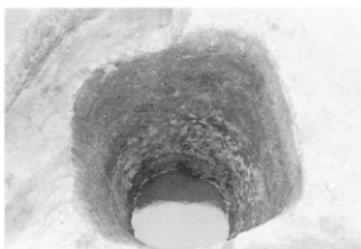
S B131・133・136・137（北から）



S B100・125・126・127・128（西から）



S X 196 (20号墳) (北から)



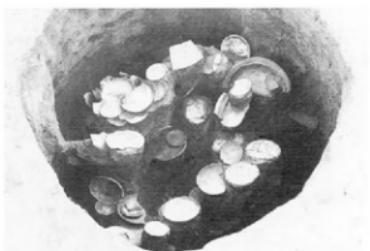
S E 3 (南東から)



S E 56 (北から)

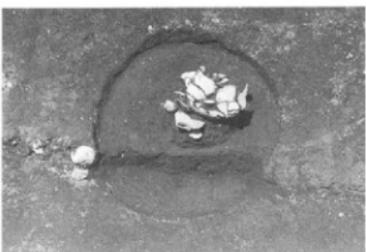


S E 134 (南から)



S E 172 (北から)

図版14



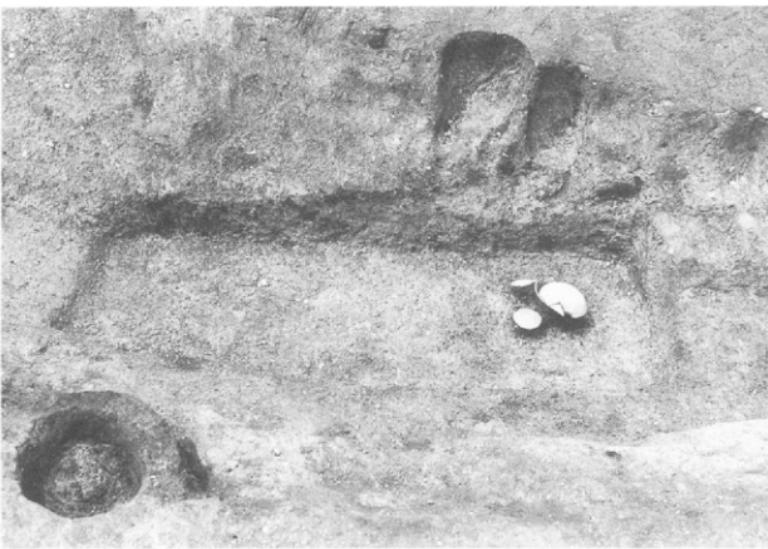
S X 5 (南東から)



S X 38 (東から)



S X 46 (南から)



S X 70 (南から)



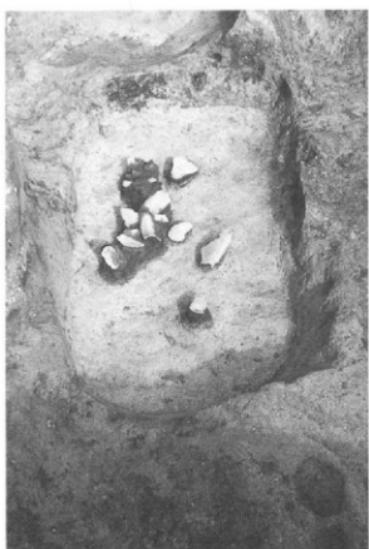
S X94（南から）



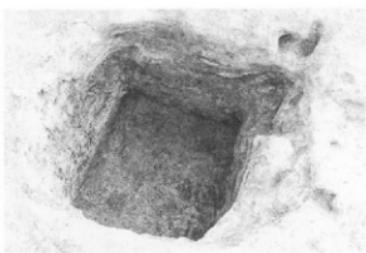
S X96付近（北から）



S X152（南から）



S X140（西から）



S X167（北から）



S X189（東から）

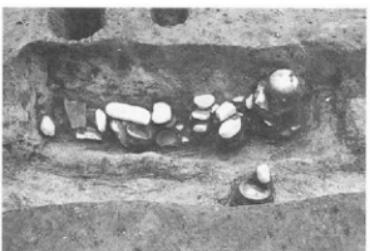
図版16



S X 223 (南東から)



S X 88・224 (南西から)



S X 225 (東から)



S K 26 (西から)



S K 81 (南東から)



S K 89 (南東から)

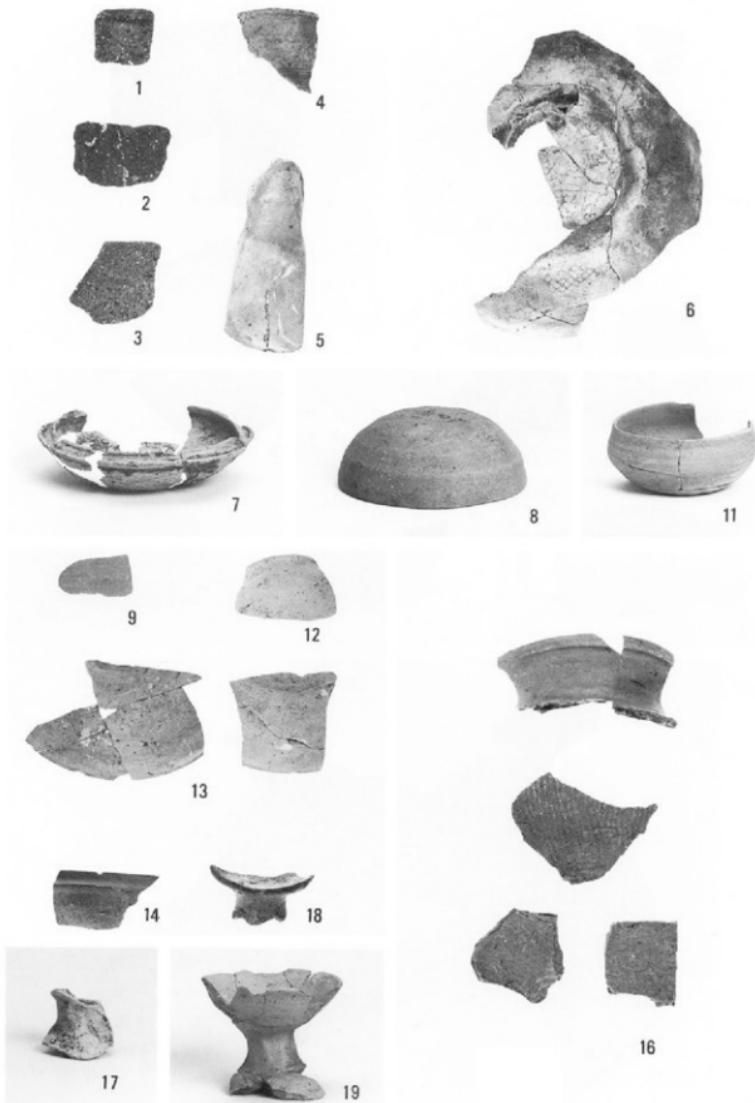


S K 129 (南東から)



S K 129 (北西から)

図版17



弥生時代以前・古墳時代の遺物

図版18



10



15



22



24



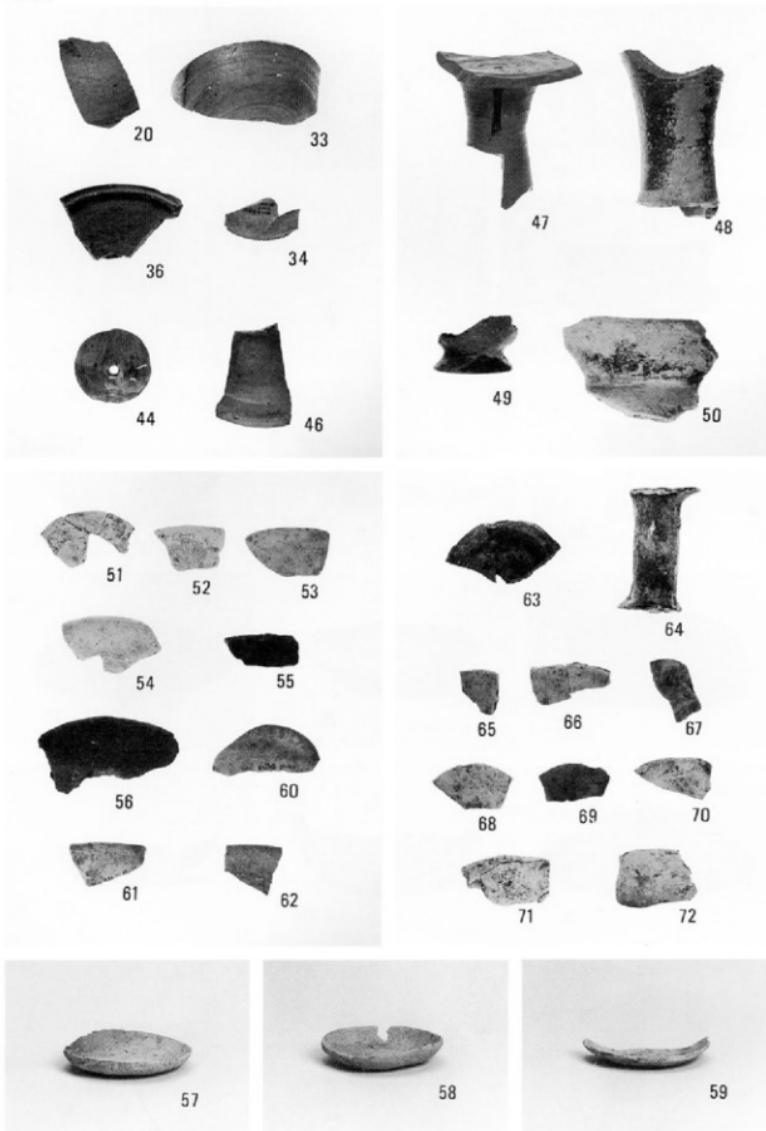
25



23

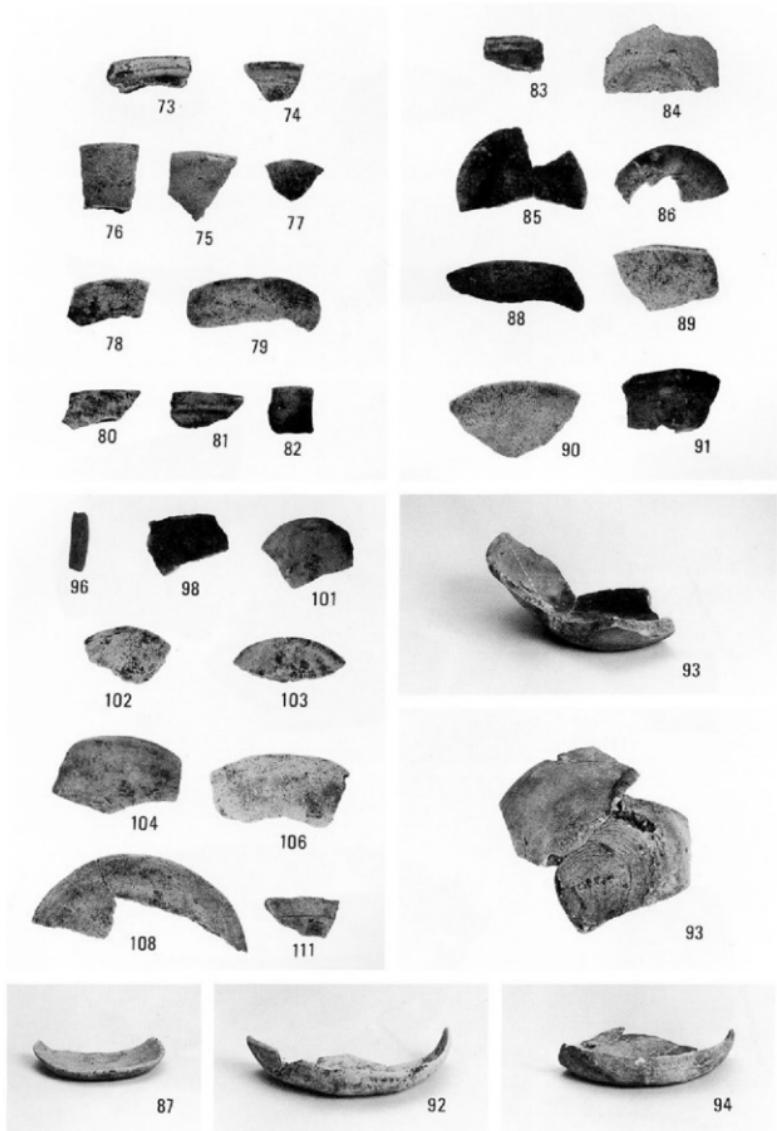


図版20



古墳時代の遺物・掘立柱建物出土遺物

图版21

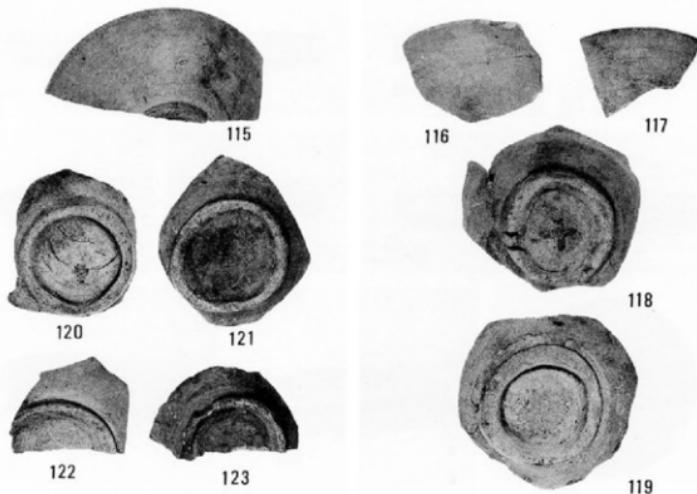


据立柱建物出土遗物

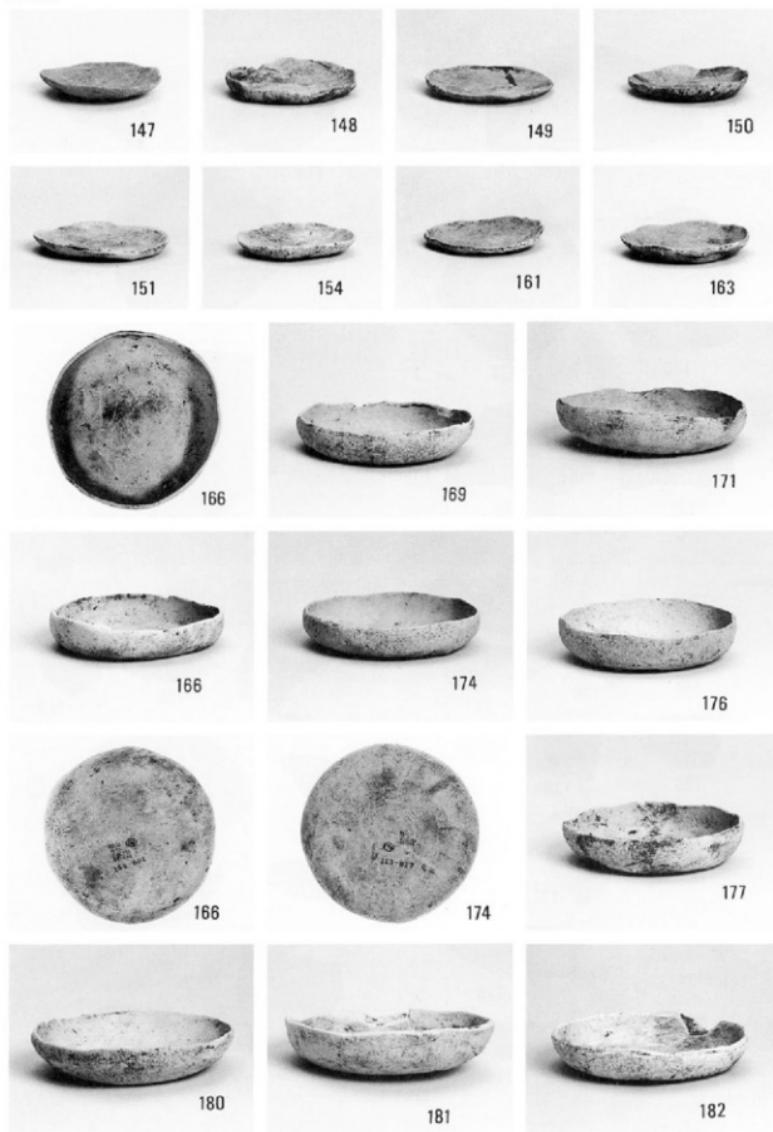
図版22



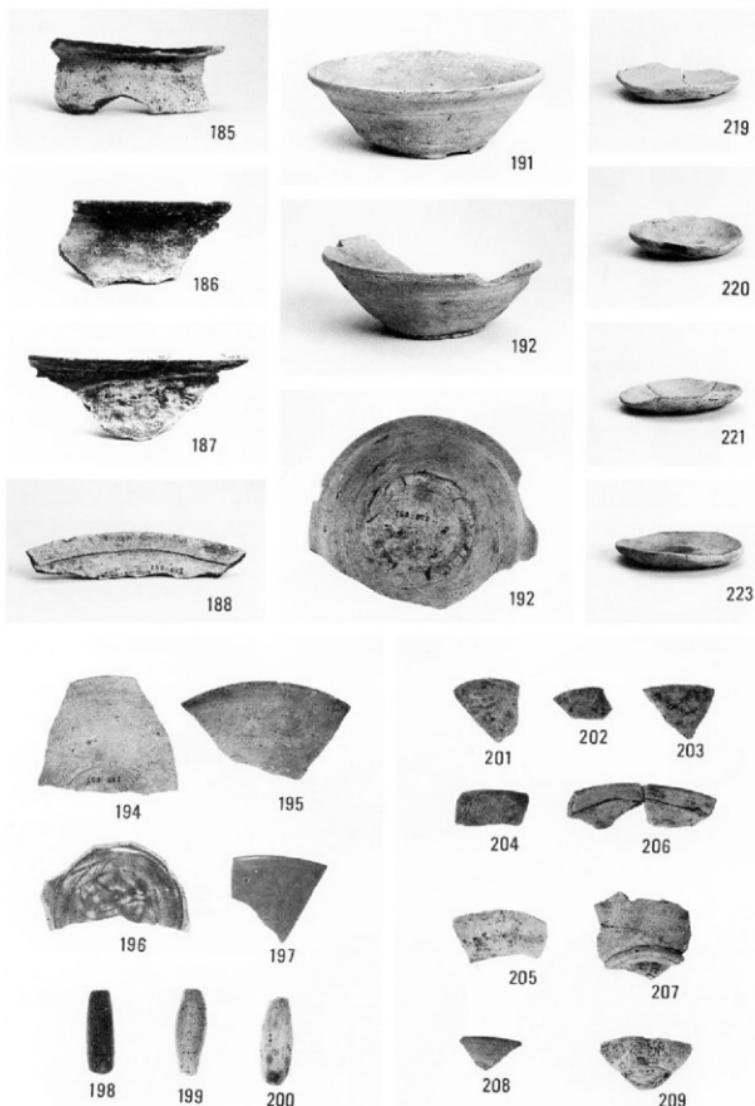
掘立柱建物出土遺物



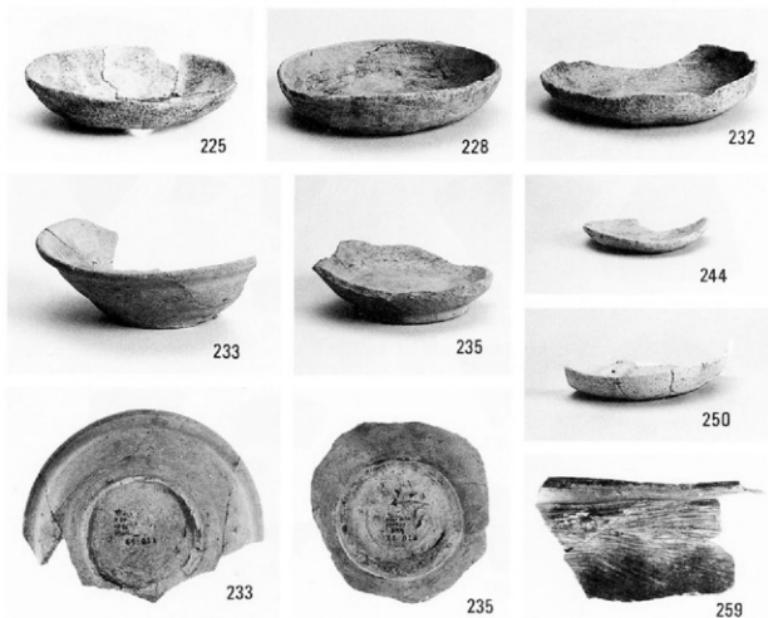
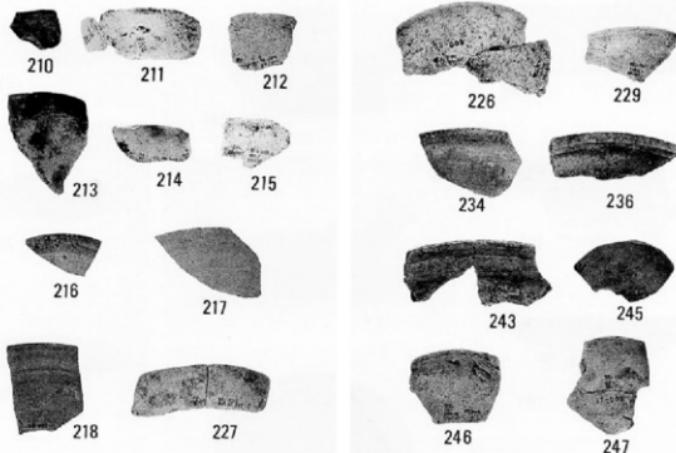
图版24



振立柱建物出土遗物



图版26



掘立柱建物・井戸出土遺物



238



239



240



260



261



262



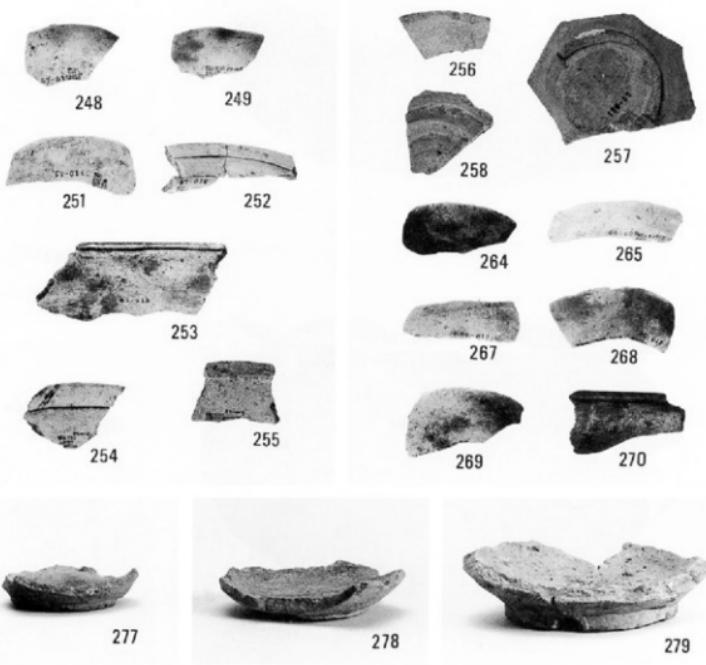
241

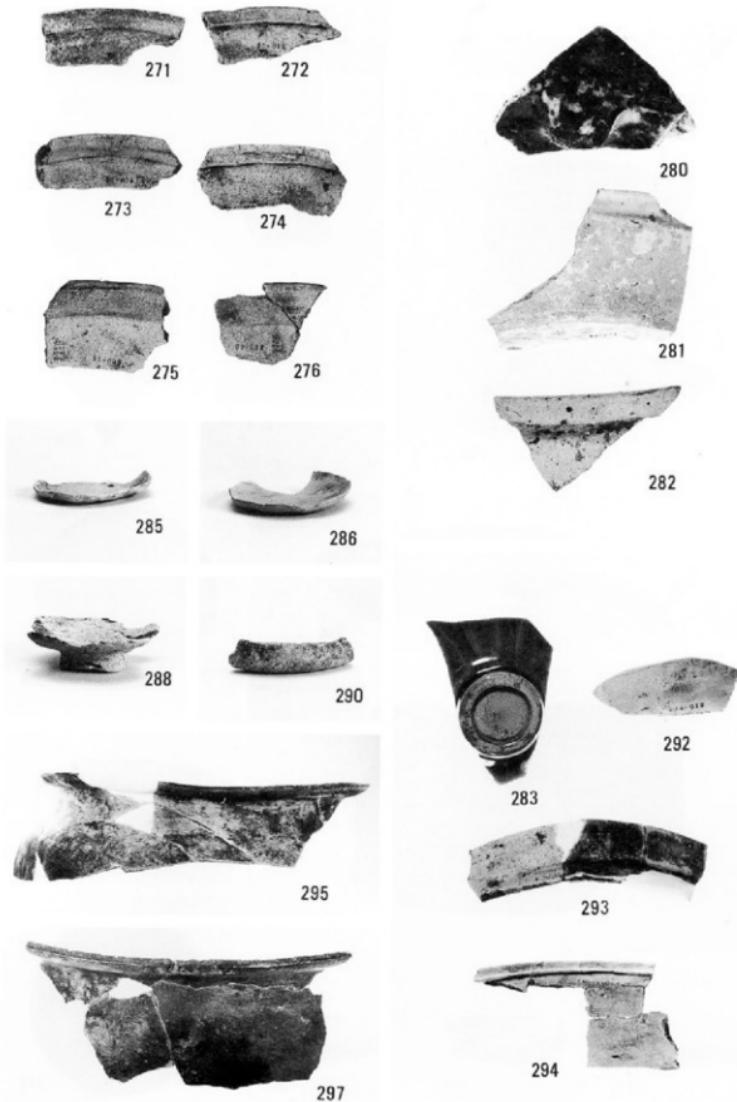


263



266





図版30



299



302



303



321



300



323



322



301



325



326



296



314



298



314



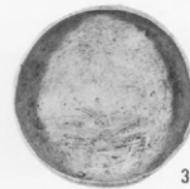
304



306



307



314

図版31



井戸出土遺物

図版32



344



345



346



348



357



350



361



353



355



363



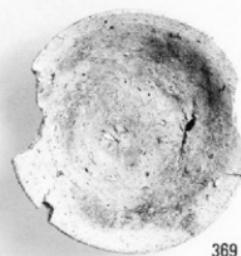
365



367



366



369



369



379



369



372

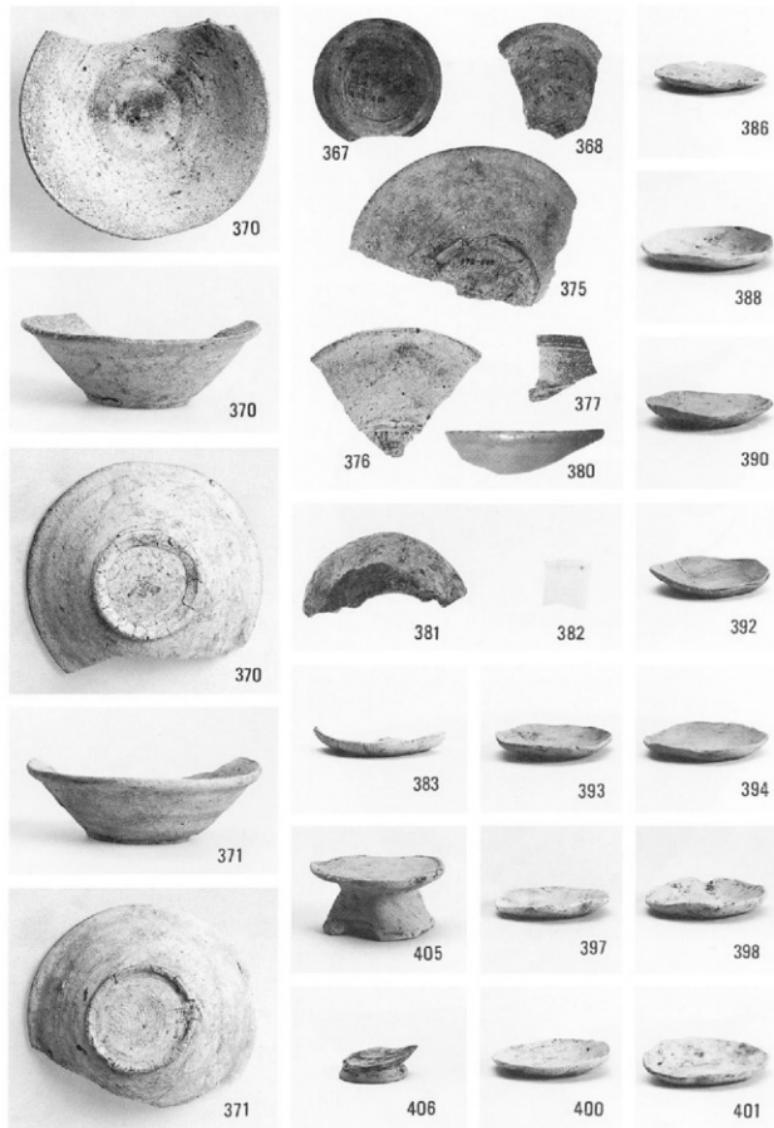


373



378

図版34



井戸出土遺物



409



412



413



414



415



428



418



419



430



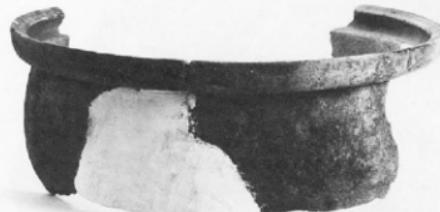
422



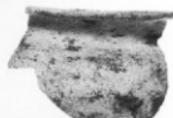
423



431



429



432



433



435

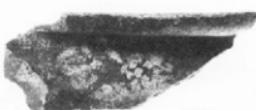


434

図版36



437



441



440



443

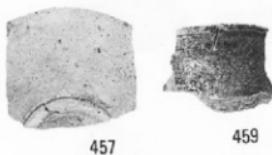


447

図版37



449



452



452



453



455



456



453



455



456

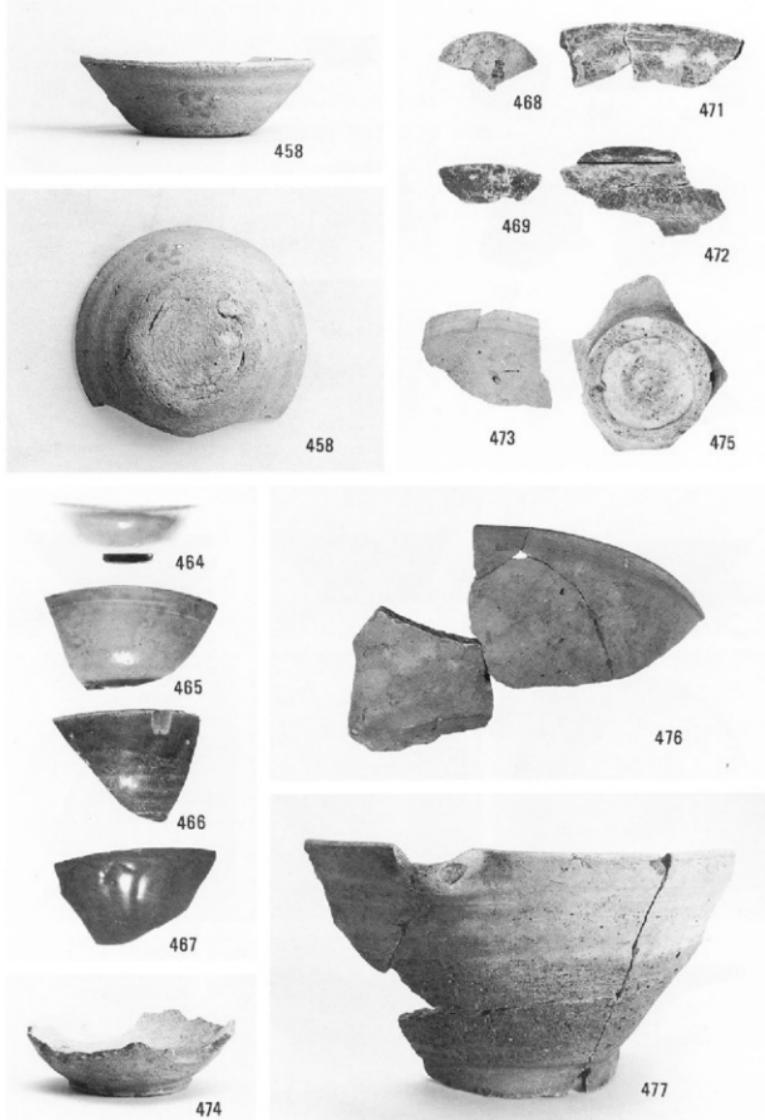


460



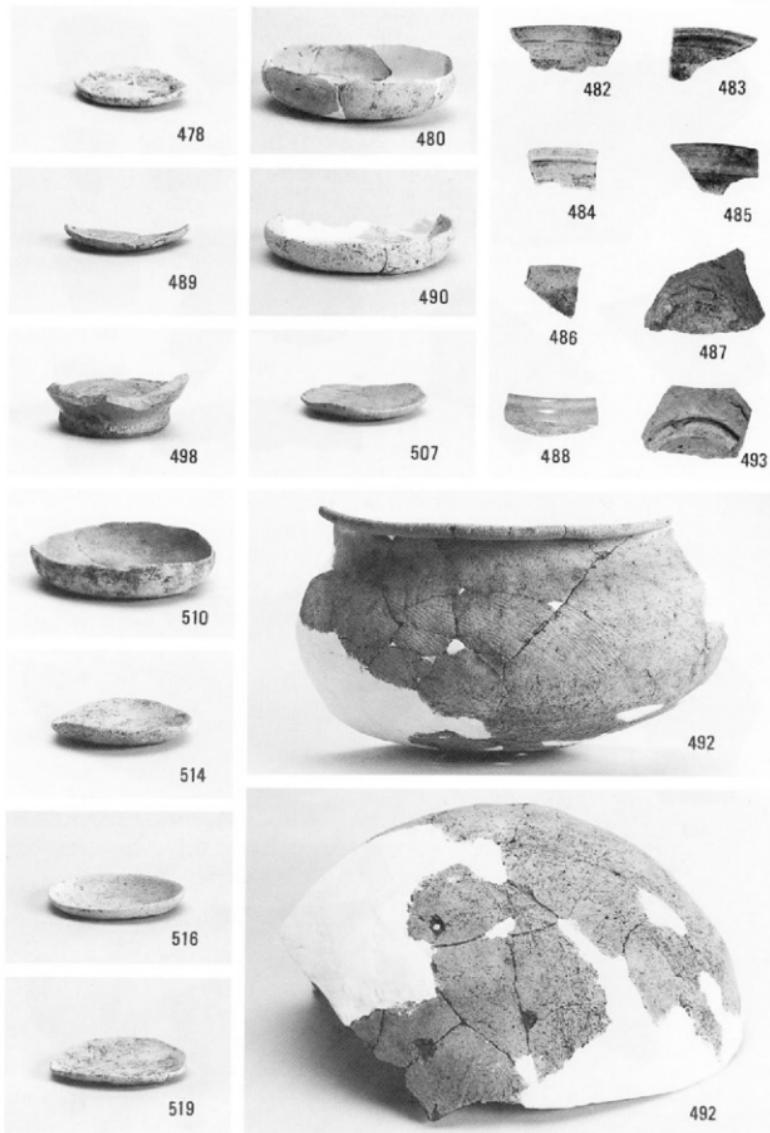
461

図版38



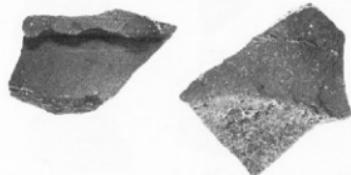
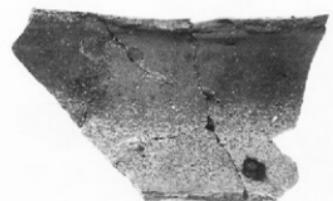
井戸出土遺物

図版39



井戸・中世墓出土遺物

図版40



494



499

500

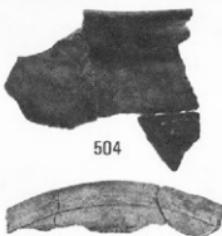
501



502

503

505



504



513



515

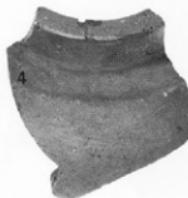


497

495



526



496



527



523



524



525



531



537



533



535



534



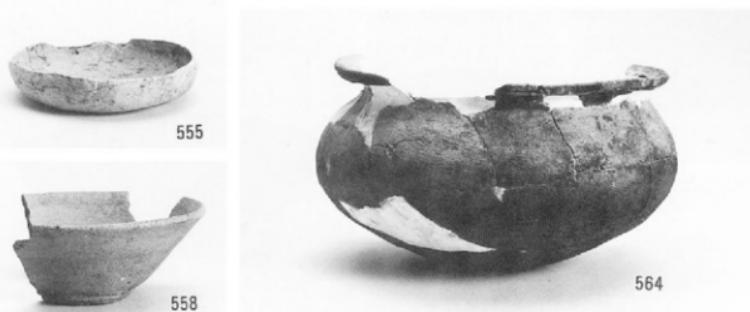
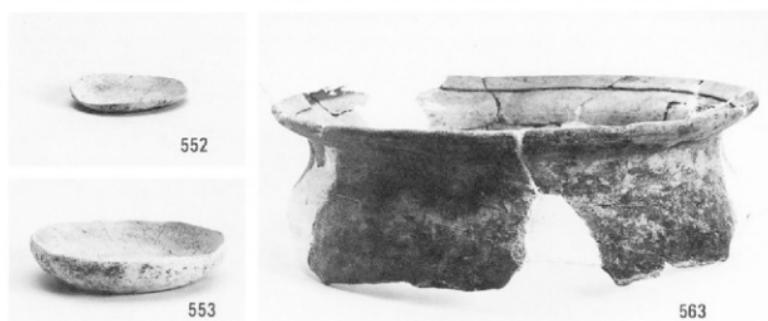
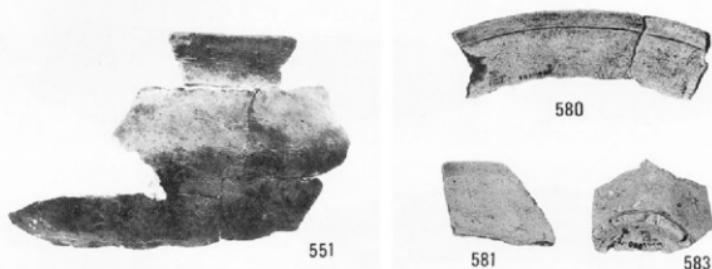
536



534

图版42





図版44



560



561



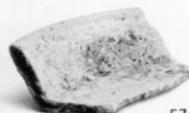
565



571



570



574



573



576



575



577



584



585

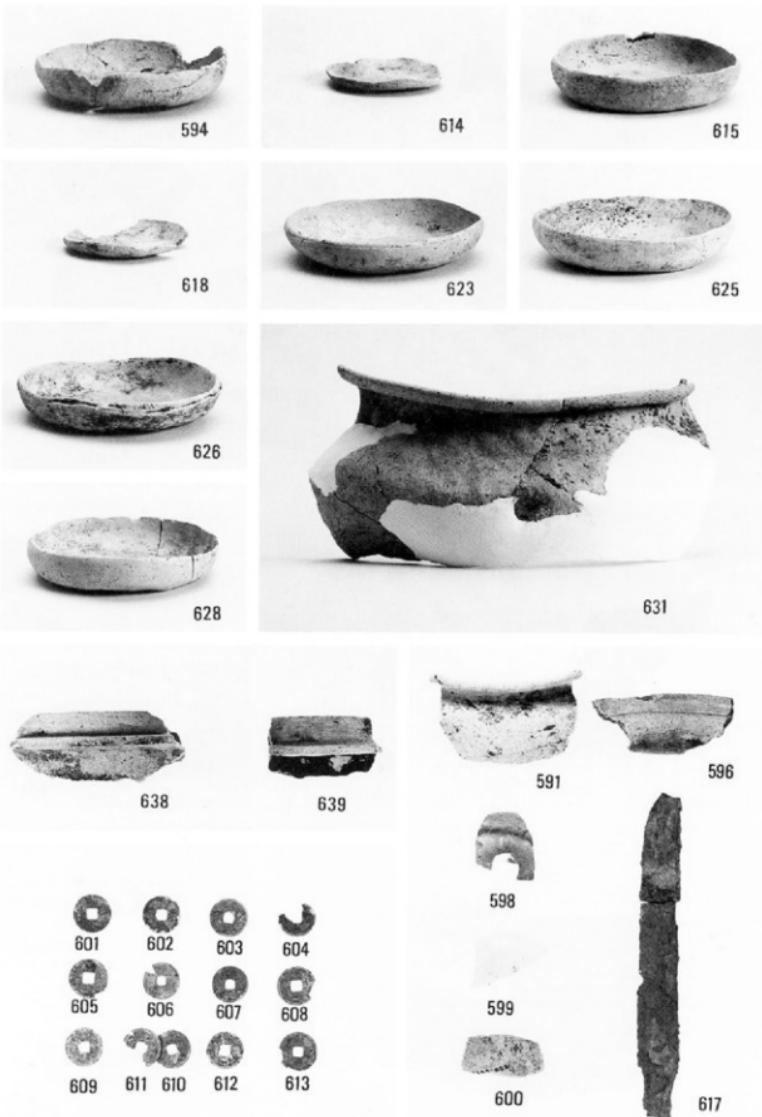


592



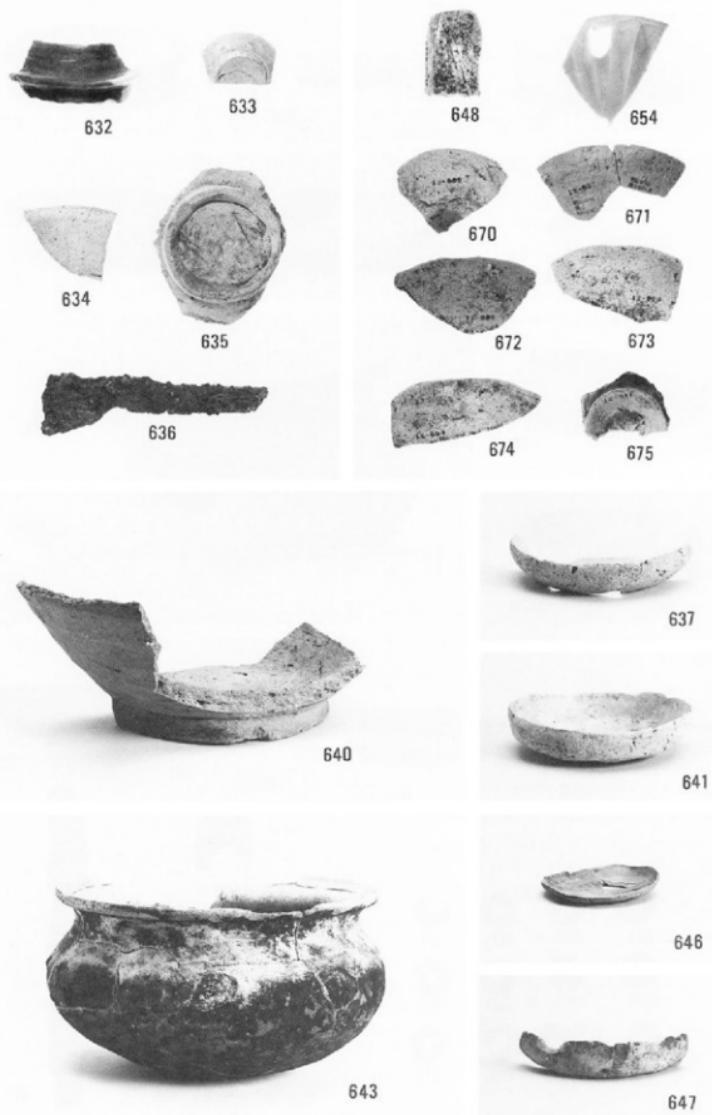
582

図版45



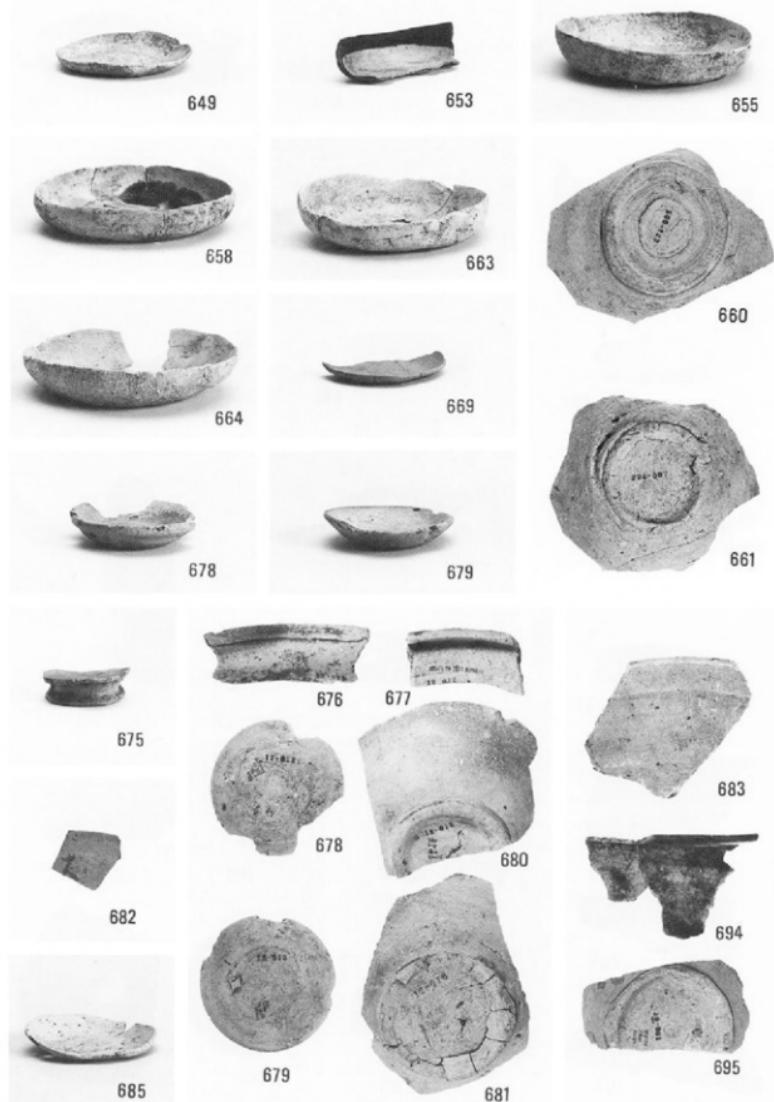
中世墓出土遺物

図版46



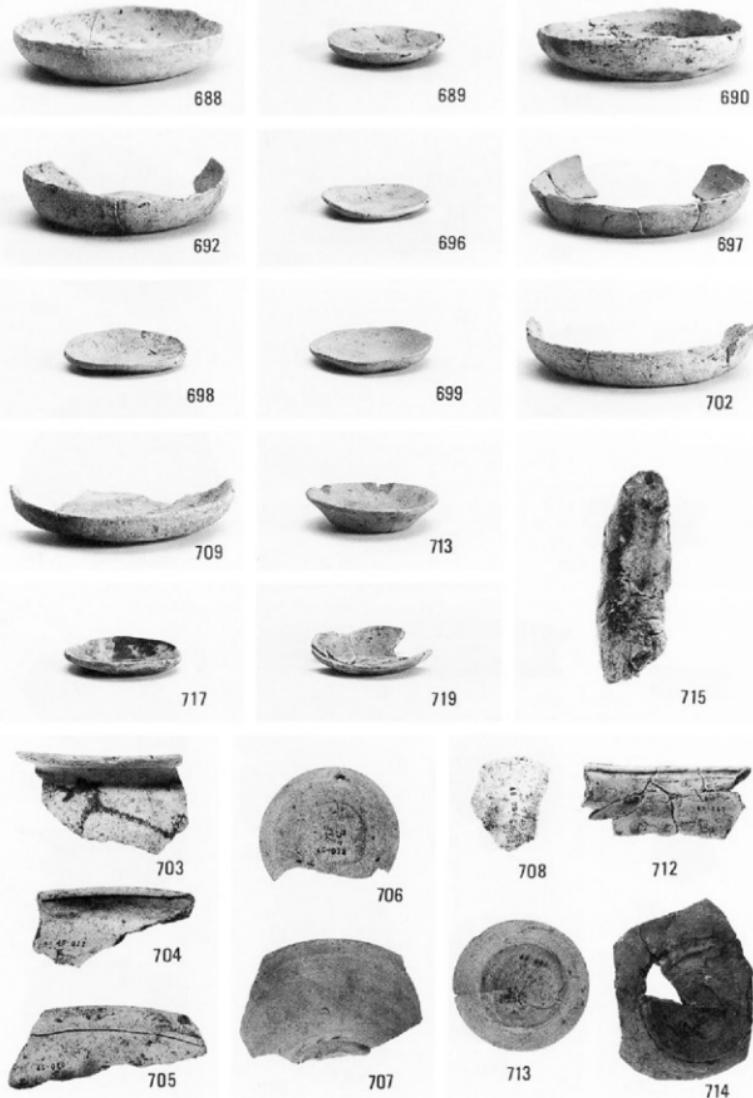
中世墓・土坑出土遺物

図版47



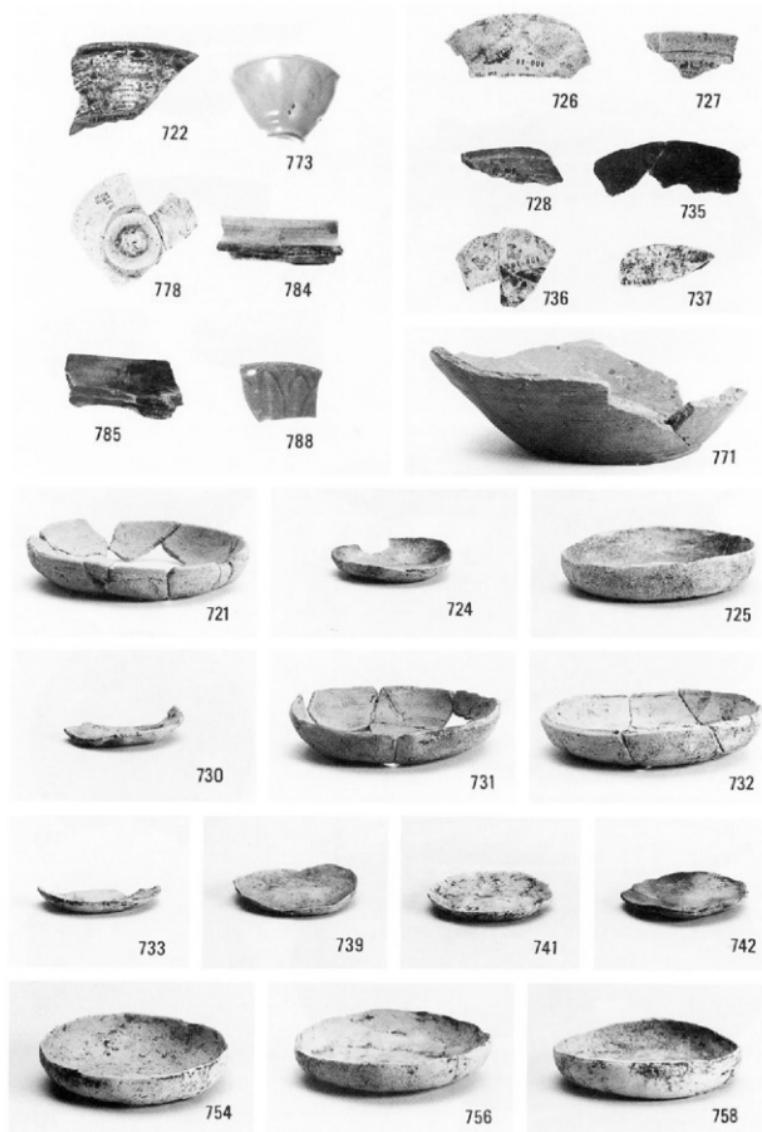
中世墓・土坑出土遺物

図版48



土坑出土遺物

図版49



土坑出土遺物

图版50



761



759



760



767



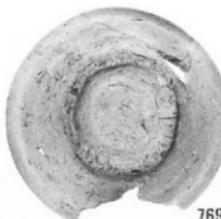
768



765



769



769



766



770



787



780



774



783



781



776



790



786



794



795



789



796



797



798



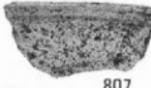
803



799



800



807



808



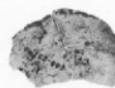
805



789

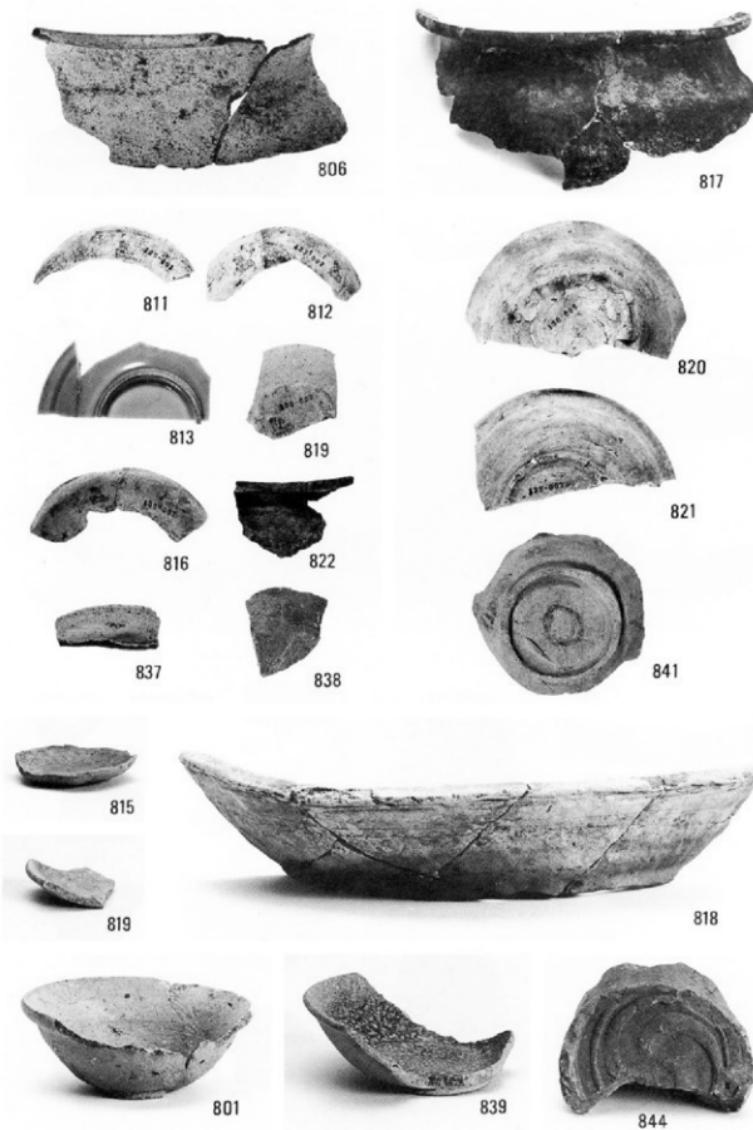


809

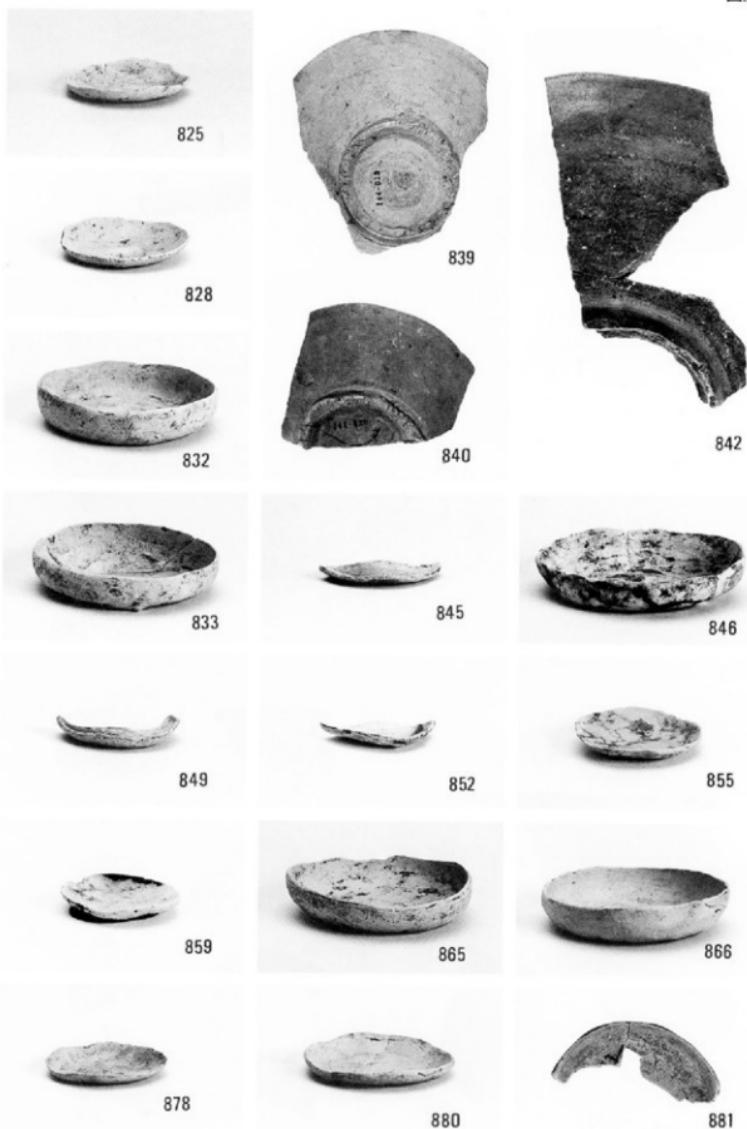


810

図版52



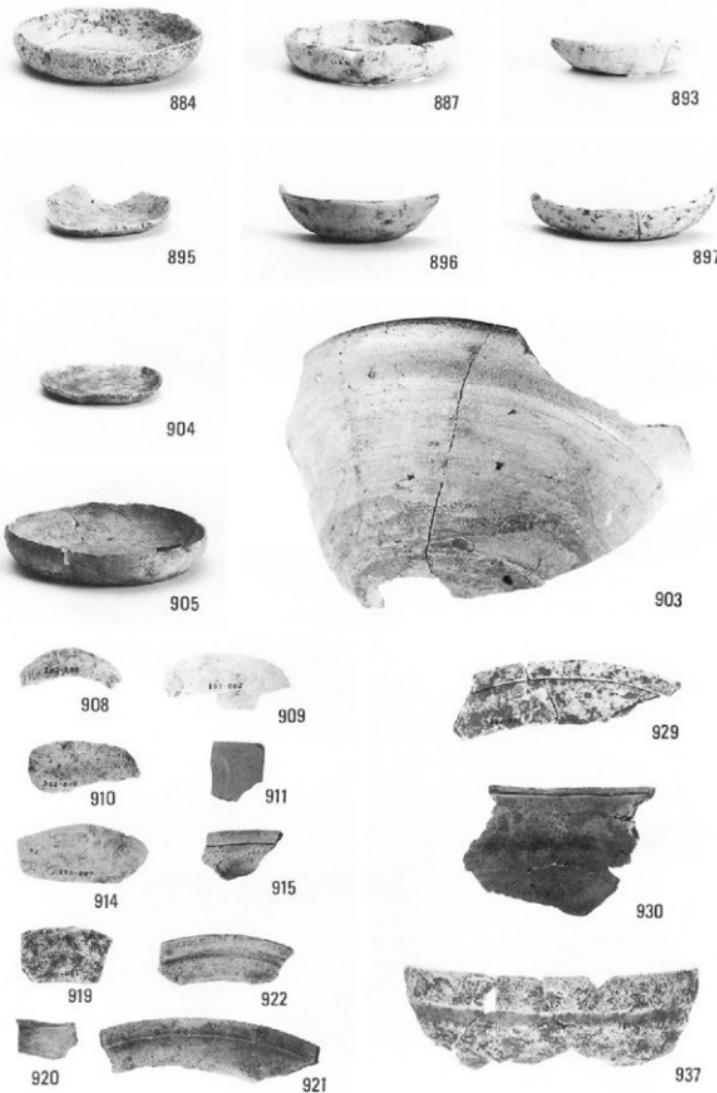
土坑出土遺物



図版54



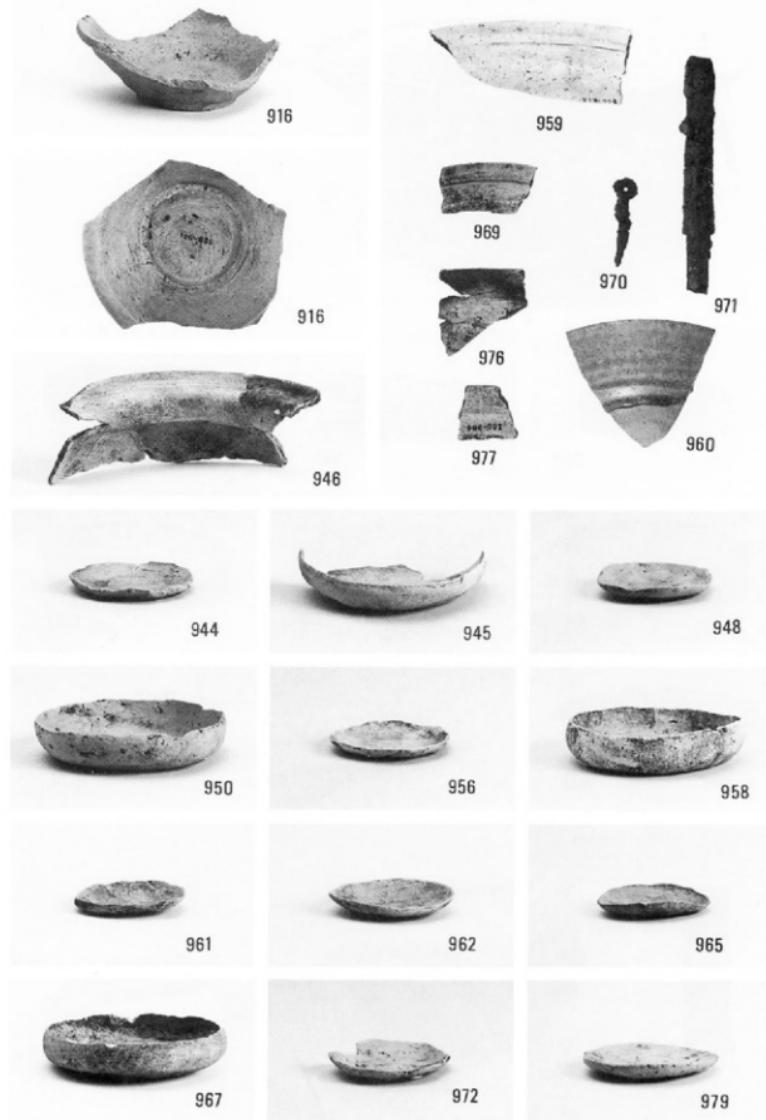
土坑出土遺物



図版56

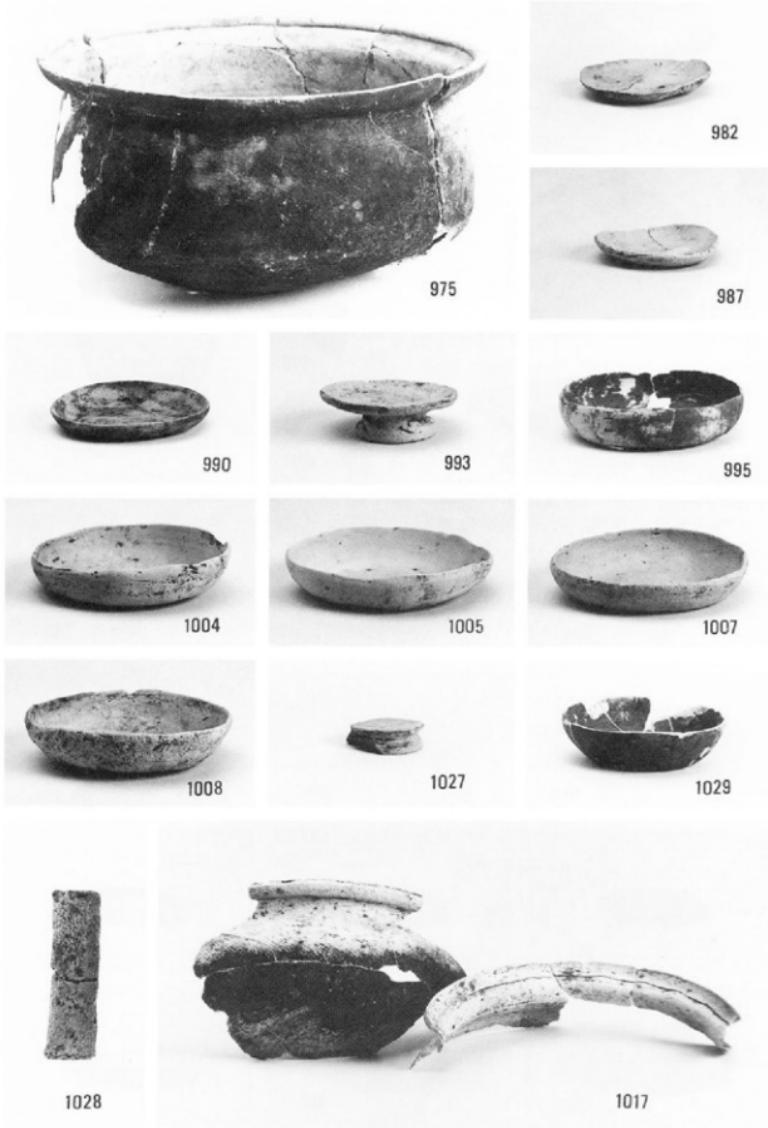


土坑出土遺物

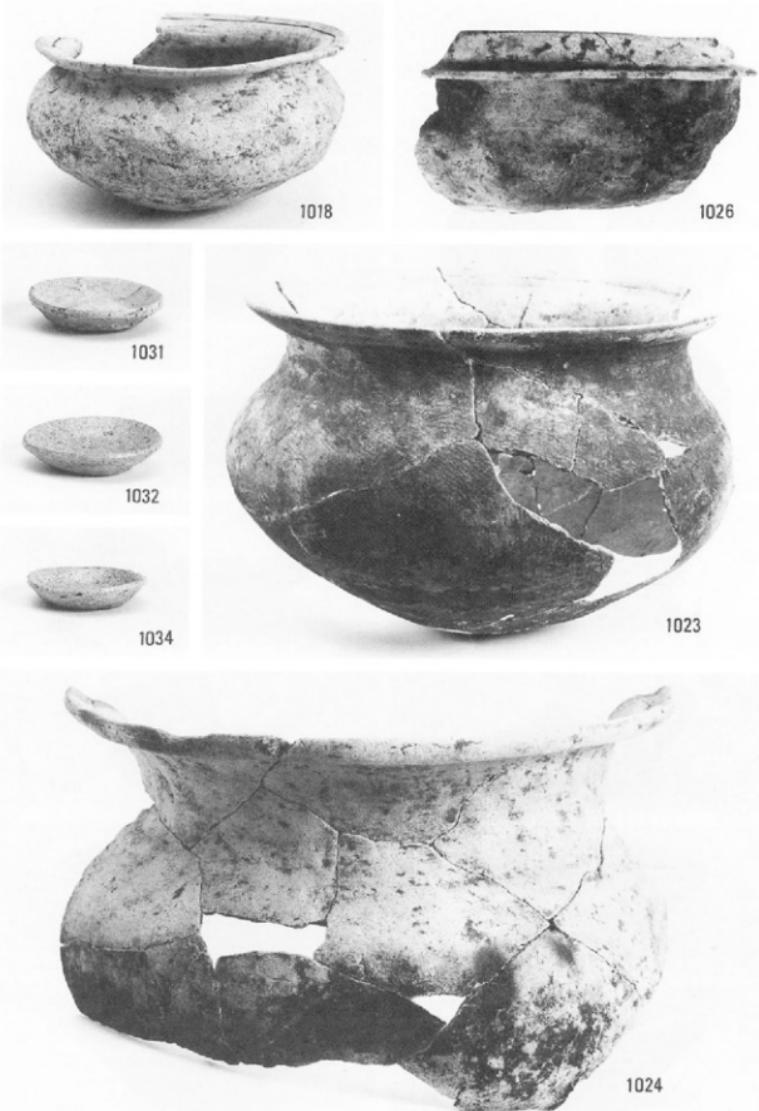


土坑·溝出土遺物

図版58



土坑・溝出土遺物



溝出土遺物

図版60



1027



1030



1035



1031



1032



1033



1034



1036



1037



1038



1039



1040



1041



1042



1043

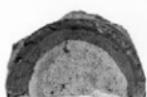


1044



1045

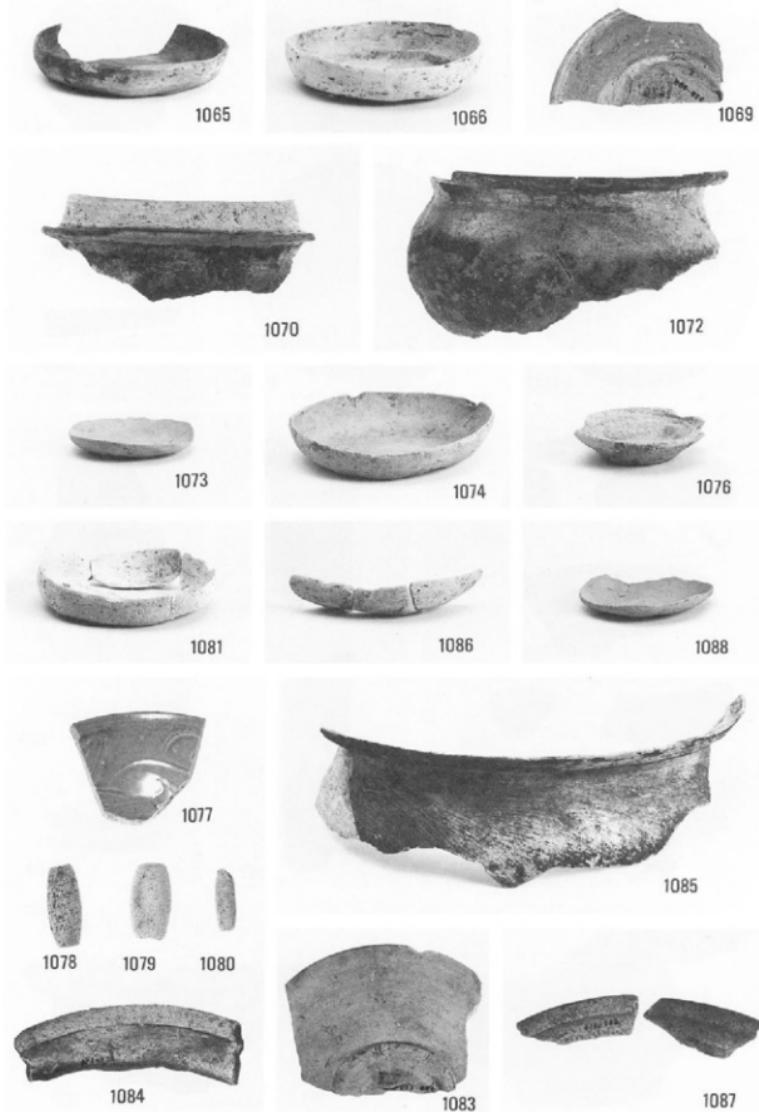
图版61



1056



図版62



溝出土遺物



溝出土遺物



1123



1125



1125



1124



1126



1127



1131



1130



1134



1131



1132



1133



1135



1136



1140



1142



1146



1147



1155



1164



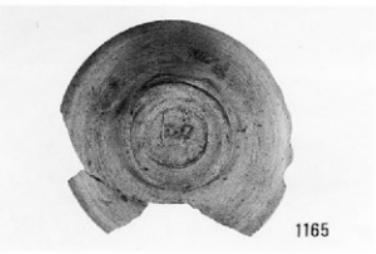
1163



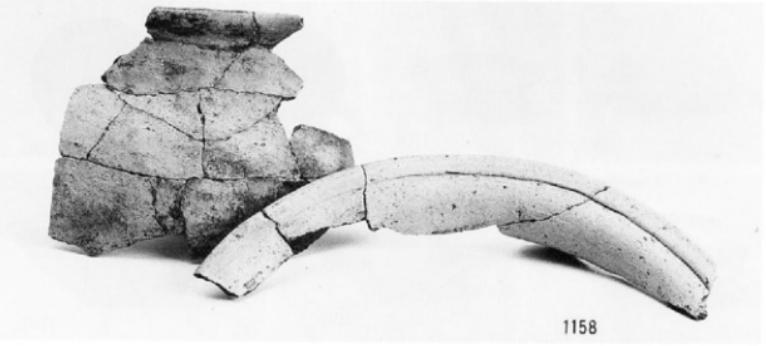
1165



1163

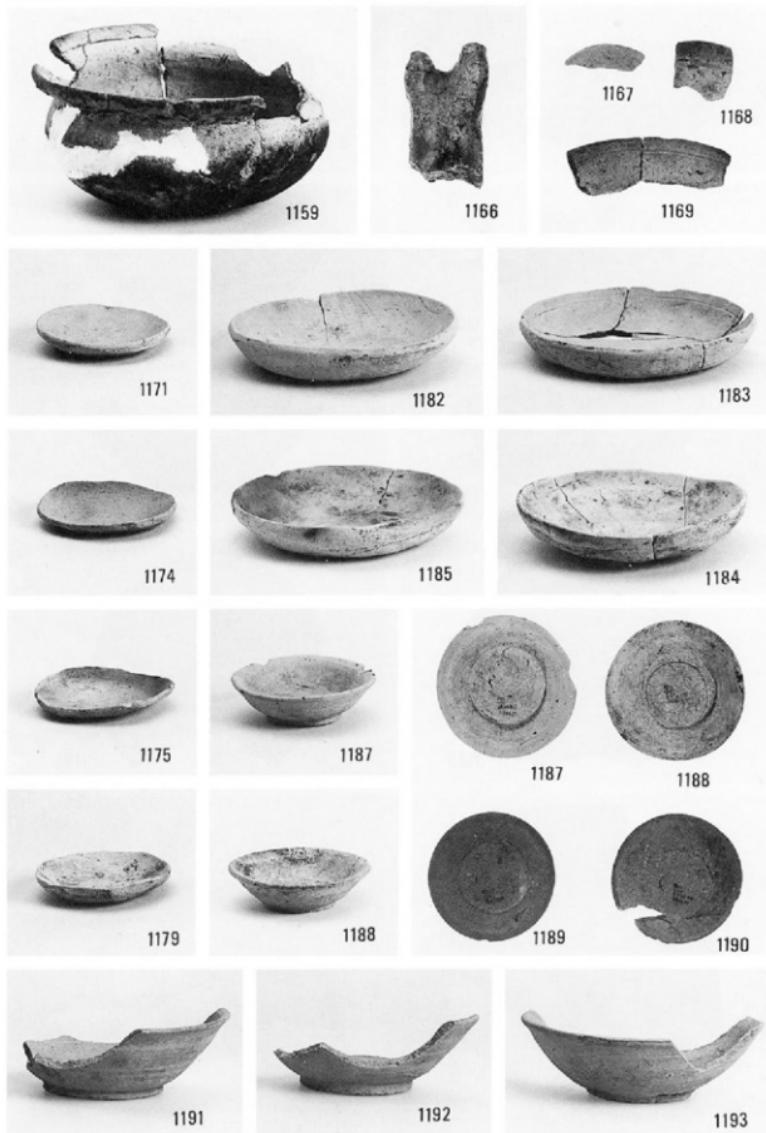


1165

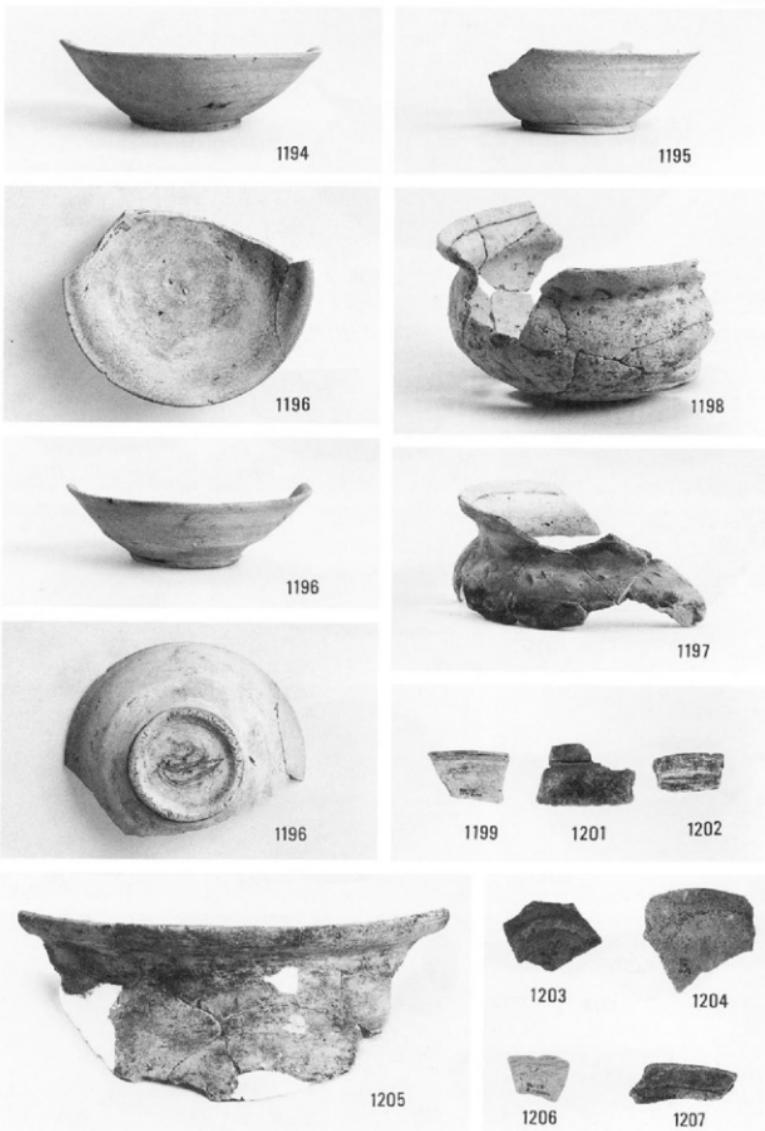


1158

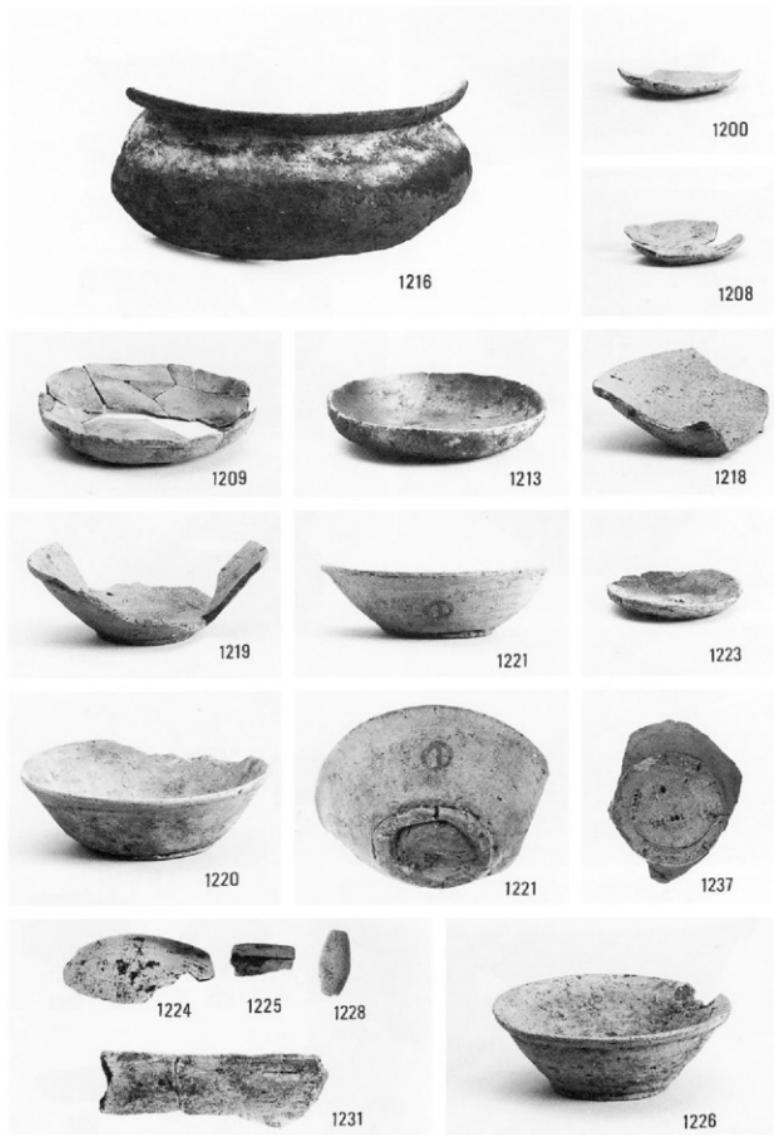
图版66



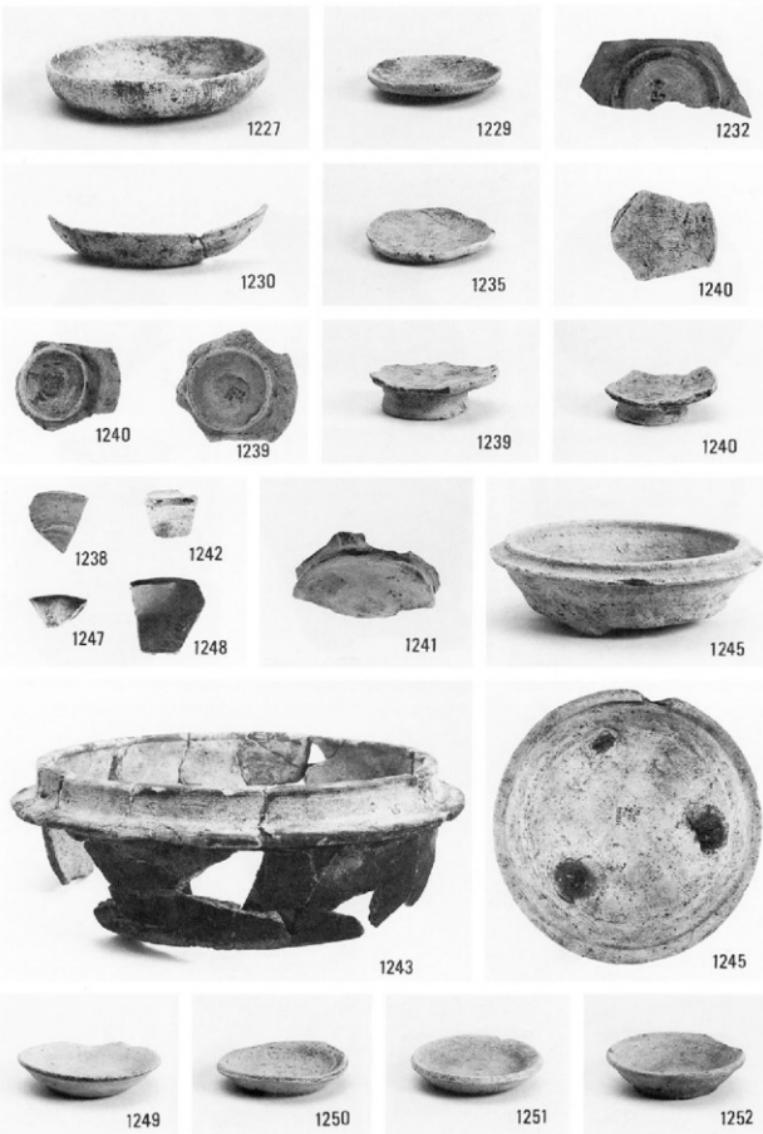
满出土遗物



图版68



满·集石造構出土遺物



溝・包含層・ビット出土遺物

図版70



1244



1253



1254



1244



1257



1255



1246



1246



1256



1266



1258



1261



1259



1262



1263



1264



1265

包含層・ピット出土遺物

平成5(1993)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年1月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告101-6
近畿自動車道（勢和～伊勢）
埋蔵文化財発掘調査報告
——第6分冊——
蚊山遺跡左郡地区
1993（平成5）年3月
編集 三重県教育委員会
発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 光出版印刷株式会社
